

令和6（2024）年度 シラバス
愛知みずほ大学

プレゼミ I <<養護>>

更新日：2024/03/27 11:36:59

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2J102130	授業コード	2J102130A	
担当教員	後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	B1103	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等	全コース必修			授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	大学の学びに必要となるアカデミックスキルの習熟に取り組むことを通して、科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につける。
方法	大学生活や大学での学びの基礎として、読み書き、プレゼンテーション（発表）に関するアカデミックスキルの習熟を目指す。適宜、テキスト等を用いた課題に対して、グループワークやディスカッションを行う中で理解を深め、他者と意見を共有できるようにする。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	大学で学ぶ上で必要となるルールやマナー（授業時、SNS利用等）について述べ、実践することができる。
2	課題に対して文献を活用したレポートを作成することができる。
3	課題に対する自分の考えを他者と意見交換をすることができる。
4	課題に対する自分の考えをプレゼンテーション（発表）することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	10
到達目標②	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標③	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標④	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング(全コース共通)	ナカニシヤ出版	宮武里衣
2	練習球 (健康スポーツコースのみ)	全国学校図書館協議会	あさのあつこ
3	チヨ子 (心理カウンセリングコースのみ)	全国学校図書館協議会	宮部みゆき

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

必要に応じて適宜紹介する。

学生へのメッセージ

大学での学びの基礎となる授業となります。仲間との親睦も深まるよう、積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

レポートの返却や良い例の紹介など、課題に応じた形でフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（授業内容説明、仲間づくり）	予習：自己紹介について準備する。 復習：本日の内容について振り返る。	C
第2回	みずほドリル① 面談①	予習：入学前課題を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	A
第3回	みずほドリル② 面談②	予習：入学前課題を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	A
第4回	大学の学びについて（ActivePortal・シラバス等の確認、授業マナー、メールの書き方、SNSの利用等）	予習：支給されたパソコンの使い方を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	
第5回	図書館の活用方法、蔵書の検索方法を学ぶ	予習：関心のある書籍の題目を調べる。 復習：借りた本に目を通す。	
第6回	文献検索の方法を学ぶ	予習：文献検索のキーワードを考える。 復習：本日の内容について振り返る。	
第7回	PROG結果のフィードバック	予習：自分の強み、弱みについて考える。 復習：PROGテストの結果を振り返る。	
第8回	アカデミックスキル（読み書き、プレゼンテーション等）①	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第9回	課題資料を用いた要約の練習	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第10回	レポートと感想文の違いについて（引用文献の扱い等著作権問題を含む）	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第11回	レポート作成演習①：構成を練る	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第12回	レポート作成演習②：本文を書く	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第13回	アカデミックスキル（読み書き、プレゼンテーション等）②	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第14回	アカデミックスキル（読み書き、プレゼンテーション等）③	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第15回	前期の振り返り、プレゼミⅡに向けて	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	

プレゼミ I <<健スポ>>

更新日：2024/03/27 11:37:02

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2J102130	授業コード	2J102130B	
担当教員	天野 透、山根 基、鈴木 揚一							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	B1103	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等	全コース必修			授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	大学の学びに必要となるアカデミックスキルの習熟に取り組むことを通して、科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につける。
方法	大学生活や大学での学びの基礎として、読み書き、プレゼンテーション（発表）に関するアカデミックスキルの習熟を目指す。適宜、テキスト等を用いた課題に対して、グループワークやディスカッションを行う中で理解を深め、他者と意見を共有できるようにする。

履修条件

--

履修する上の留意点

--

到達目標

1	大学で学ぶ上で必要となるルールやマナー（授業時、SNS利用等）について述べ、実践することができる。
2	課題に対して文献を活用したレポートを作成することができる。
3	課題に対する自分の考えを他者と意見交換をすることができる。
4	課題に対する自分の考えをプレゼンテーション（発表）することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	10
到達目標②	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標③	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標④	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング(全コース共通)	ナカニシヤ出版	宮武里衣
2	練習球 (健康スポーツコースのみ)	全国学校図書館協議会	あさのあつこ
3	チヨ子 (心理カウンセリングコースのみ)	全国学校図書館協議会	宮部みゆき

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

必要に応じて適宜紹介する。

学生へのメッセージ

大学での学びの基礎となる授業となります。仲間との親睦も深まるよう、積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

レポートの返却や良い例の紹介など、課題に応じた形でフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題 (予習・復習) の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション (授業内容説明、仲間づくり)	予習：自己紹介について準備する。 復習：本日の内容について振り返る。	C
第2回	みずほドリル① 面談①	予習：入学前課題を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	A
第3回	みずほドリル② 面談②	予習：入学前課題を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	A
第4回	大学の学びについて (ActivePortal・シラバス等の確認、授業マナー、メールの書き方、SNSの利用等)	予習：支給されたパソコンの使い方を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	
第5回	図書館の活用方法、蔵書の検索方法を学ぶ	予習：関心のある書籍の題目を調べる。 復習：借りた本に目を通す。	
第6回	文献検索の方法を学ぶ	予習：文献検索のキーワードを考える。 復習：本日の内容について振り返る。	
第7回	PROG結果のフィードバック	予習：自分の強み、弱みについて考える。 復習：PROGテストの結果を振り返る。	
第8回	アカデミックスキル (読み書き、プレゼンテーション等) ①	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第9回	課題資料を用いた要約の練習	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第10回	レポートと感想文の違いについて (引用文献の扱い等著作権問題を含む)	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第11回	レポート作成演習①：構成を練る	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第12回	レポート作成演習②：本文を書く	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第13回	アカデミックスキル (読み書き、プレゼンテーション等) ②	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第14回	アカデミックスキル (読み書き、プレゼンテーション等) ③	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第15回	前期の振り返り、プレゼミⅡに向けて	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	

プレゼミⅠ ≪心理≫

更新日：2024/03/27 11:37:05

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2J102130	授業コード	2J102130C
担当教員	長岡 由紀子、廣井 いずみ、土屋 満知、木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B1103	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	大学の学びに必要なアカデミックスキルの習熟に取り組むことを通して、科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につける。
方法	大学生活や大学での学びの基礎として、読み書き、プレゼンテーション（発表）に関するアカデミックスキルの習熟を目指す。適宜、テキスト等を用いた課題に対して、グループワークやディスカッションを行う中で理解を深め、他者と意見を共有できるようにする。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	大学で学ぶ上で必要となるルールやマナー（授業時、SNS利用等）について述べ、実践することができる。
2	課題に対して文献を活用したレポートを作成することができる。
3	課題に対する自分の考えを他者と意見交換をすることができる。
4	課題に対する自分の考えをプレゼンテーション（発表）することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	10
到達目標②	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標③	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標④	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング(全コース共通)	ナカニシヤ出版	宮武里衣
2	練習球 (健康スポーツコースのみ)	全国学校図書館協議会	あさのあつこ
3	チヨ子 (心理カウンセリングコースのみ)	全国学校図書館協議会	宮部みゆき

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

必要に応じて適宜紹介する。

学生へのメッセージ

大学での学びの基礎となる授業となります。仲間との親睦も深まるよう、積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

レポートの返却や良い例の紹介など、課題に応じた形でフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題 (予習・復習) の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション (授業内容説明、仲間づくり)	予習：自己紹介について準備する。 復習：本日の内容について振り返る。	C
第2回	みずほドリル① 面談①	予習：入学前課題を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	A
第3回	みずほドリル② 面談②	予習：入学前課題を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	A
第4回	大学の学びについて (ActivePortal・シラバス等の確認、授業マナー、メールの書き方、SNSの利用等)	予習：支給されたパソコンの使い方を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	
第5回	図書館の活用方法、蔵書の検索方法を学ぶ	予習：関心のある書籍の題目を調べる。 復習：借りた本に目を通す。	
第6回	文献検索の方法を学ぶ	予習：文献検索のキーワードを考える。 復習：本日の内容について振り返る。	
第7回	PROG結果のフィードバック	予習：自分の強み、弱みについて考える。 復習：PROGテストの結果を振り返る。	
第8回	アカデミックスキル (読み書き、プレゼンテーション等) ①	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第9回	課題資料を用いた要約の練習	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第10回	レポートと感想文の違いについて (引用文献の扱い等著作権問題を含む)	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第11回	レポート作成演習①：構成を練る	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第12回	レポート作成演習②：本文を書く	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第13回	アカデミックスキル (読み書き、プレゼンテーション等) ②	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第14回	アカデミックスキル (読み書き、プレゼンテーション等) ③	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第15回	前期の振り返り、プレゼミⅡに向けて	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	

プレゼミ I <<健康>>

更新日：2024/03/27 11:37:06

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2J102130	授業コード	2J102130D
担当教員	今澤 正彦、高瀬 慎二、刑部 純平、姚 静雅						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B1103	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	大学の学びに必要となるアカデミックスキルの習熟に取り組むことを通して、科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につける。
方法	大学生活や大学での学びの基礎として、読み書き、プレゼンテーション（発表）に関するアカデミックスキルの習熟を目指す。適宜、テキスト等を用いた課題に対して、グループワークやディスカッションを行う中で理解を深め、他者と意見を共有できるようにする。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	大学で学ぶ上で必要となるルールやマナー（授業時、SNS利用等）について述べ、実践することができる。
2	課題に対して文献を活用したレポートを作成することができる。
3	課題に対する自分の考えを他者と意見交換をすることができる。
4	課題に対する自分の考えをプレゼンテーション（発表）することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	10
到達目標②	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標③	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標④	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	30
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング(全コース共通)	ナカニシヤ出版	宮武里衣
2	練習球 (健康スポーツコースのみ)	全国学校図書館協議会	あさのあつこ
3	チヨ子 (心理カウンセリングコースのみ)	全国学校図書館協議会	宮部みゆき

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

必要に応じて適宜紹介する。

学生へのメッセージ

大学での学びの基礎となる授業となります。仲間との親睦も深まるよう、積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

レポートの返却や良い例の紹介など、課題に応じた形でフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（授業内容説明、仲間づくり）	予習：自己紹介について準備する。 復習：本日の内容について振り返る。	C
第2回	みずほドリル① 面談①	予習：入学前課題を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	A
第3回	みずほドリル② 面談②	予習：入学前課題を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	A
第4回	大学の学びについて（ActivePortal・シラバス等の確認、授業マナー、メールの書き方、SNSの利用等）	予習：支給されたパソコンの使い方を確認する。 復習：本日の内容について振り返る。	
第5回	図書館の活用方法、蔵書の検索方法を学ぶ	予習：関心のある書籍の題目を調べる。 復習：借りた本に目を通す。	
第6回	文献検索の方法を学ぶ	予習：文献検索のキーワードを考える。 復習：本日の内容について振り返る。	
第7回	PROG結果のフィードバック	予習：自分の強み、弱みについて考える。 復習：PROGテストの結果を振り返る。	
第8回	アカデミックスキル（読み書き、プレゼンテーション等）①	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第9回	課題資料を用いた要約の練習	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第10回	レポートと感想文の違いについて（引用文献の扱い等著作権問題を含む）	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第11回	レポート作成演習①：構成を練る	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第12回	レポート作成演習②：本文を書く	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	
第13回	アカデミックスキル（読み書き、プレゼンテーション等）②	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第14回	アカデミックスキル（読み書き、プレゼンテーション等）③	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,B,C
第15回	前期の振り返り、プレゼミⅡに向けて	予習：事前に出された予習内容に取り組む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	

プレゼミⅡ ≪養護≫

更新日：2024/03/27 11:37:09

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2J102230	授業コード	2J102230A
担当教員	後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B1104	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	広く健康をテーマとする事象からテーマ（リサーチエスション）を設定し、客観的なデータを用いて考察する。これらの取り組みから得られた成果について、プレゼンテーション（発表）と質疑応答を行うことを通して、科学的思考を養う。
方法	取り組みはグループワークを中心に行う。文献検索、データの収集・測定、分析などの一連の過程は、適宜、教員が作業内容や手順の説明を行いながら実施する。

履修条件

--

履修する上の留意点

--

到達目標

1	文献を調べ、グループのメンバーと話し合いながら、テーマ（リサーチエスション）を決めることができる。
2	客観的な手法に基づきデータを収集・測定し、分析することができる。
3	分析した結果から考察を導くことができる。
4	グループのメンバーと協力してプレゼンテーションと質疑応答ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標②	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標③	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標④	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング(全コース共通)	ナカニシヤ出版	宮武里衣

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

必要に応じて適宜紹介する。

学生へのメッセージ

グループワークのメンバーと協力して取り組みましょう。

課題に対するフィードバック

プレ発表のフィードバックを本発表で生かすこと。その他、授業内で必要なフィードバックは適宜行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス、グループ分け	予習：取り組みたいテーマについて考える。 復習：グループのメンバーで協議したテーマについて深める。	
第2回	テーマ探し①：興味あるテーマを検討する	予習：テーマに関連する用語を調べる。 復習：話し合われた内容をノートにまとめる。	B
第3回	テーマ探し②：リサーチクエスチョンを具体化する	予習：テーマに関連する内容を調べる。 復習：話し合われた内容をノートにまとめる。	B
第4回	テーマに基づいた文献を検索する	予習：検索した文献を用意する。 復習：文献の内容を読み込む。	B
第5回	収集した文献を読み込む	予習：調べる項目を洗い出す。 復習：借りた本に目をおす。	B
第6回	調べた文献の内容をまとめる	予習：文献検索のキーワードを考える。 復習：まとめた内容を確認する。	B
第7回	データ収集方法や測定項目の検討	予習：データ収集や測定の方法を調べる。 復習：本日の内容を振り返りノートにまとめる。	B
第8回	データ収集や測定の実施	予習：データ収集や測定の準備をする。 復習：収集・測定したデータの整理。	B
第9回	結果の分析：結果から何を読み取れるかを考える	予習：結果の分析方法を調べる。 復習：分析内容について吟味する。	B
第10回	結果を考察し、発表スライドを作成する	予習：考察内容を考える。 復習：発表スライドを完成させる。	B
第11回	プレ発表会	予習：発表の準備をする。 復習：本日の発表を振り返る。	B
第12回	発表スライドの見直し	予習：前回の発表内容の改善点をあげる。 復習：スライドを修正し完成させる。	B
第13回	発表会①（前半グループ）	予習：発表の練習 復習：他のグループの発表から学んだことをメモする。	B
第14回	発表会②（後半グループ）	予習：発表の練習 復習：他のグループの発表から学んだことをメモする。	B
第15回	発表と後期のプレゼミの振り返り	予習：後期のプレゼミで学んだことをノートにまとめる。 復習：本日の振り返り内容をノートにまとめる。	B

プレゼミⅡ ≪健スポ≫

更新日：2024/03/27 11:37:11

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2J102230	授業コード	2J102230B	
担当教員	天野 透、山根 基、鈴木 揚一							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	B1104	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等	全コース必修			授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	広く健康をテーマとする事象からテーマ（リサーチエスション）を設定し、客観的なデータを用いて考察する。これらの取り組みから得られた成果について、プレゼンテーション（発表）と質疑応答を行うことを通して、科学的思考を養う。
方法	取り組みはグループワークを中心に行う。文献検索、データの収集・測定、分析などの一連の過程は、適宜、教員が作業内容や手順の説明を行いながら実施する。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	文献を調べ、グループのメンバーと話し合いながら、テーマ（リサーチエスション）を決めることができる。
2	客観的な手法に基づきデータを収集・測定し、分析することができる。
3	分析した結果から考察を導くことができる。
4	グループのメンバーと協力してプレゼンテーションと質疑応答ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標②	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標③	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標④	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング(全コース共通)	ナカニシヤ出版	宮武里衣

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

必要に応じて適宜紹介する。

学生へのメッセージ

グループワークのメンバーと協力して取り組みましょう。

課題に対するフィードバック

プレ発表のフィードバックを本発表で生かすこと。その他、授業内で必要なフィードバックは適宜行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス、グループ分け	予習：取り組みたいテーマについて考える。 復習：グループのメンバーで協議したテーマについて深める。	
第2回	テーマ探し①：興味あるテーマを検討する	予習：テーマに関連する用語を調べる。 復習：話し合われた内容をノートにまとめる。	B
第3回	テーマ探し②：リサーチクエスチョンを具体化する	予習：テーマに関連する内容を調べる。 復習：話し合われた内容をノートにまとめる。	B
第4回	テーマに基づいた文献を検索する	予習：検索した文献を用意する。 復習：文献の内容を読み込む。	B
第5回	収集した文献を読み込む	予習：調べる項目を洗い出す。 復習：借りた本に目をおす。	B
第6回	調べた文献の内容をまとめる	予習：文献検索のキーワードを考える。 復習：まとめた内容を確認する。	B
第7回	データ収集方法や測定項目の検討	予習：データ収集や測定の方法を調べる。 復習：本日の内容を振り返りノートにまとめる。	B
第8回	データ収集や測定の実施	予習：データ収集や測定の準備をする。 復習：収集・測定したデータの整理。	B
第9回	結果の分析：結果から何を読み取れるかを考える	予習：結果の分析方法を調べる。 復習：分析内容について吟味する。	B
第10回	結果を考察し、発表スライドを作成する	予習：考察内容を考える。 復習：発表スライドを完成させる。	B
第11回	プレ発表会	予習：発表の準備をする。 復習：本日の発表を振り返る。	B
第12回	発表スライドの見直し	予習：前回の発表内容の改善点をあげる。 復習：スライドを修正し完成させる。	B
第13回	発表会①（前半グループ）	予習：発表の練習 復習：他のグループの発表から学んだことをメモする。	B
第14回	発表会②（後半グループ）	予習：発表の練習 復習：他のグループの発表から学んだことをメモする。	B
第15回	発表と後期のプレゼミの振り返り	予習：後期のプレゼミで学んだことをノートにまとめる。 復習：本日の振り返り内容をノートにまとめる。	B

プレゼミⅡ <<心理>>

更新日：2024/03/27 11:37:13

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2J102230	授業コード	2J102230C
担当教員	長岡 由紀子、廣井 いずみ、土屋 満知、木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B1104	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	広く健康をテーマとする事象からテーマ（リサーチエスション）を設定し、客観的なデータを用いて考察する。これらの取り組みから得られた成果について、プレゼンテーション（発表）と質疑応答を行うことを通して、科学的思考を養う。
方法	取り組みはグループワークを中心に行う。文献検索、データの収集・測定、分析などの一連の過程は、適宜、教員が作業内容や手順の説明を行いながら実施する。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	文献を調べ、グループのメンバーと話し合いながら、テーマ（リサーチエスション）を決めることができる。
2	客観的な手法に基づきデータを収集・測定し、分析することができる。
3	分析した結果から考察を導くことができる。
4	グループのメンバーと協力してプレゼンテーションと質疑応答ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標②	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標③	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標④	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング(全コース共通)	ナカニシヤ出版	宮武里衣

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

必要に応じて適宜紹介する。

学生へのメッセージ

グループワークのメンバーと協力して取り組みましょう。

課題に対するフィードバック

プレ発表のフィードバックを本発表で生かすこと。その他、授業内で必要なフィードバックは適宜行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス、グループ分け	予習：取り組みたいテーマについて考える。 復習：グループのメンバーで協議したテーマについて深める。	
第2回	テーマ探し①：興味あるテーマを検討する	予習：テーマに関連する用語を調べる。 復習：話し合われた内容をノートにまとめる。	B
第3回	テーマ探し②：リサーチクエスチョンを具体化する	予習：テーマに関連する内容を調べる。 復習：話し合われた内容をノートにまとめる。	B
第4回	テーマに基づいた文献を検索する	予習：検索した文献を用意する。 復習：文献の内容を読み込む。	B
第5回	収集した文献を読み込む	予習：調べる項目を洗い出す。 復習：借りた本に目をおす。	B
第6回	調べた文献の内容をまとめる	予習：文献検索のキーワードを考える。 復習：まとめた内容を確認する。	B
第7回	データ収集方法や測定項目の検討	予習：データ収集や測定の方法を調べる。 復習：本日の内容を振り返りノートにまとめる。	B
第8回	データ収集や測定の実施	予習：データ収集や測定の準備をする。 復習：収集・測定したデータの整理。	B
第9回	結果の分析：結果から何を読み取れるかを考える	予習：結果の分析方法を調べる。 復習：分析内容について吟味する。	B
第10回	結果を考察し、発表スライドを作成する	予習：考察内容を考える。 復習：発表スライドを完成させる。	B
第11回	プレ発表会	予習：発表の準備をする。 復習：本日の発表を振り返る。	B
第12回	発表スライドの見直し	予習：前回の発表内容の改善点をあげる。 復習：スライドを修正し完成させる。	B
第13回	発表会①（前半グループ）	予習：発表の練習 復習：他のグループの発表から学んだことをメモする。	B
第14回	発表会②（後半グループ）	予習：発表の練習 復習：他のグループの発表から学んだことをメモする。	B
第15回	発表と後期のプレゼミの振り返り	予習：後期のプレゼミで学んだことをノートにまとめる。 復習：本日の振り返り内容をノートにまとめる。	B

プレゼミⅡ ≪健康≫

更新日：2024/03/27 11:37:15

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2J102230	授業コード	2J102230D
担当教員	今澤 正彦、高瀬 慎二、刑部 純平、姚 静雅						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B1104	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	広く健康をテーマとする事象からテーマ（リサーチエスチョン）を設定し、客観的なデータを用いて考察する。これらの取り組みから得られた成果について、プレゼンテーション（発表）と質疑応答を行うことを通して、科学的思考を養う。
方法	取り組みはグループワークを中心に行う。文献検索、データの収集・測定、分析などの一連の過程は、適宜、教員が作業内容や手順の説明を行いながら実施する。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	文献を調べ、グループのメンバーと話し合いながら、テーマ（リサーチエスチョン）を決めることができる。
2	客観的な手法に基づきデータを収集・測定し、分析することができる。
3	分析した結果から考察を導くことができる。
4	グループのメンバーと協力してプレゼンテーションと質疑応答ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標②	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標③	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標④	愛知みずほ大学ルーブリックに基づく評価	(コースごとに異なる)
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング(全コース共通)	ナカニシヤ出版	宮武里衣

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

必要に応じて適宜紹介する。

学生へのメッセージ

グループワークのメンバーと協力して取り組みましょう。

課題に対するフィードバック

プレ発表のフィードバックを本発表で生かすこと。その他、授業内で必要なフィードバックは適宜行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス、グループ分け	予習：取り組みたいテーマについて考える。 復習：グループのメンバーで協議したテーマについて深める。	
第2回	テーマ探し①：興味あるテーマを検討する	予習：テーマに関連する用語を調べる。 復習：話し合われた内容をノートにまとめる。	B
第3回	テーマ探し②：リサーチクエスチョンを具体化する	予習：テーマに関連する内容を調べる。 復習：話し合われた内容をノートにまとめる。	B
第4回	テーマに基づいた文献を検索する	予習：検索した文献を用意する。 復習：文献の内容を読み込む。	B
第5回	収集した文献を読み込む	予習：調べる項目を洗い出す。 復習：借りた本に目をおす。	B
第6回	調べた文献の内容をまとめる	予習：文献検索のキーワードを考える。 復習：まとめた内容を確認する。	B
第7回	データ収集方法や測定項目の検討	予習：データ収集や測定の方法を調べる。 復習：本日の内容を振り返りノートにまとめる。	B
第8回	データ収集や測定の実施	予習：データ収集や測定の準備をする。 復習：収集・測定したデータの整理。	B
第9回	結果の分析：結果から何を読み取れるかを考える	予習：結果の分析方法を調べる。 復習：分析内容について吟味する。	B
第10回	結果を考察し、発表スライドを作成する	予習：考察内容を考える。 復習：発表スライドを完成させる。	B
第11回	プレ発表会	予習：発表の準備をする。 復習：本日の発表を振り返る。	B
第12回	発表スライドの見直し	予習：前回の発表内容の改善点をあげる。 復習：スライドを修正し完成させる。	B
第13回	発表会①（前半グループ）	予習：発表の練習 復習：他のグループの発表から学んだことをメモする。	B
第14回	発表会②（後半グループ）	予習：発表の練習 復習：他のグループの発表から学んだことをメモする。	B
第15回	発表と後期のプレゼミの振り返り	予習：後期のプレゼミで学んだことをノートにまとめる。 復習：本日の振り返り内容をノートにまとめる。	B

ロジカルシンキング(思考)

更新日：2024/03/27 11:37:17

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2J104100	授業コード	2J104100A, 2J104100B
担当教員	上井 靖						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B1105	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以降の入学学生は全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	ロジカル（論理的に）考え、整理し、相手に伝える力は、人と関わって仕事をしたり生活をしたりするうえで必須な力と言えます。また、目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくプロセスは、自分をマネジメントするうえでも重要です。論理的な思考についての理解とトレーニングが主な内容となります。
方法	講義や動画視聴から手法を知り、個人ワークやグループワーク等で、ロジカルシンキングのトレーニングを中心に授業を展開します。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	①ロジカルに考えることの重要性を知り、ロジカルに考えることができる
2	②ロジカルに伝えるための要素を知り、ロジカルに伝える方法を試すことができる
3	③ロジカルシンキングを活用したフレームワークを知り、マネジメントに試すことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	振り返りシート	60
到達目標②	演習&振り返りレポート	40
到達目標③		
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	3分でわかるロジカル・シンキングの基本	日本実業出版	大石哲之

オープンな教育リソース

必要に応じて時間調整しますので事前にE-mailで、uwai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

座学は極力少なくした、個人ワーク、グループワーク中心の参加型の授業です。

課題に対するフィードバック

ふりかえりシートやレポートにフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション ロジカルシンキングとは？	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第2回	ロジカルに考えるトレーニング	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第3回	ロジカルクイズに挑戦	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第4回	フェルミ推定とは？	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第5回	フェルミ推定に挑戦	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第6回	どちらが論理的か ディベートとは？	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第7回	具体化と抽象化 演繹法と帰納法①	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第8回	具体化と抽象化 演繹法と帰納法②	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第9回	MECEとは？① 「漏れなくダブリなく」	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第10回	MECEとは？② 「ゴミの分別をMECEで表してみよう」	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第11回	フレームワーク① フレームワークにはどんなものがあるの？	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第12回	フレームワーク② ロジックツリーを作成してみよう	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第13回	ラテラル（水平）思考とは？	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第14回	クリティカルシンキングとロジカルシンキングの違い	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第15回	この授業全体の振り返り	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C

ロジカルプレゼンテーション

更新日：2024/03/27 11:37:20

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2J104200	授業コード	2J104200A, 2J104200B
担当教員	上井 靖						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B1201	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以降の入学学生は全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	ロジカル（論理的に）考え、整理し、相手に伝える力は、人と関わって仕事をしたり生活をしたりする上で、必須な力と言えます。ロジカルに伝え伝える方法としてのプレゼンテーション（表現、提示、紹介）を理解、トレーニングを通じて、ロジカル・プレゼンテーション力を身に付けます。
方法	ファシリテーションの手法で、個人ワーク、グループワーク等ので授業を展開します。自分に合った自分らしいロジカル・プレゼンテーションのハンドブックを作っていきます。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	ロジカルに考え、伝えることの重要性を知ることができる。
2	ロジカルに伝えるための要素を知り、ロジカルに伝える方法を試すことができる
3	ロジカルなプレゼンテーションを実践し、仲間とともにプレゼンテーション力を高め、ロジカルプレゼンテーションの作り方、発表の仕方のハンドブックをスライドで作成

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	振り返りシート	50
到達目標②	自己紹介のための作成した名刺	15

到達目標③	ロジカルプレゼンテーションに関するスライドを作成し、グループで評価し合う	35
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	1分で話せ	SB Creative	伊藤羊一
2	ロジカル・プレゼンテーション	英治出版	高田貴久

オープンな教育リソース

必要に応じて時間調整しますので事前にE-mailで、uwai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

個人ワーク、グループワーク中心の参加型の授業です。

課題に対するフィードバック

ふりかえりシートやレポートにフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション ロジカル・プレゼンテーションとは？ ロジカル・シンキングの復習	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第2回	ロジカル・シンキングとは？① 論理的に考える	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第3回	ロジカル・シンキングとは？② 論理的に整理する	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第4回	ロジカルに伝える方法① 「伝える」ための基本事項	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第5回	ロジカルに伝える方法② 1分で伝える	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第6回	ロジカルに伝える方法③ PREP法	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第7回	ロジカルに伝える方法④ フレームワーク、図で説明	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第8回	伝わるスライド作成① 伝わるスライド作成のポイント、落とし穴	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第9回	伝わるスライド作成② 自己紹介スライド作成 *外部講師	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第10回	スライドを使っでのプレゼンテーション グループ内での自己紹介発表会	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第11回	総合的プレゼンテーション① テーマ決め、プレゼンテーション骨子、方法などを立案する	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第12回	総合的プレゼンテーション② プレゼンテーション・スライド等の作成	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第13回	総合的プレゼンテーション③ 中間発表会、共有、フィードバック	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第14回	総合的プレゼンテーション④ プレゼンテーション・スライド等の修正	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
第15回	総合的プレゼンテーション⑤ 発表会、振り返り、ハンドブック作成	予習：シラバスを確認 復習：振り返りシートにキーワード等を記入	B,C
	なし		

はじめての心理学

更新日：2024/03/27 11:37:22

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K100010	授業コード	
担当教員	塚本 恵信						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B2105	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	心理学は「心＝行動の仕組み」の理解を目指す科学である。本科目では心理学の初学者を対象として、身近な対人関係/社会行動における社会心理学の知見や、ヒトの発達の原理や過程における発達心理学の知見、動機づけにおける欲求や感情の働きなどについて学び、人間行動の心理学的な理解のあり方について考察する。
方法	教科書や資料を参照しながら、コンピュータ・プレゼンテーション（PowerPoint等）による講義形式で授業を進める。随時ミニレポート等の提出を求める。

履修条件

「心理学入門」と併せて受講するのが望ましい

履修する上の留意点

ミニレポート（提出課題）の期限内提出を遵守すること（未提出は減点となり単位取得の支障となる）。資料配布や課題提出はTeamsやForms等を使用するので、適切に自己管理すること。

到達目標

1	人間行動における心理学的な特徴や影響について説明できる
2	心理学の各領域における基礎的な知見や理論を説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ミニレポート(30%)・期末レポート(70%)	50
到達目標②	ミニレポート(30%)・期末レポート(70%)	50
到達目標③		

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	医療系のための心理学	講談社	樫村正美・野村俊明

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心理学入門—ところを科学する10のアプローチ	講談社	板口典弘・相馬花恵

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

毎回出席が基本である。遅刻欠席は理解の妨げとなるので慎むこと。教科書を持参し、ノート（メモ）をとって活用することを強く推奨する。真摯な姿勢で能動的に学修し、課題の期限内提出等を遵守すること。私語等の迷惑行為を厳禁する。

課題に対するフィードバック

授業内で随時総評する

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	イントロダクション	教科書や授業計画を確認し、本科目を学ぶ意義を考える	
第2回	社会の心理学(1)印象形成	教科書6.1節を読み(予習)、印象形成について考察する(復習)	A
第3回	社会の心理学(2)対人認知	教科書6.1-2節を読み(予習)、対人認知について考察する(復習)	A
第4回	社会の心理学(3)対人関係	教科書6.2節を読み(予習)、対人コミュニケーションについて考察する(復習)	A
第5回	社会の心理学(4)社会的影響	教科書6.3節を読み(予習)、社会的な影響について考察する(復習)	A
第6回	社会の心理学(5)集団過程	教科書6.3節を読み(予習)、集団の影響について考察する(復習)	A
第7回	発達の心理学(1)発達の原理	教科書8.1節を読み(予習)、発達の原理について考察する(復習)	A
第8回	発達の心理学(2)発達の過程	教科書8.1-2節を読み(予習)、発達の過程について考察する(復習)	A
第9回	発達の心理学(3)認知の発達	教科書8.2節を読み(予習)、認知の発達について考察する(復習)	A
第10回	発達の心理学(4)言語の発達	教科書8.2;4.1節を読み(予習)、言語の発達について考察する(復習)	A
第11回	発達の心理学(5)社会性の発達	教科書8.2-3節を読み(予習)、社会性の発達について考察する(復習)	A
第12回	動機づけの心理学(1)欲求と動機づけ	教科書5.2節を読み(予習)、欲求について考察する(復習)	A
第13回	動機づけの心理学(2)動機づけの過程	教科書5.2;2.3節を読み(予習)、動機づけについて考察する(復習)	A
第14回	動機づけの心理学(3)感情の働き	教科書5.1節を読み(予習)、感情について考察する(復習)	A
第15回	総括	全体を振り返って総合的に考察する	

心理学概論

更新日：2024/03/27 11:37:25

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2K101020	授業コード	2K101020A, 2K101020B
担当教員	長岡 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B2106	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学生は全コース必修、2023年度以前の入学生については必修【心理】					授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	心を科学的に解明することを目的とする心理学について、その概要と各領域の基本的事項を講義します。その上で、これらの心理学が日常の中でのどのような形で存在しているのかということと学び、心の諸現象について自身で問いを立て、思考する力を養います。
方法	パワーポイントとワークシートを利用して講義を行います。毎回の授業の最後には、講義内容に関する理解度チェック問題をFormsで回答してもらい、次回の講義で結果をフィードバックすることで、理解の定着を図ります。

履修条件

なし

履修する上の留意点

なし

到達目標

1	心理学が心の科学であるためにどのような方法で問題を明らかにしているか、ということを説明できる。
2	各領域における心理学の基本的事項を説明できる。
3	日常における心理学的事項について、具体例をあげて説明できる。
4	心理的諸現象について問いを立て自分の考えを述べるることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	導入課題、授業理解度チェックシートと定期試験	10
到達目標②	導入課題、授業理解度チェックシートと定期試験	50

到達目標③	導入課題、授業理解度チェックシートと定期試験	20
到達目標④	導入課題、授業理解度チェックシートと定期試験	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	新・心理学を今に活かす	教育情報出版	八城薫 編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心理学概論	遠見書房	繁杵算男
2	心理学[第5版 補訂版]	東京大学出版会	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎（編）

オープンな教育リソース

必要に応じて、授業内で紹介します。

学生へのメッセージ

教科書は指定しませんが、授業内で配布する資料をもとにし、必要に応じて参考書籍をもとに復習をしてください。

課題に対するフィードバック

授業の最後に授業理解度チェック問題に回答をしてもらいます。その後、次回の授業の最初に解説を行う形でフィードバックを行います。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法）、心理学の概要	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第2回	心理学の歴史：心理学と哲学、心理学の3大潮流とその後の流れ	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第3回	心の生物学的基礎：脳の機能、神経の働き、神経伝達物質	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第4回	感覚・知覚：精神物理学、閾、五感の知覚、運動の知覚、感覚の適応性	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第5回	記憶：短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリ、系列位置効果	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第6回	学習：条件づけ（古典的条件づけ、オペラント条件づけ）	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第7回	その他の学習、言語・思考：洞察学習、潜在学習、モデリング、プライミング、内言と外言	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第8回	感情・人格：感情の種類と機能、感情理論、パーソナリティ、特性論、類型論	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第9回	発達・教育：知能の構造、結晶性知能と流動性知能、ライフサイクル論	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第10回	教育、社会・集団：動機づけ、自己効力感、原因帰属、集団心理	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第11回	健康・医療：ストレス、行動変容ステージモデル、汎適応症候群	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第12回	福祉：児童相談所、虐待、愛着障害、関連する法律	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A

第13回	産業：組織：ストレスチェック、メンタルヘルス、職場復帰支援	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第14回	司法・犯罪：少年非行、非行・犯罪の理論及びアセスメント、司法面接	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第15回	臨床：臨床心理学の紹介	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A

人間と音楽

更新日：2024/03/27 11:37:28

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2K102010	授業コード	2K102010
担当教員	丹羽 裕紀子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B2104	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	「音楽」が溢れている現代、人間と音楽の関わりや音楽の発展を音楽療法の歴史から学び、ノンバーバルな音楽コミュニケーションを通して、自分の音楽的感覚や心身の健康と向き合っていく。
方法	講義の他に、ワークショップ（個人・グループ）や、自己の音楽に向き合いプレゼンテーションを行い音楽する。

履修条件

特になし

履修する上の留意点

講義の中にワークショップやグループでの創作活動をまじえて進める。そのため、主体的な参加、感じたことを自分なりに表現する、グループで話し合うことが求められる。授業の中で耳トレを行い、ひらめく直感力を鍛え、自身の音楽感性を豊かにする。また、音楽の歴史や音楽療法から人間と音楽について学ぶことができる。履修定員40名。

到達目標

1	音・音楽について考え、音楽を通して自分自身の感覚や感情を見つめることができるようになる
2	音楽療法・音楽に関する様々な知識を得て、心身への影響を理解することができるようになる
3	作品作りでは学びを活かして創意工夫し表現できるようになる
4	協力的・積極的・主体的に参加することができるようになる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	発表	40

到達目標②	レポート	20
到達目標③	課題	20
到達目標④	授業態度	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	毎回資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	「絆の音楽性-つながりの基盤を求めて-」	音楽之友社	S.Malloch and C.Trevarthen(編),根ヶ山光一他(監訳)
2	「標準音楽療法入門上 理論編」改訂版	春秋社	日野原 重明 (監修), 篠田知璋/加藤美知子 (編集)
3	「音楽療法入門 理論と実践 上」	一麦出版社	W.B.Davis/K.E.Gfeller/M.H.Thaut(著), 栗林文雄(訳)
4	「音楽療法事典」新訂版	人間と歴史社	H.Helmut Decker-Voigt (原著), 阪上正己他訳
5	「即興音楽療法の諸理論上」	人間と歴史社	K.E.Bruscia著, 生野里花/岡崎香奈/八重田美衣訳
6	「音楽教育メソッドの比較-コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C.M-」	全音楽譜出版	L.Choksy/R.Abramson/A.Gillespie/D.Woods(共著), 板野和彦(訳)
7	「音楽の起源 上」	人間と歴史社	Nils L. Wallin/ Steven Brown / Björn Merker (原著), 山本 聡 (翻訳)
8	「音楽する人間」ノードフ - ロビンス創造的音楽療法への遙かな旅	春秋社	Clive Robbins著, 生野里花訳

オープンな教育リソース

文部科学省https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/ 一般社団法人日本音楽療法学会 <https://www.jmta.jp/>

学生へのメッセージ

ジャンルは問いません。音楽好きな人は自分の音楽性を軸に、音楽を用いた健康支援を多様な視点から学びませんか。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートには問われていることが書かれているか内容についてのコメントを行いフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画 学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング の実施方法
第1回	オリエンテーション、音楽とは何か（1）、耳トレ	音・音楽について考える	
第2回	音楽とは何か（2）音の歴史、耳トレ グループ分け、グループ発表に向けたディスカッション	ノンバーバルなコミュニケーションについて考える。 自分の推し音楽を考えておく	
第3回	音楽療法の歴史(1)先史時代～18世紀 グループ発表に向けたディスカッション①発表形態	音楽療法の歴史前半をまとめておく グループ発表に向けた準備を行う	
第4回	音楽療法の歴史(2)18世紀以降～現代 グループ発表に向けたディスカッション②発表内容	音の起源、音楽療法の歴史を知り、第3・4回の授業の感想を400字程度にまとめ期限までに提出。 グループ発表のまとめ	
第5回	音楽教育と音楽療法 グループ発表(1)	音楽教育と音楽療法の違い、共通点を理解する。	B,D
第6回	幼児・児童を対象とした音楽活動（1）幼児の音楽的発達、リトミック グループ発表(2)	音楽性について理解し、幼児の音楽的発達と表現について理解する	B,D
第7回	幼児・児童を対象とした音楽活動（2）小学校教育における音楽 グループ発表(3)	学校教育における集団の音楽を考える	B,D
第8回	幼児・児童を対象とした音楽活動（3）即興音楽 グループ発表(4)	即興で音楽制作を行う	B,D
第9回	成人・高齢者を対象とした音楽療法(1)さまざまな音楽療法 グループ発表(5)	授業課題を振り返る	B,D
第10回	成人・高齢者を対象とした音楽療法(2)音楽によるイメージ誘導法GIM グループ発表(5)	音楽体験を行う	B,D

第11回	成人・高齢者を対象とした音楽療法(3)音楽鑑賞を用いたセッション グループ発表(6)	介護予防、障害者施設・高齢者施設等のさまざまな音楽療法の在り方を知る	B,D
第12回	ノードフロビズ音楽療法 グループ発表(7)	即興について予習しておく	B,D
第13回	日本における音楽療法 (1) 乳幼児の音楽療法 グループ発表(8)	発表のまとめを提出	B,D
第14回	日本における音楽療法 (2) シニアの音楽療法セッション	「パーソナルソング」鑑賞	
第15回	音楽の創造 発表・全体の振り返り	全体の振り返り	

人間と美術

更新日：2024/04/15 11:59:55

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2K103010	授業コード	2K103010
担当教員	長谷川 玲						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B2103	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	知の美術・知恵の美術等を色々な物を描いたり色々発想・創造し、美術の一端に触れてもらい人の生活の中に美術が関わっていることを理解してみる。
方法	表現し創作することにより各自の完成度の在り方を知ることが楽しみながら描く。

履修条件

履修者数は60人

履修する上の留意点

F4のスケッチブックと2Bの鉛筆・消しゴム・定規を用意する。

到達目標

1	課題を素直に表現することの大切さを知る／納得しながら発展させることの喜びを知る
2	展覧会の鑑賞と感想文の作成
3	記憶による表現の楽しさを知る
4	美術を通して実生活への関りを知る
5	学生が創造・想像を体験し、その能力を生かして社会で生き抜くことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	各テーマごとに色々な課題での表現方法での作品作り	60
到達目標②	スケッチブックでのレポート提出	20

到達目標③	創造・想像を生かした作品作り	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

人間が常に生活していくには創造・想像していくことが不可欠であります。 美術がそこに担っている事を勉強してゆきます。

課題に対するフィードバック

実技授業は、課題をもとに・イメージをし・描くことを評価し、フィードバックを行う。

第1回から4回までの座学・学外授業での美術鑑賞で作品に接する機会を得て、社会と美術館のかかわりをレポートにし、より良い作品を作成できる。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	美術と接するには？色々な美術1 日本の美術館	美術館に行ったことがあるか、ないか 公立・私立の美術館と画廊（ギャラリー）	
第2回	美術と接するには？色々な美術2 世界の美術館	公立・私立・世界の美術館と画廊（ギャラリー）	
第3回	現代美術のあり方と見方1 セザンヌ等抽象画からキュビズム	アートという概念が出来ていく変遷を辿る。	
第4回	現代美術のあり方と見方2 キュビズムから現代美術その後	芸術がどのように表現方法を変遷していくかをたどる。	
第5回	基本形体の描写 図形を描く1 無意識からの制作	画面に基本図形を構成して、抽象画を描いてみる。	D
第6回	基本形体の描写 図形を描く2 立体の簡単な描き方・簡単に顔と人を描いてみよう	一点透視図法・二点透視図法等で絵画にも進め方がある事を知る。	D
第7回	発想と変換から拡散1 複数のヒントから自由に発想し、描く	どの様に発想しオリジナルな物を描くか。	D
第8回	自然の身近のものを描く 落ち葉を描く、精密描写	手に取ってじっくり観察し物には色々な表情がある事を知る。	D
第9回	創造的表現の描写 文様の描き込み	その時代の文様を参考に新しい文様を探し創り上げる。	D
第10回	発想と変換から拡散2 一つの図から自由に発想し、描く	一つのを基本的に色々なアイデアを出し物を描く。	D
第11回	発想と変換から拡散3 二つの図から自由に発想し、一つの物を描く	二つのものを一つに合成し、色々なアイデアを出し物を描く。	D
第12回	美術鑑賞（展覧会の見方）1	展覧会の日程で変更することもある。	D
第13回	美術鑑賞（展覧会の見方）2	展覧会の日程で変更することもある（感想文提出・スケッチブック提出）	D
第14回	創造的表現の描写1 絵本・絵画などの挿絵作り手法	イメージや具体的な内容の画面構成	D
第15回	創造的表現の描写2 絵本・絵画などの挿絵作り手法	イメージや具体的な内容の画面構成（完成）	D
	定期試験	提出物での評価	

人間関係と倫理学

更新日：2024/03/27 11:37:31

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2K104010	授業コード	2K104010A, 2K104010B
担当教員	松野 充貴						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B2101	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【養護, 健スポ】			授業時間+自習時間	90+180		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	現代はポスト・トゥルースの時代とも呼ばれ、真理とは何かという問題が盛んに提起されている。それゆえ、真理とは何か、いかなる議論の形式を真理とみなすのかは重要な課題となっている。また、価値が多様化した現代において異なる価値を有する他者といかに対話し、合意するのは喫緊の問題である。本講義では以上のことを問題意識として、第一回から第九回までは教科書を用い、倫理学の主要な問題について功利主義と義務論の立場から考える。第十回から第十五回まではそれぞれの回一つのテーマを取り上げ、リベラリズムを中心に様々な倫理的立場について学ぶ。本講義は受講者に自らの考えを発表してもらいそれに基づいて講義をおこなう。それゆえ、受講者には積極的な発言が求められる。
方法	各回の講義は前半45分は討論をおこない、後半45分で解説を板書中心におこなう。

履修条件

履修する上の留意点

自己の倫理的立場にもとづいて議論をおこなうので自らの立場を予習しておくこと。

到達目標

1	功利主義、義務論、リベラリズムの倫理的立場を説明できること。
2	倫理学に関する基礎知識を、論理的推論を用いて応用できる。
3	倫理学に関する様々な立場の相違を踏まえつつ、自らの立場を批判的に形成することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	授業内での討論	30

到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『実践・倫理学——現代の問題を考えるために』	勁草書房	児玉聡

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『現代倫理学』	ナカニシヤ出版	坂井昭宏（他）
2	『動物からの倫理学入門』	名古屋大学出版会	伊勢田哲治

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

討論の内容をまとめ、それぞれの倫理的立場について解説する。

授業計画

授業回	学修計画 学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング の実施方法
第1回	第一回 イントロダクション 討論形式で講義をおこなう。トロッコ問題などの思考実験を例に倫理学の基礎を学ぶ。倫理学の原理的探究の方法および、倫理学の対象について学ぶ。	教科書および配布資料を読む。	A,B
第2回	第二回 実践倫理(1)——死刑制度をどう考える？ 討論形式で講義をおこなう。死刑制度の賛成派と反対派に分かれそれぞれの立場で議論をする。	ノートを整理して定期試験等に備える。	A,B
第3回	第三回 実践倫理(2)——嘘をつくことの倫理 一般に嘘はいけないとされるのだが、嘘も方便という言葉があるように嘘をつくことが擁護される場面もある。嘘は絶対ではないものなのか、ついてよい場合はどのような条件に限定されるのかについて議論する。	ノートを整理して定期試験等に備える。	A,B
第4回	第四回 実践倫理(3)——自殺と安楽死 自殺について討論する。自殺することは常に悪いことなのか？病で激痛に耐え続けなければいけないとしたら安楽死することは許されるのか？また、治療を中止することについて、とりわけ、家族としての責任とは何かについて考える。	ノートを整理して定期試験等に備える。	A,B
第5回	第五回 実践倫理(4)——他者危害の原則と喫煙の自由 喫煙を題材に他者危害について議論する。また、トマス・ポッグを参照しながら積極的危害と消極的危害について学び、市場原理によってもたらされる危害について考える。	ノートを整理して定期試験等に備える。	A,B
第6回	第六回 実践倫理(5)——動物を食べること 動物愛護と動物を食べることをいかにして両立させるのか、肉食の正当化の論理をどのようにして構築するのか、を議論する。また、捕鯨問題を例に文化圏ごとの食および生命観の差異について学習する。解説として、ピーター・シンガーの動物の倫理を扱う。	ノートを整理して定期試験等に備える。	A,B
第7回	第七回 実践倫理(6)——善を為すことは義務なのか？ 善行の倫理的な位置づけについて議論する。義務であるとするならば、いかなる条件であるのか？そもそも義務とは何かについて考える。また、解説として、二つの義務論を扱う。カントの義務論とシンガーの援助義務論。	ノートを整理して定期試験等に備える	A,B
第8回	第八回 実践倫理(7)——善をなす動機について 善は利他主義あるいは利己主義的なものなのか。それとも、善行自体が問題であって動機はいかなる関係もないのかなど善行と動機の関係について討論する。また解説として、プラトンの『ゴルギアス』を扱い、利己主義についての考察を深める。	ノートを整理して定期試験等に備える	A,B
第9回	第九回 実践倫理(8)——災害時の倫理について 災害時にとるべき行動を「津波でんぐこ」および「囚人のジレンマ」を例に討論する。解説としてマイケル・サンデルの『これからの正義の話しよう』を扱い、倫理学の様々な立場を紹介	ノートを整理して定期試験等に備える	A,B

	し、多様な議論のなかでどのような立場を確立すべきなのかを考える。		
第10回	<p>第十回 リベラリズム</p> <p>リベラリズムの代表的著作であるロールズを例に正義、善とは何かについて『正義論』を中心に学ぶ。無知のベールを思考実験として用いる。また、ロールズの「合理的なもの」と「理にかなったもの」の違いを解説する。</p>	ノートを整理して定期試験等に備える	A,B
第11回	<p>第十一回 フェミニズム</p> <p>現代の重要な社会課題であるフェミニズムについて考える。また、フェミニズムの隣接領域であるLGBTQについて考える。解説として構築主義の基礎的な考え方と準客体を用いたフェミニズムの考え方を例示する。</p>	ノートを整理して定期試験等に備える	A,B
第12回	<p>第十二回 アファーマティブ・アクション</p> <p>アファーマティブ・アクションについて考える。特定の社会的カテゴリーを優遇することはどこまで許容されるべきかについて考える。また、世代間正義についても講義し、優遇措置を採用した際の世代間の不公平について解説する。</p>	ノートを整理して定期試験等に備える	A,B
第13回	<p>第十三回 教育の格差問題</p> <p>ピエール・ブルデューの『ディスタンクシオン』を中心に教育の核問題の学説を学び、そのうえで、マイケル・サンデルの『実力も運のうち』において議論される社会的地位について倫理的問題を解説する。</p>	ノートを整理して定期試験等に備える	A,B
第14回	<p>第十四回 ケア倫理</p> <p>アネマリイ・モルの『ケアのロジック』を例にケア倫理について学ぶ。とりわけ、カントを中心とした伝統的倫理学と対比することによってその特徴を解説する。</p>	ノートを整理して定期試験等に備える	A,B
第15回	<p>第十五回 生命倫理</p> <p>ジョルジュ・カンギレムの『正常と病理』において展開される規範概念を例に生命倫理について考える。また、ミシェル・フーコーにおける正常化についての権力論との関連のうちで生命についての倫理学を考える。</p>	ノートを整理して定期試験等に備える	A,B
	定期試験		

人間と社会

更新日：2024/03/27 11:37:33

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K108010	授業コード	2K108010
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B2102	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	人は社会的な生物であると言われます。それでは、この「社会」とは、いったい何ものでしょうか。この授業では身近な「社会」に関わるテーマを取り上げ、社会現象の実態やメカニズムについて学び、人間がこうした社会で健康に生きることについて考えていきます。
方法	教科書とパワーポイントを利用し講義を進めます。また、ワークや他者との意見交換も行い、協力することで理解を深めていきます。

履修条件

なし

履修する上の留意点

・講義授業ですが、適宜ディスカッション、ワークも行います。

到達目標

1	社会現象の実態を理解し、文章として示すことができる。
2	人間と社会の関係について理解し、自分の意見をまとめることができる。
3	人間や社会現象に関する他者との意見交換、ワークで自分の意見を述べられる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題・レポート	30
到達目標②	課題・レポート	30
到達目標③	授業への取り組み	40
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	基礎ゼミ 社会学	世界思想社	工藤保則・大山小夜・笠井賢紀

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業内で適宜紹介する		

オープンな教育リソース

必要に応じて、授業内で紹介します。

学生へのメッセージ

積極的な授業参加を期待します。

課題に対するフィードバック

各回、振り返り課題を実施する。課題のフィードバックは次回の授業時に行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業概要：人間と社会とは自己と他者の関係	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第2回	家族と社会	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第3回	福祉と教育	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第4回	地域社会	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第5回	組織と職場	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第6回	文化	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第7回	メディア	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第8回	ジェンダーとセクシュアリティ	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第9回	エスニシティ	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第10回	社会的格差	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第11回	社会問題	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第12回	社会運動	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第13回	自然環境と科学技術	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第14回	政治的社会化	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第15回	授業の振り返りとまとめ	予習：これまでの配布資料を読み、まとめを行う 復習：授業を振り返り総まとめをおこなう	A

社会生活と法

更新日：2024/03/27 11:37:34

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2K201010	授業コード	2K201010
担当教員	柴垣 直哉						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B3105	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース選択必修			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	社会生活は網の目のように張りめぐされた「法」という社会規範の上に成り立っている。この授業では、法と私たちの生活の関わりを、日常生活に関連した事例を中心に考える。 事例を通じて、法的トラブルが身近に潜んでいること、法律という規範（ルール）に沿った対処方法が存在すること、被害を拡大しないために必要な知識（法常識）が存在することを理解する。また、多様な法律の存在、法律解釈に際しての考え、法曹（裁判官・検察官・弁護士）の活躍についても把握する。
方法	予習範囲を中心に講義を行い、講義中は判例事例を用いて学生に質問し、ディスカッションを行います。 時事問題についても言及し、法常識の実践を試みる。

履修条件

特になし

履修する上の留意点

特になし

到達目標

1	基礎的な法概念、法常識を理解できる。
2	習得した法律知識を具体的な事例に応用できる。
3	事例問題に対し、法律知識を踏まえ、自己の見解を論述できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験（又は試験に変わるレポート課題）	40
到達目標②	授業態度	10

到達目標③	定期試験（又は試験に代わるレポート課題）	50
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	毎回授業時にレジュメを配布		柴垣直哉

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	日本一やさしい法律の教科書	日本実業出版社	品川皓亮
2	法曹の倫理[第3版]	名古屋大学出版会	森際康友 編

オープンな教育リソース

裁判所HP <https://www.courts.go.jp/>

日本弁護士連合会HP <https://www.nichibenren.or.jp/>

愛知県弁護士会HP <https://www.aiben.jp/>

学生へのメッセージ

遠い存在のように思える「法律」ですが、日常生活の中で生じるトラブルの解決手段として考えると、意外と親近感が湧くものです。

授業では、毎回異なる事例を予告し、予習としてどのような問題が存在しているのか簡単に調査してもらい、講義の中で具体的な解決方法を検討します。

課題に対するフィードバック

毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容を進める。

試験結果については、採点実感を公表する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス～法律の役割と司法～ 《法律は正義なのか。法律学と就職試験・資格試験。司法と法曹三者》	予習はシラバスを参照すること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第2回	契約①（賃貸借契約） 《念願の一人暮らし！ 部屋を借りたけれど・・・》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第3回	契約②（特定商取引・消費者契約） 《ネットで評判の脱毛に申し込んだ！ でも怖くなったので止めた・・・》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第4回	損害賠償①（交通事故） 《慌てていたら人身事故を起こしてしまった...》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第5回	損害賠償②（過労死） 《一家の大黒柱が過労死...これから家族はどうなるの？》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第6回	刑事①（盗撮・痴漢） 《階段で動画撮影したら、前を歩く女子高生に盗撮と疑われて...》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第7回	刑事②（裁判員裁判） 《裁判員候補者の通知が届いた。死刑判断に加わるなんて無理...》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第8回	家事①（離婚・不倫） 《相手は既婚者だった！ 交際相手の配偶者から慰謝料請求が...》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第9回	家事②（遺産争い） 《祖父の死亡を切っ掛けに、両親と親戚が揉め始めた...》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第10回	労働（労働者の権利・ハラスメント問題） 《正社員・派遣・アルバイトetc、働き方で有利・不利があるのか？》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第11回	知財（著作権） 《レポート課題でネット上の記事を無断引用しちゃった...》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第12回	憲法①（表現の自由） 《Twitter上の表現が悪いとして仕事で不利益を受けるのはあり？》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第13回	憲法②（平等権） 《夫婦別姓禁止や女性のみ再婚禁止期間があるのは不平等で	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B

	は?》		
第14回	憲法③（生存権） 《働けず、天涯孤独。そんなときのセーフティーネット。》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
第15回	行政（保険・年金） 《社会保険や年金制度自体が良く分からない...》	予習は前回レジュメ記載の予告事項を調べること。 復習は、配布するレジュメを熟読すること。	A,B
	定期試験	筆記試験（一行問題・事例問題に対する論述）	

現代社会の構造と問題

更新日：2024/03/27 11:37:36

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2K202010	授業コード	2K202010
担当教員	川村 潤子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B3106	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース選択必修			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	社会を理解する際に必要な基礎概念および基礎知識について授業をする。また、現代社会の諸問題について、それらの背景や構造をふまえてグローバルな視点（特に中国）から授業をする。
方法	資料、パワーポイントを使い授業を行う。 講義を主に行うが、個人ワークやグループワークなども取り入れ、知識の共有を図る。

履修条件

なし

履修する上の留意点

毎回、小課題を提示し、それが提出されない場合は減点する。

到達目標

1	現代社会を理解するうえで必要な基礎概念および基礎知識を理解することができる。
2	授業内容をふまえて、現代社会の諸問題を多様な視点から分析することができる。
3	情報を整理・分析し、考察し論述することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	リアクションペーパーもしくは小課題	15
到達目標②	中間レポート	15
到達目標③	定期試験	70
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	毎回資料を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業で随時紹介をする。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

毎時間、小課題がありますが、熱意をもって取り組みましょう。

課題に対するフィードバック

各授業のはじめに、前回の授業終了時に提出されたリアクションペーパーもしくは小課題に対してコメントをする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	社会とはなにか	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	
第2回	現代社会における「若年層」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	A
第3回	現代社会における「情報・ニュース」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	A
第4回	現代社会における「教育1」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	A、C
第5回	現代社会における「教育2」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	A、C
第6回	現代社会における「労働1」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	D
第7回	現代社会における「労働2」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	D
第8回	現代社会における「ジェンダー」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	A
第9回	現代社会における「家族」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	
第10回	現代社会における「空間」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	
第11回	現代社会における「医療・福祉」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	

		の見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	
第12回	現代社会における「ネットワーク」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	
第13回	現代社会における「格差と階層化」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	
第14回	現代社会における「エスニシティと境界」に関する問題	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	
第15回	まとめ	授業中に取り上げたトピックについて、参考に挙げた文献等を読んで、問題を深く掘り下げ、自分なりの見解を持てるようになるまで思考し、レポートにまとめて提出する。	
	定期試験		

現代社会のマネジメント

更新日：2024/04/18 15:01:15

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K203010	授業コード	2K203010
担当教員	水野 清文						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B3102	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	ビジネスに必要な経営に関する基礎的な知識や考え方を修得させ、経営の仕組みや概念を理解させるとともに、経営を主体的に考える能力と態度を身につけさせる。具体的には会社の形態の種類と特徴、株主・経営者の権利と義務について解説した上で、商店経営を取り上げ、小売業の社会的・経済的な役割と機能、小売業の形態と特性、商品に関する知識、商品管理、販売・経営管理、資金調達、店舗設備計画の立て方など、経営の理論を実務と照らし合わせながら理解させる。
方法	事例を取り上げながらの講義である。理解を深めるため授業内ミニレポートを書いてもらうことがある。

履修条件

履修する上の留意点

関連する新聞記事やニュースには関心を持つように心掛けること。

到達目標

1	経営学に必要な基本概念、および基礎知識を説明することができる。
2	経営学全般を理解し、それを経営実務につなげることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内ミニレポート	30
到達目標②	定期試験	70
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥	
-------	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	現代経営学の本質 ※2023年版 ISBN978-4-86434-166-0 まもなく発刊される2024年改訂版ではありません。	五紘舎	高木直人・水野清文編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業内で指示する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

自主的な学びにより、独自の考えを生み出してくれることを期待する。

課題に対するフィードバック

授業内ミニレポートに対しては、翌週コメントをする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	今学期の授業指針および授業内容の概略説明、経営学の登場	経営、経営学について予習・復習すること。	
第2回	経営学の登場	所有と経営の分離について予習・復習すること。	A
第3回	企業形態	企業形態の分類と特徴について予習・復習すること。	
第4回	企業の社会的責任	企業の存在意義について予習・復習すること。	
第5回	経営学節（1）	科学的管理法、フォードシステムなどを予習・復習すること。	A
第6回	経営学節（2）	欲求階層説、複雑人モデルなどを予習・復習すること。	
第7回	経営戦略	PPM、競争優位、コア・コンピタンスについて予習・復習すること。	A
第8回	企業文化	企業文化の構成要素について予習・復習すること。	
第9回	経営組織	組織の諸形態について予習・復習すること。	
第10回	生産管理	生産形態の分類と手順について予習・復習すること。	A
第11回	人的資源管理	人的資源管理の制度について予習・復習すること。	A
第12回	日本的経営	日本的経営の特徴と制度について予習・復習すること。	A
第13回	商業	商業の誕生と発展について予習・復習すること。	A
第14回	マーケティング	マーケティング、マーケティング・ミックスについて予習・復習すること。	A
第15回	企業とキャッシュフロー	CSR、CSR経営の実際について予習・復習すること。	
	定期試験		

日本国憲法

更新日：2024/03/27 11:37:40

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2K204010	授業コード	2K204010A, 2K204010B
担当教員	柴垣 直哉						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B3101	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	日本国憲法は、日本の最高法規でありながら、小中高教育では触れることは乏しく、大学で初めて触れる人が大半です。その上、中身も抽象的な規定が多く、具体的なイメージが湧きにくいという特徴があります。加えて、同法に定められている「自由権」「平等権」「社会権」といった人権も、「日本国」という国家や「国会」「内閣」「裁判所」といった国の組織も、皆さんが生まれたときから当たり前存在であるが故に、関心を抱きにくいのもやむを得ないところです。 この授業では、皆さんが日本国憲法を勉強すべき動機付けからスタートし、同法の制定経緯、人権の特徴、日本国の統治制度を確認して、暮らしの中に日本国憲法を根拠とする沢山の事象・制度があることを理解して頂き、皆さん一人一人の主権者意識を涵養します。
方法	予習範囲を中心に講義を行い、講義中は判例事例を用いて学生に質問し、ディスカッションを行います。 教職員採用試験過去問等を参照し、知識のアウトプットによる定着を図ります。

履修条件

特になし

履修する上の留意点

特になし

到達目標

1	社会における近代憲法の役割を理解できる。
2	日本国憲法が保障する人権の内容を理解できる。
3	日本国の統治構造と三権の役割が理解できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	期末試験	40

到達目標②	期末試験	30
到達目標③	期末試験	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『スタディ憲法（第2版）』	法律文化社	曾我部真裕・横山真紀編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	高見勝利編『あたらしい憲法のはなし他二篇』	岩波現代文庫	高見勝利編

オープンな教育リソース

e-gov法令検索 (<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=321CONSTITUTION>)
 衆議院Webサイト (http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_annai.nsf/html/statics/shiryo/dl-constitution.htm)
 文部省「あたらしい憲法のはなし」 (https://www.aozora.gr.jp/cards/001128/files/43037_15804.html)

学生へのメッセージ

- ・日本国憲法の条文については、教科書巻末資料を参照するのが簡便ですが、「オープンな教育リソース」に掲載したe-gov法令検索や衆議院Webサイトでも確認することができます。
- ・授業開始に先立って、参考書（23-75頁）ないし「オープンな教育リソース」掲載の「あたらしい憲法のはなし」の通読を推奨します（参考書のほうが新字体で多少読みやすい）。授業の全体像を把握するのに有益です。

課題に対するフィードバック

毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容を進める。
 試験結果については、採点実感を公表する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス1：日本国の構成員（国民・天皇）	（予習） 日本国憲法1～8条、教科書第1章・3章。 （復習） 配布レジュメ熟読	A, B
第2回	ガイダンス2：大日本帝国憲法と日本国憲法の違い	（予習） 日本国憲法前文・9条、教科書第2章。 （復習） 配布レジュメ熟読	A, B
第3回	統治機構1：日本国の組織構成①（国会）	（予習） 日本国憲法41～64条、教科書第4章。 （復習） 配布レジュメ熟読	A, B
第4回	統治機構2：日本国の組織構成②（内閣）	（予習） 日本国憲法65～75条、教科書第5章。 （復習） 配布レジュメ熟読	A, B
第5回	統治機構3：日本国の組織構成③（裁判所）	（予習） 日本国憲法76～82条、教科書第6章。 （復習） 配布レジュメ熟読	A, B
第6回	統治機構4：日本の組織構成④（地方自治体）	（予習） 日本国憲法92～95条、教科書第7章。 （復習） 配布レジュメ熟読	A, B
第7回	基本的人権1：人権とは何か（総論）	（予習） 日本国憲法10～11条、教科書第8章。 （復習） 配布レジュメ熟読	A, B
第8回	基本的人権2：平等権	（予習） 日本国憲法14条・24条、教科書第10章。 （復習） 配布レジュメ熟読	A, B

第9回	基本的人権3：思想・良心の自由、信教の自由	(予習) 日本国憲法19～20条、教科書11章。 (復習) 配布レジュメ熟読	A, B
第10回	基本的人権4：表現の自由、学問の自由	(予習) 日本国憲法21条・23条、教科書第11章。 (復習) 配布レジュメ熟読	A, B
第11回	基本的人権5：居住移転の自由・職業選択の自由・財産権の保障	(予習) 日本国憲法22条・29条、教科書第12章。 (復習) 配布レジュメ熟読	A, B
第12回	基本的人権6：身体の自由と刑事手続上の権利・国務請求権	(予習) 日本国憲法17～18条・31～40条、教科書第13章。 (復習) 配布レジュメ熟読	A, B
第13回	基本的人権7：幸福追求権・新しい人権	(予習) 日本国憲法13条、教科書第10章。 (復習) 配布レジュメ熟読	A, B
第14回	基本的人権8：生存権・教育を受ける権利・労働基本権(社会権)	(予習) 日本国憲法25～28条、教科書第14章。 (復習) 配布レジュメ熟読	A, B
第15回	基本的人権9：参政権	(予習) 日本国憲法15～16条、教科書第15章。 (復習) 配布レジュメ熟読	A, B
	試験	筆記試験(穴埋択一問題・事例問題に対する論述)	

共生文化論

更新日：2024/03/27 11:37:42

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K205010	授業コード	2K205010	
担当教員	菅沼 文乃							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	B3203	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	沖縄の歴史・文化と現代的様相について講義する。沖縄は古くから日本本土や東アジア、東南アジア、第二次世界大戦後にはアメリカとのかかわりの中にあつた地域である。こうした歴史的背景と、沖縄独自の文化とのかかわりの中で形成されてきた現在の沖縄社会を知ることにより、多文化が混濁し共生する社会への知見を深める。
方法	毎回の授業資料に基づき講義する。理解度の確認として3回の授業内課題を実施する。

履修条件

2年次生以上

履修する上の留意点

- ・授業資料をプリントとして配布するが、合わせてメモ・ノートをとることが望ましい。
- ・沖縄の歴史や文化に関する映像資料や映画、ドキュメンタリー番組等を使用する。

到達目標

1	沖縄の文化の独自性と今日の状況について歴史的・文化的背景と関連付けて説明できる。
2	学習した内容を整理・要約することができる。
3	学習した内容をもとに、物事を多面的、かつ論理的に考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト (全3回)	30
到達目標②	ミニツツペーパー (各回)	20
到達目標③	期末レポート	50

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	授業プリントを配布。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	都度授業内で提示。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

現在、沖縄は「癒しの島」「南の楽園」として、あるいは「沖縄戦」「米軍基地」などの面から紹介されることが多いと思います。しかし、こうしたイメージは、あくまで今の沖縄の一面であり、その背景には沖縄特有の歴史や文化が潜んでいます。この授業では、つねに様々な文化との関係のなかにある沖縄の多角的な理解を目指します。授業を通して、物事に対し幅広い視野から対応できる思考を身につけていってください。

課題に対するフィードバック

提出された授業内課題についての解説・フィードバックは授業内に実施する。授業内容や関連するテーマについての質問は基本的に教室でうけつける。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	はじめに（この授業について、異文化とは）	予習：沖縄や日本の文化・社会・情勢に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第2回	沖縄とは	予習：沖縄の歴史に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第3回	沖縄の歴史（1）古琉球	予習：沖縄の歴史に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第4回	沖縄の歴史（2）琉球王国	予習：沖縄の歴史に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第5回	沖縄の歴史（3）明治以降	予習：沖縄の歴史に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内課題①を期限までに提出。 授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第6回	沖縄の文化的理解（1）信仰と祭祀モデル	予習：沖縄の文化や社会に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第7回	沖縄の文化的理解（2）祖先と親族	予習：沖縄の文化や社会に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第8回	沖縄の文化的理解（3）様々な思想・慣習	予習：沖縄の文化や社会に関する新聞・ニュース・	A

		インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	
第9回	沖縄の文化的理解 (4) 芸能	予習：沖縄の文化や社会に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第10回	沖縄の文化的理解 (5) まちなみと文化	予習：沖縄の文化や社会に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内課題②を期限までに提出。 授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第11回	沖縄の文化的理解 (6) 映像からみる沖縄	予習：沖縄の文化や社会に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第12回	現代沖縄の状況 (1) 沖縄へのまなざし	予習：沖縄や日本の社会や情勢に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第13回	現代沖縄の状況 (2) 観光開発と沖縄	予習：沖縄や日本の社会や情勢に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第14回	現代沖縄の状況 (3) 沖縄の社会的課題とその背景	予習：沖縄や日本の社会や情勢に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内課題③を期限までに提出。 授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
第15回	現代沖縄の状況 (4) 世界に広がる沖縄	予習：沖縄や日本の社会や情勢に関する新聞・ニュース・インターネットなどの情報に関心を向けておくこと。 復習：授業内容を都度整理すること。授業で出たキーワードなどで理解できないものは各自調べておくこと。	A
	期末レポート提出		

文章表現（国語）

更新日：2024/03/27 11:37:44

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2K206010	授業コード	2K206010A, 2K206010B
担当教員	榎内 久義						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B3201	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	文章を通して「国語」としての日本語の特徴と日本語を基盤とする文化についての理解を深め、同時に日本語を使用する言語活動全般におけるリテラシーを育成する。
方法	演習を中心に展開。様々な分野の文章や資料に対する自らの意見を文章として表現する。必要に応じて、グループワーク、スピーチやディスカッション等による意見交換を行う。ただし、本授業は学び合う者互いが刺激し合うことにより創り上げられるために内容は適宜修正される。また、語彙力定着を図るために適宜、小テストを行う。

履修条件

前期は2年生、後期は3・4年生を対象とする。基本的に教職志望者を対象とするが、それ以外の受講も可。ただし、日本語および日本文化に関心が高いことが望ましい。学びの質を確保するため履修人数の上限を20名とする。

履修する上の留意点

演習を中心に展開。遅刻・早退は授業に支障が生じるため、原則、認めない。事情がある場合は事前連絡を要す。その他、詳細については初回の授業で示す。前期は標準レベル・後期は発展レベルとして展開するが、全般において文章作成を得意としない者を対象とした内容で実施するため、スキルの高い者の受講は勧めない。評価については、授業の取り組み以外にレポート等の課題を重視する。

到達目標

1	論理的文章の的確な読解と要約ができる 文学的文章の観賞と解釈ができる 語彙力を向上させる
2	文章の特徴を理解したうえでの各種文章の作成ができる
3	適切な語句の選択ができる 正確な文法を身につける
4	明解な文章構成ができる 創作において創意工夫ができる

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	レポート（読解 要約） 小テスト（国語常識）	25
到達目標②	レポート（意見文 創作的文章）	25
到達目標③	レポート（基本知識 意見文 創作的文章）	25
到達目標④	観察 振り返り 意見交換 課題提出率	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	オリジナル教材		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜紹介		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

主体的、積極的な学びを期待する。

課題に対するフィードバック

各回の設定目標に即した観点に基づき評価し、筆記または口頭による助言をもってフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	概要説明（授業内容・言語・コミュニケーション・国語教育等）	「国語」に関するテーマでレポート作成	A
第2回	文章表現の基礎知識（文章の種類・文の長さ・句読点・かかり受け）	文章の種類・文の長さ・句読点・かかり受けについての理解と演習	A
第3回	文章表現の基礎知識（単語・文・段落・説明の順序）	単語・文・段落・説明の順序についての理解と演習	A
第4回	適切な表現・アカデミックワード	文章の種類に応じた語彙選択の理解	A
第5回	評論文で学ぶ①（キーワード・対比構造・要約）	授業で扱った文章の要約文を作成し、自らの意見を400字程度でまとめる。	A
第6回	評論文で学ぶ②（文章構造・展開・要約）	授業で扱った文章の要約文を作成し、自らの意見（批判）を600字程度でまとめる。	A
第7回	評論文で学ぶ③（客観的読解・要約）	授業で扱った文章の要約文を作成し、自らの意見（批判）を800字程度でまとめる。	A
第8回	意見文作成（拡散思考・収束思考）	情報収集・レポート（1000字程度）作成	A
第9回	文学的文章で学ぶ（語彙・表現・主題・鑑賞）	課題作品の鑑賞・鑑賞文の作成	A
第10回	文学的文章（エッセイ）の作成	情報収集・構想・文章作成	A
第11回	資料読解①（資料の分析）	データや図表を含めた資料を正確に読み取り、その内容を文章化する。	A
第12回	資料読解②（資料比較・分析）	同一テーマに関する複数の資料を読解、比較検討し、その内容を文章化する。	A
第13回	意見文作成	課題文に対する意見文（2000字程度）の作成	A
第14回	プレゼンテーション・意見交換	プレゼンテーション・意見交換・振り返り	A
第15回	総合振り返り	総合振り返り（習熟度の確認および意見文作成）	A

社会で役立つ数学

更新日：2024/03/27 11:37:47

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K207010	授業コード	2K207010
担当教員	深見 龍太郎						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B3103	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	社会では数学的な基礎知識が役に立つことがあります。中学高校レベルの数学を理解していることで人生が豊かになることもあれば、知らないことで実際に損をしてしまうこともあります。日常生活の中には時間や距離、面積、お金の計算、確率など数学と関連の深いものが多くあります。そういった身近な問題や課題を解決するための有効な手段として数学を使うことができます。また、社会で仕事をする上で物事を正確にとらえて効率的に対処する能力を身につけることも大切です。論理的に先を見通したり、柔軟な考え方や発想力を身につけるためにも数学的思考を学ぶことは役に立ちます。 この授業では中学高校の範囲の数学をもう一度学んでいきます。
方法	授業ではパワーポイントと黒板を用います。 授業の始めにおいて、主に前回内容の復習を行います。 状況次第で前回だけでなくさらに前の内容の復習及び発展なども行い、着実性を重視して進めていきます。 ただ問題を解くだけでなく、その数学が持つ本質的な意味を理解していくように学習します。

履修条件

特にありません。中学高校で数学が苦手だった方、やり直したい方、今後教員採用試験などを受ける前に数学の基礎を学びたい方などに向いています。

履修する上の留意点

特にありません。

到達目標

1	数学の基礎を理解できる。
2	数学の問題を解くことができる。
3	数学を使った応用ができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	レポート	20
到達目標②	授業態度	20
到達目標③	定期試験	60
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に指示します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	小・中・高の計算がまるごとできる	ベレ出版	間地 秀三
2	【新課程】初めから始める数学Ⅰ	マセマ出版社	馬場敬之/高杉豊
3	【新課程】初めから始める数学A	マセマ出版社	馬場敬之

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

数学が苦手だった方、あるいは嫌いだった方が学び直すチャンスになります。

課題に対するフィードバック

設定目標に即した観点に基づき評価し、筆記または口頭による助言をもってフィードバックします。
主に復習時において、習得度合いを確認しつつ授業を進行します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	数と式Ⅰ（循環小数 実数 有理数 無理数 など）	数式の基礎について学ぶ。 「小・中・高の計算がまるごとできる」 「初めから始める数学Ⅰ」	
第2回	数と式Ⅱ（方程式と不等式の基礎）	方程式と不等式について理解する。 「小・中・高の計算がまるごとできる」 「初めから始める数学Ⅰ」	A
第3回	指数	指数計算ができるようになる。 「小・中・高の計算がまるごとできる」 「初めから始める数学Ⅰ」	
第4回	式の展開	式の展開ができるようになる。 「小・中・高の計算がまるごとできる」	
第5回	因数分解	因数分解ができるようになる。 「小・中・高の計算がまるごとできる」	A
第6回	方程式	様々な方程式が解けるようになる。 「初めから始める数学Ⅰ」	
第7回	関数Ⅰ（2次関数）	2次関数について学ぶ。 「初めから始める数学Ⅰ」	
第8回	関数Ⅱ（最大 最小 不等式）	2次関数の性質について理解を深める。 「初めから始める数学Ⅰ」	A
第9回	図形の性質	図形の基礎を学ぶ。 「初めから始める数学A」	
第10回	図形と計量	様々な図形について理解を深める。 「初めから始める数学Ⅰ」	
第11回	集合と論理Ⅰ（集合の基礎）	集合について理解を深める。 「初めから始める数学Ⅰ」	A
第12回	集合と論理Ⅱ（論理と命題）	命題の考え方を身につける。 「初めから始める数学Ⅰ」	
第13回	場合の数	場合の数について理解を深める。 「初めから始める数学A」	
第14回	確率	確率の考え方を身につける。 「初めから始める数学A」	A
第15回	数学と人間の活動	数字の性質について理解を深める。 「初めから始める数学A」	

	定期試験		
--	------	--	--

探究への学び

更新日：2024/03/27 11:37:49

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K208010	授業コード	2K208010
担当教員	姚 静雅						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B1101	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	健康な社会を実現する上で役立つ「ファシリテーション (facilitation)」を身につけるために、学生が主体となって探究的な学習に取り組む。ファシリテーションとは、組織(チーム)の活動を支援し、成果の質が上がるよう舵取りする総合スキルであり、チームの力を最大限に引き出し、アイデア創造や合意形成を促進させる。
方法	Teamsにアップロードされる講義資料による講義、ならびに個人ワークとグループワークで重要性や各要点を理解する。授業では、パソコンを使用した課題の作成と提出を行う。

履修条件

履修する上の留意点

毎回の授業で説明した課題(成果物)が提出されていない場合は減点します。

到達目標

1	場のデザインのスキルを理解し実践できる
2	対人関係のスキルを理解し実践できる
3	構造化のスキルを理解し実践できる
4	合意形成のスキルを理解し実践できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講態度、成果物	25

到達目標②	受講態度、成果物	25
到達目標③	受講態度、成果物	25
到達目標④	受講態度、成果物	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ファシリテーションの教科書: 組織を活性化させるコミュニケーションとリーダーシップ	東洋経済新報社	グロービス

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	人間関係づくりトレーニング	金子書房	星野 欣生
2	ファシリテーション・ベーシックス —組織のパワーを引き出す技法	日本経済新聞出版	堀 公俊

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

社会人に必要不可欠なスキルであるファシリテーションを楽しく学んでください。

課題に対するフィードバック

- ・ 自学自習課題について授業内で発表し、学生間や教員との情報や意見の交換をおこなう。
- ・ 疑問点があれば随時対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	健康社会におけるファシリテーションの重要性	予習：シラバスを確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第2回	場のデザインのスキル① チーム活動のための準備	予習：チーム活動を進めるためのプロセスを確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第3回	場のデザインのスキル② 基本プロセスを使いこなす	予習：5つのプロセスの型を確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第4回	場のデザインのスキル③ チームビルディング	予習：チームづくりの手法を確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第5回	対人関係のスキル① 聴く力	予習：傾聴について確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第6回	対人関係のスキル② 訊く力	予習：質問方法について確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第7回	対人関係のスキル③ 観る力	予習：言葉以外のコミュニケーションについて確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第8回	対人関係のスキル④ 応える力	予習：会話を繋げる支援について確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第9回	構造化のスキル① ロジカルシンキング	予習：論理的について確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第10回	構造化のスキル② ロジックツリー	予習：ロジックツリーについて確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第11回	構造化のスキル③ ファシリテーション グラフィック	予習：図解の4パターンについて確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第12回	合意形成のスキル① 意思決定	予習：意思決定法について確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第13回	合意形成のスキル② 対立の解決	予習：コンフリクトについて確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第14回	合意形成のスキル③振り返り、フィードバック	予習：学びを次に繋げる方法について確認する 復習：授業内容を振り返って整理する	B,C
第15回	まとめ	予習：今までの学びを振り返って整理する 復習：ファシリテーションについてA4一枚にまとめる	

生物調査法

更新日：2024/03/27 11:37:51

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K209010	授業コード	2K209010
担当教員	川瀬 基弘						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B3104	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	「自然」とは、私たち人間を含む天地間の万物を指し、動植物から宇宙まで幅広い範囲を含んでいる。誰にでも簡単に実践できる、環境科学や地球科学、生物学に関する基本的な調査方法について説明する初心者向けの講義である。この講義では、フィールドワーク、データ収集・解析の基本的な技術を習得し、生態系や自然現象を科学的に調査する方法を理解する。高校で生物学や地学を学んでいない方にも理解できるよう、基礎的な内容から講義を進める。
方法	講義形式で実施する。必要に応じて視聴覚教材を使用する。教室内で実施可能な自然調査法の簡単な演習等を、可能な限りアクティブラーニングとして実施する。

履修条件

特に定めないが、自然、環境、生物、地球科学などに興味を持って取り組めることが望ましい。

履修する上の留意点

指示に従ってアクティブラーニングに積極的に取り組めること。

到達目標

1	自然科学の基本的な調査方法を説明できる。
2	調査によって得られたデータを分析することができる。
3	調査結果から考察をすることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	40
到達目標②	レポート	30
到達目標③	レポート	30

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない。必要に応じてテーマ別に講義時に紹介する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	自然観察ハンドブック	平凡社	日本自然保護協会 編
2	すごすぎる身近な植物の図鑑	KADOKAWA	鈴木 純
3	海岸動物の生態学入門	海文堂出版	日本ベントス学会 編
4	ネオぼけっと-水辺の生物	小学館	白山 義久 ほか 著
5	増補改訂版 地層の見方がわかるフィールド図鑑	誠文堂新光社	青木正博, 目代邦康
6	石ころ博士入門	全国農村教育協会	高橋直樹, 大木淳一
7	動物園へ行きたくなる本	リバティ書房	矢島 稔
8	水族館に行きたくなる本	リバティ書房	鳥羽山 照夫
9	指標生物—自然をみるものさし	平凡社	日本自然保護協会 編
10	海流の贈り物—漂着物の生態学	平凡社	中西 弘樹
11	DVD付 新版 昆虫	小学館	小池 啓一 ほか

オープンな教育リソース

NHK for school : <https://www.nhk.or.jp/school/>

瀬戸内海の海岸生物調査マニュアル : <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/125215.pdf>

漂着物学会誌 : https://drift-japan.net/?page_id=95

動物園の仲間たち : https://www.higashiyama.city.nagoya.jp/04_zoo/

岩石の分類 : <https://www.gsj.jp/geology/fault-fold/formation/r-classification/index.html>

学生へのメッセージ

自然環境における科学的な調査とデータ収集方法に焦点を当て、環境科学の知識とスキルを深める機会を提供します。私たちはこの講義で、自然界の複雑さと美しさを探求し、持続可能な未来を築くための重要なスキルを身につけていきます。

課題に対するフィードバック

原則として翌週の講義時に総評・コメントする。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業ガイダンス 自然観察における観察技術とデータ収集の方法を学び、生物多様性、生態系相互作用および環境変動に関する理解を深め、科学的調査と環境保全を考える力を養う。自然観察と野外調査は、生態学的研究や環境保全・管理において不可欠なスキルであり、自然観察の基本原則と科学的アプローチを理解する。生態系と生物多様性について学ぶ。野外調査と観察技術を習得する。簡易的な調査データの収集や分析方法を解説する。	予習課題：ウェブサイトで公開されている自然（生物）の調査方法や自然環境に関する論文を読み、その内容を要約する。 復習課題：受講ノートのポイントを整理して要約する。	
第2回	植物の観察 植物の特徴（葉、花、果実、種子の特性、茎や幹の特徴、植物のサイズや成長状態など）を観察する方法を紹介する。特に、植物の外観に焦点を当てた観察方法を説明する。植物の観察を通じて、植物の生態や多様性を理解し、自然界の美しさを探求し、自然環境への意識を高める。	予習課題：植物の一般的な分類や種類についてウェブサイト検索する。 復習課題：植物の分類クイズを作成する。	D
第3回	海の生物観察 海岸無脊椎動物の観察をとおして、それらの多様性と海岸生態系（海岸の環境）を理解する。場所（海岸線や潮間帯、岩場、砂浜、干潟など、さまざまな環境条件）の選定、潮汐の配慮、調査道具と使用方法、有害危険生物、記録の取り方、図鑑の活用方法などを説明する。	予習課題：海洋生態学の基本的な概念と海洋生物学の主要な研究対象についてのオンラインリソースを読む。 復習課題：海洋生物学の研究トピックのプレゼンテーション資料を作成する。	
第4回	河川・湖沼の生物観察 河川、湖沼、および水辺の生態系に焦点を当て、生物観察の方法論を提供する。水辺の環境における生態系の構造と機能についての理解を深め、自然環境の豊かさを探求する。河川と湖沼の生態系の基本原理を理解すること、水辺の環境の多様性と影響要因	予習課題：水生生態学の基本的な概念と河川・湖沼生態系についてのオンラインリソースを読む。 復習課題：地域の水生生態系の保全について提案をまとめる。	

	を分析する能力を開発すること、生物観察の技術と方法を習得することを目標にする。		
第5回	<p>地層の観察</p> <p>地質学の基本原理と地層の観察方法に焦点を当て、地球の歴史や変化を理解し、地質学の基本的なスキルを習得する。地層の形成、堆積、および変化のメカニズムを学び、地層の観察技術とフィールドワークの方法を学ぶ。地層からの情報解釈として、化石を材料にした古生態学、岩石・鉱物の生成過程から観察方法までを理解する。</p>	<p>予習課題：地層、岩石の種類、地質時間の概念など、地層学の基本概念についての教科書やオンラインリソースを読む。</p> <p>復習課題：野外の露頭を観察してスケッチをする。露頭観察が困難な場合は、公園、山や川や海などいづれかで石ころ（岩石）を拾って観察する。</p>	D
第6回	<p>石ころの観察</p> <p>地質学、鉱物学、鉱床学および環境科学的な側面から、鉱物と岩石の識別、採集および分析の方法を紹介し、地球の歴史や鉱産資源までを広く浅く解説する。鉱物の種類、主要造岩鉱物、鉱産資源、堆積岩・火成岩・変成岩、岩石・鉱物の形成過程などについて理解し、身近な石材の識別や簡易的な鑑定ができるようにする。</p>	<p>予習課題：石ころの基本的な特性や分類に関する教科書、学術論文、オンラインリソースを読み、石ころの種類、形成プロセス、地質学的背景などを理解する。</p> <p>復習課題：自分が収集した石ころについて石ころの種類、形成プロセス、地質学的背景などを考察する。</p>	D
第7回	<p>動植物園、水族館で学ぶ方法</p> <p>動植物園や水族館を訪れた際に、生態学的な観点から生物の行動を観察する方法を紹介する。まず、動植物の生態学的な特性と行動を理解し、それを活かして動植物園や水族館での観察方法とデータ収集技術を習得する。具体的には、動植物の生息地と飼育環境の違いを考え、それが動植物の行動にどのように影響するかを学ぶ。また、観察技術とデータ収集方法についても学び、生物の行動パターンや生態系の変化を記録し分析するスキルを磨く。</p>	<p>予習課題：ウェブサイトを活用し、動物と植物の主要な分類群に関する情報を予習しておく。たとえば、哺乳綱、爬虫綱、魚綱、節足動物門、被子植物亜門などの特徴について学んでおく。</p> <p>復習課題：実際に動物園や植物園に出かけて観察してみる。動物や植物の種、行動、特徴、および生息地に関する詳細な記録を残す。</p>	D
第8回	<p>指標生物の観察方法</p> <p>指標生物 (Indicator Species) は、生態学と環境科学において極めて重要な役割を果たす生物である。この講義では、指標生物の概念、役割、そしてその実用性に焦点を当てており、指標生物が生態系の健康状態や環境の質を評価するための重要なツールであることを述べる。指標生物は環境モニタリングにおいて不可欠な要素であり、この講義ではこれらの調査方法を紹介する。</p>	<p>予習課題：指標生物が生態系や環境評価にどのように役立つかについての教科書や論文を読む。</p> <p>復習課題：指標生物の種を識別し、生息地の特性や状態を評価する。</p>	
第9回	<p>昆虫の観察方法</p> <p>昆虫学の基本的な観察方法と技術に焦点を当て、学生が昆虫の多様性と生態学に関する理解を深める機会を提供する。昆虫は地球上で最も多様な生物群の1つであり、生態系において重要な役割を果たしている。この講義では、昆虫の観察技術の習得、分類、生態学的役割の理解、および環境への影響に焦点を当てる。</p>	<p>予習課題：ウェブサイト検索により、昆虫学の基本的な概念と用語に関する資料を読む。昆虫の分類、生活史、生態学的役割について理解する。</p> <p>復習課題：民家の庭や公園あるいは雑木林などで昆虫採集を実施し、観察・スケッチを実施する。</p>	
第10回	<p>土壌動物の観察</p> <p>土壌内の生態系とその主要な構成要素である土壌動物に焦点を当て、それらを観察し理解する方法論を提供する。土壌生態学の基本概念とその重要性について学び、土壌動物が土壌の栄養循環、生態系の安定性、農業などへ与える影響についても探求する。また、土壌動物が土壌の構造、有機物分解、種間相互作用に果たす役割にも焦点を当てる。</p>	<p>予習課題：土壌生態学の基本概念に関するウェブサイト情報を閲覧する。土壌生態学の概要、土壌動物の生息地での役割、および土壌生態学の重要性について理解する。</p> <p>復習課題：講義中に示したサンプルデータを分析し、土壌動物の多様性、分布、および生態学的なパターンについて報告書を作成する。</p>	
第11回	<p>考古学の調べ方</p> <p>考古学の基本的な調査方法と実践的なアプローチに焦点を当てる。古代の文明や文化を理解し、過去の遺産を解明するために必要なスキルと知識を提供する。考古学の調査手法、遺物の分析・収集と整理、環境学的な証拠の取り扱い、遺跡の保護と保存についても理解を深める。</p>	<p>予習課題：ウェブサイト情報を参考に、考古学の発展やアプローチの変遷について理解し、どのようにして考古学が研究されてきたかを把握する。</p> <p>復習課題：サンプルデータに関する背景、研究の重要性、調査方法、および結果についてまとめる。</p>	
第12回	<p>食卓で出来る魚類観察</p> <p>魚類耳石は、平衡感覚と聴覚に関わる魚の内耳に存在する小さな硬い構造物である。年輪のような構造は、魚の成長と生態学的過程を解読するために重要である。魚類耳石の形成と構造について理解し、環境学習への応用事例を紹介する。魚類耳石の生態学的意義、魚類耳石の収集と保存、魚類耳石の形成と年輪解析、魚類の成長モデルと魚類耳石の関連について講義し、魚類耳石を用いた生態学的研究の事例紹介をする。</p>	<p>予習課題：魚類の多様性と生息地に関する教科書やリソースを読む。魚類の生態系、生息地、および分布について理解する。</p> <p>復習課題：食材として提供された魚類を観察する。魚の特徴、種、生息地、および食性についての観察記録を作成し、それに基づいて魚の生態学的特性を推測する。</p>	D
第13回	<p>海辺の漂着物調査</p> <p>ビーチコーミングは、海岸の自然環境の観察と保全に関する重要な手法である。ビーチコーミングとは何か、そして海岸線や浜辺の生態系を理解し、保護するためにどのように調査を行うかに焦点を当てる。ビーチコーミングの概要と歴史、海岸線の生態学と生物多様性、ビーチコーミングの計画と実施例、標本の収集と保存、データ分析と調査結果のまとめについて述べる。</p>	<p>予習課題：海辺で見られる漂着物の主要な種類とそれらの由来に関する資料をウェブサイト検索して一読する。</p> <p>復習課題：講義中にサンプルとして示した漂着物データを分析し、報告書を作成する。漂着物の分布、主要な由来、および環境への影響についてまとめる。</p>	
第14回	<p>カルスト地形と鍾乳洞</p> <p>カルスト地形の形成および鍾乳洞の環境について理解し、フィールド調査方法を紹介する。カルスト地形の基本と鍾乳洞の形成</p>	<p>予習課題：ウェブサイト検索により、カルスト地形の基本概念に関する資料を読む。カルスト地形の形成、地下水の影響、およびその特徴について理解す</p>	

	<p>プロセスを理解し、鍾乳洞とその周辺地域の地質学的特性を学ぶ。カルスト地形と鍾乳洞の概要、洞窟動物の多様性と進化、ライムストーンと化石、二畳紀の付加体について講義する。</p>	<p>る。</p> <p>復習課題：鍾乳洞の形状、鍾乳石の種類、および地下水系についてまとめる。</p>	
第15回	<p>化石の調べ方</p> <p>古生物学、地質学、生物学的な側面から、化石の発見、収集、保存、および解析の方法を学び、古代生物の進化と地球の歴史を説明方法を概説する。化石の種類と分類について理解し、化石の採集方法と保存技術や化石の解析方法と進化学的な考え方を学ぶ。化石を用いて古生態と古環境の復元に挑戦する。</p>	<p>予習課題：ウェブサイト検索により、古生物学の基本概念に関する資料を読む。古生物学の歴史、古生物の分類、および化石の形成について理解する。</p> <p>化石の種類と発見地</p> <p>復習課題：化石発掘体験または博物館見学をとおして、化石の種類、母岩の分類、地質時代を記録し、収集した化石を分類する。</p>	D

健康へのアプローチ

更新日：2024/03/27 11:37:52

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K300010	授業コード	
担当教員	オムニバス						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B4101	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	健康について、身体、心、社会をテーマとした視点から基礎的なことを広く学び、健康についての理解を深めます。
方法	毎回担当する教員が変わるオムニバス形式で授業を行います。授業は、パワーポイント等を用いた講義形式を中心にしますが、グループワークや演習等も含まれます。

履修条件

なし

履修する上の留意点

欠席をせずに、楽しみながら、様々な視点から健康について学びましょう。

※土屋担当の授業回（シラバス上では第12回）では、体を動かす演習を予定している。

そのため、その授業回では動きやすく、多少汚れても構わないような服装で参加すること。スカートやジーンズの着用不可。また、ヒールのある靴やサンダルの着用は控え、スニーカーで参加すること。

到達目標

1	身体、心、社会に関わる健康についての知識を修得することができる。
---	----------------------------------

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題・小テスト等	100
到達目標②		

到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業の中で随時紹介します。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

受け身ではなく、積極的に参加しましょう。

課題に対するフィードバック

授業内に受けた質問や意見に対して、できるだけその授業内で解答し、フィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション、授業の目的・方法・進め方等の説明 健康とは 身体、心、社会に関する視点から健康について学ぶ。 (担当者：山根)	予習：健康について自分の考えを検討する。 復習：講義内容を振り返る。	A, C
第2回	一般市民による一次救命処置（倒れている人を見たらどうするか、救命処置の構成、一次救命処置（市民用）） 模擬的な資機材等を用いたロールプレイングも予定しているので、動きやすい服装で参加してください。 (担当者：今澤)	予習：倒れている人を見た自分がどうあるべきかを心がける。 復習：定期的に振り返る。	D
第3回	「健康って何?」「well-beingって何?」 問いに対する本質的な意味を哲学対話で探る。 (担当者：上井)	予習：健康とはどんな状態かを自分なりに考えておく。 復習：授業で探ったことを意識して生活してみる。	B
第4回	「断るって、むずかしい?」 健康的な行動を形成するための健康教育（ライフスキル教育）について学ぶ。 (担当者：森)	予習：自分の「断り方」について考える。 復習：授業の内容を振り返る。	A, B
第5回	日常生活における感染予防対策 (担当者：近藤)	予習：自身の手洗い方法の確認 復習：講義内容を振り返る。	A, C
第6回	おしゃれの効果とリスク 一健康を意識しておしゃれをしよう— (担当：後藤)	予習：おしゃれの効果やリスクについて自分の考えをまとめる。 復習：講義の内容を振り返る。	A, C
第7回	スポーツと栄養 スポーツにおける栄養（食生活）の重要性について学ぶ。 (担当者：天野)	予習：栄養素の働きについて予習しておく。 復習：スポーツにおける栄養効果について講義内容を振り返る。	B, C
第8回	スポーツ活動と健康問題 スポーツ活動時に発生する障害や疾病とその予防対策について学ぶ。 (担当者：刑部)	予習：スポーツ活動時に発生する障害や疾病について、自身（もしくは友人・家族）の経験を振り返る。 復習：授業内容の振り返りを行う。	A
第9回	健康と心理学 健康心理学とポジティブ心理学について学ぶ。 (担当者：木戸)	予習：最近1か月の間にあった良かったことを3つ、悪かったことを3つなるべく具体的に書き出す。 復習：授業内容を振り返り、普段の生活にどのように応用するかまとめる。	A
第10回	社会の健康を考える 社会は、犯罪者にどう向き合えばよいのか、ノルウェイの処遇と日本の処遇を比較して考え、討議する。 (担当者：廣井)	予習：犯罪者に厳罰で臨むことの良い点、疑問点について考える。 復習：授業を振り返り、あらためて犯罪者にどのように向き合うべきなのか考える。	B
第11回	心理テスト（描画法）体験 描画を通して自分自身について考える体験をします。 (担当者：長岡)	予習：絵を描くことでどのような心の状態が表現されるのかということについて、自分の考えを書いて	A, C

		くる。 復習：本日の描画体験について感想を書く。	
第12回	心の治療（カウンセリング）に必要な感性を高める 自分の身体感覚に敏感になるトレーニング （担当者：土屋）	予習：心の治療（カウンセリング）に必要な感性とは何かを考えてくる（授業内で発表してもらいます）。 復習：授業内容について、理解できたことや疑問点をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A, C
第13回	人との関わりと健康 自分や他人をどのように認識しているのか、また、他者によって個人がどのように影響されるのかを学ぶ。 （担当者：高瀬）	予習：他者との関わりで悩んだり、困ったりするのはどんな場面か考えてくる。 復習：授業全体の内容について振り返る。	
第14回	データサイエンスと健康と心理 第4次産業革命とも呼ばれる技術革新であるデータサイエンスの概略と、健康と心理との関連性 （担当者：姚）	予習：データサイエンスについて調べる。 復習：授業全体の内容を振り返る。	A, C
第15回	健康に関わる仕事 健康に関わる種々の仕事について学ぶ。 （担当者：山根）	予習：健康に関わる仕事について調べる。 復習：授業全体の内容を振り返る。	A
	定期試験は実施しない。		

健康生活

更新日：2024/03/27 11:37:54

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2K303510	授業コード	2K303510A, 2K303510B
担当教員	近藤 由里子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B4103	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置	○		
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース必修			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	「健康」とは何か、健康・病気、生・死、医療・福祉、社会・環境条件、などの問題に対する見方、考え方・関わり方について講義を行ない、学生と共に「健康に生きる」ための知識、技術、態度について考える。
方法	事前学習として関連する教科書の章を読み講義に出席させる。パワーポイント、動画を用いて講義を行なう。また、学生は、講義テーマについての課題をレポートにして提出。

履修条件

履修する上の留意点

毎回レポート課題を提示し、それが提出されない場合は減点（または、提出者に加点）します。

到達目標

1	健康生成力とSOC(首尾一貫感覚)について説明できる
2	ヘルスリテラシーについて説明できる
3	ストレス対処力について説明できる
4	ソーシャル・キャピタルが社会に与える影響について説明できる
5	健康を阻害する要因と改善策について述べる事ができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業態度/レポート/定期試験	20
到達目標②	授業態度/レポート/定期試験	20
到達目標③	授業態度/レポート/定期試験	20

到達目標④	授業態度/レポート/定期試験	20
到達目標⑤	授業態度/レポート/定期試験	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	第二版 新・生き方としての健康科学	有信堂	山崎 喜比古

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	健康の謎を解く	有信堂	アーロン・アントノフスキー
2	ストレス対処力SOC	有信堂	山崎 喜比古 編
3	市民のためのお酒とアルコール依存症を理解するためのガイドライン	慧文社	長 徹二
4	「健康格差社会」を生き抜く	朝日新聞出版	近藤 克則
5	すばらしい人体 あなたの体をめぐる知的冒険	ダイヤモンド社	山本 健人
6	困難を乗り越える力 はじめてのSOC	PHP新書	蛭名 玲子

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

毎回、事前に教科書を読んで受講してください。また、毎回レポート課題がありますが、熱意をもって取り組みましょう。

課題に対するフィードバック

講義中に理解度のチェックとして重要事項について発問する。また、学生から提出された課題レポート内容から、補足が必要と思われる事項について説明を行う。レポートは毎回評価する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	生涯発達と健康	予習:テキスト第1章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第2回	健康に生きる力	予習:テキスト第2章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第3回	食と健康	予習:テキスト第3章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第4回	身体活動と睡眠	予習:テキスト第4章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第5回	薬品、薬物と健康	予習:テキスト第5章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第6回	心と身体の病気	予習:テキスト第6章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第7回	生活の場と健康	予習:テキスト第7章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第8回	環境・自然災害と健康	予習:テキスト第9章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第9回	セクシュアリティと健康	予習:テキスト第10章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第10回	病・障害の体験	予習:テキスト第11章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第11回	老いること、死にゆくこと	予習:テキスト第12章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第12回	先端医療と医療に関わる社会のルール	予習:テキスト第13章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第13回	健康、医療と福祉を支える社会のしくみ	予習:テキスト第14章を読む 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第14回	健康格差社会	予習:格差が健康に影響していると考えられる例をあげる。 復習:課題について指定した期限内に提出	A, C
第15回	喫煙・飲酒と健康	予習:喫煙、飲酒に関するマイナス面、プラス面を考える。 復習:定期試験に向け、自己学習する。課題提出なし。	A, C

	定期試験		
--	------	--	--

みずほ学

更新日：2024/03/27 11:37:56

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K304020	授業コード	2K304020
担当教員	梅本 大介						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B1102	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	大学や学園の姿を、様々な角度から考察してほしいと思います。教員による授業を手がかりに、受講生には研究活動にあたってもらいます。大学の歴史や教育活動だけでなく、大学周辺の街の歴史や文化、経済などを学んでいきます。この授業を通して皆さんが研究（調査学習）された内容を発表してもらうことが、学習成果となります。そのような学びの積み重ねを通して、科学的思考を育成する基礎としての「課題を発見する力」「論理的に考え判断する力」を身につけてほしいと考えています。
方法	大学は、研究活動を行うことが中心となる高等教育機関です。高校までの探究活動をより専門的に行っていく場所ともいえるでしょう。研究活動とは、調査や実験、分析、発表（論文も含む）で構成されます。ひとりで研究するのではなく、グループを組んで取り組むことも多いはず。学園の歴史や教育活動を題材にした学習・研究活動を通して、そのような資質・能力を鍛えていきます。授業では、受講者の皆さんがリラックスして自由に対話を重ねることや、ペアワークという範囲から慣れていき少しずつ複数の他者と意見交流を重ねていくことで、これまでグループワークが苦手だったと思われる受講生であっても「成長を実感できる」授業にしていきたいと思えます。最後は「最終課題の研究グループ」を編成し、それぞれのグループごとにパワーポイントで研究発表を行っていただきます。授業には基本的にパソコンを持参してください。その際、事前に充電しておくことを忘れないようにしておいてください。

履修条件

全学生を受け入れます。共に学び、共に考えましょう。
この授業は、とくに無学年制の授業であるという点を強調したいと思います（異学年との交流をはたらきかけます）。

履修する上の留意点

特にありません。
大学から配布されたシラバスやハンドブック、また大学や学園のHP・SNS等の内容などを確りと確認しておきましょう。
「なぜ愛知みずほ大学で学ぶ必要があるのか」「愛知みずほ大学で学ぶ意義とはなにか」「愛知みずほ大学で何を学ぶのか」など、【大学と自分】を念頭に置きながら受講してください。

到達目標

1	課題に主体的に取り組み、自己の考えをまとめることができる。
2	グループメンバーで協力して研究課題を設定して、取り組んだ研究成果を表現することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	各授業での課題および主体的な授業態度	43 (28+15)
到達目標②	成果発表および（発表会における）小レポート	57 (50+7)
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特にありません。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	瀬木学園創立80周年記念誌	瀬木学園	瀬木学園

オープンな教育リソース

瀬木学園「学園の80年」・公式HP

<https://www.aichi-mizuho.ac.jp/honbu/aboutus/memory.html>

このページ資料は授業の中で多く使います。

愛知みずほ大学・公式HP

<https://www.mizuho-c.ac.jp/>

愛知みずほ大学・YouTube

<https://www.youtube.com/@user-zq5lx9so4n>

愛知みずほ大学・Instagram

<https://www.instagram.com/aichi.mizuho.college/>

愛知みずほ大学・LINE

@jlq9092b

これら大学や学園のHP・SNS等をすみずみまでチェックしておいてください。

また、それぞれ登録してくださると、担当職員や担当学生は嬉しいものと思います。

学生へのメッセージ

愛知みずほ大学は1993年に開学したばかりの新しい大学です。しかし、学園全体の歴史は1939年までさかのぼります。様々な卒業生や教職員が、この学校の発展に尽くしてきました。なぜ、これほど長い歴史を有することができたのか、そしてこれからどのように発展していくのか、在学生である受講生の皆さんとともに、この大学の設計図を描いていきたいと思っています。この授業が、充実した学生生活の出発点となることを願っています。

課題に対するフィードバック

提出された課題に対し、意見交換及び講評を行います。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	みずほ大学の教育活動と学生の活動をのぞいてみよう ー愛知みずほ大学へようこそ！・オリエンテーションー	オリエンテーションを行います。授業の進め方やアウトラインを示しながら、愛知みずほ大学における教育活動の基本を学習したいと思います。授業では、大学のHPやSNSを閲覧したいと思いますので、パソコンを必ず持参してください。また、大学に関するクイズを実施しますので、授業前に、シラバスやハンドブック、履修の手引きに目を通してよくとよいでしょう。復習としては、毎回、授業内容の振り返りを行っていきます。具体的な振り返り方法は、授業中に指示します。それぞれ2時間程度の学習時間を目安と考えています。	A
第2回	人間科学とは何だろう	ハンドブックや履修の手引きに記載している「建学	A、C

	ー「科学的思考に基づき健を探究」を多角的に考えるー	の精神・大学の基本理念、大学の使命・目的等」と「学部・学科の教科目標、特色等」「開設科目」のページを改めて読んでください。そのうえで、「人間科学」とはどのような学問であると表現できるのかを予習として考えてきてほしいと思います。授業では、パソコンを使用します。復習に関しては、第1回目の授業で指示する内容と同一の方法とします。	
第3回	「健康」な社会とは何だろう ー「科学的思考に基づき健を探究」を通して自分が実現できることを考えるー	皆さんが愛知みずほ大学での学びを通して「健を科学的に探究する」力を社会へフィードバックできる人材として成長する時、皆さんはどのように社会に貢献されるでしょうか。「AI時代の健」とは何かについて検討し、皆さん自身の考え方をまとめてみましょう。この授業では、パソコンを使った調べ学習と、グループによるボードゲームを行います。復習に関しては、第1回目の授業で指示する内容と同一の方法とします。	A、B
第4回	卒業生たちの活躍から自分のキャリア形成を考えてみよう ー先輩たちの就業先を研究するー	愛知みずほ大学を卒業した先輩たちがどのような企業や団体に就業していったのか、授業でデータを示します。そのデータから読み取れる「健」について考察する授業です。パソコンを持ってきてください。研究・考察した内容は、ペアワークで共有します。復習に関しては、第1回目の授業で指示する内容と同一の方法とします。	A、C
第5回	教員たちの活動と自分の研究関心をつなげてみよう ー先生たちの研究とエピソードを知るー	愛知みずほ大学には様々な先生方がいます。その先生方がどのような関心をもって教育活動にあたっているかを知ることは、皆さんが今後学びたいことを探すためにも重要なことだと考えます。インターネットの検索と先生方が発表・紹介された書籍・論文を調べることで、「○○先生はこんな研究や教育活動をしておられる」というテーマレポートをパソコンで作成してもらいます。皆さんの成果物は受講生同士で共有したいと思います。復習に関しては、第1回目の授業で指示する内容と同一の方法とします。	B、D
第6回	大学の周辺を検索してみよう ー街の変化と学生生活をつなげて考えてみるー	大学だけでなく大学の周辺がどのように変化してきたか、これから変化しようとしているのかを学ぶことは、今後の学生生活のあり方ともかかわるものでしょう。授業では、教員が事前に編成した①「過去」研究グループ、②「未来」研究グループごとに、学校周辺の変化を分析してもらいます（それぞれ複数のグループをつくります）。①過去グループは新旧の地形図の分析を、②未来グループは行政や企業・新聞による発表資料の分析を行ってもらいます。思考力を養う授業です。調べてほしいエリアや資料は、予習の段階（前回授業時）からそれぞれ教員が指示・提供します。各グループによる学習成果は、授業の後半で受講生同士で共有します。授業にはパソコンを必ず持参してください。復習に関しては、第1回目の授業で指示する内容と同一の方法とします。	B、D
第7回	オリジナルな大学の広告をつくろう ー中間まとめー	これまで学んできた内容を総合化するために、自分がもし愛知みずほ大学の広報担当職員ならばどのような広告物を作成するかにチャレンジしてもらいます。広告の形式は問いませんが、その広告に触れた人に「愛知みずほ大学に入りたい！」と思わせることが課題となります。ぜひ、ご自身なりの「愛知みずほ大学のイメージ」を自由に表現してください。パソコンで作成してもらいます。また、成果物は受講生同士で共有したいと思います。復習に関しては、第1回目の授業で指示する内容と同一の方法とします。	A
第8回	『瀨木学園創立80周年記念誌』を読んで、まとめて、伝える① ー読んで、まとめるー	次回授業では、「自分ならば愛知みずほ大学を紹介するためにこんなプレゼンテーションを行う」ことをテーマに、各自で『瀨木学園創立80周年記念誌』を読み込んでもらいます。プレゼンテーション資料の作成は、パワーポイントを用いてもらいます。復習に関しては、第1回目の授業で指示する内容と同一の方法とします。	A
第9回	『瀨木学園創立80周年記念誌』を読んで、まとめて、伝える② ーまとめて、伝えるー	前回授業の作業の続きを行います。また、授業の後半ではグループに分かれて、それぞれの成果物を共有します。他の受講生の視点や表現が自身と同様で	A、B

		あることもあり、また異なることもあるというのを知るための学習です。本授業の最後の研究発表（グループ研究）に向けての基礎作業となるでしょう。復習に関しては、第1回目の授業で指示する内容と同一の方法とします。	
第10回	愛知みずほ大学 について語ろう － 特別講演 (1) －	これまでの授業全体をさらにもう一度振り返ります。そして、それらの学びで得た考えや成長を、特別講演者の方と共に意見の交流をはかることでさらに深い学びへと発展させていきたいと思えます。授業後には、この授業に関するレポート提出を求めます。	A、B
第11回	愛知みずほ大学 について語ろう － 特別講演 (2) － (1) のふり返りと、特別講演者との意見交流	前回授業で提出してもらったレポートをもとに、さらなる特別講演者の方との交流を行います。	A、B
第12回	研究発表会に向けての準備 ① 研究発表に向けての研究課題の設定と調査	研究発表に向けて全員で準備を行います。グループメンバー全員で一致協力して、作業にあたりましょう。どのように発表するか、どのような工夫をすれば聞いている相手に伝わるか、記憶に残るような伝え方はないのか、調べ学習の内容は正しいのか等、積極的にグループの中で話し合い、作業を進めましょう。 研究発表のテーマ設定については、条件を課します。グループごとに異なった条件を、教員よりこの第12回授業中に提示します。グループごとに与えられた条件に従い、且つ、これまでの授業内容を活用して「愛知みずほ大学とかわかることではあるが、他の受講生がゼットイに知らないこと」と思うものを研究して発表してもらいます（課題発見力）。そして、どのグループの研究発表が最も納得できるものであったかを最終試験として競います（論理的に考え判断する力）。	A
第13回	研究発表会に向けての準備 ② 研究発表に向けての調査研究とまとめの編集作業	研究発表に向けて全員で準備を行います。グループメンバー全員で一致協力して、作業にあたりましょう。どのように発表するか、どのような工夫をすれば聞いている相手に伝わるか、記憶に残るような伝え方はないのか、調べ学習の内容は正しいのか等、積極的にグループの中で話し合い、作業を進めましょう。	A
第14回	研究発表会に向けての準備 ③ 研究発表に向けてのまとめの編集作業と発表練習	研究発表に向けて全員で準備を行います。グループメンバー全員で一致協力して、作業にあたりましょう。どのように発表するか、どのような工夫をすれば聞いている相手に伝わるか、記憶に残るような伝え方はないのか、調べ学習の内容は正しいのか等、積極的にグループの中で話し合い、作業を進めましょう。	A
第15回	研究発表会と全体のまとめ	これまでの授業の成果をまとめた研究発表会を行います。また、受講生相互の講評を行います。共に席を並べる学生同士、友情と真理を深める授業になればと期待しています。	A

野外活動・レクリエーション実践（サッカー）

更新日：2024/03/27 11:38:01

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2K307010	授業コード	2K307010
担当教員	山根 基						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	B4109	授業形態	実技			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	選択必修【全コース必修】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	本科目では、スポーツを楽しむ心身の健全な活動を体験する。スポーツ種目の中でも、サッカーを取り上げ、積極的なスポーツへの参加意識を育てる。また、サッカー種目の技術、競技特性、ルールを学び、多面的にスポーツ参加ができるようになることを目標とする。
方法	グラウンドにおいてサッカー実技による授業を実施する。雨天の場合は、室内で運動およびルール・戦術説明等を実施する。

履修条件

安全配慮の観点から履修人数は各クラス30名までとする。

履修する上の留意点

運動に際しては身体の動きを妨げない適切な服装（ジャージなど）、運動用シューズ、髪型等で行うこと。健康診断を必ず受けること。

到達目標

1	意欲的に授業に参加することができる
2	自主的・集団的に学ぶことができる
3	目標を達成するための取り組みを行うことができる
4	ゲームやそれぞれの場面で、必要な技術・戦術が実践できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	意欲・態度	30
到達目標②	意欲・態度	30
到達目標③	意欲・態度	20

到達目標④	定常点	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

共に学ぶなかで、サッカーのおもしろさを味わえる程度の技術を習得し、仲間と共に授業をつくりあげていくことを期待している。

課題に対するフィードバック

ルールおよび課題検討のレポートについて、提出された内容を確認し、フィードバックを行う。
毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、改善点などを確認しながら授業を進める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション サッカーの歴史・現状について、ルールの確認	ルールの課題レポートを作成し、次回提出する	A
第2回	ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性と実施の方法 対人パス、各種キック・トラッピング等の確認、3対1、ゲーム	次回活動への課題を検討する スピードに対応できる身体づくりをする	A, B
第3回	ストレッチと柔軟体操の重要性と実施の方法 対人パス、4対2、シュート、ゲーム	次回活動への課題を検討する スピードに対応できる身体づくりをする	A, B
第4回	3人のパス、3人のパスからシュート、4対2、ゲーム	次回活動への課題を検討する 周りを見る力をつける	A, B
第5回	三角パス、2・3人でのパスからシュート、4対2、ゲーム	次回活動への課題を検討する パスを出すタイミング・受ける位置を考える	A, B
第6回	対人パス、1対1・2対1のシュート、4対2、ゲーム	次回活動への課題を検討する パスを出すタイミング・受ける位置を考える	A, B
第7回	3人のパス、3人のパスからシュート、4対2、ゲーム	次回活動への課題を検討する パスを出す・受けるタイミングと位置を考える	A, B
第8回	対人パス、4対3・5対5ボールキープ、ゲーム	次回活動への課題を検討する パスを出す・受けるタイミングと位置を工夫する	A, B
第9回	三角パス、3人のパスからシュート、4対2、ゲーム	次回活動への課題を検討する ボールのスピード、シュートのタイミング、コースの工夫をする	A, B
第10回	対人パス、3対2からシュート、5対5、ゲーム	次回活動への課題を検討する シュートのタイミングとコースを考える	A, B
第11回	三角パス、ロングキックでのパス、4対2、ゲーム	次回活動への課題を検討する キックの距離感をつかむ工夫とパスのタイミングを考える	A, B
第12回	3人のパスからシュート、3対2・2対2のシュート、ゲーム	次回活動への課題を検討する パス・シュートの距離とタイミングを考える	A, B
第13回	対人パス、グループ・チーム練習、ゲーム	次回活動への課題を検討する 戦術を工夫する	A, B
第14回	パス、グループ・チーム練習、ゲーム	次回活動への課題を検討する	A, B

		戦術を工夫する	
第15回	総括、ゲーム	戦術を考える	A, B

野外活動・レクリエーション実践（バスケットボール）

更新日：2024/03/27 11:38:03

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2K308010	授業コード	2K308010A, 2K308010B
担当教員	鈴木 雅博						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	B4105	授業形態	実技		実務経験のある教員による授業科目の配置		
コース別 必修・選択必修等	選択必修【全コース必修】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	バスケットボールの基礎技術の習得と、ゲーム中での基本的動きを、各プレイヤーのポジションや役割を理解して、ミニゲームを主体とした授業展開で楽しく実践できるようにする。
方法	バスケットボールの基礎的個人技術を習得していき、ミニゲームを数多く行い、必要となる基本的な集団技術、戦術を理解してレベルアップを図る。ゲームを通じてグループの技術的課題や戦術的課題を熟練者がリーダーとなり、チームで解決し楽しく実践する。

履修条件

なし

履修する上の留意点

競技経験や性別を問わず、楽しく積極的に身体運動をすることにより、バスケットボールの特性を理解し、基本的な技術・戦術の習得をめざし、主体的にゲームの運営ができるようにする。

到達目標

1	実技を通してバスケットボールの基本的な知識や、ルールではバイオレーションやファウルについて理解することができる。
2	基礎技能の習得することにより積極的に身体運動を行い、楽しく取り組むことができる。
3	ゲーム中でポジションや役割を理解して、公正・協力・責任を理解し、楽しくゲーム運営ができる。
4	個人技能のゴール下シュート数やドリブルシュート・リバウンドの技能ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業の知識・理解	10

到達目標②	授業の関心・意欲・態度	30
到達目標③	ゲーム	10
到達目標④	技術テスト	50
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業時にバスケットボールの特性やルール等を紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

積極的にバスケットボールに取り組み、楽しくゲーム運営ができるよう、主体的に行動することを望みます。

課題に対するフィードバック

毎時間の活動時間内やクーリングダウンの時を利用して振り返りを行い、どれだけ知識や技術が身についているかを確認する

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション・ウォーミングアップ・ストレッチ・ボールゲーム バスケットボールの基礎技術の習得・クーリングダウン	バスケットボールの特性とルールを説明 ボールコントロール・ハンドリング・ドリブルの基本練習	A,C
第2回	バスケットボールの基礎技術の習得 ランニングパスの習得	フットワーク、ドリブル、パス、シュート、リバウンドの基本練習 隊列パス、三角パス、スクウェアパス、スリークローズのパスワーク	A,C
第3回	バスケットボールの基礎技術の習得 実践による対人技能の習得（ハーフコート）	フットワーク、ドリブル、パス、シュート、リバウンドの基本練習 1対1、2対1の攻防	A,C
第4回	バスケットボールの基礎技術の習得 ディフェンスの目的や考え方の理解と対人技能の習得	フットワーク、ドリブル、パス、シュート、リバウンドの基本練習 ディフェンスが積極的に動いての2対1	A,C
第5回	バスケットボールの基礎技術の習得 実践による対人技能の習得（ハーフコート）	フットワーク、ドリブル、パス、シュート、リバウンドの基本練習 2対1、3対2、3対3の攻防	A,C
第6回	バスケットボールの基礎技術の習得 オフェンスの目的や考え方の理解と対人技能の習得	フットワーク、ドリブル、パス、シュート、リバウンドの基本練習 スクリーンプレー、2対1、3対2、3対3の攻防	A,B
第7回	バスケットボールの基礎技術の習得 実践による対人技能の習得（オールコート）	フットワーク、ドリブル、パス、シュート、リバウンドの基本練習 3対2、3対3、5対5の攻防	A,B
第8回	バスケットボールの基礎技術の習得 実践による対人技能の習得（オールコート）	フットワーク、ドリブル、パス、シュート、リバウンドの基本練習 3対2、3対3、5対5の攻防	A,B
第9回	リーグ戦に向けて班分けを行い試合形式による学習およびチーム練習 3×3（スリー・エックス・スリー）	ルールの理解とオフィシャル方法の解説 各班ごとにチームの役割やポジションの確認 3×3（スリー・エックス・スリー）のルール確認	A,B
第10回	ゲーム① 試合形式による学習およびチーム練習 3×3（スリー・エックス・スリー）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う。	A,B
第11回	ゲーム② 試合形式による学習およびチーム練習 3×3（スリー・エックス・スリー）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う。	A,B
第12回	ゲーム③ 試合形式による学習およびチーム練習	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどディフェンス、オフェンスリバウンドを学ぶ。また実技試験の練習も行う。	A,B

第13回	ゲーム④ 試合形式による学習およびチーム練習	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどディフェンス、オフェンスリバウンドを学ぶ。また実技試験の練習も行う。	A,B
第14回	ゲーム⑤ 試合形式による学習およびチーム練習	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどディフェンス、オフェンスリバウンドを学ぶ。また実技試験の練習も行う。	A,B
第15回	個人技能の実技試験	ゴール下シュート数 ドリブルからのレイアップシュート・リバウンドの往復のタイム計測	A

野外活動・レクリエーション実践（バドミントン）

更新日：2024/03/27 11:38:06

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2K309010	授業コード	2K309010A, 2K309010B, 2K309010C
担当教員	天野 透、刑部 純平						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	B4106	授業形態	実技	実務経験のある教員による授業科目の配置	○		
コース別 必修・選択必修等	選択必修【全コース必修】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none"> バドミントンを楽しく行うための基本となる技術、ルールを学ぶ。 ダブルスのフォーメーションの理論と戦術を学び、ゲームを行う。 グループごとに練習計画を立て、自主的にゲームを運営する。
方法	<ul style="list-style-type: none"> 基本となるストローク技術を習得しバドミントンの概要を学ぶ。 グループで協力して練習計画を立て、バドミントンを楽しく行うとともに、試合（リーグ戦）を運営する。

履修条件

なし

履修する上の留意点

バドミントンを行うのに適切な服装（ジャージなど）、体育館用シューズ、髪型等で行うこと。

到達目標

1	意欲的に授業に参加することができる。
2	自主的・集団的に学ぶことができる。
3	バドミントンのルール、マナーを理解しゲームができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	意欲・態度	40
到達目標②	意欲・態度	30

到達目標③	意欲・態度	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて資料を配付する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業の中で紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

楽しくバドミントンができるよう積極的に取り組もう。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートに対しては、添削およびコメントを付して返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	1 オリエンテーション 授業のねらい、内容、進め方、評価等に関する説明 2 導入 ウォーミングアップ、ストレッチング、クーリングダウンについて グリップとスウィング及びシャトルを打つ感覚の練習	・授業のねらいや授業計画及び健康、安全について理解する。 ・ウォーミングアップやクーリングダウンの重要性について理解する。	C
第2回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2基本技術の練習1 ・シャトルを打つ感覚の練習 ラケットの両面を使用しシャトルを打ち上げる ・ストロークの練習（フォアハンドでオーバーヘッド、アンダーハンド） 3クーリングダウン	・シャトルを打つ感覚に慣れる。	C
第3回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2基本技術の練習2 ・ストロークの練習（バックハンドでフォアハンド、アンダーハンド） 3クーリングダウン	・シャトルを打つ感覚に慣れる。 ・各種のストロークを学習する。	C
第4回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2基本技術の練習3 ・ストロークの練習（ハイクリアー、クリアー、ドロップ、ドロップ） 3クーリングダウン	・シャトルを打つ感覚に慣れる。 ・各種のストロークを学習する。	C
第5回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2基本技術の練習4 ・ストロークの練習（ハイクリアー、ロブ、ヘアピン、スマッシュ） ・フットワーク及びサービスの練習 3クーリングダウン	・各種のストロークを学習する。 ・サービスのルールを理解し、技術を学ぶ。	C
第6回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2基本技術の応用 ・ストロークを組み合わせる練習 ・基礎技術の総合練習（簡易ゲームを含む） 3クーリングダウン	・各種のストロークを学習する。 ・次回の目標を設定する。	C
第7回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2ゲームへの準備1 ・ダブルスのルールとカウント（審判）の仕方について 3クーリングダウン	・ダブルスのルールを理解し、ゲームの進め方を学習する。	C
第8回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2ゲームへの準備2 ・ダブルスのフォーメーション（トップアンドバック・サイ	・ダブルスのゲームのために必要な応用技術やフォーメーションを学ぶ。	C

	ドバイサイド) 3クーリングダウン		
第9回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2グループ練習1 ・個人技能を中心に練習計画を立て、それにもとづいて練習する 3クーリングダウン	・目標を設定する。 ・次回活動への課題を検討する。	B,C
第10回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2グループ練習2 ・ダブルスの技能を中心に練習計画を立て、それにもとづいて練習する 3クーリングダウン	・目標を設定する。 ・次回活動への課題を検討する。	B,C
第11回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2グループ練習3 ・グループごとに総合練習を行う 3クーリングダウン	・目標を設定する。 ・次回活動への課題を検討する。	B,C
第12回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2ゲームの実施 ・グループごとにシングルスでリーグ戦を行う 3クーリングダウン	・リーグ戦を運営する。 ・ゲームの反省と次回活動への課題を検討する。	B,C
第13回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2ゲームの実施 ・ダブルスでリーグ戦を行う 3クーリングダウン	・リーグ戦を運営する。 ・ゲームの反省と次回活動への課題を検討する。	B,C
第14回	1ウォーミングアップ、ストレッチング 2ゲームの実施 ・団体戦を行う 3クーリングダウン	・リーグ戦を運営する。 ・ゲームの反省と次回活動への課題を検討する。	B,C
第15回	まとめ	・授業全体の振り返りを行う。	B,C

野外活動・レクリエーション実践（テニス）

更新日：2024/03/27 11:38:08

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2K310010	授業コード	2K310010A, 2K310010B
担当教員	刑部 純平						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	B4107	授業形態	実技			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	選択必修【全コース必修】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	運動の実践を通して生涯健康（生涯にわたり健康な状態を保つ）の基礎作りを目指していく。運動実践の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。
方法	テニスの基本技術を実施しながら、グループワークも活用し、実技を主に授業を展開します。毎回の授業終了時に振り返りシートを活用して、自身の授業成果の振り返りをを行います。

履修条件

履修できる人数は20名まで、希望が多い場合は抽選とする。

履修する上の留意点

健康・安全面から、テニスに適切な服装とシューズを用意すること。初回授業にて確認します。

到達目標

1	意欲的に授業に参加し、スポーツに親しむことができる
2	テニスを楽しむための技術を習得できる
3	テニスのルール、マナーを理解しゲームができる
4	準備運動、道具の管理等、安全に留意してスポーツ実践ができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業態度	30
到達目標②	成果発表	30

到達目標③	成果発表	20
到達目標④	授業態度	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて、資料を配付する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	同上		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

主体的、積極的な授業参加をお願いします。
雨天時は、映像資料を活用しレポート課題を課す場合があります。

課題に対するフィードバック

実技に関しては授業中に巡回して指導を行います。
振り返りシートは、適宜コメントをして返却します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション、ウォーミングアップ・ストレッチ・クールダウン等の重要性について	授業の内容、出欠の扱い、服装や成績評価に関する説明。授業計画について。自己紹介。	B
第2回	基本技術の習得その1 (フォアハンドストローク)	フォアハンドストロークについて予習・復習してください。	B
第3回	基本技術の習得その2 (バックハンドストローク)	バックハンドストロークについて予習・復習してください。	B
第4回	基本技術の習得その3 (サーブ、レシーブ)	サーブ、レシーブについて予習・復習してください。	B
第5回	基本技術の習得その4 (ボレー)	ボレーについて予習・復習してください。	B
第6回	基本技術の習得その5 (スマッシュ)	スマッシュについて予習・復習してください。	B
第7回	シングルのゲームその1 (試合のルール)	シングルのルールについて予習・復習してください。	B
第8回	シングルのゲームその2 (リーグ戦：センターラリーを中心としたゲーム展開)	シングルの戦術（センターラリーを中心としたゲーム展開）について予習・復習してください。	B
第9回	ダブルスのゲームその1 (試合のルール)	ダブルスのルールについて予習・復習してください。	B
第10回	ダブルスのゲームその2 (リーグ戦：雁行陣を中心としたゲーム展開)	ダブルスの戦術（雁行陣）について予習・復習してください。	B
第11回	ダブルスのゲームその3 (リーグ戦：並行陣を中心としたゲーム展開)	ダブルスの戦術（並行陣）について予習・復習してください。	B
第12回	ダブルスのゲームその4 (リーグ戦：アイフォーメーションを中心としたゲーム展開)	ダブルスの戦術（アイフォーメーション）について予習・復習してください。	B
第13回	団体戦のゲーム (団体戦のルール)	団体戦のルールについて予習・復習してください。	B
第14回	団体戦のゲーム (シングルス)	団体戦におけるシングルの役割について予習・復習してください。	B
第15回	団体戦のゲーム (ダブルス)	団体戦におけるダブルスの役割について予習・復習してください。	B
	まとめ	成果と課題を明らかにする	

野外活動・レクリエーション実践（卓球）

更新日：2024/03/27 11:38:10

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2K311010	授業コード	2K311010A, 2K311010B
担当教員	刑部 純平						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	B4108	授業形態	実技			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	選択必修【全コース必修】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	運動の実践を通して生涯健康（生涯にわたり健康な状態を保つ）の基礎作りを目指していく。運動実践の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。
方法	卓球の基本技術を実施しながら、グループワークも活用しながら、実技を主に授業を展開します。毎回の授業終了時に振り返りシートを活用して、自身の授業成果の振り返りをを行います。

履修条件

履修できる人数は20名まで、希望が多い場合は抽選とする。

履修する上の留意点

健康・安全面から、卓球に適切な服装とシューズを用意すること。初回授業にて確認します。

到達目標

1	意欲的に授業に参加し、スポーツに親しむことができる
2	卓球を楽しむための技術を習得できる
3	卓球のルール、マナーを理解しゲームができる
4	準備運動、道具の管理などから、安全に留意してスポーツ実施ができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業態度	30
到達目標②	成果発表	30

到達目標③	成果発表	20
到達目標④	授業態度	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて、資料を配付する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	同上		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

主体的、積極的な授業参加をお願いします。

課題に対するフィードバック

実技に関しては授業中に巡回して指導を行います。
振り返りシートは、適宜コメントをして返却します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション、ウォーミングアップ・ストレッチ・クールダウン等の重要性について	授業の内容、出欠の扱い、服装や成績評価に関する説明。授業計画について。自己紹介。	B
第2回	レクリエーション卓球	レクリエーション卓球の実施方法（練習方法）について予習・復習してください。	B
第3回	基本技術の習得その1（フォアハンド）	フォアハンドショットについて予習・復習してください。	B
第4回	基本技術の習得その2（バックハンド）	バックハンドショットについて予習・復習してください。	B
第5回	基本技術の習得その3（サーブ、レシーブ）	サーブの種類・打ち方、レシーブについて予習・復習してください。	B
第6回	実践的な練習その1（変化球ボールの出し方・返し方）	変化球ボールの出し方・返し方について予習・復習してください。	B
第7回	実践的な練習その2（自分の特長を知り、より高度な技を取得する）	自分の得意なショットの練習方法について予習・復習してください。	B
第8回	シングルのゲームその1（シングルのルール）	シングルのルールについて予習・復習してください。	B
第9回	シングルのゲームその2（リーグ戦：上回転ボールを中心としたゲーム展開）	シングルの戦術（上回転ボールを中心としたゲーム展開）について予習・復習してください。	B
第10回	シングルのゲームその3（リーグ戦：下回転ボールを中心としたゲーム展開）	シングルの戦術（下回転ボールを中心としたゲーム展開）について予習・復習してください。	B
第11回	シングルのゲームその4（リーグ戦：攻撃的な戦術を中心としたゲーム展開）	シングルの戦術（攻撃的な戦術を中心としたゲーム展開）について予習・復習してください。	B
第12回	ダブルスのゲームその1（ダブルスのルール）	ダブルスのルールについて予習・復習してください。	B
第13回	ダブルスのゲームその2（リーグ戦：攻撃的な戦術を中心としたゲーム展開）	ダブルスの戦術（攻撃的な戦術を中心としたゲーム展開）について予習・復習してください。	B
第14回	ダブルスのゲームその3（リーグ戦：守備的な戦術を中心としたゲーム展開）	ダブルスの戦術（守備的な戦術を中心としたゲーム展開）について予習・復習してください。	B
第15回	団体戦のゲーム	団体戦におけるシングルス・ダブルスの役割について予習・復習してください。	B
	まとめ	成果と課題を明らかにする	

健康スポーツ科学

更新日：2024/03/27 11:38:12

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K320010	授業コード	2K320010
担当教員	刑部 純平						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1303	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	運動やスポーツは、生涯にわたる健康維持・増進を目指すうえで重要な意義を持ちます。生活習慣病や運動器疾患等の健康問題について、運動やスポーツの実践がどのように役立つのかを科学的知見を基に解説します。また、運動やスポーツによって生じる健康問題について、サプリメント摂取とドーピング問題、睡眠不足による健康問題、熱中症の予防と応急処置について解説します。
方法	PowerPointを活用して講義を行います。毎回、授業内で課題を提示します。課題に対する意見をリアクションペーパーに記入してください。なお、授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらいます。また、授業終盤に確認問題を実施します。

履修条件

特にありません。

履修する上の留意点

到達目標

1	現代社会の健康問題について、基礎知識を説明することができる
2	グラフや図などの情報を分析し、考察することができる
3	授業で得た知識を活かし、健康問題に対する解決策を考えることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	40

到達目標②	定期試験	30
到達目標③	定期試験	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	授業毎にスライド資料を配布します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし。		

オープンな教育リソース

本授業は、授業動画のアーカイブ配信を行いますので復習用に活用してください。
アーカイブ配信動画の視聴方法については、授業内で説明します。

学生へのメッセージ

運動やスポーツを実践することの意義を理解し、今後の生活に役立ててください。

課題に対するフィードバック

授業内の課題（リアクションペーパーのコメント）に関しては、授業内で解説をします。
また、授業終盤で実施する確認問題に関しては、確認問題終了時に解説をします。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニング の実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス、科学的知見の解釈 (研究の種類・入手方法)	予習：研究の種類・入手方法について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第2回	運動による生活習慣病の予防と改善① (肥満)	予習：肥満について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第3回	運動による生活習慣病の予防と改善② (高血圧・高脂血症)	予習：高血圧・高脂血症について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第4回	運動による生活習慣病の予防と改善③ (糖尿病)	予習：糖尿病について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第5回	運動による運動器疾患の予防と改善 (変形性膝関節症・骨粗鬆症)	予習：変形性膝関節症・骨粗鬆症について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第6回	運動による認知能力の維持と改善 (認知機能・認知症)	予習：認知機能・認知症について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第7回	運動による精神疾患と改善 (抑うつ)	予習：精神疾患について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第8回	運動によるがんの予防	予習：がんについて予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第9回	フレイル・サルコペニア対策	予習：フレイル・サルコペニアについて予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第10回	健康のための睡眠	予習：睡眠について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第11回	健康づくりのための食事と栄養	予習：食事と栄養（サプリメント・ドーピング）に	A

	(サプリメント・ドーピング)	ついて予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	
第12回	熱中症の予防① (体温調節、水分補給と脱水)	予習：熱中症の予防方法について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第13回	熱中症の予防② (子ども、高齢者、女性)	予習：熱中症の予防方法について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第14回	熱中症の救急処置 (全身浸漬冷却、アイスタオル、水道水散布)	予習：熱中症の救急処置方法について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A
第15回	まとめ	第1～14回の内容を踏まえ、スポーツなどの運動がどのように健康社会に貢献するのか検討します。	A、B
	定期試験		

健康と栄養

更新日：2024/03/27 11:38:14

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2K321010	授業コード	2K321010
担当教員	小久保 友貴						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B4104	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	本講義では、栄養素の消化・吸収や代謝、食品の機能性などの栄養学に関する基礎的な知識を習得し、健康における栄養の役割について理解を深める。様々な栄養の情報を科学的な根拠をもとに正しく理解できる力を身につけることを目指す。
方法	パワーポイントを用いた講義を行う。個人ワークやグループワークをしながら、知識の共有を図る。

履修条件

--

履修する上の留意点

--

到達目標

1	健康の保持・増進、疾病の予防における栄養の役割を説明することができる。
2	基礎的な栄養の知識に関する語句を説明することができる。
3	栄養の情報を科学的根拠をもとに理解し、説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	25
到達目標②	定期試験	50
到達目標③	レポート	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	楽しくわかる栄養学	羊土社	中村丁次
2	図解入門 よくわかる 栄養学の基本としくみ	秀和システム	中屋 豊

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

主体的に学ぶことを望みます。

課題に対するフィードバック

提出された課題レポートに対して講評を行う。回収したコメントは重要なコメントを抜粋しクラス全体に向けて回答を共有する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション、健康と栄養・食事との関わりを考える	予習はシラバスに目を通してきてください。また、健康や食事、栄養に関わる記事を確認することも重要です。復習は、授業内の重要な語句をまとめてください。	A, B
第2回	栄養素の働き、欠乏症と過剰症①（糖質）	予習は食事に関する記事の中で糖質に言及されているものを読みまとめる。復習は授業内の重要な語句をまとめ、予習で読んだ記事との関わりを考察する。	A
第3回	栄養素の働き、欠乏症と過剰症②（たんぱく質）	予習は食事に関する記事の中でたんぱく質に言及されているものを読みまとめる。復習は授業内の重要な語句をまとめ、予習で読んだ記事との関わりを考察する。	A
第4回	栄養素の働き、欠乏症と過剰症③（脂質）	予習は食事に関する記事の中で脂質に言及されているものを読みまとめる。復習は授業内の重要な語句をまとめ、予習で読んだ記事との関わりを考察する。	A
第5回	栄養素の働き、欠乏症と過剰症④（脂溶性ビタミン）	予習は食事に関する記事の中でビタミンに言及されているものを読みまとめる。復習は授業内の重要な語句をまとめ、予習で読んだ記事との関わりを考察する。	A
第6回	栄養素の働き、欠乏症と過剰症⑤（水溶性ビタミン）	予習は食事に関する記事の中でビタミンに言及されているものを読みまとめる。復習は授業内の重要な語句をまとめ、予習で読んだ記事との関わりを考察する。	A
第7回	栄養素の働き、欠乏症と過剰症⑥（多量ミネラル）	予習は食事に関する記事の中でミネラルに言及されているものを読みまとめる。復習は授業内の重要な語句をまとめ、予習で読んだ記事との関わりを考察する。	A
第8回	栄養素の働き、欠乏症と過剰症⑦（微量ミネラル）	予習は食事に関する記事の中でミネラルに言及されているものを読みまとめる。復習は授業内の重要な語句をまとめ、予習で読んだ記事との関わりを考察する。	A
第9回	栄養素の働き、欠乏症と過剰症⑧（食物繊維、水分）	予習は食事に関する記事の中で食物繊維や水分に言及されているものを読みまとめる。復習は授業内の重要な語句をまとめ、予習で読んだ記事との関わりを考察する。	A, B
第10回	食物と栄養の消化・吸収	予習は第2回～9回の内容を確認する。復習は授業内の重要な語句をまとめ、第2～9回の内容との繋がりを考察する。	A
第11回	栄養素の代謝	予習は第2回～9回の内容を確認する。復習は授業内の重要な語句をまとめ、第2～9回の内容との繋がりを考察する。	A
第12回	一般食品と保健機能食品	予習はサプリメントなどの保健機能食品に関する記事を読む。復習は授業内の重要な語句をまとめる。	A, B
第13回	健康づくりと栄養	第13回目は第1回目の内容と関連する回である。予習は第1回目の内容を再度理解する。復習は授業内	A

		で紹介しや各施策についてまとめる。	
第14回	運動・スポーツに対応した食事策①（発育期、思春期、青年期）	予習は第2回～13回までの内容を理解する。復習はレポートに取り組む。内容は授業内で指示する。	A, B
第15回	運動・スポーツに対応した食事策②（成人期、高齢期）	予習は第2回～13回までの内容を理解する。復習はレポートに取り組む。内容は授業内で指示する。	A, B
	定期試験		

ニュースポーツ実践

更新日：2024/03/27 11:38:16

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2K322010	授業コード	2K322010
担当教員	三浦 真理子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B4201	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	子どもからお年寄りまで「誰でも楽しめるスポーツ」として普及してきたニュースポーツを通して、運動の得意・不得意にかかわらず楽しんで身体を動かすことができる種目を中心に実施し、新たなニュースポーツの企画検討を行う。
方法	さまざまな仲間とコミュニケーションが取れるようチーム分け等を行い、実技を行う。

履修条件

履修する上の留意点

屋内での実技のため、室内用運動靴(体育館シューズ等)を準備すること。
人数や状況に応じ、内容を変更することがあります。

到達目標

1	積極的に自ら考え行動し参加することができる
2	新しい運動・スポーツにチャレンジすることができる。
3	他者とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。
4	集団活動において、お互いを尊重しながら協力して活動することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業態度	60
到達目標②	知識・技能	20
到達目標③	思考・判断・表現	20
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥	
-------	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

主体的、積極的に行動、参加することを望みます。
人数や状況に応じ、内容を変更することがあります。

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション（授業概要、目標、評価他）を行う。	
第2回	ニュースポーツについて	レクリエーションとニュースポーツについて予習・復習する。	B
第3回	インディア	インディアカについて予習・復習する。	B
第4回	カタスポニー	タスポニーについて予習・復習する。	B
第5回	フライングディスク①基礎	フライングディスクの基礎的な技術を予習・復習する。	B
第6回	フライングディスク②応用	アルティメットやドッジビーの種目特性、内容、方法を予習・復習する。	B
第7回	ソフトバレーボール①基礎	ソフトバレーボールの方法やルールについて予習・復習する。	B
第8回	ソフトバレーボール②応用	ソフトバレーボールの基礎技術を基にチームでの連携プレーに関して予習・復習する。	B
第9回	キンボール①基礎	キンボールについて予習・復習する。	B
第10回	キンボール②応用	キンボールについて予習・復習する。	B
第11回	ニュースポーツ企画の検討	ニュースポーツについて予習・復習する。	B
第12回	ニュースポーツ企画内容の実践	グループ別に企画した内容を予習し、実践後は振り返る。	B
第13回	ニュースポーツ企画内容の実践・振り返り	グループ別に企画した内容を予習し、実践後は振り返る。	B
第14回	ニュースポーツ企画実践のまとめ	グループ別に実践した企画を振り返り、改善点を検討する。	B
第15回	まとめ	グループ別に改善した企画を実践し、ニュースポーツのまとめを行う。	B

Yoga

更新日：2024/03/27 11:38:18

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2K323010	授業コード	2K323010	
担当教員	山崎 淳子							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	B4202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	心身のリラクゼーションを 学ぶことにより 自分自身の「健康」「身体」について より理解を深める。
方法	実技

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	平常点（授業への積極的な参加）	90
到達目標②	授業感想文	10
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ヨガを楽しむ教科書	ナツメ社	綿本彰

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

調身、調息、調心 自分と自分の身体を知り ヨガを習得しましょう！

課題に対するフィードバック

前回のレクチャーについての習得度により 実技の中でアドバイスします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	ヨガとは意味と歴史	B
第2回	呼吸と姿勢 レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第3回	ヨガの種類レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第4回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第5回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第6回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第7回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第8回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第9回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第10回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第11回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第12回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第13回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第14回	レクチャーと実技	ストレッチ 復習	B
第15回	授業の振り返りと総復習 実技	ストレッチ 復習	B

英語コミュニケーション(入門)

更新日：2024/03/27 11:38:20

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2L101010	授業コード	2L101010A, 2L101010B, 2L101010C, 2L101010D
担当教員	橋本 直子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B5103	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	選択必修【全コース必修】			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	旅行の際に使える基本表現を学びますが、普段の生活にも必ず役立つ内容です。多くの表現を覚えていってください。
方法	各ユニットの基本フレーズや表現を繰り返し練習して、覚えていきます。また、音声を用いてリスニングも行います。ペアワークやグループワークで、英語で自分の気持ちを伝える練習もします。各ユニットに関連した文書や掲示などで、様々な表現を理解していきます。

履修条件

電子辞書を持っている場合は持参してください。ない場合は、できればスマホやパソコンで単語を調べてきてください。

履修する上の留意点

英語に苦手意識を持っている人も多いと思いますが、コミュニケーションの手段として、英語を楽しみながら身に付けていってください。そのために、授業には受け身ではなく、積極的に参加してください。毎回キーフレーズの暗唱ができるか確認をします。それが評価にもつながるので、授業にはしっかり出席してください。

また、6回以上欠席すると、定期試験を受けられません。

到達目標

1	各ユニットの基本フレーズや単語を聞いたり、話したり、書いたりすることができる。
2	ペアやグループになり、積極的にコミュニケーションが取ることができる。
3	適切な場面で自分の思いを伝えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	課題提出	15

到達目標③	授業内での暗唱テスト	15
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	Simply Traveling	金星堂	Diane H. Nagatomo

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

英語に苦手意識を持っていても、楽しいと思えるような授業にしたいと思っています。積極的に参加してください。また、テキストは、書き込みのあるものではなく、必ず新しいものを買ってください。（書き込みがあるものは、テキストとして認めません）

課題に対するフィードバック

課題は提出を確認後、間違えたところを復習するように伝える。暗唱テストでは、その場で語彙やフレーズの発音と、適切な使い方を確認する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション UNIT 1 Preparing for the Trip	次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第2回	UNIT 2 On the Airplane	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第3回	UNIT 3 Arrival and Passport Control	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第4回	UNIT 4 Banking and Leaving the Airport	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第5回	UNIT 5 Checking Into the Hotel	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第6回	UNIT 6 Hotel Facilities	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第7回	UNIT 7 Let's Eat!	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第8回	UNIT 8 Sightseeing	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第9回	UNIT 9 Making Small Talk	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第10回	UNIT 10 Shopping	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第11回	UNIT 11 Feeling Sick	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第12回	UNIT 12 Getting Around	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第13回	UNIT 13 Checking Out of the Hotel	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第14回	UNIT 14 Heading Home	復習と、次回のユニットのWarm-upを辞書を用いてやっておく。	A, C
第15回	UNIT 15 Talking about Your Trip	復習と共に、定期試験に向けて準備をしておく。	A, C
	定期試験		

英語コミュニケーション(初級会話)

更新日：2024/03/27 11:38:22

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2L102010	授業コード	2L102010A, 2L102010B
担当教員	榊原 アイリン						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B5104	授業形態	演習		実務経験のある教員による授業科目の配置		
コース別 必修・選択必修等	選択必修【全コース必修】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	基本文法と語彙を強化しながら、簡単な英語の単語を使い、会話力を向上を目指します。
方法	テキスト内容を理解後、ペアワークやグループワークを通じて、学習した英語表現を発表します。

履修条件

特にありません

履修する上の留意点

学生参加型の授業なので、積極的に英語にチャレンジして下さい。教科書と辞書を必ず持参。

到達目標

1	予習をして授業でアウトプットできる
2	学習後そのテーマについて英語で話すことができる
3	英語でテーマ別の会話ができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	Class participation/assignments(平常点/提出物)	60
到達目標②	小テスト	10
到達目標③	成果発表	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	Hear Here!	センゲージラーニング	Anthony Allan

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	Nothing		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

楽しく英語を学びましょう！

課題に対するフィードバック

授業内容の確認＋英語発表は口頭で伝える

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業の進め方の説明 英会話にチャレンジ！	英語で自己紹介	C
第2回	テキスト Unit 1 & 2 Family/Friends & Daily Routines/Hobbies	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキスト内容を復習	C
第3回	テキスト Unit 3 & 4 People and Characteristics Vacation&Travel	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキスト内容を復習	C
第4回	テキスト Unit 5 & 6 Special Events and Holidays Study and School	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキスト内容を復習	C
第5回	Review + short dialogue presentation	Unit 1-6 復習、グループで学習内容を確認後発表	B / C / D
第6回	テキスト Unit 7 & 8 Shopping and Money Accommodations and Homes	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキスト内容を復習	C
第7回	テキスト Unit 9 Restaurants and Food	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキスト内容を復習	C
第8回	テキスト Unit 10 Going Out and Entertainment	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキスト内容を復習	C
第9回	Review + short dialogue presentation	Unit 7-10 復習、グループで学習 内容を確認後、発表	B / C / D
第10回	テキスト Unit 11 Employment and Business	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキスト内容を復習	C
第11回	テキスト Unit 12 Social Media and News Stories	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキスト内容を復習	C
第12回	テキスト Unit 13 Health and Wellbeing	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキスト内容を復習	C
第13回	Review + Short dialogue presentation	Unit 11-13 復習、グループで学習 内容確認後、発表	B / C / D
第14回	Prepare for presentation	発表の準備	C
第15回	Presentation *授業内容は諸事情により変更する場合もある	発表	D

英語コミュニケーション(中級会話) A、C

更新日：2024/03/27 11:38:24

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2L103010	授業コード	2L103010A, 2L103010D
担当教員	榊原 アイリン						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B5201	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	様々な状況で必要な英語力を習得する事を目指します。
方法	学習内容で習得した英語表現をペアワーク、グループワークを通じて活用して発表します。

履修条件

特にありません。

履修する上の留意点

学生参加型の授業なので、積極的に英語にチャレンジして下さい。教科書と辞書必ず持参。

到達目標

1	予習をして授業でアウトプットできる
2	学習後そのテーマについて英語で話すことができる
3	幅広いテーマについて英語で日常会話ができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	Class participation / assignments (平常点/ 提出物)	60
到達目標②	小テスト	10
到達目標③	成果発表	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	English Mission Basic	Kinseido	Robert Hickling/Misato Usukura

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	Nothing		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

楽しく英語を学びましょう！

課題に対するフィードバック

授業内容の確認と英語発表は口頭で伝える

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業の進め方の説明 英語話にチャレンジ！	英語で自己紹介	C
第2回	テキスト Unit 1 & 2 Welcome to the Big Apple	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキストの内容を復習	C
第3回	テキスト Unit 3 & 4 Summer Fun	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキストの内容を復習	C
第4回	テキスト Unit 5 & 6 Brainstorming	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキストの内容を復習	C
第5回	Review + short dialogue presentation	Unit 1-6 復習、グループで学習内容を確認後発表	B / C / D
第6回	テキスト Unit 7 & 8 Glad to be of Service	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキストの内容を復習	C
第7回	テキスト Unit 9 & 10 Vacation Spots	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキストの内容を復習	C
第8回	テキスト Unit 11 & 12 Party Time	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキストの内容を復習	C
第9回	Review + short dialogue presentation	Unit 7-12 復習、グループで内容を确认后発表	B / C / D
第10回	テキスト Unit 13 Office Meeting	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキストの内容を復習	C
第11回	テキスト Unit 14 A Bit of History	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキストの内容を復習	C
第12回	テキスト Unit 15 Farewell	テキストの内容を事前に予習 授業後、テキストの内容を復習	C
第13回	Review + short dialogue presentation	Unit 13-15 復習、グループで学習 内容を确认后発表	B / C / D
第14回	Prepare for presentation	発表の準備	B / C
第15回	Presentation *授業内容は諸事情により変更する場合があります。	発表	D

特別支援教育概論

更新日：2024/03/27 11:43:38

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N105010	授業コード	2N105010
担当教員	長谷中 崇志						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	T1201	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	16+29

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	この授業では特別支援教育の理念と制度を概説するとともに、障害に応じた指導・支援の方法について理解する。加えて外国人児童や貧困問題等の特別なニーズのある児童・生徒に応じた支援の必要性について理解する。インクルーシブ社会（共生社会）の実現に向けた特別支援教育の意義と課題についてともに考えたい。
方法	教科書及びレジュメに基づき講義を行う。内容によりペアワークやグループワーク、DVD等の視聴覚資料を用いる。

履修条件

なし

履修する上の留意点

到達目標

1	特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の特性及び心身の発達を理解し、特徴について説明できる。
2	特別な支援を必要とする児童・生徒の教育課程及び支援について説明できる。
3	障害のない特別なニーズのある児童・生徒の学習上又は生活上の困難や支援について説明できる。
4	インクルーシブ社会（共生社会）の実現に向けた特別支援教育の意義について考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	リアクションペーパー・小テスト	20
到達目標②	リアクションペーパー・小テスト	20
到達目標③	リアクションペーパー・小テスト	20

到達目標④	課題レポート	40
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『改訂新版 障がいのある子の就学・進学ガイドブック』	日本標準	渡部昭男

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『(パワーポイントで学ぶ) 教師になるための特別支援教育』	培風館	田中良三・湯浅恭正・藤本文朗編

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

「双方向的」な講義にするために、随時、学生に発言を求めたり、毎回配布するリアクションペーパーに質問・要望等を記入してもらおう。積極的に参加し、発言することを期待している。また、テレビ等のみたり新聞を読む際に、障害に関する社会福祉・社会保障の動向に関心を持ち、それらの事象について複眼的視点から考えることを大切にしてほしい。

課題に対するフィードバック

講義の冒頭において回答するとともに、毎回の講義の最後に質問等の時間を設ける。グループワークやペアワークでは適宜、そのねらいや解説を行うことにより学びを深める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	障害の捉え方の変化（オリエンテーションを含む）	予習：シラバスを読み、授業概要について理解する。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A
第2回	障害児教育に関する動向と特別支援教育	予習：障害者権利条約について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第3回	各種障害の理解	予習：肢体不自由、知的、発達障害について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第4回	インクルーシブ教育と合理的配慮	予習：合理的配慮について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第5回	通常学級、特別支援学級、特別支援学校における特別支援教育の実際	予習：通常学級、特別支援学級、特別支援学校の対象障害について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第6回	特別支援教育における学校と保護者・関係機関との連携	予習：特別支援教育コーディネーターについて調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第7回	障害のない特別なニーズのある児童・生徒の理解と支援	予習：外国籍児童・生徒の教育の現状について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第8回	インクルーシブ社会の実現に向けた特別支援教育の意義と課題	予習：これまでの学習内容を復習する。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A

教育心理学

更新日：2024/03/27 11:43:40

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N105610	授業コード	2N105610A, 2N105610B
担当教員	丸橋 唯郎						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1207	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教育心理学とは、教育に関する諸事象について心理学的に研究し、教育実践を合理化し効果的にすることに貢献できる心理学的知見及び技術を提供しようとする心理学の一分野である。本講義は、受講者に教育現実をより実証的かつ客観的に認識する手がかり<= 発達/学習/人格等>を提供し、他方広く、近年教育現場に混沌をもたらす学習障害、注意欠陥多動性障害、アスペルガー症候群等の諸問題にも精神医学的見地から言及する。
方法	担当者が毎回準備するレジュメに従って授業を構成していく。

履修条件

なし

履修する上の留意点

かなり専門化するので、積極的な授業態度を要求する。

到達目標

1	教育学の視点から教育目標の適切さや方法論の是非を論じられる能力を身につけることができる
2	心理学の視点から教育目標の適切さや方法論の是非を論じられる能力を身につけることができる
3	精神医学の視点から教育目標の適切さや方法論の是非を論じられる能力を身につけることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	学生が教育学の視点から毎回チェックテストを受け、習熟度をチェックできる	50
到達目標②	学生が心理学の視点から定期テスト、小論文によって、習熟度をチェックできる	30

到達目標③	学生が精神医学の視点から毎回チェックテストを受け、習熟度をチェックできる	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	担当者が毎回準備するレジュメ。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『DSM-IV-TR ケースブック』	医学所院	
2	『自己言及性について』	国文社	
3	『自己愛過剰社会』	河出書房新社	

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

できれば、教育原理、教職論（教師論）履修者が望ましい。

課題に対するフィードバック

毎回授業終了後チェックテストを行い、回答後解説する。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	発達概念及び教育における発達の代表的な理論を理解する。	・予習：シラバスで学習内容を確認する。発達の基礎理論に関する用語の意味を調べる ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	
第2回	生得的要因と環境要因、相互作用が子供の発達に与える影響を理解する。	・予習：基礎理論の動画を視聴する ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	
第3回	身体発達、認知発達の基礎的内容を理解する。	・予習：ピアジェの認知発達理論を要約する ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	B
第4回	社会性・道徳性発達の具体的内容を理解する。	・予習：基礎理論の動画を視聴する ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	
第5回	各発達段階における発達課題の具体的内容を理解する。	・予習：ハヴィガーストの発達課題理論を要約する ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	B
第6回	類型論にもとづいた児童生徒理解の基礎的理論を理解する。	・予習：代表的な性格類型論の一つを取り上げ、概要をまとめる ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	
第7回	特性論にもとづいた児童生徒理解の基礎的理論を理解する。	・予習：代表的な性格特性論の一つを取り上げ、概要をまとめる ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	
第8回	条件づけ、洞察等、行動変容に関する基礎的理論を理解する。	・予習：学習の基礎理論に関する用語の意味を調べる ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	B
第9回	記憶の基礎的な理論を理解する。	・予習：基礎理論の動画を視聴する ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	
第10回	知能の基礎的な理論と測定法を理解する。	・予習：知能とは何か、どう測るのかをまとめる ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	B
第11回	個別指導、集団指導を中心とした学習指導に関する基礎的理論を理解する。	・予習：代表的な学習塾、通信教育の一つを選び、指導方法を要約する ・復習：振り返り、さらに知りたくなったこと、教育にどう活用するかをまとめる	

第12回	学習意欲を動機づけ理論にもとづいて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：学習意欲を測定する質問紙尺度に回答する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる 	B
第13回	学級、集団と個人、教師と子供の関係に関する基礎的理論を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：学級適応感を測定する質問紙尺度に回答する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる 	
第14回	教育評価の基礎的な理論を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：ルーブリック評価について概要をまとめる ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる 	B
第15回	情報機器の活用等，主体性、対話性を重視した学習、アクティブラーニングの基礎的理論を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：アクティブラーニングとは何か、概要をまとめる ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる 	
	定期試験		

教育課程論

更新日：2024/03/27 11:43:42

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N106020	授業コード	2N106020	
担当教員	梅本 大介							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T1202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間＋自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教育成果の質は、学校が教育目標を達成するために計画する教育課程に大きく依存すると考えます。それは単なる経営計画を実行するための作業の効率性ではなく、教育活動に対する教員や学校全体の積極的な研究の成果であると思います。だからこそ、教員の専門的力量的の一つとして「教育課程開発＝教育計画〔コース〕づくり・カリキュラム開発の力量」が求められるのだと考えます。つまり、教員には、学校・学年全体または自分の担任する学級・教科の教育課程について、明確な開発・編成の理念・目的とその実践能力を有することが期待されることでしょう。そのような開発理念の構想と具体的な計画化、及びその実践能力の育成のための準備的経験をするのがこの授業の内容です。
方法	本授業は、「教育課程」の理論と実際を理解し学校経営を実践する基礎能力の獲得を最終的な目標に置くため、積極的な授業外学習を望みます。授業では、まずは「『教育課程』と『カリキュラム』という言葉の意味の違いはあるのだろうか」という問いを入口にして教育課程の構造と事例研究を行うことから開始します。そして、最終的には、学校で教育課程を編成・実施・評価するマネジメント・サイクルを実施する際に、教育学の専門知識に照らして、理論的に教育課程を吟味・検討・改善することができる資質・能力の獲得を目指していききたいと思います。授業中にはペアワークやグループワーク（ディスカッション、ライティングディスカッション）を中心に、課題解決学習を多く取り入れていきます。

履修条件

この授業は主に教職課程登録者生を対象としていますから、『教育原論』を修了していることを受講上の基礎とします。ただし、教職課程登録者でなければ受講できないというわけではないので、安心してください。興味関心があれば積極的に受講してください。一方、グループ学習・発表を求める授業となりますから、その点については理解を求めます。

履修する上の留意点

授業ごとに課題を課します。どの授業で、どのような課題が課されているのかを確りと意識をもって確認しながら受講してください。授業前の準備と予習も同様です。授業で使用するレジュメについては、基本的に毎回授業前までにTeamsで配布します。尚、基本的には教職課程登録者を対象とする科目と想定していますから、該当者はとくに「プロの教育者」になるという自覚をもって、授業に臨んでください。教職課程登録者以外の受講者の方は、学校の運営について「地域市民も理解・協力できる学校の運営はどのようにあるべきか」という視点で臨んでくださると、授業理解が深くなっていくと考えます。また、教職課程登録者については、「教育課程論」は教員採用試験における教職教養問題の重点部分ですから、積極的に参考書等を学習することを推奨します。

到達目標

1	教育課程にかかわる学習を通して、授業・経営を基礎とする学校教員としての専門性を身につけることができる。
2	教育課程の学習にかかわる研究成果として、教育課程の構造を理解できる。
3	学習指導案作成演習および研究発表における班学習の際、主体的に学習に参画できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小レポート（到達目標③と同様に授業課題にてはかる）	20
到達目標②	レポートおよび主体的な授業態度	40（25+15）
到達目標③	プレゼンテーションおよび小レポート（到達目標①と同様に授業課題にてはかる）	40（8+32）
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	「コンピテンシー・ベース」を超える授業づくり	図書文化社	安彦忠彦
2	小学校学習指導要領（平成29年3月告示）	東洋館出版社	文部科学省
3	中学校学習指導要領（平成29年3月告示）	東山書房	文部科学省
4	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）	東山書房	文部科学省

オープンな教育リソース

国立教育政策研究所・教育課程研究センター（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>）

※ 授業中に、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を使用します。

学生へのメッセージ

「履修する上の留意点」で示した通りです。授業を通して共に学び、共に考え、共に成長していくことを期待しています。この授業は、教員を目指す受講者向けの授業内容を基本としますので、グループワークや個人による調べ学習など、受講生側の積極的な学習が必要となってきます。教職課程登録者は「プロの教育者」を目指しているという自覚をもって、授業に臨んでください。一方、学校の運営は教員だけで動いているわけではありません。学校事務職員、心理職などの専門家、保護者や地域住人など様々な人たちの協力で成り立っています。そのため、教職課程登録者以外の受講生においても将来のキャリアから学校とかかわる人たちはおられると思います。自身が社会人となった時に仕事においてもプライベートにおいても学校教育とどのようにかかわることができるのかを考えながら、本授業に参加して下さると有意義な時間になるものと考えます。

課題に対するフィードバック

提出された課題に対し、意見交換及び講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	教育課程の概念： 教育内容の選択と組織化についての基礎・原理の理解のために、教育課程の類型を解説する。そのうえで、教育課程の特質とともに教育内容にかかわる課題についての考察を求める。	第1回目は、オリエンテーションとしてこの授業の進め方や評価等について詳しく解説します。 予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題をMicrosoft Formsで提示しますので、次回授業時まで提出してください。 予習・復習ともに、2時間程度の学習時間を想定しています。第2回目以降も同様です。詳細は、授業中に解説いたします。	
第2回	学習指導要領改訂の変遷と教育課程にかかわる法規： 教育課程の基準としての学習指導要領の変遷を理解し、さらに教育課程にかかわる法規について解説する。また、学習指導要領の「大綱性」と「法的拘束性」について解説する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を、Microsoft Formsで提示しますので、次回授業時まで提出してください。	
第3回	「教科課程から教育課程への変化」に対する社会的期待：	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますの	B

	教育課程編成における社会的要請の吟味を通して、その現代的特徴について提示する。そのうえで、生徒観と学校経営のグランドデザインについての研究発表を求める。	で、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を提示しますので、次回授業時までに提出してください。 学校経営のグランドデザインについての演習を行いますので、学習指導要領（最新）の総則を授業中に確認できるようにご準備ください。	
第4回	学力観と育成すべき資質・能力に関する検討Ⅰ・「学力観と指導観についての研究」： カリキュラムデザイナーとしての「教師」による「コンピテンシーを育成する授業」とはどのような特徴をもつのか、学力観と指導観についての関連を中心に提示する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を提示しますので、次回授業時までに提出してください。	B
第5回	学力観と育成すべき資質・能力に関する検討Ⅱ・「単元計画についての研究」： 単元指導計画の作成要領を解説する。そのうえで、単元を通して育む資質や能力目標の設定についての研究発表を求める。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を提示しますので、次回授業時までに提出してください。 教科書の目次構成や学習指導要領の単元内容を授業中に確認できるとよいでしょう。教科書会社のHPや、学習指導要領、要領解説を授業中に確認します。	
第6回	教育課程を具体化させる教育方法の研究： 教育課程の編成と教育方法の開発がどのように接続するののかについて解説する。教材観や展開案の事例から、「教師」個人の教育哲学はどのように表現されるのかを共に考察する。そのうえで、授業改善のあり方についての検討を求める。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を提示しますので、次回授業時までに提出してください。	C
第7回	ICT教育の研究： 教育のデジタル化についての政策の変遷と方法論の発展を解説する。新しい教育技術が教育課程の編成にどのように影響を与えるのかについて提示する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を、Microsoft Formsで提示しますので、次回授業時までに提出してください。	
第8回	学校経営演習Ⅰ： 年間計画の視点から、教員個別の教育活動と学校全体の教育活動との関連についての検討を求める。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を提示しますので、次回授業時までに提出してください。 興味関心ある学校の年間行事計画や活動等をHP等で確認しておくともよいでしょう。	B
第9回	学力観と育成すべき資質・能力に関する検討Ⅲ・「評価規準と評価基準についての研究」： 評価規準と評価基準の作成について、その概念を解説する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を、Microsoft Formsで提示しますので、次回授業時までに提出してください。	
第10回	学習指導案作成演習Ⅰ・「評価規準と評価基準の作成を中心にして」： 評価規準と評価基準の具体化を求める。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を提示しますので、次回授業時までに提出してください。 国立教育政策研究所のHPを授業中に確認します。	C
第11回	学習指導案作成演習Ⅱ・「指導と評価の一体化」： 授業改善のあり方と教育課程の編成との接続性についての研究発表を求める。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を、Microsoft Formsで提示します。次回授業時までに提出してください。	
第12回	入試と学校種間の接続： 入学者選抜の方法についての歴史を学ぶとともに、接続教育・一	予習： 事前にレジュメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理して	

	貫教育の特徴について解説する。	おいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を、Microsoft Formsで提示します。次回授業時までに提出してください。	
第13回	総合的な探求・学習： 探究学習についての歴史と方法について解説する。あわせて、義務教育段階と高校教育とではどのような学びの違いがあるのかを解説する。	予習： 事前にレジメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を、Microsoft Formsで提示します。次回授業時までに提出してください。	
第14回	教育評価と教育課程評価： カリキュラム・マネジメントの必要性と概念、教育課程評価に関する具体化の実例を解説する。そのうえで、具体的な教育課題を取り上げ、教育課程の編成について研究発表を求める。	予習： 事前にレジメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を提示しますので、次回授業時までに提出してください。	D
第15回	社会に開かれた教育課程の構想と学校改善： 教育課程の編成において学校と地域が連携・協働している実例についての研究発表を求める。	予習： 事前にレジメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業内容にかかわる課題を提示しますので、1週間後までに提出してください。	D

保健体育科教育法Ⅰ

更新日：2024/03/27 11:43:44

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N108120	授業コード	2N108120	
担当教員	天野 透							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T2201	授業形態	講義・演習	実務経験のある教員による授業科目の配置	○			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	学習指導要領の「保健科教育」の理解を深め、学習評価法や教材研究、授業方法を学習し、学習指導案の作成や模擬授業に取り組み、実際の教育現場で活用できる実践力の獲得を目指します。
方法	①講義 ②課題レポートの作成・提出 ③学習指導案の作成及び模擬授業の発表

履修条件

保健体育教諭を目指す者のみ受講してください。

履修する上の留意点

- ・教員免許の取得だけではなく教員採用試験の受験が前提です。
- ・毎回、レポート及び課題の提出があります。
- ・学習指導案の作成と模擬授業の発表は必須です。

到達目標

1	学習指導要領から学習評価や授業方法等を学習し、学習指導案の作成や模擬授業の発表ができる。
2	各回の授業内容を理解し、レポートにまとめることができる。
3	主体的に授業に参加できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験 (模擬授業・学習指導案)	70

到達目標②	レポート	15
到達目標③	平常点（参加態度）	15
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『現代高等保健体育』	大修館書店	
2	『現代高等保健体育ノート』	大修館書店	
3	『中学校学習指導要領 保健体育編』 平成29年7月告示	文部科学省	
4	『高等学校学習指導要領』 平成30年3月告示	文部科学省	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育	東洋館出版社	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
2	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育	東洋館出版社	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
3	改訂「生きる力」を育む 高等学校保健教育の手引 令和3年3月		文部科学省

オープンな教育リソース

保健体育科 学習指導案の書き方と学習指導案例（中学・高校）

学生へのメッセージ

保健体育教師を目指して、主体的に学習することを望みます。

課題に対するフィードバック

- ・レポート・課題については、ルーブリックにより評価しフィードバックする。
- ・模擬授業及び学習指導案については、模擬授業評価票等で評価しフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画 学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング の実施方法
第1回	【保健科教育概論】学習指導要領を基礎に、学校教育における保健教育の目標及び内容、位置を学習し、育成する資質や能力のあり方を理解する。	学習指導要領から保健科教育の目標等について予習する。 第1回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第2回	【学習指導要領にみる保健教育の変遷】学習指導要領における保健教育の変遷を学習し、当該教育にかかわる教育観(授業観や学習観)の変遷を理解する。	第2回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第3回	【保健教育のカリキュラム】保健科教育のカリキュラムの基礎を理解し、指導上の留意点の所在を考察する。	学習指導要領から保健科教育のカリキュラム等について調べる。 第3回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	B
第4回	【学校全体で取り組む学校保健活動】学校保健活動の在り方を学習し、生涯を通じて健康な生活を送るために必要な生徒の健康課題を理解する。	第4回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第5回	【評価の意義と工夫】カリキュラムマネジメントの概念を学習し、観点別に基づいた評価規準・基準の設計・観察能力を獲得する。	カリキュラムマネジメントについて予習をする。 第5回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第6回	【教材研究と授業展開Ⅰ】保健教育に求められる教材観(ICT教材を含む)を理解し、教材の価値や体系を基に、教授方法論の基礎や変遷を理解する。	保健のICT教材を調べる。 第6回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第7回	【発展探究Ⅰ】生徒指導提要进行を手掛かりに、生徒指導と生徒理解に係る学校保健上の課題を検討する。	第7回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	B
第8回	【発展探究Ⅱ】保健教育にかかわる政策論と教育活動の実際の接続を検討し、学習活動における指導観の設計を研究する。	第8回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	B
第9回	【成長発達段階と配慮事項】子どもの成長と発達を学習し、成長発達途上にある生徒を教育するという観点と、健康教育を一般化するうえでの教育課題を理解する。	第9回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第10回	【教材研究と授業展開Ⅱ】実際の教材や教師用参考資料、映像教材、ワークシート、スライド教材モジュールなど教材研究の動向	第10回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	B

	を学習する。とくに、ICT機器等を活用した保健教育の充実について、その実例を比較検討・学習する。		
第11回	【学習指導案の構成と作成】学校運営の基礎である教育課程の編成とともに学習指導案の構成を理解し、各学習活動に即した学習指導案を起案する。	第11回の授業から各単元に即した学習指導案を作成する。	
第12回	【学習指導案作成演習Ⅰ】起案した学習指導案を基に、模擬授業と授業評価を行う。また、「指導計画」と他活動との補完性についてとくに解説を行う。	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 第12回の授業を振り返り、授業評価票にまとめ次回提出する。	D
第13回	【学習指導案作成演習Ⅱ】起案した学習指導案を基に、模擬授業と授業評価を行う。また「主題設定の理由」についてとくに解説を行う。	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 第13回の授業を振り返り、授業評価票にまとめ次回提出する。	D
第14回	【学習指導案作成演習Ⅲ】起案した学習指導案を基に、模擬授業と授業評価を行う。また「指導過程」について解説を行う。	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 第14回の授業を振り返り、授業評価票にまとめ次回提出する。	D
第15回	【発展探究Ⅲ】諸外国の保健教育とわが国の保健教育方法研究の動向を整理し、その展望と課題を理解する。	第15回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
	定期試験	学習指導案を提出する。	

保健体育科教育法Ⅱ

更新日：2024/03/27 11:43:46

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N109220	授業コード	2N109220
担当教員	鈴木 揚一、天野 透						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	T2209	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	○
コース別 必修・選択必修等						授業時間＋自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	学習指導要領の「体育科教育」の理解を深め、学習評価法や教材研究、授業方法を学習し、学習指導案の作成や模擬授業に取り組み、実際の教育現場で活用できる実践力の獲得を目指します。
方法	①講義 ②課題レポートの作成・提出 ③学習指導案の作成及び模擬授業の発表

履修条件

保健体育教諭を目指す者のみ受講してください。

履修する上の留意点

- ・教員免許の取得だけではなく教員採用試験の受験が前提です。
- ・毎回、レポート及び課題の提出があります。
- ・学習指導案の作成と模擬授業の発表は必須です。

到達目標

1	学習指導要領から学習評価や授業方法等を学習し、学習指導案の作成や模擬授業の発表ができる。
2	各回の授業内容を理解し、レポートにまとめることができる。
3	主体的に授業に参加できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験 (模擬授業・学習指導案)	60

到達目標②	レポート	20
到達目標③	平常点(参加態度)	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『中学校学習指導要領 保健体育編』 平成29年7月告示	文部科学省	
2	『高等学校学習指導要領』 平成30年3月告示	文部科学省	
3	『アクティブスポーツ [総合版]』	大修館書店	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育	東洋館出版社	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
2	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育	東洋館出版社	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

オープンな教育リソース

保健体育科 学習指導案の書き方と学習指導案例 (中学・高校)

学生へのメッセージ

保健体育教師を目指して、主体的に学習することを望みます。

課題に対するフィードバック

- ・レポート・課題については、ルーブリックにより評価しフィードバックする。
- ・模擬授業及び学習指導案については、模擬授業評価票等で評価しフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	【体育科教育概論】学習指導要領を基礎に、学校教育における体育教育の目標及び内容、位置を学習し、育成する資質や能力のあり方を理解する。	学習指導要領から体育科教育の目標等について予習する。 第1回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。		
第2回	【学習指導要領にみる体育教育の変遷】学習指導要領における体育教育の変遷を学習し、当該教育にかかわる特性や教育観の変遷を理解する。	第2回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。		
第3回	【体育教育のカリキュラム】体育科教育のカリキュラムの基礎を理解し、指導上の留意点の所在を考察する。	学習指導要領から体育科教育のカリキュラム等について調べる。 第3回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	B	
第4回	【学校全体で取り組む体づくりと体力】生徒個人の将来の基礎教育として体育教育に求められる教育目標は、健康の保持増進という大きな目的がある。体力低下・向上に関する基礎的事項を学び、学校教育における体づくりのあり方を理解する。	第4回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。		
第5回	【評価の意義と工夫】カリキュラムマネジメントの概念を学習し、観点別に基づいた評価規準・基準の設計・観察能力を獲得する。	カリキュラムマネジメントについて予習をする。 第5回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。		
第6回	【教材研究と授業展開Ⅰ】体育教育に求められる教材観(ICT教材を含む)を理解し、教材の価値や体系を基に、教授方法論の基礎や変遷を理解する。	体育のICT教材を調べる。 第6回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。		
第7回	【発展探究Ⅰ】オリンピック・パラリンピックなどスポーツにかかわる政策論と教育活動の実際の接続を検討し、学習活動における指導観の設計を研究する。	オリンピック・パラリンピックについて予習をする。 第7回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	B	
第8回	【発展探究Ⅱ】わが国固有の伝統と文化理解へとつながる武道教育について理解を深め、安全管理や地域・学校の実態など指導上の留意事項等について学習する。	武道及び武道教育について調べる。 第8回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。		
第9回	【成長発達段階と配慮事項】発達課題が多様化・複雑化している現代社会において、年齢や性別及び障害の有無にかかわらずに運動やスポーツへの多様な楽しみ方はいかにすれば構築できるのか、その配慮の観点を考察する。	第9回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	B	

第10回	【教材研究と授業展開Ⅱ】実際の教材や教師用参考資料、映像教材、ワークシート、スライド教材モジュールなど教材研究の動向を学習する。とくに、ICT機器等を活用した保健教育の充実について、その実例を比較検討・学習する。	第10回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	B
第11回	【学習指導案の構成と作成】学校運営の基礎である教育課程の編成とともに学習指導案の構成を理解し、各学習活動に即した学習指導案を起案する。	第11回の授業から各単元に即した学習指導案を作成する。	
第12回	【学習指導案作成演習Ⅰ】起案した学習指導案を基に、模擬授業と授業評価を行う。また、「指導計画」と他活動との補完性についてとくに解説を行う。	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 第12回の授業を振り返り、授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D
第13回	【学習指導案作成演習Ⅱ】起案した学習指導案を基に、模擬授業と授業評価を行う。また「主題設定の理由」について特に解説を行う。	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 第13回の授業を振り返り、授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D
第14回	【学習指導案作成演習Ⅲ】起案した学習指導案を基に、模擬授業と授業評価を行う。また「指導過程」について解説を行う。	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 第14回の授業を振り返り、授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D
第15回	【発展探究Ⅲ】高齢者スポーツや地域スポーツなど、今後のスポーツ行政やスポーツと学校体育との連携・協働等に関する動向を整理し、その展望と課題を理解する。	第15回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
	定期試験	学習指導案を提出する。	

保健体育科教育法Ⅲ

更新日：2024/03/27 11:43:48

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N110320	授業コード	2N110320	
担当教員	天野 透							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T2301	授業形態	講義・演習	実務経験のある教員による授業科目の配置	。			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	これまで積み上げてきた保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱを発展させ、特に体育理論の内容についても学び、教育課程の改善に対応した保健体育教育の在り方を学習指導要領から体育科の特性（目標、カリキュラム、教材、学習内容、実技計画）を学び、学習指導案の作成や模擬授業の発表を通して教科指導力の向上を目指します。
方法	①学習指導案の作成 ②模擬授業の発表 ③レポートの提出

履修条件

保健体育教諭を目指す者のみ受講してください。

履修する上の留意点

- ・教員免許の取得だけではなく教員採用試験の受験が前提です。
- ・毎回、レポート及び課題の提出があります。
- ・学習指導案の作成と模擬授業の発表は必須です。

到達目標

1	学習指導案の作成に当たり「単元目標」「ねらい」「評価規準」を理解し、独創的なアイデアを活用できる。
2	学習指導案の「単元目標」及び「ねらい」のとおりに模擬授業を発表することができる。
3	授業内容を理解し、レポートにまとめることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	学習指導案の内容	35

到達目標②	模擬授業の発表	40
到達目標③	レポートの内容	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『中学校保健体育』	大日本図書	
2	『現代高等保健体育』	大修館書店	
3	『現代高等保健体育ノート』	大修館書店	
4	『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成29年7月告示	文部科学省	
5	『高等学校学習指導要領』平成30年3月告示	文部科学省	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育	東洋館出版社	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
2	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育	東洋館出版社	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
3	改訂「生きる力」を育む 高等学校保健教育の手引 令和3年3月		文部科学省

オープンな教育リソース

保健体育科 学習指導案の書き方と学習指導案例（中学・高校）

学生へのメッセージ

保健体育教師を目指して、主体的に学習することを望みます。

課題に対するフィードバック

- ・レポート・課題については、ルーブリックにより評価しフィードバックする。
- ・模擬授業及び学習指導案については、模擬授業評価票等で評価しフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション（授業進め方、ねらい、内容などの説明と受講の注意事項）	第1回の授業を踏まえ「理想とする保健体育の教師像」を800字以内にまとめ次回提出する。	
第2回	教師を目指すために必要な学修内容・教材研究(ICT教材を含む)を理解する。	第2回授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第3回	学習指導要領解説（保健体育編）をもとに「保健」の目標や内容などを学習する。（健康と環境を中心に）	学習指導要領解説（健康と環境）を予習する。第3回授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第4回	学習指導要領解説（保健体育編）をもとに「保健」の目標や内容などを学習する。（傷害の防止を中心に）	学習指導要領解説（障害の防止）を予習する。第4回授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第5回	学習指導要領解説（保健体育編）をもとに「保健」の目標や内容などを学習する。（健康な生活と疾病の予防を中心に）	学習指導要領解説（健康な生活と疾病）を予習する。第5回授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第6回	学習指導案作成のポイント解説及び指導案作成1（体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳）	学習指導案①を作成し、次回提出する。	B
第7回	学習指導案作成のポイント解説及び指導案作成2（球技、武道、ダンス、体育理論）	学習指導案②を作成し、次回提出する	B
第8回	学習指導案にもとづく模擬授業と振り返り1（体づくり運動について）	①学習指導案の作成及び添削指導を受け、模擬授業を発表する。 模擬授業評価表に評価及びコメントを記入し次回提出する。	D
第9回	学習指導案にもとづく模擬授業と振り返り2（器械運動について）	②学習指導案の作成及び添削指導を受け、模擬授業を発表する。 模擬授業評価表に評価及びコメントを記入し次回提出する。	D
第10回	学習指導案にもとづく模擬授業と振り返り3（陸上競技について）	③学習指導案の作成及び添削指導を受け、模擬授業	D

	て)	を発表する。 模擬授業評価表に評価及びコメントを記入し次回提出する。	
第11回	学習指導案にもとづく模擬授業と振り返り4（水泳について）	④学習指導案の作成及び添削指導を受け、模擬授業を発表する。 模擬授業評価表に評価及びコメントを記入し次回提出する。	D
第12回	学習指導案にもとづく模擬授業と振り返り5（球技について）	⑤学習指導案の作成及び添削指導を受け、模擬授業を発表する。 模擬授業評価表に評価及びコメントを記入し次回提出する。	D
第13回	学習指導案にもとづく模擬授業と振り返り6（武道について）	⑥学習指導案の作成及び添削指導を受け、模擬授業を発表する。 模擬授業評価表に評価及びコメントを記入し次回提出する。	D
第14回	学習指導案にもとづく模擬授業と振り返り7（ダンスについて）	⑦学習指導案の作成及び添削指導を受け、模擬授業を発表する。 模擬授業評価表に評価及びコメントを記入し次回提出する。	D
第15回	学習指導案にもとづく模擬授業と振り返り8（体育理論について）	⑧学習指導案の作成及び添削指導を受け、模擬授業を発表する。 模擬授業評価表に評価及びコメントを記入し次回提出する。	D

保健体育科教育法Ⅳ

更新日：2024/03/27 11:43:50

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N111420	授業コード	2N111420
担当教員	鈴木 揚一、天野 透						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	T2303	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	○
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	これまで積み上げてきた保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱを発展させ、特に体育理論の内容についても学び、教育課程の改善に対応した保健体育教育の在り方をマイクロティーチング・相互評価等や模擬授業の発表を通して教科指導力の向上を目指します。
方法	①マイクロティーチングを活かした授業実践 ②学習指導案の作成 ③模擬授業の発表 ④レポートの提出

履修条件

保健体育教諭を目指す者のみ受講してください。

履修する上の留意点

- ・教員免許の取得だけではなく教員採用試験の受験が前提です。
- ・毎回、レポート及び課題の提出があります。
- ・マイクロティーチングでの授業実践、学習指導案の作成及び模擬授業の発表は必須です。

到達目標

1	学習指導案の「単元目標」及び「ねらい」のとおり模擬授業を発表することができる。
2	マイクロティーチングの実践及び振り返りとおして、模擬授業の発表に活かすことができる。
3	学習指導案の作成に当たり「単元目標」「ねらい」「評価規準」を理解し、独創的なアイデアを活用できる。
4	各回の授業内容を理解し、レポートにまとめることができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	模擬授業の発表	30
到達目標②	マイクロティーチングの発表	20
到達目標③	学習指導案の発表	30
到達目標④	レポートの内容	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成29年7月告示	文部科学省	
2	『高等学校学習指導要領』平成30年3月告示	文部科学省	
3	『アクティブスポーツ 総合版(2022)』	大修館書店	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育	東洋館出版社	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
2	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育	東洋館出版社	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

オープンな教育リソース

保健体育科 学習指導案の書き方と学習指導案例（中学・高校）

学生へのメッセージ

保健体育教師を目指して、主体的に学習することを望みます。

課題に対するフィードバック

- ・レポートについては、ルーブリックにより評価しフィードバックする。
- ・マイクロティーチングを活かした授業実践、学習指導案及び模擬授業については、模擬授業評価票等で評価しフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（授業進め方、ねらい、内容などの説明と受講の注意事項）	第1回の授業を踏まえ「理想とする保健体育の教師像」を800字以内にまとめ次回提出する。	
第2回	教師を目指すために必要な学修内容・教材研究(ICT教材を含む)を理解する。	保健体育のICT教材について調べる。 第2回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	
第3回	マイクロティーチングの説明と指導案作成1（保健について）	マイクロティーチングについて調べ理解しておく。 第3回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	D
第4回	マイクロティーチングでの授業実践と振り返り（心身の機能の発達と心の健康）	授業で実践するレポートを作成する。実践授業を振り返り、評価（反省点、改善点）を800字以内にまとめ次回提出する。	B, D
第5回	マイクロティーチングでの授業実践と振り返り(健康と環境・傷害の防止)	授業で実践するレポートを作成する。実践授業を振り返り、評価（反省点、改善点）を800字以内にまとめ次回提出する。	B, D
第6回	マイクロティーチングでの授業実践と振り返り（健康な生活と疾病の予防）	授業で実践するレポートを作成する。実践授業を振り返り、評価（反省点、改善点）を800字以内にまとめ次回提出する。	B, D
第7回	マイクロティーチングの説明と指導案作成2（体育科について）	第7回の授業の内容を800字以内にまとめ次回提出する。	B, D
第8回	マイクロティーチングを活かした模擬授業と振り返り1（体づくり運動について）	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 ①模擬授業を振り返り、模擬授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D
第9回	マイクロティーチングを活かした模擬授業と振り返り2（器械運動について）	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 ②模擬授業を振り返り、模擬授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D
第10回	マイクロティーチングを活かした模擬授業と振り返り3（陸上競技について）	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。	B, D

		③模擬授業を振り返り、模擬授業評価票にまとめ次回提出する。	
第11回	マイクロティーチングを活かした模擬授業と振り返り4（水泳について）	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 ④模擬授業を振り返り、模擬授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D
第12回	マイクロティーチングを活かした模擬授業と振り返り5（球技について）	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 ⑤模擬授業を振り返り、模擬授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D
第13回	マイクロティーチングを活かした模擬授業と振り返り6（武道について）	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 ⑥模擬授業を振り返り、模擬授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D
第14回	マイクロティーチングを活かした模擬授業と振り返り7（ダンスについて）	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 ⑦模擬授業を振り返り、模擬授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D
第15回	マイクロティーチングを活かした模擬授業と振り返り8（体育理論について）	模擬授業で発表する学習指導案を作成し、添削を受ける。 ⑧模擬授業を振り返り、模擬授業評価票にまとめ次回提出する。	B, D

保健科教育法Ⅰ

更新日：2024/03/27 11:43:54

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N112120	授業コード	2N112120	
担当教員	森 千鶴							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T2202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置	。			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	学習指導要領を基礎に保健体育科保健分野にかかわる教育目標・内容について学修し、実際の教育場面で活用できる授業設計能力の獲得を目的とする。学習指導案の作成検討および模擬授業の実践に取り組む中で、具体的な内容に関する教材研究、授業方法、学習評価について理解を深める。
方法	<ul style="list-style-type: none"> 「保健科教育」の系統性を考慮し、小学校体育（保健領域）の内容を踏まえて中学校の保健体育科保健分野までの指導案を作成し、発表する機会を設けることにより教材研究、授業方法、学習評価について実践的に学ぶ。 各学修課題に対し、ディスカッションや模擬授業等のグループでの活動を通して理解を深める。 毎回、学修内容についてのレポートをまとめて提出する。 Microsoft Formsを使い、模擬授業の振り返りを行う。

履修条件

- 保健科教育法Ⅰは、中学校及び高等学校一種免許状（保健）を取得するための必修科目である。

履修する上の留意点

- 学外実習（全国小学生歯みがき大会参加校における実習）が実施される場合は、授業外で事前指導を行う。実習時の交通費は、個人負担とする。
- 毎回、提示したレポート課題や模擬授業の振り返りが提出されない場合は減点する。

到達目標

1	・学習指導要領を基礎に保健体育科保健分野にかかわる教育目標・内容や実際の教育場面で活用できる授業設計について説明することができる。育てたい生徒の資質や能力を背景となる学問領域と関連させて理解し内容を説明することができる。
2	・学習指導案の作成検討および模擬授業の実践に取り組む中で、具体的な内容に関する教材研究、授業方法、学習評価について理解し、模擬授業を実施することができる。

3	・模擬授業の計画、準備、発表、参加において、仲間と協力して取り組むことができる。
---	--

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験、学修レポートの内容	40
到達目標②	模擬授業の内容や実施の態度、振り返りの内容	40
到達目標③	模擬授業の計画、準備、発表、参加の態度	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成29年7月告示		
2	文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』平成29年7月告示		
3	『中学校保健体育』	大日本図書	
4	『新しいほけん3・4』	東京書籍	
5	『新しい保健5・6』	東京書籍	
6	『たのしいほけん3・4年』	大日本図書	
7	『たのしい保健5・6年』	大日本図書	
8	『保健科教育 改訂第4版』	杏林書院	家田重晴 編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	文部科学省『「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き』		
2	文部科学省『「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き』		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

学修レポートや模擬授業の振り返りなど、毎授業時の取り組みの積み上げを期待しています。

課題に対するフィードバック

- ・レポートについては、ルーブリックにより評価する。
- ・模擬授業の発表内容に対し、意見交換及び講評を行い、よりよい授業づくりに役立てる。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	中学校学習指導要領における保健体育科の保健分野の目標及び主な内容について学修し、全体構造から育成する資質や能力のあり方を理解する。	復習：学習指導要領の全体構造から育成する資質や能力のあり方を理解しレポートにまとめる。	A
第2回	中学校学習指導要領における保健体育科保健分野の個別の学習内容について指導上の留意点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：指導上の留意点について学修しレポートにまとめる。	
第3回	カリキュラムマネジメントの概念を学修し、観点別に基づいた評価規準・基準の設計・観察能力を獲得する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：観点別に基づいた評価規準・基準の設計・観察能力を獲得し、レポートにまとめる。	
第4回	中学校における保健体育科保健分野の背景となる学問領域との関係について理解し、教材研究(ICT教材を含む)に活用する方法について学修する。また、発展的な学習内容についての学習活動への位置づけを学ぶ。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：背景となる学問領域との関係や教材研究 (ICT教材を含む)、発展的な学習内容について学習活動への位置づけを学びレポートにまとめる。	
第5回	保健体育科保健分野の基礎的な学習指導理論を理解し、児童生徒の認識・思考、学力などを考慮した授業設計の重要性について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：生徒の認識・思考、学力などを考慮した授業設計の重要性について学修し、レポートにまとめる。	
第6回	ICT機器等を活用した保健体育科保健分野の授業の充実について、その実例を比較検討し授業設計での活用の仕方を学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。	B

		復習：実例を比較検討し授業設計での活用の仕方を学修し、レポートにまとめる。	
第7回	保健体育科保健分野の学習指導案の構成について理解し、具体的な授業を想定した授業設計をすると共に学習指導案を作成する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：具体的な授業を想定した授業設計をすると共に学習指導案を作成し、レポートにまとめる。	B
第8回	模擬授業「心身の発達と心の健康『生命を生み出す体への成熟』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業を通して学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第9回	模擬授業「心身の発達と心の健康『ストレスへの対処』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業を通して学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第10回	模擬授業「健康と環境『快適な環境の条件』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業を通して学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第11回	模擬授業「傷害の防止『応急手当の基本』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業を通して学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第12回	模擬授業「健康な生活と病気の予防『生活習慣病の予防』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業を通して学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第13回	模擬授業「健康な生活と病気の予防『感染症の予防』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業を通して学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第14回	模擬授業「健康な生活と病気の予防『医薬品の有効利用』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業を通して学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第15回	模擬授業全体を振り返るとともに、保健体育科保健分野における教育実践研究の動向を整理し、今後の授業設計向上へ向けた課題を理解する。	模擬授業全体を振り返り、保健体育科保健分野における教育実践研究の動向を整理して、今後の授業設計向上へ向けた課題をまとめ、レポートを提出する。	B
	定期試験		

保健科教育法Ⅱ

更新日：2024/03/27 11:43:56

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N113220	授業コード	2N113220	
担当教員	森 千鶴							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T2210	授業形態	講義・演習		実務経験のある教員による授業科目の配置	○		
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領を基礎に保健体育科「科目保健」にかかわる教育目標・内容について学修し、実際の教育場面で活用できる授業設計能力の獲得を目的とする。 学習指導案の作成検討および模擬授業の実践に取り組む中で、具体的な内容に関する教材研究、授業方法、学習評価について理解を深める。
方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する中で具体的な内容に関する理解を深める。 模擬授業の実施に当たっては、ICTの活用を取り入れる。 各学修課題に対し、ディスカッションや模擬授業等のグループでの活動を通して理解を深める。 毎回、学修内容についてレポートをまとめ提出する。 Microsoft Formsを使い、模擬授業の振り返りを行う。

履修条件

「保健科教育法Ⅰ」を履修しておくこと。保健科教育法Ⅱは、高等学校一種免許状（保健）を取得するための必須科目である。

履修する上の留意点

- ・ニュースや新聞による社会情勢に関心を持ち、資料の収集を行う。
- ・毎回、提示したレポート課題や模擬授業の振り返りが提出されない場合は減点する。

到達目標

1	「科目保健」における教育目標および育てたい生徒の資質や能力について説明できるとともに、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて説明することができる。
2	具体的な授業場面を想定した授業設計力と実践力を身につけ、模擬授業を実施することができる。
3	模擬授業の計画、準備、発表、参加において、仲間と協力して取り組むことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験、学修レポートの内容	40
到達目標②	模擬授業の内容や実施の態度、振り返りの内容	40
到達目標③	模擬授業の計画、準備、発表、参加の態度	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	文部科学省 高等学校学習指導要領 (平成30年告示)解説 保健体育編 体育編		
2	現代高等保健体育	大修館書店	
3	保健科教育法入門	大修館書店	日本保健科教育学会編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	文部科学省『「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引き』		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

学修レポートや模擬授業の振り返りなど、毎授業時の取り組みの積み上げを期待しています。

課題に対するフィードバック

- ・レポートについては、ルーブリックにより評価する。
- ・模擬授業の発表内容に対し、意見交換及び講評を行い、よりよい授業づくりに役立てる。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	高等学校学習指導要領における保健体育科「科目保健」の目標及び主な内容について学修し、全体構造から育成する資質や能力のあり方を理解する。	復習：高等学校 保健体育「科目保健」の全体構造から育成する資質や能力についてまとめレポートを提出する。	
第2回	高等学校学習指導要領における保健体育科「科目保健」の個別の学習内容についての指導上の留意点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：個別の学習内容についての指導上の留意点についてまとめ、レポートを提出する。	
第3回	カリキュラムマネジメントの概念を学習し、観点別に基づいた評価基準・基準の設計・観察能力を獲得する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：観点別の評価基準・基準の設計・観察能力についてまとめレポートを提出する。	
第4回	高等学校における保健体育科「科目保健」の背景となる学問領域との関係について理解し、教材研究(ICT教材を含む)に活用する方法について学修する。また、発展的な学習内容について学習活動への位置づけを学ぶ。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：教材研究(ICT教材を含む)に活用する方法について、また、発展的な学習内容の位置づけについてまとめレポートを提出する。	
第5回	保健体育科「科目保健」の基礎的な学習指導理論を理解し、生徒の認識・思考、学力などを考慮した授業設計の重要性について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：生徒の認識・思考、学力などを考慮した授業設計の重要性についてまとめレポートを提出する。	
第6回	ICT機器等を活用した保健体育科「科目保健」の授業の充実について、その実例を比較検討し授業設計での活用の仕方を学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：ICT機器等を活用した「科目保健」の授業の充実について、その実例を比較検討し授業設計での活用の仕方をまとめレポートを提出する。	B
第7回	保健体育科「科目保健」の学習指導案の構成について理解し、具体的な授業を想定した授業設計をすると共に学習指導案を作成する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：「科目保健」の学習指導案の構成について具体的な授業を想定し、学習指導案の作成についてレポートをまとめ提出する。	B
第8回	模擬授業「現代社会と健康 ア健康の考え方『健康の考え方と成	予習：前回示した課題についてレポートにまとめ	D

	り立ち』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	る。 復習：模擬授業について学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	
第9回	模擬授業「現代社会と健康 ウ生活習慣病などの予防と回復『がんの原因と予防』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業について学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第10回	模擬授業「安全な社会生活 イ応急手当『心肺蘇生法』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業について学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第11回	模擬授業「生涯を通じる健康 ア生涯の各段階における健康『ライフステージと健康』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業について学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第12回	模擬授業「生涯を通じる健康 イ労働と健康『働くことと健康』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業について学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第13回	模擬授業「健康を支える環境づくり ア環境と健康『環境と健康にかかわる対策』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業について学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第14回	模擬授業「健康を支える環境づくり ウ保健・医療制度及び地域の保健・医療機関『医薬品の制度とその活用』」の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点について学修する。	予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：模擬授業について学んだ内容と授業改善の視点についてまとめ、レポートを提出する。	D
第15回	模擬授業全体を振り返るとともに、保健体育科「科目保健」における教育実践研究の動向を整理し、今後の授業設計向上に向けた課題を理解する。	模擬授業全体を振り返り、保健体育科「科目保健」における教育実践研究の動向を整理して、今後の授業設計向上に向けた課題をまとめ、レポートを提出する。	B
	定期試験		

保健科教育法Ⅲ

更新日：2024/04/19 11:18:46

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N114320	授業コード	2N114320	
担当教員	木村 美来							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T2302	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	思春期の健康課題を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	思春期の健康関連行動の実態及びその関連要因について、理論的根拠に基づいて理解を深める。また、学習指導要領や教科書に基づき、生涯の健康づくりを見据えた視点で中学校の保健科教育に求められる保健の学力について指導できる実践力を身に付ける。
方法	教材研究を行う際、中学生の姿や地域・家庭等の背景や各種データ等を収集する。その上で自分なりの創意工夫を図り、学習指導案を作成し、模擬授業を発表し合うことで、授業実践力の向上を図る。

履修条件

「保健科教育法Ⅰ」「保健科教育法Ⅱ」を履修しておくこと。「保健科教育法Ⅲ」は中学校一種免許状（保健）を取得するための必須科目である。

履修する上の留意点

思春期における健康課題を理解するための体験活動を多く取り入れるが、グループ活動に主体的、積極的に参加する。教材研究を重視するため、心身の健康を理解し、新聞・テレビ・雑誌等社会情勢に関心を持ち教材の収集をする。授業ごとのレポートなどは、必ず提出する。

到達目標

1	思春期の健康行動の関連要因について説明できる
2	教科としての「保健」の意義・目標・内容・指導計画・評価について理解できる。
3	指導者としての意識をもち、授業実践力を身に付けることができる。
4	知識や課題を理解し、レポートにまとめることができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	定期試験	40
到達目標②	学習指導案の内容	20
到達目標③	模擬授業での発表	20
到達目標④	レポートや提出物	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省	
2	令和3年版 中学校保健体育	大日本図書	
3	保健科教育法入門	大修館書店	
4	令和4年版 新高等保健体育	大修館書店	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	有田和正の授業力アップ入門 ー授業がうまくなる十二章	明治図書	

オープンな教育リソース

JKYBライフスキル教育研究会・公式HP

<http://jkyblifeskills.com/>

行動変容を目指した健康教育に関する有益な情報が入手できます。

学生へのメッセージ

生涯の健康づくりを見据え、子供たちに身に付けさせたい資質・能力とは何か、という問いを常に念頭におきましょう。

課題に対するフィードバック

レポート、学修ノートについては、ルーブリックにより評価し、フィードバックを行う。

模擬授業では、個人で指導案から教材教具まで作成し、実際に授業をすることで指導力を高める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	健康とはなにか 健康教育の歴史 行動変容を目指す学校健康教育の在り方について考える	シラバスを熟読し、学修計画を立てる。 思春期の健康課題について、効果的な教育的アプローチを整理する。	A、B
第2回	学校教育における保健科教育の位置づけ ・学校保健のなかの保健科教育 ・教育課程における保健科教育の変遷 ・保健の授業観、学習観の変遷	目指す教師像をまとめ、レポートを提出する。 保健科教育の歩みについてまとめておく。 授業内容を学修ノートにまとめて提出する。	A、B
第3回	学習指導要領に示された保健の内容 ・小学校学習指導要領における体育（保健領域） ・中学校学習指導要領における保健体育（保健分野） ・高等学校学習指導要領における保健体育（科目保健）	小中高等学校における保健教育について要点をまとめる。 授業内容を学修ノートにまとめて提出する。	A、C
第4回	授業スタイルを考える ・授業スタイルのいろいろ ・教材とは何か ・指導計画の作成	授業スタイルについてまとめる。 授業内容を学修ノートにまとめて提出する。	B、C
第5回	年間指導計画、単元計画の立案 ・年間指導計画作成上の配慮事項 ・単元計画作成上の配慮事項	年間指導計画と単元計画の意義についてまとめる。 授業内容を学修ノートにまとめて提出する。	A、C
第6回	教授力アップをするために ・話術（話し方、発問、説明など） ・板書 ・資料活用 ・机間指導	授業をより効果的にするためのテクニックについてまとめる。 授業内容を学修ノートにまとめて提出する。	D
第7回	保健科教育の評価 ・評価の考え方（学習評価と授業評価） ・指導と評価の一体化 ・評価の方法	学習評価の3つの観点についてまとめる。 授業内容を学修ノートにまとめて提出する。	B
第8回	模擬授業の取り組み① ・中学校の保健体育（保健分野）から指導案作成 ・学習指導案作成にあたって 単元の意味、単元名、単元計画、本時の目標、	自分が取り組む模擬授業（中学校の保健体育：保健分野）の単元を考える。 授業内容を学修ノートにまとめて提出する。	B、D

	生徒観、題材観、指導観、指導過程、板書計画、ワークシート		
第9回	模擬授業の取り組み② ・指導案作成（完成）	自分が模擬授業をする単元の指導案を作成する。授業内容を学修ノートにまとめ提出する。	D
第10回	模擬授業の発表と振り返り① ・模擬授業の発表	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第11回	模擬授業の発表と振り返り② ・模擬授業の発表	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第12回	模擬授業の発表と振り返り③ ・模擬授業の発表	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第13回	模擬授業の発表と振り返り④ ・模擬授業の発表	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第14回	模擬授業の発表と振り返り⑤ ・模擬授業の発表	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第15回	まとめ 養護教諭が行う保健教育について考える。	これまでの保健科教育法IIIで学んだことから、養護教諭が行う保健教育について発表し合う。	A、D
	定期試験	定期試験に向けて、学習内容を振り返り、復習を行う。	

保健科教育法Ⅳ

更新日：2024/04/19 11:20:38

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N115420	授業コード	2N115420	
担当教員	木村 美来							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T2304	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	高等学校の学習指導要領の解説の要点を理解し、模擬授業の発表やマイクロティーチング・相互評価等を通して、創造的なアイデアを持ち指導できる実践力を身につける。
方法	模擬授業の発表やマイクロティーチング・相互評価を実施することで、必要な資質を身につけ、自信をもって保健授業の担当ができるようにする。また、高校生の実態や地域社会の背景、各種データ等を収集する。健康教育の指導者として専門的分野の能力を活かして健康づくりをサポートできるようにする。学習指導案を作成し、互いに模擬授業を発表し合うことで、授業実践力の向上を図る。

履修条件

「保健科教育法Ⅳ」を履修する学生は、「保健科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修していること。

履修する上の留意点

教材研究を重視するため地域社会に関心や使命感をもち、健康な社会の実現に向けて考える。授業ごとのレポートは必ず提出する。

到達目標

1	模擬授業の発表は、目標も明確で分かりやすく、教師として自信をもって授業を行うことができる。
2	模擬授業の発表・振り返りなどを活発に行うことができる。
3	学習指導案の作成にあたり、目標、指導方法、評価等をわかりし、創造的なアイデアを活用することができる。
4	指導者としての意識や「保健」を担当するための専門的分野の知識をもち、課題を理解しレポートにまとめることができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	模擬授業発表の様子	30
到達目標②	授業での発表内容や、グループ課題への取組状況	20
到達目標③	学習指導案の内容	20
到達目標④	レポートの内容	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編	文部科学省	
2	新高等保健体育	大修館書店	
3	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編	文部科学省	
4	たのしいほけん 3・4年（令和2年版）	大日本図書	
5	たのしい保健 5・6年（令和2年版）	大日本図書	
6	新しいほけん3・4年生（令和2年度版）	東京書籍	
7	新しい保健5・6年生（令和2年度版）	東京書籍	
8	保健科教育法入門	大修館書店	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

自他の模擬授業を教授法の視点から評価することに留まらず、互いの授業実践の根底にある「考え方」に関する議論を積極的に行いましょう。

課題に対するフィードバック

レポート、学修ノートについては、ルーブリックにより評価し、フィードバックを行う。

模擬授業では、個人で指導案から教材教具まで作成し、実際に授業をすることで指導力を高める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	楽しい保健授業づくりを目指して授業の進め方を検討する。自分の課題を把握するとともに、良い保健授業をイメージする。	目指す教師像や良い保健授業をまとめ、レポートで提出する。	A
第2回	グループで授業スタイルの実践（グループワーク） ・ブレインストーミング ・ロールプレイ ・問題解決的学習	色々な授業スタイルについてまとめ、レポートで提出する。	B、D
第3回	高等学校での保健教育について考える。	高等学校の学習指導要領から、保健の指導内容をまとめる。	A、C
第4回	高校の保健の指導案を作成する。	自分が模擬授業で発表する単元について、目標の設定、授業の流れ、教材についてまとめる。	B、C
第5回	高校の保健の模擬授業の発表と振り返り①	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第6回	高校の保健の模擬授業の発表と振り返り②	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第7回	高校の保健の模擬授業の発表と振り返り③	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第8回	小学校での保健教育について考える。	小学校の学習指導要領から、保健の指導内容をまとめる。	A、C
第9回	小学校の教科の保健について指導案を作成する。	自分が模擬授業で発表する単元について、目標の設定、授業の流れ、教材についてまとめる。	A、C
第10回	小学校の保健の模擬授業の発表と振り返り①	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第11回	小学校の保健の模擬授業の発表と振り返り②	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D
第12回	小学校の保健の模擬授業の発表と振り返り③	模擬授業の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	D

第13回	保健指導について考える。 学校の色々な場面でで行われる保健指導について考える。特にミニ保健指導について。	ミニ保健指導についてまとめる。	A、B
第14回	ミニ保健指導の発表①	ミニ保健指導の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	B、D
第15回	ミニ保健指導の発表② 保健科教育法のまとめ	ミニ保健指導の発表から学んだことを学修ノートにまとめ提出する。	B、D
	レポート提出	指定されたレポート課題についてまとめ、提出する。	

道徳教育の理論と実践

更新日：2024/03/27 11:44:04

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N116020	授業コード	2N116020	
担当教員	梅本 大介							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T2205	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	道徳教育の歴史を学ぶことを入口に、道徳教育の意義や方法論を多角的に考察していきたいと思えます。児童生徒が「将来の主権者」として他者や他文化を尊重し、未来を拓くことに貢献するためには、豊かな心を活かしていくことが求められるのではないかと考えます。教育現場で必要な基礎知識の習得及び実践力を鍛えるために、本授業を通して各自が「道徳をどのように教えることができるのか」について積極的に考え、発言してください。
方法	特別の教科である道徳が要となって学校教育全体で行われる教育活動が、学校における道徳教育です。道徳的価値にかかわる知識を獲得していても、他者と共生できる自律した個人の主体的な判断や行動の実践がなければ、集団社会は維持されません。本授業の進め方としては、道徳教育のこれまでの変遷および現在について理解することを通して、道徳教育の意義について考察していきます。また道徳教育にかかわる教育方法やその課題についての検討を通して、道徳教育の実践力や研究力を身につけることを期待しています。具体的には、ディスカッションやディベート、ライティングディスカッション、ペアワーク、模擬授業などをそれぞれの授業で課していきます。評価方法については本シラバスに掲載されている内容の通りです。

履修条件

この授業は主に教職課程登録者生を対象としていますから、『教育原論』を修了していることを受講上の基礎とします。ただし、教職課程登録者でなければ受講できないというわけではないので、安心してください。興味関心があれば積極的に受講してください。一方、グループ学習・発表を求める授業となりますから、その点については理解を求めます。

履修する上の留意点

共に学び、共に考え、共に成長していくことを期待しています。「道徳」のありようというのは人それぞれにとって異なる価値観で形成されますから、課題に対する答えについて正解と不正解が必ず特定できるというものではありません。ですから、授業について「難しい」と思うこともあるでしょうし、授業回によっては「何を学んだのか」と疑問に思う時もあるかもしれません。ましてや、自己の道徳心の変容するタイミングは人によって様々でしょう。そのような「道徳」を扱うからこそ、授業者である私も積極的に受講者の皆さんと意見を交わしていきたいと思えます。尚、基本的には教職課程登録者を対象とする科目と想定していますから、該当者はとくに「プロの教育者」になるという自覚をもって、授業に臨んでください。教職課程登録者以外の受講者の方は、遠慮なく彼らの発言

や発表内容を批評・批判してください。この授業は「正解」と目されるようなものを求める授業ではなく、道徳教育に関する学びを通して「価値を考察する」授業です。

到達目標

1	道徳教育にかかわる学習を通して、学校教員としての専門性を身につけることができる。
2	道徳教育の学習にかかわる研究成果として、道徳教育の構造を理解できる。
3	学習指導案作成演習および模擬授業・研究における班学習の際、主体的に学習に参画できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小レポート（授業課題にてはかる）	18
到達目標②	レポート	17
到達目標③	成果発表および小レポート（到達目標①と同様に授業課題にてはかる）	65（35+30）
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	教育出版株式会社	文部科学省

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	道徳教育への招待	ミネルヴァ書房	押谷由夫・内藤俊史編
2	道徳教育推進教師の役割と実際—心を育てる学校教育の活性化のために	教育出版	永田繁夫・島恒生編
3	道徳教育を学ぶための重要項目100	教育出版	貝塚茂樹・関根明伸編

オープンな教育リソース

道徳教育アーカイブ ～「道徳科」の全面実施に向けて～

https://doutoku.mext.go.jp/?yclid=YSS.EA1a1QobChMluZHCgpm7wIVUIRgCh0uxghYEAAYASAAEgMhVd_BwE

愛知県教育委員会道徳教育総合推進サイト「モラルBOX」

<https://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=2340010>

学生へのメッセージ

「履修する上の留意点」で示した通りです。道徳という、それぞれの価値観を題材にする授業ですから、主体的な姿勢をもたなければこの授業に参加し続けることは難しいでしょう。受講生それぞれの誠実さを期待します。授業のレジュメは、授業前にTeamsで配信しますので、各自で確りと予習を行い、授業に参加してください。最終授業日までに、参考書等も学習しておくことを推奨します。教職課程登録者は特に、教職センター室の書庫や図書館に所蔵されている様々な本を多く読んでほしいと思います。

課題に対するフィードバック

提出された課題に対しては、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	道徳教育の原理と可能性： 道徳の普遍性と多様性を考究することで、道徳教育の可能性を広げる原理と学習理論を理解する。	第1回目はオリエンテーションとして、本授業の進め方や評価等について詳細に解説します。 予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時までに提出を求めます。 予習・復習については、それぞれ2時間程度の学習時間と想定しています。詳細は、授業中に解説いたします。第2回目以降も同様です。	
第2回	学校における道徳教育の歴史： 近代化以来、道徳教育の展開がどのように学校教育で求められたのか、その歴史を学ぶ。歴史的考察からみえてくる道徳教育上の課題だけでなく、差別やいじめなど現在の学校教育での諸課題に関しても理解を深める。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてく	

		ださい。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	
第3回	道徳性・人格の発達と学校教育における個性尊重： 道徳性の発達をめぐる基礎的事項・理論を学び、わが国の学校教育において「個性」教育がどのように扱われてきたのか、その変遷を理解する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	
第4回	道徳教育に係る学習指導要領の変遷： 「特別の教科 道徳」の導入経緯を中心に、学習指導要領における道徳教育の変遷を学ぶ。この際、「道徳教育」と「特別の教科 道徳」は異なるという理解を深め、現行の学習指導要領に示されている道徳科の目標と内容を学ぶ。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	
第5回	全教育活動を通じての道徳教育： 学校教育における道徳教育活動の計画・展開を学び、顕在的カリキュラムや潜在的カリキュラムとしてどのように充実化をみせているのか、その実際の取り組みを理解する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題については課題を指示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	B
第6回	「考え・議論する道徳」の必要性： 現実の道徳的諸課題に対応できる資質・能力を育むためには、主体的に課題に真向い、そして多面的・多角的に「考え」「議論」していくことが求められる。問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習、特別活動等の多様な実践活動を活かすことなどを例に、道徳科における指導方法の特徴を考察する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題については課題を指示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	B
第7回	教材研究： 前回授業で学習した「考え・議論する道徳」のために用いられる指導方法の具体化を念頭に、実際の教材がどのような意図をもって作成されたのかを授業内で分析し、討論する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題については課題を指示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	B
第8回	学習指導案作成演習Ⅰ： 道徳科における学習指導案の構造を理解する。とくに「評価」について焦点をあて、その具体化を検討する。価値判断の統一ばかりでなく、多様性尊重の問題点もまた理解し、多様な価値観を尊重する道徳教育の在り方について考察する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題については課題を指示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	C
第9回	高等学校における道徳教育と、道徳教育における現代的な諸課題： 中学校と高等学校の道徳教育における違いを理解する。また道徳教育において考えうる現代的な諸課題とはどのような内容なのかを考察する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	
第10回	道徳的価値についての模擬授業の実践と議論 (1-1) 「主として自分自身に関すること」と「主として人との関わりに関すること」を題材に、道徳科の目標と取り扱う内容を理解する。模擬授業を課す。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	B, D
第11回	道徳的価値についての模擬授業の実践と議論 (1-2) 「主として自分自身に関すること」と「主として人との関わりに関すること」を題材に、その指導のあり方について受講生全体で議論する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	B
第12回	道徳的価値についての模擬授業の実践と議論 (2-1) 「主として集団や社会との関わりに関すること」を題材に、道徳科の目標と取り扱う内容を理解する。模擬授業を課す。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	B, D
第13回	道徳的価値についての模擬授業の実践と議論 (2-2) 「主として集団や社会との関わりに関すること」を題材に、その指導のあり方について受講生全体で議論する。	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時までに提出を求めます。	B
第14回	道徳的価値についての模擬授業の実践と議論 (3-1) 「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を	予習： 事前にレジュメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。	B, D

	題材に、道徳科の目標と取り扱う内容を理解する。模擬授業を課す。	復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、次回授業時まで提出を求めます。	
第15回	道徳的価値についての模擬授業の実践と議論（3-2） 「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を題材に、その指導のあり方について受講生全体で議論する。	予習： 事前にレジユメをTeamsで配布しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。授業課題についてはFormsで提示しますので、1週間後までに提出してください。	B

特別活動及び総合的な学習の指導法

更新日：2024/03/27 11:44:05

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N118010	授業コード	2N118010	
担当教員	上井 靖							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T2206	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	この授業は特別活動と総合的な学習（探究）の時間に関する知識や素養、それらの活動の実現に必要な基礎的な能力について扱う。学習指導要領をもとに、特別活動の目標や内容とその特質を知り、具体的な特別活動の内容をキャリア教育的なアクティビティなどを体験する。次に、総合的な学習（探究）の時間の教育課程における位置や目標と内容、指導計画の作成方法、探究的な学習の性質とその指導方法について知り、探究的な教育活動などを体験する。
方法	講義や動画視聴などから手法を知り、個人ワークやグループワーク等を中心に授業を展開します。

履修条件

教職課程に登録している学生のみとする。
この科目は保健および保健体育の免許状のためのものです

履修する上の留意点

個人ワーク、グループワークを多用します。特に、グループワークには積極的に参加してください。active portal にて、課題を提出します。

到達目標

1	毎時の授業内容を理解できている
2	特別活動及び総合的な学習の時間の実践例を理解できている
3	特別活動と総合的な学習の内容及びその指導法に関して理解できている

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	振り返りシート、レポート	40

到達目標②	振り返りシート、レポート	30
到達目標③	振り返りシート、レポート	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	レジュメを配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総合的な学習の時間編』『中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 特別活動編』『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』	東山書房	文部科学省
2	『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総合的な学習の時間編』『中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 特別活動編』『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』	東山書房	文部科学省
3	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』	学校図書	文部科学省
4	『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示） 特別活動編』	東京書籍	文部科学省

オープンな教育リソース

学習指導要領及びその解説は文部科学省のウェブページで見ることができます。つぎのURLから、見たい校種・領域のものをみてください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

学生へのメッセージ

教職に対する熱意をもって受講して下さることを望みます。

レポートの提出にあたっては必ず期限を守ってください。

課題に対するフィードバック

振り返りシートにフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス 特別活動と総合的な学習の時間の違い	復習：振り返りシートの整理	B,C
第2回	特別活動における「人間関係形成」の視点から「ヘリウムリングに挑戦」	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第3回	特別活動における「自己実現」の視点から「バーンガ」から学ぶ	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第4回	特別活動における「社会参画」の視点から「ボランティアゲーム」から学ぶ	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第5回	学級・ホームルーム活動の意義と特質等について「ワードウルフ」「カタルタ」から学ぶ	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第6回	生徒会活動の意義と特質等について 学校行事の意義と特質等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第7回	総合的な学習の時間での体験学習① 防災「クロスロード」から学ぶ	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第8回	総合的な学習の時間での体験学習② 「ライフイベントコストゲーム」から学ぶ	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第9回	総合的な学習の時間におけるキャリア教育の位置付け	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第10回	総合的な学習の時間の指導計画（年間指導計画、単元計画）作成等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第11回	探究的な学習 "Feel° Walk"に挑戦	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	D
第12回	総合的な探究的な学習の方法、評価について 「PBL」等について知る	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第13回	自分の未来を創る「未来マップ」作成	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第14回	自分の未来を創る「未来マップ」作成・発表	予習：振り返りシートの確認	B,C

		復習：振り返りシートの整理	
第15回	全体振り返りレポート作成	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
	実施しない		

道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の理論

更新日：2024/03/27 11:44:07

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N119010	授業コード	2N119010	
担当教員	上井 靖							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	一	単位	2		
科目ナンバー	T2207	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	この授業は学校教育で行う道徳教育、特別活動および総合的な学習（探究）の時間に関する基礎的な知識や素養について扱います。これらの学習の場や内容がどうして生まれたのか、時代の背景とともに探ります。
方法	動画視聴、個人ワーク、グループワークが中心となります。

履修条件

教職課程に登録している学生のみです。
この科目は養護教諭一種免許を取得するためのものです。

履修する上の留意点

個人ワーク、グループワークを多用します。特に、グループワークには積極的に参加してください。active portal にて、課題を提出します。

到達目標

1	毎時の授業内容を理解できている
2	道徳教育、特別活動と総合的な学習（探究）の時間の内容等に関して理解できている

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	振り返りシート	60
到達目標②	振り返りレポート	40
到達目標③		

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『小学校学習指導要領（平成29年告示）』『小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総合的な学習の時間編』『小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 特別活動編』	東洋館出版社	文部科学省
2	『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総合的な学習の時間編』『中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 特別活動編』『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』	東山書房	文部科学省
3	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』	廣済堂あかつき	文部科学省
4	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』	教育出版	文部科学省
5	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』	学校図書	文部科学省
6	『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示） 特別活動編』	東京書籍	文部科学省

オープンな教育リソース

学習指導要領及びその解説は文部科学省のウェブページで見ることができます。つぎのURLから、見たい校種・領域のものをみてください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

学生へのメッセージ

教職に対する熱意をもって受講して下さることを望みます。

グループワークには、積極的に参加してください。

レポートは、active portalにて提出していただきます。

課題に対するフィードバック

振り返りシートにフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス 「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」の違い	予習：学習指導要領の総則を読んでおくこと（インターネットで読めます） 復習：振り返りシートの整理	B,C
第2回	教育の歴史から、「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」の変遷を見える①	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第3回	教育の歴史から、「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」の変遷を見える②	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第4回	道徳教育と道徳科の目標と内容 道徳の本質 道徳性の発達	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第5回	道徳教育の歴史と現代の道徳教育の課題等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第6回	教育課程における特別活動の位置等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第7回	学級・ホームルーム活動の意義と特質等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第8回	児童会・生徒会活動の意義と特質等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第9回	学校行事の意義と特質等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第10回	学習指導要領における総合的な学習の時間の目標と学校での目標・内容	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第11回	総合的な学習の時間の指導計画①年間指導計画	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第12回	総合的な学習の時間の指導計画②主体的・対話的で深い学びと単元構成	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C

第13回	総合的な学習の時間における資質・能力の育成と教科等横断的な視点	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第14回	総合的な探究の時間 自らの問いの重要性	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第15回	全体振り返りレポート作成	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	
	実施しない		

生徒指導の理論と実践

更新日：2024/03/27 11:44:10

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N121020	授業コード	2N121020
担当教員	都筑 祐一						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	T2204	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	生徒指導の理論と基本的な進め方を理解するとともに、教育現場で起きる個別の課題（いじめ、不登校、自殺、暴力行為等）に対する学校の指導・支援体制及び教師の在り方を学ぶ。
方法	パワーポイントを用いた講義形式を基本としつつ、グループディスカッションやレポート作成等を積極的に取り入れ、双方向対話形式による授業を展開する。

履修条件

履修する上の留意点

講義だけでなく、様々な手法のグループワークを積極的に取り入れます。主体的な学び、協働的な学びを実現しましょう。

到達目標

1	生徒指導の理論と進め方について、基本的事項を理解することができる。
2	児童生徒を取り巻く状況を分析し、的確な指導方法を模索することができる。
3	グループワーク等に積極的に関わり、自らの生徒指導観を有意義に高めることができる。
4	自らの考えや思いを積極的に伝えるとともに、異なる意見や立場も尊重することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	60
到達目標②	グループワーク及びレポート	20

到達目標③	グループワーク及びレポート	10
到達目標④	グループワーク及びレポート	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし（配付プリント等で授業を行う）		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	生徒指導提要（令和4年12月）	東洋館出版社	文部科学省

オープンな教育リソース

NHK for School

学生へのメッセージ

生徒指導の意義や具体的な指導・支援の在り方を理解し、学校現場に立った時に児童生徒と有意義に向き合うことができるようにしましょう。学生同士の話し合い、意見交換の場を大切にします。

課題に対するフィードバック

- ・グループワーク等を行うときは、巡回して指導・支援を行う。
- ・授業後に回収したレポートは、有意義な考えや思い、アイデアを抜粋し、次の授業で全体に還元する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	児童生徒の実情と生徒指導 ・オリエンテーション ・生徒指導の変遷 ・児童生徒理解の基本 ・求められる教師の資質と能力 ・生徒指導の定義と構造 ・生徒指導の方法と基盤	予習：生徒指導のイメージを自身の経験から想起する。 復習：生徒指導の変遷、児童生徒の実情に対する感想及び求められる教師像をレポートにまとめ提出する。	A B
第2回	生徒指導と教育課程（Ⅰ） ・教科の指導と生徒指導の一体化 ・道徳教育における生徒指導	復習：教科、道徳の授業の有意義な進め方をレポートにまとめ提出する。	A B
第3回	生徒指導と教育課程（Ⅱ） ・総合的な活動の時間における生徒指導 ・特別活動における生徒指導	復習：特活、総合の有意義な進め方をレポートにまとめ提出する。	A B
第4回	チーム学校による生徒指導体制（Ⅰ） ・チーム学校とは ・生徒指導体制 ・教育相談体制 ＊グループディスカッション	復習：児童生徒に行う生活アンケート及び教育相談の在り方をレポートにまとめ提出する。	A B
第5回	チーム学校による生徒指導体制（Ⅱ） ・危機管理体制 ＊危機管理マニュアル ・生徒指導に関する法制度 ・学校、家庭、地域の連携、協働 ＊学校行事運営上の工夫	復習：危機管理またはび学校行事の在り方をレポートにまとめ提出する。	A B
第6回	個別の課題（Ⅰ）「いじめ」の理解と対策（その1） ・いじめの実情 ・いじめ防止のための法整備 ・いじめ防止の対策 ＊グループディスカッション	復習：いじめ防止対策推進法制定のきっかけとなった大津中2のいじめ事例から学んだことをレポートにまとめ提出する。	A B
第7回	個別の課題（Ⅰ）「いじめ」の理解と対策（その2） ・事例研究 ＊グループディスカッション	復習：いじめの具体的な事例における対応策をレポートにまとめ提出する。	A B
第8回	個別の課題（Ⅱ）「不登校」の理解と対策（その1） ・不登校の実情 ・不登校のための法整備 ・不登校対策 ＊グループディスカッション	復習：不登校の実情を踏まえ、その対応策をレポートにまとめ提出する。	A B
第9回	個別の課題（Ⅱ）「不登校」の理解と対策（その2）	復習：不登校の具体的な事例における対応策をレポ	A B

	<ul style="list-style-type: none"> 事例研究 ＊グループディスカッション 	<p>ートにまとめ提出する。</p>	
第10回	<p>個別の課題(Ⅲ)「自殺」の理解と対策(その1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自殺の実情 自殺予防に向けた法整備 自殺防止の対策 ＊グループディスカッション 	<p>復習：自殺の実情を踏まえ、その対応策をレポートにまとめ提出する。</p>	A B
第11回	<p>個別の課題(Ⅲ)「自殺」の理解と対策(その2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例研究 ＊グループディスカッション 	<p>復習：自殺の具体的な事例における対応策をレポートにまとめ提出する。</p>	A B
第12回	<p>個別の課題(Ⅳ)「暴力行為」「少年非行」「児童虐待」に対する理解と対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 実情 法整備 対策 	<p>復習：3つの課題の中から1つ選択し、その対応策をレポートにまとめ提出する。</p>	A B
第13回	<p>個別の課題(Ⅴ)「インターネット・携帯電話」「性」に対する理解と対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 実情 法整備 対策 	<p>復習：2つの課題の中から1つ選択し、その対応策をレポートにまとめ提出する。</p>	A B
第14回	<p>個別の課題(Ⅵ)「多様な背景をもつ児童生徒(発達障害、精神疾患、支援を要する家庭)」の理解と対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 実情 法整備 対策 	<p>復習：多様な背景をもつ児童生徒の実情を踏まえ、その対応策をレポートにまとめ提出する。</p>	A B
第15回	<p>生徒指導の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな教員になりたいか 児童生徒とどう向き合うか どんな授業を行いたいか ＊グループディスカッション 	<p>復習：生徒指導の意義を踏まえ、自分はどういう教員を目指すのか、レポートにまとめ提出する。</p>	A B
	定期試験		

進路指導の理論と実践

更新日：2024/03/27 11:44:11

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2N123320	授業コード	2N123320
担当教員	永田 勲						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	T2203	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	16+29

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	学校現場の実態を把握しながら、子供たちの将来に向けて身につけるべき基本的な事柄を理解することから、進路指導(キャリア教育)の重要性について理解を深めていく。また、実際の学校現場において、進路指導(キャリア教育)をどのように進めていくか、自分なりに考察する。
方法	講義、グループでのディスカッション・指導の実践演習・レポート提出

履修条件

履修する上の留意点

本授業では、様々な事例と自分自身の体験から「キャリア教育・進路指導の在り方」を学習する。講義を受けるだけでなく、積極的に自分の意見を発表したり、より良い指導、相談の在り方を模索したりする。

到達目標

1	①進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。
2	②学校現場の実態を把握し、進路指導・キャリア教育の重要性を認識することができる。
3	③他者と意見を交換し、自らの考えに深みを持たせることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	レポート・実践演習・定期試験	30
到達目標③	グループワーク、レポート	20

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	「中学校キャリア教育の手引き」	文部科学省	

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

進路指導はただ単に上位学校・就職先に進む道しるべとなる指導ではなく、広く一般に「キャリア教育」と言われ、生徒指導と同じように学校教育には欠かせない。自分自身の興味関心から特性を把握し、社会に適応すべき人となり得るための学習を学校教育に携わる者としてしっかりと知識を身に付けてもらいたい。

課題に対するフィードバック

レポートに関しては評価し次時の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	○オリエンテーション ○進路指導・キャリア教育とは ・キャリア教育が提唱された背景 ・キャリア教育の定義	中学・高校時代の進路指導に関する事例を想起する。	
第2回	○進路指導・キャリア教育の意義 ・キャリア発達に関わる諸能力（基礎的・汎用的能力） ○進路指導・キャリア教育の原理	進路指導・キャリア教育の意義を理解した上で、もしこの教育をしなかった場合、児童生徒はどんな姿になるのかを考える。	
第3回	○やりたいことと進路指導 ・児童生徒のなりたい職業 ・進路指導のあり方（生涯教育と生き方選択）	小・中・高校生が将来に向けて描いている自分の姿がどんなものであるのか実態調査をする。	B
第4回	○中学校におけるキャリア教育の推進 ・校内組織の整備 ・全体計画の基本的な考え方 ・育成したい能力・態度の設定	教育課程の位置づけから進路指導の年間計画を考えてみる。	C
第5回	○進路指導の変容 ・生きる力を育てる ・社会に目を向ける（職場体験学習等）	経験した職場体験学習で身につけたことについてまとめる。	B
第6回	○学校教育で育成したい能力や態度 ・人間関係形成・社会形成能力 ・自己理解・自己管理能力 ・課題対応能力 ・キャリアプランニング能力	予習：自分の中学生時代の職業観を想起しておく	D
第7回	○愛知県におけるキャリア教育 ・キャリア教育は何をめざす ・計画・組織作り・評価をしよう	身近に存在する多様な産業、根付いている伝統文化について調べる。	A
第8回	・現代の労働問題 ・日本型雇用システム ・学生アルバイトをめぐる諸問題 ・労働基準法とは	該当する実践事例を読み、自分の考えをまとめる。	B

教職実践演習（中・高）

更新日：2024/03/27 11:44:13

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N125010	授業コード	2N125010	
担当教員	梅本 大介、天野 透							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T3403	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置		
コース別 必修・選択必修等					授業時間＋自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	保健体育や保健の目標は、心と体を一体としてとらえ、健康の保持増進や体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度の育成にあると考えます。本授業は、①これらを実施していくうえで必要な資質・能力を確認するとともに、諸能力の基礎を確実に身につけることを目指す授業です。また、②保健体育や保健の授業、運動部活動、体育行事のほか、生徒指導や保護者対応などの方法レベルでの課題を明らかにし、その解決の手がかりを探求していきたいと思えます。さらには、専門職としての能力を鍛えるために、大学院進学を希望する者にも対応したいと思えます。
方法	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」、「社会性や対人関係能力に関する事項」、「生徒理解や学級経営等に関する事項」、「教科内容等の指導力に関する事項」について、学生一人ひとりの学習到達度を『履修カルテ』を通じて評価します。また、『実習ファイル』を再確認することによって、教員としての体験を振り返ります。教員を目指していくうえで、不十分な箇所をディスカッションやロールプレイング、事例研究・調査、模擬授業などを行なうことによって補っていきます。学校教員は、授業はもちろんのこと学級経営・学校経営の専門職者・経営者としての力量が問われるものだからです。

履修条件

教育実習Ⅰ・Ⅱの履修者に限る

履修する上の留意点

Active Portal上で4年生前期までの『履修カルテ』を完成させておいてください。また、『実習ファイル』の再確認も求めます。あらためて、免許取得に向けてどのような条件があったのかを再確認しておきましょう。教育実習での学びだけでなく、教科教育法などこれまでの授業内容とかわかるため、本授業前までに確りと既習内容を復習しておきましょう。

到達目標

1	教師に求められる使命感・責任感を備えることができる
2	教師に必要な教養や専門知識・技能を獲得できる
3	4年間の学習到達度を正しく自己評価できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	プレゼンテーション①	35
到達目標②	プレゼンテーション②	35
到達目標③	履修カルテおよび実習ファイルの充実度	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	履修カルテ		
2	実習ファイル		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

独立行政法人教職員支援機構・校内研修シリーズ
<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/>

学生へのメッセージ

学校教員としての資質能力には様々な観点が求められるでしょう。とくに、教育者として自分にはどのような適性があり、どのような理想像を描いているのかをこの機会に今一度再検討してほしいと思います。一方で、自分には教育者としてどのような能力や知識が不足しているのか、どのような成長が必要なのかを考えることも重要な視点です。この授業を通して、「教育者」としてさらなる成長を遂げられることを期待しています。

課題に対するフィードバック

研究発表ではグループで協力して研究内容をまとめるだけでなく、他の受講者との意見交流や他の研究発表に対して批評する能力も求められることから、評価に関しては特に授業内のディスカッションを重視します。そのディスカッションの内容をもとに、教員がフィードバックを行っていきます。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション：『履修カルテ』と『実習ファイル』から何が見えてくるか これまでの教職課程における学びのふり返り	『履修カルテ』と『実習ファイル』を見返し、自己分析を行います。そして、教員に必要な資質や能力、これまでの自身の経験に関して、受講者全体で意見を交わします。授業初回に、本授業全体にわたるグループ分けを行います。 第2回目以降の準備について、授業中に詳細に解説します。	A、B
第2回	授業研究・演習 (実習事前指導で課題とした実習中の研究課題及び実習中に経験した授業展開上の課題から各グループで自由に発表テーマを設定し、研究発表をしてもらいます。詳細は第1回授業で指示いたします) 発表例：主体的で対話的な深い学びの実現に向けて	授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。授業での具体的な研究発表方法については、第1回目の授業中に指示いたします。 授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備するのが、予習・復習となります。	B、D
第3回	授業研究・演習 (実習事前指導で課題とした実習中の研究課題及び実習中に経験した授業展開上の課題から各グループで自由に発表テーマを設定し、研究発表をしてもらいます。) 発表例：子どもの声を拾うことができる授業	授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。 授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備するのが、予習・復習となります。	B、D
第4回	授業研究・演習 (実習事前指導で課題とした実習中の研究課題及び実習中に経験した授業展開上の課題から各グループで自由に発表テーマを設定し、研究発表をもらいます。) 発表例：生徒の理解につながる伝える力	授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。 授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備するのが、予習・復習となります。	B、D
第5回	授業研究・演習	授業担当者が指定したグループごとに、研究発表で	B、D

	<p>(実習事前指導で課題とした実習中の研究課題及び実習中に経験した授業展開上の課題から各グループで自由に発表テーマを設定し、研究発表をしてもらいます。)</p> <p>発表例：教材研究の大切さについて</p>	<p>きるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備するのが、予習・復習となります。</p>	
第6回	<p>授業研究・演習</p> <p>(実習事前指導で課題とした実習中の研究課題及び実習中に経験した授業展開上の課題から各グループで自由に発表テーマを設定し、研究発表をしてもらいます。)</p> <p>発表例：みずほ高校での先生方の授業実践を観察して(授業見学報告)</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備するのが、予習・復習となります。</p>	B、D
第7回	<p>授業研究・演習</p> <p>(実習事前指導で課題とした実習中の研究課題及び実習中に経験した授業展開上の課題から各グループで自由に発表テーマを設定し、研究発表をしてもらいます。)</p> <p>発表例：授業におけるICTの効果的な活用について</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備するのが、予習・復習となります。</p>	B、D
第8回	<p>授業研究・演習</p> <p>(実習事前指導で課題とした実習中の研究課題及び実習中に経験した授業展開上の課題から各グループで自由に発表テーマを設定し、研究発表をもらいます。)</p> <p>発表例：保健体育科教員と養護教諭による互いの教育観についての交流</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備するのが、予習・復習となります。</p>	B、D
第9回	<p>学級学校経営・演習</p> <p>「学校教育がもつ機能および役割」をテーマにした研究発表</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備・学習しておくことが、予習・復習となります。</p>	B、D
第10回	<p>学級学校経営・演習</p> <p>「個性」をテーマにした研究発表</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備・学習しておくことが、予習・復習となります。</p>	B、D
第11回	<p>学級学校経営・演習</p> <p>「児童・生徒理解と人間関係構築力」をテーマにした研究発表</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備・学習しておくことが、予習・復習となります。</p>	B、D
第12回	<p>学級学校経営・演習</p> <p>「教科内容に関する知識・技能」をテーマにした研究発表</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備・学習しておくことが、予習・復習となります。</p>	B、D
第13回	<p>学級学校経営・演習</p> <p>「教科等の授業作りの力量」をテーマにした研究発表</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備・学習しておくことが、予習・復習となります。</p>	B、D
第14回	<p>学級学校経営・演習</p> <p>「課題探究力」をテーマにした研究発表</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>授業内容をもとにして次回授業や研究発表に向けて準備・学習しておくことが、予習・復習となります。</p>	B、D
第15回	<p>学級学校経営・演習</p> <p>「安全管理・危機管理と教育」をテーマにした研究発表</p>	<p>授業担当者が指定したグループごとに、研究発表できるように互いに準備を進めてください。</p> <p>全授業を通して学んだことのまとめを、1週間後までに提出してください。</p>	B、D

教職実践演習(養護教諭)

更新日：2024/03/27 11:44:15

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N126110	授業コード	2N126110	
担当教員	後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴、館 英津子							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T3404	授業形態	講義・演習	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	今までの大学での講義、実習、演習、養護実習等を通して培った資質能力を有機的に統合し、卒業後、社会的ニーズとしての養護教諭に求められる資質や能力を再確認し、養護教諭として教育現場で役立つ実践力を高める。
方法	事例検討やロールプレイ、外部講師の講義等を通して、目指したい養護教諭像を明確にし、自己の課題を整理するとともに、実践力を高め、資質能力を確認し、まとめを行う。

履修条件

養護実習を修了した者に限る。

履修する上の留意点

履修カルテ、養護実習日誌に基づいて授業を行うので、まとめておくこと。

到達目標

1	履修カルテ、養護実習の記録を分析して課題を説明することができる。
2	養護教諭としての視点で問題をとらえたり、対応を考えることができる。
3	養護教諭としての資質能力を身に付け、説明することができる。
4	グループで協力して活動することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	評価シート	10

到達目標②	ワークシート	30
到達目標③	確認テスト	50
到達目標④	担当授業の準備、発表、参加の態度	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特に指定しない。資料は、随時配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業内で随時紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

毎回提出するレポートについては、事前に提供されるルーブリックにより評価を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 目指す養護教諭像に向けた自己課題の評価シートによる振り返り	実習日誌、履修カルテの記録の収集、整理を行う	
第2回	目指す養護教諭像に向けた自己課題の明確化－評価シート発表	【報告シート】児童生徒との関わりに関する自己課題を明確化し、評価シートに記入して次回提出。各講義の担当者を決めて、教員と相談の上、授業の進め方、事例検討の準備をする。	B
第3回	確認テストによる自己課題の明確化① (健康相談・健康相談活動、学校保健、教育相談、養護活動実習、保健科教育法)	【レポート】テストを自己採点し、自己課題をまとめる	
第4回	確認テストによる自己課題の明確化② (学校救急対応、健康教育・保健室経営、養護概説)	【レポート】テストを自己採点し、自己課題をまとめる	
第5回	事例検討会① 「養護教諭の役割、保健室経営」	【レポート】養護教諭の役割をまとめて次回提出。理想とする保健室経営についてまとめて次回提出。	B、D
第6回	事例検討会② 「健康観察・健康診断・学校環境衛生管理の実際」	【レポート】健康観察・健康診断・学校環境衛生管理の実際についてまとめて次回提出。	B、D
第7回	事例検討会③ 「学校救急処置方法、救急対応システム」	【レポート】配布したワークシートに沿って自分の意見をまとめて次回提出。	B、D
第8回	事例検討会④ 「生徒指導・教育相談」	【レポート】配布したワークシートに沿って自分の意見をまとめて次回提出。	B、D
第9回	事例検討会⑤ 「学校における災害発生とその事後処理」	【レポート】配布したワークシートに沿って自分の意見をまとめて次回提出。	B、D
第10回	事例検討会⑥ 「緊急を要する問題への対応」	【レポート】配布したワークシートに沿って自分の意見をまとめて次回提出。	B、D
第11回	事例検討会⑦ 「養護教諭が行う保健教育の実際」	【レポート】自分の考える保健教育についてまとめて次回提出	B、D
第12回	外部講師の話を聞く会	【レポート】外部講師の話を聴いて学んだことをまとめて次回提出。	
第13回	事例検討会⑧ 「保健室におけるデータ処理方法」	【レポート】データ処理を実施して次回提出。	B、D
第14回	外部講師の話を聞く会	【レポート】外部講師の話を聴いて学んだことをまとめて次回提出。	
第15回	まとめ－評価及び今後の課題	【レポート】各自の課題を今後どのように補っていくのか、4年間の学びを今後どのように活かしていくのかをまとめて発表。 【自己評価】自己評価表に記入して提出。	A、B

教育実習事前・事後指導

更新日：2024/03/27 11:44:17

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2N127110	授業コード	2N127110	
担当教員	梅本 大介							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	T3301	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+15			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教員養成の課程の中で、実際に教員としての実務を研修する教育実習の占める位置は大きい。その意義や重要性について理解を深めることで実習を円滑に進ませ、さらにその経験が充実するように取り組んでいく。教育実習の実施にあたり、実習受け入れ校との連携のとり方、実習前に行うべきこと、実習期間中に行うこと、実習終了後に行うべきことについて学ぶ。
方法	講義と実習報告発表会等の形式で行う。実習の事前に4回、事後に4回にわたって講義・実習を行う。

履修条件

この科目の履修に併せて、高等学校教諭一種免許状のみ取得希望者は「教育実習Ⅰ」を、中学校教諭一種免許状取得希望者は「教育実習Ⅰ」及び「教育実習Ⅱ」を履修しなければならない。

保健体育の教員免許状を取得希望者は4年次に履修すること。

保健の教員免許状を取得希望者は3年次に履修すること。

履修する上の留意点

全ての授業に出席すること。

到達目標

1	教育実習・養護実習に向けての心構えを形成できる
2	実践的指導力の観点を意識し、その基礎を構築できる
3	主体的に課題を発見し、自らの意見をまとめ主張することができる

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	レポート	25
到達目標②	授業内課題	25
到達目標③	口頭発表	50
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	実習の手引		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

希望する実習校のホームページや学校パンフレット等を確認し読みこみ、事前指導に臨んでください。

学生へのメッセージ

欠席をしないように気を付けてください。

課題に対するフィードバック

毎回提出するレポートについては、事前に提供されるルーブリックにより評価し、フィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	【事前指導】 教育実習・養護実習の意義、学校の組織と業務、実習上の注意と心構え	自らが目指す教師像についてのレポートをまとめて期日までに提出	A、B、C
第2回	授業、教材研究、養護活動の模擬実習と指導	教育実習・養護実習にむけての自らの課題をまとめて期日までに提出	A、B、C
第3回	実習先での教職員、生徒との接し方の指導	教育実習・養護実習時の教職員、生徒との接し方の留意点をまとめて期日までに提出	A、B、C
第4回	学習指導案の書き方、授業・養護活動の観察参加、研究授業・総合実習の指導	学習指導案を作成して期日までに提出	A、B、C
第5回	【事後指導】 実習を振り返る（指導方法）	報告書に基づき、指導方法についての反省点、課題をまとめて期日までに提出	A、B、C
第6回	実習を振り返る（生徒とのコミュニケーション）	報告書に基づき、生徒とのコミュニケーションについての反省点、課題をまとめて期日までに提出	A、B、C
第7回	実習を振り返る（教員の各種職務）	体験発表・実習報告の準備（ITの活用）	A、B、C
第8回	体験発表・実習報告とディスカッション（反省と総括）	実習報告会後のディスカッションをまとめて期日までに提出	B、D

養護実習事前・事後指導

更新日：2024/03/27 11:44:19

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2N127210	授業コード	2N127210	
担当教員	後藤 多知子							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	T3401	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+15			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	養護実習の意義や目的を理解し、実習を適切に行うための授業である。養護教諭免許状取得希望者としての心構え、態度、事前準備及び実習終了後の適切な活動について理解する。
方法	講義、演習、実習報告発表会を行う。事前指導として3年時に4回、事後指導として4年時に4回開講する。

履修条件

この科目の履修に併せて、「養護実習」を履修しなければならない。

履修する上の留意点

授業時は毎回、養護実習に準じた服装、頭髪等で出席をすること。

到達目標

1	養護実習に向けての心構えを持つことができる。
2	実習生として、実践的な児童生徒への指導力を身に付けることができる。
3	養護実習に向けて、自分の現在の課題を認識し、実習までに専門的知識理解や技術の習得に努めることができる。実習後、明らかになった課題について認識し、資質能力が向上するように努力できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート、授業内課題、口頭発表	25
到達目標②	レポート、授業内課題、口頭発表	25

到達目標③	レポート、授業内課題、口頭発表	50
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	実習の手引き（配布冊子）		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

レポートは、事前に提供されるルーブリックにより評価し、フィードバックを行う。授業時、随時、巡回指導する。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	【事前指導】 養護実習の意義、学校組織運営の理解、実習上の注意と心構え	目指す養護教諭像（養護観、養護教諭観）についてレポートを提出	A,B,C
第2回	養護実習前の個別の課題と実習までの対策の発表	養護実習の具体的な目標を提出	A,B,C
第3回	実習先での教職員、生徒との接し方について	養護実習での教職員、児童生徒との接し方の留意点をまとめて提出	A,B,C
第4回	学習指導案の書き方、授業・養護活動の観察参加、研究授業・総合実習について	学習指導案を作成して提出	A,B,C
第5回	【事後指導】 実習を振り返る（保健室経営、養護活動）	報告書に基づき、個別の課題をまとめて提出	A,B,C
第6回	実習を振り返る（児童生徒とのコミュニケーション）	報告書に基づき、生徒とのコミュニケーションについての課題をまとめて提出	A,B,C
第7回	実習を振り返る（校内外連携、協働）	体験発表・実習報告会の準備（ITの活用）	A,B,C
第8回	体験発表・実習報告会とディスカッション（振り返り、総括）	実習報告会時のディスカッションをまとめて提出	B,D

教育実習Ⅰ

更新日：2024/03/27 11:44:21

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2N128010	授業コード	2N128010	
担当教員	梅本 大介、天野 透、後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴、(鈴木 揚一)							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T3302	授業形態	実習		実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+15		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	「教育実習Ⅰ」は、教師になるためにそれまでに獲得した知識を実践する学習機会である。実習校である学校で、生徒を目の前にして、教師としての実践的指導力を培い、かつ教師としての適性を自己評価・分析する。
方法	それぞれの実習校の実情や方針に基づいた指導計画によって実施する。指導教諭を中心に、教職員全体の指導の下に、学校教育活動全般にわたり体験的に研修をする。実習校ではよく指示に従い、生徒の模範として自己の姿勢を厳しく律すること。

履修条件

中学校教諭一種、高等学校教諭一種のいずれか一つ、または両方の教員免許状の取得希望者は必修。

保健体育の教員免許状を取得希望者は4年次に履修すること。

保健の教員免許状を取得希望者は3年次に履修すること。

履修する上の留意点

到達目標

1	生徒の学習上の到達目標を明らかにし、その実現の為に教材研究や指導方法に関して基礎的な知識を獲得できる。
2	実習校ごとの指導重点項目を理解し、かつ生徒の模範として行動する確かな心構えを養うことができる。
3	生きた空間である学級の運営に対し思索を深め、教育の実際についての理解を深めることができる。
4	教育実習を通して教師としての自己を評価・分析することで、教師としての指導力たる技能を修得できる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	実習校での教育研究および実践（到達目標②と同じ）	25
到達目標②	実習校での教育研究および実践（到達目標①と同じ）	25
到達目標③	教育実習日誌への記録（到達目標④と同じ）	25
到達目標④	教育実習日誌への記録（到達目標③と同じ）	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	とくになし。下記の通り、自身で研究力を高め、実習に励むこと。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	とくになし。授業方法や板書指導、生徒指導などに関する参考書を各自で探し、所持しておくこと。		

オープンな教育リソース

現職の先生方の授業研究や学級・学校経営の研究に関しては、様々な動画を閲覧することができます。自身で常に研究して、教育実習の準備を努力してください。

学生へのメッセージ

教育実習中、ご指導頂く担当教員や学校は貴重なお時間を使って皆さんの指導にあたってくださいます。それはすべて皆さんが「教員免許を取得する」という目標を掲げているからであり、後輩となる教育者を育てたいと支援してくださる方からです。常に感謝の気持ちを持ち、実習にあってください。

課題に対するフィードバック

実習中には、実習の記録と自己洞察を行うために、実習日誌をつけることになる。実習校先の先生方のご指示に従いながら、設定された課題を解決していかねばならない。適宜、課題に対する解決方法や問題の捉え方に関して、一緒に考えていく。さらに、「教職実践演習」および「実習事前・事後指導」においてもフィードバックを行っていく。

実習内容

授業計画	授業や教育活動の準備・研究を確りと果し、実習中においては日々の実習日誌の執筆を通して自身の課題と向き合い、改善を図ること。
授業準備 (予習・復習を含む)	実習の目標を達成するため、「実習事前・事後指導」の受講中より準備を始める。

教育実習Ⅱ

更新日：2024/03/27 11:44:22

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2N128110	授業コード	2N128110	
担当教員	梅本 大介、天野 透、後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴、（鈴木 揚一）							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T3303	授業形態	実習		実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+15		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	「教育実習Ⅱ」は、教師になるためにそれまでに獲得した知識を実践する学習機会である。実習校である学校で、生徒を目の前にして、教師としての実践的指導力を培い、かつ教師としての適性を自己評価・分析する。
方法	それぞれの実習校の実情や方針に基づいた指導計画によって実施する。指導教諭を中心に、教職員全体の指導の下に、学校教育活動全般にわたり体験的に研修をする。実習校ではよく指示に従い、生徒の模範として自己の姿勢を厳しく律すること。

履修条件

中学校教諭一種免の取得希望者は必修。なお、「教育実習Ⅰ」を履修していることが履修の条件になる。

保健体育の教員免許状を取得希望者は4年次に履修すること。

保健の教員免許状を取得希望者は3年次に履修すること。

履修する上の留意点

到達目標

1	生徒の学習上の到達目標を明らかにし、その実現の為に教材研究や指導方法に関して基礎的な知識を獲得できる。
2	実習校ごとの指導重点項目を理解し、かつ生徒の模範として行動する確かな心構えを養うことができる。
3	生きた空間である学級の運営に対し思索を深め、教育の実際についての理解を深めることができる。
4	教育実習を通して教師としての自己を評価・分析することで、教師としての指導力たる技能を修得できる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	実習校での教育研究および実践（到達目標②と同じ）	25
到達目標②	実習校での教育研究および実践（到達目標①と同じ）	25
到達目標③	教育実習日誌への記録（到達目標④と同じ）	25
到達目標④	教育実習日誌への記録（到達目標③と同じ）	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	とくになし。下記の通り、自身で研究力を高め、実習に励むこと。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業方法や板書指導、生徒指導などに関する参考書を各自で探し、所持しておくこと。		

オープンな教育リソース

現職の先生方の授業研究や学級・学校経営の研究に関しては、様々な動画を閲覧することができます。自身で常に研究して、教育実習の準備を努力してください。

学生へのメッセージ

教育実習中、ご指導頂く担当教員や学校は貴重なお時間を使って皆さんの指導にあたってくださいます。それはすべて皆さんが「教員免許を取得する」という目標を掲げているからであり、後輩となる教育者を育てたいと支援して下さる方からです。常に感謝の気持ちを持ち、実習にあってください。

課題に対するフィードバック

実習中には、実習の記録と自己洞察を行うために、実習日誌をつけることになる。実習校先の先生方のご指示に従いながら、設定された課題を解決していかねばならない。適宜、課題に対する解決方法や問題の捉え方に関して、一緒に考えていく。さらに、「教職実践演習」および「実習事前・事後指導」においてもフィードバックを行っていく。

実習内容

授業計画	授業や教育活動の準備・研究を確りと果し、実習中においては日々の実習日誌の執筆を通して自身の課題と向き合い、改善を図ること。
授業準備 (予習・復習を含む)	実習の目標を達成するため、「実習事前・事後指導」の受講中より準備を始める。

養護実習

更新日：2024/03/27 11:44:24

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2N130010	授業コード	2N130010	
担当教員	後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4		
科目ナンバー	T3402	授業形態	実習	実務経験のある教員による授業科目の配置		。		
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	大学で実施する事前指導を踏まえ、養護実習の目標を明確にして実習に臨む。事後指導において、自己評価や実習校による評価を基に、自分自身の課題を知り、卒業までに養護教諭に求められる資質能力をより高めるようにする。
方法	実習校では指導教諭の指導の下、児童生徒との関わりや教職員間の連携など、主体的に実習する。

履修条件

- ・養護教諭一種免許状取得希望者は必須であり、この科目は「養護実習事前・事後指導」と併せて履修すること。
- ・養護教諭二種免許状取得者で同一種免許状取得希望者は1単位の養護実習を受けることができる。
- ・「養護活動実習」を履修済みであること。
- ・授業ができる養護教諭が求められているため「保健科教育法Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ」を履修しておくことが望ましい。
また、健康情報の集計分析に必要な統計知識の修得のため、統計学について学んでおくこと。

履修する上の留意点

到達目標

1	大学で学んだ知識や技術を基礎として、学校現場ならではの養護教諭に求められる知識と技術を学ぶことができる。
2	自分が理想とする養護教諭像をもち、現在の自分自身の課題を説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	実習校から提出された評価表	80
到達目標②	養護実習ファイル、実習報告書	20

到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

「実習要件」を満たしているとともに、教職を目指す意志を明確に持っていること。

学生へのメッセージ

実習中、指導教諭や学校は貴重な時間を使って皆さんの指導にあたってくださいます。それはすべて皆さんが「教員免許を取得する」という目標を掲げているからであり、後輩となる教育者を育てたいと支援して下さるからです。常に感謝の気持ちを持ち、主体的に実習に取り組んでください。

課題に対するフィードバック

実習後に提出された実習ファイルや実習校の評価表をもとに実習後面談を行う。各自の課題を明確にし、4年生後期の教職実践演習における知識技術の総括につなげる。

実習内容

授業計画	オリエンテーションなどで実習校と打合せ、養護実習の目標が達成できるよう実習計画を立てる。
授業準備 (予習・復習を含む)	養護実習の目標を達成するため、「養護実習事前・事後指導」を受講し、各自準備をする。

教職教養Ⅰ

更新日：2024/03/27 11:44:26

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2P101010	授業コード	2P101010
担当教員	荒川 毅						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	T1301	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+15

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教職に就くことを目指す学生に対して、教員採用試験対策の基礎編として、教師にとって必要な資質や心構え、採用試験対策に対する学び方の指導をしていきます。教師としての心構えの学びを通して、受講者各自の目指す教師像を確立していくとともに、採用試験で頻出の教育関係法規、中教審各種答申、学習指導要領等を講義と問題演習で学びます。加えて、いじめや不登校、発達障害の問題等、現代の学校教育を取り巻く様々な課題に対して、必要な知識・理解を深めるための講義や問題演習も実施します。こうした授業を通して、教員採用試験に向けた心構えを培うとともに、教師としての実践力を高めるように支援します。
方法	講義等に当たっては、主に自作教材を活用して、教員としての資質・能力を培い、教職教養としての知識の向上を図ります。講義全体を通して、プレゼンテーション教材を活用するなどして、重要事項を提示し要点を解説します。教職教養Ⅰでは、各授業ごとにテーマを設定し、講義・解説に加えて過去問演習を実施し、設定したテーマの理解を促進します。

履修条件

履修する上の留意点

3年生対象の内容です。

到達目標

1	今求められる教師の資質や能力について理解することができる。
2	目指す教師像についての自己のイメージを確立し、それに向けた心構えを持つことができる。
3	基本的な教育法規や学習指導要領に関する基礎的な知識を習得することができる。
4	いじめ、不登校、教育の情報化、発達障害などの現代の教育課題に関する基礎的な知識を習得することができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	レポート	25
到達目標②	レポート、意見発表	25
到達目標③	演習成果物、意見発表	25
到達目標④	演習成果物、意見発表	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

日本国憲法、教育基本法、学習指導要領、文科省の各種答申など、それぞれの授業のテーマに即した公開されている参考文献

学生へのメッセージ

教職教養として必要と思われる内容を講義等で学びます。主体的に学び、対話的な授業展開で、それぞれを深めたいと考えます。

課題に対するフィードバック

レポートや演習成果物は、添削後返却し課題へのフィードバックとします。加えて各テーマごとの学びにおいては、「学びの振り返りシート」を活用し、それぞれのテーマにおける理解度や授業への参加意欲等が自己評価できるように、フィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンスとして参加者の教員採用試験への受験の意向を確認するとともに、教職教養Ⅰで行う内容等について説明する。加えて、愛知県の教員採用試験要項を題材にして「自己アピール」を作成し、採用試験受験の心構えの醸成に資する。	「自己アピール」は次回に添削し、返却する。	A
第2回	「教員採用を考える」と題した講義を行い、採用試験の概要や各自治体が求める教師像について解説するとともに、受講者自身の資質について見つめさせ、教職への意欲の喚起につなげていく。講義後、「ワークシート（教師を志す理由等）」を記入させ提出させる。	「ワークシート」は添削後、次回の授業時に返却	A B
第3回	日本国憲法、教育基本法について、試験に出題される頻度が高い部分を中心に講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	日本国憲法、教育基本法について、ある程度の下調べが望ましい。	A
第4回	教育基本法から学校教育法、指導要領へつながる法律の構造等について講義形式で解説する。その後、講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	教育基本法、学校教育法について、ある程度の下調べが望ましい。	A
第5回	「学習指導要領」の総則の基礎的な内容について講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	学習指導要領の総則について、ある程度の下調べが望ましい。	A
第6回	「学習指導要領」の総則について、小学校・中学校・高等学校の各校種を比較しながら、総則の要点理解を深める。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	校種の比較について、レポートを提出し、理解を深める。提出したものは添削し、返却する。	A B
第7回	各県での出題頻度が高く、最も重要な中教審答申の一つである「令和の日本型教育について」（令和3年度）について、「総論」部分を中心に、講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	「令和の日本型教育（答申）」について、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第8回	「令和の日本型教育について」（令和3年度）について、「各論」部分を中心に、講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	「令和の日本型教育（答申）」（令和3年）について、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第9回	第四次 教育振興基本計画（令和5年度閣議決定）について講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	「教育振興基本計画」（令和5年）について、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第10回	いじめの問題について講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	いじめ防止対策推進法（平成25年）について、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第11回	人権教育について講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	人権教育の指導法等の在り方について[第三次取りまとめ]（平成20年）について、ある程度の下	A B

		調べが望ましい。	
第12回	不登校の問題について、講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（平成28年）について、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第13回	教育の情報化について、講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	学校教育の情報化の推進に関する法律（令和元年）について、ある程度の下調べが無望ましい。	A B
第14回	「発達障がい」について、講義形式で解説する。講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	発達障害者支援法（平成16年）について、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第15回	2030年までの世界の共通した取り組み課題であるSDGsについての概要を講義形式で解説する。※SDGsは各自治体の教育振興基本計画の柱の一つになっている。	SDGsについて、ある程度の下調べが望ましい。	A

教職教養Ⅱ

更新日：2024/03/27 11:44:28

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2P102010	授業コード	2P102010
担当教員	荒川 毅						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	T1302	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+15

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教職に就くことを目指す学生に対して、教員採用試験対策の応用編として、教師にとって必要な資質や心構え、採用試験対策のための学び方指導をします。具体的には、基礎編で扱わなかった比較的新しい教育関係法規等、出題頻度が高い内容に関する講義や問題演習、小論文や面接の対策としての演習を行います。こうした授業を通して、教員採用試験に向けた実践力を身につけるとともに、教職に就くための心構えを始めとする「教師としての力量向上」に資するように支援します。
方法	講義等に当たっては、主に自作教材を活用して、教員としての資質・能力を培い、「教職教養」の分野における知識の向上を図ります。講義全般を通して、プレゼンテーション教材等を活用して、重要事項を提示し要点を解説をします。教職教養Ⅱでは、各授業ごとにテーマを設定し、講義・解説に加えて過去問演習を実施し、設定したテーマの理解を促進します。加えて、小論文対策や面接対策も行い、教員採用試験に向けた実践力の向上を図ります。

履修条件

教職教養Ⅰを受講していることが望ましい。

履修する上の留意点

到達目標

1	現代的な教育課題に対する理解・理解を習得することができる。
2	教育法規をはじめとする教員にとって必要となる知識・理解について、総合的な視点で習得することができる。
3	現代の教育課題に対して、自分の考えをまとまりのある文章として表現することができる。
4	教員として必要なコミュニケーション力を習得することができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	演習成果物 確認テスト	25
到達目標②	演習成果物 確認テスト	25
到達目標③	演習成果物	25
到達目標④	演習での意見発表 レポート	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

各テーマに関係する公開されている教育法規、答申など

学生へのメッセージ

教職教養Ⅰに続く応用編的な講座です。「主体的・対話的で深い学び」は学習指導要領のメインテーマですが、この授業においても同じ考え方や構えて授業を進めます。

課題に対するフィードバック

レポートや演習成果物は、添削後返却し課題へのフィードバックとします。加えて各テーマごとの学びや面接演習においては、「学びの振り返りシート」を活用し、それぞれのテーマにおける理解度や授業への参加意欲等が自己評価できるように、フィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンスとして受講者の受験の意向を聞き取るとともに、「採用試験に向けた学びでは何が大切か」というテーマで参加者全員で意見交換等を実施する。	「採用試験受験予定シート」を記入し提出する。提出されたものは次回添削後返却する。	A B
第2回	生徒指導について講義形式で解説し、講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	生徒指導提要（令和4年改訂）について、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第3回	働き方改革、教職員の服務、勤務等について講義形式で解説し、講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	関係する法規等について、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第4回	適応規制、教育心理学について講義形式で解説し、講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	「適応規制」とはどのようなものかについて、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第5回	比較的新しい教育関係法規（子ども基本法等）について講義形式で解説し、講義後、内容を踏まえた問題演習（過去問等）を実施する。	「子ども基本法」（令和4年）について、ある程度の下調べが望ましい。	A B
第6回	教育関係法規の分野で、過去問等から厳選した問題を「実践問題演習Ⅰ」として実施する。	今まで実施した問題演習（過去問等）の復習をしておくことが望ましい。	A B
第7回	学習指導要領の分野で、過去問等から厳選した問題を「実践問題演習Ⅱ」として実施する。	今まで実施した問題演習（過去問等）の復習をしておくことが望ましい。	A B
第8回	令和の日本型教育（答申）の分野で、過去問等から厳選した問題を「実践問題演習Ⅲ」として実施する。	今まで実施した問題演習（過去問等）の復習をしておくことが望ましい。	A
第9回	教員採用試験「教職教養」において、出題頻度が高い分野から厳選した問題を、オムニバスに記した「総合問題演習Ⅰ」として実施する。	今まで実施した問題演習（過去問等）の復習をしておくことが望ましい。	A
第10回	教員採用試験「教職教養」において、出題頻度が高い分野から厳選した問題を、オムニバスに記した「総合問題演習Ⅱ」として実施する。	今まで実施した問題演習（過去問等）の復習をしておくことが望ましい。	A
第11回	小論文演習として、小論文の模擬問題（自作課題Ⅰ）を演習する。演習に際しては、提示された課題をどのように攻略していくかの解説を実施し、それを踏まえて演習課題に取り組む。	演習成果物は、提出後に添削等評価を加えて次回に返却する。	A
第12回	小論文演習として、小論文の模擬問題（自作課題Ⅱ）を演習する。演習に際しては、提示された課題をどのように攻略していくかの解説を実施し、それを踏まえて演習課題に取り組む。	演習成果物は、提出後に添削等評価を加えて次回に返却する。	A
第13回	面接試験対策Ⅰとして、個人面接(面接対策の基礎)の演習を行う。	「学びの振り返りシート」を記入し提出、次回添削等を行い返却する。	A
第14回	面接試験対策Ⅱとして、個人面接(実践的な面接対策)の演習を行	「学びの振り返りシート」を記入し提出、次回添削	A

	う。	等を行い返却する。	
第15回	教師として何を自覚し、何を大切にしていくかというテーマについて講義形式で解説し、今日初期教養Ⅱの全15回の講義・演習のまとめを行う。	提出されたレポート等の返却予定。	A C

教職論作文・面談技法Ⅰ

更新日：2024/03/27 11:44:30

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2P103010	授業コード	2P103010A, 2P103010B	
担当教員	梅本 大介、天野 透、鈴木 揚一、後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴、							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	T1303	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+15		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	論作文技法と面談技法で1コマずつ開講します。
方法	論作文に関しては、前半では論作文の記述法に関する講義を行い、後半では基本となるテーマに関して論述と添削を繰り返して行います。面談技法に関しては、話の組み立て方や礼儀作法に関する講話の他、基礎となる教員として在り方や専門知識の活かし方などについてのゼミを行います。ディスカッションやディベート、ペアワーク、ロールプレイングなど多様な教育方法ももちいて実践的な授業となりますので、意識をもって授業に臨んでください。

履修条件

『教職論作文・面談技法Ⅱ』を履修すること。

履修する上の留意点

教員採用試験合格を真剣にめざす3年生を対象としますから、積極的な自学自習を求めます。週2コマ開講される講義の両方を受講した者のみを単位付与の対象とします。

到達目標

1	課題に係る実態や背景を理解し、主張する論旨を明確にできる
2	適切な文法と正確な用語の理解を用いて、字数の条件を満たすことができる
3	教員としてのあるべき姿・考え方を説明できる
4	問いに対する30秒～1分程度の回答を短時間で組み立て、分かりやすく自分の考えを伝えることができる

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	論作文の提出（到達目標②と同じ）	25
到達目標②	論作文の提出（到達目標①と同じ）	25
到達目標③	試験形式での個人面接・集団面接・集団討論の実施（到達目標④と同じ）	25
到達目標④	試験形式での個人面接・集団面接・集団討論の実施（到達目標③と同じ）	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	資料は必要に応じて配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて講義内で紹介する		

オープンな教育リソース

教職センター室（5号館2階）には論作文の書き方、論作文課題に係る参考資料、指導事例集、板書や面接・実技に関する参考書やDVD、教員採用試験の過去問など資料が豊富にあります。毎年、採用試験に合格した方々、見事に教職への就職を果たせた方々は、すべからくこの教職センター室での自習に励んでいたようです。インターネットにも関係する情報が多分にあります。積極的に学習に臨まれることを期待しています。

学生へのメッセージ

論作文でも面談技法でもその表現では、教育者としての力量が問われます。教職センター室（5号館2階）での積極的な自学自習を望みます。

課題に対するフィードバック

提出された論作文に関しては、添削を行い、授業内に指導を行う。面接に関して練習時に個別指導を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 論作文技法：論作文の書き方 ①論作文の構成 面談技法：コース別ゼミ ゼミの計画を立てる ※ 詳細な授業計画や（授業回ごとの）担当者の計画については、この第1回目の授業で発表します。	「なぜ教員になりたいか」「どんな教員になりたいか」という問いに対する答えを考えてくる。 第2回授業に向けて課題を提示しますから、第1回授業での内容をよく復習して臨んでください。第3回目以降も同様です。	A、B、C、D
第2回	論作文技法：論作文の書き方 ②論作文の要素 序論 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第3回	論作文技法：論作文の書き方 ③論作文の要素 序論を書いてみる 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第4回	論作文技法：論作文の書き方 ④論作文の要素 本論 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第5回	論作文技法：論作文の書き方 ⑤論作文の要素 本論を書いてみる 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第6回	論作文技法：論作文の書き方 ⑥論作文の要素 まとめ 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第7回	論作文技法：論作文の書き方 ⑦論作文の要素 まとめを書いてみる 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第8回	論作文技法：論作文の書き方 ⑧教育問題の理解 生きる力 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第9回	論作文技法：論作文の書き方 ⑨教育問題の理解 いじめ	課題で出された論作文を書いてくる、または添削さ	A、B、C、D

	面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	れた論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	
第10回	論作文技法：論作文の書き方 ⑩教育問題の理解 確かな学力 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第11回	論作文技法：論作文の書き方 ⑪教育問題の理解 地域との連携 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第12回	論作文技法：試験形式の論作文記述 生きる力 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第13回	論作文技法：試験形式の論作文記述 いじめ 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第14回	論作文技法：試験形式の論作文記述 確かな学力 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D
第15回	論作文技法：試験形式の論作文記述 地域との連携 面接技法：コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う	課題で出された論作文を書いてくる、または添削された論作文を書き直してくる。 コース別ゼミの計画に従った課題を実施してくる。	A、B、C、D

教職論作文・面談技法Ⅱ ≪4年生向け≫

更新日：2024/03/27 11:44:33

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2P104010	授業コード	2P104010A1, 2P104010B1
担当教員	梅本 大介、天野 透、鈴木 揚一、後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	T1304	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+15

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	論作文技法と面談技法で1コマずつ開講する。
方法	論作文に関しては、良く出題されるテーマについての考察を深めながら、試験形式での論述と添削を繰り返し行う。 面談技法に関しては、教員採用試験の監督経験のある教員を中心にコース別に実際の試験を想定した形式で問答を繰り返し行い、回答内容や態度等について指導を行う。ディスカッションやディベート、ペアワーク、ロールプレイングなど多様な教育方法ももちいて実践的な授業となりますので、意識をもって授業に臨んでください。

履修条件

『教職論作文・面談技法Ⅰ』を履修済みであること。

履修する上の留意点

教員採用試験合格を真剣にめざす4年生を対象としますから、積極的な自学自習を求めます。
週2コマ開講される講義の両方を受講した者のみを単位付与の対象とします。

到達目標

1	適切な課題把握を行い、時間内に論理的な表現と誤字脱字や文法的な誤りのない整った文章を記述することができる
2	自身の考えと経験に基づく独自性ある意見を持ち、課題解決の取り組みを具体的に述べるることができる
3	試験官に好感をもたれる態度で、試験室への入場、受け答え、退場ができる。
4	質問の趣旨に沿った適切な回答を、根拠と具体例を織り交ぜて簡潔に述べるることができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	論作文の提出（到達目標②と同じ）	25
到達目標②	論作文の提出（到達目標①と同じ）	25
到達目標③	試験形式での個人面接・集団面接・集団討論の実施（到達目標④と同じ）	25
到達目標④	試験形式での個人面接・集団面接・集団討論の実施（到達目標③と同じ）	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	資料は必要に応じて配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて講義内で紹介する		

オープンな教育リソース

教職センター室（5号館2階）には論作文の書き方、論作文課題に係る参考資料、指導事例集、板書や面接・実技に関する参考書やDVD、教員採用試験の過去問など資料が豊富にあります。毎年、採用試験に合格した方々、見事に教職への就職を果たせた方々は、すべからくこの教職センター室での自習に励んでいたようです。インターネットにも関係する情報が多分にあります。積極的に学習に臨まれることを期待しています。

学生へのメッセージ

論作文でも面接技法でもその表現では、教育者としての力量が問われます。教職センター室（5号館2階）での積極的な自学自習を望みます。

課題に対するフィードバック

提出された論作文に関しては、添削を行い、授業内に指導を行う。面接に関して練習時に個別指導を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 春期休業中の提出課題に対する指導 面談技法：集団面接指導 基礎的な質問（コース別ゼミ）</p> <p>※ 全教員で指導を担当するが、「面談技法」の授業回それぞれについての詳細な主担当者の計画については、第1回目の授業で発表する。「論作文」についても同様とする。</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【A自治体】への対応を優先する。</p>	<p>志望自治体や志望学校の教育目標や方針を確認し、理解しておく。</p> <p>「教師になりたい理由」等の良く聞かれる問いに対しての答えをノートにまとめておく。</p> <p>第2回授業に向けて課題を提示しますから、第1回授業での内容をよく復習して臨んでください。第3回目以降も同様です。</p>	A、B、C、D
第2回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 基礎的な質問 再度同じ質問を行う（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【B自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて良く聞かれる問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第3回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 基礎的な質問 再度同じ質問を行う（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【C自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて良く聞かれる問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第4回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 基本的な教育課題をテーマとした討論（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【D自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて良く聞かれる問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第5回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p>	A、B、C、D

	<p>問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 前回と同じ基本的な教育課題をテーマとした討論（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【E自治体】への対応を優先する。</p>	<p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	
第6回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【F自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第7回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【G自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第8回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【H自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第9回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【I自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第10回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【J自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第11回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 出席者の受験自治体に応じたテーマ（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【K自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて良く聞かれる問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第12回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 出席者の受験自治体に応じたテーマ（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【L自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第13回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 出席者の受験自治体に応じたテーマ（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【M自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第14回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p>	A、B、C、D

	<p>問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【N自治体】への対応を優先する。</p>	<p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	
第15回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望校による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験校に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【私立学校】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D

教職論作文・面談技法Ⅱ <<3年生向け>>

更新日：2024/03/27 11:44:31

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2P104010	授業コード	2P104010A2, 2P104010B2
担当教員	梅本 大介、天野 透、鈴木 揚一、後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	T1304	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+15

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	論作文技法と面談技法で1コマずつ開講する。
方法	論作文に関しては、良く出題されるテーマについての考察を深めながら、試験形式での論述と添削を繰り返し行う。 面談技法に関しては、教員採用試験の監督経験のある教員を中心にコース別に実際の試験を想定した形式で問答を繰り返し行い、回答内容や態度等について指導を行う。ディスカッションやディベート、ペアワーク、ロールプレイングなど多様な教育方法ももちいて実践的な授業となりますので、意識をもって授業に臨んでください。

履修条件

『教職論作文・面談技法Ⅰ』を履修済みであること。

履修する上の留意点

教員採用試験合格を真剣にめざす3年生を対象としますから、積極的な自学自習を求めます。
週2コマ開講される講義の両方を受講した者のみを単位付与の対象とします。

到達目標

1	適切な課題把握を行い、時間内に論理的な表現と誤字脱字や文法的な誤りのない整った文章を記述することができる
2	自身の考えと経験に基づく独自性ある意見を持ち、課題解決の取り組みを具体的に述べるることができる
3	試験官に好感をもたれる態度で、試験室への入場、受け答え、退場ができる。
4	質問の趣旨に沿った適切な回答を、根拠と具体例を織り交ぜて簡潔に述べるることができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	論作文の提出（到達目標②と同じ）	25
到達目標②	論作文の提出（到達目標①と同じ）	25
到達目標③	試験形式での個人面接・集団面接・集団討論の実施（到達目標④と同じ）	25
到達目標④	試験形式での個人面接・集団面接・集団討論の実施（到達目標③と同じ）	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	資料は必要に応じて配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて講義内で紹介する		

オープンな教育リソース

教職センター室（5号館2階）には論作文の書き方、論作文課題に係る参考資料、指導事例集、板書や面接・実技に関する参考書やDVD、教員採用試験の過去問など資料が豊富にあります。毎年、採用試験に合格した方々、見事に教職への就職を果たせた方々は、すべからくこの教職センター室での自習に励んでいたようです。インターネットにも関係する情報が多分にあります。積極的に学習に臨まれることを期待しています。

学生へのメッセージ

論作文でも面接技法でもその表現では、教育者としての力量が問われます。教職センター室（5号館2階）での積極的な自学自習を望みます。

課題に対するフィードバック

提出された論作文に関しては、添削を行い、授業内に指導を行う。面接に関して練習時に個別指導を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 春期休業中の提出課題に対する指導 面談技法：集団面接指導 基礎的な質問（コース別ゼミ）</p> <p>※ 全教員で指導を担当するが、「面談技法」の授業回それぞれについての詳細な主担当者の計画については、第1回目の授業で発表する。「論作文」についても同様とする。</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【A自治体】への対応を優先する。</p>	<p>志望自治体や志望学校の教育目標や方針を確認し、理解しておく。</p> <p>「教師になりたい理由」等の良く聞かれる問いに対しての答えをノートにまとめておく。</p> <p>第2回授業に向けて課題を提示しますから、第1回授業での内容をよく復習して臨んでください。第3回目以降も同様です。</p>	A、B、C、D
第2回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 基礎的な質問 再度同じ質問を行う（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【B自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて良く聞かれる問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第3回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 基礎的な質問 再度同じ質問を行う（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【C自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて良く聞かれる問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第4回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 基本的な教育課題をテーマとした討論（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【D自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて良く聞かれる問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第5回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p>	A、B、C、D

	<p>問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 前回と同じ基本的な教育課題をテーマとした討論（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【E自治体】への対応を優先する。</p>	<p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	
第6回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【F自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第7回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【G自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第8回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【H自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第9回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【I自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第10回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【J自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第11回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 出席者の受験自治体に応じたテーマ（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【K自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて良く聞かれる問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第12回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 出席者の受験自治体に応じたテーマ（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【L自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第13回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による問題と添削指導 面談技法：集団討論指導 出席者の受験自治体に応じたテーマ（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【M自治体】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D
第14回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望自治体による</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p>	A、B、C、D

	<p>問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験自治体に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【N自治体】への対応を優先する。</p>	<p>前回の指導の内容に基づいて討論の際に発言した内容の修正と発言すべきであった内容をノートにまとめておく。</p>	
第15回	<p>論作文技法：試験形式の論作文記述 受講者の志望校による問題と添削指導 面談技法：集団面接指導 出席者の受験校に応じた質問（コース別ゼミ ※第1回で立てた計画に従う）</p> <p>受講生の特性によって、年度ごとに上記の授業計画についてその内容の変更を行なうが、教員採用試験スケジュールを勘案して【私立学校】への対応を優先する。</p>	<p>添削された論作文を書きなおしてくる。</p> <p>前回の指導の内容に基づいて聞かれた問いに対しての答えを修正し、ノートにまとめておく。</p>	A、B、C、D

体力の測定と評価

更新日：2024/03/27 11:44:35

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2Y102010	授業コード		
担当教員	山根 基							
備考	健康運動実践指導者用の自由科目							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	0		
科目ナンバー		授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間				

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	健康を重視した体力の捉え方を考えた場合、体力は健康関連体力と技能関連体力の2つに大別できる。運動不足などのライフスタイルが原因となって健康関連体力水準が低下すると、生活習慣病や種々の健康障害を引き起こす可能性が高まるとされている。健康づくりのための運動方針2006(エクササイズガイド2006)では、健康関連体力要素の中から、生活習慣病との関連が明らかである全身持久力と筋力を評価するための体力測定項目を取り上げており、本講義・演習では、有酸素性及び無酸素性体力の指標を理解するとともに全身持久力及び筋力の各体力測定を実際に行い、その測定と評価方法を学習する。 また、文部科学省は、体力測定を「高齢化の進展に伴い、児童期から高齢期における国民の体力の現状を明らかにするとともに、その推移を把握するためのもの」と位置づけている。その考えの下、測定の目的に合致し、かつ対象とする集団に適した測定種目を選定しなければいけない。また、体力測定の結果は、「集団の体力」、「個人の体力」の両面から評価し、参加者本人にわかりやすくフィードバックする必要がある。本演習では、中年者および介護予防に関する体力測定の測定項目および評価法について学び、これらの知識を対象者の健康づくりに役立てられるようにする。
方法	配布プリントとパワーポイントを使い授業を行います。随時栄養学トピックスで話題を提供します。

履修条件

健康運動指導士または健康運動実践指導者資格取得希望者を目指す学生のみ

履修する上の留意点

健康運動実践指導者養成課程科目で、単位はありません。

到達目標

1	有酸素及び無酸素性体力を表す指標とその測定法を理解することができる。
2	エクササイズノガイドの体力測定を理解することができる。
3	中年者における新体力テストの測定項目および評価法を理解することができる。
4	介護予防に関する体力測定の測定項目および評価法を理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート課題	25
到達目標②	レポート課題	25
到達目標③	レポート課題	25
到達目標④	レポート課題	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	プリントを配布します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	健康運動実践指導者養成講習会テキスト(上)	(公財)健康・体力づくり事業財団	
2	健康運動実践指導者養成講習会テキスト(下)	(公財)健康・体力づくり事業財団	

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

健康運動指導士または健康運動実践指導者を目指して頑張りましょう。

課題に対するフィードバック

実習とグループワーク課題に関しては、授業中に巡回して指導を行う。

毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容を進める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	有酸素及び無酸素性体力を表す指標とその測定法を理解し、それらのフィールド・テストについての測定ができるようにする。 エクササイズノガイドの体力測定を理解する。	有酸素及び無酸素性体力を表す指標及び、エクササイズノガイドの体力測定項目を事前に調べる。	B
第2回	中年者におけるフィールドテストの実習について ・新体力テストの測定項目（筋力・筋持久力・全身持久能・柔軟性）方法 ・新体力テストの測定結果に対する評価法	新体力テストの測定項目および測定方法について事前に調べる。 新体力テストの測定データを入力し、整理する。	B
第3回	介護予防に関する体力測定法とその評価について 介護予防に関する体力測定法（握力・5m普通歩行テスト・開眼片脚立ち・脚伸展筋力・time up & go・5m最大歩行テスト・長座体前屈・ファンクショナルリーチなど）、測定結果の評価法	介護予防に関する体力測定法について事前に調べる。	B
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			

健康づくりと運動プログラム

更新日：2024/03/27 11:44:37

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2Y103010	授業コード	
担当教員	山根 基						
備考	健康運動実践指導者用の自由科目						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	0	
科目ナンバー		授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	健康づくりのための運動基準2006と運動指針2006は、健康づくりの運動・身体活動及び体力に関する科学的エビデンスを基に検討されており、身体活動・運動指導に関わる専門家は十分にこの内容を理解する必要がある。本講義では、運動指針2006の具体例を学習する。また、健康づくりのための運動プログラム作成上必要な知識として、エアロビック運動及びレジスタンス運動に関する基礎、およびそれら運動のトレーニング効果や効果に関わる遺伝因子についても理解することを目的とする。
方法	配布プリントとパワーポイントを使い授業を行います。随時栄養学トピックスで話題を提供します。

履修条件

健康運動指導士または健康運動実践指導者をを目指す学生のみ

履修する上の留意点

健康運動実践指導者養成課程科目で、単位はありません。

到達目標

1	運動指針2006(エクササイズガイド2006)の具体例について理解することができる。
2	エアロビック運動とはどんな運動かを、エネルギー供給機構との関係で理解することができる。
3	筋力、筋持久力および筋パワーを向上させるためのレジスタンスエクササイズの運動強度、頻度、時間について理解することができる。
4	トレーニングによる有酸素性作業能力向上の経時的変化を説明し、トレーニング効果の上限と遺伝因子との関係を理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート課題	25
到達目標②	レポート課題	25
到達目標③	レポート課題	25

到達目標④	レポート課題	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	プリントを配布します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	健康運動実践指導者養成講習会テキスト(上)	(公財)健康・体力づくり事業財団	
2	健康運動実践指導者養成講習会テキスト(下)	(公財)健康・体力づくり事業財団	

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

健康運動指導士または健康運動実践指導者を目指して頑張りましょう。

課題に対するフィードバック

課題に対して評価して個別にフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	健康づくりのための運動方針2006(エクササイズガイド2006)の具体例について理解する。	運動指針2006(エクササイズガイド2006)の内容を事前に調べる。	B
第2回	エアロビック運動とはどんな運動かを、エネルギー供給機構との関係で理解する。	エネルギー供給機構における無酸素的過程および有酸素的過程について事前に調べる。	B
第3回	筋力、筋持久力および筋パワーを向上させるためのレジスタンスエクササイズの運動強度、頻度、時間について理解する。トレーニングによる有酸素性作業能力向上の経時的变化を説明し、トレーニング効果の上限と遺伝因子との関係を理解する。	最適なレジスタンストレーニングの運動強度、頻度、時間について事前に調べる。	B
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			

英語コミュニケーション(中級会話) B, D

更新日：2024/04/10 10:06:57

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L103010	授業コード	2L103010B, 2L103010C
担当教員	William (Bill) M. Jones						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B5201	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	Students will learn practical conversational English that will help them in their academic, personal, social and professional lives. Starting with the basics and logically and gradually progressing, students will naturally learn real English used in daily
方法	Class will involve randomly assigned pairs and groups each and every class. Students will not only work together, but also compete against other groups for rewards. Using techniques developed in teaching over 20,000 students, as well as methods learned at

履修条件

履修する上の留意点

Diligent students eager to learn and have fun learning English through various prints and playing cards. Students who try their best will make phenomenal progresses.

到達目標

1	Able to Self-Study -15%
2	Can Actively Participate in Class - 15%
3	Can Answer Questions Accurately - 30%
4	Can Pass the Final Examm - 40%

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	Written/Oral - Instructor Reads Aloud Questions and Students Write Answers	30
到達目標②	Written/Oral - Instructor Reads Aloud Questions and Students Write Answers	40
到達目標③	Instructor Checks Homework and Evaluates	15

到達目標④	Teacher Observation - Active Participation/Amount of English Spoken	15
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	No Textbook - All Relevant Prints/CDs, URLs Will Be Provided Free-of-Charge by Instructor		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	Trump Cards - Absolutely Essential to Every Class (Used for Learning and Review), E/J, J/E Dictionary - Print or Electronic, No Phones Please		
2	J/E and E/J dictionary recommended		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

Feedback will be provided on the quizzes orally for the class, and in writing for individual students. Feedback on homework and in-class participation will be given orally.

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	Syllabus and Course Explanation, Introductions	Please study the names of five new friends and one thing about each student.	
第2回	Time/Date/Days, Vocabulary Development, Pronunciation Practice, Listening Comprehension, Pair and Group Work	Please study Time/Date/Days and Vocabulary. Please listen to Pronunciation URL.	B,C
第3回	Numbers and Vocabulary Development, Pronunciation Practice, Listening Comprehension, Pair and Group Work	Please review Numbers and Vocabulary. Please listen to Pronunciation URL.	B,C
第4回	Time/Date/Days and Numbers Advanced, Vocabulary Development, Answering Questions with Learned Material, Listening Comprehension, Pronunciation, Practice Quiz 1	Please review Vocabulary and How to Answer Questions. Study for Quiz 1.	
第5回	Quiz 1, Advantages of Playing Cards, Listening Comprehension, Pronunciation, Pair and Group Work	Please review Advantages of Playing Cards.	B,C
第6回	Vocabulary Development, Answering Questions (more advance), Question Formation and Story Time A and B, Pair and Group Work	Please review Vocabulary, Advanced Answering Questions, Question Formation and Story Time.	B,C
第7回	Story Time C and D, Vocabulary Development, Q & A Practice, Pronunciation, Listening Comprehension, Pair and Group Work	Please review Story Time, Listen to Pronunciation URL.	B,C
第8回	Amazing Animals, Pronunciation, Pair and Group Work, Listening Comprehension, Vocabulary Development	Please review Amazing Animals, Listen to Pronunciation URL.	B,C
第9回	Sports, Pronunciation, Listening Comprehension, Vocabulary Development, Practice Quiz 2	Please review Sports, Listen to Pronunciation URL, Study for Quiz 2.	
第10回	Quiz 2, Q & A of Learned Material in Semester, Pair and Group Work	Please review learned material in semester.	B,C
第11回	Foods and Drinks, Pronunciation, Pair and Group Work, Listening Comprehension, Vocabulary Development	Please review Foods and Drinks.	B,C
第12回	Manga, Comics and Cartoons, Vocabulary Development, Pronunciation, Listening Comprehension, Pair and Group Work	Please review Manga, Comics and Cartoons.	B,C
第13回	Topic to Be Decided Based Upon Class Interests, Pair and Group Work	Please start to review semester material in preparation for final exam.	B,C
第14回	Semester Review of Material and Q & A, Practice Final Exam	Please finish review of semester material in preparation for final exam.	
第15回	English Games (Card and Possibly Board), Entertainment Show by Bill Learning English (Juggling, Magic, Cartoons and Balloons) With Prizes	Study for final exam.	
	Final Exam		

英語コミュニケーション(上級会話)

更新日：2024/03/27 11:38:28

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L104010	授業コード	2L104010
担当教員	榊原 アイリン						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B5202	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	英語コミュニケーション基礎を強化しながら、あらゆる場面で自分の意見が英語を言える事を学びます。
方法	様々なトピックを英語で話す事にチャレンジします。 学習内容で習得した英語表現をペアワークやグループワークを通じて活用して発表します。

履修条件

特にありません

履修する上の留意点

毎回予習をしてくる事と辞書を必ず持ってくる事

到達目標

1	予習をして授業でアウトプットできる
2	学んだ英語表現を活用することができる
3	観光地をリサーチし英語でレポートできる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	Class participation/Assignments (平常点/提出物)	70
到達目標②	成果発表	20
到達目標③	レポート	10
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥	
-------	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	Complete Communication Book 2	SEIBIDO	James Bury/Anthony Sellick/Kaori Hor iuchi

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	Nothing		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

楽しく英語を学びましょう！

課題に対するフィードバック

授業内容の確認と英語発表は口頭で伝える

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業の進め方について説明 英会話にチャレンジ！	英語で自己紹介	C
第2回	テキスト Unit 2 & 3 Hobbies & Interests / Family	テキスト内容を事前に予習+事後内容を復習	C
第3回	テキスト Unit 4 & 5 Movies / Music	テキスト内容を事前に予習+事後内容を復習	C
第4回	テキスト Unit 6 & 7 Food & drink	テキスト内容を事前に予習+事後内容を復習+レポ ートの準備	C
第5回	テキスト Unit 8 & 9 Health & illness	テキスト内容を事前に予習+事後内容を復習	C
第6回	テキスト Unit 10 & 11 Culture / Festivals	テキスト内容を事前に予習+事後内容を復習	C
第7回	Review	Unit 1-11 復習+レポート内容整理	B / C
第8回	テキスト Unit 12 Travel and Vacations	テキスト内容を事前に予習+事後内容を復習	C
第9回	テキスト Unit 13 Past experiences	テキスト内容を事前に予習+事後内容を復習	C
第10回	テキスト Unit 14 Work and jobs	テキスト内容を事前に予習+事後内容を復習+レポ ート内容整理	C
第11回	テキスト Unit 15 Future plans	テキスト内容を事前に予習+事後内容を復習	C
第12回	レポート内容 グループワーク	レポート内容整理	B
第13回	Review	Unit 12-15 復習+レポート内容整理	B / C
第14回	Report & Speech	レポート内容をグループで確認	B / C
第15回	Presentation * 授業内容は諸事情により変更 する場合があります	発表	D

中国語入門

更新日：2024/04/10 12:47:06

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L105010	授業コード	2L105010	
担当教員	虞 萍							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	B5102	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	中国語の特徴を解説し、ピンインの読みかた、簡体字の書きかた、簡単な表現を学びます。
方法	講義形式。教員による解説と学生による音読を行います。

履修条件

特になし。中国や中国語に興味のある方。

履修する上の留意点

中国語は発音が命です。音読をくり返し行う必要があります。

到達目標

1	中国語がどのような特徴をもつ言語であるのかを理解することができる。
2	中国語の発音表記であるピンイン（ローマ字）が読めることができる。
3	中華人民共和国で正式な文字として使われている簡体字（漢字を簡略化したもの）が書けることができる。
4	基本的な文法事項を理解し、常用単語を使った表現が使えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業に対する取り組み	30
到達目標②	定期試験	70
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『ペアで学ぼう！中国語』	朝日出版社	虞萍

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『みんなで学ぼう！中国語』	中国書店	虞萍

オープンな教育リソース

NHKテレビ（Eテレ）「中国語！ナビ」、NHKラジオ「まいにち中国語」。

学生へのメッセージ

中国語は世界の5人に1人が話す言語です。中国語がわかれば視野が広がります。楽しく勉強しましょう。

課題に対するフィードバック

質問等については授業中に対応します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス、発音1「声調・単母音」	中国語とはいかなる言語か、簡体字、ピンインについて。声調・単母音を音読する	B
第2回	発音2「子音・複合母音」	子音・複合母音を音読する	C
第3回	発音3「鼻音を伴う母音・r化・数字・声調の変化」	鼻音を伴う母音・数字を音読する	C
第4回	発音3「日常会話、教室用語」	日常会話、教室用語を音読する	B
第5回	第1課「あなたは日本人ですか」本文、文法	本文・文法の例文を音読する、練習I, IIを完成させる	C
第6回	第1課「あなたは日本人ですか」文法のまとめ、練習I, II	本文・文法の例文・練習I, IIを音読する	C
第7回	第2課「あなたは何を学びますか」本文、文法	本文・文法の例文を音読する、練習I, IIを完成させる	C
第8回	第2課「あなたは何を学びますか」文法のまとめ、練習I, II	本文・文法の例文・練習I, IIを音読する	C
第9回	第3課「あなたは最近どうですか」本文、文法	本文・文法の例文を音読する、練習I, IIを完成させる	C
第10回	第3課「あなたは最近どうですか」文法のまとめ、練習I, II	本文・文法の例文・練習I, IIを音読する	C
第11回	第4課「これはどなたの辞書ですか」本文、文法	本文・文法の例文を音読する、練習I, IIを完成させる	C
第12回	第4課「これはどなたの辞書ですか」文法のまとめ、練習I, II	本文・文法の例文・練習I, IIを音読する	C
第13回	第5課「彼はいつ北京に来ますか」本文、文法	本文・文法の例文を音読する、練習I, IIを完成させる	C
第14回	第5課「彼はいつ北京に来ますか」文法のまとめ、練習I, II	本文・文法の例文・練習I, IIを音読する	C
第15回	第1～5課のまとめ、質疑応答	本文・文法の例文・練習I, IIを音読する	
	定期試験	第1～5課の本文・文法・練習I, IIを復習する	

韓国語入門

更新日：2024/03/27 11:38:32

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2L106010	授業コード	2L106010A, 2L106010B
担当教員	金 由那						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B5101	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	韓国語の入門として、ハングルの文字を覚え、正しい発音を身に付けるとともに、基礎文法を習得することを目標とする。初級レベルの語彙、助詞、表現法を覚え、挨拶や自己紹介など初歩的なコミュニケーション能力を身に付けることを目指す。
方法	授業は教科書に基づいて、講義を行う。随時グループ形式で会話練習を行う。基本的な文法の習得やコミュニケーションの訓練はプリントやビデオ教材、CD教材、インターネット教材を用いた反復練習により行う。毎回ハングル文字を書く課題がある。

履修条件

始めて韓国語を習う学生を対象とする。積極的に授業に参加し、発音の練習、会話練習をすること。

履修する上の留意点

始めて韓国語を習う人を対象とする授業である。この授業で習う言語は大韓民国の標準語である。外国語は単なる知識ではなく使って初めて意味があるということを常に念頭に置いて学習していただきたい。そのためには積極的に授業に参加し、発音の練習、会話練習をして、韓国に行って習ったことを試すつもりで学習していただきたい。

到達目標

1	①韓国語の文字（ハングル）の読み書きが正確にできる。
2	②積極的に授業に参加し、正確な発音ができる。
3	③韓国語による簡単な自己紹介ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	中間テスト	20
到達目標②	授業参加度・小テスト	30
到達目標③	定期試験	50

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	どンドン話そう！韓国語	朝日出版社	金由那他3人

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

新しい外国語に対する好奇心を持って、韓国語を楽しく勉強しましょう。ハングルを楽しく学ぼうとする気持ちで、声をしっかり出して発音練習をしましょう。外国語は単なる知識ではなく使って初めて意味があるということと常に念頭に置いて学習して頂きたい。

課題に対するフィードバック

提出された課題と小テストに対しては、添削およびコメントを付して返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	韓国語の概要、基本母音6個の練習、出会いの挨拶	ハングルについて、ハンガルの組み合わせ、韓国語の特徴	A
第2回	基本母音10個の練習、基本子音2個別れの挨拶	基本母音の発音と文字を覚える	B,C
第3回	基本子音7個、感謝の挨拶	母音と子音の文字と発音の練習	B,C
第4回	基本子音5個、有声音化の練習	(基本子音5個) 子音の文字と発音の練習	B,C
第5回	濃音、子音と母音のまとめ	濃音の練習、平音・激音・濃音の区別練習ができる。(基本子音14個) 子音の練習、単語を読む、意味を調べる)	B,C
第6回	合成母音11個	母音の組み合わせの理解 課題のプリント	B,C
第7回	終声4個、仮名のハングル表記(人名、地名)の練習	カナをハングルで表記する練習。自分の名前を韓国語で書ける、(家族の名前をハングルで書く)	B,C
第8回	終声3個、連音の練習	終声のパッチムと文字の練習	B,C
第9回	文字の総まとめ	文字と発音のまとめ	
第10回	第1課 こんにちは①(基本会話、文法と表現)	助詞「〜は」、「〜です、ですか」を使った会話練習	B,C
第11回	第1課 こんにちは②(文型練習、応用会話)	応用会話と自己紹介を作文して発表	B,C
第12回	第2課 だれですか①(基本会話、文法と表現)	会話体の「〜です、ですか」数字の表現を練習	B,C
第13回	漢数字	漢数字の活用	
第14回	第2課 だれですか②(文型練習、応用会話)	漢数字を使って、誕生日、価格が言える、友達紹介の作文	B,C
第15回	総まとめ	文章の作成練習	
	定期試験		

英語講読（基礎）

更新日：2024/03/27 11:38:34

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L108010	授業コード	2L108010
担当教員	豊福 恵						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B5203	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
---	-------	------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	専門分野の書籍や論文を読むための英語力を培うため様々な分野の英文を読み、長文を読むことに慣れ、読解力の基礎を身に付けることを目的とする。
方法	授業は基本的に教科書に沿って行う。学生は主に小グループで各テーマに取り組み、設問に解答してもらう。内容・単語・文法等の解説はPower Pointで提示して行う。

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

毎回必ず教科書と辞書を持参すること。

到達目標

1	読解力の基礎を身に付け、英語長文を読み内容を理解することができる。
2	各テーマの単語・文法・内容を理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	小テスト	30
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	Reading Access, New Edition - Skills for Academic Success (読解力の基礎を固めるためのリーディングスキル<新版>)	センゲージラーニング	山科美和子、横山三鶴、沖野泰子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

英語や英語長文に対して苦手意識を持っている人も多いと思いますが、英語で書かれたものが読めるようになると情報収集の範囲が格段に広がります。分かりやすい授業を心がけるのでみなさんも積極的に授業に参加して下さい。

課題に対するフィードバック

小テストは授業内で解答を提示、翌週に返却する。

その他提出物については、コメントをつけて返却、あるいは重要なものを抜粋しクラス全体で翌週に共有する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	イントロダクション、英語長文読解のための基礎知識	英語や英語長文に対する自分の意見を簡単にまとめておく。 扱った内容の復習。	
第2回	Chapter 1, College and Work: You Can Do Both!① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第3回	Chapter 1, College and Work: You Can Do Both!② (Reading Skill I, Topics for Discussion and Writing)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第4回	Chapter 2, A New Way to Apply to College① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第5回	Chapter 2, A New Way to Apply to College② (Reading Skill, Topics for Discussion and Writing)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第6回	Chapter 3, How Alike Are Identical Twins?① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第7回	Chapter 3, How Alike Are Identical Twins?② (Reading Skill, Topics for Discussion and Writing)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第8回	Chapter 4, A Healthy Diet for You and Your Family① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第9回	Chapter 4, A Healthy Diet for You and Your Family② (Reading Skill, Topics for Discussion and Writing)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第10回	Chapter 5, Volunteer Vacations① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第11回	Chapter 5, Volunteer Vacations② (Reading Skill, Topics for Discussion and Writing)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第12回	Chapter 6, Improving Lives with Pet Therapy① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第13回	Chapter 6, Improving Lives with Pet Therapy② (Reading Skill, Topics for Discussion and Writing)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第14回	Chapter 7, Robots: The Face of Future① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B
第15回	Chapter 7, Robots: The Face of Future② (Reading Skill, Topics for Discussion and Writing)、授業のまとめ	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A,B

英語講読（応用）

更新日：2024/03/27 11:38:36

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L108110	授業コード	2L108110
担当教員	豊福 恵						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B5301	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
---	-------	------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	専門分野の書籍や論文を読むための英語力を培うため様々な分野の英文を読み、正確に内容を理解する力を身に付け、読解力を向上させることを目的とする。
方法	授業は基本的に教科書に沿って行う。学生は各テーマに取り組み、設問に解答してもらう。内容・単語・文法等の解説はPowerPointで提示して行う。

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

毎回必ず教科書と辞書を持参すること。

大学院進学を考える学生の履修が望ましいが、興味のある学生は歓迎する。

到達目標

1	やや難解な英語長文を読み内容を理解することができる。
2	各テーマの英文について単語・文法・内容を理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	80
到達目標②	小テスト	20
到達目標③		
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	Reading Choice, New Edition - Skills for Academic Success (現代のトピックを読むためのリーディングスキル<新版>)	センゲージラーニング	山科美和子、横山三鶴、沖野泰子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

英語や英語長文に対して苦手意識を持っている人も多いと思いますが、英語で書かれたものが読めるようになって情報収集の範囲が格段に広がります。分かりやすい授業を心がけるのでみなさんも積極的に授業に参加して下さい。

課題に対するフィードバック

小テストは授業内で解答を提示、翌週に返却する。

その他提出物については、コメントをつけて返却、あるいは重要なものを抜粋しクラス全体で翌週に共有する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	イントロダクション、英語長文読解のための基礎知識	英語や英語長文に対する自分の意見を簡単にまとめておく。 扱った内容の復習。	
第2回	Chapter 1, Our Internal Clock: It's About Time① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第3回	Chapter 1, Our Internal Clock: It's About Time② (Reading Skill, Information Recall, Critical Thinking)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第4回	Chapter 2, Is It OK to Be Late?① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第5回	Chapter 2, Is It OK to Be Late?② (Reading Skill, Information Recall, Critical Thinking)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第6回	Chapter 3, Technology Competes with Family Time① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第7回	Chapter 3, Technology Competes with Family Time② (Reading Skill, Information Recall, Critical Thinking)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第8回	Chapter 4, Sign Language for Everyone① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第9回	Chapter 4, Sign Language for Everyone② (Reading Skill, Information Recall, Critical Thinking)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第10回	Chapter 5, Our Kids Are Growing Up Too Fast!① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第11回	Chapter 5, Our Kids Are Growing Up Too Fast!② (Reading Skill, Information Recall, Critical Thinking)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第12回	Chapter 6, Loneliness: How Can We Overcome It?① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第13回	Chapter 6, Loneliness: How Can We Overcome It?② (Reading Skill, Information Recall, Critical Thinking)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第14回	Chapter 7, Solving Crimes with Modern Technology① (Reading Analysis)	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A
第15回	Chapter 7, Solving Crimes with Modern Technology② (Reading Skill, Information Recall, Critical Thinking)、授業のまとめ	教科書の指定部分の予習。 扱った内容の復習。	A

情報リテラシー

更新日：2024/03/27 11:38:37

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L210110	授業コード	2L210110A, 2L210110B, 2L210110C
担当教員	姚 静雅						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B6101	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
---	-------	------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	社会で求められる情報リテラシー（情報活用能力）の基盤要素である「問題を発見し解決を思考する枠組み」、「情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断するための知識や態度」、「情報通信技術に関する科学的な理解や技能」を身につける。また、このための手段として、PC操作やOffice系ソフトの操作に慣れる。
方法	Teamsにアップロードされる講義資料、ならびにパソコン操作の個人ワークから重要性や各要点を理解する。

履修条件

履修する上の留意点

毎回の授業で説明した課題（成果物）が提出されていない場合は減点します。

到達目標

1	コンピュータの知識・情報倫理を学習するとともに、基本的情報処理技術を修得できる。
2	オフィス系ソフトでレポートを作成することができる。
3	収集情報から考えをまとめ、オフィス系ソフトを使ってプレゼンテーションをすることができる。
4	オフィス系ソフトで表計算を使い、基礎的な数値解析ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講態度、成果物	25
到達目標②	受講態度、成果物	25
到達目標③	受講態度、成果物	25
到達目標④	受講態度、成果物	25

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	情報リテラシー アプリ編 Windows10, Office2019対応	FOM出版	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

情報リテラシーを実践できる人になってください。また、「PCを使ってできること」を1つでも増やしてほしいです。

課題に対するフィードバック

- ・自学自習課題について授業内で発表し、学生間や教員との情報や意見の交換をおこなう。
- ・疑問点があれば随時対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	Windows PC 基礎知識と基本操作	予習：Windows PCの設定でやりたいことを抽出する 復習：上記やりたいことのブラッシュアップと実践	A
第2回	Word① 基本操作	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：操作に慣れておく	A
第3回	Word② 図や表を含む文書	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当文書を作成する	A
第4回	Word③ レポート作成の基本	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当文書を作成する	A
第5回	Word④ ビジネス文書の作成	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当文書を作成する	A
第6回	Word⑤ オリジナルレポートの作成	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当文書を作成する	A
第7回	Excel① 基本操作	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：操作に慣れておく	A
第8回	Excel② 絶対参照・相対参照	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当エクセルファイルを作成する	A
第9回	Excel③ グラフの作成	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当エクセルファイルを作成する	A
第10回	Excel④ データベース機能の利用	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当エクセルファイルを作成する	A
第11回	Excel⑤ 関数の利用	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当エクセルファイルを作成する	A
第12回	PowerPoint① 基本操作	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：操作に慣れておく	A
第13回	PowerPoint② オリジナルスライド原稿の作成	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：パワポ原稿を作成する	A
第14回	PowerPoint③ パワポを使った発表のコツ	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：パワポ原稿を作成する	A
第15回	PowerPoint④ 最終発表	予習：今までの授業内容を振り返る 復習：印象に残った知識または技術を記録する	A

はじめての情報活用

更新日：2024/03/27 11:38:39

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L211010	授業コード	2L211010
担当教員	加藤 隆広						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B6102	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	パソコンの初心者に向けた授業です。 Windowsの基本操作、知っておくと便利な活用方法、ちょっとしたトラブルの対処方法を身につけます。
方法	各自に貸与されているパソコンを用いて、実際に操作しながら進めていきます。 あわせて、ITの基本用語についても解説し、一つ一つ理解していきます。

履修条件

パソコンの初心者であること。
貸与されたパソコンの基本的な操作、活用方法がわからないこと。
積極的に取り組む意思があること。

履修する上の留意点

貸与されているパソコンを必ず持参すること。
パソコンはしっかり充電してあること。
上記の条件を守れない場合は出席となりません。

到達目標

1	Windows11に基本操作およびパソコン全体の設定変更ができる。
2	パソコンの日常起こりうるトラブルに対処できる。
3	ファイル・フォルダーの操作および記録メディアの使い分けができる。
4	OneDriveを使いこなすことができる。
5	ブラウザやメールの基本操作と設定変更ができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	毎回提出する小テストおよび期末試験	20
到達目標②	毎回提出する小テストおよび期末試験	20
到達目標③	毎回提出する小テストおよび期末試験	20
到達目標④	毎回提出する小テストおよび期末試験	20
到達目標⑤	毎回提出する小テストおよび期末試験	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	パソコンで困ったときに開く本2024	朝日新聞出版	朝日新聞出版

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

提出された小テストに関するフィードバックを次回の授業で解説します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	Windows11の基本操作 IT用語解説（1）		
第2回	パソコン全体の設定の基本（画面設定とタスクバー設定） IT用語解説（2） これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題（疑問点、詳しく知りたい内容）を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	
第3回	パソコン全体の設定の基本（その他の設定） IT用語解説（3） これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題（疑問点、詳しく知りたい内容）を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	
第4回	アプリのインストールと削除 IT用語解説（4） これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題（疑問点、詳しく知りたい内容）を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	A,C
第5回	メール（Outlook）の設定と使い方①基本設定 IT用語解説（5） これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題（疑問点、詳しく知りたい内容）を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	A,C
第6回	メール（Outlook）の設定と使い方②拡張設定と実践 IT用語解説（6） これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題（疑問点、詳しく知りたい内容）を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	A,C
第7回	OneDriveの使い方と共有設定 IT用語解説（7） これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題（疑問点、詳しく知りたい内容）を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	A,C
第8回	ブラウザの設定と使い方 IT用語解説（8） これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題（疑問点、詳しく知りたい内容）を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	
第9回	Wordの基本操作 IT用語解説（9） これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題（疑問点、詳しく知りたい内容）を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	
第10回	Excelの基本操作 IT用語解説（10） これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題（疑問点、詳しく知りたい内容）を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	

第11回	PowerPointの基本操作 IT用語解説(11) これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題(疑問点、詳しく知りたい内容)を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	
第12回	ファイルとフォルダーの基本 IT用語解説(12) これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題(疑問点、詳しく知りたい内容)を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	
第13回	記録メディアの基本的な使い方 IT用語解説(13) これまでの操作のQ&A	テキストを読んで解決したい課題(疑問点、詳しく知りたい内容)を選んでおく。 授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	
第14回	知っておくと便利な活用方法 IT用語解説(14) これまでの操作のQ&A	授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	A,C
第15回	パソコンのバックアップ IT用語解説(15) これまでの操作のQ&A	授業で取り上げたIT用語は試験で問うので、説明できるようにしておく。	
	定期試験		

統計学入門

更新日：2024/03/27 11:38:41

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L211110	授業コード	2L211110
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B6104	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース選択必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	この授業では集団の特徴を調べ、まとめるための記述統計について学びます。授業の中では日常生活に関連したデータや受講者を対象に調査したデータなどの具体的にイメージしやすい身近な例を用いて、それらを要約、分析するための統計学の基礎的な手法を学びます。また、そうしたデータを表やグラフなどで相手に分かりやすく伝えるための表現方法についても学びます。
方法	各回の講義はパワーポイント、配布資料を用いて授業を行います。また、テーマに合わせてエクセルで実際にデータの処理を行います。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	適切な統計手法を選択し、データをまとめることができる。
2	データを表やグラフなどで示すことができる。
3	データの特徴を読み取り、分析・解釈できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価・各講義課題への取り組み・レポート	30
到達目標②	授業内評価・各講義課題への取り組み・レポート	30
到達目標③	授業内評価・各講義課題への取り組み・レポート	40
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	統計学の図鑑(まなびのずかん)	技術評論社	涌井良幸・涌井貞美
2	マンガでわかる統計学	SBクリエイティブ	大上丈彦
3	解きながら学ぶ統計学超入門	技術評論社	大川内隆朗

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

課題について理解が難しかったもの等を取り上げ、次回の講義で時間をとって解説、対応などのフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題(予習・復習)の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス：授業の進め方、統計学はどんな場面で使用されているのか具体例を紹介	予習：「統計」という言葉が使われている場面を調べておく 復習：講義の課題に取り組む	A
第2回	データの種類(質的変数と量的変数)	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第3回	表とグラフの種類と特徴	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第4回	代表値(平均、中央値、最頻値)	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第5回	散布度(分散、標準偏差)とグラフ	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第6回	散布度(四分位範囲)と箱ひげ図	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第7回	標準化と偏差値	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第8回	2つの変数の関係(クロス集計表)	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第9回	2つの変数の関係(散布図)	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第10回	2つの変数の関係(相関係数)	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第11回	2つの変数の関係(ファイ係数、クラメールの連関係数)	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第12回	インフォグラフィックによるデータの表現	予習：配布資料を読み予習をする。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第13回	統計調査の企画	予習：調査してみたいことを考えておく。 復習：調査したい内容をまとめる。	A,B
第14回	統計調査の実施と分析	予習：過去の配布資料を読み、適切な分析手法について考えておく。 復習：調査結果の分析をしておく。	A,B
第15回	まとめ	予習：調査内容を報告できるようにしておく。 復習：報告内容について振り返る。	A,B

統計学概論

更新日：2024/03/27 11:38:43

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L211210	授業コード	2L211210
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B6201	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	この授業の序盤では集団の特徴をまとめるための記述統計の概要を学びます。その後、調査、実験などで得られたデータの背後にある集団全体の特徴を把握するための推測統計や判断・意思決定の手助けとなる統計的仮説検定の基礎を学びます。こうした統計の基礎知識を踏まえて、授業内で簡易な実験や調査を行うことで実際にデータを取得し、データを分析・考察する力を養うことを目指します。
方法	各回の講義はパワーポイントや配布資料を用いて行います。また、エクセルやWeb上の統計ソフトを利用し、統計手法を用いたデータ処理を行います。

履修条件

統計学入門の講義を履修しておくことが望ましい

履修する上の留意点

履修条件の科目について、簡単な知識があると良い。

到達目標

1	基本的な統計学の用語について説明できる。
2	データに応じた適切な統計手法を選択できる。
3	データの分析結果を解釈し、文章や図表で示すことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価・各講義課題への取り組み・レポート	30
到達目標②	授業内評価・各講義課題への取り組み・レポート	30

到達目標③	授業内評価・各講義課題への取り組み・レポート	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	やってみよう！実証研究入門	ナカニシヤ出版	古谷嘉一郎・村山綾
2	統計学の図鑑(まなびのずかん)	技術評論社	涌井良幸・涌井貞美
3	入門 実践する統計学	東洋経済新報社	藪友良

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

講義に関する質問や課題の理解度に応じて、次回の講義においてフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	統計学概論の概要	予習：統計学のイメージについて考えてくる 復習：講義の課題に取り組む	A
第2回	代表値	予習：代表値について調べてくる 復習：講義の課題に取り組む。	A
第3回	散布度	予習：分散と標準偏差について調べてくる。復習：講義の課題に取り組む。	A
第4回	母集団と標本、正規分布	予習：配布資料を読み正規分布について調べてくる。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第5回	統計的仮説検定の考え方	予習：配布資料を読み仮説検定について調べてくる。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第6回	平均値の差の検定：t検定の概要と実験データの取得	予習：配布資料を読みt検定について調べておく。 復習：講義の課題に取り組む。	A,B
第7回	平均値の差の検定：実験データの分析、考察	予習：配布資料を読みt検定の使用方法について調べておく。 復習：講義の課題に取り組む。	A,B
第8回	分散分析：分散分析の概要と実験データの取得	予習：配布資料を読み分散分析について調べておく。 復習：演習課題に取り組む。	A,B
第9回	分散分析：実験データの分析、考察	予習：配布資料を読み分散分析の使用方法について調べておく。 復習：講義の課題に取り組む。	A,B
第10回	相関分析：相関分析の概要と調査データの取得	予習：配布資料を読み相関係数について調べておく。 復習：講義の課題に取り組む。	A,B
第11回	相関分析：調査データの分析、考察	予習：配布資料を読み相関分析の使用方法について調べておく。 復習：講義の課題に取り組む。	A,B
第12回	自由回答データの分析：テキストマイニングの概要	予習：テキストマイニングはどんな分析か調べておく。 復習：講義の課題に取り組む。	A
第13回	自由回答データの分析：調査の企画	予習：自由回答の質問項目を考えておく。 復習：講義の課題に取り組む。	A,B
第14回	自由回答データの分析：調査データの分析、考察	予習：自由回答データの分析をしておく。 復習：報告資料を作成する。	A,B

第15回	まとめ	予習：調査結果を報告できるようにしておく。 復習：講義全体、報告内容について振り返る。	A
------	-----	--	---

数理科学概論

更新日：2024/03/27 11:38:45

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L211310	授業コード	2L211310
担当教員	深見 龍太郎						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B6202	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	この授業で扱う分野は数学だけでなく、自然科学や社会科学における計算をする上でも基礎になります。現時点ではあまり興味を持っていないくても、学んでおくことで今後必要になったとき、効果的に学習が進めやすくなると思います。各項目の初期では初等レベルの内容から導入します。この段階を疎かにするとその後の学習も十分な効果を得られなくなってしまうので着実に進めます。よって、数学が苦手だった方も学習しやすいと思います。ある程度学習が進んだ後、時間次第では他分野での用いられ方などをみていきます。
方法	授業ではパワーポイントと黒板を用います。授業の始めにおいて、主に前回内容の復習を行います。状況次第で前回だけでなくさらに前の内容の復習及び発展なども行い、着実性を重視して進めていきます。ただ問題を解くだけでなく、その数学が持つ本質的な意味を理解していくように学習します。

履修条件

特にありません。
 但し、学年や所属コースによって個別に定められている要件に関しては各自確認してください。

履修する上の留意点

特にありません。

到達目標

1	数式の意味を理解できる。
2	数学の問題を解くことができる。
3	数学を使った応用ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	20
到達目標②	授業態度	20
到達目標③	定期試験	60
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に指示します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に指示します。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

各項目の初期段階では非常に基礎的な内容から導入します。数学が苦手だった方も十分に学習しやすいように進めていきます。

課題に対するフィードバック

設定目標に即した観点に基づき評価し、筆記または口頭による助言をもってフィードバックします。
主に復習時において、習得度合いを確認しつつ授業を進行します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	指数の基礎	指数計算の基礎について学ぶ。 予習 指数の基本法則について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
第2回	関数と指数	様々な関数の指数計算ができるようになる。 予習 指数関数の基本法則について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	A
第3回	対数とは	対数の意味を理解する。 予習 対数の基本法則について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
第4回	対数の基礎	対数の基礎計算ができるようになる。 予習 対数計算の基本事項について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
第5回	対数の性質	対数の性質について理解する。 予習 対数が持つ基本的な性質について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	A
第6回	関数と対数	様々な関数の対数計算ができるようになる。 予習 対数関数の基本法則について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
第7回	極限とは	極限の基礎について学ぶ。 予習 極限の意味について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
第8回	極限の基礎	極限の基礎計算ができるようになる。 予習 極限の基本法則について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	A
第9回	微分とは	微分の意味を理解する。 予習 微分の意味について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
第10回	微分の基礎	微分の基礎計算ができるようになる。 予習 微分の基本法則について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
第11回	関数と微分	様々な関数の微分について理解する。 予習 微分の基本的な計算事項について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	A

第12回	積分とは	積分の意味を理解する。 予習 積分の意味について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
第13回	積分の基礎	積分の基礎計算ができるようになる。 予習 積分の基本法則について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
第14回	関数と積分	様々な関数の積分について理解する。 予習 積分の基本的な計算事項について見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	A
第15回	微積分応用	微積分の用いられ方を学び、応用計算ができるようになる。 予習 微分と積分の関係性や法則、計算事項などを見直しておく 復習 講義で学んだ公式や演習問題を復習しておく	
	定期試験		

産業・組織と人間行動の理解

更新日：2024/03/27 11:38:47

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L301030	授業コード	2L301030A, 2L301030B
担当教員	金井 篤子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B7101	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以降の入学学生は全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	大学を卒業後、多くの人は何らかの職業に就き、組織に参入することになる。このため、産業・組織におけるさまざまな人間行動における心理学的知見について、学んでおくことは有用である。産業・組織と人間行動の視点を持つことで、実際に働き始めた後の組織現象の理解につながり、大学生活においても活用できると考えられるからである。本講義では産業・組織と人間行動について心理学的知見から検討する。
方法	講義およびグループディスカッションで理解を深める。

履修条件

なし。

履修する上の留意点

毎回の授業の課題は必ず提出してください。

到達目標

1	産業・組織におけるさまざまな人間行動についての心理学的知見を説明できる。
2	産業・組織におけるさまざまな人間行動についての心理学的知見から自分の大学生活を振り返ることができる。
3	産業・組織におけるさまざまな人間行動についての心理学的知見を大学生活や社会生活に応用できる。
4	グループディスカッションに積極的に参加できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	最終レポート	60
到達目標②	リアクションペーパー	10

到達目標③	リアクションペーパー	10
到達目標④	ディスカッションへの参加態度，リアクションペーパー	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる産業・組織心理学	ミネルヴァ書房	山口裕幸・金井篤子（編）

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業の中で適宜紹介します。		

オープンな教育リソース

授業の中で適宜紹介します。

学生へのメッセージ

満足度は関与度に比例するという心理学の知見があります。積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

リアクションペーパーについては，次回の講義の際にフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	1 産業・組織心理学の歴史とテーマ 教科書第Ⅰ章 P 2～23	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には，リアクションペーパーで授業で考えたこと，疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第2回	ワーク・モチベーション（1）ワーク・モチベーションとは 教科書第Ⅱ章 P 24～41	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には，リアクションペーパーで授業で考えたこと，疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第3回	ワーク・モチベーション（2）動機づけの内容理論 教科書第Ⅱ章 P 24～41	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には，リアクションペーパーで授業で考えたこと，疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第4回	ワーク・モチベーション（3）動機づけの過程理論 教科書第Ⅱ章 P 24～41	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には，リアクションペーパーで授業で考えたこと，疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第5回	職場のコミュニケーションと人間関係（1）集団の特性 教科書第Ⅵ章 P 98～119 なお，教科書第Ⅲ章 P 42～59 採用と面接の理論，教科書第Ⅳ章 P 60～75 人事評価の理論，教科書第Ⅴ章 P 76～97 のキャリア発達については，2年生のキャリア科目で扱う。	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には，リアクションペーパーで授業で考えたこと，疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第6回	職場のコミュニケーションと人間関係（2）チームワークとコミュニケーション 教科書第Ⅵ章 P 98～119	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には，リアクションペーパーで授業で考えたこと，疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第7回	職場のコミュニケーションと人間関係（3）集団の意思決定 教科書第Ⅵ章 P 98～119	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には，リアクションペーパーで授業で考えたこと，疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第8回	リーダーシップ（1）リーダーシップとは 教科書第Ⅶ章 P 120～139	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には，リアクションペーパーで授業で考えたこと，疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B

第9回	リーダーシップ（2）リーダーシップ理論 教科書VII章P120～139	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第10回	消費者行動とマーケティング（1）消費者の購買意思決定 教科書VIII章P140～155	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第11回	消費者行動とマーケティング（2）マーケティングと購買リスク 教科書VIII章P140～155	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第12回	仕事の能率と安全（1）ヒューマンエラーと安全文化 教科書IX章P156～171	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第13回	仕事の能率と安全（2）ヒューマンファクターとユーザインターフェイス 教科書IX章P156～171	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第14回	職場のストレスとメンタルヘルス（1）ストレス理論 教科書X章P172～192	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第15回	職場のストレスとメンタルヘルス（2）ストレスへの対処とソーシャルサポート 教科書X章P172～192	事前に該当する教科書のページに目を通し、疑問点などをまとめておくこと。 授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
	最終レポート		

リフレクティブラーニング (PDCA)

更新日：2024/03/27 11:38:49

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2L306010	授業コード	2L306010A, 2L306010B
担当教員	桑木 康宏						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B7001	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以降の入学学生は全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
---	-------	--

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	<p>卒業をして社会人になると、基本的には答えのない問題に取り組み続けることになります。具体的には、次に何に組むべきかを自分で決め、どうすればうまくいくかを考え、実践し、結果を評価したうえで、次にどうすべきかを提案することの繰り返しです。</p> <p>最初は難しく感じるかもしれませんが、最初はできなくて当然です。練習もしていないのにできる人はいません。できるようになるためには練習が必要です。</p> <p>本授業では、「自分の学修」をテーマに、次に何に取り組むべきかを自分で決め、どうすればうまくいくかを考え、実践し、結果を評価したうえで、次にどうすべきかを定めるプロセスを練習します。これを単に自分だけで考えるのではなく、仲間に頼り、より多くの人の意見に耳を傾けながら取り組むことで、他者の力を借りながら次に何をするか考えることの価値を経験に基づいて説明できるようになることを目指します。</p>
方法	<p>■形式：講義・個人別ワーク・グループワーク</p> <p>■内容：教員はできるだけ15分以上連続で話さないようにします。受講者が個人またはグループで、ワークに取り組み、考えたことを整理し、ワークシートに記載を行ったり、自己評価システム上に記録として残したり、しながら授業を進めます。</p> <p>■利用するもの：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・APortalの「自己評価機能」への入力を行います。 ・APortalの「レポート機能」を利用してワーク結果を提出してもらうことがあります。 ・Microsoft Teamesでワーク結果を提出してもらうことがあります。

履修条件

履修する上の留意点

4年間各学期末に2回ずつある授業です。必修科目ですので、開講日程を必ず確認してください。

到達目標

1	目標を立て振り返りを行う態度をとることができる。
---	--------------------------

2	他者の意見を参考に目標を立てる価値を経験に基づいて説明することができる。
3	自分の行動・状態、並びに取り巻く環境・状況を俯瞰的に捉え、次に何をすべきかを自分の大学生活をテーマに繰り返し考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	①授業参加の態度 ②自己評価システムの「学修計画と振り返り」の記載量	80
到達目標②	ワークシート（授業中に配布します）	10
到達目標③	ワークシート（授業中に配布します）	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

特になし

学生へのメッセージ

他の人と話をしてもらうことがあります。その時には、グループにうまく入れずに困っている他の受講生に声をかけたり、自分をうまく表現できない受講生には話しやすくなるようサポートをしたり、また、ゆっくり時間をかけて耳を傾けたり、仲間を積極的にサポートする姿勢で参加してください。

課題に対するフィードバック

提出物に対しては履修生同士で相互にアドバイスをしあうと共に、教員より講評を行います。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	■ 1年生前期末 I ①自己評価システムへの入力方法を知る ②入力の狙いを知る	未入力事項の点検と入力	A,C
第2回	■ 1年生前期末 II ①大学生活の学びの構造を知る ②自分の目標を整理する ③システムへの登録を行う	自分の目標を意識して1年生後期の生活を送る。次回までに、2年生の過ごし方を考える。	A,C
第3回	■ 1年生後期末 I ①前回の授業の振り返りとフィードバック ②自分の目標のフォーカス度チェック ③考えたことの共有	未入力事項の点検と入力	A,C
第4回	■ 1年生後期末 II ①半年間の振り返りを行う ②2年生の過ごし方の計画を立てる ③受講生同士で相互にアドバイスしあう	自分の目標を意識して2年生前期の生活を送る。	A,C
第5回	■ 2年生前期末 I ①前回の授業の振り返りとフィードバック ②学習方略&しなやかなマインドセット ③考えたことの共有	未入力事項の点検と入力	A,C
第6回	■ 2年生前期末 II ①半年間の振り返りを行う ②今後の大学生活のシナリオライト ③4年間の見通しの再確認&2年生の過ごし方の修正	自分の計画を意識して2年生後期の生活を送る。	A,C
第7回	■ 2年生後期末 I ①前回の授業の振り返りとフィードバック ②就職に向けた準備の準備：今後の流れ ③考えたことの共有	未入力事項の点検と入力	A,C
第8回	■ 2年生後期末 II ①半年間の振り返りを行う	自分の計画を意識して3年生前期の生活を送る。	A,C

	③エントリーシートのネタ作り：大学生活をストーリーで語る ③残り2年間の計画のブラッシュアップ。		
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

キャリア発達の心理学

更新日：2024/03/27 11:38:51

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L307010	授業コード	2L307010A, 2L307010B
担当教員	金井 篤子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B7201	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	大学卒業後自分がどのようなキャリアを積んでいくのか、どのように生きていくのかについて、キャリア発達の知見を展望することにより、自身のキャリアのパースペクティブを持つことを目的とする。
方法	講義およびグループディスカッションで理解を深める。講義終了時にはリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーでは、講義についての考えをまとめるとともに、意見や質問があれば記入する。意見や質問には次回の講義で回答し、双方向のやり取りのある授業とする。

履修条件

1年後期「産業・組織と人間行動の理解」を履修していることが望ましい。

履修する上の留意点

毎回の授業の課題は必ず提出してください。

到達目標

1	キャリア発達についての心理学的知見を説明できる。
2	キャリア発達についての心理学的知見から自分の大学生活を振り返ることができる。
3	キャリア発達についての心理学的知見から大学生活や社会生活を展望できる。
4	グループディスカッションに積極的に参加できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	最終レポート	60
到達目標②	リアクションペーパーおよび最終レポート	10
到達目標③	リアクションペーパーおよび最終レポート	10
到達目標④	受講態度, リアクションペーパー	20

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる産業・組織心理学	ミネルヴァ書房	山口裕幸・金井篤子（編）

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜で紹介する		

オープンな教育リソース

授業中に適宜で紹介する

学生へのメッセージ

主体的に自分のキャリアを考えてみましょう。

課題に対するフィードバック

毎回のリアクションペーパーについて次の授業でフィードバックし、双方向の授業を目指します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	キャリアとは	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第2回	キャリア発達とは、キャリア発達理論（1）スーパーのライフ・キャリア・レインボー	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第3回	キャリア発達とは、キャリア発達理論（2）シャインのキャリアサイクル理論	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第4回	キャリア初期の心理学（1）	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第5回	キャリア初期の心理学（2）	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第6回	キャリア初期の心理学（3）自分のキャリアサイクルを振り返って、発表してみよう	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第7回	キャリア中期の心理学（1）	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第8回	キャリア中期の心理学（2）	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第9回	キャリア中期の心理学（3）身近な大人にインタビューして、聞き取ったことを発表してみよう	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第10回	キャリア後期の心理学（1）	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第11回	キャリア後期の心理学（2）	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B

		パーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	
第12回	キャリア後期の心理学(3)身近な大人にインタビューして、聞き取ったことを発表してみよう	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第13回	キャリア・パースペクティブとは	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第14回	自分のキャリア・パースペクティブを考えよう	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第15回	自分の現時点におけるキャリア・パースペクティブについて発表しよう	事前に教科書や配布資料に目を通し、疑問点などをまとめておくこと。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
	最終レポート(テーマ:私のキャリア・パースペクティブ)	A4縦2枚程度, 横書き, 40字×30行	

アントレプレナーシップ入門

更新日：2024/03/27 11:38:53

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L308010	授業コード	2L308010
担当教員	金井 篤子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B7202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	単に経営者や起業家を招いて、拝聴するのではなく、受講生一人一人が積極的に議論に参加し、インタラクティブな授業を実施する。企業や経営に纏わる体験やリアルなエピソードを通して、社会でどのような選択肢があるのかを具体的に学ぶ。アントレプレナーシップ・マインドにより、既存の企業やNPOなどにおいても活躍する道があることを理解する。
方法	ゲストによる講演、学生とのワークショップ

履修条件

特になし

履修する上の留意点

毎回、ミニレポートがあります。授業の中での講師のメッセージを理解してください。

到達目標

1	アントレプレナーシップとは何か、自らの言葉で説明できる。
2	多様なキャリアの選択肢それぞれに付随するチャンスとリスクについて説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	平常点（ゲスト講師の講話に対するフィードバック、ディスカッションやワークへの参加）	30
到達目標②	毎回、ゲスト講師毎にミニレポート提出。ミニレポート5点×14回	70
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介します。		

オープンな教育リソース

文部科学省アントレプレナーシップオフィシャルサイト <https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/>

学生へのメッセージ

アントレプレナーシップで新しい社会を切り開こう。

課題に対するフィードバック

毎回提出されたレポートについては評価し、コメントをつけてフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション(授業内容説明) アントレプレナーシップとは何か	予習：シラバスを確認する 復習：本日の内容について振り返る。	A, B
第2回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第3回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第4回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第5回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第6回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第7回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第8回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第9回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第10回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第11回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第12回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第13回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第14回	外部講師による講義とワークショップ	事後ミニレポート	A, B
第15回	事業計画書のフレーム作成	事後ミニレポート（事業計画書）	A, B

キャリアデザインの理論

更新日：2024/03/27 11:38:55

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L309010	授業コード	2L309010A, 2L309010B, 2L309010C
担当教員	金井 篤子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B7203	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	キャリアの選択理論やキャリア・トランジションの理論などの学びを通じて、自分自身のキャリアをデザインする。
方法	講義およびグループディスカッションで理解を深める。講義終了時にはリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーでは、講義についての考えをまとめるとともに、意見や質問があれば記入する。意見や質問には次回の講義で回答し、双方向のやり取りのある授業とする。

履修条件

1年後期「産業・組織と人間行動の理解」2年前期「キャリア発達の心理学」を履修していることが望ましい。

履修する上の留意点

毎回の授業の課題は必ず提出してください。

到達目標

1	キャリアデザインの理論についての心理学的知見を説明できる。
2	キャリアデザインの理論についての心理学的知見から自分自身のキャリアを考えることができる。
3	キャリアデザインの理論についての心理学的知見から大学生活や社会生活を展望できる。
4	グループディスカッションに積極的に参加できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	最終レポート	60
到達目標②	リアクションペーパーおよび最終レポート	10
到達目標③	リアクションペーパーおよび最終レポート	10
到達目標④	受講態度, リアクションペーパー	20
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる産業・組織心理学	ミネルヴァ書房	山口裕幸・金井篤子（編）
2	新版キャリアの心理学 [第2版] キャリア支援への発達のアプローチ	ナカニシヤ出版	渡辺三枝子編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介します。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

主体的に自分のキャリアをデザインしていくツールを学びましょう。

課題に対するフィードバック

毎回のリアクションペーパーについて次の授業でフィードバックし、双方向の授業を目指します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	キャリアデザインとは	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第2回	適性を考える～キャリア選択の理論（1）ホルランドの六角形モデル	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第3回	偶然を必然に変える～キャリア選択の理論（2）クランボルトの計画された偶然性	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第4回	不確実性への適応～キャリア選択の理論（3）サビカスのキャリア構築理論	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第5回	決定のプロセス～キャリア選択の理論（4）ジェラットのキャリア発達における意思決定	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第6回	経済・社会環境の変化に応じて柔軟に変わる～キャリア選択の理論（5）ホルのプロティアン・キャリア	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第7回	終わりから始まる～キャリア・トランジション論（1）ブリッジスのトランジション論	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第8回	トランジションを超える～キャリア・トランジション論（2）シュロスバークの4S理論	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第9回	キャリアの落としどころ～キャリア・アンカー	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第10回	キャリアを促進する人間関係～メンター・プロテージュ関係と垂直的交換関係	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第11回	職場や就活におけるハラスメント	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第12回	ワーク・ライフ・バランス	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第13回	ダイバシティマネジメントとディセントワーク	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第14回	キャリア・カウンセリング	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B

第15回	私のキャリア・デザイン	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
	最終レポート（テーマ：私のキャリア・デザイン）	A4縦2枚程度，横書き，40字×30行	

キャリアデザイン実習（インターンシップ5日以上）

更新日：2024/05/15 10:07:19

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L310010	授業コード	2L310010
担当教員	金井 篤子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B7301	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	キャリアデザインの一環として有意義なインターンシップを行うため、業界研究、自己分析、ジョブカード、インターンシップ先の選択、インターンシップ先への連絡、社会人のマナー、インターンシップの成果のまとめと発表などのトピックについて学ぶ。
方法	講義およびワーク、グループディスカッションで理解を深める。講義終了時にはリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーでは、講義についての考えをまとめるとともに、意見や質問があれば記入する。意見や質問には次回の講義で回答し、双方向のやり取りのある授業とする。

履修条件

履修する上の留意点

毎回の授業の課題等は必ず提出してください。

到達目標

1	自分のキャリアを現時点においてデザインすることができる。
2	自分のキャリアデザインに沿ってインターンシップ先を決定することができる。
3	インターンシップ体験を振り返り、気付きを自分のキャリアデザインに反映することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	リアクションペーパーおよび事前レポート	30
到達目標②	リアクションペーパーおよび事前レポート	30
到達目標③	リアクションペーパーおよび最終レポート	40
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	講義資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する		

オープンな教育リソース

授業中に適宜紹介します。

学生へのメッセージ

主体的にキャリアをデザインしていきましょう。

課題に対するフィードバック

毎回のリアクションペーパーについて次の授業でフィードバックし、双方向の授業を目指します。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス、インターンシップの意義	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第2回	自分のキャリアデザインからインターンシップの目的を考える	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第3回	ジョブカードを作成してみよう（1）	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第4回	自分を知ろう（1）キャリアインタビューで自分を知ろう	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第5回	自分を知ろう（2）入学時のPROGを振り返ってみよう	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第6回	社会経済の動向と業界研究（1）企業を知ろうのイベントに参加しよう	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第7回	社会経済の動向と業界研究（2）関心を持った業界を調べてみよう	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第8回	インターンシップ先を探してみよう（1）	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第9回	インターンシップ先を探してみよう（2）	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第10回	ビジネスマナーを学ぼう（1）挨拶	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第11回	ビジネスマナーを学ぼう（2）電話、メール	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第12回	ビジネスマナーを学ぼう（3）文書、インターンシップ先への依頼状、お礼状	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第13回	インターンシップの成果を發表しよう（1）インターンシップの振り返り	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
第14回	インターンシップの成果を發表しよう（2）成果のまとめの作成	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B

第15回	再びジョブカードを作成してみよう（2）自己分析	授業中に指示のあった課題を提出すること。授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字程度にまとめて提出のこと。	A, B
	最終レポート		

キャリアデザイン演習（仕事生活のための学び）

更新日：2024/03/27 11:39:00

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L311010	授業コード	2L311010
担当教員	金井 篤子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B7302	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	一生にかかるお金の知識、ワーク・ルール、労働に関わる法律や権利、税金や保険、年金、社会保障、消費に関わる注意点など、社会人生活を展望するとともに、就職先を選択し、ジョブカードやエントリーシートの書き方や面接など、自己のプレゼンテーションの仕方を学ぶ。
方法	講義およびワーク、グループディスカッションで理解を深める。講義終了時にはリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーでは、講義についての考えをまとめるとともに、意見や質問があれば記入する。意見や質問には次回の講義で回答し、双方向のやり取りのある授業とする。

履修条件

履修する上の留意点

毎回の授業の課題は必ず提出してください。

到達目標

1	ワークルールなど、社会の仕組みを理解できる
2	自分の社会人生活をイメージできる
3	自分のキャリアの視点からジョブカードやエントリーシートなどを作成できる
4	自分らしさをプレゼンテーションすることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	リアクションペーパー	20
到達目標②	リアクションペーパー	20
到達目標③	リアクションペーパー	20
到達目標④	リアクションペーパーおよびプレゼンテーション	40

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	講義資料を配布します		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜に紹介します		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

主体的に自分のキャリアをデザインしていきましょう。

課題に対するフィードバック

毎回のリアクションペーパーについて次の授業でフィードバックし、双方向の授業を目指します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第2回	ワーク・ルール、労働に関わる法律や権利について知ろう（1）弁護士による講義	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第3回	ワーク・ルール、労働に関わる法律や権利について知ろう（2）前回の講義をうけて、さらに理解を深める	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第4回	ワーク・ルール、労働に関わる法律や権利について知ろう（3）前回の講義をうけて、さらに理解を深める	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第5回	一生にかかるお金の知識、税金や保険、年金について知ろう（1）フィナンシャルプランナーによる講義	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第6回	一生にかかるお金の知識、税金や保険、年金について知ろう（2）前回の講義を受けて、さらに理解を深める	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第7回	一生にかかるお金の知識、税金や保険、年金について知ろう（3）前回の講義を受けて、さらに理解を深める	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第8回	消費に関わる注意点について知ろう（1）消費生活センターによる講義	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第9回	消費に関わる注意点について知ろう（2）前回の講義を受けて、さらに理解を深める	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第10回	消費に関わる注意点について知ろう（3）前回の講義を受けて、さらに理解を深める	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第11回	社会保障について知ろう（1）社会保険労務士による講義	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第12回	社会保障について知ろう（2）前回の講義を受けて、さらに理解を深める	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第13回	社会保障について知ろう（3）前回の講義を受けて、さらに理解を深める	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
第14回	講義を受けて、就職後のプランを立ててみよう	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B

第15回	プレゼンテーション	授業後には、リアクションペーパーで授業で考えたこと、疑問点などを200字以内にまとめて提出のこと。	A, B
	最終レポート		

データサイエンス

更新日：2024/03/27 11:39:03

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L701010	授業コード	2L701010A, 2L701010B	
担当教員	姚 静雅							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	B6103	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース選択必修			授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
---	-------	------------------

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	IoTやAI、データサイエンスは第4次産業革命とも呼ばれる技術革新であり、社会を大きく変える可能性を秘めている。中でもデータサイエンスは、単なる情報解析ではなく、様々な社会問題の解決や、新しい価値の創造に資することが期待されている。本科目では、大学周辺や身の回りの課題解決をテーマとして、データサイエンスの基礎を実践的に身につける。
方法	講義と演習で重要性や各要点を理解する。Teamsにアップロードされる講義資料、ならびに個人ワークおよびグループワークにより、チームとして大学周辺や身の回りの課題の発見から解決策の提案までを行う。授業では、パソコンを使用した課題の作成と提出、アンケートの回答も行う。

履修条件

履修する上の留意点

毎回の授業で説明した課題（成果物）が提出されていない場合は減点します。

到達目標

1	社会におけるデータ・AI活用を理解し説明できる
2	データを正しく活用するための方法や留意点を理解し説明できる
3	データ処理や統計解析の基本を理解し説明できる
4	日常生活でデータサイエンスの活用を考えることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講態度、成果物	25
到達目標②	受講態度、成果物	25
到達目標③	受講態度、成果物	25

到達目標④	受講態度、成果物	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	データサイエンス講義	オライリージャパン	Rachel Schutt, Cathy O'Neil
2	データサイエンスの基礎	講談社	浜田 悦生
3	絵と図でわかる データサイエンス	技術評論社	上藤 一郎

オープンな教育リソース

リテラシーレベル教材（数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム）、東京大学 数理・情報教育研究センター、http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html

学生へのメッセージ

文理関係なくデータサイエンスに興味関心を持ち、自ら考えて実践できるようになるよう期待します。

課題に対するフィードバック

- ・ 自学自習課題について授業内で発表し、学生間や教員との情報や意見の交換をおこなう。
- ・ 疑問点があれば随時対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	健康社会におけるデータサイエンスの重要性	予習：シラバスを確認する 復習：データサイエンスの重要性を記録する	A
第2回	大学周辺や身の回りの課題の発見	予習：問題と課題の違いを確認する 復習：発見した課題を精査する	B,C
第3回	研究計画書	予習：勉強と研究の違いを確認する 復習：研究計画書（仮）を作成する	B,C
第4回	ビッグデータ	予習：ビッグデータの利活用事例を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第5回	IoTとIoB	予習：IoTやIoBの利活用事例を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第6回	AI	予習：AIやディープラーニングの利活用事例を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第7回	情報倫理、情報セキュリティ	予習：情報倫理やセキュリティを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第8回	データを知る	予習：量的データと質的データを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第9回	データを読む	予習：集計データのグラフを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第10回	データを分類する	予習：分類のための分析手法を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第11回	データから予測する	予習：回帰分析を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第12回	プログラミングのメリット	予習：プログラミングを習得するメリットを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第13回	課題演習と発表①	予習：研究計画書からプレゼン資料を作成する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第14回	課題演習と発表②	予習：研究計画書からプレゼン資料を作成する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第15回	フィードバックとまとめ	予習：研究計画書を仕上げる 復習：報告書（仮）を作成する	

笑いと健康

更新日：2024/03/27 11:37:58

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L702010	授業コード	2L702010
担当教員	西田 元彦						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B4102	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	医師
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	「笑い」が人間に与える影響についてこれまで様々な研究されている。その中でも近年「笑い」が健康によい効果を与えることが判明している。「上手に笑う」ことで、対人関係が改善するだけでなく、免疫力が向上し、痛みやストレスの改善するなどの研究事例を学び、「笑い」を上手に日常生活の中に取り入れ、より良い人間関係や健康を高める方法を修得する。
方法	パワーポイントを利用した講義が中心となるが、笑いヨガの体験、笑い声の出し方のボイストレーニング、素敵な笑顔を作る微笑み筋トレトレーニングの実習も取り入れていく。

履修条件

- 履修人数を20人までとしており、制限人数を超えた場合は、抽選により受講者を決定します。
- 短大生も受講します。
- 1年生の受講を優先します。
- テキスト（笑いの健康学 TEXT BOOK）は必ず購入し、毎回忘れずに持参してください。

履修する上の留意点

最終日以外は、2コマ続きの対面授業を行います。授業日は、授業計画欄を確認してください。

到達目標

1	笑いの種類と意味、胎児から幼児の笑いの特徴を説明できる。
2	笑いが脳に及ぼす影響を説明できる。
3	笑いがストレスに与えるメカニズムを説明できる。
4	笑いが実際の病気の改善にどのような影響を与えているか説明できる。
5	人に対して良い印象を与える笑顔の作り方を学び実践できる。
6	笑いの人間に与える影響を知りどう活用していくかを説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト	10
到達目標②	小テスト、レポート	10
到達目標③	小テスト	5
到達目標④	小テスト、レポート	10
到達目標⑤	小テスト、レポート	10
到達目標⑥	まとめテスト	55

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	笑いの健康学 TEXT BOOK	シンプリブックス	西田元彦

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

笑いや笑顔がもたらす健康効果を理解し、「笑顔メイク」「笑顔の作り方」「笑いヨガの体験」の実習を通して、実際の社会で活用してほしい。

課題に対するフィードバック

提出された課題、小テストに対して、次回講義冒頭で解説、意見交換、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	笑い学総論 【9月26日（木）4限目】	予習：身の回りにある笑いの種類を調べる 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第2回	笑いとの関係(内分泌系) 【9月26日（木）5限目】	予習：脳の基本的な役割をまとめておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第3回	笑いとの関係(神経系) 【10月3日（木）4限目】	予習：脳の基本的な役割をまとめておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第4回	笑いとのストレス 【10月3日（木）5限目】	予習：ストレスと病気との関係をまとめる 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第5回	微笑み筋マッサージ（人から好かれる笑顔メイク） ゲストスピーカー:佐藤由美（話し方、メイクコーディネーター） 【10月10日（木）4限目】	予習：笑う時に使われる筋肉について調べておく 復習：鏡をみて上手な笑顔ができるよう練習する	A,C
第6回	笑顔トーク（人から好かれる話し方） ゲストスピーカー:佐藤由美（話し方、メイクコーディネーター） 【10月10日（木）5限目】	予習：自分の日頃の話し方が相手にどのような印象をもたれるか、相手に伝わりやすいかを考えておく。 復習：学んだことを実際の会話に取り入れる	A,B
第7回	作り笑い、素敵な笑顔の効能、効果 【10月17日（木）4限目】	予習：楽しい時の笑いを作り笑いの違いを調べておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第8回	作り笑い、素敵な笑顔の作り方 【10月17日（木）5限目】	予習：健康に良い作り笑いについて調べておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第9回	落語から学ぶコミュニケーション術 ゲストスピーカー:微笑亭さん太(落語家、新作落語作家) 【10月24日（木）4限目】	予習：これまでの授業で学んだことを見直しておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第10回	胎児から幼児の笑い 【10月24日（木）5限目】	予習：これまでの授業で学んだことを見直しておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第11回	笑いの健康効果1（認知症、がん等） 【10月31日（木）4限目】	予習：認知症やがんの基本的なことを調べておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第12回	笑いの健康効果2（高血圧、糖尿病等） 【10月31日（木）5限目】	予習：高血圧や糖尿病の基本的なことを調べておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第13回	笑いヨガの理論と体験 体育館集合 ゲストスピーカー:比嘉美香（笑いヨガトレーナー） 【11月7日（木）4限目】	予習：これまでの授業で学んだことを見直しておく 復習：笑いヨガの効果と体感した感覚をまとめておく	A,B

第14回	笑い与健康学まとめ 【11月7日（木）5限目】	予習：これまでの授業で学んだことを見直しておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第15回	生活の中に笑いを取り入れるため 後半はまとめテストを行います。 【11月14日（木）5限目】	予習：これまで学んだことを見直してまとめる 復習：笑いをこれからの生活にどのように取り入れるかまとめる	
	実施せず		

市民社会論

更新日：2024/03/27 11:39:05

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2L703010	授業コード	2L703010
担当教員	浅野 健、鶴飼 哲矢						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B3204	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース選択必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	グローバル化がますます進展し社会が複雑化する中、市民が主役的に地域づくりに参加し取り組む「市民社会」について、仕組みや制度、地域の動向、調査方法を体系的に学ぶ。
方法	市民社会の仕組みや制度について、自分の住む街や大学周辺、愛知・東海エリアなど身近な情報や事例に学び、現地調査による体験も踏まえて理解を深めるようにする。

履修条件

1) パソコンを毎回持参すること。2) フィールドワークを行う科目で、不参加者には原則、単位を与えない。3) フィールドワークを行うため受講人数制限を行う(40人まで)。4) 出席確認時に不在の場合は、欠席として扱う。

履修する上の留意点

到達目標

1	演習を通じて社会の仕組みや制度、地域の動向を学び、地域や社会の様々なことに関心を持ち、自ら考えて行動するための基礎知識を身に付けることができる。
2	フィールドワークを通じて演習だけでは得られない地域の実情を見て体験し、市民社会についての理解をさらに深めることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	パソコンを活用した演習レポート	70
到達目標②	フィールドワークを通じたレポート	30
到達目標③		
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

愛知県総合型地理情報システム「マップあいち」<https://maps.pref.aichi.jp/>
 名古屋市都市計画情報提供サービス<http://www.tokei-gis.city.nagoya.jp/>
 総務省統計局統計データの紹介ページ<https://www.stat.go.jp/data/index.html>

学生へのメッセージ

意外と知らない自分の生活圏のことや地域社会のことを、パソコンを有効に活用したりフィールドワークなどの演習を通じて楽しく学んでいきましょう。

課題に対するフィードバック

演習を通じた到達点を確認するため課題を3回程度出し、提出内容に対して評価コメントをフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	市民社会論 概論 市民社会論で学ぶ内容、市民社会の概要について知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：市民社会の概要を確認する	A
第2回	市民社会と国・地方自治体 市民社会を学ぶ上で不可欠な国や基礎的団体である地方自治体の役割について知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習・課題：自分が住む地域の地方自治体の将来計画を調べる	A
第3回	地域を知る－税金の種類と使い道－ 市民社会の一員である私達が社会に出て働くようになった時に納税の義務が発生する。税金の種類や使い道について学ぶ	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：税金の種類と使い道を確認する	A
第4回	地域を知る－地理情報の活用－ 地域の情報を知るのに有用な地理情報の種類を学ぶとともに、地理情報を使って自分が住んでいるまちの状況を知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習・課題：地理情報を活用してまちへの理解を深める	A
第5回	地域を知る－統計情報の活用－ 統計の種類を学ぶとともに、統計情報を調べて自分が住んでいるまちの状況を知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：統計情報を活用してまちへの理解を深める	A
第6回	地域を知る－産業と地域－ ものづくりで発展した東海地方を中心に産業の発展と地域との関係を知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習・課題：産業に関する統計情報を活用して地域の理解を深める	A
第7回	建築都市設計の事例1	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：建築都市の設計の事例への理解を深める	
第8回	建築都市設計の事例2	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：建築都市の設計の事例への理解を深める	
第9回	地域を知る－商業地・商店街の変遷－ 地域で暮らしていく上で必須となる商業地・商店街の変遷について知る。	予習：これまでにまなんだ地理情報を活用して商業地や商店街のことを調べてみる 復習・課題：大学周辺の統計情報や地理情報を事前に調べておく	A
第10回	地域を知る－大学周辺の街歩き－ 大学周辺には全国有数の企業やそれらの立地を背景とした商店街が形成されており、その現在を知る。	予習：大学周辺の統計情報や地理情報を調べておく 校外学習：現地を歩いて気づいたことをまとめる ※この日はパソコン不要 復習：現地見学の内容を振り返る	D
第11回	地域を知る－街歩きの結果取りまとめ－ 前回行った大学周辺の街歩きの結果をグループごとに取りまとめて発表する。	予習：現地見学の内容を振り返る 復習・課題：街歩きの結果をもとに各自が考察を深める	B
第12回	地域を知る－災害と地域－ 地震や風水害などの自然災害の歴史と地域との関係、災害時に機能する自治組織について知る。	予習：地理情報を活用して災害についての授業内容をイメージする 復習：災害と地域について理解を深める	A
第13回	子どもの視点に立った地域づくり 子育て、子どもを育む地域づくりは、少子化が進む我が国では継続的な課題であり、国・地方自治体・地域の取り組みについて知る。	予習：子育てに関する国・地方の取り組みについて新聞などの身近な情報からイメージする 復習・課題：子育てに関する取り組みの中で気になった事例を取り上げて理解を深める	A

第14回	市民主体の地域づくりー市民セクターやエリアマネジメントー 持続的に市民社会を形成していく上で必要なNPOなど市民主体の地域づくりや、新たなカタチとして注目される「エリアマネジメント」について知る。	予習：市民主体の地域づくりについての授業内容をイメージする 復習：市民主体の地域づくりについて理解を深める	A
第15回	市民社会論のまとめ これまでの授業内容の中から関心があるものについて深掘りし、市民社会についてグループごとに考えまとめる。	予習：これまでの授業内容を参考に市民社会論の全体像をイメージする 復習・課題：市民主体の地域づくりについて気になった事例を取り上げて理解を深める	B

ESD入門

更新日：2024/03/27 11:39:07

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2L704010	授業コード	2L704010
担当教員	曾我 幸代						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B3202	授業形態	講義・演習		実務経験のある教員による授業科目の配置		
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
---	-------	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	気候変動、経済格差の拡大、異文化対立など、グローバルな諸課題は「どこかにいる誰かの問題」ではなく、私たち一人ひとりにも関わっている。ESDはこうした諸問題を通して自然や他者との関わりを通して人間存在を問うとともに、私たち一人ひとりの生き方やあり方を捉え直す教育である。本授業ではESDおよびSDGsについて学び、グローバルな諸課題と自分自身、および身近な環境との関係性について確認し、持続可能な社会づくりにつながる自らの行動について考えることを狙いとしている。
方法	パワーポイントを用いて講義を行い、随時、個人ワークやディスカッションをしながら、持続可能な開発の必要性について学ぶ。提示する課題にはフィールドワーク・グループワークを行い、各班、プレゼンテーションする。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	ESDおよびSDGsの基礎的な知識を身につけることができる。
2	日常生活をふり振り返りながら、グローバルな諸課題と自分自身との関係について認識することができる。
3	自身の考え方や行動を顧みるとともに、他者との意見交換を重ね、多角的な視野を持つことができる。
4	他者と協力して、新たな提案をすることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	リアクションペーパー	20
到達目標②	小レポート	20
到達目標③	フィールドワーク・グループ活動	30

到達目標④	プレゼンテーション	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『新たな時代のESD サステナブルな学校を創ろう：世界のホールスクールから学ぶ』	明石書店	永田佳之・曾我幸代

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『社会変容をめざすESD：ケアを通じた自己変容をもとに』	学文社	曾我幸代

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

グループワーク、ディスカッションなどの話し合いや調べ学習などに主体的にかつ積極的に参加すること。

課題に対するフィードバック

提出されたリアクションペーパー、プレゼンテーションにはフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション～ESDで社会を変える～	教科書をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第2回	ESDのこれまでをふり返る	教科書をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第3回	ESDのいま	教科書をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第4回	持続可能な開発がなぜ必要？	教科書をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第5回	SDGsと私の暮らし（1）世界の諸課題と消費者である「私」との関わり	配布資料をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第6回	SDGsと私の暮らし（2）「私」ができること	配布資料をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第7回	気候変動と私たちの生活（1）食	配布資料をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B、C
第8回	気候変動と私たちの生活（2）ごみ	配布資料をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第9回	持続可能な社会と私たちの学び舎（1）キャンパスの調査	キャンパス内をフィールドワークする。	D
第10回	持続可能な社会と私たちの学び舎（2）観察	フィールドワークからデータを得る。	D
第11回	持続可能な社会と私たちの学び舎（3）分析	フィールドワークで得たデータをもとに分析する。	B
第12回	持続可能な社会と私たちの学び舎（4）考察	調査結果をもとに考察する。	B
第13回	持続可能な社会と私たちの学び舎（5）キャンパスをサステナブルに！	プレゼンテーションの準備をする。	B
第14回	学生発表：各グループのESD実践案のプレゼンテーション	各班によるプレゼンテーションを行う。	D
第15回	まとめ：SDGs達成に向けた私たちのかわり	授業内容をふり返り、小レポートを書く。	
	定期試験	実施せず	

心身健康論

更新日：2024/03/27 11:39:09

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M101020	授業コード	2M101020A, 2M101020B
担当教員	松原 達昭						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1102	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	全コース必修			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	こころとからだの健康は人生の基盤です。 皆さんが人生の目標や希望を実現するためには、まず心身の健康に関する最新の知識を理解することが重要です。
方法	教科書と講義資料を使って授業を行います。 講義資料は5日くらい前にTeamsに掲載します。授業前までに確認しておいてください。 授業前には予習をしてください。 授業の内容についてわからない点があれば、積極的に質問をしてください。

履修条件

特にありません。

履修する上の留意点

教科書は必ず持参してください。
授業内容に関する小テストを原則として毎回行うので、ポイントを整理しておいてください。

到達目標

1	①健康の定義、身体と健康、心と健康、全般について説明できる。
2	②栄養、喫煙や飲酒、感染症について他人に説明できる。
3	③身体運動が高血圧や糖尿病など生活習慣病の予防、治療に役立つことを他人に説明できる。
4	④科学技術の発展や環境における問題点について他人に説明できる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	定期試験、授業態度、学習への姿勢、小テスト	30
到達目標②	定期試験、授業態度、学習への姿勢、小テスト	25
到達目標③	定期試験、授業態度、学習への姿勢、小テスト	25
到達目標④	定期試験、授業態度、学習への姿勢、小テスト	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	テキスト健康科学（改訂第3版）	南江堂	佐藤祐造監修

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

心身ともに健康で充実した生活を送っていただくためにも重要な学問です。

課題に対するフィードバック

毎当日の授業内容をふまえて、小テストを実施します。

小テストの解答は翌日までにActivePortalに掲載しますので確認しておいてください（振り返りが重要です）。不明な点は次回の授業中に質問してください。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	健康とは 健康の定義 日本人の死因 平均寿命と健康寿命 生活習慣病	①第1回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	
第2回	嗜好品と健康 たばこ アルコール	①第2回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第3回	身体と健康 身体の構造と機能	①第3回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第4回	心と健康 ストレス関連障害、摂食障害 発達障害、うつ病、統合失調症 薬物依存	①第4回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第5回	遺伝と健康 DNAと染色体 遺伝性疾患 遺伝と体質	①第5回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第6回	感染症 感染症と公衆衛生 新型コロナウイルス感染症 インフルエンザ 性感染症	①第6回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第7回	環境と健康 睡眠・休養と健康	①第7回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第8回	栄養と健康 栄養素 炭水化物、脂質、蛋白質 ビタミン、ミネラル、水	①第8回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第9回	栄養と健康に関する諸問題 健康食品 肥満、やせ 鉄欠乏性貧血、骨粗鬆症	①第9回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第10回	運動と健康 一運動の効果－ 運動不足はなぜ体に良くないか メタボリックシンドローム	①第10回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A

	生活習慣病に対する運動療法の効果 運動処方		
第11回	運動と健康 一運動による傷害一 運動器の傷害 突然死 熱中症	①第11回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第12回	世代と健康 乳幼児、小児 児童、生徒、学生 働く人々 高齢者	①第12回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第13回	科学技術と健康 情報機器作業者の健康に対する影響 交通事故 住宅と健康	①第13回授業内容について教科書などで予習する。 ②授業内容の重要点について小テストを実施する。	A
第14回	総括①（第1回～第7回の授業内容について振り返りポイントを解説する）	第1回～第7回の授業内容について、講義資料、教科書で復習すること。	A
第15回	総括②（第8回～第13回の授業内容について振り返りポイントを解説する）	第8回～第13回の授業内容について、講義資料、教科書で復習すること。	
	学習成績評価（定期試験）と授業評価	定期試験の準備をすること。	

行動科学概論

更新日：2024/03/27 11:39:10

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M102020	授業コード	2M102020A, 2M102020B
担当教員	木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1103	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	全コース必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	行動科学は人間の行動の予測と制御を目的として人間の行動の法則を究明しようとする、心理学をはじめ社会学、人類学、精神医学、経済学など様々な学問領域にまたがる科学分野である。行動科学概論では、比較的新しい科学分野である行動科学について、心理学領域を中心に行動や心がどのように捉えられ研究されてきたのか様々な理論や知見を紹介し、行動科学についての基礎的な知識を修得してもらう。
方法	各回の授業テーマに関して、パワーポイントを用いた授業を行う（パワーポイントを基に作成した講義資料も配布する）。また、各講義時間中に講義内容に関連したディスカッションテーマを提示し、そのテーマに対し自分の意見をまとめその意見に対し教員がフィードバックをする質問法（Q&A）を用いたアクティブ・ラーニングを実施する。 教科書はないが、毎回のレポート課題（予習・復習）や毎回の講義資料を、定期試験の準備や講義時間外での学習のためにファイリングし保管しておくこと。 毎回の講義に参加し講義で説明された内容を理解し、レポート課題（予習・復習）や期末レポートに取り組むことで、行動科学の知識と行動科学の視点から人間の行動を科学的に分析し解釈するスキルを修得する。

履修条件

心理学概論を履修し、共に学ぶことが望ましい。

履修する上の留意点

毎回の講義内容について予習と復習レポートを課す。

到達目標

1	行動科学で明らかになった、人間の行動の理論や法則を理解し説明できる。
2	毎回の内容を自分の身近な問題として捉え、簡潔なレポートにまとめることができる。
3	日常生活や社会現象として現れる様々な行動について、行動科学の視点からとらえ分析・解釈できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価、予習・復習レポートへの取り組み、定期試験	25
到達目標②	授業内評価、予習・復習レポートへの取り組み	45
到達目標③	授業内評価、予習・復習レポートへの取り組み、定期試験	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	行動科学概論	人間総合科学大学	久住眞理（監修） 筒井末春・大谷純（著）
2	心理学事典	誠心書房	

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

日常生活や社会現象として現れる様々な行動を行動科学の視点から分析できるようになると、自分や他人の行動を違った側面から捉え理解することができるようになり人生が豊かになります。

課題に対するフィードバック

毎回の講義冒頭部分で前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容に入ります。また、毎回提出する予習・復習レポートに関しては、講義内で内容へのコメント・フィードバックを行います。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	ガイダンス 行動科学の成り立ちと研究手法	復習：行動科学を学ぶことで、自分の日常生活のどんな場面でどう役立つと考えるか、自分のどんな行動に関してどう応用できると考えるか、レポートにまとめる。	A
第2回	行動の生物科学① 脳の構造・大脳半球の機能・生物リズム	予習：各部位の名前を記入した脳と大脳半球のイラストを手書きで書く。 復習：脳の構造・大脳半球の機能・生物リズムについて学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つかレポートにまとめる。	A
第3回	行動の生物科学② ストレスの種類・ストレスへの生体反応	予習：最近ストレスを感じた場面と内容を書き、どのようにして対処したか文章でレポートにまとめる。 復習：ストレスとストレスへの生体反応について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つか文章でレポートにまとめる。	A
第4回	行動の生物科学③ 行動薬理学・比較行動学・依存と嗜癖	予習：自分の気分に効果のある物質（食べ物・飲み物・その他の物）をあげ、どのような気分にどのような効果があるのか文章でレポートにまとめる。 復習：行動薬理学・依存と嗜癖について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つか文章でレポートにまとめる。	A
第5回	個人の行動① 感情（情動）と気分	予習：最近どのような場面で「幸福」「驚き」「怒り」「嫌悪」「恐怖」「悲しみ」を感じてどのような行動（反応）をしたか、それぞれ文章でレポートにまとめる。	A

		<p>復習：感情（情動）と気分と行動との関連について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	
第6回	<p>個人の行動② パーソナリティ・類型論と特性論</p>	<p>予習：自分自身の「性格」で小さいころから変わらない部分はどのようなものか、成長するにつれて変わった部分はどのようなものか、文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：パーソナリティと行動との関連について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	A
第7回	<p>個人の行動③ 動機・欲求・適応</p>	<p>予習：1日の生活の中でもっとも時間を費やしている行動をあげ、どのような時にその行動をするのか（したくなるのか）、することで何が満たされるのかを文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：動機・欲求と行動との関連について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	A
第8回	<p>個人の行動④ 行動の獲得と維持・行動の変容</p>	<p>予習：日常生活を送っていく中で役立っている行動に関して、その行動をするようになったきっかけは何か、することによってどんな場面でどう役立つのか、何がいいことがあるのか文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：行動の獲得と維持、変容について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	A
第9回	<p>発達と行動 発達理論・発達段階</p>	<p>予習：小学校から中学校、中学校から高校、高校から大学と進学していく中で、身体的にどう変化したか心理的にどう変化したか文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：発達理論と発達段階について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	A
第10回	<p>社会と行動① 対人認知・対人コミュニケーション</p>	<p>予習：これまでの人間関係で好きになった人・仲良くなった人の特徴をあげ、その人とどのような方法を用いてコミュニケーションしているか（思っていることを伝えているか）文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：対人認知と対人コミュニケーションについて学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	A
第11回	<p>社会と行動② 対人関係・家族関係と機能</p>	<p>予習：今後自分はこういった家族を作っていきたいか、その際に自分を含め各家族メンバーの役割はどういったものになると思うか、文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：対人関係、家族関係と機能について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	A
第12回	<p>社会と行動③ 集団行動と集団心理</p>	<p>予習：自分が今所属している集団（部活やバイト、家族など）をあげ、その集団に所属するメリット、個人ではなく集団であることのメリットを文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：集団行動と集団心理について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	A
第13回	<p>社会と行動④</p>	<p>予習：ニュース等で知った社会的な逸脱行動・問題</p>	A

	社会的問題行動・逸脱行動	<p>行動の例をあげ、本人がなぜその行動をしてしまったと自分は考えるのか、そういった行動を減らすためには、どう対策したらよいかを文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：社会的問題行動・逸脱行動について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	
第14回	社会と行動⑤ 健康と行動・ストレス・健康心理学	<p>予習：健康であるとはどういう状態だと思うか、自分は健康であるか、健康であるために普段何を心がけて生活しているか、文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：健康と行動・ストレス・健康心理学について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	A
第15回	社会と行動⑥ 幸せと行動・ポジティブ心理学	<p>予習：自分は今幸せであるか、そうである（そうでない）ならそれはなぜなのか、もっと幸せになるためには何が必要であるか文章でレポートにまとめる。</p> <p>復習：幸せと行動・ポジティブ心理学について学んだことを自分の言葉で説明し、このことを知ったことが自分の日常生活にどう役立つ文章でレポートにまとめる。</p>	A
	定期試験		

精神保健Ⅰ

更新日：2024/03/27 11:39:13

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M103030	授業コード	2M103030A, 2M103030B
担当教員	平石 太一						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1204	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【養護, 健スポ】			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	心の健康について、心の発達と精神疾患を中心に学修する。
方法	配布プリントやパワーポイントにより講義をすすめる。講義中および課題として、適宜レポート等を実施し、評価の対象とする。

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

私語等により、他の履修生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。

到達目標

1	学修内容と、自身の関心を結び付けて理解することができる。
2	学修内容を理解し、説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	50
到達目標②	定期試験	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	講義の中で適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

講義中に配布した資料を基に自習を行いレポートを提出する。これに対し、講義の目標や内容の理解度、講義への取り組みの姿勢を踏まえて評価、フィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 講義の進め方や注意事項等について説明する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	
第2回	心の健康の概念および判断基準等について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第3回	乳幼児期の心の発達と、虐待等の心の問題について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第4回	児童期～青年期の心の発達と、いじめ・不登校等の心の問題について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第5回	成人期～老年期の心の発達と、自死等の心の問題について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第6回	神経発達症群（発達障害）について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第7回	神経発達症群（発達障害）について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第8回	統合失調症について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第9回	うつ病・双極症について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第10回	不安症について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第11回	パーソナリティ症について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第12回	認知症について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第13回	摂食症について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第14回	強迫症等、その他の精神疾患について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第15回	精神保健の応用 これまでの講義を基に、心の健康の保持・増進について考える。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
	定期試験		

精神保健Ⅱ

更新日：2024/03/27 11:39:15

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M104030	授業コード	2M104030A, 2M104030B
担当教員	平石 太一						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1205	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	家庭、学校、職場などにおける現代社会の心の問題から、心の健康について学修する。
方法	配布プリントやパワーポイントにより講義をすすめる。講義中および課題として、適宜レポート等を実施し、評価の対象とする。

履修条件

精神保健Ⅰを履修済みであることが望ましい。

履修する上の留意点

私語等により、他の履修生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。

到達目標

1	学修内容と、自身の関心を結び付けて理解することができる。
2	学修内容を整理し、説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	50
到達目標②	定期試験	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	講義の中で適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

講義中に配布した資料を基に自習を行いレポートを提出する。これに対し、講座の目標や内容の理解度、講義への取り組みの姿勢を踏まえて評価、フィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 講義の進め方や注意事項等について説明する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	
第2回	家族と心の健康がどのように関係するかについて学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第3回	現代社会における主な心の問題（1） 虐待について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第4回	現代社会における主な心の問題（2） ドメスティック・バイオンレンスについて学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第5回	現代社会における主な心の問題（3） 引きこもりについて学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第6回	現代社会における主な心の問題（4） 依存について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第7回	学校と心の健康がどのように関係するかについて学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第8回	現代社会における主な心の問題（5） いじめについて学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第9回	現代社会における主な心の問題（6） 不登校について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第10回	職場と心の健康がどのように関係するかについて学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第11回	現代社会における主な心の問題（7） ハラスメントについて学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第12回	現代社会における主な心の問題（8） 自死について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	B
第13回	現代社会における主な心の問題（9） 災害について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第14回	精神保健の応用Ⅰ 様々な心理療法について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
第15回	精神保健の応用Ⅱ 地域の中の様々な相談機関等について学修する。	配布プリントを読んだ上で、講義内容に関するレポートを提出する。	A
	定期試験		

救急処置法

更新日：2024/03/27 11:39:17

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M105010	授業コード	2M105010
担当教員	松田 直之						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1104	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	有(救急科指導医・専門医)
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【養護】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	<input type="checkbox"/> 学習：体や健康が急変する場合のメカニズムを解説します。身体の急変を適切に捉えることができるように、救急医療の基本的な考え方を学びます。 <input type="checkbox"/> 実践：心肺停止などの急変に対応できるように、実践の手技および実践的技術を学びます。 <input type="checkbox"/> 実習（1）：救急蘇生法の技術の修得し、実施できるようにします（3回的心肺蘇生実習）。 <input type="checkbox"/> 実習（2）：脱臼・亜脱臼・捻挫・靭帯損傷・筋・腱断裂に対する対応を学びます（1回の講義と実習）。
方法	<input type="checkbox"/> 講義：指定テキストの解説に加えて、コンピュータを用いたプレゼンテーションとします。一部に動画を含めて、実践的な解説とします。 <input type="checkbox"/> 講義資料：スライド講義ではハンドアウト資料を用意し、講義の理解に役立ていただきます。 <input type="checkbox"/> 授業新聞：必要な内容について、次回に「授業新聞」を用意し、復習資料として役立ていただきます。 <input type="checkbox"/> 動画配信：救急処置法の理解として、必要な内容についてはYouTubeに動画で配信します。学習の補助としていただきます。 <input type="checkbox"/> 実習内容：心肺蘇生法を、体育館での3回の実習で学びます。スエット上下などの身軽な服装で出席してください。また、脱臼・亜脱臼・捻挫・靭帯損傷・筋・腱断裂に対する対応を、講義1コマ、実習1コマとして、実践的に学んでいただきます。 <input type="checkbox"/> 出席確認：毎回の出席調査として、各回で設問を用意します。 <input type="checkbox"/> ミニッツ・ペーパー：各講義において重要なテーマを用意し、講義中にA4用紙1枚にまとめてもらいます。そして、1) 新たに学んだこと、2) 疑問に思ったこと、3) もっと知りたいことを記載してもらい、「授業新聞」でフィードバックします。WEB講義（補講）の場合は、後日、指定日に提出していただきます。 <input type="checkbox"/> アクティブ・ラーニング（パワーポイントでのプレゼンテーションファイルの作成と音声収録）：15講義の中で、5つの内容（①安静体位について、②救急医療におけるABCDEの管理、③心肺蘇生法、④捻挫におけるRICE法、⑤敗血症）について表紙（タイトル・学生番号・氏名）、2枚の内容スライド、1枚の結語スライドの4枚を1セットとして、プレゼンテーションファイルを作成し、音声収録をしていただきます。課題については、第1回目の講義で解説します。

履修条件

- 制限：履修のための制限はありません。
 講義：履修のために予め取得しておく講義などはありません。

履修する上の留意点

- 授業スケジュールは、心肺蘇生に関する実習の3回を含めて、全15講となります。講義スケジュールを、第1回目の講義で配布します。
- 補講：土曜日にZOOMを用いて補講を行う予定が1講あります。予定表と「Active Portal」などでの情報に注意して下さい。
- 履修条件：履修には10講義以上の出席における簡易レポート（ミニッツペーパー）の提出が必要となります。
- 私語厳禁：私語でうるさい場合には、履修を認めない方針としています。講義および他者への迷惑行為として退席してもらいますので、注意してください。
- 集中力育成：集中することを工夫しましょう。
- アクティブ・ラーニング：5つの課題を提出します。メールで受け付けます。内容については、「授業新聞」としてフィードバックします。
- 質問：質問を歓迎します。疑問を残さないようにしましょう。
- 質問などの連絡用メールアドレス： nmatsuda@med.nagoya-u.ac.jp 松田直之 まで

到達目標

1	救急処置法（全15講）の各内容について、設定した各テーマを説明できる。
2	救急処置に関係する生体情報を考察して、緊急性と重症性を説明できる。
3	身体急変におけるABCDEの管理を説明できる。
4	心肺蘇生法を実践できる。
5	運動中に発生する外科的損傷の応急処置を実践できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	救急処置法（全15講）の各講義内容について、試験で評価する。	60
到達目標②	救急処置に関連する生体情報を考察できるかについて、試験で評価する。	15
到達目標③	講義中に記載してもらった簡易レポートとミニッツペーパーを評価する。	12
到達目標④	心肺蘇生法の実践に関して、実習参加として評価する。	9
到達目標⑤	外科的損傷の応急手当に関して、実習参加として評価する。	4
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	応急手当指導者標準テキスト ガイドライン2020対応	東京法令出版	応急手当指導者標準テキスト改訂委員会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

- 松田直之. ブログ「救急一直線」. <https://blog.goo.ne.jp/matsubomb>
- 看護ROO! <https://www.kango-roo.com/learning/>

学生へのメッセージ

ご家族、友人、また職場や路上などで様子のおかしい人を発見したときに、どのように対応するのかについて、理解できるようにします。講義は、「わかりやすく」を目標とします。内容は、難しいものも含まれますが、15講の中で繰り返して復習しながら進めますので、心配はいりません。医学生や救急救命士さんと同じように、救急処置ができるように、考えることや必要な内容の知識が得られるように、工夫して授業を進めます。周りで急に状態が悪くなった方がいても、安心して対応できる能力を救急医療を専門とする医師として伝授します。楽しみに受講されてください。

課題に対するフィードバック

- 出席カード：毎回の講義終了時まで、出席カードに質問内容をまとめてもらい、必要に応じて返答をさせていただきます。
- レポートの評価：各レポートは、1) 内容理解、2) 論理構成、3) 精緻性、4) 引用方法、以上の4つの項目に対して、各4段階評価（最高3点、2点、1点、最低0点）とし、最高点12点の12内容の評価とします。点数配点は、各得点を1/12の配点（最高点1点、小数点以下四捨五入）とし、12点満点として成績評価に加えます。
- アクティブラーニング：プレゼンテーション作成：5課題の提出として各内容は、1) 内容理解、2) 論理構成、3) 精緻性、4) 引用方法、以上の4つの項目に対して、各4段階評価（最高3点、2点、1点、最低0点）とし、最高点12点の初期評価とします。点数配点は、得点を1/3配点（最高点4点、小数点以下四捨五入）とし、5つの内容の合計を最高点20点とします。このアクティブラーニングは、本講義の理解を深める目的での依頼となります。結果として、定期試験での得点につながる内容とします。
- レポートとアクティブラーニングのフィードバック：「授業新聞」の作成と配布、「授業新聞」を用いたフィードバック解説を中心として、課題に対しての適切なフィードバックとします。定期試験での得点につながる内容とします。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	学修内容 総論：倒れている人を見たらどうするか？	<input type="checkbox"/> 目標：倒れている人を見かけたらどうするとよいのか、また、倒れるところを見たらどうするとよいのかについて、説明できるようにする。 <input type="checkbox"/> 予習：倒れている人を見かけたらどうするとよいのかを考えてみて下さい。この内容を調べてみて	A

		<p>下さい。授業では、質問を歓迎します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 復習：講義の後で、独自に作成したYouTube動画およびテキストで、再び本講義内容を整理して学習して頂きます。 <input type="checkbox"/> アクティブ・ラーニング（パワーポイントでのプレゼンテーションファイルの作成と音声収録）：安静体位について表紙（タイトル・学生番号・氏名）、2枚の内容スライド、1枚の結語スライドの4枚を1セットとして、プレゼンテーションファイルを作成し、音声収録をしていただきます。 	
第2回	救急医療とは：救急医療システムについて	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標：救急医療体制について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：救急医療がどのように成り立っているのかを、テキストを読んで、探ってみましょう。疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> 復習：講義の後で、私が作成したYouTube動画およびテキストで、再び本講義内容を整理して学習して頂きます。 	A
第3回	重症度と緊急度：重症と緊急は違うのか？	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標：重症度と緊急度の違いを説明できる <input type="checkbox"/> 予習：テキストを読んで、重症度と緊急度について記載しているところを探してみましょう。疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> スライド資料：「この症状ではこれを考える」というパターンをスライドを用いてまとめます。この内容を、随時、第4講目からの復習として用いて、第4講目からの理解を深めるようにしてください。 <input type="checkbox"/> 復習：講義の後で、独自に作成したYouTube動画およびテキストで、再び本講義内容を整理して学習して頂きます。 	A
第4回	意識の評価（救急医療の「D」）	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標：意識の評価方法について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：意識をどのように確認するとよいかについて、テキストを読んで、疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> 復習：講義の後で、独自に作成したYouTube動画およびテキストで、再び本講義内容を整理して学習して頂きます。 	A
第5回	呼吸の評価法（救急医療の「A」と「B」）	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標：呼吸の評価方法について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：「呼吸」をどのように確認するとよいかについて、テキストを読んで、疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> 復習：講義の後で、独自に作成したYouTube動画およびテキストで、再び本講義内容を整理して学習してください。呼吸数の数え方ができるようにしましょう。 	A
第6回	循環の評価法（救急医療の「C」）	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標：循環の評価方法について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：「循環」とは何かについて、テキストを読んで、疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> 復習：講義の後で、独自に作成したYouTube動画およびテキストで、再び本講義内容を整理して学習してください。脈の触知ができるようにしましょう。 	A
第7回	外科系応急処置：外傷/熱傷/骨折への対応	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標：外科的処置の基本概念について理解し、実施できるようにする。けが、熱傷、外傷の病態と初期対応について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：テキストを読んで、けが、熱傷、外傷、骨折の初期対応について疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> 講義：実際の講義では、チーム内で怪我をした方を作成し、その際にどのように対応するかのロールプレイングをしていただきます。 <input type="checkbox"/> 復習：講義の後で、独自に作成したYouTube動画およびテキストで、再び本講義内容を整理して学習してもらいます。外傷に対する初期対応について説明できるようにしましょう。 	A, D
第8回	実習：脱臼・亜脱臼・捻挫・靭帯損傷・筋・腱断裂に対する対応を学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標：脱臼・亜脱臼・捻挫・靭帯損傷・筋・腱断裂の病態と救急処置について理解する。外科的救急処置としてテーピング技法の基本を習得する。 <input type="checkbox"/> 実習：実習として「RICE処置やテーピング実習」を行います。2名一組として怪我をした方を作成し、その際にどのように対応するかのロールプレイングをしていただきます。 	A, D

		<input type="checkbox"/> 予習：テキストの「脱臼・亜脱臼・捻挫・靭帯損傷・筋・腱断裂」に関係するページを読んで、その病態や症状・徴候について理解するように努めてください。講義を聞く前の段階で、疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> 復習：講義資料で、再び本講義内容を整理して学習してください。 <input type="checkbox"/> アクティブ・ラーニング（パワーポイントでのプレゼンテーションファイルの作成と音声収録）：捻挫におけるRICE法について、表紙（タイトル・学生番号・氏名）、2枚の内容スライド、1枚の結語スライドの4枚を1セットとして、プレゼンテーションファイルを作成し、音声収録をしていただきます。	
第9回	モニタリング：救急処置における医療機器を知ろう	<input type="checkbox"/> 目標：救急医療の現場で使用される医療機器について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：テキストを読んで、救急医療で用いられる医療機器について疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> 復習：講義の後で、独自に作成したYouTube動画およびテキストで、再び本講義内容を整理して学習してください。よく用いられる医療機器についてなぜ用いるのかを説明できるようにしましょう。	A
第10回	心肺蘇生実習（1）心肺蘇生の流れを実習しよう	<input type="checkbox"/> 目標：心肺蘇生の方法について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：テキストを読んで、「心肺蘇生の方法」について、手順を自習しておいて下さい。 <input type="checkbox"/> 実習：心肺蘇生法について実習をします。また、心肺停止を模倣したロールプレイングをしていただきます。 <input type="checkbox"/> 復習：実習の後で、ハンドアウト（プリント）およびテキストで、再び内容を整理してください。	A, D
第11回	心肺蘇生実習（2）適切な心臓マッサージを実習しよう	<input type="checkbox"/> 目標：心肺蘇生の方法について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：前回の実習の復習を、もう一度前日（水曜日）に行ってください。実習で頂いた資料、そしてテキストを読んで、「心肺蘇生の方法」について、手順を復習しておいて下さい。 <input type="checkbox"/> 実習：心肺蘇生法に加えて、三角巾の使用法についても併せて実習をします。怪我を模倣したロールプレイングをしていただきます。 <input type="checkbox"/> 復習：実習の後で、ハンドアウト（プリント）およびテキストで、再び実習の内容を確認し、整理してください。	A, D
第12回	心肺蘇生実習（3）AEDの使い方と三角巾の使用法を実習しよう	<input type="checkbox"/> 目標：心肺蘇生法および三角巾の使用法を理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：前回までの実習の復習を、前日（水曜日）に行ってください。実習で頂いた資料、そしてテキストを読んで、「心肺蘇生の方法」について、手順を復習しておいて下さい。三角巾の使用法についても復習して実習に臨まれて下さい。AEDの使い方、心肺蘇生や怪我を模倣したロールプレイングをしていただきます。 <input type="checkbox"/> 実習：心肺蘇生法、AEDの用法、三角巾の使用法について総合的な実習とします。 <input type="checkbox"/> 復習：実習の後で、ハンドアウト（プリント）およびテキストで、再び実習の内容を確認し、整理してください。 <input type="checkbox"/> アクティブ・ラーニング（パワーポイントでのプレゼンテーションファイルの作成と音声収録）：心肺蘇生法について、表紙（タイトル・学生番号・氏名）、2枚の内容スライド、1枚の結語スライドの4枚を1セットとして、プレゼンテーションファイルを作成し、音声収録をしていただきます。	A, D
第13回	環境異常症の初期対応を知ろう（「E」のトラブル）	<input type="checkbox"/> 目標：熱中症と低体温症への対応について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習：テキストの以下のページを読んで、疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> 復習：講義ハンドアウトおよびテキストで、再び本講義内容を復習してください。環境異常症の初期対応についてポイントを説明できるようにしましょう。 <input type="checkbox"/> アクティブ・ラーニング（パワーポイントでのプレゼンテーションファイルの作成と音声収録）：ABCDEの管理について表紙（タイトル・学生番	A

		号・氏名), 2枚の内容スライド, 1枚の結語スライドの4枚を1セットとして, プレゼンテーションファイルを作成し, 音声収録をしていただきます。	
第14回	感染症と敗血症を知ろう	<input type="checkbox"/> 目標: 感染症と敗血症の処置について理解する。 <input type="checkbox"/> 予習: 感染症について, テキストの以下のページを読んで, 疑問点や質問事項などを作っておいてください。 <input type="checkbox"/> 復習: 講義にはハンドアウトも用意します。講義の後には, 独自に作成したハンドアウト, またYouTube動画およびテキストで, 再び本講義内容を整理して学習してください。 <input type="checkbox"/> アクティブ・ラーニング (パワーポイントでのプレゼンテーションファイルの作成と音声収録): 敗血症) について, 表紙 (タイトル・学生番号・氏名), 2枚の内容スライド, 1枚の結語スライドの4枚を1セットとして, プレゼンテーションファイルを作成し, 音声収録をしていただきます。	A
第15回	心肺蘇生復習/試験対策設問解説	<input type="checkbox"/> 目標: 救急医療のABCDEの確認と心肺蘇生法を確認する。 <input type="checkbox"/> 予習: 講義で配られた資料「ハンドアウト」を復習しておいて下さい。 <input type="checkbox"/> 資料: 心肺蘇生の方法を含む各回の講義内容について, 定期試験問題に類似した50問題を用意し, 解説します。これまでの講義で重要となる知識と考え方を整理します。 <input type="checkbox"/> ミニッツ・ペーパーの作成: より知りたい内容と疑問に思った内容を記載して頂き, フィードバックとします。 <input type="checkbox"/> 復習: 講義およびハンドアウト資料で, 再び本講義内容を整理して定期試験に臨んで下さい。	A
	定期試験	<p>試験は, 講義で使用している講堂で, 60分間の実地試験として行います。15講義の各内容より合計50題の選択問題とします。一方で, 資料などの持ち込みはできません。試験問題は, 毎回の授業に出席していることで答えられる問題とします。単位取得のためには, 毎回の授業を大切として下さい。そして出席すること, 集中することを大切として下さい。どのような緊急の現場に立ち合っても, 「救急処置法」の自信と実力が付く内容と致します。</p>	

公衆衛生学（疫学を含む。）

更新日：2024/03/27 11:39:19

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M106010	授業コード	2M106010	
担当教員	山本 尚範							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	S1203	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【養護】			授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	公衆衛生とは、たくさんの人の健康や命を守るための学問である。公衆衛生の真髄を皆で討議しながら、考える。
方法	現実の様々な素材を用いて、私たちの暮らしがいかに公衆衛生と結びついているかを理解し、自分たちの頭で考え、自分の言葉にする練習をする。

履修条件

なし。

履修する上の留意点

授業開始から20分過ぎる遅刻は欠席とみなす。他の受講生の迷惑にならないよう私語は厳禁。他方で、活発にグループで討議をする。

到達目標

1	公衆衛生とは何かについて説明出来る
2	現代の具体的な公衆衛生的課題を挙げられる
3	上記の課題の解決策について、人々と対話しながら模索出来る。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	出席・授業態度	60
到達目標②	定期テスト	40
到達目標③		
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定教科書はありません。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

インターネットを含むメディアには、公衆衛生的課題が溢れています。人々の健康に関することは全て公衆衛生の対象となります。目を凝らし、耳を澄まし、感性を研ぎ澄ませて、人々の暮らしや健康に注目しましょう。

学生へのメッセージ

社会では多くの公衆衛生活動が行われています。その内容を知ることは、地域全体の環境を保全し、健康を守り、行政のサービスを正しく利用することの基礎知識となります。自分や家族の健康を守ることに役立ちます。

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	公衆衛生とは何か①	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第2回	公衆衛生とは何か②	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第3回	公衆衛生とは何か③	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第4回	公衆衛生とは何か④	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第5回	公衆衛生とは何か⑤	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第6回	現代の公衆衛生的課題①	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第7回	現代の公衆衛生的課題②	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第8回	現代の公衆衛生的課題③	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第9回	現代の公衆衛生的課題④	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第10回	現代の公衆衛生的課題⑤	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第11回	公衆衛生的課題の解決策を模索する①	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第12回	公衆衛生的課題の解決策を模索する②	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第13回	公衆衛生的課題の解決策を模索する③	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第14回	公衆衛生的課題の解決策を模索する④	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
第15回	公衆衛生的課題の解決策を模索する⑤	予習は必要ありません。授業に集中し、皆で楽しくかつ真剣に討議をします。	
	出席と授業態度（真剣に討議すること）を重視します。定期テストは自分の頭で考えれば大丈夫です。	定期試験は自らの考えや思いを書いてください。	

健康・医療心理学

更新日：2024/03/27 11:39:21

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M107220	授業コード	2M107220
担当教員	古井 由美子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1301	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	健康・医療心理学に関連する理論とそれをもとにした支援方法について、事例を基に講義する。 保健・医療領域における、心理学の貢献を知るとともに、支援者として必要な基本的知識や技術の基礎を身につける。
方法	主に講義やペアワークやテスト体験などを授業中に行い、各回のレポートの提出と次回のフィードバックを通して、双方向的に理解を深めていくことを狙う。

履修条件

「心理学」や「健康」に関する講義を履修しており、心理学や医療に対する知識が十分にあることが望ましい。

履修する上の留意点

この講義は公認心理師の対応カリキュラムであり、将来心理職として活動することを念頭にしています。各回にレポート課題を提示します。学習効率/適正評価のため、適宜変更がありえます。

到達目標

1	健康・医療心理学領域の知識を深めるために、自主的・積極的に関与することができる
2	健康・医療心理学領域の知識を体系的に理解し、説明することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	各回のショートレポート	30
到達目標②	定期試験	70
到達目標③		

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「健康・医療心理学」	医歯薬出版株式会社	宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫(編)

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

健康の維持や病気の予防に関するこの「保健医療」の基礎知識や理解は、様々な分野の基礎として重要と思われます。公認心理師になりたい方だけでなく、健康にかかわるどの職種の方にも重要であり、多職種協働や災害支援にも関連があり、それらを体系的に学びたい方は、受講してください。

課題に対するフィードバック

毎回のレポートでの質問やコメントは、次回の講義の中でフィードバックを行い、共有する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 健康心理学とは	予習はありませんが、受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A
第2回	健康心理学におけるアセスメントと支援	簡単なペアワークを行い、受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A、C
第3回	健康心理学の実際(1) ストレスマネジメント	心理検査を実施し、自分を振り返り、レポートに提出	A、D
第4回	健康心理学の実際(2) 各種の心理支援法	簡単なリラクゼーションを体験し、受講後にレポートにまとめ提出	A、D
第5回	医療心理学	予習はありませんが、受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A
第6回	医療心理学におけるアセスメントと支援	簡単な心理検査を相互に話し合い、レポートを提出	A、C
第7回	医療心理学の実際(1) 精神科，児童精神科	事例を基に話します。受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A
第8回	医療心理学の実際(2) 院内独立型心理室	事例を基に話します。受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A
第9回	医療心理学の実際(3) 心療内科	事例を基に話します。受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A
第10回	医療心理学の実際(4) 小児科	自身の小児期を振り返り、ペアワークして、レポートにまとめ提出	A、C
第11回	医療心理学の実際(5) 緩和医療	事例を基に話します。受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A
第12回	医療心理学の実際(6) 産業保健	ストレスチェックを実施し、それについて、感想をまとめレポート提出	A、D
第13回	地域保健活動の実際	予習はありませんが、受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A
第14回	災害心理学	予習はありませんが、受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A
第15回	多職種協働と医療連携	予習はありませんが、受講後に質問や感想をレポートにまとめ提出	A
	定期試験と授業評価		

教育原論

更新日：2024/03/27 11:39:23

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M109010	授業コード	2M109010A, 2M109010B
担当教員	梅本 大介						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1101	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	私たちが生まれ、育ち、そしてその生涯を終えるまで、「教育」は常に私たちの生活のそばにあり、切り離すことができないものだと思います。その「教育」はなぜ必要なのか、どのような社会的役割や期待を担っているのか、そもそも教育とは何なのか、そのような教育の意義や目的を考えることを入口に、人間の成長・発達と教育の関係、教育理念や思想の歴史的な議論の積み重ね、教育制度の変遷や現状等について、その基本的な事項を確認していきながら、多様な観点をもって現在の教育のあり方について考察していきたいと思います。
方法	本授業は、教育学にかかわる学問諸領域の根幹であるため、毎回、受講者自身の意見を提出してもらいます（小レポート・Microsoft Formsに提出ページを作ります）。また、様々な価値観が交差する課題に関して「他者がどのような意見を表明していたのかを受け止め、自身の意見とどのように異なるのか、また同意できるのか」を具体的に整理できる力を鍛えるため、授業内では積極的な発言・意見交換を促していきたいと思います。この授業では、多人数でのグループワークではなく、ペアワークや少人数でのグループワークをもちいていきたいと思います。

履修条件

【どなたでも】受講してください。受講生の皆さんとともに、「教育」という活動を幅広く考えていきたいと思っています。将来、教員採用試験を受けたいと志望する学生にとっては、この授業そのものが採用試験の内容・対策へと直結していますので、一所懸命に予習・復習に励んでください。

履修する上の留意点

とくに、1年生の受講生が多いと思います。1年生は、高校の授業にはなかった「教育学」というものにはじめて触れると思います。教育学を決して「学校教員になるための専門学問」と捉えないでください。授業の内容は教育職員免許法に従って構成していますが、人が人とかかわる以上、社会とかかわる以上、すべての場面で「教育」活動が発生すると私は考えています。つまり、教育という作用を学校教員だけに限らずもっともっと幅広く考えてほしいと思います。そのような意味において、【どなたでも】受講できますので、安心して出席してください。授業ごとにレポート課題（小レポート）を提示しますが、大学生にとって大事な資質とは「わからないことをわからないと認識してみる」ことだと思いますが、気を遣わずにメール、チャット、面談などの機会を使ってたくさん質問してください。【積極的に学ぶことに臆しない】ことが、この授業の「履修する上の留意点」です。

到達目標

1	教育に関する基礎教養を身に付けることができる。
2	教育に関わる者としての意識を構築し、設定した研究課題を究明することができる。
3	教育に関し自らの意見を文章化して主張することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小レポート	60
到達目標②	レポート（到達目標③と同じ）	20
到達目標③	レポート（到達目標②と同じ）	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	最新 よくわかる教育の基礎	学文社	湯川次義・久保田英助・奥野武志 編集

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	小学校学習指導要領（平成29年3月告示）	東洋館出版社	文部科学省
2	中学校学習指導要領（平成29年3月告示）	東山書房	文部科学省
3	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）	東山書房	文部科学省

オープンな教育リソース

独立行政法人 教職員支援機構・動画教材

<https://www.nits.go.jp/materials/>

上記サイトは無料で「教員研修」のための動画教材を視聴できます。この授業の予習・復習・自習にも、また教採採用試験に向けての対策にも使えると思います。

また、月刊誌『教員養成セミナー』のWeb限定コンテンツなども、無料で視聴できる動画教材です。

<https://book.jiji.com/seminar/limited/training/>

教員採用試験を受ける学生は、このようなサイトを見たり、過去問を解いたりして、勉強をしています。

授業理解を深めるためにも使えるサイトだと思いますので、ご関心のある方はぜひ活用してください。

学生へのメッセージ

どのような分野であれ、「教育」は幅広いものだと思います。その教育に携わる者が、よりよく教育すること、教育を充実させることに専心するためには、限らない人間的成長を自覚的に己に課していく必要があるでしょう。この授業を通して、共に学び、共に考え、共に成長していくことを期待しています。高校までは学ぶことのなかった「教育学」を講義しますからどなたでも受講を歓迎します。

課題に対するフィードバック

提出された課題に対し、意見交換及び講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	教育の意義と公私の相互関係を中心に： 公教育ならびに私教育に期待される社会的役割について、その概念の歴史の変遷を理解する。	予習： 教科書の「教育の意義」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を、整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「公教育」ならびに「私教育」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。 それぞれ2時間程度の学習時間を想定しています。第2回以降も同様です。	A、C
第2回	子どもの発達と教育学の形成を中心に： 子供の成長発達を通して、教育の本質及び目標を理解する。加えて、教育学の形成にかかわる諸概念を理解する。	予習： 教科書の「発達と教育」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を、整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「発達と教育」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第3回	教育目的論の歴史を中心に：	予習： 教科書の「教育目的」部分の章を読み、理	A、C

	日本及び西洋教育史から教育の目的を規定する思想の変遷を学び、家庭や子供にかかわる多様な教育の理念を理解する。	理解できない箇所・質問したい箇所を、整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「教育目的」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	
第4回	教育課程に関する歴史を中心に： 日本及び西洋教育史から教育課程にかかわる思想の変遷を通して、家族と社会によって学校教育に求められた役割を理解する。	予習： 教科書の「教育課程」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を、整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「教育課程」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第5回	教育の方法に関する歴史を中心に： 日本及び西洋教育史から教授方法にかかわる思想の変遷を理解し、実際の学校教育及び学習活動との検討を行う。	予習： 教科書の「教育の方法」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「教育の方法」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第6回	道徳教育に関する歴史を中心に： 日本及び西洋における、近代教育制度の成立とともに求められた道徳教育にかかわる歴史を理解し、多様な教育課題を歴史的な視点から考察する。	予習： 教科書の「道徳教育」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を、整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「道徳教育」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第7回	特別活動に関する歴史を中心に： 特別活動にかかわる基本的概念と歴史及び学習指導要領の変遷を学び、学校教育での学習活動の実際と課題を理解する。	予習： 教科書の「特別活動」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「特別活動」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第8回	生徒指導に関する歴史を中心に： 生徒指導にかかわる基本的概念と歴史及び学習指導要領の変遷を学び、学校教育での学習活動の実際と課題を理解する。	予習： 教科書の「生徒指導」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「生徒指導」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第9回	女性教育と家庭教育の歴史を中心に： 近代化以降、女性がどのような社会的地位にあり、その教育はどのように保障され拡張していったのか、その思想や家庭教育の関わりの中での議論を理解する。	予習： 事前に課題資料をTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「女性教育と家庭教育」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第10回	教員養成に関する歴史を中心に： 教員像を形成する基本的概念とその変遷を学ぶとともに、学校や学習にかかわる教育実践家たちの思想や実践を理解する。	予習： 教科書の「教員養成」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「教員養成」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第11回	教育制度改革の国際比較を中心に： 教育制度の基本原則を学ぶとともに、国際社会における教育制度の比較検討を行い、その変遷を理解する。	予習： 教科書の「教育制度」の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を、整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「教育制度」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第12回	教育法規の体系と戦後民主主義改革を中心に： 日本国憲法および教育基本法を中心に教育法規の構造を理解し、戦後の教育民主化にかかわった人物たちの思想を通して、戦後教育の理念について考察する。	予習： 教科書の「教育法規」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を、整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「教育法規」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第13回	教育行政にみる教育権保障を中心に： 教育行政の基本原則を学び、教育権保障の思想がどのように歴史的に形成されたのかを理解する。	予習： 教科書の「教育行政」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を、整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「教育行政」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C
第14回	日本教育史にみる学級文化の変遷を中心に： 日本教育史における近代教育制度の成立への理解を通し、現代社会へと続く学校・学級制度の変遷とその特質・思想について考察する。	予習： 教科書の「日本教育史」部分の章を読み、理解できない箇所・質問したい箇所を、整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「日本の近代教育史」について、自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。	A、C

第15回	発展研究： 本学の自校史を通して、地域における教育の歴史と本学の教育理念を理解する。	予習： 事前に課題資料をTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容を通して、「本学の歴史」について、自分の意見をまとめてください。提出の締切は1週間後とします。	A、C
------	---	--	-----

教育方法及び技術（情報通信技術の活用を含む。）

更新日：2024/03/27 11:39:26

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M110020	授業コード	2M110020
担当教員	丹下 洋吾						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	T2208	授業形態	講義・演習		実務経験のある教員による授業科目の配置		
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教育の方法及び技術について、基礎的事項を学ぶとともに、最低限の基礎的スキルを身につける。さらに、情報通信技術を活用した学習指導や校務の推進の在り方、情報活用能力育成のための指導法などについて学び、基礎的な知識・技能を身につける。
方法	教科書や資料に基づいて講義を行い、基本的な理論の解説を行う。また、オンライン教材の動画視聴等を通して、指導技術やICT活用の在り方などを具体的に学ぶ。さらに、指導案作成やデジタル教材作成などの授業内課題に取り組むことで、理論に基づき実践する応用力を身につける。

履修条件

履修希望者数が教室の収容人数を超えた場合、教職課程に登録している学生を優先する。

履修する上の留意点

授業内容により、各自のノートパソコン持参を求める場合があるので、指示に従って準備をすること。

到達目標

1	子どもたちに求められる資質・能力の育成に必要な教育の方法について、基礎的事項を理解し、説明することができる。
2	教育の目的に適した指導技術について、基礎的事項を身につけ、実践することができる。
3	情報通信技術の活用と情報活用能力の育成について、基礎的知識・技能を身につけ、実践することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	毎回の授業内課題	30
到達目標②	レポート	20
到達目標③	定期試験	50

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	教師と学生が知っておくべき 教育方法論・ICT活用	北樹出版	武田明典・村瀬公胤

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	四訂版 教育の方法と技術	図書文化社	平沢 茂
2	やさしく学ぶ教職課程 教育の方法・技術とICT	学文社	古賀 毅・高橋 優
3	その他、必要に応じて授業内で紹介		

オープンな教育リソース

「教育の情報化に関する手引」 文部科学省ホームページ
 StuDX Style (スタディーエックス スタイル) 文部科学省ホームページ
 オンライン講座「校内研修シリーズ」 独立行政法人教職員支援機構ホームページ

学生へのメッセージ

授業内でグループワークや発表を行う。積極的に参加し、教員に欠かせないコミュニケーション能力の向上に心がけること。

課題に対するフィードバック

授業内課題はコメントを付して返却する。優れたものについては全体に紹介し、必要に応じて解説を加える。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 教育方法に関する理論とその歴史の変遷 教育方法を概観し、教育とは何かについて教育の歴史から考える。	予習：教科書の序章・第1章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第2回	教授と学習に関する諸理論 何をどうやって教授し学習するのかという教授・学習に関する理論を学ぶ。	予習：教科書の第2章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第3回	学力観の変遷とICT活用 学力のとらえ方の多様性を学び、現代的学力観に基づくICT活用の可能性を確認する。	予習：教科書の第3章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第4回	授業づくりの基礎的要件 授業づくりにおいて判断が求められる視点を確認し、授業の在り方を研究する。	予習：教科書の第4・7・8章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第5回	学びの概念の変化 新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」について確認する。	予習：教科書の第5章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第6回	学力の把握と学習評価 教育評価における学習評価の位置づけを確認し、学習評価の方法について学ぶ。	予習：教科書の第6章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第7回	授業を行う上での技術 実際に授業を行う上で必要とされる具体的な指導技術について学ぶ。	予習：教科書の第9・14章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A, B
第8回	学習指導案の作成 学習指導案作成の基本について学び、各自で実際に学習指導案を作成・提出する。	予習：教科書の第15章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第9回	情報通信技術活用の意義と在り方 (特別の支援を必要とする場合を含む) ICT活用の歴史と理論を概観し、ICT活用の意義とその在り方について考える。	予習：教科書の第10・11章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第10回	外部人材・機関との連携やICT環境の整備の在り方 ICTを活用するための環境整備について学ぶとともに、外部人材・機関との連携の在り方を考える。	予習：教科書の第12・13章に目を通してくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第11回	情報通信技術を活用した指導事例に学ぶ指導法 実際の指導事例を学び、各自でICTを活用した指導案や教材を作成する。	予習：該当する事例について調べてくる 復習：授業内容を復習しておく	A
第12回	各教科等で横断的に育成する情報活用能力(情報モラルを含む)	予習：該当する事例について調べてくる	A, B

	の内容と指導法 実際の指導事例を学び、各自でICTを活用した指導案や教材を作成・発表する。	復習：授業内容を復習しておく	
第13回	情報活用能力育成について、各教科等の特性に応じた指導事例と指導法 実際の指導事例を学び、各自でICTを活用した指導案や教材を作成・発表する。	予習：該当する事例について調べてくる 復習：授業内容を復習しておく	A, B
第14回	教育データの活用、遠隔・オンライン教育、教育情報セキュリティについての理解 実際の指導事例を学び、各自でICTを活用した指導案や教材を作成・提出する。	予習：該当する事例について調べてくる 復習：授業内容を復習しておく	A, B
第15回	情報通信技術を活用した校務の推進 ICTを活用した校務運営の事例について学び、留意点を確認する。 振り返り	予習：該当する事例について調べてくる 復習：授業内容を復習しておく	A
	定期試験		

教育相談（カウンセリングを含む。）《養護》

更新日：2024/03/27 11:39:28

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M111010	授業コード	2M111010A
担当教員	森 千鶴						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1208	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置		○	
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付け、学校現場で実践できることを目的とする。
方法	教科書に基づいて講義を行う。随時、グループや個人での発表や討論、ロールプレイなどを行う。課題だけでなく、多様なテーマについて自ら調べ学んだことをレポートにして提出することを求める。

履修条件

養護教諭免許状取得を目指す学生を優先する。

履修する上の留意点

- ・グループでの活動には、積極的に参加できること。
- ・毎回、提示したレポート課題が提出されない場合は減点する。

到達目標

1	教育相談、カウンセリングマインドについて説明することができる。
2	カウンセリングの基本技法を習得し、学校現場を想定した模擬カウンセリングを実施することができる。
3	教育の諸問題（いじめ、不登校、非行等）についての援助方法を説明することができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	レポート課題、定期試験	30
到達目標②	レポート課題、定期試験、グループでの活動への参加や発表の態度	40
到達目標③	レポート課題、定期試験	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学校で役立つ教育相談	八千代出版	谷口篤・丸山真名美(編著)

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	生徒指導提要		文部科学省

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

ロールプレイや事例検討などのグループでの活動には、積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

- ・レポート課題については、ルーブリックにより評価する。
- ・授業の冒頭において、前回提出されたレポートから抜粋した内容を共有し、クラス全体で振り返りを行い、理解を深める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	学校における教育相談の意義と役割、生徒指導における位置づけを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：自分の経験を通して教育相談とは何かを考える。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	A
第2回	教師にカウンセリングマインドが必要な理由を事例を通して理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：カウンセリングマインドの概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	A、C
第3回	教育相談に関わる心理学の基礎的な理論、概念を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：来談者中心カウンセリングの概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	C
第4回	児童生徒理解に必要なアセスメント、心理検査の基礎理論を理解し、児童生徒が発するサインのとらえ方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：児童生徒理解に必要な心理検査にはどのようなものがあるのかを調べ、まとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	C
第5回	カウンセリングの技法①：ロールプレイを通して対面方法、話の聴き方を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：カウンセリング技法の概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	D
第6回	カウンセリングの技法②：ロールプレイを通して積極的傾聴、質問の仕方を身に付け、模擬カウンセリングを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：カウンセリングを実施するにあたっての留意点をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	D
第7回	開発的カウンセリングについて理解し、エンカウンター・グループ、SST、アサーションの技法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：エンカウンター・グループ、SST、アサーションの概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	B、C、D
第8回	教員組織（担任、教育相談担当教員、養護教諭、管理職、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）による対応を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	B、C
第9回	反社会的行動（校則違反、校内暴力などの非行）に対する教育相談の進め方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：非行への対応事例を調べ、要約する。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	B、C
第10回	いじめ・不登校に対する教育相談の進め方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：いじめ・不登校への対応事例を調べ、要約する。 	B、C

		・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	
第11回	発達障害に対する教育相談の進め方を理解する。	・予習：発達障害についての概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	B、C
第12回	児童虐待に対する教育相談の進め方を理解する。	・予習：児童虐待についての概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	B、C
第13回	保護者との面接、支援、協働の実際を理解する。	・予習：保護者への対応の留意点をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	B、C
第14回	教育相談体制の構築、教育相談計画の作成など、学校組織としての取り組みの必要性を理解する。	・予習：学校における教育相談体制の例を調べ、まとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	B、C
第15回	医療、福祉、心理、司法等の専門機関との連携を理解する。 教育相談の授業全体を振り返り、課題をまとめる。	・予習：教育相談に関係する各種機関について調べる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 ・教育相談の授業全体を振り返り、今後の課題をレポートにまとめる。	B
	定期試験		

教育相談（カウンセリングを含む。）《健スポ》

更新日：2024/03/27 11:39:30

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M111010	授業コード	2M111010B	
担当教員	森 千鶴							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	S1208	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置		。		
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付け、学校現場で実践できることを目的とする。
方法	教科書に基づいて講義を行う。随時、グループや個人での発表や討論、ロールプレイなどを行う。課題だけでなく、多様なテーマについて自ら調べ学んだことをレポートにして提出することを求める。

履修条件

教員免許状取得を目指す学生を優先する。

履修する上の留意点

- ・グループでの活動には、積極的に参加できること。
- ・毎回、提示したレポート課題が提出されない場合は減点する。

到達目標

1	①教育相談、カウンセリングマインドについて説明することができる。
2	②カウンセリングの基本技法を習得し、学校現場を想定した模擬カウンセリングを実施することができる。
3	③教育の諸問題（いじめ、不登校、非行等）についての援助方法を説明することができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	レポート課題、定期試験	30
到達目標②	レポート課題、定期試験、グループでの活動への参加や発表の態度	40
到達目標③	レポート課題、定期試験	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学校で役立つ教育相談	八千代出版	谷口篤・丸山真名美（編著）

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	生徒指導提要		文部科学省

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

ロールプレイや事例検討などのグループでの活動には、積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

- ・レポート課題については、ルーブリックにより評価する。
- ・授業の冒頭において、前回提出されたレポートから抜粋した内容を共有し、クラス全体で振り返りを行い、理解を深める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	学校における教育相談の意義と役割、生徒指導における位置づけを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：自分の経験を通して教育相談とは何かを考える。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	A
第2回	教師にカウンセリングマインドが必要な理由を事例を通して理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：カウンセリングマインドの概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	A、C
第3回	教育相談に関わる心理学の基礎的な理論、概念を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：来談者中心カウンセリングの概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	C
第4回	児童生徒理解に必要なアセスメント、心理検査の基礎理論を理解し、児童生徒が発するサインのとらえ方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：児童生徒理解に必要な心理検査にはどのようなものがあるのかを調べ、まとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	C
第5回	カウンセリングの技法①：ロールプレイを通して対面方法、話の聴き方を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：カウンセリング技法の概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	D
第6回	カウンセリングの技法②：ロールプレイを通して積極的傾聴、質問の仕方を身に付け、模擬カウンセリングを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：カウンセリングを実施するにあたっての留意点をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	D
第7回	開発的カウンセリングについて理解し、エンカウンター・グループ、SST、アサーションの技法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：エンカウンター・グループ、SST、アサーションの概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	B、C、D
第8回	教員組織（担任、教育相談担当教員、養護教諭、管理職、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）による対応を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	B、C
第9回	反社会的行動（校則違反、校内暴力などの非行）に対する教育相談の進め方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：非行への対応事例を調べ、要約する。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 	B、C
第10回	いじめ・不登校に対する教育相談の進め方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：いじめ、不登校への対応事例を調べ、要約する。 	B、C

		・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	
第11回	発達障害に対する教育相談の進め方を理解する。	・予習：発達障害についての概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	B、C
第12回	児童虐待に対する教育相談の進め方を理解する。	・予習：児童虐待についての概要をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	B、C
第13回	保護者との面接、支援、協働の実際を理解する。	・予習：保護者への対応の留意点をまとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	B、C
第14回	教育相談体制の構築、教育相談計画の作成など、学校組織としての取り組みの必要性を理解する。	・予習：学校における教育相談体制の例を調べ、まとめる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。	B、C
第15回	医療、福祉、心理、司法等の専門機関との連携を理解する。 教育相談の授業全体を振り返り、課題をまとめる。	・予習：教育相談に関係する各種機関について調べる。 ・復習：学修内容についての自分の考え、疑問点などをレポートにまとめる。 ・教育相談の授業全体を振り返り、今後の課題をレポートにまとめる。	B
	定期試験		

社会調査法

更新日：2024/03/27 11:39:32

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M112010	授業コード	2M112010A, 2M112010B
担当教員	安藤 純子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1206	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【人間】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	現代社会に生じる様々な社会現象の背景や原因を明らかにするためには、それに関わるデータを収集し、分析することが必要である。社会調査はそのためのひとつの道具である。授業では社会現象に関わるデータの収集方法や分析の仕方を学び、社会を科学的にとらえる力を養うことを目指す。
方法	①社会調査の実施方法について理解できる ②統計的データの収集及び分析方法について理解できる ③社会調査計画書を丁寧にわかりやすく記述することができる

履修条件

特になし

履修する上の留意点

毎授業提出の課題は評価の対象になる

到達目標

1	社会調査の実施方法について理解できる
2	統計的データの収集及び分析方法について理解できる
3	社会調査報告書をわかりやすくまとめることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	30
到達目標②	課題	40

到達目標③	定期試験	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	オリジナルのプリントを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	社会調査の基礎	放送大学教育振興会	北川由紀彦、山口恵子
2	社会調査 しくみと考え方	左右社	原純輔

オープンな教育リソース

総務省統計局 <https://www.stat.go.jp/>

学生へのメッセージ

統計的データを通して現代社会についてもう一步深く探求していきましょう。

課題に対するフィードバック

毎回提示する課題に対する解答を次回の授業内で紹介することにより、授業内容への関心及び理解に繋げ、またデータ分析の方法及び書き方を習得することを目指す。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	社会調査の授業内容の概要について説明する	社会調査法とはどのような学問なのかを理解する 授業内容についてまとめる	A
第2回	社会調査とは学術的・社会的にどのように位置づけられているのかについて学習する	社会調査が社会調査の歴史を通じて社会を読み解く 道具であることを理解する 授業内容についてまとめる	A
第3回	社会調査の意義と役割について学習する	現代社会と統計的データとの関係について理解する 授業内容についてまとめる	A
第4回	国勢調査の概要について学習する	国勢調査のデータをネット上で見つけ、データの出 所及び内容について確認する 授業内容についてまとめる	A
第5回	世論調査の概要について学習する	世論調査のデータをネット上で見つけ、データの出 所及び内容について確認する 授業内容についてまとめる	A
第6回	社会調査の企画及び設計について学習する	社会調査するための仮説の作り方について理解する 授業内容についてまとめる	A
第7回	サンプリング方法について学習する	ランダムサンプリングについて理解する 授業内容についてまとめる	A
第8回	社会調査の実施方法について学習する	社会調査の実施方法について理解する 授業内容についてまとめる	A
第9回	調査票の作成方法及び留意点について学習する	ワーディング問題について理解する 授業内容についてまとめる	A
第10回	調査票を作成する	各自で関心のある質問を作成し、適切な調査票を作 成する 授業内容についてまとめる	A
第11回	統計的データの入手先、入手方法について学習する	データの入手先及び入手方法を理解する 授業内容についてまとめる	A
第12回	統計的データ分析の仕方（度数分布表、平均値、最頻値、中央 値、分散）について学習する	度数分布表、平均値、最頻値、中央値及び分散につ いて理解する 授業内容についてまとめる	A
第13回	統計的データ分析の仕方（クロス集計、検定、擬似相関、エラボ レーション）について学習する	クロス集計の分析及び検定、擬似相関、エラボレー ションについて理解する 授業内容についてまとめる	A
第14回	統計的データ分析の仕方（分散分析、回帰分析）について学習す る	分散分析、回帰分析について理解する 授業内容についてまとめる	A
第15回	調査計画書の作成方法について学習する	調査計画書作成について理解する	A

	授業内容についてまとめる	
定期試験		

レクリエーション概論・実践

更新日：2024/04/17 15:39:31

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M113020	授業コード	2M113020
担当教員	浦野 忍						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	S1105	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	レクリエーション支援の理論と方法を学習しながら、健康について考えていく。さらに、レクリエーション活動やレクリエーションスポーツの実践（計画、実施、まとめ）をとおして効果的な指導法と実践力について学習する。
方法	①レクリエーション活動を実践（計画、実施、まとめ）できる。 ②グループでの役割を果たすとともに、自らの考えで、話すこと・伝えること・聞くことを大切にしつつ、ディスカッションできる。 ③レクリエーションスポーツの指導・実践ができる

履修条件

なし

履修する上の留意点

履修者数によっては下記の授業計画を変更する可能性もある。

到達目標

1	指導、実践する。
2	自主的・集団的に学ぶ、発表する。
3	目標を達成するための計画や取り組み作成（レポート）

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業参加度	30

到達目標②	プレゼンテーション	30
到達目標③	レポート	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特定の教科書は使用しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『楽しさをおとした心の元気づくり-レクリエーション支援』の理論と方法』	公益財団法人日本レクリエーション協会	日本レクリエーション協会編
2	『スポレク活動で健康寿命を延伸』	公益財団法人日本レクリエーション協会	日本レクリエーション協会編
3	レクリエーションガイドブック40 基本のアイスブレイキング・ゲーム	公益財団法人日本レクリエーション協会	日本レクリエーション協会編

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

体育館での実技は運動ができる服装（スポーツウエア）および体育館用シューズを用意する。

課題に対するフィードバック

グループごとにレクリエーションスポーツの実践を通してふりかえりを実施する。「できるようになる」をコンセプトにあそび等を指導できるようにグループで確認しあう。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション ・ねらい、内容、方法、評価についての説明 ・選択の理由を問い、授業に期待することを述べながら交流を図る	学び方、シラバスを読む。	
第2回	レクリエーションという言葉からのイメージを明らかにする ・自己紹介	自己紹介をレクリエーションとして行う方法	
第3回	グループをつくり役割分担を決める ・レクリエーションの体験をふり返る ・レクリエーションに期待されていることについて考える	自身のレクリエーションの体験をふり返る。 レクリエーションに期待されていることについて考える。	
第4回	アイスブレイキング・ゲーム	次回活動内容を調べる。	A,B
第5回	レクリエーション活動①	レク支援について考える	
第6回	レクリエーション支援とは	1週間の生活時間調査、活動量・歩数計調査レポート次回提出	
第7回	心地よさについて考える（レクリエーションの基礎理論と支援論）	レクリエーションに関する記事について発表する。	
第8回	まとめ 私たちの生活にとってレクリエーションがどのような意味をもつのかについて検討し、「レクリエーション」の課題を理解する	次回からの活動内容を調べる。 「レクリエーションについて」レポートを提出。	
第9回	レクリエーション活動②	インディアカ	D
第10回	レクリエーション活動③	アルティメット	D
第11回	レクリエーション活動の計画書を検討する①	鬼ごっこ・・・ねことねずみ、子とろ鬼、しっぽとり鬼・・・等、スポーツ鬼ごっこ等。	D
第12回	レクリエーション活動の計画を実施する①	レクリエーションスポーツの指導実践計画書提出。	
第13回	レクリエーション活動の計画書を検討する②	グループ毎レク活動を計画する。	
第14回	レクリエーション活動の計画を実施する②	レク活動実践計画書提出。	
第15回	レクリエーション活動の実践をふり返る	「レクリエーションスポーツ活動、支援について」まとめレポートを提出。	

未来デザイン演習Ⅲ ≪人間≫

更新日：2024/03/27 11:39:36

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M117010	授業コード	2M117010D
担当教員	阪 美里						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	基デ-00-20	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【人間】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	日頃から身の回りの様々な物事に興味を持ち、本学のカレッジモットーにもとづき探究する姿勢を養うことを授業の目標としています。本授業での探究活動の成果として、最後には成果物をまとめてもらいます。授業では、調査、情報収集・分析、まとめ、振り返りを繰り返し行います。探究活動の成果を発表するために、情報ツール利用スキルを身につけます。発表スライドを作成し、リハーサルにより何度も確認・修正する作業を行った上で、受講生全員の前で話すことを繰り返します。
方法	「健康科学」について幅広く見聞を広げていきましょう。教員の示す話題から、キーワードとなる課題を各自選択し、深掘りします。調査結果を各自のコンピューターに整理し、レポートとして報告してもらいます。原則、毎週何らかのアウトプットを提出してもらいます。また、「健康科学」を学ぶための学外実習も行います。

履修条件

人間科学コースの学生であること

履修する上の留意点

愛知みずほ大学の学生として、今後の学生生活で研究活動・探究学習を自分ひとりの力で行っていくうえで、非常に重要な授業です。学内の通常授業では、筆記用具と個人パソコンは必ず持参してください。バッテリー切れが発生しないよう留意しましょう。学外実習を土曜日に行う場合がある為、初回授業時に日程を確認し、学外実習時にはアルバイト等の予定を入れないようにしてください。土曜日に学外実習を行う場合、通常授業時間との振替を行います。このため、学外実習の欠席は授業の欠席と同じ扱いとします。

到達目標

1	「健康科学」に関する多様な物事に興味・関心を持つことができる
2	課題に応じて必要な文献を調査し、しっかり理解した上で、要約やレポートにまとめることができる
3	情報を伝達し、レポート及びプレゼンテーションで他者と共有することができる

4 資料作成において留意すべき著作権について理解することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	自学自習課題	20
到達目標②	授業内課題（到達目標④と同じ）	25
到達目標③	プレゼンテーション（発表）	30
到達目標④	授業内課題（到達目標②と同じ）	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『大学生 学びのハンドブック』	世界思想社	世界思想社編集部編
2	『正しいコピペのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち』	岩波ジュニア新書	宮武久佳

オープンな教育リソース

インターネットで検索可能な文献、図書館で利用できる文献、個人用大学貸与パソコン

学生へのメッセージ

授業への積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

提出物は回収・チェックしたのち返却。授業内で解説・コメントを行う。
 授業内での発表は、質疑応答をフィードバックとする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・この授業でのOneDrive利用方法を確認する ・1年次を振り返り、学修計画を立てる ・授業計画を説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次を振り返ってくる ・振り返りワークシート（Word）を完成させ、OneDriveで教員と共有する <p>第2回授業に向けて、指定課題について予習してください。学習した内容をOneDriveに保存できるようになるのが、第1回授業の復習です。予習・復習については、授業中に詳細に指示します。授業の第2回以降も同様です。</p>	A
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・「コピペするときに注意すること」について調べ、報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読しておく ・報告用ワークシート（Word）を完成させ、OneDriveで教員と共有する <p>第3回授業の「前期課題」を提示します</p>	A
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課題の課題調査－文献調査－ 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読しておく ・報告用ワークシート（Word）を完成させ、OneDriveで教員と共有する 	A
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課題の課題調査報告第一報作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読しておく ・報告用ワークシート（Word）を完成させ、OneDriveで教員と共有する 	A
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・学外実習 休日を利用して学外実習を行う。日程についての詳細は講義内に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読しておく ・学外実習のワークシート（Word）を教員と共有する 	D
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・学外実習振返り 	<p>学外実習の振返り報告書（Word）を作成し、第9回授業の前までに教員と共有する。まずは報告書の概要をデザインする</p>	A
第7回	<ul style="list-style-type: none"> （学外実習振替） <p>第6回授業でまとめることのできなかった報告書の作成をすすめる。</p>	<p>学外実習で得た学びのうち自身がとくに興味関心をもった観点を明確にして、「健康科学」についての思考を深める</p>	

第8回	(学外実習振替) 教員と報告書を共有する前の最終確認作業	報告書をまとめる際に、誤字脱字がないか、他者が読んでも文脈や文意は理解できるかを確認する	
第9回	・前期課題の第2課題調査ー文献調査ー	・配布資料を熟読しておく ・報告用ワークシート (Word) を完成させ、OneDriveで教員と共有する	A
第10回	・前期課題の第2課題調査報告第一報作成	・配布資料を熟読しておく ・報告用ワークシート (Word) を完成させ、OneDriveで教員と共有する	A
第11回	・第1課題調査報告と第2課題調査報告に基づき、まとめを作成	・配布資料を熟読しておく ・報告用ワークシート (Word) を完成させ、OneDriveで教員と共有する	A
第12回	・発表用PowerPoint作成 他人も聞いて「わかる」資料の展開を考える。	・発表用PowerPoint作成を進める 他人に「わかる」と納得してもらえる資料づくりを行う	
第13回	・発表用PowerPoint作成 他人も読んで「わかる」資料の内容を考える。	・発表用PowerPoint作成を進める 他人に「わかる」と納得してもらえる資料づくりを行う	
第14回	・前期のまとめ① 各自のテーマに基づき、調査したレポートをプレゼンし、内容について話し合う。	・発表用PowerPointを完成させておく ・発表ヒアリングワークシート (Word) を完成させ、教員と共有する	B
第15回	・前期のまとめ② 各自のテーマに基づき、調査したレポートをプレゼンし、内容について話し合う。	・発表用PowerPointを完成させておく ・発表ヒアリングワークシート (Word) を完成させ、教員と共有する	B

未来デザイン演習Ⅳ ≪人間≫

更新日：2024/03/27 11:39:38

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M118010	授業コード	2M118010D
担当教員	阪 美里						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	基デ-00-21	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【人間】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	日頃から身の回りの様々な物事に興味を持ち、本学のカレッジモットーにもとづき探究する姿勢を維持し、他者に提案する力を養うことを授業の目標としています。本授業での探究活動の成果として、最後には成果物をまとめてもらいます。授業では、調査、情報収集・分析、まとめ、振り返りを繰り返し行います。探究活動の成果を発表するために、情報ツール利用スキルを身につけます。発表スライドを作成し、リハーサルにより何度も確認・修正する作業を行った上で、受講生全員の前で話すことを繰り返します。
方法	「健康科学」について幅広く見聞を広げていきましょう。教員の示す話題から、キーワードとなる課題を各自選択し、深掘りする。調査結果を各自のコンピューターに整理し、レポートとして報告してもらいます。原則、毎週何らかのアウトプットを提出してもらいます。また、「健康科学」を学ぶための学外実習も行います。

履修条件

人間科学コースの学生であること

履修する上の留意点

愛知みずほ大学の学生として、今後の学生生活で研究活動・探究学習を自分ひとりの力で行っていくうえで、非常に重要な授業です。学内の通常授業では、筆記用具と個人パソコンは必ず持参してください。バッテリー切れが発生しないように留意しましょう。学外実習を土曜日に行う場合がある為、初回授業時に日程を確認し、学外実習時にはアルバイト等の予定を入れないようにしてください。土曜日に学外実習を行う場合、通常授業時間との振替を行います。このため、学外実習の欠席は授業の欠席と同じ扱いとします。

到達目標

1	自分で決めたテーマに関する書籍・新聞記事を、計画通り読み、要約できる
2	課題に応じて必要な文献を調査し、しっかり理解した上で、要約やレポートにまとめることができる
3	情報を伝達し、レポート及びプレゼンテーションで他者と共有することができる

4 資料作成において留意すべき著作権について理解することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	自学自習課題	20
到達目標②	授業内課題（到達目標④と同じ）	25
到達目標③	プレゼンテーション（発表）	30
到達目標④	授業内課題（到達目標②と同じ）	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『大学生 学びのハンドブック』	世界思想社	世界思想社編集部編
2	『正しいコピペのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち』	岩波ジュニア新書	宮武久佳

オープンな教育リソース

インターネットで検索可能な文献、図書館で利用できる文献、個人用大学貸与パソコン

学生へのメッセージ

授業への積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

提出物は回収・チェックしたのち返却。授業内で解説・コメントを行う。
 授業内での発表は、質疑応答をフィードバックとする。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション (1) 本授業のねらい説明 (2) 授業計画の説明 (3) 取り組む課題の説明 (4) 後期の履修計画について	成績表を確認し、卒業必修科目・資格必修科目の修得状況を整理しておく。 第2回授業に向けて、今後の授業で「取り組みたいテーマ」について構想してきてください。オリエンテーション内容を理解するための自習が復習となります。予習・復習については、授業中に詳細に指示します。授業の第2回以降も同様です。	
第2回	課題決定とグループ作り (1) 取り組み方のルール説明 (2) 調査記録ノートのつくりかた (3) 課題別グループ作り (4) 取り組み計画の作成（グループ活動）	取り組みたいテーマを決めておく。 グループメンバー内で、学習計画や活動を詳細に打ち合わせておきましょう。	B
第3回	課題の取り組み① (1) 取り組み計画の発表 (2) 文献調査計画・分担の作成（グループ活動）	グループ毎に調査計画を完成させておく。	B
第4回	課題の取り組み② (1) 調査結果の報告・共有（グループ活動） (2) 追加調査方針の作成（グループ活動） (3) 図書館・図書館分館での追加調査	・配布資料を熟読しておく ・報告用ワークシート（Word）を完成させ、OneDriveで教員と共有する	A、B
第5回	課題の取り組み③ (1) 調査結果の報告・共有（グループ活動） (2) 追加調査方針の作成（グループ活動） (3) 図書館・図書館分館での追加調査	・配布資料を熟読しておく ・報告用ワークシート（Word）を完成させ、OneDriveで教員と共有する	A、B
第6回	課題の取り組み④ (1) 調査結果の報告・共有（グループ活動） (2) 追加調査方針の作成（グループ活動） (3) 図書館・図書館分館での追加調査	・配布資料を熟読しておく ・報告用ワークシート（Word）を完成させ、OneDriveで教員と共有する	B
第7回	学外実習 休日を利用して学外実習を行う。日程についての詳細は授業内で伝える。	・配布資料を熟読しておく ・学外実習のワークシート（Word）を教員と共有する	A、D

第8回	学外実習振り返り	・学外実習の振り返り報告書（Word）を作成し、教員と共有する	A
第9回	（学外実習振替） 第7回授業でまとめることのできなかった報告書の作成をすすめる。	学外実習で得た学びのうち自身がとくに興味関心をもった観点を明確にして、「健康科学」についての思考を深める	
第10回	（学外実習振替） 教員と報告書を共有する前の最終確認作業	報告書をまとめる際に、誤字脱字がないか、他者が読んでも文脈や文意は理解できるかを確認する	
第11回	課題の取り組み⑤ (1) 共有した調査結果から、気づいたこと・提案できることをまとめる（グループ活動） (2) 発表の方法を話し合い、分担を決める（グループ活動）	・配布資料を熟読しておく ・学外実習のワークシート（Word）を教員と共有する	B
第12回	課題の取り組み⑥ 報告会の準備として（グループ活動として互いに協力しながら）、個人担当の作業を行う	・発表用PowerPoint作成を進める 第11回授業（2）で決めた担当分について、個人でまとめの作業を進める	B
第13回	課題の取り組み⑦ 報告会の準備として（グループ活動）、発表用資料をまとめる。 調査記録ノート最終提出。	・発表用PowerPoint作成を進める 個人で作成した資料をグループ全員で共有し、一つの資料としてまとめる	B
第14回	報告会① 例：A班とB班の発表	・発表用PowerPointを完成させておく ・発表ヒアリングワークシート（Word）を完成させ、教員と共有する グループ編成は第2回授業で行います	B
第15回	報告会② 例：C班とD班の発表	・発表用PowerPointを完成させておく ・発表ヒアリングワークシート（Word）を完成させ、教員と共有する グループ編成は第2回授業で行います	B

健康実践Ⅰ ≪養護≫

更新日：2024/03/27 11:39:40

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M119010	授業コード	
担当教員	後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1201	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	
方法	

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

健康実践Ⅰ ≪健スポ≫

更新日：2024/03/27 11:39:41

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M119010	授業コード	
担当教員	天野 透、山根 基、鈴木 揚一						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1201	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	
方法	

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

健康実践Ⅰ <<心理>>

更新日：2024/03/27 11:39:43

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M119010	授業コード	
担当教員	長岡 由紀子、廣井 いずみ、土屋 満知、木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1201	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	
方法	

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

健康実践Ⅰ ≪健康≫

更新日：2024/03/27 11:39:45

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M119010	授業コード	
担当教員	今澤 正彦、高瀬 慎二、刑部 純平、姚 静雅						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1201	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	
方法	

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

健康実践Ⅱ <<養護>>

更新日：2024/03/27 11:39:47

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M120010	授業コード	
担当教員	後藤 多知子、近藤 由里子、森 千鶴						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	
方法	

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

健康実践Ⅱ <<健スポ>>

更新日：2024/03/27 11:39:49

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M120010	授業コード	
担当教員	天野 透、山根 基、鈴木 揚一						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	
方法	

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

健康実践Ⅱ <<心理>>

更新日：2024/03/27 11:39:51

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M120010	授業コード	
担当教員	長岡 由紀子、廣井 いずみ、土屋 満知、木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	
方法	

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

健康実践Ⅱ <<健康>>

更新日：2024/03/27 11:39:53

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M120010	授業コード	
担当教員	今澤 正彦、高瀬 慎二、刑部 純平、姚 静雅						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	
方法	

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1			

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

解剖・生理学(人体の構造と機能及び疾病Ⅰ)

更新日：2024/03/27 11:39:56

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M201020	授業コード	2M201020A, 2M201020B
担当教員	松原 達昭						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S2101	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【養護, 健スポ】			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	人の健康・保健について考えるうえで土台となる人体の解剖と生理を学びます。それを通じて人体の構造と機能についての関心を高め、運動器系、循環器系、消化器系、呼吸器系など系統的に理解し、説明できることを目標にします。
方法	教科書に基づいて解説をします。 授業に先立って当該ページを予習しておいてください。 重要点の記憶や理解のために講義資料も活用します。 講義資料は5日くらい前にTeamsに掲載します。授業前までに確認しておいてください。 授業の内容についてわからない点があれば、積極的に質問をしてください。

履修条件

特にありません。

履修する上の留意点

授業は教科書の図を参照しながら進めます。
授業には教科書を必ず持参してください。

到達目標

1	人体の基本となる構造の名称を記憶し、その機能を説明できる。
2	人体の生理機能について理解し説明できる。
3	人体の構造と機能における正常と異常について説明できる。
4	人の健康を支える人体の構造とそれぞれの機能を統合的に説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験、授業態度、学習への姿勢、小テスト	25
到達目標②	定期試験、授業態度、学習への姿勢、小テスト	25
到達目標③	定期試験、授業態度、学習への姿勢、小テスト	25
到達目標④	定期試験、授業態度、学習への姿勢、小テスト	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ぜんぶわかる 人体解剖図	成美堂出版	坂井建雄・橋本尚詞著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	解剖生理学 — 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	南江堂	上嶋繁・濱田俊編集
2	これでわかる！ 人体解剖パーフェクト事典	ナツメ社	伊藤正浩・中村陽市監修

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

人のからだのしくみを理解することは、愛知みずほ大学建学の精神である「科学的思考に基づき健を探究できる人材の育成」の基本です。自分自身のからだのしくみを知ることができる学問です。

課題に対するフィードバック

各自が授業内容を理解できているかどうかを気付いてもらうため、毎回の授業で重要事項について小テストを実施します。小テストの解答は翌日までにActivePortalに掲載しますので確認してください（振り返りが重要です）。不明な点は次回の授業中に質問してください。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 筋骨格系①（全身の骨格、脊柱と骨盤、骨の構造、関節の形態としくみ、手の骨格、足の骨格）	予習：教科書30～37、100～101、150～151、174～177、220～221、226～227、234～235の各ページを読んでおく。 復習：第1回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	
第2回	筋骨格系②（全身の筋肉、筋肉の構造、筋の種類） 循環器系①（循環器系の概要、全身の血管、血管の構造）	予習：教科書38～45、220～223、46～53の各ページを読んでおく 復習：第2回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第3回	循環器系②（血液の成分とはたらき、心臓の構造、弁の構造と刺激伝導系、拍動のしくみ、心臓を養う血管）	予習：教科書46～55、160～167の各ページを読んでおく。 復習：第3回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第4回	呼吸器系（呼吸器系の概要、胸壁、胸部の内臓、肺の構造、呼吸のしくみ、ガス交換のしくみ） 消化器系①（消化器系の概要、消化と吸収のしくみ、消化管の運動、口の構造、味覚を感じるしくみ、歯のしくみ、のどの構造・はたらき、嚥下のしくみ、腹部の内臓、消化管の位置関係とはたらき）	予習：教科書68～69、152～159、62～63、138～147、182～183の各ページを読んでおく。 復習：第4回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第5回	消化器系②（胃と十二指腸、胃の粘膜、小腸の構造、大腸・肛門の構造とはたらき、肝臓の構造とはたらき、胆嚢の構造、膵臓の構造とはたらき）	予習：教科書182～199ページを読んでおく。 復習：第5回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第6回	泌尿生殖器系①（泌尿生殖器の概要、腎臓の構造、尿ができるしくみ、膀胱と排尿反射）	予習：教科書70～71、200～213の各ページを読んでおく。 復習：第6回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第7回	泌尿生殖器系②（生殖器、受精のしくみ、胎児の血液循環、乳房、出生前診断、人工妊娠中絶）	予習：教科書208～209、214～217、168～169の各ページを読んでおく。 復習：第7回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第8回	内分泌系（内分泌系の概要、フィードバック機構、ホメオスタシス、主要ホルモン：成長ホルモン、プロラクチン、オキシトシン、甲状腺ホルモン、インスリン、副腎皮質ホルモン、性ホルモン、活性型ビタミンDの作用）	予習：教科書72～75ページを読んでおく。 復習：第8回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A

第9回	循環器系－免疫－（免疫のしくみ、全身のリンパ系、リンパ組織のしくみ）	予習：教科書56～61ページを読んでおく。 復習：第9回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第10回	神経系①（中枢神経系と末梢神経系、神経のしくみ、神経伝達のしくみ、脳神経のしくみ、脊髄神経のしくみ、運動神経と知覚神経、自律神経系、頭部の血管、脳を保護するしくみ、脳のしくみ）	予習：教科書76～89、114～117の各ページを読んでおく。 復習：第10回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第11回	神経系②（脳の内部構造、小脳と脳幹の構造） 感覚器系①（皮膚の構造・機能）	予習：教科書118～121、90～95の各ページを読んでおく。 復習：第11回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第12回	感覚器系②（眼の構造、ものが見えるしくみ、口の構造、味覚を感じるしくみ）	予習：教科書122～127、138～141の各ページを読んでおく。 復習：第12回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第13回	感覚器系③（耳の構造、音が伝わるしくみ、平衡感覚、鼻の構造、においを感じるしくみ）	予習：教科書128～137ページを読んでおく。 復習：第13回目の授業内容について講義資料、教科書で再確認すること。	A
第14回	まとめ① 筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系における重要ポイントの解説	第1～7回目の授業内容について講義資料、教科書で予習ならびに復習すること。	A
第15回	まとめ② 内分泌系、循環器系（免疫）、神経系、感覚器系における重要ポイントの解説	第8～13回目の授業内容について講義資料、教科書で予習ならびに復習すること。	
	定期試験	勉強した内容を整理し、試験に備える。	

病気の成り立ち(人体の構造と機能及び疾病II)

更新日：2024/03/27 11:39:58

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M202020	授業コード	2M202020A, 2M202020B
担当教員	今澤 正彦						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S2102	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	○
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【養護】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	解剖・生理学で学んだ身体の正常な構造・機能に対して異常が生じた状態（様々な傷病）とその成り立ち（病理学）について考えることとします。 そして、感染症・免疫異常・腫瘍など、養護教諭あるいは健康社会への貢献を目指す人にとっては理解が求められる傷病を取り上げて、それらの病因、予防や治療法を学習します。 現代社会では、医学的に傷病を診断されている人に対しても希望すれば社会参加が支援されます。
方法	講義資料およびプレゼンテーションソフトウェア（Microsoft PowerPoint）による画面に基づいて講義を行います。 講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。課題への取り組みの姿勢・内容・状況等を成績評価に考慮します。

履修条件

「解剖・生理学」を履修し単位取得していることが履修条件です。

履修する上の留意点

授業では教科書の図・表も参照しながら進行します。各自教科書を必ず持参してください。

Active Portalの出欠登録のシステムを利用して出席をとります。

講義クラス内の連絡や課題の提出・フィードバック（返却等）をグループウェア（Microsoft Teams）で実施しますので、スマートフォンやタブレットばかりではなく、パソコン（大学が学生一人一人に無償貸与しているノートパソコンなど）の持参・利用を推奨します。関連するシステムに関する相談等については、「ICT運用支援」で相談してください。

到達目標

1	疾患の内因と外因について理解し説明できる。
---	-----------------------

2	病気の本態を細胞の異常から理解し説明できる。
3	循環器疾患、代謝疾患、感染症、免疫異常、腫瘍など主要な病気の病態形成について理解し説明できる。
4	先天異常、老化などの問題を理解し説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題（小テスト）・定期試験	20
到達目標②	課題（小テスト）・定期試験	20
到達目標③	課題（小テスト）・定期試験	40
到達目標④	課題（小テスト）・定期試験	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み	南山堂	小林正伸

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	病理学 疾病のなりたちと回復の促進 1	医学書院	大橋健一・谷澤徹・柴原純二・藤原正親
2	病気がみえる シリーズ各種	メディックメディア	編集 医療情報科学研究所
3	がんがみえる	メディックメディア	編集 医療情報科学研究所

オープンな教育リソース

講義の中で逐次紹介します。

学生へのメッセージ

「普段」を知っているからこそ「普段と違う」ことに気付くことができます。正常（解剖・生理学）を理解していないと異常（病気の成り立ち）を理解することは困難です。正常な構造・機能と対比してこそ見えてくる病気の成り立ちの履修内容を、単位修得にとどまらずに、自身の将来において社会に活かされる学びとすることを望みます。

毎回の講義資料（紙媒体）の配布は各回の講義室内限りとして、課題提出メ切り後に電子版をグループウェア（Microsoft Teams）上にアップロードします。講義資料（紙媒体）の後日の再配布は行いません。

課題に対するフィードバック

講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。更に、解答の内容・傾向から、必要に応じて、次回以降に総評・解説を加える場合もあります。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	病気と病理学 細胞の異常－病気の本態（1） ＊病気の発症原因 ＊細胞の構造と細胞傷害（1）	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第2回	細胞の異常－病気の本態（2） ＊細胞の構造と細胞傷害（2） ＊正常細胞の新陳代謝 恒常性の維持 ＊再生と修復 ＊ヒトの体の多層構造	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第3回	先天異常 ＊遺伝とは？ ＊先天異常とは？ ＊遺伝要因による先天異常 ＊環境要因による先天異常	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第4回	循環障害（1） ＊循環器系の働き ＊循環傷害（1）出血と凝固	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第5回	循環障害（2） ＊循環障害（2）虚血と梗塞、うっ血と浮腫、血圧の異常 ＊循環障害によって発症する主な疾患と病態	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A

第6回	代謝異常 *代謝とは何か *代謝異常 *糖代謝と糖代謝異常 *脂質代謝と脂質代謝異常 *核酸代謝と核酸代謝異常	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第7回	老化 *老化とは何か *細胞の老化と個体の老化 *老化に伴う各臓器の変化 *老化によって発症する主な疾患	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第8回	感染と感染症 *新興感染症、再興感染症 *感染症法 *病原体の種類 *常在細菌叢 *感染症の発症－3大要因 *水平感染－接触感染、飛沫感染、空気感染	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第9回	免疫と免疫異常（1） *非特異的防御機構（自然免疫） *特異的防御機構（獲得免疫）	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第10回	免疫と免疫異常（2） *抗体の種類 *アレルギー	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第11回	炎症 *炎症の5徴候 *炎症に関与する細胞 *炎症に関与する化学伝達物質	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第12回	腫瘍（1） *良性腫瘍と悪性腫瘍の違い *発癌に関与する化学物質 *癌のリスク要因 *慢性感染に起因する癌	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第13回	腫瘍（2） *悪性腫瘍における転移 *腫瘍マーカー	授業内容について教科書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第14回	まとめ（1） *第1回～第6回までの重要ポイントの解説	第1回～第6回の授業内容について教科書・講義資料などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第15回	まとめ（2） *第7回～第13回までの重要ポイントの解説	第7回～第13回の授業内容について教科書・講義資料などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
	学生による授業評価（アンケート回答）と学修成績評価（定期試験）		

栄養学入門（食品学を含む。）

更新日：2024/03/27 11:40:01

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M203010	授業コード	2M203010
担当教員	宮澤 洋子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S2103	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【養護】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	生きることと食品、そして栄養と健康の関係について基礎的なことを学ぶ。特に、生きるエネルギーとなり、からだをつくる3大栄養素とエネルギーバランスについての理解を深める。
方法	パワーポイントを用いて講義を行う。毎回プリントを配布して講義の要点を整理し、講義内容に関する課題をまとめて授業終了後に提出する。毎回、復習したことや予習したことの要点を質問して確認する。

履修条件

なし

履修する上の留意点

一連の栄養関係の科目の基礎となる科目であり、最初に受講した方がよい。

到達目標

1	①栄養や食品について、知識を習得することができる。
2	②自分自身や家族、また社会における食生活の状況を考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	課題	30
到達目標③		
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	毎回プリントを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業で随時紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

受け身ではなく、積極的に授業へ参加してください。得るものが多いと思います。

課題に対するフィードバック

毎授業後に提出された課題について、次週にまとめてフィードバックを行う。毎回、復習したことや予習したことの要点を質問して確認する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	栄養と食品についての概念 様々な環境で生きる人間の営み、食べる、生きるという意味について学修する。	①講義内容に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第2回	栄養学の歴史 栄養素の発見の歴史、世界、日本を学修する。	①栄養学の歴史に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第3回	食品の成分、からだの仕組みと食物の取り込について学修する。	①食品の成分に関する課題をまとめ、授業終了後に提出。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする	A
第4回	炭水化物の代謝と栄養 食品、ブドウ糖、エネルギー生成について学修する。	①炭水化物に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第5回	炭水化物の代謝と健康 血糖値、インスリン、糖尿病、肥満、食物繊維を学修する。	①炭水化物と健康に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第6回	脂質の代謝と栄養 食品、脂肪、コレステロール、飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸について学修する。	①脂質に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第7回	脂質の代謝と健康 血中脂質、肥満、摂り過ぎと病気、摂取基準について学修する。	①脂質と健康に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第8回	たんぱく質の代謝と栄養 からだの構成、食品、アミノ酸、体内の動きについて学修する。	①たんぱく質に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第9回	たんぱく質の代謝と健康 栄養価、欠乏症、痛風などについて学修する。	①たんぱく質と健康に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第10回	エネルギー代謝：運動 日常生活における消費エネルギー、基礎代謝、生活活動強度について学修する。	①消費エネルギーや生活活動強度に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第11回	エネルギー代謝	①摂取エネルギーや肥満、ダイエットに関する課題	A

	食物からの摂取カロリー、肥満、ダイエットについて学修する。	をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	
第12回	地産地消のための食品の旬、産地 遠くからくる食べ物、世界の貧しさのためにできること	①フードマイレージ、地産地消に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第13回	健康的な食生活をおくるために、開発途上国から先進国の問題を学修する。	①5大栄養素、食事摂取基準、食事バランスガイドに関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第14回	世界が注目する食生活 日本型食生活、地中海式食生活などを学修する。	①世界の健康的な食生活に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第15回	食品の安全性、食中毒、食品添加物、農薬などを学修する。	①食品の安全性に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②積極的にディスカッションに参加し、内容をまとめて提出する。	A
	定期試験		

学校保健 <<養護>>

更新日：2024/03/27 11:40:04

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M204010	授業コード	2M204010A
担当教員	後藤 多知子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S4101	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置	○		
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	学校保健の全体像を理解し、養護教諭（教育職員）として学校組織にどう関わっていくとよいか考えることを目指す。児童生徒等の健康実態を踏まえ、学校保健の今後の方向について考えることを目指す。
方法	教科書の内容を補完する資料を配付する。 毎回、前回の授業内容に関する小テストを実施し知識の修得につなげる。

履修条件

養護教諭免許状取得における必修科目である。教員免許状取得希望者または学校や児童生徒に関心を持ち、学びたいという主体的な姿勢を持つ学生であること。

履修する上の留意点

教員免許状における専門科目のベースとして1年次に開講されている。予習復習を行い主体的に授業に参加すること。毎回の授業時に前回授業内容の小テストを実施する。

到達目標

1	① 学校保健の基本知識を理解し、内容を説明（記述）できる。
2	② レポート課題に対し、参考図書などを調べた上で自分自身の考えをまとめることができる。授業時、自分の意見が発表できる。
3	③ 毎授業時の小テスト対策の積み重ねにより、基本知識の習得に努力できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期筆記試験	70

到達目標②	レポート・授業態度	15
到達目標③	小テスト	15
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション』	東山書房	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『学校保健マニュアル 改訂10版』	南山堂	

オープンな教育リソース

「学校保健ポータルサイト」「災害共済給付Web」を適宜、確認することを推奨する。

学生へのメッセージ

・養護教諭1種免許状の必修科目で、養護に関する専門科目の基本の知識を学ぶ。教科書や資料、授業時のメモを何度も復習し、専門用語を理解し、概念の自分なりの解釈に努めること。

課題に対するフィードバック

ワークシート、レポートは、ルーブリックにより評価し、適宜、フィードバックを行う。授業中の意見発表について、随時コメントをする。毎回の授業の始まりに前回の授業内容の小テストを実施する。小テストの解答説明時に復習を行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	生涯保健における学校保健の意義（公衆衛生システムにおける位置づけ、関連法規、関連機関）	・教科書第1章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第2回	学校教育と学校保健（教育と健康、個々の健康観の重要性）	・教科書第1章を熟読する。用語、法規について理解をする。	B,C
第3回	学校保健の特性・領域・構造	・教科書第1章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第4回	学校保健経営における組織活動の実際（学校保健計画、学校安全計画、関係職員、関係組織、関係機関）	・教科書第2章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第5回	チームとしての学校と学校保健（学校組織マネジメント、教職員の勤務状況と健康、保護者の役割）	・教科書第2章を熟読する。用語について理解をする。	
第6回	地域保健と学校保健の関連（健康日本21、健やか親子21、保健行政）	・教科書第1、5章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第7回	子どもの健康課題の変遷と学校保健の変遷①（中央審議会答申、文部科学省発行冊子の理解）	・教科書第4章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第8回	子どもの健康課題の変遷と学校保健の変遷②（課題毎の現状と対応）	・教科書第4章を熟読する。用語、法規について理解をする。	A
第9回	学校保健とヘルスプロモーション（プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーションスクール）	・教科書第3章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第10回	学校保健と人権①（スクールハラスメント、多様性の認識、情報管理、プライバシー保護）	・教科書第1章を熟読する。用語、法規について理解をする。	B,C
第11回	学校保健と人権②（インクルーシブ教育システムにおける合理的配慮、医療的ケア、発達障害の子どもへの対応）	・教科書第1、5章を熟読する。用語について理解をする。	B,C
第12回	学校保健と人権③（セルフエスティームの育成、自己決定権の尊重）	・教科書第2章を熟読する。用語について理解をする。	B,C
第13回	子どもの発育・発達（発育発達の特徴、成長曲線、学校保健統計調査、子どもの体力の現状）	・教科書第4章を熟読する。用語について理解をする。	B,C
第14回	学校保健活動の実際①（健康診断、健康観察、学校救急処置、健康相談、学校生活管理指導表）	・教科書第5章を熟読する。用語について理解をする。	
第15回	学校保健活動の実際②（感染予防、学校環境衛生、学校安全・危機管理、保健教育等）	・教科書第5章を熟読する。用語について理解をする。	
	定期試験	・持ち込み不可	

学校保健 <<健スポ>>

更新日：2024/03/27 11:40:06

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M204010	授業コード	2M204010B
担当教員	後藤 多知子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S4101	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置		○	
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間		30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	学校保健の全体像を理解し、教育職員として学校組織にどう関わっていくとよいか考えることを目指す。児童生徒等の健康実態を踏まえ、学校保健の今後の方向について考えることを目指す。
方法	教科書の内容を補完する資料を配付する。 毎回、前回の授業内容に関する小テストを実施し知識の修得につなげる。

履修条件

中学校および高等学校教諭一種教員免許状（保健体育）取得における必修科目である。教員免許状取得希望者または学校や児童生徒に関心を持ち、学びたいという主体的な姿勢を持つ学生であること。

履修する上の留意点

教員免許状における専門科目のベースとして1年次に開講されている。予習復習を行い主体的に授業に参加すること。毎回の授業時に前回授業内容の小テストを実施する。

到達目標

1	①学校保健の基本知識を理解し、内容を説明（記述）できる。
2	②レポート課題に対し、参考図書などを調べた上で自分自身の考えをまとめることができる。授業時、自分の意見が発表できる。
3	③毎授業時の小テスト対策の積み重ねにより、基本知識の習得に努力できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期筆記試験	70

到達目標②	レポート・授業態度	15
到達目標③	小テスト	15
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション	東山書房	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	学校保健マニュアル 改訂10版	南山堂	

オープンな教育リソース

「学校保健ポータルサイト」「災害共済給付Web」を適宜、確認することを推奨する。

学生へのメッセージ

教員1種免許状（保健体育科目）の必修科目として、専門科目の基盤となる知識を学ぶ。教科書や資料、授業時のメモを何度も復習し、専門用語を理解し、概念を自分なりに解釈すること。

課題に対するフィードバック

ワークシート、レポートは、ルーブリックにより評価し、適宜、フィードバックを行う。授業中の意見発表について、随時コメントをする。毎回の授業の始まりに前回の授業内容の小テストを実施する。小テストの解答説明時に復習を行う。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	生涯保健における学校保健の意義（公衆衛生システムにおける位置づけ、関連法規、関連機関）	・教科書第1章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第2回	学校教育と学校保健（教育と健康、個々の健康観の重要性）	・教科書第1章を熟読する。用語、法規について理解をする。	B,C
第3回	学校保健の特性・領域・構造	・教科書第1章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第4回	学校保健経営における組織活動の実際（学校保健計画、学校安全計画、関係職員、関係組織、関係機関）	・教科書第2章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第5回	チームとしての学校と学校保健（学校組織マネジメント、教職員の勤務状況と健康、保護者の役割）	・教科書第2章を熟読する。用語について理解をする。	
第6回	地域保健と学校保健の関連（健康日本21、健やか親子21、保健行政）	・教科書第1、5章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第7回	子どもの健康課題の変遷と学校保健の変遷①（中央審議会答申、文部科学省発行冊子の理解）	・教科書第4章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第8回	子どもの健康課題の変遷と学校保健の変遷②（課題毎の現状と対応）	・教科書第4章を熟読する。用語、法規について理解をする。	A
第9回	学校保健とヘルスプロモーション（プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーションスクール）	・教科書第3章を熟読する。用語、法規について理解をする。	
第10回	学校保健と人権①（スクールハラスメント、多様性の認識、情報管理、プライバシー保護）	・教科書第9章を熟読する。用語、法規について理解をする。	B,C
第11回	学校保健と人権②（インクルーシブ教育システムにおける合理的配慮、医療的ケア、発達障害の子どもへの対応）	・教科書第11章を熟読する。用語、法規について理解をする。	B,C
第12回	学校保健と人権③（セルフエスティームの育成、自己決定権の尊重）	・教科書第2章を熟読する。用語、法規について理解をする。	B,C
第13回	子どもの発育・発達（発育発達の特徴、成長曲線、学校保健統計調査、子どもの体力の現状）	・教科書第7章を熟読する。用語、法規について理解をする。	B,C
第14回	学校保健活動の実際①（健康診断、健康観察、学校救急処置、健康相談、学校生活管理指導表）	・教科書第5章を熟読する。用語について理解をする。	
第15回	学校保健活動の実際②（感染予防、学校環境衛生、学校安全・危機管理、保健教育等）	・教科書第5章を熟読する。用語について理解をする。	
	定期試験	持ち込み不可	

野外活動基礎実習

更新日：2024/04/17 15:40:22

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M205010	授業コード	2M205010
担当教員	浦野 忍、山根 基						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3101	授業形態	実習		実務経験のある教員による授業科目の配置		
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	60+30	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
○	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教材として、フライングディスク（通称、frisbee）・ボール・縄などを用いる。レクリエーションの要素を含んだ既存のゲームを体験し、さらに既存ゲームを通じて浮かび上がった課題に対して、「楽しさ」をキーワードに新しいゲームを考える。 また、キャンプ活動に必要な基礎的技術を体験学習しながら、行ったゲーム等を用いて野外活動を行う。
方法	キャンプ活動に必要な基礎的技術を体験学習しながら、行ったゲーム等を用いて野外活動を行う。 授業は、講義室、体育館(第2回～第5回)を予定している。 履修者数によっては下記の授業計画を変更する可能性もある。

履修条件

9月に予定しているキャンプ実習参加が必須。費用は別途徴収。

履修する上の留意点

履修者数によっては下記の授業計画を変更する可能性もある。

到達目標

1	①教材を理解し分析できる。
2	②技術修得に務めることができる。
3	③チーム活動を行うことができる。
4	④創作したゲームを解りやすくまとめてプレゼンテーションできる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	25

到達目標②	授業参加度	25
到達目標③	授業参加度	25
到達目標④	プレゼンテーション	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特定の教科書は使用しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて授業で紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

運動できる服装（スポーツウエア）で履修。体育館での実技は必ず体育館用シューズを用意する。

課題に対するフィードバック

各項目において学習、体験した内容をフィードバックすることで、よりよいレポートを作成し、キャンプ実習後に提出する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（授業目標の設定と概要説明）		
第2回	縄を用いたゲーム（長縄）	授業中に指定した課題を行う。	A,D
第3回	少人数で行うボールゲーム	授業中に指定した課題を行う。	A,D
第4回	フライングディスクを用いたゲーム（ドッチビー）	授業中に指定した課題を行う。	A,D
第5回	フライングディスクを用いたゲーム2（アルティメット）	授業中に指定した課題を行う。	A,D
第6回	ロープワーク	授業中に指定した課題を行う。	
第7回	野外活動の装備	授業中に指定した課題を行う。	
第8回	地図の活用法とコンパス	授業中に指定した課題を行う。	
第9回	応急手当（心肺蘇生法講習）	授業中に指定した課題を行う。	
第10回	野外での食事	授業中に指定した課題を行う。	
第11回	キャンプの基礎知識	授業中に指定した課題を行う。	
第12回	キャンプ・ファイヤー	授業中に指定した課題を行う。	
第13回	キャンプ実習について	キャンプ実習オリエンテーション。	
第14回	スタンプ計画	各グループでキャンプ実習のスタンプ実施案を作成。	B
第15回	スタンプ演習	各グループでキャンプ実習のスタンプ実施案の演習補正。	グループワーク
	2泊3日のキャンプ実習にて行う。（詳細は別紙）		

健康栄養学

更新日：2024/03/27 11:40:10

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M206020	授業コード	2M206020	
担当教員	宮澤 洋子							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	S2201	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース選択必修			授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	3大栄養素やからだの調子を整えるミネラル・ビタミンと健康の関係について、含有する食品や実際の生活のなかの事例、健康問題を取り上げながら基礎的な理解を深めていく。随時話題を提供する。
方法	パワーポイントを用いて講義を行う。毎回プリントを配布して講義の要点を整理し、講義内容に関する課題をまとめて授業終了後に提出する。毎回、復習したことや予習したことの要点を質問して確認する。

履修条件

なし

履修する上の留意点

栄養学入門(食品学を含む。)を受講していることが望ましい。

到達目標

1	①自分の健康を理解し、知識を習得することができる。
2	②自分自身や家族、また社会の問題として考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	課題	30
到達目標③		
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	授業毎にプリントを配布します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業で随時紹介します。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

受け身ではなく、積極的に授業へ参加してください。得るものが多いと思います。

課題に対するフィードバック

毎授業後に提出された課題について、次週にまとめてフィードバックを行う。毎回、復習したことや予習したことの要点を質問して確認する

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	3大栄養素とからだの調子を整える栄養素 3大栄養素、ビタミン、ミネラル、食品について学修する。	①ミネラル、ビタミンと食品について講義内容をまとめ、授業終了後に提出。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第2回	ミネラルと健康その1 カルシウム、リン、マグネシウム、食品について学修する。	①カルシウム、リンに関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第3回	ミネラルと健康その2 ナトリウム、カリウム、食品について学修する。	①ナトリウム、カリウムに関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第4回	微量ミネラルと健康 鉄、亜鉛、銅、ヨウ素、セレン、フッ素、その他、食品について学修する。	①微量ミネラルに関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第5回	ビタミンと健康：脂溶性ビタミン ビタミンA、ビタミンD、ビタミンE、ビタミンK、食品について学修する。	①脂溶性ビタミンに関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第6回	ビタミンと健康：水溶性ビタミン～1 ビタミンB1、ビタミンB2、食品について学修する。	①ビタミンB1、B2に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第7回	ビタミンと健康：水溶性ビタミン～2 ビタミンB6、葉酸、ビタミンB12、ビタミンCなど、食品について学修する。	①ビタミンB6、ビタミンCに関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第8回	その他の栄養に関連する成分 水、アルコール、機能性成分、栄養状態の評価方法 栄養不足や過剰の判定について学修する。	①機能性成分に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第9回	最近の食生活の動向と栄養問題 世界の食生活の動向、孤食、朝食抜き、野菜不足、サプリメント、食品の安全性について学修する。	①現代の食の問題に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第10回	社会と栄養 食事摂取基準、国民健康栄養調査、健康づくりのための食生活指針、健康日本21、食事バランスガイド、アンチエイジングなどについて学修する。	①社会における栄養施策に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第11回	生体リズムと栄養 生体リズムとは、生活習慣病との関連について学修する。	①生体リズム、生活習慣病との関連について課題をまとめ、授業終了後に提出する。	A

		②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	
第12回	長寿と栄養 世界の長寿地域、食生活の特徴について学修する。	①長寿地域と食生活の関係に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第13回	スポーツと栄養～1 根性から科学へ、筋肉、持久力をつくる栄養について学修する。	①スポーツと栄養との関係に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第14回	スポーツと栄養～2 勝つための食事、種目別の栄養の摂り方について学修する。	①スポーツと栄養との関係に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第15回	ストレス・精神活動と栄養 ストレスに負けない、頭脳をアップさせる食事について学修する。食と健康についてディスカッションをする。	①ストレス・精神活動と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②ディスカッションした内容をまとめ、提出する。	A
	定期試験		

ライフステージと病気予防の栄養学

更新日：2024/03/27 11:40:12

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M207010	授業コード	2M207010
担当教員	宮澤 洋子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S2202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	妊娠期から老年期まで人生の各ライフステージにおける現代の食生活の問題や病気を予防し生活のクオリティをあげる食事について解説する。「栄養学入門」と「健康栄養学」の応用編である。
方法	パワーポイントを用いて講義を行う。毎回プリントを配布して講義の要点を整理し、講義内容に関する課題をまとめて授業終了後に提出する。毎回、復習したことや予習したことの要点を質問して確認する。

履修条件

なし

履修する上の留意点

「栄養学入門」と「健康栄養学」を受講していることが望ましい。

到達目標

1	①ライフステージにおける特性や病気予防のための知識を習得し、説明することができる。
2	②自分自身や家族の生活に生かし、社会の問題として改善策などを計画することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	課題	30
到達目標③		

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	栄養科学ファウンデーションシリーズ 応用栄養学 第3版	朝倉書店	江上いすず

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業で随時紹介します。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

受け身ではなく、積極的に授業へ参加してください。得るものが多いと思います。

課題に対するフィードバック

毎授業後に提出された課題について、次週にまとめてフィードバックを行う。毎回、復習したことや予習したことの要点を質問して確認する。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	妊娠および胎児期 妊娠前に、胎児から出産について学修する。	①妊娠前後および胎児期健康問題と栄養との関係について講義内容をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第2回	乳児期 大切な初乳、母乳、離乳、食物アレルギーについて学修する。	①乳児期と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第3回	幼児期 正しい食習慣の確立、偏食、小児肥満について学修する。	①幼児期と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第4回	学童期 学校給食、朝食の欠食、小児生活習慣病の出現について学修する。	①学童期と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第5回	思春期 やせ願望と神経性食欲不振、貧血、自炊について学修する。	①思春期と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第6回	成人期 過剰栄養がもたらす肥満、種々の生活習慣病について学修する。	①成人期と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第7回	老年期 低栄養、認知症、骨粗しょう症について学修する。	①老年期と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第8回	特殊環境 高温・低温、高圧・低圧環境と栄養について学修する。	①高温・低温、高圧・低圧環境と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第9回	肥満とダイエット メタボリックシンドローム、ダイエット法について学修する。	①肥満やダイエットに関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A
第10回	高血圧、脂血異常症、動脈硬化発症のメカニズム、減塩、動物性脂肪、血管のつまり、胆石について学修する。	①脂血異常症等と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次の授業の予習をする。	A

第11回	心臓病・脳疾患などの循環器疾患 実生活の具体例、血液サラサラ、若年性認知症について学修する。	①循環器疾患と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第12回	ガン 治療の最前線、予防する食物、フードガイドピラミッドについて学修する。	①ガンと栄養に関する課題をまと、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第13回	糖尿病、骨粗鬆症 運動と栄養のバランス、若い時からの予防について学修する。	①糖尿病や骨粗鬆症と栄養に関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第14回	痛風、脂肪肝、冷え症 痛風発症のメカニズム、脂肪肝、冷え症の特徴について学修する。	①痛風などに関する課題をまとめ、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントで次回の授業の予習をする。	A
第15回	歯周病、アレルギー、その他、口臭から全身へ、免疫の重要性について学修する。病気と栄養の関係を総括する。	①歯周病、アレルギーなど、病気と栄養の関係を総括し、授業終了後に提出する。 ②授業内容を復習するとともに、教科書、配布プリントをまとめ、提出する。	A
	定期試験		

健康管理学概論

更新日：2024/03/27 11:40:15

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M208010	授業コード	2M208010
担当教員	今澤 正彦						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S2301	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース選択必修			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	国民一人一人の健康管理とは何か、そのための法律・制度・統計はどう在るのかなどを中心に、主に予防医学・公衆衛生学の視点から解説します。
方法	講義資料およびプレゼンテーションソフトウェア（Microsoft PowerPoint）による画面に基づいて講義を行います。講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。課題への取り組みの姿勢・内容・状況等を成績評価に考慮します。

履修条件

1年次開講科目である「病気の成り立ち」及び「心身健康論」の履修または自学自習が望ましい。

履修する上の留意点

Active Portalの出欠登録のシステムを利用して出席をとります。

講義クラス内の連絡や課題の提出・フィードバック（返却等）をグループウェア（Microsoft Teams）で実施しますので、スマートフォンやタブレットばかりではなく、パソコン（大学が学生一人一人に無償貸与しているノートパソコンなど）の持参・利用を推奨します。関連するシステムに関する相談等については、「ICT運用支援」で相談してください。

到達目標

1	健康・健康観について説明できる。
2	健康管理のための法律について説明できる。
3	健康管理のための制度について説明できる。
4	健康管理のための統計について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標②	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標③	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標④	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	学生のための健康管理学	南山堂	木村康一・永松俊哉
2	公衆衛生がみえる	メディックメディア	編集 医療情報科学研究所
3	病気がみえる シリーズ各種	メディックメディア	編集 医療情報科学研究所

オープンな教育リソース

講義の中で逐次紹介します。

学生へのメッセージ

単位修得にとどまらずに、自身の将来において社会に活かされる学びとすることを望みます。

毎回の講義資料（紙媒体）の配布は各回の講義室内限りとして、課題提出メ切り後に電子版をグループウェア（Microsoft Teams）上にアップロードします。講義資料（紙媒体）の後日の再配布は行いません。

課題に対するフィードバック

講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。更に、解答の内容・傾向から、必要に応じて、次回以降に総評・解説を加える場合もあります。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	健康の捉え方 *健康の定義・概念 *健康観 *予防医学	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第2回	人口動態統計、寿命 *人口 *出生 *婚姻 *離婚 *死亡 *平均寿命 *健康寿命	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第3回	国民の健康の現状把握 *各種指標 *受療状況	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第4回	健康情報	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第5回	健康増進	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第6回	生活習慣と健康	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第7回	疾病の予防 その1 *生活習慣病など	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A

第8回	疾病の予防 その2 *感染症、精神疾患など	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第9回	健康管理の進め方 その1 *健康管理の体系	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第10回	健康管理の進め方 その2 *健康教育、健康相談	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第11回	健康管理の進め方 その3 *集団健康診断、集団検診、スクリーニング	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第12回	健康管理の実際 その1 *地域の健康管理	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第13回	健康管理の実際 その2 *母子の健康管理（母子保健）	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第14回	健康管理の実際 その3 *学校の健康管理（学校保健）、職場の健康管理（産業保健）	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第15回	健康管理の実際 その4 *高齢者の健康管理（後期高齢者医療制度）	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
	学生による授業評価（アンケート回答）と学修成績評価（定期試験）		

生活習慣病論

更新日：2024/03/27 11:40:17

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M209010	授業コード	2M209010A, 2M209010B
担当教員	今澤 正彦						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S2203	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	○
コース別 必修・選択必修等	2024年度以降の入学学生は全コース選択必修				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	内因・外因や生活習慣について総論的に、生活習慣病各疾患を各論的に、解説します。
方法	講義資料およびプレゼンテーションソフトウェア（Microsoft PowerPoint）による画面に基づいて講義を行います。講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。課題への取り組みの姿勢・内容・状況等を成績評価に考慮します。

履修条件

なし。

履修する上の留意点

Active Portalの出欠登録のシステムを利用して出席をとります。

講義クラス内の連絡や課題の提出・フィードバック（返却等）をグループウェア（Microsoft Teams）で実施しますので、スマートフォンやタブレットばかりではなく、パソコン（大学が学生一人一人に無償貸与しているノートパソコンなど）の持参・利用を推奨します。関連するシステムに関する相談等については、「ICT運用支援」で相談してください。

到達目標

1	内因・外因や生活習慣について理解し、説明できる。
2	生活習慣病各疾患について理解し、説明できる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	課題（小テスト）・定期試験	50
到達目標②	課題（小テスト）・定期試験	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	内科学	朝倉書店	総編集 矢崎義雄・小室一成
2	病気がみえる シリーズ各種	メディックメディア	編集 医療情報科学研究所
3	がんがみえる	メディックメディア	編集 医療情報科学研究所

オープンな教育リソース

厚生労働省『生活習慣病予防のための健康情報サイト e-ヘルスネット』<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/>

その他、講義の中でも逐次紹介します。

学生へのメッセージ

単位修得にとどまらずに、自身の将来において社会に活かせる学びとすることを望みます。

毎回の講義資料（紙媒体）の配布は各回の講義室内限りとして、課題提出メ切り後に電子版をグループウェア（Microsoft Teams）上にアップロードします。講義資料（紙媒体）の後日の再配布は行いません。

課題に対するフィードバック

講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。更に、解答の内容・傾向から、必要に応じて、次回以降に総評・解説を加える場合もあります。

授業計画

授業回	学修計画	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	総論（1）生活習慣病		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第2回	総論（2）少子高齢化社会		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第3回	生活習慣病概論（1）悪性新生物（がん）		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第4回	生活習慣病概論（2）メタボリックシンドローム		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第5回	生活習慣病概論（3）糖尿病 ＊病態と進行		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第6回	生活習慣病概論（4）糖尿病の食事療法		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第7回	生活習慣病概論（5）糖尿病の運動療法		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第8回	生活習慣病概論（6）脂質異常症 ＊高コレステロール血症と高中性脂肪血症		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第9回	生活習慣病概論（7）高血圧症		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第10回	生活習慣病概論（8）脳血管疾患		授業内容について参考書などで予習する。	A

	<ul style="list-style-type: none"> *脳出血 *脳梗塞 *くも膜下出血 	授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病概論（9）心疾患 *心不全 *虚血性心疾患 *心電図 *不整脈 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。 	A
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病概論（10）肝疾患 生活習慣病概論（11）腎疾患（CKD） 生活習慣病概論（12）慢性閉塞性肺疾患（COPD） 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。 	A
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病概論（13）高尿酸血症・痛風、骨粗鬆症 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。 	A
第14回	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病概論（14）関節リウマチ、変形性関節症 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。 	A
第15回	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病概論（15）認知症とフレイル 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 学生による授業評価（アンケート回答）と学修成績評価（定期試験） 		

青少年期発達支援論

更新日：2024/03/27 11:40:20

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M210020	授業コード	2M210020
担当教員	後藤 多知子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	S4301	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【養護】			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	青少年期は心身が急速に発育発達を遂げる時期であり、生涯保健の観点からこの時期の生活行動は重要である。青少年期の心身の特徴や健康問題を学び「自分はどう生活したいか」について考えることを目指す。期末課題レポートの作成を通じ、個人またはグループで健康行動を実践し、根拠のある知識による行動変容の体験をすすめる。
方法	参加型授業として、実習演習、意見交換、ロールプレイ、ブレインストーミングを行う。ワークシートに従い、授業を展開する。

履修条件

養護・保健コース必修科目である。青少年期である学生は日常の生活行動を振り返り、現在及び将来の健康行動に繋がることを授業目標としている。3年時以降対象として、毎授業演習活動を行うことから、履修人数上限を65人とする。

履修する上の留意点

毎授業時のワークシート・レポート及び期末課題レポートの提出が欠かせない。主体的に授業時演習活動を行うこと。授業を欠席しないこと。地域の感染症発生状況により授業内容を変更する場合がある。

到達目標

1	①青少年期の特徴や健康問題に関する知識について理解することができる。
2	②生涯保健を意識し、自分の現在の生活行動を評価することができる。
3	③授業時、積極的に発言し、実習（ブレインストーミング、ロールプレイ、歯みがき練習など）に取り組むことができる。
4	④期末課題レポートにおいて、テーマについて適切に実践しまとめることができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	筆記小テスト・ワークシート・レポート	50
到達目標②	ワークシート・レポート	15
到達目標③	授業態度	5
到達目標④	期末課題レポート	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	授業時、資料配付		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業時、随時紹介する。		

オープンな教育リソース

・学校保健ポータルサイト <https://www.gakkohoken.jp/>

学生へのメッセージ

・授業時、主体的に演習活動に取り組むこと。毎時間、授業時に行ったワークシート等の課題提出がある。

課題に対するフィードバック

・ルーブリックによりレポートを評価する。授業時に適宜、巡回指導する。毎回の授業開始時、前回の授業内容の復習、課題レポートのフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	健康を考える（公衆衛生データから捉えるライフステージ別の健康課題）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第2回	現在の自分の健康課題を捉える	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第3回	心を捉える①（エゴグラムとは）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第4回	心を捉える②（エゴグラムの作成）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第5回	体格を捉える①（体格指数、適正体重、肥満、やせとは）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第6回	体格を捉える②（適切なボディイメージの重要性、摂食障害）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第7回	身体の発育①（青少年期の発育発達の特徴）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第8回	身体の発育②（成長曲線とは）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第9回	身体の成長③（自身の成長過程を知る）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第10回	おしゃれの効用とリスク（おしゃれ障害）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第11回	青少年期の口腔衛生①（ライフステージ別の歯科管理のポイント、虫歯と歯周病予防）	・次回ワークシート提出。	A,B,C
第12回	青少年期の口腔衛生②（口腔内チェック）	・次回ワークシートを提出。	A,B,C
第13回	性感染症の実態	・次回ワークシート提出	A,B,C
第14回	性感染症の予防	・次回ワークシートの提出	A,B,C
第15回	まとめ、筆記小テスト		
	期末課題レポート提出		

栄養診断演習

更新日：2024/03/27 11:40:22

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M211010	授業コード	2M211010
担当教員	宮澤 洋子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S2302	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
○	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	自分自身の食生活や栄養摂取量などを実際に測定し、それを診断・評価する。そして、自分の食生活を改善し、健康になることを目指して演習を行う。
方法	演習形式で行う。課題ごとのプリントを完成させる。最後にプリントをまとめて綴じたファイルを提出し、それを成績評価する。また、愛知県産業労働部と連携し、愛知ブランド企業を訪問してグループワークを行なう。

履修条件

「栄養学入門」「健康栄養学」「ライフステージと病気予防の栄養学」を受講していることが望ましい。

履修する上の留意点

受身ではなく、自主的に取り組んでいくことが必要とされる。

到達目標

1	①自分の食生活や栄養状態を診断、評価することができる。
2	②からだの栄養、生活習慣の関係を理解することができる。
3	③健康になるための改善計画を立て、実践することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	プリント	60
到達目標②	プリント	20
到達目標③	プリント	20

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	授業ごとにプリントを配布します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	随時紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

今まで学習してきた事柄を、実際に体験しながら学びましょう。

課題に対するフィードバック

提出されたプリントやそれをまとめたファイルの内容についてその都度フィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション、工場見学の事前学習をする。	工場で生産する食品についてグループワークにより学ぶ。工場を見学後にレポートにまとめ提出する。グループで発表テーマを決め、質問項目を考える。	A、B
第2回	食品成分表の使い方を学修する。	食品成分表を理解し、食品成分表を利用して例題の各栄養素の1日摂取量を完成させる。	A
第3回	「愛知ブランド企業に学ぶものづくり講座」に参加企業の工場を訪問	企業の工場における食品づくりを学ぶ。	D
第4回	「愛知ブランド企業に学ぶものづくり講座」に参加企業の工場を訪問	企業の工場における食品づくりを学ぶ。	D
第5回	歩数計を用い、生活時間調査を実施して、自分の消費エネルギーを調査する。(1日目)	1日目の生活時間調査を実施する。1週間にわたり歩数計を用いて自分の1日の平均歩数を記録する。	A
第6回	歩数計を用い、生活時間調査を実施して、自分の消費エネルギーを調査する。(2日目)	2日目の生活時間調査を実施する。1週間にわたり歩数計を用いて自分の1日の平均歩数を記録する。	A
第7回	自分の生活時間調査を基に、パソコンで自分の消費エネルギー、生活活動強度を推定、評価する。	自分の消費エネルギー、生活活動強度を資料と比較検討してまとめ、課題等も加えて提出する。	A
第8回	食習慣調査により自分の栄養摂取状況を推定する。(1日目)	典型的な1日目について秤量計を用いて食事調査実施し、記録する。	A
第9回	1日目の食事調査したデータを用いてパソコンにより計算する。	自分の食事調査結果を資料と比較検討してまとめ、課題等も加えて提出する。	A
第10回	食習慣調査により自分の栄養摂取状況を推定する。(2日目)	典型的な2日目について秤量計を用いて食事調査実施し、記録する。	A
第11回	2日目の食事調査したデータを用いてパソコンにより計算する。	自分の食事調査結果を資料と比較検討してまとめ、課題等も加えて提出する。	A
第12回	簡易調査法、食物摂取頻度法により自分の栄養摂取状況を推定する。食事バランスガイドにより自分の栄養摂取状況を推定する。工場見学で得た内容についてグループ発表する。	自分の栄養素摂取状況を資料と比較検討してまとめ、課題等も加えて提出する。グループ発表を行う。	A、B
第13回	自分の早朝尿の塩分量と舌の塩分感受性テストなどで塩分摂取量の診断する。	自分の尿に排出された塩分の数値および、食品に含まれる塩分濃度、塩分感受性テストなどから、自分の塩分摂取量について、考察を加えて提出する。	A、D
第14回	種々の方法で体脂肪を測定し、ウエイトコントロール計画をたて、体脂肪について学修する。	自分の体脂肪結果と栄養素摂取量との関係、問題の解決方法をについてまとめ、提出する。	A、D
第15回	ストレス尺度などを用いてストレス、疲労、睡眠について学修する。プレスローの健康習慣などにより食生活を含めた健康を考え、健康についてトータル的に学修する。	自分のストレス等と栄養・食生活との関係、健康習慣などについてをまとめ、提出する。	A
	まとめ	提出されたプリントを整理し、一つのファイルにして提出する。	

ヘルスアセスメント

更新日：2024/03/27 11:40:24

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M212010	授業コード	2M212010
担当教員	舘 英津子、近藤 由里子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	専健養-1-21	授業形態	演習	実務経験のある教員による授業科目の配置		。	
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間		60+30	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	養護教諭は健康・医療に関する専門的知識を有していることを期待されている。 この授業では、養護教諭が学校・幼稚園という教育の場において、身体的側面を評価する方法について学ぶ。 また、学生はグループで授業の一部を担当し、他者にわかりやすく伝える・教える方法についても実践的に学ぶ。
方法	・各担当グループは教員による事前指導を受け、実技の一部を他の学生に指導する。この時グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ、ディスカッションなどの手法を使う。 ・毎回の演習後、振り返りを行い学びを共有し、レポートを提出する。

履修条件

- ・養護教諭一種免許状取得希望者であること。
- ・「解剖・生理学」「看護学概論」「基礎看護方法論」の単位を修得済みまたは同時に履修していること。

履修する上の留意点

- ・養護教諭一種免許状のための必修科目である。「看護学概論」、「解剖・生理学」、「基礎看護方法論」の単位を修得済みであることを前提とした授業となる。単位を修得済みであっても予習・復習を含めた自己学習が必須である。
- ・講義室と実習室を使用し、2コマ連続の授業を行う。30分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・演習時は演習にふさわしい身だしなみ（体育ができる服装、靴、爪、髪型など）を整えて授業に臨むこと。整えていない場合、授業に参加できない。
- ・感染症予防に十分留意すること。感染症発生状況により授業内容、順番等が変更になることがある。

到達目標

1	代表的な体調不良の訴えやけがと、起こり得る症状や危険性との関連について説明することができる。
2	代表的な体調不良の訴えやけがと、その場合の身体的アセスメント方法について説明することができる。
3	代表的な体調不良の訴えやけがに対し、身体的なアセスメントの方法の流れを時間内に実演できる。

4	グループメンバーと協力し、より効果的な授業にする努力や姿勢を示すことができる。
---	---

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験・担当授業発表・レポート	45
到達目標②	定期試験・実技試験・担当授業発表・レポート	40
到達目標③	実技試験・担当授業発表・口頭試問	10
到達目標④	毎回の授業態度・担当授業発表	5
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ぜんぶわかる人体解剖図 系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説（解剖・生理学で使用）	成美堂出版	坂井建雄他
2	保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント（基礎看護方法論で使用）	東山書房	山内豊監修
3	最新Q&A教師のための救急百科 第2版（基礎看護方法論で使用）	大修館書店	衛藤隆、田中哲郎他編
4	養護教諭の活動の実際（第3版）（養護概説などで使用）	東山書房	静岡県養護教諭研究会編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭のための看護学 四訂版	大修館書店	藤井寿美子他編
2	ぜんぶわかる筋肉・関節の動きとしくみ事典 部位別・動作別にわかりやすくリアルに徹底解説	成美堂出版	川島敏生

オープンな教育リソース

授業内で紹介する

学生へのメッセージ

- ・アクティブラーニングが中心で実践的な授業となります。授業時間外にも積極的に自己練習やグループ練習を行い、より質の高い授業を作っていきましょう。頑張った分、より大きな達成感と充実感が得られるはずです。
- ・グループワークを毎回行いますのでグループメンバーと協力して授業に臨む姿勢を示しましょう。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートや質問については授業内で時間を取りフィードバックと解説を行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション、グループ分け、フィジカルアセスメントの流れ、問診、視診、養護診断とは衛生的手洗い	予習：「フィジカルアセスメント」序章を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B
第2回	ボディメカニクスを意識した身体の動かし方 ベッドメイキング・体位変換	予習：「学校看護」p129～133を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第3回	バイタルサインの測定 体温、脈拍、呼吸、血圧、血中酸素飽和度	予習：フィジカルアセスメントp48～66を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第4回	意識状態の測定 緊急視診、JCS、バイタルサインの測定	予習：フィジカルアセスメントp67～71を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第5回	熱っぽいときのアセスメント① 問診、前頸部のリンパ節の触知	予習：フィジカルアセスメントp165～167, p242～245を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第6回	熱っぽいときのアセスメント② 問診、耳、鼻、口腔内の観察のポイント	予習：フィジカルアセスメントp227～239を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第7回	四肢がおかしいときのアセスメント 緊急視診、良肢位、運動器疾患、関節可動域、観察のポイント	予習：フィジカルアセスメントp152～164, p297～299を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第8回	実技確認テスト	実技試験や口頭試問に向け練習する	

	(JCS、バイタルサインの測定など)		
第9回	頭部打撲時のアセスメント 緊急視診、脳震盪、教室復帰のための検査、観察のポイント	予習：フィジカルアセスメントp74～82, 「頭部外傷10か条の提言」(日本臨床スポーツ医学会)を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第10回	腹痛、腹部打撲時のアセスメント 緊急視診、腹腔内臓器位置のイメージ、観察のポイント	予習：フィジカルアセスメントp142～151, p255～268を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第11回	眼がおかしい、眼部打撲時のアセスメント 緊急視診、視力検査以外の検査・反射、観察ポイント	予習：フィジカルアセスメントp83～86, p214～226を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第12回	息苦しい、気管支喘息時のアセスメント 緊急視診、気管支喘息軽度発作時の対応、観察のポイント	予習：フィジカルアセスメントp169～173, 247～250を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第13回	手洗い指導 衛生的な手洗い、発達段階に合わせた集団指導方法	予習：「学校看護」p112～114を読み分らない部分を明確にしておく。 復習：ふりかえりレポート提出	A, B, D
第14回	実技確認テスト (頭部打撲、腹部打撲、気管支喘息など)	実技試験や口頭試問に向け練習する	
第15回	まとめ レポート作成 代表的なけが・体調不良の訴えに対するアセスメント方法についてレポートにまとめる	定期試験に向けて総復習をする	A
	定期試験		

薬理学概論

更新日：2024/03/27 11:40:26

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M213020	授業コード	2M213020
担当教員	戸刈 彰史						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S4203	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	薬がその働きを発揮するのはどのようにしてであろう。まず一つは、私たちの体が薬に対して積極的に作用し、薬は体内に吸収され、分布し、代謝され、排泄されていく。もう一つは、薬は私たちの体に備わっている生理機能の調節機構に働きかけ、体内の反応を促進したり抑制したりしてその効果を生じる。この二つの薬と体のやりとりが、薬の効果や副作用と密接に関わっていることを理解しながら、薬についての基礎的な知識を学ぶ(総論)。その後、比較的頻度が多い疾患の病態を踏まえて、薬がどのような機序で病気の回復に役立つのか、また、どんな副作用が生じるのかについて学び(各論)、薬の安全使用と疾病回復における薬の役割について考える。
方法	授業は予め配布した「講義テキスト」に基づき進行するが、理解を助けるため、「確認テスト」やグループ・ディスカッションを取り入れ、学習内容「それぞれの講義における到達目標」の確認と共用を図る。

履修条件

「解剖生理学」、「病気の成り立ち」を履修し、単位取得している人。健康の回復・維持と薬との関係に関心を持って授業に臨むこと。

履修する上の留意点

薬理学は薬という化学物質と生体との相互作用を学ぶことである。
 薬の働きを理解するうえで、ヒトの体の構造や生理を知っていることが必要となる。
 薬理学を学ぶ基礎として重要な解剖学や生理学にも関心を持って学ぶことも大切である。
 授業はシラバスに沿って進むので、毎回の予習や復習が次の授業に役立つ。講義テキストをしっかりと読み、薬についての理解を深めること。

到達目標

1	薬物療法および医薬品の法的規制やその開発について説明できる。
2	医薬品が生体に及ぼす影響と生体が医薬品に及ぼす影響を説明できる。
3	医薬品の安全使用に注意を払うべき事柄を説明できる。
4	講義で取り上げる疾患の主な病因や病態生理を説明できる。

5	講義で取り上げる疾患に用いる主な薬物とその作用機序や副作用を説明できる。
---	--------------------------------------

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	平常点・定期試験	10
到達目標②	平常点・定期試験	25
到達目標③	平常点・定期試験	15
到達目標④	平常点・定期試験	15
到達目標⑤	平常点・定期試験	35
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	シンプル薬理学	南江堂	野村隆英/石川直久/梅村和夫

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	最新薬理学—疾病の成り立ち及び回復過程の促進—	学建書院	大浦清/戸苅彰史編集

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

能動的な学修を望んでおり、講義時間を①前講義内容の復習時間(15分)、②講義時間(60分)、③小グループによる講義内容の復習時間(15分)に分ける。

まず、講義は講義毎の「到達目標」を踏まえ、「講義テキスト」に基づいて行う。講義の内容説明を終えたところで、小チームに分かれ、お互いに講義の到達目標を確認しながら、講義内容に基づいた「練習問題」を解く。次の講義の開始時に前回講義のフィードバックとして「練習問題」の解説を行いながら復習する。

このため、講義の簡単な予習(講義テキストの熟読)と講義後の到達目標と練習問題を用いた復習が望ましい。また、講義時間内に小チーム(5,6名の希望者)で議論するので、希望者は予め近隣に着席して受講するとよい。講義内容がスムーズに理解できていない場合などは、この時間を利用してチーム毎に遠慮なく議論・質問する。

なお、15回分の「講義テキスト」、「到達目標」のシートおよび「練習問題」は事前に配布します。

課題に対するフィードバック

講義内容の理解度を把握するため、講義時間内に小グループで議論しながら確認テスト(練習問題)を行い、到達目標を各自で確認する。この確認を次回の講義開始時に小グループでの議論を踏まえたフィードバックを行い、到達目標の確認・共有を図る。

授業計画

授業回	学修計画	学修内容	学修課題(予習・復習)の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	総論1. 薬物療法と医療における薬物(薬物療法、医薬品の定義、法的な規制、取り扱い、医薬品の開発)	予習として、講義テキストの総論1(教科書P3~8、44~48)を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第2回		総論2. 薬理学と薬理作用(薬の歴史、薬理作用の基本形式、薬理作用の分類、薬理作用と用量)	予習として、講義テキストの総論2(教科書P1~3、19~20)を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第3回		総論3. 薬物の作用機序(薬物の標的、薬物の作用部位、受容体・チャネル・トランスポーター・酵素に働く薬物)	予習として、講義テキストの総論3(教科書P8~18)を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第4回		総論4. 薬物動態学(投与経路、薬物の吸収・分布・代謝・排泄、血中濃度変化)	予習として、講義テキストの総論4(教科書P21~31)を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第5回		総論5. 薬効に影響を与える因子(生体自身および投与の仕方に起因する薬物感受性の差)	予習として、講義テキストの総論5(教科書P34~44、117~118)を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第6回		総論6. 薬物の有害作用と相互作用(薬物による有害作用、中毒、主な薬害、薬物間相互作用)	予習として講義テキストの総論6(教科書32~33、301~304)を読んでおく。授業で配布したプリント、板書のノートを見直し学習しておく。	A、B
第7回		各論1. 神経系と薬物(神経系の分類と役割、神経の情報伝達、神経系に作用する薬物)	予習として、講義テキストの各論1(教科書P53、57、84)を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第8回		各論2. 自律神経系に作用する薬物(交感神経・副交感神経・自律神経節に作用する薬物)	予習として、講義テキストの各論2(教科書P59~73)を読んでおく。授業後はノートとプリント内	A、B

		容をまとめておく。	
第9回	各論3. 運動神経系に作用する薬物（パーキンソン病治療薬、中枢性筋弛緩薬、末梢性筋弛緩薬、重症筋無力症治療薬）	予習として、講義テキストの各論3（教科書 P74-77、107-110）を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第10回	各論4. 痛覚・感覚神経系に作用する薬物（麻薬性鎮痛薬、神経障害性疼痛治療薬、局所麻酔薬）	予習として、講義テキストの各論4（教科書 P77-79、110-115）を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第11回	各論5. 中枢神経系に作用する薬物（催眠薬、抗精神病薬、抗不安薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、アルツハイマー病治療薬）	予習として、講義テキストの各論5（教科書 P95-106、256-261、268-278）を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第12回	各論6. 炎症系に作用する薬物（ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、抗アレルギー薬）	予習として、講義テキストの各論6（教科書 P221-228、231-234）を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第13回	各論7. 循環器・呼吸器・消化器系に作用する薬物（高血圧治療薬、強心薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬、喘息治療薬、潰瘍治療薬）	予習として、講義テキストの各論7（教科書 P110-115、124-146、225-228、259-261、268-272）を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第14回	各論8. 代謝系に作用する薬物（糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬、骨粗鬆症治療薬）	予習として、講義テキストの各論8（教科書 P146-150、248-254）を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。	A、B
第15回	各論9. 病原微生物およびがん細胞に作用する薬物（抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬、抗がん薬）	予習として、講義テキストの各論9（教科書 179-198、203-211、297）を読んでおく。授業後はノートとプリント内容をまとめておく。まとめの内容についてはしっかりと復習し定期試験に備える。	A、B
	薬理学概論のまとめ		
	定期試験		

養護概説

更新日：2024/03/27 11:40:28

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M214010	授業コード	2M214010
担当教員	後藤 多知子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S4204	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置	○		
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	養護教諭は学校保健における専門性を有し、世界で唯一の独自性がある職である。本授業は養護活動の基盤となる養護観、養護教諭観、および基礎的な知識、態度の育成を目指す。養護教諭の歴史と職務内容の変遷を踏まえ、近年、養護教諭に求められる社会的ニーズ、具体的な職務内容および求められる資質・能力について学ぶ。
方法	教科書をベースに、随時、内容を補完する資料を配付し講義演習を行う。

履修条件

養護教諭一種免許状の専門科目必修科目である。養護教諭を目指して主体的に学ぶこと。

履修する上の留意点

授業の予習・復習を必ず行うこと。

到達目標

1	①養護教諭および保健室に関する知識を理解し説明することができる。
2	②意欲的に授業を受講し、授業の課題に取り組むことができる。
3	③学生同士のペア活動やグループワークにおいて、コミュニケーション力、リーダーシップ力、マネジメント力が発揮できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	期末試験、レポート課題	80
到達目標②	授業態度、レポート課題	15

到達目標③	授業態度、レポート課題	5
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「新版・養護教諭 執務の手引き」	東山書房	編著：石川県養護教育研究会
2	「養護教諭の活動の実際」	東山書房	編著：静岡県養護教諭研究会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業時、随時紹介する。		

オープンな教育リソース

「学校保健ポータルサイト」、「災害共済給付Web」を適宜、確認することを推奨する。

学生へのメッセージ

養護に関する専門科目の基本知識を学ぶ。教科書や資料、授業時のメモを何度も復習し、専門用語の理解に努めること。

課題に対するフィードバック

レポート課題については、ルーブリックにより評価し、フィードバックを行う。授業時、適宜、巡回指導を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 養護の概念の理解①（養護の原理、機能）	現在の養護教諭観についてレポート提出	A、B
第2回	養護の概念の理解②（学校における養護の機能）	学校における養護の機能についてワークシートの提出	B
第3回	養護教諭の変遷①（制度、関連通達）	養護教諭に関連する制度についてワークシートの提出	
第4回	養護教諭の変遷②（役割、職務内容、求められる資質能力）	養護教諭の役割の変遷についてワークシートの提出	
第5回	養護教諭の職業倫理、養護教諭の現状①（配置数、教員免許法など）	養護教諭の就業現状についてワークシートの提出	
第6回	養護教諭の現状②（養護教諭育成指標、研修など）	養護教諭のキャリア発達についてワークシートの提出	
第7回	養護教諭の職務①（学校保健計画、活動計画、学校種別規模別職務の特徴）	学校種別児童生徒の健康課題について、ワークシートの提出	B、C
第8回	保健室の機能と運営①（保健室の機能、利用状況、経営計画、評価）	保健室経営計画について、ワークシートの提出	B、C
第9回	保健室の機能と運営②（保健室の設備備品の管理、レイアウト）	保健室のレイアウトの作成レポートの提出	B、C
第10回	養護活動の実際①（健康観察）	健康観察の法的根拠と目的について、ワークシートの提出	B、C
第11回	養護活動の実際②（健康診断、特別な配慮を要する児童生徒の保健管理）	学校における健康診断について、法的根拠や実施方法などのワークシートの提出	
第12回	養護活動の実際③（健康相談、学校環境衛生、学校安全、）	学校環境衛生の意義についてレポートを提出	
第13回	養護活動の実際④（危機管理、救急処置活動）	学校における危機管理、救急処置についてワークシートを提出	
第14回	養護活動の実際⑤（感染症の予防と対応、健康教育）	学校における感染症の予防と対応についてワークシートの提出	
第15回	まとめ	期末テスト対策	
	期末試験	持ち込み不可	

健康相談・健康相談活動

更新日：2024/03/27 11:40:31

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M215010	授業コード	2M215010
担当教員	後藤 多知子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S4206	授業形態	講義・実習			実務経験のある教員による授業科目の配置	○
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+30

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	保健室対応は個別化複雑化多様化している。身体症状訴えの背景として心理社会的な問題を抱かえているケースが増加している。疾病異常の知識をベースにした養護教諭ならではの健康相談が益々求められている。事例を知り、養護教諭の健康相談のための理論と実際を学ぶ。
方法	養護教諭の相談対応の基本知識技術を学ぶ。カウンセリングマインドを生かした関係者との対話、ヘルスアセスメント、校内外の学校保健関係者との連携を想定し実習や演習を行う。

履修条件

養護教諭一種免許状必修科目である。養護教諭としての相談対応の知識ベースが必要であることから、「学校保健」「養護概説」「ヘルスアセスメント」を履修していること。

履修する上の留意点

2コマ続きの科目である。毎回の予習・復習が欠かせない。課題レポートを次回の授業時まで提出すること。実習は積極的に参加し、反復練習をすること。服装、衛生配慮(爪、手洗い、頭髮)に留意をすること。感染症予防に留意し、自身の健康観察を行い参加すること。

到達目標

1	①保健室の機能や養護教諭の職務の特質を生かした養護教諭の健康相談について説明できる。
2	②養護教諭の相談対応、ヘルスアセスメントの基本的な知識・技術の理解と実演ができる。
3	③学校内外の学校保健関係者との連携・協働のポイントが理解できる。
4	④児童生徒の現代的健康課題に対する養護教諭の役割について理解できる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	定期試験、ワークシート・レポート・実技テスト	10
到達目標②	定期試験、ワークシート・レポート・実技テスト	70
到達目標③	定期試験、ワークシート・レポート・実技テスト	10
到達目標④	定期試験、ワークシート・レポート・実技テスト	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」	ぎょうせい	三木とみ子 徳山美智子
2	「子供たちを児童虐待から守るために－養護教諭のための児童虐待対応マニュアル」	日本学校保健会	
3	令和4年改訂版「教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引」	日本学校保健会	
4	「学校教育の現代的課題と養護教諭」	大学図書出版	河田史宝 岩崎保之

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	随時、指定する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

- ・健康相談の演習実習には、関連する専門知識が欠かせない。教科書、配布資料を予習復習に活用すること。
- ・感染症予防に留意をすること。地域の感染症発生状況により授業内容、順番等を変更することがある。

課題に対するフィードバック

ワークシート、レポートは、ループリットにより評価し、適宜、フィードバックを行う。保健室来室者対応練習において、授業時に巡回して指導を行う。また、ペアやグループでチェックシートを用いて学生間で評価をし合う。
実技テストは自然な対応ができるように、日常的に練習を繰り返す。実技テストで指摘した自身の課題をさらに練習し技術を修得する。

授業計画

授業回	学修計画 学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング の実施方法
第1回	オリエンテーション、養護教諭の健康相談①（概念・基本姿勢、必要な資質能力、意義・目的・展開のポイント）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第1～3章を熟読しておく。	
第2回	養護教諭の健康相談②（定義の理解：養護教諭の職の特質や保健室の機能を生かすとはどのようなことか、子どもの現代的健康課題とは）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第1～4章を熟読しておく。次回、グループワークシートを提出する。	B
第3回	保健室来室者対応のポイント①（養護教諭ならではのタッチング・リラクゼーションの目的と方法）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第1～3章を熟読しておく。次回、グループワークシートを提出する。	C,D
第4回	保健室来室者対応のポイント②（保健室の備品を効果的に活用する方法：毛布等の効果的な活用）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第5章を熟読しておく。次回、ワークシートを提出する。	C,D
第5回	養護教諭の健康相談を支える諸理論①（エリクソンなどの人格発達論、心身相関、ストレス反応など）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第4章を熟読しておく。次回、ワークシートを提出する。	C,D
第6回	養護教諭の健康相談を支える諸理論②（代償機制、発育発達理論）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第5章を熟読しておく。ワークシート、レポート提出する。	C,D
第7回	養護教諭の健康相談の実際①（環境整備の重要性、パーソナルスペースを認識した傾聴、タッチングの練習、非言語的メッセージの観察）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第4・5章を熟読しておく。ワークシート、レポート提出する。	C,D
第8回	養護教諭の健康相談の実際②（カウンセリングの技法を生かした対応練習）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第4・5章を熟読しておく。次回練習ワークシート提出する。	C,D
第9回	養護教諭の健康相談の実際③（養護教諭の健康相談のプロセスの理解、保健室来室者対応練習）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第4・5章を熟読しておく。次回練習ワークシート提出する。	C,D
第10回	養護教諭の健康相談の実際④（養護教諭のヘルスアセスメントとは、保健室来室者対応練習）	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第4・5章を熟読しておく。次回練習ワークシート提出する。	C,D
第11回	養護教諭の健康相談の実際⑤（健康相談における校内外の連携、	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と	C,D

	保健室来室者対応練習)	実際」の第7章を熟読しておく。次回練習ワークシート提出する。	
第12回	養護教諭の健康相談の実際⑥(継続的支援①:慢性疾患を有する子ども、特別な支援が必要な子ども、不登校、いじめなど不適應が生じている子ども、保健室来室者対応練習)	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第7章を熟読する。次回、ワークシートの提出する	C,D
第13回	養護教諭の健康相談の実際⑦(継続的支援②:保健室登校、虐待、自傷行為など、保健室来室者対応練習)	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第6・7章を熟読する。ワークシートの提出する。	C,D
第14回	養護教諭の健康相談の実際⑧(継続的支援③:自殺念慮などの危機対応)校内外の関係者との連携・協働、記録のポイント、保健室来室者対応練習)	「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」の第6・8・9章を熟読する。ワークシートの提出する。	C,D
第15回	実技テスト(来室理由別保健室対応ロールプレイ)	持ち込み不可	C,D
	定期試験	持ち込み不可	

看護学概論

更新日：2024/03/27 11:40:34

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M216010	授業コード	2M216010
担当教員	舘 英津子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	S4102	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	○
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【養護】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	看護とは、傷病者への手当、援助のみならず、広く健康を保持増進するための援助活動である。本講義では看護学の中から特に大学生に必要とされる生活習慣や環境が健康に及ぼす影響に関する基礎的な知識、代表的な体調不良へのケア、性教育の源となる妊娠などについて学ぶ。また学校における養護活動の場面で子どもたちに必要な支援ができるような基本的な看護の考え方についても解説する。
方法	パワーポイントとワークシートを使用して講義を行う。授業の最後に理解度を確認するミニツツペーパーをFormsで提出してもらう。授業の中でグループワークを行うことがある。

履修条件

なし

履修する上の留意点

養護・保健コースの必修科目である。

到達目標

1	健康と健康的な生活について基礎的な知識について説明できる。
2	代表的な体調不良について基本的な対処法について説明できる。
3	自分や身近な人の健康に関心を持ち、健康課題や改善案について具体的に述べるることができる。
4	授業や調べたことを基に健康や生命について自分なりの考えを記述することができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	定期試験・ミニッツペーパー	50
到達目標②	定期試験・ミニッツペーパー	30
到達目標③	定期試験・ミニッツペーパー	10
到達目標④	定期試験・ミニッツペーパー	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	新版 養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—すべての子供の健康実現を目指して—	東山書房	遠藤伸子、池添志乃、籠谷恵編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭のための看護学四訂版	大修館書店	藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮他編
2	いのちの夢—難病の子どもたちが願ったこと—	草思社	矢貫隆
3	こどもの病気の地図帳	講談社	鴨下重彦・柳澤正義／監修

オープンな教育リソース

授業内で紹介する

学生へのメッセージ

自分の身体とは一生付き合うものです。自分や身近な人の心身の健康に興味・関心を持ち、楽しく意欲的に学んで欲しいと思います。

課題に対するフィードバック

ミニッツペーパーに寄せられた質問や感想については次回の授業の中で時間を取ってフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション 健康とは、ヘルスプロモーション、看護と養護	教科書の該当箇所を読み理解する、配布資料を整理し授業内容を復習する。	A
第2回	ライフスタイルの形成 ライフスキルとは、コミュニケーションスキル	アサーションについて調べわかりにくい点を書き出す 授業内容を復習する。	D
第3回	生活習慣と疾患 健康診断、高血圧、糖尿病、脂質異常症、動脈硬化	動脈硬化について調べわかりにくい点を書き出す 授業内容を復習する。	A
第4回	基本的な生活習慣とセルフケア① 標準体重、肥満とやせ、メタボリックシンドローム	BMIについて調べ、自分のBMI、標準体重を出しておく。自分の過去の体重の推移も書き出しておく 授業内容を復習する。	A
第5回	基本的な生活習慣とセルフケア② 食習慣、食事バランスガイド、ビタミン・ミネラル	この4日間の自分の食生活をふりかえり課題をまとめる。 授業内容を復習する。	A
第6回	基本的な生活習慣とセルフケア③ 活動と休息、運動、生活リズム	この4日間の自分の起床時間・就寝時間をふりかえり課題をまとめる。 授業内容を復習する。	A
第7回	ニコチン依存、スマホ依存 依存症の種類、依存症による脳の変化、子どもへの影響	喫煙率に関する最新統計を調べ、気づきと感想をまとめて提出する。 授業内容を復習する。	A
第8回	症状からみた病気とケア①発熱 子どもの健康観察、子どもの体温の特徴、発熱の原因となる主な病気、発熱時のケア、けいれん時のケア	細菌とウイルスの違い、薬剤耐性菌（薬剤耐性ウイルス）について調べてくる。 授業内容を復習する。	A
第9回	症状からみた病気とケア②咳 結核、気管支喘息、咳のケア	結核について結核予防会のHPの「結核とは」を読んでくる。 授業内容を復習する。	A
第10回	症状からみた病気とケア③腹痛、嘔吐、下痢、脱水 感染性腸炎、脱水症状、標準予防策	標準予防策（スタンダードプリコーション）について調べてくる。 授業内容を復習する。	A
第11回	疾患をもつ子どもへの支援 さまざまな先天性疾患、疾患が子どもに及ぼす影響、キャリアオーバー、インクルーシブ教育	先天性の疾患、小児のがんについて調べてくる。 授業内容を復習する。	A

第12回	性感染症とその予防 主な性感染症、予防と治療	若者に多い性感染症、近年増えてきている性感染症について調べてくる。 授業内容を復習する。	A
第13回	避妊と人工妊娠中絶 主な避妊方法とそのメリット・デメリット、子どもを産まない選択、人工妊娠中絶	海外の避妊法、米国の人工妊娠中絶政策について調べてくる。 授業内容を復習する。	A
第14回	妊娠のしくみ リプロダクティブヘルス/ライツ、排卵から着床まで、出生前検査について	出生前検査、それに関する統計について調べてくる。 授業内容を復習する。	A
第15回	看護学概論のまとめ	授業内に出された課題についてレポートを作成する	A
	定期試験		

基礎看護方法論

更新日：2024/03/27 11:40:37

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M217010	授業コード	2M217010
担当教員	舘 英津子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	専健養-1-20	授業形態	講義・演習		実務経験のある教員による授業科目の配置	○	
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	60+30	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	学校現場等においてよくみられる代表的な体調不良の訴えや疾患、けがについて、予測される状態と関連を学び、その基本的な対処法やその根拠について学ぶ。また、学校現場で必要とされる看護の基本技術を身につける。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2コマ連続の授業を行う。1限目では毎回資料を配布し講義を行い、2限目は実習室で実技をとまなう演習を行う。 ・演習時は毎回2～4人でロールプレイングなどのグループワークを行う。 ・毎回、演習の終了後そのグループで学びを共有しレポートを提出する。

履修条件

・養護教諭一種免許状取得希望者の必修科目である。「看護学概論」「解剖・生理学」の単位を修得済みまたは同時に履修していること。

履修する上の留意点

- ・「看護学概論」、「解剖・生理学」を修得済みであることを前提とした授業となる。そうでない学生は予習・復習を含めた自己学習が必須である。
- ・1時間目が講義（講義室使用）、2時間目が演習（実習室使用）の2コマ連続の授業となる。
- ・演習時は演習にふさわしい身だしなみ（髪型、服装、爪、靴など）を整えて授業に臨むこと。
- ・実技は授業時間外にも積極的に繰り返し自己練習を行い、身につけること。
- ・演習ではグループワークを毎回行う。グループメンバーと協力して授業に臨む姿勢を示すこと。
- ・感染症予防に留意すること。地域の感染症発生状況により授業内容、順番等が変更となることがある。

到達目標

1	学校でみられる代表的な体調不良の訴えやけがについて、予測される状態と観察ポイントについて説明できる。
2	学校でみられる代表的な体調不良の訴えやけがについて、基本的な対処法とその根拠について説明できる。
3	学校現場で必要とされる看護の基礎技術を習得し、時間内に実演できる。

4 子どもの健康を守るための予防活動や子どもの健康に関する今後の課題について具体的な方法を述べることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験・演習レポート・口頭試問・実技試験	40
到達目標②	定期試験・演習レポート・口頭試問・実技試験	40
到達目標③	実技試験・口頭試問	10
到達目標④	定期試験・レポート	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント	東山書房	山口豊明監修、三村由香里、岡田加奈子編
2	学校において予防すべき感染症の解説<平成30（2018）年発行>	公益財団法人日本学校保健会	学校保健会
3	最新Q&A教師のための救急百科 第2版	大修館書店	衛藤隆、田中哲郎他編
4	熱中症環境保健マニュアル2022（webでダウンロード）	環境省	
5	ぜんぶわかる 人体解剖図（解剖・生理学で使用）	成美堂出版	坂井建雄、橋本尚詩
6	養護教諭、看護師、保健師のための新版学校看護（看護学概論で使用）	東山書房	遠藤伸子、池添志乃、籠谷恵編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	こどもの病気の地図帳	講談社	鴨下重彦・柳原正義監修
2	園・学校でみられる 子どもの病気百科	少年写真新聞社	内海裕美監著

オープンな教育リソース

学校保健ポータルサイト<https://www.gakkohoken.jp> 刊行物、日本スポーツ振興センター<https://www.jpnssport.go.jp> 各種報告書/など
他随時授業内で紹介する

学生へのメッセージ

養護教諭は健康・医療に関する専門的知識を有した教員であることが求められています。授業以外でも病気やけが、その対応について関心を持ち、積極的に学びましょう。

課題に対するフィードバック

講義中に理解度のチェックとして重要事項について質問する。また授業後のミニッツペーパーについては講義・演習の中で時間を取ってフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	1限目：オリエンテーション 学校管理下の事故（各自PC持参） 2限目：演習オリエンテーション	「学校等の管理下の災害（令和5年度版）」で小学校・中学校の学校管理下の事故件数、事故事例について調べてくる。	A,B
第2回	1限目：子どもの事故と応急処置① 止血法、RICE処置、頭部打撲 2限目：スタンダードプリコーション・衛生的手洗いとは	前回講義中に示されたweb上の資料を読み、意見をまとめ発表できるようにしておく。	A,B
第3回	1限目：子どもの事故と応急処置② 誤飲、窒息、中毒、やけど、熱中症 2限目：衛生的手洗い（手洗いチェッカーを用いたチェック）	「保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント」p207～211を読んでくる。	A,B
第4回	1限目：子どもの事故と応急処置③ 意識レベルの確認、立ちくらみ、過換気症候群 2限目：ボディメカニクス（ベッドメイキング）	「保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント」p67～71を読んでくる。	A,B,D
第5回	1限目：子どもの事故と応急処置④ さまざまな体位、失神、けいれん、一次救命措置 2限目：ボディメカニクス（体位の変換）	「最新Q&A教師のための救急百科第2版」のQ39～50を読んでくる。	A,B,D
第6回	1限目：アレルギー疾患 食物アレルギー時の対応、アナフィラキシーショック 2限目：適切な体位（実技チェック）	アレルギー対応ガイドラインについて調べてくる。前回講義中に示されたアレルギーに関するweb上の資料を読み、意見をまとめ発表できるようにしておく。	A,B,D
第7回	1限目：子どもによくみられる感染症① 感染症、予防接種	『学校において予防すべき感染症の解説』公益財団法人日本学校保健会を読んでくる	A,B,D

	2限目：止血法（直接圧迫止血、間接圧迫止血）		
第8回	1限目：子どもによくみられる感染症② 出席停止期間 2限目：包帯法（講義・実践）	学校でよくみられる感染症、出席停止期間について 小テストを実施する	A,B,D
第9回	1限目：循環器疾患と養護 先天性心疾患、虚血性心疾患、高血圧、学校生活管理指導表 2限目：包帯法（実技チェック）	学校生活管理指導表に何がかけられているか調べてくる	A,B,D
第10回	1限目：造血器、小児の造血器疾患と養護 白血病、さまざまな先天性疾患、病児の理解 2限目：感染防止対策（講義）	造血のしくみ、血液の役割について説明できるように復習しておく	A
第11回	1限目：糖尿病と養護 1型糖尿病、2型糖尿病、1型糖尿病児の養護 2限目：感染防止対策（PPE実技）	1型糖尿病児の学校生活の実際について調べ、ふりかえりレポートに記載して提出	A,B
第12回	1限目：泌尿器疾患と養護 膀胱炎、ネフローゼ症候群、腎不全、人工透析 2限目：感染防止対策（吐物処理方法・講義）	腎臓のしくみ、尿が作られる仕組みについて説明できるように復習しておく。小学生の夜尿症について調べて意見が言えるようにしておく。	A,B
第13回	1限目：皮膚、眼、耳鼻の事故・疾患と養護 蕁麻疹、眼損傷、眼、耳の異物、副鼻腔炎 2限目：感染防止対策（吐物処理方法・実技）	「保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント」p195～198を読んでくる。	A,B
第14回	1限目：歯、運動器疾患と養護 う歯、DMF歯数、抜歯時の対応、脊柱側弯、オスグッド病 2限目：ケースレポート作成（各自PC持参）	「最新Q&A教師のための救急百科第2版」のQ106～110、Q140～143を読んでくる。	A
第15回	1限目：薬物、アルコール ゲイトウェイドラッグ、危険薬物、フラッシュバック 2限目：ケースレポート作成・提出（各自PC持参）	薬物依存症について調べてくる	A
	定期試験		

学校救急処置(臨床実習を含む。)

更新日：2024/03/27 11:40:39

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M218010	授業コード	2M218010
担当教員	近藤 由里子、森 千鶴						
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外						
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	T4301	授業形態	演習・実習			実務経験のある教員による授業科目の配置	○
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+30

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場における救急処置の知識、技術、態度に対する習熟度を高めるよう講義、演習を行う。 実習室で2コマ連続の授業（座学と演習）である。また、学外施設での臨床実習を含めた科目である。 臨床実習の準備として、臨床実習を想定した知識・技術・態度の確認を行う。 臨床実習においては、実習目的・目標、実習に対する、自身の実習目標の設定を行い、臨床実習に臨み、実習後は自身の課題を考え、学校現場で活用できるよう学修する。
方法	<ul style="list-style-type: none"> 演習は2～4人でロールプレイング、ペアワーク、グループワークを行う。 グループワークの発表を通して、自分の気づきや意見を発表する。 臨床実習ではカンファレンスで学びを共有し、レポートを提出する。 前年度2月、7月下旬～9月で臨床実習を行う。詳細は別途指示する。

履修条件

- ・教職に関する履修の手引きP12の10 臨床実習（学校救急処置）の履修条件に合致していること。
- ・「心身健康論」「解剖・生理学」「看護学概論」「救急処置法」の単位を修得していること、かつ「基礎看護方法論」「薬理学概論」を修得済みか履修中であること。

履修する上の留意点

- ・臨床実習費12000円、感染症抗体価など10,000円～15,000円程度、抗体不十分な場合の追加接種費用、ユニフォーム代10000円程度その他、実習施設までの交通費などが別途必要（個人負担）となる。
- ・30分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・身だしなみ（頭髪、服装、爪、靴など）を整えて授業に臨むこと。
- ・臨床実習にいけるレベルに達していないと感じた学生は、授業前後、その他空き時間を含め、自己学習が必須となる。
- ・グループワークを毎回行うため、グループメンバーと協力して授業に臨む姿勢を示すこと。
- ・第1回目講義で行う確認テストは合格（80点）するまで実施する。講義内で再試験の場合、授業外で行う。

到達目標

1	学校や臨床実習に必要な看護技術の根拠が説明できる。
2	学校や臨床実習に必要な看護技術を修得し実演することができる。
3	臨床実習において、自分の課題から達成可能な目標を設定し達成することができる。
4	グループで協力しながら、積極的に課題の達成に向けて取り組むことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	確認テスト・レポート	20
到達目標②	実技・レポート	10
到達目標③	実習記録・レポート	60
到達目標④	実習記録・レポート・発表	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント	東山書房	山内豊明監修
2	改訂 養護教諭のための診断学 内科編	東山書房	杉浦守邦著
3	改訂 養護教諭のための診断学 外科編	東山書房	杉浦守邦著
4	先生！大変です！どうしたらいいですか!! -応急処置の実際-	東山書房	玉川進監修

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	ここがポイント！学校救急処置 基本・実例、子どものなぜに答える	全養サ書籍編集委員会	草川功監修
2	養護教諭のための看護学 四訂版	大修館書店	藤井寿美子他編
3	ぜんぶわかる人体解剖図 系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説	成美堂出版	坂井建雄他著
4	こどものフィジカル・アセスメント	金原出版	小野田千枝子
5	フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 第2版	医学書院	山内豊明

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

グループワークには積極的な参加を求めます。救急処置に関する既習の知識を活用しながら、さらに学びを深めていってください。また、臨床実習では、養護教諭を目指す学生であっても、医療施設外の方々から医療従事者の一員として捉えられていると理解してください。学内演習への取り組みからすでに臨床実習が始まっているという緊張感を持って、身だしなみや言葉遣いなどに留意し、授業に臨んでください。

課題に対するフィードバック

リフレクションノート、及びレポートについては、翌週の授業までに添削し返却する。質問や他の学生にも共有してほしい学びについては、授業時間内でフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（本科目で学ぶこと、講義・演習の進め方） 知識確認テスト（解剖生理、救急処置法、基礎看護方法論）		予習：シラバスの内容について読んでくる。身だしなみ（服装・頭髪・靴・爪）に必要な準備をする。 知識確認テストで80%以上を獲得できるよう復習しておく 復習：確認テストで間違えたところを訂正し、解説を加えて提出する	A, B, C
第2回	様々な方法でのバイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧） ベットメイキングと環境調整 実技の確認		予習：テキスト、参考図書の該当部分を読む。ベッドメイキングの手順を予習しておく。バイタルサイン測定ができるように事前練習を行う 復習：学修したことをリフレクション（ふりかえり）ノートにまとめ提出する	A, B, C, D
第3回	移動・移乗の援助（車いす、松葉杖） 体位		予習：テキスト、参考図書の該当部分を読み、事前課題をレポートする 復習：学修したことをリフレクションノートにまとめ提出する	A, B, C, D
第4回	骨折、捻挫、打撲の処置 包帯法・三角巾の使用方法、RICE処置		予習：テキスト、参考図書の該当部分を読み、事前課題をレポートする	A, B, C, D

		復習：学修したことをリフレクションノートにまとめ提出する	
第5回	意識障害、貧血・脳貧血について 養護教諭としての意識障害、貧血・脳貧血時の対応	予習：テキスト、参考図書の該当部分を読み、事前課題をレポートする 復習：学修したことをリフレクションノートにまとめ提出する	A, B, C, D
第6回	発熱、気分不快、倦怠感について 養護教諭としての発熱、気分不快、倦怠感の対応	予習：テキスト、参考図書の該当部分を読み、事前課題をレポートする 復習：学修したことをリフレクションノートにまとめ提出する	A, B, C, D
第7回	熱中症、脱水について 養護教諭としての熱中症、脱水時の対応	予習：テキスト、参考図書の該当部分を読み、事前課題をレポートする 復習：学修したことをリフレクションノートにまとめ提出する	A, B, C, D
第8回	臨床実習事前学習① グループワーク（医学用語、検査、処置などの調べ学習）	予習：グループワークに必要な情報を収集する 復習：グループワークで学修したことをリフレクションノートにまとめる	B
第9回	臨床実習事前学習② グループワーク（看護技術などの調べ学習）	予習：グループワークに必要な情報を収集する 復習：グループワークで学修したことをリフレクションノートにまとめる	B
第10回	臨床実習事前学習③ 事前学習発表	予習：グループワークに必要な情報を収集する 復習：グループワークで学修したことをリフレクションノートにまとめる	B
第11回	臨床実習オリエンテーション① 令和6年度臨床実習要項の説明	予習：令和6年度実習要項を読む 復習：実習要項を読み、レポート・記録の書き方を熟読する	A, B
第12回	臨床実習オリエンテーション② 臨床実習準備、物品配布、役割分担 臨床実習直前指導（あいち小児保健医療総合センター）	予習：様式2-2を記述し、あいち小児保健医療総合センターについての理解を深める。 復習：実習要項を読み、レポート・記録の書き方を熟読する	A, B
第13回	臨床実習（あいち小児保健医療総合センター）	予習：あいち小児保健医療総合センターより事前配布された資料を熟読する 復習：様式4を記述し第14回の講義前に提出する	D
第14回	臨床実習振り返り（あいち小児保健医療総合センター） 臨床実習直前指導 （独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院・松川クリニック）	予習：様式2-2を記述し独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院・松川クリニックについての理解を深める 復習：臨床実習振り返りを行い気づき、学びをまとめる（次回の臨床実習に生かす）	A, B
第15回	学校救急処置講義まとめ	予習：講義終了後の臨床実習にむけての実習目的、目標を再確認する。	A, B

養護活動実習 <<前期>>

更新日：2024/03/27 11:40:42

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M219020	授業コード	
担当教員	後藤 多知子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	専健養-00-30	授業形態	実習		実務経験のある教員による授業科目の配置	。	
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	60+30	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	学校保健における健康管理・健康教育の演習・実習である。学校現場で求められる児童生徒や職員に対する健康管理の知識及び技術を学ぶ。授業は前期16回で学校保健安全法に基づき実施される健康診断および環境衛生検査、学校における災害共済給付システムについて知識・技術を修得する。後期16回では学校における救急処置対応、事故・病気の予防活動について実践力を身につける。さらに養護教諭としての校内予防活動への取り組みを考え提案できる力を養う。
方法	授業運営は主として学生の各担当グループが行う。各担当グループは、教員による事前指導を何度も受け、授業運営計画の立案、資料準備、物品・会場準備、模範演技提示、実習練習指導を行う。この時、授業内容によりグループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ、ディスカッションなどの手法を使う。 この活動は、将来、養護教諭として学校に就任した際に必要な資質能力を養うことにつながる。また、担当した授業テーマは強みに成り得る。

履修条件

- ・養護教諭一種免許状取得希望者
- ・「学校保健」「養護概説」「看護学概論」「基礎看護方法論」「救急処置法」「ヘルスアセスメント」を修得済みまたは履修中であること。ただし編入生はこの限りではない。
- ・養護実習前の基本的知識技術の習得に必要であるため養護教諭一種免許状取得希望者は必ず履修をすること。

履修する上の留意点

- ・履修条件に示した授業内容が身につけていることを前提とする。
- ・2コマ連続の授業である。受講学生は授業前に教科書を読んで予習しておくことが必須である。毎授業後の課題レポートを期限内に提出すること。
- ・演習時は身だしなみ(頭髪、爪、服装など)を整えて授業に臨むこと。

到達目標

1	学校における健康診断、環境衛生検査、災害共済給付システムについて理解し、測定検査等ができる。
2	担当授業運営をメンバーと協力して主体的に行うことができる。又、各授業に積極的に参加できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート・定期試験（筆記・実技テスト）	80
到達目標②	担当授業発表・授業態度	20
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学校保健実務必携	第一法規	
2	児童生徒等の健康診断マニュアル（平成27年度改正）	日本学校保健会	
3	就学時の健康診断マニュアル（平成29年度改正）	日本学校保健会	
4	学校心臓検診の実際—スクリーニングから管理まで—（令和2年度改定）	日本学校保健会	
5	学校検尿のすべて（令和2年度改定）	日本学校保健会	
6	学校環境衛生管理マニュアル(平成30年度改訂)	日本学校保健会	
7	成長曲線活用の実際—成長曲線に基づく児童生徒等の健康管理の手引—	日本学校保健会	
8	「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり（令和元年度改訂）	日本学校保健会	
9	新 看護学生のための歯科学	医歯薬出版株式会社	
10	その他今まで購入したテキストも随時使用する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭が行う歯・口の保健指導	ぎょうせい	安井利一、三木とみ子編集
2	基礎から学ぶ成長曲線と肥満度曲線を用いた栄養指導	第一出版	村田光範

オープンな教育リソース

「学校保健ポータルサイト」「災害共済給付Web」を適宜、確認することが望ましい。
他、授業内で随時紹介する

学生へのメッセージ

（前期）

- ・演習実習には、関連する専門知識が重要となる。教科書、配布資料を予習復習に活用すること。
- ・感染症予防に留意すること。地域の感染症発生状況により授業内容、順番等が変更となることがある。

（後期）

- ・ロールプレイング、学生担当授業などアクティブラーニングを中心とした実践的な授業となる。授業時間外にも積極的に自己練習やグループ練習を行いより質の高い授業を作るよう努めてほしい。
- ・グループワークを毎回行うのでグループメンバーと協力して授業に臨む姿勢を示すこと。
- ・地域の感染症発生状況等により授業内容、順番等が変更となることがある。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートはルーブリックにより評価し、添削後返却する場合と授業内でフィードバックを行う場合がある。授業内容の演習実習について、巡回指導により随時指導をする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 学校保健安全法	学校保健に関連する法規の確認	
第2回	学校における健康診断（定期・臨時・就学時）	教科書を読み理解する	
第3回	身体測定（身長、体重）、脊柱検査等の運動器検診の実際	レポート提出	C,D
第4回	視力検査の実際	レポート提出	C,D
第5回	聴力検査の実際	レポート提出	C,D
第6回	尿検査・心臓検診の実際・学校生活管理表による健康管理 色覚検査の実際（色覚特性と必要な配慮）	レポート提出	C,D
第7回	栄養状態の把握（体格指数の算出・成長曲線、貧血の疑い）	レポート提出	C,D
第8回	結核検診・寄生虫卵の有無の検査の実際 児童生徒に多い皮膚の異常 （頭しらみ・ダニなどによる害、アレルギーや感染症による症状）	レポート提出	C,D
第9回	内科・眼科・耳鼻科検診の実際、胸郭の異常、衛生器具の取り扱い	レポート提出	C,D

第10回	歯・口腔の健康管理・教育の実際①（歯・口腔のしくみ・歯科検診システム）	レポート提出	C,D
第11回	歯・口腔の健康管理・教育の実際②（口腔ケアの方法と指導・ライフステージ別の課題、歯科教育目標）	レポート提出	C,D
第12回	学校環境衛生検査の実際（学校環境衛生検査とは、飲料水の検査、照度の測定、空気の検査）	レポート提出	C,D
第13回	学校環境衛生検査の実際（その他の検査）	レポート提出	C,D
第14回	学校管理下における災害共済給付システム（日本スポーツ振興センターの手続きの実際）	レポート提出	C,D
第15回	実技テスト・筆記テスト		
	実技テスト・筆記テスト		

養護活動実習 <<後期>>

更新日：2024/03/27 11:40:44

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M219020	授業コード	
担当教員	舘 英津子、森 千鶴						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	専健養-00-30	授業形態	実習	実務経験のある教員による授業科目の配置		。	
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	60+30		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	学校における救急処置対応、事故・病気の予防活動について実践力を身につける。さらに養護教諭としての校内予防活動への取り組みを考え提案できる力を養う。
方法	15回の授業のうち後半の6回分の授業運営は「学生担当授業」とし、学生の各グループが担当する。各担当グループは、教員による事前指導を何度も受け、授業運営計画の立案、資料準備、物品・会場準備、模範演技提示、実習練習指導を行う。この時、授業内容によりグループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ、ディスカッションなどの手法を使う。この活動は、将来、養護教諭として学校に就任した際に必要な資質能力を養うことにつながる。また、担当した授業テーマは強みに成り得る。また毎回の授業後にはグループで振り返りを行い学びを共有し課題レポートを提出する。

履修条件

- ・養護教諭一種免許状取得希望者
- ・「学校保健」「養護概説」「看護学概論」「基礎看護方法論」「救急処置法」「ヘルスアセスメント」を修得済みまたは履修中であること。ただし編入生はこの限りではない。
- ・養護実習前の基本的知識技術の習得に必要であるため養護教諭一種免許状取得希望者は必ず履修をすること。

履修する上の留意点

- ・履修条件に示した授業内容が身につけていることを前提とする。
- ・2コマ連続の授業である。受講学生は授業前に資料を読んで予習しておくこと。
- ・毎授業後の課題レポートを期限内に提出すること。
- ・演習時は身だしなみ(頭髪、爪、服装など)を整えて授業に臨むこと。

到達目標

1	学校で起こり得るけが・急病に対する処置の方法、根拠、予測される重症化のサイン、具体的な連携方法について他者に説明できる。
2	学校で起こり得るけが・急病への対応(観察、処置、連絡含む)を時間内に実演できる
3	自分の課題に気づき、PDCAサイクルに基づき毎回のレポートで述べるができる
4	グループメンバーと協力し、より効果的な授業にする努力や姿勢を示すことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験・担当授業発表	80
到達目標②	実技・担当授業発表	5
到達目標③	レポート	10
到達目標④	実技・担当授業発表・レポート	5
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（令和元年度改訂）	日本学校保健会	
2	先生！大変です！どうしたらいいですか！！—応急処置の実際—	東山書房	玉川進監修、今井睦他著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	学校の先生にも知ってほしいアレルギーの子どもの学校生活	慶應義塾大学出版会	西間三馨編著
2	すぐ使える！学校保健OJTシート	東山書房	東京都学校保健研究会編著
3	ここがポイント！学校救急処置（新版）基本・実例、子どものなぜに答える	農文協	草川功監修、全養サ書籍編集委員会著
4	学校における水泳プールの保健衛生管理（平成28年度改訂）	日本学校保健会	

オープンな教育リソース

学校保健ポータルサイト

他授業内で随時紹介する

学生へのメッセージ

- ・ロールプレイング、学生担当授業などアクティブラーニングを中心とした実践的な授業となります。より質の高い授業を作る一員としての自覚をもって授業に取り組ましましょう。
- ・毎回の授業資料をTeamsにupしますので予習も必ずしましょう。その他授業時間外にも積極的に自己練習やグループ練習を行いましょう。
- ・グループワークは毎回行います。グループメンバーと協力して授業に臨む姿勢を示しましょう。
- ・地域の感染症発生状況等により授業内容、順番等が変更になることがあります。その際はTeamsかメッセージで連絡します。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートはルーブリックにより評価し、添削後返却する場合と授業内でフィードバックを行う場合がある。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 保健室でよくみられる対応 ケース1 鼻出血と創傷（2か所以上の創傷、止血、創傷処置） ケース2 腹痛（腹部のアセスメント、腹部打撲、緊急視診）	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第2回	対処法：骨折、ショック時の対応 ケース1 前腕骨折の対応（開放骨折への対応、血液の取り扱い方、止血点、RICE処置応用、ショック時の対応） ケース2 アキレス腱損傷（三角巾での固定、RICE処置応用、担架搬送方法、救急車の要請）	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第3回	対処法：気道・眼・耳・鼻の異物混入、歯牙脱落等 ケース1～6 気道、耳、鼻、眼への異物混入時の対応、誤飲時の対応、眼部の保護、歯牙脱落時の対応など	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第4回	対処法：頭部外傷時の対応 頭部打撲、脳震盪（教室復帰時の観察ポイント、意識レベル低下時の対応、救急車の要請、保護者連絡、学内連携など）	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第5回	対処法：食物アレルギー、アナフィラキシーショック（前駆症状のいろいろ、エピペン使用のタイミング、エピペンの使い方、救急車の要請など）	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出レポート提出	A,B,D
第6回	対処法：一次救命処置、救急搬送 ショック症状への対応、心肺停止、AEDの使用、緊急時の役割分担、保護者対応、受診時の持ち物、救急隊へ引継ぎなど）	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出レポート提出	A,B,D
第7回	学校内での救急体制 救急体制と校内連携、養護教諭が行う学内教員研修方法	予習：upされた資料を読み疑問点を明らかにしておく 復習：演習の振り返り	A,B,D
第8回	保健室備品・消耗品の管理 救急靴・処置コーナーの管理、消毒、洗浄、滅菌について、器具	予習：upされた資料を読み疑問点を明らかにしておく	A,B

	の消毒法、保健室での問診の仕方と記録	復習：演習の振り返りレポート提出	
第9回	グループ発表①感染症発症の対応・校内体制 ・教員への嘔吐物の処理方法の研修 ・吐き気、嘔吐への対応（感染性胃腸炎、食物アレルギーなど）	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第10回	グループ発表② 慢性疾患を持つ児童生徒・保護者への対応 ・学校生活管理指導表 ・心臓病、1型糖尿病を持つ児とその保護者との面談、 ・低血糖症状への対応	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第11回	グループ発表③ 熱中症、倦怠感への対応 ・熱中症予防集団保健指導方法、教員研修 ・熱中症、けいれんへの対応 ・倦怠感への対応（熱中症、発熱、貧血など）	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第12回	グループ発表④ 水泳指導、一次救命処置、けがへの対応 ・水泳指導に関する教職員研修、一次救命処置、校内連携 ・けがへの対応（眼部打撲、頭部打撲、前腕骨折など）	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第13回	グループ発表⑤ 宿泊行事事前指導、事前準備、校内連携 ・学外行事中のけが・病気への対応（喘息・てんかん・やけど・発熱）、保護者連絡、校内体制	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第14回	グループ発表⑥ 食物アレルギー対応教員研修 ・エビペン使用に関する教職員への研修試案作成 ・腹痛への対応（虫垂炎、腹部打撲、食物アレルギーなど）	予習：upされた対応表を読み実演できるようにしておく 復習：演習の振り返りレポート提出	A,B,D
第15回	養護教諭が行う組織活動 現代的健康課題を抱える子供たちへの支援、児童生徒保健委員会の指導 まとめ	自分が想定した学校における児童生徒保健委員会の活動内容を考えておく	A,B
	定期試験		

健康教育・保健室経営演習

更新日：2024/03/27 11:40:46

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M220010	授業コード	2M220010
担当教員	森 千鶴						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	S4303	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	○
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・養護実習や卒業後の養護実践をイメージしながら、養護教諭の役割について具体的な場面での対応を通して学ぶ。 ・授業の基盤をなす「仮想学校」という舞台を想定し、実践力を育成する上で重要な意味をもつ場面設定のプロセスを学ぶ。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な資料の収集を行って仮想学校作りを行う。 ・仮想学校を舞台に、実際に想定される具体的な場面での対応について学び、健康教育や保健室経営における養護教諭の役割をレポートにまとめる。

履修条件

「養護概説」・「健康相談・健康相談活動」・「養護活動実習」等を発展させる。

履修する上の留意点

養護実習や養護実践をイメージして具体的な場面想定を行い、学校保健活動における養護教諭の役割について学ぶため、各回の学びについて予習・復習をしっかりと行うこと。

到達目標

1	学校組織の一員としての養護教諭の役割について説明することができる。
2	養護実践をイメージしながら、児童生徒・家庭・地域の実態に応じた具体的な学校保健活動を考え発表することができる。
3	健康教育・保健室経営の進め方を学び合いながら意欲的に活動することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	各回での提出物、学修ノート	30

到達目標②	授業で作成したファイル、保健だより、保健室掲示物	50
到達目標③	担当班での発表、授業態度	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭の活動の実際第3版	東山書房	林 典子監修
2	新版・養護教諭 執務のてびき	東山書房	植田誠治監修
3	これで解決！保健室経営Q&A	ぎょうせい	三木とみ子編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	実践!!思春期の歯・口の健康づくり～実践事例集～	日本学校保健会	
2	学校保健OJTシート	東山書房	鈴木裕子監修

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

グループでの活動には、積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

仮想学校の内容をまとめたファイルや各回のレポートについて、ルーブリックにより評価する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（資料の作り方、発表の仕方、レポートの書き方） 仮想学校づくり①（学校名、学校周辺の環境、家庭状況、外国人児童生徒など）	復習：学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	A
第2回	仮想学校づくり②（学校規模、教職員数、校舎の構造、子どもの健康実態、保健室のレイアウトなど）	予習：教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習：学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	A
第3回	仮想学校づくり③（学校教育目標、学校行事、学校保健目標など）	予習：教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習：学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	A
第4回	仮想学校づくり④（保健室経営計画、月別保健目標など）	予習：教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習：学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	A
第5回	仮想学校の概要の発表（1回から4回までの内容を網羅する。）	予習：仮想学校づくりの発表原稿をまとめておく。 復習：発表を聞いて、自分の仮想学校に対する考えを学修ノートにまとめる。	B
第6回	保健情報の把握（校内巡視、健康情報）の在り方 担当班ごとに発表	予習：教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習：学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	B、D
第7回	学校の危機管理と保健室経営、安全管理上の養護教諭の役割 担当班ごとに発表	予習：教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習：学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	B、D
第8回	保健情報の把握（健康診断 3種類の健康診断と実施主体）と情報管理の進め方 担当班ごとに発表	予習：教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習：学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	B、D
第9回	組織活動の進め方（児童生徒保健委員会 小、中、高等学校校種別指導内容） 担当班ごとに発表	予習：教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習：学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	B、D
第10回	組織活動の進め方（学校保健委員会 データの処理と読み取	予習：教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行	B、D

	り)、個別の保健教育の進め方(歯科保健) 担当班ごとに発表	う。 復習:学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	
第11回	歯科保健活動の進め方 歯科衛生士の講話	復習:講話から学んだことをレポートにまとめる。	
第12回	啓発活動(ほけんだより)の進め方 担当班ごとに発表	予習:教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習:学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	B、D
第13回	啓発活動(掲示物)の進め方 担当班ごとに発表	予習:教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習:学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	B、D
第14回	保健指導(健康課題の把握、課題解決に向けた保健指導)の進め方 担当班ごとに発表	予習:教科書を読んでおく。必要な資料の収集を行う。 復習:学修内容についての自分の考えや疑問点等を学修ノートにまとめる。	B、D
第15回	「仮想学校における養護教諭の役割について」の発表 個人で発表	・発表内容を原稿としてまとめ、学修ノートと共に提出する。 ・第1回から15回までの作成資料全てをファイルにまとめて提出する。	B
	レポート課題 : 保健だより、保健掲示物の作成		

体育実技(器械運動)

更新日：2024/03/27 11:40:48

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2M226020	授業コード	2M226020A, 2M226020B
担当教員	鈴木 雅博						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	S3201	授業形態	実技			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生選択必修【健スポ】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	器械運動の特性、基礎知識、初心者の方の指導法の習得と教員採用試験に必要な技能の習得に取り組む。
方法	基本的な技能から段階的に習得し、発展する技や難易度の高い技を指導していく。また、プリント等を活用し、技の理論的な理解を深めると同時に練習方法や指導方法の理解を深める。

履修条件

履修者25人まで、超過の場合は抽選により決定。

履修する上の留意点

実技授業であるため、運動のできるトレーニングウェアであること。また、ピアス等の装飾品は禁止とします。以上のことが守られていない場合は受講を認めません。

到達目標

1	器械運動の特性と教材づくり、指導法について理解することができる。
2	マット運動の技能習得と技に対する論理的理解ができる。
3	器械運動の情報を整理・分析し、考察することができる技能を身につける。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	成果発表(実技)	20
到達目標②	成果発表(実技)	60
到達目標③	授業態度	20

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	担当者作成のテキスト		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	中学校、高等学校学習指導要領解説(保健体育編)		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

毎時間練習した技能の習得状況を確認しながら指導助言する。限られた授業時間で教員採用試験に必要とされる技能、知識を身に着ける。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	器械運動の特性と学習内容の理解 体づくり運動の理解	テキストで指定した部分を読んでくる。体づくり運動を考える。 マット運動に適したストレッチや柔軟及びクールダウンを考える。	A,C
第2回	体づくり運動の実践 基本技術の練習 接点・ほん転技群～前転・後転・側転等	テキストで指定した部分を読んでくる。体づくり運動を考える。 マット運動に適したストレッチや柔軟及びクールダウンを考える。	A,C
第3回	体づくり運動の発表 器械運動の教材づくりと指導法の理解 マット運動における技の発展段階の理解と補助法	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。	A,C
第4回	体づくり運動の発表 ほん転技群～側方倒立回転・ロンダート等 倒立における基本技術の知識と理解	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。	A,C
第5回	体づくり運動の発表 倒立の練習と補助法 背倒立・三点倒立	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。	A,C
第6回	体づくり運動の発表 倒立の基本姿勢と倒立静止および補助法	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。	A,C
第7回	体づくり運動の発表 マット運動の基本技術と基本姿勢の理解 練習段階に応じた技の習得	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。	A,C
第8回	体づくり運動の発表 マット運動のほん転技群の技能習得と練習方法の理解 練習段階に応じた技の習得と技の論理的な理解と指導法の理解と補助法	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。	A,C
第9回	体づくり運動の発表 マット運動のほん転技群の技能習得と練習方法の理解 技の論理的な理解と指導法の理解と補助法	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。	A,C
第10回	体づくり運動の発表 マット運動のほん転技群の技能習得と練習方法の理解 技の論理的な理解と指導法の理解と補助法	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。 ジャンプ、倒立前転、開脚前転をスムーズに行えるようイメージする。	A,C
第11回	体づくり運動の発表 跳ね起き技の習得 スポーツ障害、外傷の知識と応急手当	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。 ジャンプ、倒立前転、開脚前転、ローリングをスムーズに行えるようイメージする。	A,C
第12回	体づくり運動の発表 ハndsプリングの習得	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。	A,C

	発展技への挑戦（前方宙返りなど）	本日の授業において習得した技能を発表する。 ジャンプ、倒立前転、開脚前転、ローリング、後転、バランスをスムーズに行えるようイメージする。	
第13回	体づくり運動の発表 ハンドスプリングの習得 発展技への挑戦（前方宙返りなど） マット運動規定の仮発表	マット運動の練習、柔軟性の向上。体づくり運動を考える。 本日の授業において習得した技能を発表する。 ジャンプ、倒立前転、開脚前転、ローリング、後転、バランス、側転（男子は前方倒立回転跳び）をスムーズに行えるようイメージする。	A,B
第14回	マット運動(規定演技)の成果発表 ジャンプ、倒立前転、開脚前転、ローリング、後転、バランス、側転（男子は前方倒立回転跳び） 自身の技能に応じて連続技を構成し発表する。	規定演技が順序よく演技できるように考える。 演技実施減点のないよう、模範となる演技を考える。	A,B
第15回	マット運動(自由演技)の成果発表 前転、後転、伸膝前転、伸膝後転、側転、バランス、倒立などから自身の技能に応じて連続技を構成し発表する。	自由演技が順序よく演技できるように考える。 演技価値点を確認し演技実施減点のないよう、模範となる演技を考える。	A,B

体育実技(剣道)

更新日：2024/03/27 11:40:50

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M227020	授業コード	2M227020
担当教員	白石 裕章						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	S3103	授業形態	実技			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生選択必修【健スポ】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	剣道は日本の伝統的な運動文化であると同時に精神文化である。剣道は、技の習得と心の在り方を学び、全人的な向上を目指すという武道の持つ特性を運動の実践を通して学ぶものである。本授業では、この考え方をもとに「形」・「基本稽古」の学習とその成果を確認する「互角稽古」について授業を進める。
方法	正しい剣道技術の修得を通して、その背景となる剣道における礼式・残心についての理解を深め、礼節を尊び自己と他者との望ましい関係性を築き、相互の思いやりを具現化し実践できることを学習の目標とする。

履修条件

なし

履修する上の留意点

- ・実技実施にあたり剣道具に装着する「名札」と「手ぬぐい」を購入していただきます。費用は昨年度実績500円です。所有している場合は購入の必要はありません。
- ・服装は、剣道衣、袴を着用します。それぞれ貸し出しをしますが、履修期間中は各自で保管してください。履修期間終了後は、必ず洗濯をして返却してください。所有している人は、自分のものを使用してください。

到達目標

1	授業への取り組みを充実させ学習内容の理解に努め、次の学習目標が設定できる。
2	「気・剣・体」の一致した打突ができる。
3	学習時に、相手と気持ちを合わせ相互に協調しながら技の修得に取り組むことができる。
4	相互が尊重しあい、攻防について工夫・研究しながら試合をすることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	20
到達目標②	実技「気」「剣」「体」による相互評価活動の実践	20
到達目標③	実技「木刀による剣道基本技稽古法」の修得	30
到達目標④	実技「剣道具着装による剣道実技」の修得	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特定の教科書は指定しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	剣道授業の展開 ―ダイジェスト版― 第4刷	(公財)全日本剣道連盟	
2	木刀による剣道基本技稽古法	(公財)全日本剣道連盟	
3	日本剣道形解説書	(公財)全日本剣道連盟	

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

「剣道は、剣の理法の修練による人間形成の道である。」（全日本剣道連盟）という理念に基づき、学習活動による実践を通して、日本の伝統的な文化に接することで、武道の1つである剣道の中にある精神性や動きの特性を学ぶとともに、自身の人間性を高めていけるようにしていきます。

課題に対するフィードバック

基本稽古、互角稽古および「木刀による剣道基本技稽古法」や「日本剣道形」などの実践状況の自己評価や相互評価および総合評価を踏まえフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、剣道着・袴の着想・たたみ方① 等）	剣道に関する書籍を読み、剣道の概要を理解しておくようにする。	
第2回	剣道着・袴の着想・たたみ方① 刀（竹刀・木刀・刀剣）の意義を理解する。 剣道における所作の理解と修得。基本動作（礼式の作法、九歩の間合い）。 剣道的要素を取り入れた実技1（体ほぐし運動）気合かけ、剣道じゃんけんの実践 「木刀による剣道基本技稽古法」① 立ち合いの映像を視聴する。	剣道着・袴の着想・たたみ方を覚える。左座右起や礼式を意識しながら、日常生活でも実践できるように努める。剣道を初めて体験する生徒に対して、剣道の映像を見ることによりイメージを持ち、授業における楽しい動機付けを学ぶ。気合の掛け合いや剣道じゃんけん 「木刀による剣道基本技稽古法」① 映像を視聴し、全体の流れを掴む。	B,C
第3回	剣道着・袴の着想・たたみ方② 剣道具の出し方・着脱法・片付け方① 足さばき・竹刀の操作を理解し、できるようにする。 剣道的要素を取り入れ、音楽を利用した実技2（リズム剣道） 新聞紙を利用した（新聞切りおよび新聞打ち）の実践。 「木刀による剣道基本技稽古法」② 礼法及び基本1「一本打ちの技」	剣道着・袴の着想・たたみ方に慣れる。剣道具の出し方・着脱法・片付け方を覚える。剣道特有の足さばきや竹刀操作を楽しみながら実践し、武道的素養となる遊びを体験する。 「木刀による剣道基本技稽古法」② 礼法及び基本1「一本打ちの技」を覚える。	B,C
第4回	剣道着・袴の着想・たたみ方③ 剣道具の出し方・着脱法・片付け方② 面を着装するための準備（手ぬぐいの着用を含む） 中段の構えから素振り（上下素振り・三拳動の正面素振り・前進後退正面素振り・左右面素振り） 「木刀による剣道基本技稽古法」③ 基本2「連続技」	剣道着・袴の着想・たたみ方を確実に身につける。 剣道具の出し方・着脱法・片付け方に慣れる。竹刀操作を確実に身につける。手ぬぐいの使い方を練習し早く正しくかぶることができるように練習する。 「木刀による剣道基本技稽古法」③ 基本2「連続技」を覚える。	B,C
第5回	剣道具の出し方・着脱法・片付け方③ 講義「剣道の稽古と目的」 基本「切り返し」① 基本技①「一本打ちの技」面・小手・胴 ※しかけ技①動作の基本を習得する。 地稽古①（習った技を使って自由に打ち合う） 「木刀による剣道基本技稽古法」④ 基本3「払い技」	剣道着・袴の着想・たたみ方を覚える。剣道具の出し方・着脱法・片付け方を確実に身につける。基本技の「しかけ技①一本打ちの技」を覚える。一連の動作をスムーズに行えるようにする。（1、気攻め・体攻め 2、準備 3、発声を伴う打突 4、残心） 「木刀による剣道基本技稽古法」④ 基本3「払い技」を覚える。	
第6回	講義「気・剣・体の一致」	「しかけ技②連続技」と「引き技」引き面を覚え	B,C

	<p>基本「切り返し」② 基本技②「連続技」2・3段の連続打ち ※しかけ技②連続技の実践。 基本技③「引き技」引き面 ※つば競り合いから後退しながらの打突 地稽古②（習った技を使って自由に打ち合う） 「木刀による剣道基本技稽古法」⑤ 基本4「引き技」</p>	<p>る。打突部位を正しく捉えることができるように努める。「気・剣・体」が一致した打突ができるように工夫、努力をする。 「木刀による剣道基本技稽古法」⑤ 基本4「引き技」を覚える。</p>	
第7回	<p>講義「四戒」 基本「切り返し」③ 基本技④「払い技」 ※相手の竹刀を払って構えを崩して打突 基本技⑤「引き技」引き小手 ※つば競り合いから後退しながらの打突 地稽古③（習った技を使って自由に打ち合う） 「木刀による剣道基本技稽古法」⑥ 基本5「抜き技」</p>	<p>「払い技」とつば競り合いの仕方や「引き技」引き小手を覚える。 「木刀による剣道基本技稽古法」⑥ 基本5「抜き技」を覚える。</p>	B,C
第8回	<p>講義「三殺法」 基本「切り返し」④ 基本技⑥「出ばな技」 ※相手の動き始めに対応した打突 基本技⑦「引き技」引き胴 ※つば競り合いから後退しながらの打突 地稽古④（習った技を使って自由に打ち合う） 「木刀による剣道基本技稽古法」⑦ 総合練習</p>	<p>「出ばな技」と「引き技」引き胴を覚える。相手の動き始めに対応した打突ができるようにする。また、元立ち側の動きを理解し打突させることができる。 「木刀による剣道基本技稽古法」⑦ 基本1から5を通して練習する。</p>	B,C
第9回	<p>基本「切り返し」⑤ 基本技⑤「応じ技」①「抜き技」 ※相手に「空」を打たせながらの打突 地稽古⑤（習った技を使って自由に打ち合う）「木刀による剣道基本技稽古法」⑧ 相互評価活動練習</p>	<p>「応じ技」の「抜き技」を、相手に「空」を打たせながら、タイミングよく打突できるようにする。相手の動き始めに対応した打突ができるようにする。また、元立ち側の動きを理解し打突させることができる。 「木刀による剣道基本技稽古法」⑧ 相互評価活動練習で方法を覚える。</p>	B,C
第10回	<p>基本「切り返し」⑥ 基本技⑤「応じ技」②「すり上げ技」 ※相手の技をすり上げてからの打突 地稽古⑥（習った技を使って自由に打ち合う） 「木刀による剣道基本技稽古法」⑨ 相互評価活動</p>	<p>「応じ技」の「すり上げ技」を覚える。相手の技をすり上げてからの打突ができるようにする。また、元立ち側の動きを理解し打突させることができる。 「木刀による剣道基本技稽古法」⑨ 「気」「剣」「体」からの相互評価活動を行う。</p>	B,C
第11回	<p>基本「切り返し」⑦ 基本技⑤「応じ技」③「返し技」 ※相手の技を返してからの打突 地稽古⑦（習った技を使って自由に打ち合う） 「木刀による剣道基本技稽古法」⑩ 紹介 基本6「すり上げ技」 基本7「出ばな技」 基本8「返し技」 基本9「打ち落とし技」</p>	<p>「応じ技」の「返し技」を覚える。相手の技を返してからの打突ができるようにする。また、元立ち側の動きを理解し打突させることができる。 「木刀による剣道基本技稽古法」⑩ 基本6～9までの動きを実践する。</p>	B,C
第12回	<p>基本「切り返し」⑧ 基本技⑧「応じ技」④「打ち落とし技」 ※相手の技を打ち落としてからの打突 地稽古⑧（習った技を使って自由に打ち合う） 「気」「剣」「体」による技の判定 「木刀による剣道基本技稽古法」テスト練習① 日本剣道形（一本目）</p>	<p>「応じ技」の「打ち落とし技」を覚える。相手の技を打ち落としてからの打突ができるようにする。また、元立ち側の動きを理解し打突させることができる。 「気」「剣」「体」による技の判定を実践する。 日本剣道形の一本目の手順と動きを身につける。</p>	B,C
第13回	<p>講義「有効打突」 基本「切り返し」⑨ 総合練習①「打ち込み稽古」 ※元立ちの誘導により大きく正しく打突 総合練習②「かかり稽古」 ※元立ちの誘導により早く激しく打突 試合と審判法① ※グループごとの試合と審判の実践 「木刀による剣道基本技稽古法」テスト練習② 日本剣道形（二本目）</p>	<p>総合練習では元立ちの役割（打ち込み稽古とかかり稽古の違い）の重要性を理解し、打突の間合いと機会を工夫しながら行う。掛かり手の動作、受け手の動作を理解し、大きく正しくスムーズにできるように取り組む。 試合と審判法①グループごとの試合と審判を実践する。 日本剣道形の二本目の手順と動きを身につける。</p>	B,C
第14回	<p>「木刀による剣道基本技稽古法」テスト 剣道具着装による実技テスト練習 試合と審判法② ※公式ルールによる試合と審判法の実践 日本剣道形（三本目）</p>	<p>「木刀による剣道基本技稽古法」のテストを受ける。 試合と審判法②※公式ルールによる試合と審判を実践する。 日本剣道形の三本目の手順と動きを身につける。打太刀および仕太刀の役割を理解して演武ができるように努める。</p>	B,C

第15回	剣道具着装による実技テスト 剣道授業のまとめ	剣道具着装による実技テストを受ける。授業のまとめを行うことで、剣道を学習する意義を理解し、学習した剣道の持つ伝統的な考え方が日常生活の中で生かすことができるように取り組む。	
	定期試験		

体育実技(水泳)

更新日：2024/03/27 11:40:53

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	2M228010	授業コード	2M228010A, 2M228010B
担当教員	田中 雅文						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	S3102	授業形態	実技			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生選択必修【健スポ】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	競泳競技の基本である泳ぐことを目的とするだけでなく、水泳の特性や危険性を十分に理解し、競泳4泳法を正しく泳げる能力を身につける。また、効率よく泳げる方法を理解し、練習方法など水泳の指導者としての指導力を習得する。
方法	実技を中心に行い、4種目の泳ぎの特性を理解しながら、4種目それぞれに異なる技術を正しく身につけられるよう、競泳選手が使用している練習アイテムを利用しながら、多種多様な練習方法を用いて泳ぎの習得を図る。

履修条件

競泳4種目のうち、1種目以上で25m完泳できること。

履修する上の留意点

競泳用着（練習用）、※海水浴用着、フィットネス用着、ラッシュガード等は使用不可。
スイムキャップ、スイムゴーグル、バスタオル（スイムセーム）が必要となります。

到達目標

1	競泳の4種目を正しく泳ぐことができる。（泳力検定）
2	練習計画や活動内容を理解し、協力しながら積極的に参加し行動することができる。
3	水泳での事故や災害などの危険性を理解し、安全を確保しながら行動することができる。
4	水泳（競泳・飛込・水球・AS・OWS）競技の特性を理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	実技テスト	60

到達目標②	授業態度	20
到達目標③	安全管理	10
到達目標④	レポート	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

水泳の授業を行う前に、特に必要な準備運動・ストレッチ・トレーニングの確認を行い、授業前に実施することで事故の防止に努める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション(授業のねらい、内容など説明) プール使用時の注意事項と安全管理 泳力調査 水泳に必要な用具の確認	健康状態の把握 施設・設備に対する留意事項 各泳法の泳力を確認する 適切な用具を使用する	
第2回	準備体操・ストレッチ・陸上トレーニング等の重要性と実施の方法 授業に必要な補助用具を確認 自由形の実施	水泳競技に適した準備運動やトレーニングについて理解する 適切な補助用具を使用する 基本となる泳法を理解する	B,C
第3回	ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性と実施の方法 自由形の実施	ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性を理解する 基本となる泳法を理解する	B,C
第4回	補助用具を使った練習法 自由形の実施	水泳の練習で使われる補助用具を調べ目的を理解する ビート 板・ブルブイ・パドル・フィン・その他 基本となる泳法を理解する	B,C
第5回	4泳法のキック 4泳法の特性を理解する	正しい姿勢とバランスを保つキックの習得	B,C
第6回	4泳法の基本的なプル動作 4泳法の特性を理解する	グライド・スカーリング・キャッチ・プル・フィニッシュ・リカバリー	B,C
第7回	4泳法の呼吸技術	泳ぎを妨げない呼吸法	B,C
第8回	4泳法の実施（自由形）	自由形についての事前学習	B,C
第9回	4泳法の実施（背泳ぎ）	背泳ぎについての事前学習	B,C
第10回	4泳法の実施（バタフライ）	バタフライについての事前学習	B,C
第11回	4泳法の実施（平泳ぎ）	平泳ぎについての事前学習	B,C
第12回	スタート技術の基本(バックプレート付きスタート台)	両脚スタートとトラックスタート(クラウチングスタート)の技術の進歩 入水後のストリームライン(抵抗の少ない姿勢)	B,C
第13回	ターン技術の基本（4種目のターン）	水平ターン・回転ターン(キックターン)の技術の進歩	B,C

第14回	泳力検定① 25m 4泳法の実施 4泳法の完成度を確し、泳法違反等の有無の確認	25m自由形・25m平泳ぎ・25m背泳ぎ・25mバタフライのタイム測定および泳法の確認（完成度）	
第15回	泳力検定② 50m（各種目のタイムを計測する） 4泳法の泳法違反等の有無の確認、および折り返し違反等の有無の確認 100m個人メドレー（4泳法継続して泳ぐ種目）の実施 泳法違反、折り返し違反等の有無の確認	50m自由形・50m平泳ぎ・50m背泳ぎ・50mバタフライのタイム測定（完泳できる泳法のみ） 100m個人メドレーのタイム測定	
	競技規則と審判法（競技中の違反行為） 水泳（競泳・飛込・水球・AS・OWS）競技 まとめ	泳法違反 フォルススタート、ターンおよびゴールタッチ、リレー種目の違反 各競技の特性を理解する 成果と課題を明らかにする	

体育実技(ダンス)

更新日：2024/03/27 11:40:56

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M229010	授業コード	2M229010	
担当教員	石川 美樹							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	S3204	授業形態	実技	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生選択必修【健スポ】			授業時間+自習時間	30+15			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	本講義では、ダンス的身体の基礎的な育成と創作の基本を学習することにより、身体表現能力の向上を図り、ペアやグループ作品の構成を通して創作能力を培う。また、指導方法の基礎を学習する。
方法	フォークダンスでは、その由来を知り特徴的なステップを学ぶ。現代的なリズムのダンスでは、親しみやすい音楽を用いたダンスの基礎的な動きを学び、ペアで振付を作り創作能力を培う。創作ダンスでは、グループに分かれテーマに沿った作品を創作し、基礎的な身体表現方法を学ぶ。

履修条件

- ・履修人数は、安全面の配慮から35名程度までに限る。
- ・教職課程（保健体育）に登録している学生を優先とする。

履修する上の留意点

- ・体育館シューズを準備すること。
- ・各自で飲み物（フタ付きに限る）を用意すること。
- ・ペアやグループワーク中は、授業時間外に練習や準備のための時間を要する場合があります。

到達目標

1	積極的に授業に取り組み、ダンスにおける基本的な技術を習得することができる。
2	授業内容を振り返り、次回への課題を見出すことができる。
3	授業内容を十分理解し、知識を身につけることができる。
4	ペアやグループで意見を出し合い、作品を創作し発表することができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	授業態度	30
到達目標②	レポート	20
到達目標③	小テスト	20
到達目標④	成果発表（実技）	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

- ・遅刻や欠席することなく、積極的に授業に取り組むことを望みます。
- ・レポート課題やFormsによる小テストをもれなく提出してください。成果が十分でなかったり、未提出の場合は減点となります。
- ・ペアワークやグループワークがあります。熱意を持って協力的に取り組むことを望みます。

課題に対するフィードバック

毎時提出するレポートに、授業内容の理解度に合わせてコメントし、理解度を高め意欲向上をはかる。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	・オリエンテーション ・ウォーミングアップ ・フォークダンス①（パティークークポルカ）	【予習】パティークークポルカの由来について調べてくること。 【復習】授業内容を振り返りレポートにまとめ、パティークークポルカの振付を復習すること。	
第2回	・ウォーミングアップ ・リズム運動①（ケンケン・パーガー等） ・フォークダンス②（春駒・タタロチカ）	【予習】春駒・タタロチカの由来について調べてくること。 【復習】授業内容を振り返りレポートにまとめ、春駒・タタロチカの振付を復習すること。	
第3回	・ウォーミングアップ ・リズム運動②（スキップ・ジャンプ等） ・現代的なリズムのダンス①（リズムの取り方）	【予習】様々な音楽を聴き、リズム感を養うこと。 【復習】授業内容を振り返りレポートにまとめ、リズムの取り方について復習すること。	C
第4回	・ウォーミングアップ ・現代的なリズムのダンス②（ステップ練習・課題曲振付前半）	【予習】様々な音楽を聴き、リズム感を養うこと。 【復習】授業内容を振り返りレポートにまとめ、既定の振付を復習すること。	C
第5回	・ウォーミングアップ ・現代的なリズムのダンス③（ステップ練習・課題曲振付後半）	【予習】様々な音楽を聴き、リズム感を養うこと。 【復習】授業内容を振り返りレポートにまとめ、既定の振付を復習すること。	C
第6回	・ウォーミングアップ ・現代的なリズムのダンス④（ステップ練習・課題曲総復習）	【予習】様々な音楽を聴き、リズム感を養うこと。 【復習】授業内容を振り返りレポートにまとめ、既定の振付を復習すること。	C
第7回	・ウォーミングアップ ・現代的なリズムのダンス⑤（ステップ練習・ペア又はグループワーク&課題曲発表）	【予習】様々な音楽を聴き、リズム感を養うこと。 【復習】授業内容を振り返りレポートにまとめ、本時の成果と次回への課題を見出すこと。	C
第8回	・ウォーミングアップ ・現代的なリズムのダンス⑥（ペアワークでの創作活動について説明&実践）	【予習】ペアワークで使用する候補曲を選んでくること。 【復習】ペアでの創作過程を振り返りレポートにまとめ、次週に向けての課題と見出すこと。	C
第9回	・ウォーミングアップ ・現代的なリズムのダンス⑦（ペアワーク実践・振付作り前半）	【予習】振付案を考えてくること。 【復習】活動の進捗状況をふまえ成果と課題を見出しレポートにまとめること。また、作った振付を復習すること。	C
第10回	・ウォーミングアップ ・現代的なリズムのダンス⑧（ペアワーク実践・振付作り後半）	【予習】振付案を考えてくること。 【復習】活動の進捗状況をふまえ成果と課題を見出しレポートにまとめること。また、振付の詳細を説明できるように復習すること。	C

第11回	<ul style="list-style-type: none"> ウォーミングアップ 現代的なリズムのダンス⑨（ペアワーク実践・振付指導法について説明） 	<p>【予習】振付の説明方法を考えてくること。</p> <p>【復習】活動の進捗状況をふまえ、指導方法を中心に成果と課題を見出し、レポートにまとめること。</p>	C
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ウォーミングアップ 現代的なリズムのダンス⑩（ペアワーク実践・他ペアへの振付指導） 	<p>【予習】振付の説明方法をまとめてくること。</p> <p>【復習】活動の進捗状況をふまえ、指導方法を中心に成果と課題を見出し、レポートにまとめる。また、習った振付を復習すること。</p>	B、C
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ウォーミングアップ 現代的なリズムのダンス⑪（振付復習・グループ発表） 	<p>【予習】習った振付を練習してくること。</p> <p>【復習】発表に至るまでの過程の振り返りやグループ発表の講評を中心にレポートにまとめること。</p>	B、C
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ウォーミングアップ 創作ダンス①（創作導入） 	<p>【予習】中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 保健体育編のP,170～171（G ダンス／〇知識）を読んでくること。</p> <p>【復習】授業内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめること。</p>	B、C
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ウォーミングアップ 創作ダンス②（ミニ創作&発表） 	<p>【予習】中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 保健体育編のP,168～170（G ダンス／〇技能）を読んでくること。</p> <p>【復習】授業内容を振り返り、グループ発表の講評を中心にレポートをまとめること。また、半期授業全体を振り返り、自らの学びについて良かった点や改善点をレポートにまとめる。</p>	B

体育実技(陸上)

更新日：2024/03/27 11:40:58

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M230010	授業コード	2M230010
担当教員	天野 透						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	S3202	授業形態	実技	実務経験のある教員による授業科目の配置		○	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生選択必修【健スポ】			授業時間+自習時間	30+15		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	陸上競技の特性、基本的な技術、競技規則全般、種目の実践方法と練習方法を幅広く習得し、安全かつ正しく指導できる能力を養う。
方法	陸上競技種目の主に短距離・障害・投てき種目を実践します。陸上競技の概論および競技規則等の内容については、講義を行います。

履修条件

教職課程（保健体育）に登録している学生を優先とする。

履修する上の留意点

授業は、2時間連続で行います。安全面には十分留意してください。種目ごとの課題レポートを提出していただきます。健康診断を必ず受けてください。

到達目標

1	陸上競技種目の特性、競技規則等について理解を深め、整理・分析して論述することができる。
2	陸上競技種目を実践することにより、目標を達成する能力を身につけるとともに、安全に留意した指導ができる。
3	陸上競技種目の基本的な技術・動作について興味・関心をもち、安全に取り組むことができる。
4	陸上競技種目を実践するあたり積極的かつ臨機応変に取り組むことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	30
到達目標②	スキル	30
到達目標③	興味・関心等	20
到達目標④	態度等	20

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特定の教科書は、指定しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて、授業の中で紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

- ・主体的に行動することを望みます。

課題に対するフィードバック

実践した陸上競技種目のリザルトおよびレポートの内容が授業の中で生かせるようにする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	・「授業の内容と進め方」、「評価方法」「授業への取り組み」及びウォーミングアップ、ストレッチング、クーリングダウンについて説明	健康状態の把握。陸上競技に関する概要について調べる。	
第2回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・ウォーキング、ジョギング、スプリント、スタートダッシュの実践 ・クーリングダウン	陸上競技で実施するウォーミング・アップ、クーリングダウンについて調べる。	B,C
第3回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・短距離走1：クラウチングスタートおよび加速走の実践 ・クーリングダウン	クラウチングスタートの実施方法および競技規則について調べる。	B,C
第4回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・短距離走2：中間疾走、フィニッシュおよび計測方法の実践 ・クーリングダウン	スタートからの加速、中間疾走、フィニッシュまでの自己分析をする。	B,C
第5回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・短距離走3：スタート、加速、中間疾走、フィニッシュまでの総合的な実践 ・クーリングダウン	短距離走全般について、テーマを設定してレポートにまとめて提出する。	B,C
第6回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・ハードル走1：基本技術、基本動作および練習方法の実践 ・クーリングダウン	ハードル競技の特性と練習方法および競技規則について調べる。	B,C
第7回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・ハードル走2：ハードリングの技術、インターバルの走り方の実践 ・クーリングダウン	理想のハードリングについて調べる。	B,C
第8回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・ハードル走3：総合的なハードリングの実践と計測 ・クーリングダウン	障害走全般について、テーマを設定してレポートにまとめて提出する。	B,C
第9回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・跳躍1：立幅跳、立三段跳の実践と計測 ・クーリングダウン	跳躍競技の特性、競技規則、練習方法、計測方法等について調べる。	B,C
第10回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・跳躍2：跳躍競技全般の競技規則の理解 ・クーリングダウン	跳躍競技全般について、テーマを設定してレポートにまとめて提出する。	B,C
第11回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・投てき1：砲丸投の基本技術、基本動作（立ち投げ）の実践および安全対策についての方法と理解。 ・クーリングダウン	砲丸投の特性、競技方法および競技規則について調べる。投てき競技における安全対策および事故例について調べる。	B,C
第12回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・投てき1：砲丸投のステップ投法、グライド投法の実	砲丸投の投法について調べる。	B,C

	践と計測 ・クーリングダウン		
第13回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・投てき3：砲丸投以外の投てき競技の実践と計測 ・クーリングダウン	砲丸投以外の投てき競技の種類および特性について調べる。	B,C
第14回	・ウォーミングアップ、ストレッチング ・リレー：バトンパスの仕方及び競技規則の理解 ・クーリングダウン	バトンパスについて、テーマを設定してレポートにまとめて提出する。	B,C
第15回	・陸上競技全般のまとめ	陸上競技種目の指導方法とその留意点について、レポートにまとめて提出する。	B

体育実技(球技Ⅱ)

更新日：2024/03/27 11:41:00

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M231020	授業コード	2M231020A, 2M231020B
担当教員	長久保 健太郎						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	S3104	授業形態	実技			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生選択必修【健スポ】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	バレーボールの個人的技能、集団的技能を修得し、さらに戦術、ルール、技術向上のための練習方法を学修する。
方法	主体的にバレーボールの個人的技能、集団的技能、戦術等の課題を見つけ、仲間と共にそれらの解決方法を探る。

履修条件

制限に達した場合は、男女ともに保健体育コースで教職免許取得希望者を優先する。

履修する上の留意点

運動のできる服装（適切な服装が分からない場合は担当教員に判断を仰ぐこと）で、体育館シューズを持参のこと。

到達目標

1	バレーボールの個人的技能、集団的技能、戦術等を実践できる。
2	バレーボールの個人的技能、集団的技能、戦術等の課題を主体的に見つけ、仲間と共にその課題解決ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	実技テスト	50
到達目標②	授業態度・レポート	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし 適宜、資料提示・資料配布		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし 適宜、授業中に紹介		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

授業におけるすべての活動（実技、講義、レポートなど）への積極的な参加を期待する。

課題に対するフィードバック

毎時間提出させる「まとめ」について、優秀なものを毎時間発表し、「まとめ」に対する意識を高めながらその日の授業並びに次時の授業を主体的に取り組みさせる。また、課題解決の手段をグループ内でディスカッションさせて解決方法（練習内容）の方向性を探らせる。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（授業のねらい、進め方等の説明）と体ほぐし	本時のまとめを提出	
第2回	ウォーミングアップとクーリングダウン及びストレッチの方法	バレーボールの歴史について調べる 本時のまとめを提出	
第3回	バレーボールのトレーニング方法	バレーボールの特性について調べる 本時のまとめを提出	B
第4回	パスの基本技能（オーバーハンド、アンダーハンド）	パスの基本技能について調べる 本時のまとめを提出	
第5回	レシーブの基本技能とレシーブフォーメーション	レシーブの基本技能について調べる 本時のまとめを提出	
第6回	レシーブの技能とレシーブフォーメーション	レシーブフォーメーションについて考える 本時のまとめを提出	
第7回	スパイク、ブロックの基本技能	スパイクとブロックについて調べる 本時のまとめを提出	B
第8回	サーブとレセプションの技能とレセプションフォーメーション	サーブとレセプションフォーメーションについて調べる 本時のまとめを提出	
第9回	簡易ルールによるゲーム①	初心者がバレーボールをする際にどのようなルールの修正が必要なのかを考え、発表する 本時のまとめを提出	B
第10回	簡易ルールによるゲーム②	バレーボールにおいてボール操作とボールを持たない動きについて考え、発表する 本時のまとめを提出	
第11回	審判法とゲーム	審判法について調べる 本時のまとめを提出	B
第12回	ゲームの運営①	各審判員の役割について調べる 本時のまとめを提出	
第13回	ゲームの運営② 前時の自チームの反省から課題を見つけて、その解決のための練習①	自チームの課題にはどのような点があげられるかについて考えディスカッションを行う 本時のまとめを提出	
第14回	ゲームの運営③ 前時の自チームの反省から課題を見つけて、その解決のための練習②	自チームで作戦をたて、相手チームの戦術を理解してゲームを行う 本時のまとめを提出	B
第15回	まとめ	成果と課題を考えて発表 全体のまとめを提出	

体育実技(球技Ⅰ)

更新日：2024/03/27 11:41:03

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M232020	授業コード	2M232020
担当教員	山根 基						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	S3203	授業形態	実技			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生選択必修【健スポ】				授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	サッカーの基本技術（ドリブル、トラップ、パス、シュート）を習得し、さらに個人戦術およびグループ戦術を学習する。ソフトボールの基本技術（打つ、投げる、捕球する）を習得し、さらにチームプレーについて学習する。両競技について自らの手で練習計画を立案し、チームメイトとともに活動していく能力および指導者としての指導力を身につける。
方法	グラウンドにおいてサッカーおよびソフトボールの実技による授業をグループワークを行いながら実施する。雨天の場合は、室内で運動およびルール・戦術説明等を実施する。

履修条件

安全配慮の観点から履修人数は30名までとする。

履修する上の留意点

「保健体育」教員養成課程の必修科目。健康診断を受診すること。授業は2コマ連続で行う。

到達目標

1	①サッカーおよびソフトボールの基本技術、チームプレーを自ら実践することができる。
2	②サッカーおよびソフトボールの基本技術、チームプレーに関する指導能力を習得することができる。
3	③チームで練習計画を検討し、自ら指導計画を作成することができる。
4	④サッカーおよびソフトボールのルールなどを学び、練習および試合における安全管理について理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	実技	25

到達目標②	授業態度	25
到達目標③	レポート	25
到達目標④	レポート	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特定の教科書は指定しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて、授業中に紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

球技のチームスポーツを体験し、また指導者としての役割を担う過程で、共に学び、共に考え、共に成長していくことを期待している。

課題に対するフィードバック

ルールおよび指導計画のレポート課題について、提出された内容を評価し、フィードバックを行う。
毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、改善点等を確認しながら授業を進める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	<ul style="list-style-type: none"> サッカーのルールの確認 ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性と実施の方法 	健康状態の把握 ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べる ルールの復習	B
第2回	サッカー（全体練習） <ul style="list-style-type: none"> トラップの基本（クッションコントロール、ウェッジコントロール） パスの基本（インサイド、アウトサイドパス） 	体調を整える トラップの復習、パスの種類を調べる	B
第3回	サッカー（全体練習） <ul style="list-style-type: none"> ドリブルの基本および応用（ターン、フェイント） パス回し（3：1）、トライアングルの形成、ミニゲーム 	体調を整える パスの復習、ドリブルの種類を調べる	B
第4回	サッカー（グループ練習） <ul style="list-style-type: none"> パスの基本（インステップキック、インフロントキック） さまざまなパスゲーム（3：1、4：2、5：5） など 	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B
第5回	サッカー（グループ練習） <ul style="list-style-type: none"> ボールを使ったウォーミングアップ ドリブルの基本および応用（ターン、フェイント）、ミニゲーム（5：5） など 	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B
第6回	サッカー（グループ練習） <ul style="list-style-type: none"> 1対1の対人プレー（ボールキープ、突破）、1対1の守備 シュートの基本（ドリブルシュート）、ミニゲーム（5：5） など 	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B
第7回	サッカー（グループ練習） <ul style="list-style-type: none"> グループ戦術（2：1、2：2、3：2）の攻撃、守備 1対1のゲームなど 	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B
第8回	サッカー（グループ練習） <ul style="list-style-type: none"> グループ戦術（2：1、2：2、3：2）の攻撃、守備 1対1のゲームなど 	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B
第9回	ソフトボール（全体練習） <ul style="list-style-type: none"> ストレッチと柔軟体操の重要性と実施の方法 ソフトボールのルールの確認 ボールを投げる、捕る。移動しながら行うことで動きを作る 	体調を整える ストレッチングと柔軟体操について調べる ルールの復習	B
第10回	ソフトボール（全体練習） <ul style="list-style-type: none"> キャッチボールの基本、トスバッティング、打撃練習、守備練習 	体調を整える 打撃および守備の復習	B
第11回	ソフトボール（グループ練習） <ul style="list-style-type: none"> チームとしての守備の連携とシート・バッティング 	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B

第12回	ソフトボール（グループ練習） ・ゲーム形式での練習①（チームメイトの特性を知る）	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B
第13回	ソフトボール（グループ練習） ・ゲーム形式での練習②（課題、問題点を確認して連携プレーなど修正を図る）	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B
第14回	ソフトボール（グループ練習） ・ゲーム①（戦術・戦法を工夫すると同時にポジションの役割を理解する）	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B
第15回	ソフトボール（グループ練習） ・ゲーム②（問題点を修正しながらゲームを行う）	体調を整える グループ毎に練習計画を作成し、提出する	B

運動学（運動方法学を含む。）

更新日：2024/03/27 11:41:05

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M233010	授業コード	2M233010	
担当教員	水谷 未来							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	S3207	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【健スポ】			授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	運動学は、身体活動の仕組みを理解する学問である。本講義では、特にスポーツや身体活動時の動きの基礎的知識を身につけるために、①骨格筋と骨との関係、②関節の機能、③運動の力学的な理解、④歩、走、跳、投、打の発達、⑤運動技能獲得に向けた理論、について学習する。
方法	パワーポイントを用いて講義を行う。授業の中でグループでのディスカッションを行うこともある。授業終了ごとに内容の理解度や自分の考えをレポートにまとめて提出することを求める。

履修条件

単位修得が望ましい科目：なし。 履修者制限：なし。

履修する上の留意点

アクティブポータルに授業資料をアップロードするので、資料をダウンロードして使用して下さい。
授業に関する質問、欠席の連絡は水谷（mizutani@sgk.ac.jp）までお願いします。

到達目標

1	基本的な身体動作を運動力学的に説明することができる。
---	----------------------------

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業レポート	40
到達目標②	定期試験	60
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

配布プリントや講義内容への疑問点や不明点などに対応する時間を設ける

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、運動学で学習する内容について説明する	A・C
第2回	運動器の構造と機能（骨、靭帯、筋）	配布した資料を熟読し、運動器の構造と機能を理解する	A
第3回	関節の構造と機能（上肢、体幹、下肢）	配布した資料を熟読し、関節の構造と機能（上肢、体幹、下肢）を理解する	A・C
第4回	バイオメカニクスの基礎理論	配布した資料を熟読し、バイオメカニクスの基礎理論を理解する	A
第5回	スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス	配布した資料を熟読し、スポーツにおける動作の評価方法を理解する	A・C
第6回	動きを数値化する	配布した資料を熟読し、動作の数値化について理解する	A
第7回	身体重心と立位姿勢	配布した資料を熟読し、身体重心と立位姿勢の特徴を理解する	A・C
第8回	歩行と走行	配布した資料を熟読し、歩行と走行の特徴の違いを理解する	A
第9回	跳ぶこととは？	配布した資料を熟読し、跳ぶ動作の特徴を理解する	A
第10回	投げることとは？	配布した資料を熟読し、投げる動作の特徴を理解する	A
第11回	泳ぐこととは？	配布した資料を熟読し、泳ぐ動作の特徴を理解する	A
第12回	打つこととは？	配布した資料を熟読し、打つ動作の特徴を理解する	A
第13回	蹴ることとは？	配布した資料を熟読し、蹴る動作の特徴を理解する	A
第14回	回ることとは？	配布した資料を熟読し、回る動作の特徴を理解する	A
第15回	総括	1～14回目までに習った内容について復習をする。	A・C
	期末テスト	第2回から第15回までを範囲とする	

スポーツ社会学

更新日：2024/04/17 20:25:29

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M234010	授業コード	2M234010
担当教員	佐々木 康						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3208	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	現代におけるスポーツドキュメント映像及び関連情報を通して、スポーツが私たちの社会に伝えようとしている社会的価値観や社会学の考え方を学ぶ。
方法	現代におけるスポーツドキュメント映像及び関連情報に対して、毎回コメントを作成し、社会的思考および記述・伝達能力を高める。

履修条件

6回以上の欠席は履修放棄とみなす
教科書を持参していない場合は、授業を受講する意思がないと判断し欠席扱いとします。

履修する上の留意点

毎回レポート課題を提示し、それが提出されない場合は減点します。

到達目標

1	教科書と授業内容を理解し自らの言葉でミニレポートとして文章化できる。
2	教科書と授業内容を理解し自らの言葉で定期試験において論述できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ミニレポート	50
到達目標②	定期試験	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「孤高」と「誇り」のアスリート	名古屋大学・総合保健体育科学センター・スポーツマネジメント研究室	佐々木康

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

- ・主体的に行動することを望みます。
- ・毎時間レポート課題がありますが、熱意をもって取り組みましょう

課題に対するフィードバック

毎回のミニレポートにはできる限り、次週、教員からコメントを返し記述力向上を図る。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス（授業の進め方、評価の方法）	教科書を入手し構成を把握する	A,B
第2回	スポーツと民族論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	民族論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第3回	スポーツと障害論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	障害論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第4回	スポーツと産業論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	産業論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第5回	スポーツと越境文化論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	越境文化論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第6回	スポーツと外交論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	外交論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第7回	スポーツと組織生成論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	組織生成論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第8回	スポーツと自然共生論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	自然共生論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第9回	スポーツとキャリアトランス論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	キャリアトランス論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第10回	スポーツと政治経済論及び環境経済論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	政治経済論及び環境経済論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第11回	スポーツと向年齢論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	向年齢論からの課題についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第12回	スポーツと救急救命論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	救急救命士に必要な素養についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第13回	スポーツとリーダーシップ論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	リーダーシップ論についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第14回	スポーツとオリンピック・パラリンピック論の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	オリンピック・パラリンピック論についてミニレポートの構成を考える。	A,B
第15回	スポーツと倫理の関与構造・社会構造について実践事例から学ぶ。	スポーツと倫理についてミニレポートの構成を考える。	A,B
	定期試験（授業評価）		

スポーツマネジメント

更新日：2024/04/19 11:13:53

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M235010	授業コード	2M235010
担当教員	川西 司						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3205	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	本講義では、スポーツマネジメントの基礎的な考え方について学ぶと共に、スポーツマネジメントに求められる「人材」「物財」「財源」の視点、「する」「みる」「支える」「知る」の視点を通して、スポーツマネジメントの基礎知識について学ぶ。
方法	各回のテーマに沿って講義を展開する。毎講義、資料を配付し、資料に沿って順次メモをとりながら内容について理解を深める。

履修条件

なし

履修する上の留意点

本講義は、スポーツと社会の様相をスポーツマネジメントの観点から学習する講義になります。講義には積極的に参加し、発言してください。毎講義に求められる小課題には、しっかりと取り組んでください。

到達目標

1	講義内容について理解し、整理・アウトプットできる
2	講義に主体的に参加することができる
3	課された課題に意欲的に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	授業態度	10
到達目標③	小課題	20

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかるスポーツマネジメント	ミネルヴァ書房	柳沢和雄 編著, 清水紀宏 編著, 中西純司 編著

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業時にフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス（授業の概要、評価方法の説明）	「スポーツマネジメント」とは何かを自分の言葉で説明できるように準備しておく。	A
第2回	スポーツマネジメントとは？	「スポーツマネジメントの目的・捉え方」について事前に調べて学習しておく。	A
第3回	学校体育・スポーツのマネジメント	「学校体育とスポーツマネジメントの関係」について事前に調べて学習しておく。	A、B
第4回	地域スポーツのマネジメント①	「地域スポーツの変遷」について事前に調べて学習しておく。	A、B
第5回	地域スポーツのマネジメント②	「総合型地域スポーツクラブ」について事前に調べて学習しておく。	A、B
第6回	商業スポーツ施設のマネジメント	「商業（民間営利）スポーツ施設」について事前に調べて学習しておく。	A、B
第7回	プロスポーツのマネジメント	「プロスポーツのマネジメント」について事前に調べて学習しておく。	A、B
第8回	子どもスポーツのマネジメント	「子どものスポーツ環境」について事前に調べて学習しておく。	A、B
第9回	健康スポーツのマネジメント	「高齢者の運動・スポーツ」について事前に調べて学習しておく。	A、B
第10回	障がい者スポーツのマネジメント	「障がい者のスポーツ環境」について事前に調べて学習しておく。	A、B
第11回	スポーツ法制度とスポーツマネジメント	「日本のスポーツ政策」について事前に調べて学習しておく。	A
第12回	スポーツ競技団体のマネジメント	「スポーツ競技団体」について事前に調べて学習しておく。	A
第13回	スポーツイベントのマネジメント	「スポーツイベント」について事前に調べて学習しておく。	A、B
第14回	スポーツマネジメント人材の養成	「スポーツマネジメントに関わる人材」について事前に調べて学習しておく。	A
第15回	まとめ	過去の講義内容のまとめ 定期試験の説明	A
	定期試験		

スポーツ指導実践

更新日：2024/03/27 11:41:12

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M236020	授業コード	2M236020
担当教員	山根 基、刑部 純平						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3301	授業形態	演習・実技			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【健スポ】				授業時間＋自習時間	60+30	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	近年、生活が電化製品等の普及により便利になり省力化される一方で、身体活動の低下による生活習慣病が問題となっている。また、少子化や高齢者社会へ変化しつつある現在、QOL (Quality of life) の向上が必要となってきた。本授業では、疾病の予防や改善、より健康でいつまでも活動的に生活するための安全で効果的な運動の理論と方法を科学的根拠に基づいて学ぶ。さらに、指導対象者が楽しく日常生活の中で身体活動(運動)が行えるように、指導者としての声掛けや表現などコミュニケーションの取り方を学習する。
方法	ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニング等の運動特性や効果について学び、それらを適切に指導できる指導者となるために、学生が指導者役となりお互いを評価し合いながら実践力を高め、健康社会で活かすことができる指導技術を身につける。授業はグループワークを中心に実施する。

履修条件

スポーツ指導者(保健体育教諭)、健康運動実践指導者、健康運動指導士を目指し、関連する単位を修得していることが望ましい。

履修する上の留意点

スポーツ指導者・健康運動指導者にふさわしい服装で履修する。

到達目標

1	健康運動の実践(実技)と科学的根拠(知識)を修得できる
2	指導者として表現方法や安全管理を身につけることができる
3	運動のプログラムを作成することができる
4	講義のまとめとしてプレゼンテーション及び指導実践実技を発表できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	試験	20
到達目標②	意欲・態度・実技	20
到達目標③	レポート提出・実技	20
到達目標④	プレゼン・指導実践実技	40
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『健康運動実践指導者テキストー健康運動指導の手引きー』	南江堂	財団法人健康・体力づくり事業財団

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	講義の中で紹介する		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

スポーツ指導の基礎を習得する過程において、学生同士が共に学び、共に考え、共に成長していくことを期待している。

課題に対するフィードバック

実技の指導実践はタブレット等を用いて録画し、自分の動作や指導法についてふりかえりを実施する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	健康づくりのための運動処方について トレーニング指導者の実務	事前にテキストで予習しておく。	B
第2回	メディカルチェックについて 医学的検査の必要性と結果の応用について学ぶ。	事前にテキストで予習しておく。	B
第3回	陸上運動（有酸素運動）の実践（1） DVDによりエアロビクスダンス課題を理解する。体づくり運動を理解する。	DVDを事前に視聴しておく。	B
第4回	陸上運動（有酸素運動）の実践（2） 課題の習得（エアロビクスダンスの習得）。体づくり運動を習得する。	動きと名称を憶えてくる。	B
第5回	陸上運動（有酸素運動）の実践（3） エアロビクスダンス課題の指導（各々による指導）。体づくり運動を指導する。	動きと名称を憶えてくる。	B
第6回	陸上運動（無酸素運動）の実践（1） 自重負荷法のトレーニング（レジスタンス運動）による課題を習得する。	動きと名称を憶えてくる。	B
第7回	陸上運動（無酸素運動）の実践（2） 自重負荷法のトレーニング（レジスタンス運動）による課題の指導法を習得する。	動きと名称を憶えてくる。	B
第8回	運動プログラム作成の実際（1） 何故、運動が必要なのかを理解する。	事前にテキストで予習しておく。新体力テストについてレポートを提出する。	B
第9回	運動プログラム作成の実際（2） 個別の運動プログラムの必要性について学ぶ。	事前にテキストで予習しておく。	B
第10回	水中運動の理解（1） DVDにて水中運動の課題を理解する。	事前にテキストで予習しておく。	B
第11回	水中運動の理解（2） 陸上にて水中運動：歩行動作を習得する。	DVDを事前に視聴しておく。	B
第12回	水中運動の理解（3） 水中歩行運動の指導法を習得する。	動きと名称を憶えてくる。	B
第13回	水中運動の理解（4） 水中での無酸素運動（筋力トレーニング）課題を習得する。	動きと名称を憶えてくる。	B
第14回	水中運動の実践（1） 水中での実技指導（水中歩行およびアクアビクス）を実施する。	動きと名称を憶えてくる。	B
第15回	水中運動の実践（2） 水中での実技指導（レジスタンス運動）を行う。	まとめのレポート提出を提出する。	B

第16回	健康づくりのための運動指導者の役割について トレーニング指導者の役割	健康づくりの運動指導について調べる。	B
第17回	ウォーミングアップとクーリングダウンについて ストレッチ体操の効果とその適正な利用方法を知る。	事前にテキストで予習し実践できるようにしておく。	B
第18回	有酸素性運動と無酸素性運動について（講義） 運動強度の違いやエネルギー代謝の違いを学ぶ。	事前にテキストで予習しておく。	B
第19回	有酸素運動（ウォーキング）（実技）（1）基本的なウォーキング姿勢の修得	事前にテキストで予習し実践できるようにしておく。	B
第20回	有酸素運動（ウォーキング）（実技）（2）様々なウォーキング方法（速歩、ノルディックウォーク等）の実践	事前にテキストで予習し実践できるようにしておく。	B
第21回	有酸素運動（ジョギング）（実技）	事前にテキストで予習し実践できるようにしておく。	B
第22回	ウォーキング指導実技 各々が指導者になり、ウォーキングをグループメンバーに指導する。	指導方法を考えてくる。	B
第23回	エアロビクスダンスの紹介 エアロビクスを理解し、発表グループを作る。	プログラム発表の準備として必要な資料を準備する。	B
第24回	創作エアロビクスダンスのプログラムを作成する。	プログラム発表の準備として必要な資料を準備する。	B
第25回	グループによる創作エアロビクス運動プログラムの発表（1）各グループでプログラムした創作エアロビクス運動の発表	グループの役割を確認してスムーズに指導できるようにしておく。	A
第26回	グループによる創作エアロビクス運動プログラムの発表（2）グループ発表のふり取り	グループの役割を確認してスムーズに指導できるようにしておく。	B
第27回	補強運動：筋力トレーニングプログラムの作成について、筋力トレーニングの原理、運動生理学的な知識を学ぶ。	事前にテキストで予習し実践できるようにしておく。 筋力トレーニングメニューのレポートを提出する。	B
第28回	筋力トレーニングの実際と紹介（1） 自重負荷法によるトレーニングを紹介する。	事前にテキストで予習し実践できるようにしておく。 自重負荷トレーニングメニューのレポートを提出する。	B
第29回	筋力トレーニングの実際と紹介（2） 重錘を利用したトレーニング：フリーウエイト法、マシントレーニング法のトレーニングプログラム作成の基本を学ぶ。	事前にテキストで予習し実践できるようにしておく。	B
第30回	筋力トレーニングプログラム作成 目的に応じた筋力トレーニングのプログラムを作成する。 作成したトレーニングプログラムを発表する。	事前にテキストで予習し実践できるようにしておく。 筋力トレーニングプログラムのレポートを提出する。	A

スポーツ心理学

更新日：2024/03/27 11:41:14

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M237010	授業コード	2M237010
担当教員	長岡 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S6303	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	スポーツ心理学は、心理学の基礎理論をもとにスポーツ実践の知見と共に発展しました。このような学問的背景を念頭におき、本講義ではスポーツ心理学の基本的知識について、心の健康という視点と共に学びます。さらにこれらの知識をもとに、実際のスポーツ場面で問題となる心理的側面について、社会との関連から実践的に考える力を養います。
方法	パワーポイントとワークシートを利用して講義を行います。毎回の授業の最後には、講義内容に関する理解度チェック問題をFormsで回答してもらい、次回の講義で結果をフィードバックすることで、理解の定着を図ります。

履修条件

なし

履修する上の留意点

なし

到達目標

1	スポーツを行う人に生じる特徴的な心理状態について説明することができる。
2	スポーツ選手への心理的なサポートを行う際に気をつける点について述べるることができる。
3	スポーツ選手の事例を読み、選手らがどのような心理的な状態であるのかということについて、自分の意見を述べるることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	導入課題、授業理解度チェックシート、まとめの確認テスト	40
到達目標②	導入課題、授業理解度チェックシート、まとめの確認テスト	30

到達目標③	導入課題、授業理解度チェックシート、まとめの確認テスト	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかるスポーツ心理学	ミネルヴァ書房	中込四郎

オープンな教育リソース

必要に応じて、授業内で紹介します。

学生へのメッセージ

自分の体育・スポーツ体験をもとに授業を聞くようにすると、より理解が深まると思います。

課題に対するフィードバック

授業の最後に授業理解度チェック問題に回答をしてもらいます。その後、次の授業の最初に解説を行う形でフィードバックを行います。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法）、スポーツ心理学の概要	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第2回	スポーツ心理学の歴史	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第3回	運動と心理（1）基礎理論：スポーツにおける運動と知覚	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第4回	行動変容の理論：運動技能の学習	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第5回	運動における行動変容：スポーツと動機づけ	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第6回	ストレスの考え方と評価法：バーンアウト	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第7回	スポーツと情動：攻撃性、競争心	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第8回	スポーツの集団、リーダーシップ	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第9回	運動と心理（2）スポーツ選手の競技力向上への活用：心理的競技能力	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第10回	メンタルトレーニング1：イメージトレーニング	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第11回	メンタルトレーニング2：さまざまな技法	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第12回	行動変容の実践的適用：競技現場の事例	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第13回	競技現場の事例の振り返り、臨床スポーツ心理学について	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目について	A

		の理解を深める。	
第14回	ストレスマネジメントとカウンセリング：スポーツカウンセリング、スポーツ選手の事例	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第15回	運動と心理（3）一般人の健康増進への活用 まとめの確認テスト	[予習]本日のテーマで関心がある事柄について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A

運動生理学

更新日：2024/03/27 11:41:16

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M238010	授業コード	2M238010
担当教員	山根 基						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3206	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【健スポ】			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○	
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	本講では、運動中の筋や呼吸循環系の働きなど、身体運動・スポーツに関連する「からだのしくみ」について学ぶ。
方法	配布プリントと板書およびパワーポイントを使い授業を行う。

履修条件

なし

履修する上の留意点

「保健体育」教員養成課程および健康運動実践指導者・健康運動指導士資格取得に関わる必修科目。

到達目標

1	①運動時の筋、神経系、呼吸循環系、内分泌系の働きについて説明できる。
2	②実際の運動・スポーツ体験を通して運動生理学の基本を説明できる。
3	③健康づくりのための身体活動・運動の意義を説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	定期試験	30
到達目標③	定期試験	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『イラスト運動生理学』	東京教学社	朝山正巳・彼末一之・三木健寿編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて、授業中に紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

健康づくりや運動指導に役立つ基礎的な知識を学び、健康社会に貢献できる人材としての土台を築いていくことを期待している。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートの内容を確認し、レポートを返却するとともに、いくつかの内容を授業内で発表し、情報や意見の交換をおこなう。毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容を進める。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	体力と健康の定義、人間の状態である「健康」と人間の能力である「体力」の関連、健康維持の三要素「栄養」「運動」「休養」、健康日本21、運動指針と運動基準について	健康と体力の捉え方について自分の考えをまとめ、レポートを作成・提出する。	A
第2回	筋の構造と収縮の仕組み 骨格筋細胞の微細な構造、アクチン及びミオシン・フィラメントと筋の収縮メカニズム	テーマに関する内容の教科書範囲を読んでまとめ、第2～4回までの「筋と運動」に関するレポートの作成・提出に利用する。	A
第3回	筋収縮のためのエネルギー 生体の基本的エネルギーであるATPの分解と無酸素素及び有酸素的な合成の過程	テーマに関する内容の教科書範囲を読んでまとめ、第2～4回までの「筋と運動」に関するレポートの作成・提出に利用する。	A
第4回	運動と筋収縮の型 等尺性収縮、等張性収縮、短縮性及び伸長性収縮、主動筋と拮抗筋、骨格筋のトレーニングにおける適応性変化	実際の運動・スポーツ体験と筋活動の関わりについてまとめる。第2回～4回までの内容として「筋と運動」に関するレポートを作成・提出する。	A
第5回	神経とは 神経細胞の構造とシグナルが伝わるメカニズム、シナプス伝達の仕組みと神経伝達物質神経系	テーマに関する内容の教科書範囲を読んでまとめ、第5～6回までの「神経と運動」に関するレポートの作成・提出に利用する。	A
第6回	運動神経と感覚神経、反射と運動の調節 運動をコントロールする中枢と神経、各種反射と姿勢や運動の調節、神経系のトレーニングにおける適応性変化	実際の運動・スポーツ体験と神経系の関わりについてまとめる。第5回～6回までの内容として「神経と運動」に関するレポートを作成・提出する。	A
第7回	呼吸器の構造と呼吸運動 肺胞の構造とガス交換、各呼吸筋の収縮による胸部の運動と空気の動き、肺の容量と肺気量分画	テーマに関する内容の教科書範囲を読んでまとめ、第7～9回までの「呼吸と運動」に関するレポートの作成・提出に利用する。	A
第8回	酸素の運搬と呼吸の調節 身体内部の酸素分圧の変化、ヘモグロビンの酸素解離曲線、呼吸器のトレーニングにおける適応性変化	テーマに関する内容の教科書範囲を読んでまとめ、第7～9回までの「呼吸と運動」に関するレポートの作成・提出に利用する。	A
第9回	有酸素運動と無酸素運動 運動の種類（強度・時間）とエネルギー供給およびエネルギー消費量の関係、有酸素性体力としての最大酸素摂取量・無酸素性代謝閾値、筋疲労のメカニズム	実際の運動・スポーツ体験と呼吸・代謝系の関わりについてまとめる。第7回～9回までの内容として「呼吸と運動」に関するレポートを作成・提出する。	A
第10回	循環の仕組みと心臓の働き 血液の役割（酸素、栄養素、その他の運搬）、運動と心拍数、心拍出量 運動時の心臓の働き、心拍出量、一回拍出量、心拍数と血圧の関係	テーマに関する内容の教科書範囲を読んでまとめ、第10～12回までの「循環と運動」に関するレポートの作成・提出に利用する。	A
第11回	循環の調節 心拍出量、総末梢抵抗を変化させる要因と血圧や各種臓器への血流の調節、循環器のトレーニングにおける適応性変化	実際の運動・スポーツ体験と循環器系の関わりについてまとめ、第10～12回までの「循環と運動」に関するレポートの作成・提出に利用する。	A
第12回	運動負荷試験の実際 検査目的の確認、運動負荷様式およびプロトコル作成、運動負荷試験の判定法、運動強度と心拍数の関係	運動負荷試験の実際について事前に予習する。第10回～12回までの内容として「循環と運動」に関するレポートを作成・提出する。	A
第13回	運動と内分泌系 ホルモンによる身体の調節、各種ホルモンの役割、内分泌系のトレーニングにおける適応性変化	テーマに関する内容の教科書範囲を読んでまとめ、第13～15回までの内容に関するレポートの作成・提出に利用する。	A
第14回	高温環境と運動 筋運動などによる熱産生と発汗などによる熱放散のバランス（体	熱中症の予防策について事前に予習し、第13～15回までの内容に関するレポートの作成・提出に利用	A

	温調節のしくみ)、暑熱への適応性変化、熱中症の予防	する。	
第15回	体力トレーニング 運動プログラムの作成、各年代のトレーナビリティ（無酸素性体力と有酸素性体力）、トレーニング効果と遺伝因子の関係、基本的動作（歩く・走る・跳ぶ・投げる）スキルの発達	運動処方について事前に予習する。第13回～15回までの内容をまとめたレポートを作成・提出する。	A
	試験	試験内容の振り返り	

健康スポーツ医学(運動療法を含む。)

更新日：2024/03/27 11:41:17

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M239020	授業コード	2M239020	
担当教員	今澤 正彦							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	一	単位	2		
科目ナンバー	S3212	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置		○		
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【健スポ】			授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○								
	心の健康を理解し、説明することができる。	○								
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○								
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。									
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。									
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。									
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。									
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。									
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。									
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○								
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○								
⑤専門分野の能力(2024)	<table border="1"> <tr> <td>養護・保健コース：</td> <td>心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。</td> </tr> <tr> <td>健康スポーツコース：</td> <td>運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。</td> </tr> <tr> <td>心理・カウンセリングコース：</td> <td>「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。</td> </tr> <tr> <td>健康科学コース：</td> <td>健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。</td> </tr> </table>	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。								
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。								
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。								
健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。									
		○								
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)										

授業概要

内容	健康づくり・老化防止のための運動や、生活習慣病（糖尿病・高血圧など）の予防・治療のための運動、および内科的・外科的な運動障害とその予防などについて、主に医学の視点から解説します。
方法	講義資料およびプレゼンテーションソフトウェア（Microsoft PowerPoint）による画面に基づいて講義を行います。講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。課題への取り組みの姿勢・内容・状況等を成績評価に考慮します。

履修条件

「心身健康論」および「生活習慣病論」を修得したか、履修中であることが望ましい。

履修する上の留意点

Active Portalの出欠登録のシステムを利用して出席をとります。

講義クラス内の連絡や課題の提出・フィードバック（返却等）をグループウェア（Microsoft Teams）で実施しますので、スマートフォンやタブレットばかりではなく、パソコン（大学が学生一人一人に無償貸与しているノートパソコンなど）の持参・利用を推奨します。関連するシステムに関する相談等については、「ICT運用支援」で相談してください。

到達目標

1	健康スポーツ医学、運動生理学について理解し、知識を深め、その概要について他者に説明できる。
2	糖尿病・高血圧・メタボリックシンドロームなどに対する運動療法について理解し、知識を深め、その実施方法について他者に指導、アドバイスできる。
3	高齢者・子ども・女性とスポーツについて理解し、知識を深め、他者に説明できる。
4	運動障害（外科的・内科的）とその対処法について理解し、知識を深め、その実施方法について他者に指導、アドバイスできる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標②	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標③	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標④	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	健康運動指導士養成講習会テキスト	南江堂	発行 健康・体力づくり事業財団
2	健康運動実践指導者養成用テキスト	南江堂	発行 健康・体力づくり事業財団
3	運動療法と運動処方	文光堂	編集 佐藤祐造
4	高齢者運動処方ガイドライン	南江堂	編集 佐藤祐造
5	新・スポーツ医学	嵯峨野書院	編著 藤本繁夫・大久保衛
6	図解スポーツ健康科学入門	金芳堂	編著 北條達也
7	スポーツ・健康科学概論テキスト	杏林書院	編著 森田恭光・島崎あかね
8	健康・スポーツ科学の基礎知識	道和尚書院	二杉茂・秋田和彦・菊本智之・津田真一郎・小林義樹・灘英世・伊藤淳・上谷聡子
9	病気がみえる シリーズ各種	メディックメディア	編集 医療情報科学研究所

オープンな教育リソース

講義の中で逐次紹介します。

学生へのメッセージ

運動療法の指導に当たる健康運動指導士等を目指す学生さんには必須の学問です。

単位修得にとどまらずに、自身の将来において社会に活かせる学びとすることを望みます。

毎回の講義資料（紙媒体）の配布は各回の講義室内限りとして、課題提出メ切り後に電子版をグループウェア（Microsoft Teams）上にアップロードします。講義資料（紙媒体）の後日の再配布は行いません。

課題に対するフィードバック

講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。更に、解答の内容・傾向から、必要に応じて、次回以降に総評・解説を加える場合もあります。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	スポーツ医学 *スポーツ医学とは何か *身体活動（生活活動・運動）不足の問題点 *健康関連体力 *METs *最大酸素摂取量 *無酸素性代謝閾値	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第2回	運動生理学 *骨格筋線維のタイプとその特徴 *有酸素運動と無酸素運動のエネルギー源	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第3回	循環器系、呼吸器系とスポーツ *循環器系に及ぼす身体活動の効果 *呼吸器系に及ぼす身体活動の効果	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第4回	脳神経系、内分泌系とスポーツ *交感神経系と副交感神経系 *運動時のホルモン変化	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第5回	糖尿病と運動	授業内容について参考書などで予習する。	A

	<ul style="list-style-type: none"> *糖尿病の成因分類 *糖尿病合併症 *糖尿病の治療 *運動療法および運動の効果 	授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 高血圧と運動 *血圧とは *生活習慣の修正項目 *運動療法および運動の効果 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第7回	<ul style="list-style-type: none"> その他の生活習慣病と運動 *脂質異常症とは *肥満症とは *メタボリックシンドロームとは *運動療法および運動の効果 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者とスポーツ（1） *高齢者の生理機能・代謝機能 *サルコペニア *ロコモティブシンドローム *フレイル 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者とスポーツ（2） *高齢者の運動処方ガイドライン 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとスポーツ（スポーツのやりすぎを含めて） 女性とスポーツ 妊婦とスポーツ 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第11回	<ul style="list-style-type: none"> スポーツの外科的傷害（1） *スポーツ傷害の分類（急性損傷（外傷）と慢性損傷（使いすぎ症候群）） *スポーツ現場での脳損傷 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第12回	<ul style="list-style-type: none"> スポーツの外科的傷害（2） *急性損傷に対する治療原則 *RICE処置（安静、冷却、圧迫、挙上）の方法、意義、効果 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第13回	<ul style="list-style-type: none"> スポーツの外科的傷害（3） *骨折の病態・症状・応急処置 *脱臼・亜脱臼の病態・症状・応急処置 *捻挫・靭帯損傷の病態・症状・応急処置 *筋・腱断裂の病態・症状・応急処置 *打撲・創傷の病態・応急処置 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第14回	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関わる内科的問題（1） *スポーツに関連した突然死 *熱中症 *救急蘇生（胸骨圧迫とAED） 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第15回	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関わる内科的問題（2） *スポーツ貧血 *オーバートレーニング症候群 	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
	学生による授業評価（アンケート回答）と学修成績評価（定期試験）		

体育原理

更新日：2024/04/17 20:25:00

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M240010	授業コード	2M240010
担当教員	佐々木 康						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3210	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【健スポ】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	スポーツの文化・原理の構造を内外の事例を通して学び、現代社会におけるスポーツの存在事由を産業論の視点から考える。
方法	内外の事例から、スポーツ産業社会の構造理解力、企画力を高め、更にプレゼンテーション能力を養う。

履修条件

教科書を持参していない場合は、授業を受講する意思がないと判断し欠席扱いとします。

履修する上の留意点

毎回レポート課題を提示し、それが提出されない場合は減点します。

到達目標

1	教科書と授業内容を理解し自らの言葉でミニレポートとして文章化できる。
2	教科書と授業内容を理解し自らの言葉で定期試験において論述できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ミニレポート	50
到達目標②	定期試験	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「孤高」と「誇り」のアスリート	名古屋大学・総合保健体育科学センター・スポーツマネジメント研究室	佐々木康

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

- ・主体的に行動することを望みます。
- ・毎時間レポート課題がありますが、熱意をもって取り組みましょう

課題に対するフィードバック

毎回のミニレポートにはできる限り、次週、教員からコメントを返し記述力向上を図る。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス（授業の進め方、評価の方法）	教科書を入手し構成を把握する	A,B
第2回	プロスポーツの存立構造を学ぶ。	プロスポーツについてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第3回	スポーツクラブ組織の構造を学ぶ	スポーツクラブ組織の構造についてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第4回	スポーツ・リーダーシップの構造を学ぶ。	スポーツ・リーダーシップの構造についてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第5回	スポーツ組織経営の歴史を学ぶ。	スポーツ組織経営の歴史についてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第6回	現代のスポーツ組織経営・メディア特性等の構造を学ぶ。	現代のスポーツ組織経営の構造についてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第7回	スポーツにおけるユース強化の歴史を学ぶ。	スポーツにおけるユース強化の歴史についてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第8回	現代スポーツにおけるユース強化の構造を学ぶ。	現代スポーツにおけるユース強化についてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第9回	スポーツの倫理について学ぶ。	スポーツの社会的責任についてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第10回	スポーツインテグリティについて学ぶ。	についてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第11回	スポーツグローバリゼーションの構造を学ぶ。	スポーツグローバリゼーションについてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第12回	スポーツの価値を守るスポーツ権について学ぶ	スポーツにおける経済構造についてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第13回	スポーツ仲裁について学ぶ	アジアにおけるスポーツについてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第14回	・スポーツ自治—ガバナンスとコンプライアンスについて学ぶ。	震災等の社会的不安時におけるスポーツについてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
第15回	、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任について学ぶ。	2020後のスポーツについてミニレポートの構成を考え作成する。	A,B
	定期試験（授業評価）		

体育実技(柔道)

更新日：2024/04/15 11:53:08

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M241020	授業コード	2M241020
担当教員	榎本 好根						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	S3304	授業形態	実技		実務経験のある教員による授業科目の配置		
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+15	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	安全に柔道の礼法・受け身・形・技の攻防を習得していく。
方法	反復練習から実践練習へ。

履修条件

なし

履修する上の留意点

柔道着必要

到達目標

1	安全に柔道の礼法・受け身・形・技の攻防を習得し、他者に指導できるようになる事。
---	---

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	頭で考えなくても、体が反応出来るようになる。	40
到達目標②	他者に怪我をさせないように、いたわれるようになる。	30
到達目標③	清掃作業など、他者と協力できるようになる。	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて紹介。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

柔道の礼法・受け身・形・技の攻防の習得状態をお互いに確認しながら助言し、体得したものを、他者に指導できるようにする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション(柔道着必要)	健康状態の把握	
第2回	礼法	礼法の復習	D
第3回	立礼、座礼	立礼・座礼の復習	D
第4回	礼法・歩き方	礼法・歩き方の復習	D
第5回	礼法・歩き方・受け身(前・横・後ろ)	礼法・歩き方・受け身復習	D
第6回	礼法・歩き方・受け身(前方回転)	礼法・歩き方・受け身復習	D
第7回	礼法・歩き方・受け身・立ち技(支えつり込み足)	礼法・歩き方・受け身・立ち技の復習	D
第8回	礼法・歩き方・受け身・立ち技(大外刈り)	礼法・歩き方・受け身・立ち技復習	D
第9回	礼法・歩き方・受け身・立ち技(体落とし)	礼法・歩き方・受け身・立ち技復習	D
第10回	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技(袈裟固め)	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技・の復習	D
第11回	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技(横四方固め)	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技・の復習	D
第12回	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技(上四方固め)	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技・の復習	D
第13回	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技・試合	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技・試合の復習	D
第14回	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技の総復習	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技・の復習	D
第15回	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技の試験	礼法・歩き方・受け身・立ち技・寝技・の復習	D

運動生理学演習

更新日：2024/03/27 11:41:23

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M242010	授業コード	2M242010A, 2M242010B
担当教員	山根 基						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3302	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	運動生理学概論で学習した呼吸、循環、筋活動等の生理現象を実際に把握するため、運動中の人体の生理学的応答を測定する実習を進める。実験実習を通じて、運動によって起こる身体機能の一時的変化や適応現象を観察し、データの収集、処理および考察をすすめ、レポートの作成方法を習得することが目標である。
方法	授業は演習形式で、グループワークを行う。実験実習を通じて、運動によって起こる身体機能の一時的変化や適応現象を観察し、データの収集、処理および考察をすすめ、レポートを作成する。

履修条件

運動生理学が履修されていること。
測定機器などの制限により履修人数は各クラス25名までとする。

履修する上の留意点

なし

到達目標

1	①実験における正確な測定やデータ分析ができる。
2	②実験で得られた結果から科学的かつ論理的な考察ができる。
3	③客観的な文章表現の方法を身につけることができる。
4	④グループ活動を意欲的に実施できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	25

到達目標②	レポート	25
到達目標③	レポート	25
到達目標④	授業態度	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特定の教科書は指定しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『初学者のための生体機能の測り方』第2版	日本出版サービス	加藤象二郎・大久保暁夫編著
2	『イラスト運動生理学』	東京教学社	朝山正巳・彼末一之・三木健寿編著

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

実験などを通して測定やデータの処理、結果の解釈といった過程を学び、科学的かつ論理的な考え方や物事の進め方、客観的で的確な表現の方法を身につけることを期待している。

課題に対するフィードバック

各テーマにおいて作成したレポートの内容を評価し、返却するとともに、いくつかの内容を授業内で発表し、情報や意見の交換をおこなう。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	体格と身体組成の測定と評価① 身長、体重や上肢長等の測定やBMI等の指数の算出を行う。	運動生理学概論講義内容を復習し、レポートを作成・提出する。	A, B
第2回	体格と身体組成の測定と評価② 皮下脂肪厚を測定し、各種の方法で体脂肪貯蔵率を算出して、体格指数と肥満度の評価方法を学ぶ。測定データについて平均値、標準偏差を求め、測定した集団の特徴について検討する。	体格および肥満の判定方法について内容を整理し、得られたデータの解析結果からレポートを作成する。	A, B
第3回	体力の測定と評価① 筋力、持久力、敏捷性などの体力要素について理解し、体力評価の方法について学ぶ。また、エクササイズガイドにおける体力測定評価についても理解する。	体力の評価方法についてまとめ、第3～5回の体力測定に関するレポート作成・提出に利用する。	A, B
第4回	体力の測定と評価② 中高年者を対象として想定した新体力テストを行い、測定したデータを解析し、その特徴を捉え、評価する。	体力テストについてまとめ、第3～5回の体力測定に関するレポート作成・提出に利用する。	A, B
第5回	体力の測定と評価③ 体力測定の結果を踏まえて、エアロビックエクササイズおよびレジスタンスエクササイズの運動プログラムについて検討する。また、体力に及ぼす先天的要因と後天的要因について学習する。	体力測定において得られたデータの入力と解析を行い、レポートを作成・提出する。	A, B
第6回	運動と筋電図 筋収縮時の筋電図を記録する。記録した波形を解析し、その結果から、筋活動時の特徴について検討する。	筋電図についての内容をまとめ、得られた解析結果からレポートを作成・提出する。	A, B
第7回	循環調節① 安静時の心電図波形を記録し、心電図波形の読み方を理解する。	循環系のしくみおよび心電図波形について調べ、第7～10回の循環器応答演習に関するレポート作成・提出に利用する。	A, B
第8回	循環調節② 安静時および運動時の心拍数、血圧、一回拍出量、心拍出量を測定し、活動時の循環機能の変化を観察する。また、テレメータ式心電計を用いてフィールド運動時の心電図変化を観察する。	得られたデータの入力と解析を行い、第7～10回の循環器応答演習に関するレポート作成・提出に利用する。	A, B
第9回	循環調節③ 運動負荷試験として運動強度増加に伴う心拍数、血圧、自覚的運動強度などの反応を観察する。（トレッドミル、自転車エルゴメーターを活用）	得られたデータの入力と解析を行い、第7～10回の循環器応答演習に関するレポート作成・提出に利用する。	A, B
第10回	循環調節④ 運動負荷試験で得られたデータを解析し、運動時の循環応答について考察する。運動強度と心拍数の関係を理解し、心拍数による至適運動強度の決定（推定）方法、コントロール方法を習得する。（トレッドミル、自転車エルゴメーターを活用）	循環器応答の実験で得られたデータの入力と解析を行い、レポートを作成・提出する。	A, B
第11回	循環調節⑤ 潜水時の循環器応答について心電図計を用いて理解する。	潜水時の循環器応答についての内容をまとめ、レポートを作成・提出する。	A, B
第12回	酸素摂取量の測定① ダグラスバッグ法によって安静時の酸素摂取量を測定する。	酸素摂取量について調べ、第12～13回の酸素摂取量測定演習に関するレポート作成・提出に利用する。	A, B

		る。	
第13回	酸素摂取量の測定② 漸増負荷運動中の酸素摂取量、心拍数などの推移を観察する。得られたデータから心拍数と酸素摂取量の関係式を作成する。また、無酸素性作業閾値および最大酸素摂取量の判定方法について理解する。	酸素摂取量測定演習で得られたデータの入力と解析を行い、レポートを作成・提出する。	A, B
第14回	運動中の心拍数の測定とエネルギー消費量の推定① 様々な運動を行い、各運動中の心拍数と運動後の脈拍数を測定し、その差異やRPE（主観的作業強度）との関係について比較する。	活動時のエネルギー消費量の推定方法について調べ、第14～15回の酸素摂取量測定演習に関するレポート作成・提出に利用する。	A, B
第15回	運動中の心拍数の測定とエネルギー消費量の推定② METsや心拍数からエネルギー消費量を推定し、フィールド運動中の運動強度や量を評価する方法について検討する。	エネルギー消費量測定によって得られたデータの入力と解析を行い、レポートを作成提出する。	A, B

トレーニング・フィットネス論

更新日：2024/03/27 11:41:25

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M243010	授業コード	2M243010
担当教員	刑部 純平						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3213	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	競技力向上を目的としたアスリートや健康維持・増進を目的とした一般健常者など、トレーニングを実施する目的は多種多様です。これらの目的を効果的かつ効率的に達成するためには、エビデンスに基づくトレーニング指導の実践が重要です。そこで、本講義では特定の体力要素（筋力、心肺持久力、柔軟性、爆発的なパワー）向上を目的としたトレーニング方法やリカバリー方法、プログラムデザインについて学び、目的に応じたトレーニングプログラムを作成できるようになることを目標とします。
方法	PowerPointを活用して講義を行います。 授業終了時に確認テスト（小テスト）を実施します。 また、一部の授業において、レポート課題を出します。 復習用教材として授業の一部をアーカイブ配信します。

履修条件

特になし

履修する上の留意点

健康運動実践指導者養成課程科目の授業を履修していることが望ましい

到達目標

1	トレーニングによる身体の適応について説明できる
2	グラフや図などの情報を分析し、考察することができる
3	目的に応じたトレーニングプログラムを構築することができる

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	小テスト	40
到達目標②	レポート	30
到達目標③	レポート	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	授業毎にスライド資料を配布します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	骨格筋肥大のサイエンスとトレーニングへの応用	ナッパ	Brad Schoenfeld (著), 後藤 勝正 (監修, 翻訳)
2	肉体改造のピラミッド トレーニング編	AthleteBody株式会社	Eric Helms (著), Andy Morgan (著), Andrea Valdez (著), 八百 健吾 (著)
3	アスレティックパフォーマンス向上のための トレーニングとリカバリーの科学的基礎	文光堂	平山邦明 (編集)

オープンな教育リソース

本授業は、授業動画のアーカイブ配信を行いますので復習用に活用してください。
アーカイブ配信動画の視聴方法については、授業内で説明します。

学生へのメッセージ

トレーニング科学に関する様々な科学的知見に触れ、科学的知見をどのように咀嚼し、実践するのかを考えていきましょう。

課題に対するフィードバック

確認テスト（小テスト）終了時に、解説をします。
また、レポート課題に対して、採点・講評します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	トレーニング指導者の役割と実務について (エビデンスに基づくトレーニング指導)	予習：エビデンスに基づくトレーニング指導の実践方法について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A、B
第2回	柔軟性の科学 (静的ストレッチ、動的ストレッチ)	予習：ストレッチについて予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。 授業内容についてレポート課題を課します。	A、B
第3回	レジスタンストレーニング① (筋力増加、筋肥大のメカニズム)	予習：レジスタンストレーニングによる身体の適応について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A、B
第4回	レジスタンストレーニング② (頻度・量)	予習：レジスタンストレーニングにおける変数（頻度・量）について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。 授業内容についてレポート課題を課します。	A、B
第5回	レジスタンストレーニング③ (強度、セット間休息)	予習：レジスタンストレーニングにおける変数（強度、セット間休息）について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。 授業内容についてレポート課題を課します。	A、B
第6回	レジスタンストレーニング④ (トレーニング種目の選択)	予習：レジスタンストレーニングにおける変数（トレーニング種目の選択）について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。 授業内容についてレポート課題を課します。	A、B
第7回	爆発的なパフォーマンス向上トレーニング① (力積・仕事・パワー・RFD・高速筋力)	予習：爆発的なパフォーマンス（パワー・スピード系）向上を目的としたトレーニングについて予習し	A、B

		てください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	
第8回	爆発的なパフォーマンス向上トレーニング② (パリスティック、ウェイトリフティング、プライオメトリクス)	予習：パリスティック、ウェイトリフティング、プライオメトリクスについて予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A、B
第9回	レジスタンストレーニングの応用 (エキセントリックトレーニング)	予習：エキセントリックトレーニングについて予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。 授業内容についてレポート課題を課します。	A、B
第10回	筋肉痛とリカバリーの科学 (筋肉痛の発生要因、予防、処置)	予習：筋肉痛の発生要因とその予防方法、処置方法について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。 授業内容についてレポート課題を課します。	A、B
第11回	心肺持久系トレーニング① (心肺持久力向上のメカニズム、有酸素性・無酸素性トレーニング)	予習：心肺持久系トレーニングによる身体の適応について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A、B
第12回	心肺持久系トレーニング② (高強度インターバルトレーニング、コンカレントトレーニング)	予習：高強度インターバルトレーニング、コンカレントトレーニングについて予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。 授業内容についてレポート課題を課します。	A、B
第13回	プログラムデザイン① (超回復理論、フィットネス・疲労理論)	予習：超回復理論、フィットネス・疲労理論について予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A、B
第14回	プログラムデザイン② (ピリオダイゼーション)	予習：ピリオダイゼーションについて予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。 授業内容についてレポート課題を課します。	A、B
第15回	スポーツ障害とアスレティックリハビリテーション	予習：スポーツ障害とアスレティックリハビリテーションについて予習してください。 復習：配布資料とアーカイブ動画を活用してください。	A、B

トレーニング・フィットネス演習

更新日：2024/03/27 11:41:27

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M243110	授業コード	2M243110
担当教員	刑部 純平						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	S3303	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	本演習では、バーベルやダンベルを用いたレジスタンストレーニングの基本的な種目、爆発的なパフォーマンス（パワー・スピード系）向上を目的としたトレーニング、持久カトレニングについて、安全かつ効果的なトレーニング実践法・指導法の獲得を目指します。また、目的に応じたトレーニングプログラムの作成・指導を繰り返し、トレーニング指導の実践力向上を目指します。さらに、授業内で各種体力測定を実施し、自身の体力の変化を評価します。
方法	教科書の内容に沿って、自身でトレーニングを実施します。その後、指導者役とクライアント役に分かれ、トレーニング指導を体験します。授業の終盤に振り返りシートを配布し、トレーニング指導の自己評価、および他者評価を行い、自身のトレーニング指導を振り返ります。

履修条件

トレーニング機器などの制限により履修人数はクラス20名までとする。

履修する上の留意点

健康・安全面から、トレーニングに適切な服装とシューズを用意してください。

到達目標

1	基本的なレジスタンストレーニングを実施できる
2	基本的なレジスタンストレーニングを指導できる
3	目的に応じたトレーニングプログラムを作成できる
4	トレーニングプログラムを基に指導できる

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	授業態度	25
到達目標②	授業態度	25
到達目標③	成果発表	25
到達目標④	成果発表	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	NSCAジャパン ストレngth&コンディショニング エクササイズ・バイブル	実業之日本社	NSCAジャパン ヒューマンパフォーマンスセンター

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

授業外でも積極的にトレーニングを実践してください。
また、指定の教科書を必ず持参すること。

課題に対するフィードバック

授業中に巡回して、適宜指導を行います。
また、振り返りシートについて、適宜コメントをしてフィードバックをします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ウォーミングアップの指導と実践① (静的ストレッチ、パートナーストレッチ)	授業の内容、服装や成績評価に関する説明をします。 予習・復習として、学内外で積極的に静的ストレッチ、パートナーストレッチを実践してください。	D
第2回	ウォーミングアップの指導と実践② (動的ストレッチ・フォームローラー)	予習・復習として、学内外で積極的に動的ストレッチとフォームローラーを実践してください。	D
第3回	レジスタンストレーニングの指導・実践① バーベル：下半身種目（プッシュ系）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第4回	レジスタンストレーニングの指導・実践② ダンベル：下半身種目（プッシュ系）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第5回	レジスタンストレーニングの指導・実践③ バーベル：下半身種目（プル系）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第6回	レジスタンストレーニングの指導・実践④ ダンベル：下半身種目（プル系）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第7回	レジスタンストレーニングの指導・実践⑤ バーベル：上半身種目（プッシュ系）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第8回	レジスタンストレーニングの指導・実践⑥ ダンベル：上半身種目（プッシュ系）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第9回	レジスタンストレーニングの指導・実践⑦ バーベル：上半身種目（プル系）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第10回	レジスタンストレーニングの指導・実践⑧ ダンベル：上半身種目（プル系）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第11回	パワー・スピード系トレーニングの指導・実践① (クイックリフト)	予習・復習として、学内外で積極的にクイックリフトを実践してください。	D
第12回	パワー・スピード系トレーニングの指導・実践② (プライオメトリックス、スピード&アジリティ)	予習・復習として、学内外で積極的にプライオメトリックス、スピード&アジリティトレーニングを実践してください。	D
第13回	持久力トレーニングの指導・実践 (有酸素性、無酸素性、インターバルトレーニング)	予習・復習として、学内外で積極的に持久力トレーニングを実践してください。 第2回～13回の学習課題の成果については、授業に取り組む姿勢（授業態度）にて評価します。	D
第14回	トレーニングプログラムの作成と指導① (一般健常者)	予習：第14回で使用するトレーニングプログラムを作成してください。	D

		第14回の学習課題の成果については、授業に取り組む姿勢（成果発表）にて評価します。	
第15回	トレーニングプログラムの作成と指導② (アスリート)	予習：第15回で使用するトレーニングプログラムを作成してください。 第15回の学習課題の成果については、授業に取り組む姿勢（成果発表）にて評価します。	D

障害者スポーツ

更新日：2024/03/27 11:41:28

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M244010	授業コード	2M244010
担当教員	大槻 洋也						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	各障がいについて理解する。その後、障がい者（児）の方にとって、スポーツの意義について学ぶ。生涯スポーツから、介護予防のために運動を理解し、運動プログラムを作成できることを身につけます。障がい者のスポーツを体験することにより、スポーツ指導上必要な指導方法等を学びます。
方法	講義においては、毎回資料を配布します。資料を基本として授業を進めます。また、実際に行われている障がい者のスポーツを画像にて紹介します。講義で学んだ内容を、実技において実習及び検証し、グループワーク及びディスカッション等を取り入れ、最終的には運動プログラムを作成します。

履修条件

履修する上の留意点

毎回レポート課題を提示します。

到達目標

1	障がいの種類及び特性を理解できる。
2	障がい者がスポーツを実践する重要性について理解できる。
3	運動プログラムを作成し指導できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート提出	40

到達目標②	レポート提出	20
到達目標③	レポート提出	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

提出レポートに関し、次回授業内においてフィードバックを行います。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、実技の方法及び評価等について説明）。		
第2回	障がいについて学修 I（身体障がい）。	配布資料を読んでくる。	B,C
第3回	障がいについて学修 II（知的障がい）。	配布資料を読んでくる。	B,C
第4回	障がいについて学修 III（精神障がい）。	配布資料を読んでくる。	B,C
第5回	介護予防のための運動指導法を実践する（障がい者・高齢者対象の運動）。	指導方法を理解しておく。	B,C
第6回	視覚障がい者の介助方法及び運動指導法を実践する。	配布資料を読み、視覚障がいについて理解しておく。	B,C
第7回	リハビリテーションのためのスポーツについて体験する。	配布資料を読み、リハビリテーションの概念を理解しておく。	
第8回	身体機能及び体力維持・向上を目的としたトレーニング方法について学修する。	配布資料を読み、筋力・柔軟性・有酸素運動・平衡性運動について理解しておく。	B,C
第9回	障がい者に適合するスポーツのルール・用具について学修する。	配布資料を読み、ルール・用具について理解しておく。	B,C
第10回	重度障がい者・高齢者に適合するスポーツについて学修する。	配布資料を読み、重度障がいの特性、高齢者の身体能力について理解しておく。	
第11回	介護予防のための運動プログラム作成 I（グループワーク）。	配布資料を読み、事前にグループ内で話し合い等を実施しておく。	B,C
第12回	介護予防のための運動プログラム作成 II（グループワーク）検証。	前週に作成した運動プログラムの検証を事前に行う。グループ別にプログラム発表を行う。	B,C
第13回	障がい者のスポーツの意義について学修する。	配布資料を読み、スポーツの意義について理解しておく。	
第14回	知的障がい児・発達障がい児の運動プログラムの作成。	配布資料を読み、知的障がい・発達障がいについて理解しておく。	B,C
第15回	肢体不自由者（児）の運動プログラムの作成。	配布資料を読み、肢体不自由について理解しておく。	

コーチング論

更新日：2024/03/27 11:41:30

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M246010	授業コード	2M246010
担当教員	二瓶 雄樹						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	一	単位	2	
科目ナンバー	S3209	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	コーチング論では、コーチング実績を持つ教員からそれぞれのコーチングに対する考え方や指導方法などを学ぶ。受講者自信が経験した・している競技や将来の指導者としての基本的な考え方を修得し、指導者としての知識の幅を広げることを目的とする。
方法	対面形式で実施され、マイクロコーチングなどのアクティビティを通して学習が展開される。

履修条件

レポートや対話形式の実践課題が評価の主体となっています。積極かつ主体的な受講を期待します。

履修する上の留意点

アクティブラーニング形式で展開される授業です。積極かつ主体的な受講を期待します。

到達目標

1	複数の種目の指導者からコーチングを学び、コーチングに関する基本的な知識の幅を広げることができる。
2	コーチングの実践現場に応用できる基本的なコーチングの技能を身につけることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート・平常点	55
到達目標②	実践課題・平常点	45
到達目標③		
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

担当教員は、ソフトボールの日本代表チームのスタッフや大学日本代表のヘッドコーチの経験を有しています。また現在はコーチのコーチであるコーチデベロッパーとしても活動しています。共に学び、主体的に活動する学生の履修を強く希望します。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートに対して、紹介や講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション ー評価方法や授業の方法についてー	予習：シラバスを確認する。 復習：オリエンテーション内容を振り返る。	
第2回	コーチングとは ーコーチングの起源やその意味についてー	予習：コーチングの起源について事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第3回	コーチングに求められる役割 ーコーチの役割や求められるコーチ像についてー	予習：コーチの役割について事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第4回	コーチに求められる知識とスキル ーコーチに求められるオーセンティックなコーチングについてー	予習：オーセンティックなコーチングについて事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第5回	対他者力を磨こう ー対他者に対するコーチングスキルについてー	予習：コーチングスキルについて事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第6回	対自己力を磨こう ー対自己に対するコーチングスキルについてー	予習：コーチングスキルについて事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第7回	スポーツの意義と価値 ースポーツをする、みる、支える視点からの意義と価値についてー	予習：スポーツの意義について事前に検討する。 復習：授業内容を振り返る。	B
第8回	暴力・ハラスメントの根絶 ースポーツにおける暴力やハラスメントについて事例を通してー	予習：スポーツにおける暴力やハラスメントについて事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第9回	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 ースポーツにおける事故について事例を通してー	予習：スポーツ事故の例について事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第10回	時代をリードするコーチング① ープレイヤーズセンタードと4つのアプローチについて	予習：プレイヤーズセンタードについて事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第11回	時代をリードするコーチング② ー効果的な計画づくり、トレーニングづくりについてー	予習：トレーニングプログラムについて事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第12回	時代をリードするコーチング③ ー理想のコーチ像とコーチ自身の幸福についてー	予習：理想のコーチ像について事前に検討する。 復習：授業内容を振り返る。	B
第13回	コーチング環境の特徴 ーより良いコーチング環境についてー	予習：より良いコーチング環境について事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第14回	ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング ーハイパフォーマンススポーツにおけるコーチングを事例を通してー	予習：ハイパフォーマンススポーツのコーチングについて事前に調べる。 復習：授業内容を振り返る。	B
第15回	まとめ	予習：前回までの授業を振り返る。 復習：まとめの授業を振り返る。	

ジュニアスポーツ指導論

更新日：2024/03/27 11:41:32

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M247010	授業コード	2M247010
担当教員	中野 貴博						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3211	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--	--	--	--	--	--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	ジュニア期（児童期・青年前期）の健全なスポーツへの取組みをサポートするために、身体面や精神面の発育発達に関する知識、それに対応する運動実施や運動促進の方法を理解する。
方法	原則、講義形式での実施を予定しているが、履修人数によっては適宜、アクティブラーニングを用いて行う。実践的な授業を行う際は、授業内で予告します。

履修条件

--	--

履修する上の留意点

--	--

到達目標

1	子どもにおける運動、スポーツの意義や価値を説明することができる。
2	発育発達過程におけるこころと身体の特徴を踏まえた運動発達、スポーツスキル獲得を理解することができる。
3	ジュニア期における適切な運動指導法の能力を備えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	平常点①（主に、授業内で行う小テスト等）	15
到達目標②	平常点②（アクティブラーニングなどの実践的内容実施時の態度、意欲）	15
到達目標③	定期試験	70
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定の教科書はありません。随時、授業内で配布する資料を用いて講義します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼児期運動指針ガイドブック—毎日、楽しく体を動かすために	文部科学省	文部科学省
2	幼児期における運動発達と運動遊びの指導	ミネルヴァ書房	杉原 隆，河邊 貴子
3	幼少年のための運動遊び・体育指導	杏林書院	幼少年体育指導士会
4	からだの発達と加齢の科学	大修館書店	高石昌弘，樋口満，佐竹隆

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

少子化に伴い、子どもの交流や運動などの機会が減少しています。
少しでも元気で活発な子どもの育みに関心を持ちながら、講義に参加してもらえると嬉しいです。

課題に対するフィードバック

提出された課題等に対して、適宜、評価やコメントをする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づき、本講義の授業の概要、到達目標、評価基準、授業方法の説明および注意事項をオリエンテーションする。	
第2回	幼児期・児童前期における運動、体力の実情	子どもの運動やスポーツ活動に関する諸問題を体力低下を中心に学習する。	
第3回	子どもにおける運動、スポーツの意義・価値	子どもにおける運動、スポーツの意義・価値を理解し、ジュニアスポーツ指導員の役割を学ぶ。	A
第4回	子どもの身体発達Ⅰ（基礎理論）	子どもの身体発達に関する基礎理論を学習する。	
第5回	子どもの身体発達Ⅱ（諸機能の発達理解）	子どもの運動発達に関連する身体の諸機能の発達について学習する。	A
第6回	子どもの運動発達	子どもの体力および運動動作の発達過程について学習する。	
第7回	子どもの体力・動作評価	新体力テストや動作評価などの子どもの体力・運動能力の評価法を学習する。	
第8回	運動の多様化と洗練化	子どもの運動発達の多様化と洗練化を学習し、多様な運動の必要性を理解する。	A
第9回	子どもの心理的な発達とアプローチ	子どもの心理的な発達の特徴および、それに対応したアプローチ方法について、運動時の声かけや様々な配慮と合わせて学習する。	
第10回	子ども運動と生活習慣・健康	子どもの運動と基本的な生活習慣との関係性、健康との関連について理解する。	A
第11回	子ども運動への社会的取組み	文科省やスポーツ庁などが推し進める子どもの運動促進のための取組を学習する。	
第12回	多様な運動の分類、ゴールデンエイジ	多様な運動の分類の代表としてスポーツアビリティの考えを理解する。 ゴールデンエイジ、プレゴールデンエイジの意味を理解する。	
第13回	運動実践計画に向けて	運動実践計画をする際の留意点やMan-STECによる計画立案を学習する。	B
第14回	子どもの運動指導の模擬実践①（幼児期の実践）	幼児期に有用と思われる運動内容を計画し、模擬的に実践を行う。	B
第15回	子どもの運動指導の模擬実践②（児童期の実践）	児童期に有用と思われる運動内容を計画し、模擬的に実践を行う。	B

ライフサイクルと健康

更新日：2024/03/27 11:41:34

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M248010	授業コード	2M248010
担当教員	竹中 香名子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S4205	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	人生100年時代における現代的な健康課題を学ぶことで、自らの人生を考えると同時に、健康な社会の実現のために今自分が何ができるのかを考え、行動できる力を養う。
方法	パワーポイントおよび授業プリントを使用して講義を行うが、毎回、個人ワークをもとにグループディスカッションを行いながら現代的健康課題について考える。また、一部反転授業を行う。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	ライフサイクルを理解し、ライフサイクルにおける健康課題を理解することができる。
2	ライフサイクルにおける健康課題の解決方法を考えることができる。
3	健康課題の解決のために今の自分ができていることを考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業態度	20
到達目標②	課題	20
到達目標③	レポート	60
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	配布プリントを使用する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

「健康」について、自分や家族の身に置き換えて、考えるようにしてください。
また、ニュースなどに関心を持ち、自身の生活や健康への影響を考えてみてください。

課題に対するフィードバック

授業のコメントシートでの意見や質問のフィードバックは次回以降の授業内でコメントを行う。
課題およびレポートの総評については、成績評価後に総評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション、「健康」とは	予習：シラバスを読んでくること、「健康」の定義について確認してくる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、確認する。	B
第2回	ライフサイクルと健康	予習：前回出した課題について考え、意見をまとめる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、興味関心事項について調べ学習を行う。	B
第3回	子どもの出生と母子保健、リプロダクション	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、興味関心事項について調べ学習を行う。	B
第4回	子どもの発育発達と保健①乳児期・幼児期	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、興味関心事項について調べ学習を行う。	B
第5回	子どもの発育発達と保健②学童期・思春期	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、興味関心事項について調べ学習を行う。	B
第6回	成人期の特徴と保健①生活習慣病	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、興味関心事項について調べ学習を行う。	B
第7回	成人期の特徴と保健②がん	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、興味関心事項について調べ学習を行う。	B
第8回	成人期の特徴と保健③メンタルヘルス	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、興味関心事項について調べ学習を行う。	B
第9回	老年期の特徴と保健①介護・医療保険制度	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、興味関心事項について調べ学習を行う。	B
第10回	老年期の特徴と保健②認知症	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：配布資料および授業内容を振り返り、興味関心事項について調べ学習を行う。	B
第11回	母子保健における健康課題とその解決方法	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：ライフサイクルにおける健康課題の解決方法を考える	B、C
第12回	青年期における健康課題とその解決方法	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：ライフサイクルにおける健康課題の解決方法を考える	B、C
第13回	成人期における健康課題とその解決方法	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：ライフサイクルにおける健康課題の解決方法を考える	B、C
第14回	老年期における健康課題とその解決方法	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：ライフサイクルにおける健康課題の解決方法を考える	B、C

		を考える	
第15回	まとめ、社会的な健康課題の解決とは	予習：調べ学習の内容をまとめる。 復習：ライフサイクルにおける健康課題の解決のために今の自分ができることを考える	B、C

子どもの保健

更新日：2024/03/27 11:41:35

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M249010	授業コード	2M249010
担当教員	近藤 由里子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S4210	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

--	--

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する 子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解する 子どもの疾病とその予防方法及び多職間の連携・協働の下での適切な対応について学ぶ。
方法	講義内容に沿ったペアワーク、グループワーク、ロールプレイング等とおして具体的に理解する。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について説明できる
2	子どもの身体発育や発達について説明できる
3	子どもの健康状態の観察と体調不良時の対応方法について説明できる
4	子どもに多い疾患の特徴と適切な対応・予防方法について説明できる
5	子どもの虐待の実際について説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート/定期試験	20
到達目標②	レポート/定期試験	20
到達目標③	レポート/定期試験/ロールプレイング	20
到達目標④	レポート/定期試験	20

到達目標⑤	レポート/定期試験	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	子どもの保健テキスト 改定第2版	診断と治療社	小林美由紀

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	新版よくわかる子どもの保健（やわかアカデミズム〈わかる〉シリーズ）	ミネルヴァ書房	丸尾良浩 竹内義博

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

子どもに関する情報、子どもに関する健康について関心を持ち、積極的に情報収集してください。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは事前に提供されるルーブリックにより評価する。振り返りシートはコメントし返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 子どもの保健活動の意義と目的	予習：これまで学修したことを基に子どもの特徴を 考えてくる。 復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A
第2回	子どもの出生と母子保健の意義 現代社会における子どもの健康にあんする現状と課題	予習：教科書第1章②③を読み「現代社会における 子どもの健康に関する現状と課題」について調べる 復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第3回	子どもの身体発育と運動機能の発達	予習：教科書第2章①を読む 復習：振り返り問題で復習する 「子どもの体格は向上したが、体力・運動能力が低 下傾向である理由」についてレポートにまとめ（5 00文字程度）第4回講義開始時に提出	A, C
第4回	子どもの生理機能の発達と生活習慣	予習：教科書第2章②を読む 復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第5回	地域における保健活動と子どもの虐待防止	予習：教科書第3章を読む 復習：振り返り問題で復習する 「虐待を受ける子どもへの影響」についてをレポ ートにまとめ500文字程度）第6回講義開始時に提出	A, C
第6回	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握	予習：教科書第4章を読む 復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第7回	子どもの免疫の発達と感染症の特徴	予習：教科書第5章①を読む 復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第8回	子どもの感染症の予防および適切な対応	予習：教科書第5章②を読む 復習：振り返り問題で復習する	A, C
第9回	子どもの救急疾患の特徴と適切な特徴	予習：教科書第5章③を読む 復習：振り返り問題で復習する 急性疾患、事故や怪我の対応を配布した用紙にまと める	A, C
第10回	新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応	予習：教科書第5章④を読む 復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第11回	子どものアレルギー疾患の特徴と適切な 対応	予習：教科書第5章⑤を読む 復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第12回	子どもの慢性疾患の特徴と適切な対応	予習：教科書第5章⑥を読む 復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第13回	保護者との情報共有と家族の支援	予習：教科書第6章・第7章を読む	A, C

	子どもの健康診断と関連機関との連携	復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り）シートで復習する	
第14回	【小児救急の演習】 ・安全・安楽な体位（回復体位、ショック体位） ・ピークフローの使用方法 ・エビペンの使用方法	予習：教科書第5章ピークフロー、エビペンの使い方を熟読 復習：ロールプレイングを行い気づき、学んだことをレポート（500文字程度）し第15回講義開始時に提出する	D
第15回	【小児救急の演習】 ・乳児の一次救命処置 ・乳児の誤嚥時の対応	予習：教科書第5章子どもの心肺蘇生時の対応について熟読する	D
	定期試験		

高齢者の保健

更新日：2024/03/27 11:41:37

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M250010	授業コード	2M250010
担当教員	山根 友絵						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S4302	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	高齢化が進行している日本では、高齢者と関わる機会が多い。高齢者を取り巻く社会背景を理解するとともに、加齢に伴う身体・生理的、心理・社会的側面の変化や老年期に起こりやすい疾患・症候について学ぶ。さらに、加齢に伴う変化が高齢者の生活にどのように影響しているのか理解を深める。
方法	パワーポイントおよび配布資料を用いて講義を行う。学生間での意見交換や発表も取り入れ、高齢者や高齢者を取り巻く社会について理解を深める。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	加齢に伴う身体・生理的、心理的、社会的側面の変化を説明できる。
2	老年期に起こりやすい疾患・症候の特徴を説明できる。
3	日本の高齢化の現状を理解し、高齢化がもたらす社会問題を説明できる。
4	高齢者を支える保健医療福祉システムの仕組みを説明できる。
5	高齢者の保健における課題と、今後の展望について理解し、意見を述べるることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	30
到達目標③	レポート	20
到達目標④	定期試験	20

到達目標⑤	授業態度	10
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	老年看護学 概論と看護の実践 (第6版)	ヌーヴェルヒロカワ	奥野茂代、大西和子監修

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

主体的に学修に取り組みましょう。

課題に対するフィードバック

授業開始時に前回授業内容の振り返りを行い、理解度を確認してから授業を進める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 高齢者を取り巻く社会	予習：シラバスに目を通し、本科目での学修内容、進め方を理解しておく。高齢者に関する最近のトピックスをインターネット等で調べ、整理しておく。 復習：講義中に配布した資料の復習のポイントに基づいて講義内容を自分自身の言葉でまとめ定期試験に備える。	A
第2回	老化の概念と加齢変化①（身体・生理的側面の理解）	予習：高齢者の身体的変化について身近な高齢者を観察して気づいたことを整理しておく。 復習：高齢者の身体・生理的特徴について講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第3回	老化の概念と加齢変化②（心理的側面の理解）	予習：老年期の発達課題について調べ、整理しておく。 復習：高齢者の心理的特徴について講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第4回	老化の概念と加齢変化③（社会的側面の理解）	予習：高齢者の生きがいについて調べ、整理しておく。 復習：高齢者の社会的特徴について講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第5回	老年期に起こりやすい疾患・症候①（老年症候群、廃用症候群）	予習：第2～4回で学修した内容を整理しておく。 復習：老年症候群、廃用症候群の特徴について講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第6回	老年期に起こりやすい疾患・症候②（認知症）	予習：認知症高齢者への支援に関する最近のトピックスをインターネット等で調べ、整理しておく。 復習：認知症の種類と特徴について講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第7回	老年期に起こりやすい疾患・症候③（呼吸、循環機能障害）	予習：呼吸器、循環器の構造と機能について調べ、理解しておく。 復習：高齢者に起こりやすい肺炎や心不全について講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第8回	老年期に起こりやすい疾患・症候④（運動機能障害）	予習：筋・骨格系の構造と機能について調べ、理解しておく。 復習：サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第9回	高齢者の保健・福祉対策の変遷と高齢者医療制度	予習：高齢者医療に関する最近のトピックスをインターネット等で調べ、整理しておく。 復習：高齢者医療制度の仕組みについて講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第10回	介護保険制度と地域包括ケアシステム	予習：介護保険制度設立の背景について調べ、理解しておく。 復習：介護保険制度の仕組みと地域包括ケアシステムの理念について講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第11回	高齢者のヘルスプロモーションと介護予防	予習：地域で行われている介護予防の取り組みにつ	A

		いて調べ、整理しておく。 復習：フレイルの概念と介護予防について講義内容をまとめ、定期試験に備える。	
第12回	高齢者の介護と家族への支援	予習：高齢者の世帯構造の変化と介護の特徴を調べ、整理しておく。 復習：高齢者の介護における課題について講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A
第13回	高齢者のエンドオブライフケア	予習：高齢者の終末期の医療について調べ、自分自身の考えを整理しておく。 復習：アドバンスケアプランニングについて講義内容をまとめ、定期試験に備える。	A、C
第14回	高齢者が直面しやすい倫理的課題	予習：看護倫理、医療倫理について調べ、理解しておく。 復習：日本の高齢化がもたらす社会問題とその解決策について自分の意見をレポートにまとめ、次回講義時に提出する。	A、B
第15回	高齢者の保健における課題と今後の展望 全体のまとめ	予習：これまでの講義内容を踏まえて、高齢者の保健における課題について自分自身の考えを整理しておく。 復習：これまでの講義内容で理解が不足している点について再度調べ、定期試験に備える。	A、B
	定期試験		

社会福祉概論

更新日：2024/03/27 11:41:39

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M251010	授業コード	2M251010
担当教員	長谷中 崇志						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S4304	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	○
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	本講義では、社会福祉に関する基本的視点および知識を身につけることを目的としている。地域社会を取り巻く環境の変化を背景として今日、誰もが日常的に、自身や家族の努力だけでは解決できない様々な生活課題（社会的孤立、虐待、介護、貧困など）に直面するリスクを抱えている。社会福祉分野では、すべての人の幸せ（well-being for all）の実現に向けて、多分野にわたる生活課題の包括的な解決・改善を図り、誰もが安心して暮らすことのできる包摂的な「地域共生社会」の創出を進めている。講義を通して、①健康の観点から一人ひとりに合った「幸せ」を実現していくためには、心理・身体的側面に加えて個人・家族を取り巻く環境（社会的側面）からのアプローチが重要であることを理解するとともに、②健康に関わる多面的・包括的な実践を根拠（evidence）に基づき展開していくために不可欠な社会福祉の基礎知識・視点を習得する。事例にふれながら社会福祉が自分の生活に密接に関連していることを理解し、地域共生社会の実現に向けたこれからの社会福祉のあり方について健康の役割と関連付けながら考えていく。
方法	教科書およびレジュメに基づいて講義形式で行う。必要に応じてペアワークやグループワーク、DVDの視聴を取り入れる。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	現代社会の特徴を理解したうえで、社会福祉に関する基本的視点・知識を説明できる。
2	社会福祉の理念や法制度について理解し、説明できる。
3	社会福祉の援助方法について理解し、説明できる。
4	社会福祉における「健」の役割や他の専門職との協働・連携について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題レポート・小テスト	40
到達目標②	小テスト	20

到達目標③	小テスト	20
到達目標④	課題レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『初めての社会福祉論（第2版）』	法律文化社	烏野猛編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『地域福祉の理論と方法（第2版）』	みらい	坪井真・木下聖編

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

「双方向的」な講義にするために、随時、学生に発言を求めたり、毎回配布するリアクションペーパーに質問・要望等を記入してもらう。積極的に参加し、発言することを期待している。また、テレビ等をみたり新聞を読む際に、社会福祉・社会保障の動向に関心を持ち、それらの事象について複眼的視点から考えることを大切にしてほしい。

課題に対するフィードバック

講義の冒頭において回答するとともに、毎回の講義の最後に質問等の時間を設ける。ペアワークやグループワークでは適宜、そのねらいや解説を行うことにより学びを深める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 社会福祉を学ぶ意義	予習：シラバスを確認し、授業の概要などを理解しておく。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第2回	現代の地域社会における生活課題①人の多面的理解と身近な生活課題	予習：孤独・孤立対策推進法について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, C
第3回	現代の地域社会における生活課題②社会環境へのアプローチの重要性	予習：日本の相対的貧困率について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第4回	地域福祉の推進と地域共生社会	予習：ソーシャル・インクルージョンについて調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第5回	社会福祉の方法①社会資源とは	予習：住んでいる地域の社会福祉機関・施設について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, B
第6回	社会福祉の方法②社会資源の発見・活用・開発	予習：住んでいる地域の社会福祉協議会について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, B
第7回	高齢者福祉	予習：高齢化率の推移について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第8回	子ども家庭福祉	予習：児童虐待の種類について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, C
第9回	低所得者福祉	予習：生活保護制度について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第10回	障害者福祉①障害の概念	予習：障害の3種別について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, C
第11回	障害者福祉②支援の実際	予習：障害者権利条約について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, B
第12回	社会福祉の歴史の変遷と法制度	予習：福祉三法・六法について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第13回	社会福祉の実施機関	予習：福祉事務所について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第14回	社会福祉とは何か	予習：日本国憲法第13条及び第25条について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第15回	これからの社会福祉	予習：これまで学んだ授業内容を踏まえて、これからの社会福祉のあり方について考える。	A

		復習：社会福祉における「健」の役割や他の専門職との協働・連携をまとめる。	
	実施せず		

健康運動指導論

更新日：2024/03/27 11:41:41

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M294010	授業コード	2M294010
担当教員	山根 基						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3305	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
○	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者をいう。本講義・演習では、健康運動指導士資格取得をめざすために安全で効果的な運動プログラム作成に必要な知識を修得することをねらいとする。
方法	配布プリントと板書およびパワーポイントを使い授業を行う。

履修条件

健康運動指導士資格取得希望者のみ履修すること

履修する上の留意点

令和4年度入学生までは自由科目であるため卒業要件単位には含まない

到達目標

1	①水中環境および水泳・水中運動の特性について理解することができる。
2	②各関節の構造および機能を理解することができる。
3	③各年齢、性別における運動の特徴、トレーニングの効果を理解することができる。
4	④運動行動変容の理論および実際を理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート・小テスト	25
到達目標②	レポート・小テスト	25

到達目標③	レポート・小テスト	25
到達目標④	レポート・小テスト	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特に指定しない。毎回プリント(講義の参考資料)を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	健康運動指導士養成講習会テキスト(上)・(下)	南江堂	財団法人健康・体力づくり事業財団
2	健康運動実践指導者テキストー健康運動指導の手引きー	南江堂	財団法人健康・体力づくり事業財団

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

健康づくりや運動指導に役立つ多面的な知識を学び、健康社会に貢献できる人材として成長していくことを期待している。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートの内容を確認し、フィードバックを行う。

毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容を進める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題(予習・復習)の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	水中環境と運動について 水中環境の特性、水中環境圧と呼吸循環器系応答	静水圧について内容をまとめ、第1~2回の水泳・水中運動に関するレポート作成・提出に利用する。	A
第2回	水泳・水中運動について 身体浮揚力、水抵抗と身体移動速度の関係、推進力発揮の腕・脚の運動	水中歩行および各種泳法の特徴について内容をまとめ、第1~2回の水泳・水中運動に関するレポートを作成・提出する。	A
第3回	頭頸部(肩甲帯を含む)の関節運動について 頭蓋骨と脊柱の構造および動き、僧帽筋および肩甲骨周辺に付着する筋群の作用、肩甲骨と鎖骨の連動運動	頭頸部(肩甲帯を含む)の関節運動に関わる骨、筋を事前に調べ、第3~6回の各関節の構造および機能に関するレポート作成・提出に利用する。	A
第4回	上肢の関節運動について 肩・肘・手関節の構造と機能、肩・肘・手関節周辺に付着する筋群の作用	上肢の関節運動に関わる骨、筋を事前に調べ、第3~6回の各関節の構造および機能に関するレポート作成・提出に利用する。	A
第5回	脊柱と胸郭の運動について 脊柱の力学的構造、呼吸筋(肋間筋・横隔膜)の作用、胸郭と骨盤を連結させる筋群(脊柱起立筋・腹直筋・斜腹筋)、脊柱姿勢維持と腰部運動時の荷重点	脊柱と胸郭の関節運動に関わる骨、筋を事前に調べ、第3~6回の各関節の構造および機能に関するレポート作成・提出に利用する。	A
第6回	骨盤と下肢の運動について 骨盤の連結構造、股関節と下肢の体重維持機構、股関節周辺の靭帯群の構造、股関節付着の筋群の作用(腸腰筋・大殿筋・大腿四頭筋・大腿二頭筋など)、膝関節の構造と靭帯の役割	骨盤と下肢の関節運動に関わる骨、筋を事前に調べる。第3~6回の各関節の構造および機能に関するレポートを作成・提出する。	A
第7回	全身運動によるエアロビクトレーニングについて エアロビク運動の運動強度および指標、ウォーキングおよびジョギングの消費カロリー、エアロビクトレーニングの生理的効果	エアロビク運動とアナロビク運動に関する内容をまとめ、レポートを作成・提出する。	A
第8回	青少年期の成長発育とトレーニング(身長・体重発育、発育発達に関する遺伝と環境因子、発育の個人差と運動能力、急速発育期の機能と至適トレーニング量、筋力・全身持久力トレーニングのトレーニング負荷条件) 女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング(性差と性ホルモンによる運動能力、女性の身体的・機能的特徴)	スキヤモンの発育発達曲線に関する内容をまとめ、レポートを作成・提出する。	A
第9回	女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング(体力・運動能力の性差、女性のトレーニング負荷条件) 加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング(加齢に伴う身体活動と体力低下、エアロビクトレーニングの効果、生活行動変容と脚力の低下、廃用性筋委縮、立位機能と生活歩行のための筋機能トレーニング)	加齢に伴う体力低下の特徴について内容をまとめ、第9~11回の中年者の体力測定に関するレポート作成・提出に利用する。	A
第10回	中年者におけるフィールドテストの実習について 新体力テストの測定項目(筋力・筋持久力・全身持久力・柔軟性)方法	新体力テストの測定項目および測定方法について内容をまとめ、第9~11回の中年者の体力測定に関するレポート作成・提出に利用する。	A, B
第11回	中年者におけるフィールドテストの実習について 新体力テストの測定結果に対する評価法	新体力テストの測定データを入力し、整理し、中年者の体力測定に関するレポートを作成・提出する。	A, B

第12回	介護予防に関する体力測定法とその評価について 介護予防に関する体力測定法（握力・5m普通歩行テスト・開眼片脚立ち・脚伸展筋力・time up & go・5m最大歩行テスト・長座体前屈・ファンクショナルリーチなど）、測定結果の評価法	介護予防に関する体力測定法について内容をまとめ、レポートを作成・提出する。	A, B
第13回	運動行動変容の理論について レジャータイム活動の実践とライフスタイル活動の構築、行動変容により期待される効果、動機づけ理論、ヘルスポモーションにおける上・中・下流アプローチ、行動変容理論・モデル	健康運動実践のための動機づけについて内容をまとめ、第13～15回の運動行動変容に関するレポート作成・提出に利用する。	A
第14回	運動行動変容の実際について 各対象者および状況に合わせた行動変容プログラムの内容および評価法、逆戻りプロセスの認知行動モデル、個別コンサルテーションの実際	運動行動の維持や継続に関する内容についてまとめ、第13～15回の運動行動変容に関するレポート作成・提出に利用する。	A
第15回	運動行動変容の効果について 運動行動変容プログラムの開発・実践・評価（アウトカム評価・プロセス評価）	運動行動変容に関するレポートを作成・提出する。	A

運動プログラムの管理(運動療法(2)を含む。)

更新日：2024/03/27 11:41:42

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M295010	授業コード	2M295010
担当教員	今澤 正彦						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3306	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置		○	
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間		30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
○	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	生活習慣病（がん、糖尿病、高血圧、脂質異常症など）、超高齢社会を背景とした各種疾患（虚血性心疾患、変形性関節症、腰痛症など）などに関連して、運動療法実施前のメディカルチェック、服薬者に対する運動プログラム作成の基本事項などについて、主に医学の視点から解説します。
方法	講義資料およびプレゼンテーションソフトウェア（Microsoft PowerPoint）による画面に基づいて講義を行います。講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。課題への取り組みの姿勢・内容・状況等を成績評価に考慮します。

履修条件

「心身健康論」、「生活習慣病論」および「スポーツ医学(運動療法(1)を含む。)」を修得したか、履修中であることが望ましい。

履修する上の留意点

Active Portalの出欠登録のシステムを利用して出席をとります。

講義クラス内の連絡や課題の提出・フィードバック（返却等）をグループウェア（Microsoft Teams）で実施しますので、スマートフォンやタブレットばかりではなく、パソコン（大学が学生一人一人に無償貸与しているノートパソコンなど）の持参・利用を推奨します。関連するシステムに関する相談等については、「ICT運用支援」で相談してください。

到達目標

1	運動プログラム作成の基本（運動様式、継続時間、運動強度等）について知識、理解を深め、他者に説明できる。
2	健康診断や運動のためのメディカルチェックの重要性について知識、理解を深め、他者に説明できる。
3	服薬（降圧薬、糖尿病治療薬、循環器用薬等）者に対する運動プログラム作成について知識、理解を深め、他者に説明できる。
4	変形性関節症などロコモティブシンドローム合併例に対する運動プログラム作成について知識、理解を深め、他者に説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標②	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標③	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標④	課題（小テスト）・定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	健康運動指導士養成講習会テキスト	南江堂	発行 健康・体力づくり事業財団
2	健康運動実践指導者養成用テキスト	南江堂	発行 健康・体力づくり事業財団
3	特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル	文光堂	編集 佐藤祐造・川久保清・田畑泉・樋口満
4	運動療法と運動処方	文光堂	編集 佐藤祐造
5	新・スポーツ医学	嵯峨野書院	編著 藤本繁夫・大久保衛
6	図解スポーツ健康科学入門	金芳堂	編著 北條達也
7	スポーツ・健康科学概論テキスト	杏林書院	編著 森田恭光・島崎あかね
8	健康・スポーツ科学の基礎知識	道和書院	二杉茂・秋田和彦・菊本智之・津田真一郎・小林義樹・灘英世・伊藤淳・上谷聡子
9	病気がみえる シリーズ各種	メディックメディア	編集 医療情報科学研究所

オープンな教育リソース

講義の中で逐次紹介します。

学生へのメッセージ

この講義は健康運動指導士、健康運動実践指導者受験の必須科目です。
単位修得にとどまらずに、自身の将来において社会に活かされる学びとすることを望みます。
毎回の講義資料（紙媒体）の配布は各回の講義室内限りとして、課題提出メ切り後に電子版をグループウェア（Microsoft Teams）上にアップロードします。講義資料（紙媒体）の後日の再配布は行いません。

課題に対するフィードバック

講義各回で課す課題（小テスト）に取り組み、講義時限終了時刻の24時間後までに（システムで機械的にメ切り、遅延提出は受け付けません）、グループウェア（Microsoft Teams）上に設けたアンケート作成ツール（Microsoft Forms）を利用して、オンラインで提出（送信）してもらいます。メ切りまでに提出された課題に対して、教員がオンラインでフィードバック（返却・返信）します。更に、解答の内容・傾向から、必要に応じて、次回以降に総評・解説を加える場合もあります。

授業計画

授業回	学修計画	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	運動プログラム作成の基本（1） ＊運動プログラムの基本原則と運動処方 ＊運動強度：最大酸素摂取量、METs		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第2回	運動プログラム作成の基本（2） ＊有酸素運動のプログラム（運動様式、継続時間、運動強度）		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第3回	健康診断検査項目、心電図 ＊臨床検査における基準値の考え方 ＊心電図（不整脈）		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第4回	メディカルチェック ＊メディカルチェックの目的		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第5回	ロコモティブシンドロームと運動器退行性疾患に対する運動プログラム（1） ＊ロコモティブシンドロームの概念 ＊原因疾患		授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A

第6回	ロコモティブシンドロームと運動器退行性疾患に対する運動プログラム（2） *ロコモチェック *判定方法 *自宅で行う対処法	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第7回	健康づくり運動（1） *ウォームアップとクールダウンの目的と意義、指導原則 *ウォーキングのフォーム（正しい歩き方）	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第8回	健康づくり運動（2） *水泳・水中運動の利点と注意点 *レジスタンストレーニングの分類	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第9回	高血圧患者に対する運動プログラム *高血圧治療 *運動療法	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第10回	肥満に対する運動プログラム *肥満の定義と肥満症の診断	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第11回	糖尿病患者に対する運動プログラム *薬物治療を受けている糖尿病患者に対する運動療法指導上の注意点	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第12回	虚血性心疾患とリハビリテーション *狭心症と心筋梗塞 *心臓リハビリテーションのための簡便な運動強度設定法	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第13回	服薬者の運動プログラム作成上の注意点 *循環器用剤服用者に対する運動療法指導・実施上の注意点	授業内容について参考書などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第14回	まとめ（1） *第1回～第6回のまとめ	第1回～第6回の授業内容について講義資料などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
第15回	まとめ（2） *第7回～第13回のまとめ	第7回～第13回の授業内容について講義資料などで予習する。 授業内容の重要点について実施する課題（小テスト）への取り組みを通じて復習する。	A
	学生による授業評価（アンケート回答）と学修成績評価（定期試験）		

健康運動指導実習

更新日：2024/03/27 11:41:44

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M296010	授業コード	2M296010
担当教員	刑部 純平						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S3307	授業形態	実習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。
△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	本実習では、健康運動指導士または健康運動実践指導者として必要なスキルである、運動指導の実践力獲得を目指します。各種団体が提供する運動プログラムを用いた運動指導やサーキット形式での運動指導の考案と実践ができるようになることを目指し、地域社会の健康維持・増進に貢献できる人材を養成します。また、授業内で各種体力測定を実施し、自身の体力の変化を評価します。
方法	トレーニングプログラムを基に、指導者役とクライアント役に分かれ、トレーニング指導を体験します。授業の終盤に振り返りシートを配布し、トレーニング指導の自己評価、および他者評価を行い、自身のトレーニング指導を振り返ります。

履修条件

健康運動実践指導者養成課程科目の授業を履修していることが望ましい。

履修する上の留意点

健康・安全面から、トレーニングに適切な服装とシューズを用意してください。

到達目標

1	既存の運動プログラムを用いて指導できる
2	目的に応じた運動プログラムを作成できる
3	目的に応じた運動プログラムを指導できる
4	安全に配慮して運動指導ができる

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	授業態度	25
到達目標②	授業態度	25
到達目標③	成果発表	25
到達目標④	成果発表	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	健康運動実践指導者養成講習会テキスト(上)	(公財)健康・体力づくり事業財団	
2	健康運動実践指導者養成講習会テキスト(下)	(公財)健康・体力づくり事業財団	

オープンな教育リソース

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団

<https://www.health-net.or.jp/syuppan/leaflet/index.html>

厚生労働科学研究データベース

<https://mhlw-grants.niph.go.jp>

学生へのメッセージ

健康運動指導士、健康運動実践指導者として活躍ができるように実践力を高めていきましょう。

課題に対するフィードバック

授業中に巡回して、適宜指導を行います。

また、振り返りシートについて、適宜コメントをしてフィードバックをします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンスと体力測定	授業の内容、服装や成績評価に関する説明をします。 また、体力測定（新体力テスト）の実施を行います。	D
第2回	ストレッチの指導と実践① （静的ストレッチ、動的ストレッチ、パートナーストレッチ）	予習・復習として、学内外で積極的にストレッチを実践してください。	D
第3回	ストレッチの指導と実践② （ストレッチボール）	予習・復習として、学内外で積極的にストレッチを実践してください。	D
第4回	運動指導の実践① （成人を対象にした運動プログラム）	オープンな教育リソースを参考に予習・復習してください。	D
第5回	運動指導の実践② （高齢者を対象にした運動プログラム）	オープンな教育リソースを参考に予習・復習してください。	D
第6回	運動指導の実践③ （高血圧・2型糖尿病・虚血性心疾患の人を対象にした運動プログラム）	オープンな教育リソースを参考に予習・復習してください。	D
第7回	運動指導の実践④ （腰痛・変形性膝関節症の人を対象にした運動プログラム）	オープンな教育リソースを参考に予習・復習してください。	D
第8回	運動指導の実践⑤ （椅子を活用した運動プログラム）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第9回	運動指導の実践⑥ （ゴムバンド・ペットボトルを活用した運動プログラム）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第10回	運動指導の実践⑦ （サスペンションを活用した運動プログラム）	予習・復習として、学内外で積極的にレジスタンストレーニングを実践してください。	D
第11回	運動プログラムの作成と指導① （サーキット形式：自体重）	予習：第11回で使用する運動プログラムを作成してください。 第11回の学習課題の成果については、授業に取り組み姿勢（成果発表）にて評価します。	D
第12回	運動プログラムの作成と指導②	予習：第12回で使用する運動プログラムを作成し	D

	(サーキット形式：座位)	てください。 第12回の学習課題の成果については、授業に取り組む姿勢（成果発表）にて評価します。	
第13回	運動プログラムの作成と指導③ (サーキット形式：負荷抵抗あり)	予習：第13回で使用する運動プログラムを作成してください。 第13回の学習課題の成果については、授業に取り組む姿勢（成果発表）にて評価します。	D
第14回	運動プログラムの作成と指導④ (サーキット形式：スロートレーニング)	予習：第14回で使用する運動プログラムを作成してください。 第14回の学習課題の成果については、授業に取り組む姿勢（成果発表）にて評価します。	D
第15回	運動プログラムの作成と指導⑤ (サーキット形式：コグニサイズ)	予習：第15回で使用する運動プログラムを作成してください。 第15回の学習課題の成果については、授業に取り組む姿勢（成果発表）にて評価します。	D

心理学統計法Ⅰ

更新日：2024/03/27 11:41:46

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M302030	授業コード	2M302030
担当教員	木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S5101	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	人間の心を研究するには、人の心を数字に置き換え分析する能力が必要である。心理学統計法Ⅰでは数字に置き換えた人の心のデータを分析する基礎的な能力を修得するため、手元にある心のデータの特徴を示す「記述統計」と、手元にある心のデータから世間一般ではどうなっているのか推測する「推測統計」について解説を行う。そして授業では自分で計算をし演習課題を解くことで、記述統計と推測統計の考え方、分析の手順と結果の表し方、結果の解釈の仕方を学ぶ。
方法	記述統計と推測統計に関する各回の授業テーマに関して、パワーポイントを用いた授業を行う（パワーポイントを基に作成した講義資料も配布する）。事前に出題された演習課題を講義時間外に自身で取り組み、講義中の解説を聞くことで記述統計と推測統計への理解を深め、心理統計の知識と技術を修得する。 毎回の演習課題や講義資料を、定期試験の準備や講義時間外での学習のためにファイリングし保管しておくこと。

履修条件

履修者上限は、教室の座席数とする。人数を超える場合は心理・カウンセリングコースを優先する。

履修する上の留意点

講義内で各回の授業テーマに関する演習課題を出題し、提出を求める。

毎回の授業にて教科書と電卓（ノ機能付き）を持参すること（スマートフォンは不可）。

到達目標

1	各種の統計量の内容を理解し、計算によって統計量を算出できる。
2	データの種類に応じた適切な表やグラフを選択し、図表や文章で示すことができる。
3	データの種類に応じた統計方法を用いて分析し、分析結果を解釈できる。
4	統計的仮説検定の考え方を理解・説明でき、手順に沿った記述ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業態度・各演習課題への取り組み・定期試験	25
到達目標②	授業態度・各演習課題への取り組み・定期試験	25
到達目標③	授業態度・各演習課題への取り組み・定期試験	25
到達目標④	授業態度・各演習課題への取り組み・定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる心理統計	ミネルヴァ書房	山田剛史・村井潤一郎

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心理統計学の基礎	有斐閣アルマ	南風原朝和
2	数学が苦手でもわかる心理統計入門-基礎から多変量解析まで-	サイエンス社	芝田征司
3	心理統計学ワークブック-理解の確認と深化のために-	有斐閣	南風原朝和・平井洋子・杉澤 武俊
4	マンガでわかる統計学	オーム社	高橋信

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

なるべく専門用語を使わずわかりやすい表現で説明し、数学や計算が苦手でも心理統計が1つ1つ丁寧に理解できるように工夫します。心理学をより面白く学びより深く理解するためにも、心を数字に置き換えて分析するという科学的な心理学の視点とスキルを修得しておきましょう。

課題に対するフィードバック

毎回の講義冒頭部分で前回授業内容の振り返りと演習課題の解説とフィードバックを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容に入ります。

授業計画

授業回	学修計画 学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング の実施方法
第1回	ガイダンス：授業の進め方 記述統計①： 心理統計とは、データ・変数、尺度水準	予習：教科書の「プロローグ よくわからない心理統計」「I-1.心理学と数字」「I-2.心理学と記述統計」「I-3.心理学と推測統計」「II-1.データとは」「II-2.尺度水準」「II-3.尺度水準と変数変換」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第2回	記述統計②： 代表値、散布度、標準化（偏差値）	予習：教科書の「II-5.代表値」「II-6.散布度」「II-7.標準化」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第3回	データの視覚化： 度数分布表、ヒストグラム、棒グラフ、散布図、折れ線グラフ	予習：教科書の「II-4.データの図表化」「III-1.散布図」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第4回	推測統計の基礎①： 母集団と標本、正規分布、標準正規分布、標本分布	予習：教科書の「IV-1.母集団と標本」「IV-3.正規分布とその性質」「IV-4.標準正規分布」「IV-6.標本分布①」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第5回	推測統計の基礎②： 統計的仮説検定、帰無仮説・対立仮説、有意水準	予習：教科書の「V-1.統計的仮説検定の考え方」「V-2.帰無仮説と対立仮説」「V-3.有意水準」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第6回	推測統計の基礎③： 有意差・検定結果の報告、両側検定・片側検定、第1種の誤りと第2種の誤り	予習：教科書の「V-4.検定結果の報告」「V-5.両側検定と片側検定」「V-6.統計的仮説検定における2種類の誤り」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。	A

		復習：演習課題に取り組み提出する。	
第7回	2つの変数の関係①：相関係数の検定 散布図，共分散，相関係数	予習：教科書の「III-1.散布図」「III-2.共分散」「III-3.相関係数」「V-10.相関係数の検定」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第8回	2つの変数の関係②：カイ2乗検定 クロス集計，適合度の検定，独立性の検定	予習：教科書の「III-5.クロス集計表と連関係数」「V-11.カイ2乗検定①」「V-12.カイ2乗検定②」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第9回	1つの平均を比べる：t検定 標準正規分布を用いた検定，t分布を用いた検定	予習：教科書の「V-8.標準正規分布を用いた検定」「V-9.t分布を用いた検定」「VI-1.t検定による平均値の比較」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第10回	2つの平均を比べる①：t検定 独立な2群の平均値差に関するt検定	予習：教科書の「VI-2.独立な2群の平均値差に関するt検定①」「VI-3.独立な2群の平均値差に関するt検定②」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第11回	2つの平均を比べる③：t検定 対応のある2つの平均値差に関するt検定	予習：教科書の「VI-4.対応のあるt検定」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第12回	3つ以上の平均を比べる①：分散分析 1要因分散分析（被験者間計画）	予習：教科書の「VII-2.分散分析の手順（1要因被験者間計画）」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第13回	3つ以上の平均を比べる②：分散分析 1要因分散分析（被験者内計画）	予習：教科書の「VII-5.1要因被験者内計画」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第14回	3つ以上の平均を比べる③：分散分析 2要因分散分析（被験者間計画）	予習：教科書の「VII-6.2要因被験者間計画」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第15回	3つ以上の平均を比べる④：分散分析 2要因分散分析（被験者内計画）	予習：教科書の「VII-8.2要因被験者内計画①」「VII-9.2要因被験者内計画②」を読み重要だと思う箇所に線を引いておく。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
	定期試験		

心理学統計法Ⅱ

更新日：2024/03/27 11:41:47

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M303030	授業コード	2M303030
担当教員	木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S5201	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	人間の心を研究するには、人の心を数字に置き換え分析する能力が必要である。そして、人の心は様々な心の数値が複雑に関連し形作られている。心理学統計法Ⅱでは、複雑に関連するたくさんの心の数値データを分析するためのより応用的な能力を修得するため、たくさんの数値データを全体的にまたは同時に分析する方法である多変量解析について解説する。
方法	多変量解析に関する各回の授業テーマに関して、パワーポイントを用いた授業を行う（パワーポイントを基に作成した講義資料も配布する）。事前に出題された演習課題を講義時間外に自身で取り組み、講義中の解説を聞くことで多変量解析への理解を深め、心理統計の知識と技術を修得する。 毎回の演習課題や講義資料を、定期試験の準備や講義時間外での学習のためにファイリングし保管しておくこと。

履修条件

「心理学概論」、「心理学統計法」（または「心理学統計法（応用）」）、「心理学研究法」を修得しているまたは履修していることが望ましい。

履修する上の留意点

履修条件の科目について、ある程度のデータ解析や統計の知識があることを前提の講義である。

講義内で各回の授業内容に関する演習課題を出題し、提出を求める。

毎回の授業にて教科書と電卓（√機能付き）を持参すること（スマートフォンは不可）。

履修者上限は、教室の座席数とする。人数を超える場合は心理・カウンセリングコースを優先する。

到達目標

1	多変量解析のそれぞれの手法について内容を理解し、各分析の概要や分析で用いる用語の意味を説明することができる。
---	--

2	データの種類に応じた適切な表やグラフを選択し、図表や文章で示すことができる。
3	データの種類や分析の目的に応じた適切な多変量解析の手法を用いて分析し、分析結果を解釈できる。
4	多変量解析の考え方を理解・説明でき、手順に沿った記述ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価・各演習課題への取り組み・定期試験	25
到達目標②	授業内評価・各演習課題への取り組み・定期試験	25
到達目標③	授業内評価・各演習課題への取り組み・定期試験	25
到達目標④	授業内評価・各演習課題への取り組み・定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	数学が苦手でもわかる心理統計法入門-基礎から多変量解析まで-	サイエンス社	芝田征司

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心理統計学の基礎	有斐閣アルマ	南風原朝和
2	まずはこの一冊から 意味が分かる多変量解析	ベレ出版	石井俊全
3	多変量データ解析法 心理・教育・社会系のための入門	ナカニシヤ出版	足立浩平
4	マンガで分かる統計学 (回帰分析)	オーム社	高橋信
5	マンガで分かる統計学 (因子分析)	オーム社	高橋信
6	質問紙調査の手順	ナカニシヤ出版	小塩真司・西口利文

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

具体的なデータ例や多変量解析の使用場面を紹介しながら、なるべくわかりやすい表現で説明し1つ1つ丁寧に理解できるように工夫します。アンケートや心理テストを用いる研究や面接によってデータを集める研究などで、特に役立つ統計方法です。また社会に出てからも知っている役立つ場面がたくさんあります。心理学をより面白く学びより深く理解するためにも、複雑に関連するたくさんの心の数値データを分析できるスキルを修得しておきましょう。

課題に対するフィードバック

毎回の講義冒頭部分で前回授業内容の振り返りと演習課題の解説とフィードバックを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容に入ります。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス：授業の進め方 多変量解析の全体像：データの分類と分析の目的、予測、判別、データの要約	復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第2回	回帰分析①：単回帰分析 回帰分析とは、回帰直線、回帰式、回帰係数	予習：教科書の「10 回帰分析」の導入部分と「10.1 単回帰分析」の「10.1.1 回帰式」を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第3回	回帰分析②：単回帰分析 回帰式の評価、決定係数、Fによる評価、回帰係数の検定、単回帰分析の具体例	予習：教科書の「10.1 単回帰分析」の「10.1.2 回帰式の評価」を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第4回	回帰分析③：重回帰分析 重回帰分析とは、偏回帰係数、標準化回帰係数	予習：教科書の「10.2 重回帰分析」の「10.2.1 重回帰分析の結果」の「1. 標準化回帰係数」を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第5回	回帰分析④：重回帰分析 調整済み決定係数、多重共線性、重回帰分析の具体例	予習：教科書の「10.2 重回帰分析」の「10.2.1 重回帰分析の結果」の「2. 調整済み決定係数」「3. 多重共線性と変数選択」を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第6回	主成分分析①：	予習：第5回の授業後に配布した資料を読み予習を	A

	主成分分析とは、主成分負荷量、主成分得点	行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	
第7回	主成分分析②： 固有値、寄与率と累積寄与率	予習：第6回の授業後に配布した資料を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第8回	主成分分析③： 主成分分析の結果の解釈、主成分分析の具体例	予習：第7回の授業後に配布した資料を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第9回	因子分析①： 因子分析とは、共通因子・共通性と独自因子・独自性、因子負荷量	予習：教科書の「11 因子分析」の導入部分と「11.1 因子分析のタイプ」「11.2 探索的因子分析」p.166までを読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第10回	因子分析②： 因子の抽出法、因子寄与率、因子の回転、共通性の推定、寄与率と累積寄与率、固有値	予習：教科書の「11 因子分析」の「11.2.1 因子の抽出方法」「11.2.2 因子の回転」を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第11回	因子分析③： 因子分析の結果の解釈、因子得点、構造方程式モデリング	予習：教科書の「11 因子分析」の「11.2.3 因子の解釈」「11.2.4 因子得点」、「12. 構造方程式モデリング (SEM)」を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第12回	判別分析①： 線形関数による判別分析	予習：第11回の授業後に配布した資料を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第13回	判別分析②： マハラノビス距離、マハラノビス距離による判別分析	予習：第12回の授業後に配布した資料を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第14回	クラスター分析①： クラスター分析とは、クラスター間距離の測定方法、樹形図（デンドログラム）	予習：第13回の授業後に配布した資料を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
第15回	クラスター分析②： クラスター分析の手順、クラスター分析の具体例	予習：第14回の授業後に配布した資料を読み予習を行う。 復習：演習課題に取り組み提出する。	A
	定期試験		

心理学研究法

更新日：2024/03/27 11:41:49

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M304010	授業コード	2M304010	
担当教員	川島 一晃							
備考								
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	S5202	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置				
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】			授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	○	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	○	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	○	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース： 心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。		
	健康スポーツコース： 運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。		
	心理・カウンセリングコース： 「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○	
	健康科学コース： 健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。		
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	人間行動の理解を深めるために、必要な心理学の研究手法について概説し、各研究方法による研究立案の流れをシュミレートする。
方法	教科書・配布提示資料を参考とし、心理学における研究法の特徴について講義する。またグループにおいて演習課題に取り組み、実際に研究立案について演習を行う。グループでの議論、発表などから構成される演習活動における体験を素材として、本講義において学ぶ心理学研究法を使用した研究立案に関するレポートを作成する。

履修条件

心理学概論・心理学統計法1を習得している事が望ましい。

履修する上の留意点

履修条件にある講義内容についてある程度の理解があることを前提とする。履修者上限は教室の座席数とする。人数を超える場合は、心理・カウンセリングコースを優先とする。毎回の講義においてリフレクションシートを配布する。

到達目標

1	心理学における複数の実証的研究法の特徴が理解できる。
2	データを収集する際に留意すべき問題点について理解できる。
3	研究倫理および研究の遂行の際に生じるリスクについて理解できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価・チェック課題・最終課題レポート	50
到達目標②	授業内評価・チェック課題・最終課題レポート	30

到達目標③	授業内評価・チェック課題	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	心理学研究法・心を見つめる科学のまなざし	有斐閣アルマ	高野陽太郎ら

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

心理学の研究を実際に立案することで、研究法の特徴をイメージして欲しいと思います。考えて、シュミレートすることが多いですから、主体的に学ぶ姿勢が必須です。自分一人で研究を立案する最終課題レポートもありますので、各回の講義内容と演習体験を結びつける意欲的な学習を期待します。

課題に対するフィードバック

毎回の講義におけるリフレクションシートについて、次回の講義時にフィードバックを行うと同時に授業にできる限り学びに反映させる。また演習については、まとめのセッションにおける発表に対し、グループ単位でコメントを口頭でフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	C
第2回	心理学研究法 概説	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	C
第3回	研究倫理と配慮	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	C
第4回	実験法：講義と演習1 (実験法を用いた研究デザインの紹介)	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	B
第5回	実験法：講義と演習2 (実験法を用いた研究についてのグループ演習：研究計画・デザイン)	演習を振り返り、最終課題レポートに取り組みながら必要な場合は教科書等で知識を補完する。	B
第6回	実験法のまとめ	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	B
第7回	面接法：講義と演習1 (面接法を用いた研究の特徴の紹介)	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	B
第8回	面接法：講義と演習2 (面接法を用いた研究についてのグループ演習：研究計画・デザイン)	演習を振り返り、最終課題レポートに取り組みながら必要な場合は教科書等で知識を補完する。	B
第9回	面接法のまとめ	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	B
第10回	質問紙法：講義と演習1 (質問紙法を用いた研究の特徴の紹介)	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	B
第11回	質問紙法：講義と演習2 (質問紙法を用いた研究についてのグループ演習：研究計画・デザイン)	演習を振り返り、最終課題レポートに取り組みながら必要な場合は教科書等で知識を補完する。	B
第12回	質問紙法のまとめ	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	B
第13回	観察法：講義と演習1 (観察法を用いた研究の特徴の紹介)	教科書の該当箇所を読み、内容を整理する。	B
第14回	観察法：講義と演習2 (観察法を用いた研究についてのグループ演習：研究計画・デザイン)	演習を振り返り、最終課題レポートに取り組みながら必要な場合は教科書等で知識を補完する。	B
第15回	観察法のまとめと全体の総括	講義の内容を振り返り、学びを整理する。	B
	定期試験	定期試験ではなく、講義内でのチェック課題の実施、最終課題レポートは15回の最終講義時に回収します。	

発達心理学

更新日：2024/03/27 11:41:51

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M305010	授業コード	2M305010
担当教員	長岡 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S6201	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	発達過程は身体的側面と心理的側面の両面から形成されます。そのため、本講義では、胎児期から老年期にわたる各発達過程について、心理的側面の発達に付随する身体的側面の発達を含めて説明します。その上で、心と身体の要因が複合して生じてくる要因について事例をもとに提示し、一人の人間の発達がどのようになされていくのか、ということへの理解を深めます。
方法	パワーポイントとワークシートを利用して講義を行います。毎回の授業の最後には、講義内容に関する理解度チェック問題をFormsで回答してもらい、次回の講義で結果をフィードバックすることで、理解の定着を図ります。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	胎児期から老年期までの各発達段階の身体的発達の特徴を説明することができる。
2	胎児期から老年期までの各発達段階の心理的発達の特徴を説明することができる。
3	発達期に特徴的に示される心理的な症状の名称を述べるることができる。
4	発達期の事例を通して、症状が示された子どもへの接し方を述べるることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	導入課題、授業理解度チェックシートと定期試験	40
到達目標②	導入課題、授業理解度チェックシートと定期試験	20
到達目標③	導入課題、授業理解度チェックシートと定期試験	20
到達目標④	導入課題、授業理解度チェックシートと定期試験	20

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	少年期の心	中公新書	山中康裕

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

必要に応じて、授業内で紹介します。

学生へのメッセージ

青年期までの内容では今までの自分を、中年期以降の内容ではこれからの自分について、授業を通して考えることとなります。有意義な学びの時間になることを願います。

課題に対するフィードバック

授業の最後に授業理解度チェック問題に回答をしてもらいます。その後、次回の授業の最初に解説を行う形でフィードバックを行います。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス、臨床心理学的な考え方、各発達期の紹介 『少年期の心』：目次	[予習]『少年期の心』の目次に目を通す。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第2回	発達の基礎知識（発達の原理、遺伝と環境） 『少年期の心』：はじめに	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第3回	胎児期（胎児の発達、母体から胎児への影響） 『少年期の心』：犬嚙み道太の事例、遊戯療法と箱庭療法	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第4回	新生児期（生理的早産、原始反射、気質） 『少年期の心』：口無し太郎の事例、場面緘黙	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第5回	乳児期（ことばの前のことば、基本的性質、感情の発達、乳児の認識、基本的信頼感） 『少年期の心』：地獄の鬼太郎の事例、夜驚症と悪夢	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第6回	乳幼児期の母子関係（愛着） 『少年期の心』：瞳樹人君の事例、死の受容	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第7回	幼児期（自我の形成、自己中心性、遊び、しつけ） 『少年期の心』：神巫舞美子さんの事例、詩のことば	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第8回	児童期（ピアジェの理論、学びの時期、人間関係） 『少年期の心』：母恋い霧子の事例、心の病	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第9回	発達障害（自閉スペクトラム症、ADHD、LD） 『少年期の心』：文交い繭子の事例、心理療法における転移	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第10回	思春期（身体の変化、心の変化、心と身体、摂食障害、役割取得） 『少年期の心』：語り過ぎ誠の事例（前編）、心身症	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第11回	青年期（青年期の課題、アイデンティティの形成） 『少年期の心』：語り過ぎ誠の事例（中編）、父性と母性	[予習]自身のアイデンティティの確立段階について考える。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第12回	中年期（中年期の特徴、うつ病、自殺、統合失調症） 『少年期の心』：語り過ぎ誠の事例（後編）、不登校	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第13回	老年期（老年期の特徴、認知症）、ライフサイクル 『少年期の心』：最終章 不登校	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
第14回	不登校、箱庭療法	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。	A

	『少年期の心』：赤頭巾庭子の事例（前編）	む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	
第15回	『少年期の心』：赤頭巾庭子の事例（後編）	[予習]『少年期の心』の次回の授業で扱う章を読む。[復習]授業理解度チェックの質問項目についての理解を深める。	A
	定期試験		

臨床心理学概論

更新日：2024/03/27 11:41:53

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M306020	授業コード	2M306020
担当教員	廣井 いずみ						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S7201	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	臨床心理学の成り立ち、臨床心理学の理念、心理療法と心理アセスメントの基礎、及び臨床心理学の実践について学ぶ。心理的支援の実践に必須な理論を学ぶことにより、今後の心理臨床の学びの基盤部分を形作る。
方法	授業は教科書、スライド、DVD、オンライン資料、配布資料で進める。心理療法の体験的学びではグループワーク、知識の確認ではペアワークを取り入れる。毎回、予習問題を出します。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	臨床心理学の成り立ち及び理念を説明することができる。
2	心理療法の代表的理論を説明することができる。
3	心理アセスメントの種類と概要を説明することができる。
4	心理職としてクライアントに接するときの基本姿勢について説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験 予習問題	30
到達目標②	定期試験 予習問題	30
到達目標③	定期試験 予習問題	30
到達目標④	定期試験 予習問題	10

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	シリーズ心理学と仕事 臨床心理学	北大路書房	太田信夫(監修) 高橋美保・下山晴彦(編集)
2	ヒトの心がわかるフロイトの話	日本文芸社	山竹伸二(監修)
3	知の教科書 ユング	講談社選書メチエ	山中 康裕 (編)
4	臨床心理フロンティアシリーズ 認知行動療法入門	講談社	熊野宏昭・鈴木伸一・下山晴彦
5	セラピスト入門ーシステムズアプローチへの招待	日本評論社	東豊
6	高校生のための心理学	大日本図書	松井豊
7	精神分析のお話	創元社	小此木啓吾
8	臨床心理学と心理的支援を基本から学ぶ	北大路書房	日比野英子 (監修)

オープンな教育リソース

文部科学省 スクールカウンセラーの業務 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/066/shiryo/attach/1369901.htm

こころJOB 求められる心理職の役割 | リエゾンチームの心理士として <https://cocoro-job.jp/psychologist/1700/>

大野裕の認知行動療法活用サイト こころのスキルアップ・トレーニング 動画「認知療法、認知行動療法について」 <https://www.cbtpj.net/ability/Movie.html>

学生へのメッセージ

毎回、予習課題を出し、成績に加えます。

課題に対するフィードバック

毎回の授業の振り返りは、授業終わりに振り返り問題を解いて確認し、次回の授業で、前回授業の振り返りを全体に向けて行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション 臨床心理学の歴史	【予習】 シラバスに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第2回	臨床心理学の定義・理念・体系（生物ー心理ー社会モデル）	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第3回	心理アセスメントとは 心理アセスメントに有用な情報（参考書8）	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第4回	心理アセスメントの諸技法 心理検査の種類(参考書8)	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	C
第5回	精神分析的アプローチ	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第6回	行動論・認知的アプローチ 講義とDVDで学ぶ。	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第7回	ヒューマニスティック・アプローチ 秘密保持の必要性和意義（参考書8）	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第8回	日本生まれのセラピー ナラティブアプローチ 心理的支援の適応と限界（参考書8）	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第9回	システミック・アプローチ 講義とDVDで学ぶ	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第10回	グループ・アプローチ 講義、DVD、体験学習で学ぶ	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	B
第11回	コミュニティ・アプローチ	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第12回	非言語的アプローチ ユング心理学 集合無意識 物語性（参考書3） 講義、DVD、体験学習で学ぶ	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	A
第13回	事例研究 グループワークで行なう	【予習】 授業スライドに目をとおす。 【復習】 授業の振り返りの見直し	B

第14回	学校・教育領域の仕事（参考書1） 思春期から青年期の心と心の迷い（参考書8）	【予習】授業スライドに目をおす。 【復習】授業の振り返りの見直し	A
第15回	医療・保健領域の仕事（参考書1） 講義とDVDで学ぶ	【予習】授業スライドに目をおす。 【復習】授業の振り返りの見直し	A
	定期試験		

比較心理学

更新日：2024/03/27 11:41:55

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M307210	授業コード	2M307210
担当教員	富田 健太						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S6202	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	ヒトゲノム計画によって遺伝情報が解明されてきたが、それだけで一義的に人間の行動を把握できるわけではない。心理・行動を理解するには、その進化の過程を捉えることが求められる。心の仕組みを捉えるためには、その機構（近至要因）や機能（究極要因）、発現の過程（発達要因）や歴史（進化要因）を見出すが必要になる。比較心理学は人間や動物の行動に関する研究知見を参照しながら心の進化のありかたを探究する学問であり、近年は進化心理学に包括される領域である。本科目では、比較心理学/進化心理学の問題設定や方法論を踏まえた上で、行動の発現や脳の進化、社会行動や性行動や文化行動などを取り扱う。
方法	教科書や資料を参照しながら、コンピュータ・プレゼンテーションによる講義形式で授業を進める。随時ミニレポートの提出を求める。

履修条件

「心理学概論」「行動科学概論」を単位修得していることが望ましい。

履修する上の留意点

ミニレポートの期限内提出を遵守すること（未提出は減点となり単位取得の支障になる）。

到達目標

1	比較心理学/進化心理学の問題設定や方法論を説明できる
2	行動の発現や遺伝の仕組みについて説明できる
3	人類の進化と脳について説明できる
4	社会行動や性行動や文化行動の進化について論考できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ミニレポート・期末レポート	20
到達目標②	ミニレポート・期末レポート	20

到達目標③	ミニレポート・期末レポート	20
到達目標④	ミニレポート・期末レポート	40
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	進化と人間行動 第2版	東京大学出版会	長谷川寿一・長谷川真理子・大槻久

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心と行動の進化を探る—人間行動進化学入門	朝倉書店	五百部裕・小田亮

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

毎回出席が基本である。理解の妨げとなるので遅刻欠席は慎むこと。真摯な姿勢で能動的に学修し課題提出を遵守すること。私語等の迷惑行為を厳禁する。

課題に対するフィードバック

授業内で随時講評する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	イントロダクション	教科書の構成や授業計画を確認し、本科目を学ぶ意義を考察する	A
第2回	比較心理学の問題設定	教科書の第1章を読み重要事項を確認する／人間の本性の探求について考察する	
第3回	比較心理学の方法論	教科書の第2章を読み重要事項を確認する／古典的な進化学について考察する	
第4回	発達心理学と比較行動学	教科書の第12章を読み重要事項を確認する／ヒトの心の進化へのアプローチについて考察する	A
第5回	氏か育ちか：遺伝の仕組み	教科書の第3章を読み重要事項を確認する／現代の分子進化学について考察する	
第6回	氏か育ちか：行動の遺伝と個体差	教科書の第4章を読み重要事項を確認する／種の保存の誤りについて考察する	
第7回	脳の進化：系統発生	教科書の第5章を読み重要事項を確認する／霊長類の進化について考察する	A
第8回	脳の進化：人類の進化	教科書の第6章を読み重要事項を確認する／人類の進化について考察する	
第9回	社会的知能：社会的知能の進化	教科書の第7章を読み重要事項を確認する／ヒトの生活史戦略について考察する	
第10回	社会的知能：霊長類の社会と進化	教科書の第8章を読み重要事項を確認する／血縁淘汰と家族について考察する	A
第11回	社会的知能：利他行動の進化	教科書の第9章を読み重要事項を確認する／血縁によらない協利行動の進化について考察する	
第12回	進化と性行動	教科書の第10章を読み重要事項を確認する／雄と雌（性淘汰の理論）について考察する	
第13回	進化と性戦略	教科書の第11章を読み重要事項を確認する／ヒトにおける性淘汰について考察する	A
第14回	道具使用と文化	教科書の第13章を読み重要事項を確認する／ヒトにおける文化の重要性について考察する	
第15回	総括	全体を振り返って総合的に考察する。	A

青年心理学

更新日：2024/03/27 11:41:57

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M308010	授業コード	2M308010
担当教員	廣井 いずみ						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S7302	授業形態	講義		実務経験のある教員による授業科目の配置		
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○	

授業概要

内容	青年期をどのような視点から捉えるのか枠組を理解した上で、自己意識やアイデンティティなど内面の変化、両親や友人との関係、学校や社会との関係など環境との関わり合いの変化について学び、青年期の抱える課題について考える。
方法	教科書、スライド提示により授業を行う。振り返り課題により、知識の定着を図る。青年期に関わりのある小説を読むことで、青年期に関する自分なりの考えをまとめる。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	青年期をどのような視点から見ると説明できる。
2	青年期の発達の側面について、身体的、知的、心理的側面から説明できる。
3	青年期の家族、友人、異性との関係性の特徴について説明できる。
4	青年期の社会との関係で課題となることを挙げて、説明できる。
5	青年期の不適応について、具体例を挙げて、その背景因と対策について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	10
到達目標②	定期試験 レポート 発表	30
到達目標③	定期試験 レポート 発表	30
到達目標④	定期試験	20

到達目標⑤	定期試験	10
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	エピソードでつかむ青年心理学	ミネルヴァ書房	大野久(編著)

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	レクチャー青年心理学 学んでほしい・教えてほしい青年心理学の15のテーマ	風間書房	高坂康雅ほか
2	よくわかる青年心理学 第2版	ミネルヴァ書房	白井利明(編)
3	新版 やさしい青年心理学	有斐閣	白井利明・都筑学・森陽子
4	ガイド	全国学校図書館協議会	小川 洋子

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

授業の第1回目と第15回目で、「青年期とはどのような時期だと思いますか」と問いかけます。そのつもりで知識を蓄え、考えを深めて下さい。教科書は授業で必ず使いますので、購入して下さい。

課題に対するフィードバック

毎回、振り返り課題を行い、答合わせをする。翌授業回で、授業の振り返りを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題(予習・復習)の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 序章：青年期を理解する 青年期とはどのような時期なのか、文章化する。ペアで意見交換する。	【予習】青年期について考えをまとめておく。 【復習】振り返り課題の見直し	C
第2回	青年期と青年心理学 青年期とは、いつを指すのか 一生の中の青年期 青年心理学は青年期をどうみるのか	【予習】授業スライドを見ておく。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第3回	身体発達の特徴 身体とジェンダー(教科書序-3) 青年期に起こる身体的変化、ボディイメージ、性役割、性別分業意識について考える。	【予習】教科書の該当章に目をとおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第4回	青年期の思考と感情(教科書序4~8) 青年期の思考の特徴を概括し、道徳性、信頼感と不信感、自律性と恥、主導権と罪悪感、生産性と劣等感について考える。	【予習】教科書の該当章に目をとおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第5回	自己意識の形成(参考書1) 自己意識について体験的に考える。理想自己と現実自己とは何かを学び、自己受容について考えてみる。	【予習】授業スライドに目をとおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第6回	青年期のアイデンティティの発達(教科書第1章) アイデンティティとは何か、アイデンティティの実感としての充実感とは何かを学ぶ。実生活とアイデンティの関わりについて考える。	【予習】教科書の該当章に目をとおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第7回	青年期の親子関係(教科書第III章) 現代青年の親子関係、依存と自立の葛藤、愛着、親子関係の発達の变化などについて考える。	【予習】教科書の該当章に目をとおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第8回	青年期の友人関係(教科書第IV章) 友達とのつきあい方、友人グループの発達の变化、友人関係と孤独感、友人関係の負の側面などについて考える。	【予習】教科書の該当章に目をとおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第9回	青年期の恋愛の発達(教科書第II章) 恋愛様相モデル、恋愛関係が青年期に及ぼす影響、愛の本質的特徴について考える。	【予習】教科書の該当章に目をとおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A

第10回	青年期と学校（教科書第V章） 同世代との関係、異世代との関係、モラトリアムをどのように生きるのか。 学校移行に伴う不適応、学業的自己疎外感、教師・生徒関係について考える。	【予習】教科書の該当章に目をおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第11回	青年期と地域、社会（教科書第VI-9） ボランティア活動、課外活動、アルバイトが青年期に及ぼす影響 地域とのかかわりと発達	【予習】教科書の該当章に目をおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第12回	社会に出て行くということ 青年のキャリア発達（教科書第VI章） 職業観・労働観、意志決定、進路未決定、学校から職場への移行	【予習】教科書の該当章に目をおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第13回	青年期の不適応、生徒指導（教科書第V章） ひきこもり、抑うつ、リスク行動、無気力状態の理解と青年期の カウンセリング	【予習】教科書の該当章に目をおす。 【復習】振り返り課題の見直し	A
第14回	青年期について、小説から学ぶ① 小説をもとに、青年期について考える。グループでディスカッションをして意見をまとめる。	【予習】振り返り課題の見直し 【復習】パワーポイントを完成させる。	B
第15回	青年期について、小説から学ぶ② グループで発表する。	【予習】発表の準備をする。 【復習】青年期について、改めて考え、文章化する。	B
	定期試験		

障害者・障害児心理学

更新日：2024/03/27 11:41:59

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M309010	授業コード	2M309010
担当教員	土屋 満知						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S7301	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	授業では障害のある子どもや大人の心理学全般を取り上げるが、特に身体障害、知的障害、精神障害、発達障害について理解を深める。さらに、障害者（児）の心理社会的課題および必要な対応方法について考え、「障害」への心理学的支援を学ぶ。
方法	指定した教科書を用い、パワーポイントを使って講義を行う。必要に応じて映像資料を活用する。講義資料を事前に Teams に掲載するので、授業前までに確認しておくこと。 毎回の講義で授業内容を振り返り、「リアクションペーパー」や「小テスト問題（1問）、回答、問題に対する解説」の作成を求める。作成してもらった小テスト問題は、実際の小テスト問題の一部として採用し、出題する。最終回の第15回目は、これまでの授業内容を振り返り、受講者が「確認テスト」を作成するグループワークを行う。授業内でその問題に取り組むとともに、問題の解説は受講生が行い、授業担当者は必要に応じて補足説明をする。

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

- 令和2（2020）年度以降の入学者で、公認心理師の受験資格を得ることを目指す学生は履修が必要となる。
- 第1回授業時にオリエンテーションを行う。受講者は必ず出席すること。
- 身体・知的・精神障害の各障害についての授業回が終わった翌週に小テストで理解度を確認し、フィードバックを行うため、復習等の準備を行う必要がある。

到達目標

1	身体障害、知的障害及び精神障害の概要について説明できる。
2	障害者・障害児の心理社会的課題について理解し、必要な支援を考えることができる。
3	毎回の授業内容の核となる事柄について、適切にリアクションができること、適切な小テスト問題や解説を考えられること。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト、確認テスト	35
到達目標②	小テスト、確認テスト	35
到達目標③	リアクションペーパーや小テスト問題・解説の内容充実度	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	障害者・障害児心理学	遠見書房	野島一彦・繁柘算男（監修）

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	自閉症の僕が跳びはねる理由	角川文庫	東田直樹
2	重症児ガール ママとピョンちゃんのきのう きょう あした	ぶどう社	福満美穂子

オープンな教育リソース

重度障がい者夫婦が結婚、出産、子育て「ふつうのままで～ある障がい者夫婦の日常～」

<https://youtu.be/Be1v-ei6ioE>

学生へのメッセージ

当事者である講師をゲストスピーカーとしてお招きする予定である。学びを深める機会としてほしい。

課題に対するフィードバック

ルーブリックに基づいてリアクションペーパーを評価する。リアクションペーパーなどで寄せられた質問や意見については、授業内でフィードバックを行う。小テストについては、実施後に解説を行い、採点して後日返却を行う形で、フィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（授業の進め方と授業計画） 障害とは？	〔予習〕 シラバスを読んでくる。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第2回	障害者・障害児心理学とは何か	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第3回	身体障害（1） 身体障害の概要	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第4回	身体障害（2） 身体障害を取り巻く心理社会的課題	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第5回	障害と支援 ・当事者の視点から障害とその支援について考える （ゲストスピーカーによる講義を予定）	〔予習〕 当事者の講師に質問したいことを考えてくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A,B
第6回	身体障害（3） 身体障害への必要な支援	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第7回	知的障害（1） 知的障害の概要 （第2回～第6回：身体障害についての小テスト実施と解説）	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 実施した小テスト内容を振り返り、教科書を用いて復習を行う。また、授業内容を振り返り、次回の「小テスト」に備える。	A
第8回	知的障害（2） 知的障害を取り巻く心理社会的課題	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。	A

		〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	
第9回	知的障害（3） 知的障害への必要な支援	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第10回	精神障害（1） 精神障害の概要 （第7回～第9回：知的障害についての小テスト実施と解説）	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 実施した小テスト内容を振り返り、教科書を用いて復習を行う。また、授業内容を振り返り、次の「小テスト」に備える。	A
第11回	精神障害（2） 精神障害を取り巻く心理社会的課題	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第12回	精神障害（3） 精神障害への必要な支援	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第13回	発達障害（1） 発達障害の概要 （第10回～第12回：精神障害についての小テスト実施と解説）	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 実施した小テスト内容を振り返り、教科書を用いて復習を行う。	A
第14回	発達障害（2） 発達障害を取り巻く心理社会的課題と必要な支援	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「確認テスト」に備える。	A
第15回	まとめと振り返り これまでの授業内容から確認テストを作成し、取り組む	〔予習〕 これまでの授業内容を振り返り、確認テストの内容を考えてくる。 〔復習〕 これまでの授業内容を振り返り、確認テストに取り組む。	A,B

福祉心理学

更新日：2024/03/27 11:42:00

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M310010	授業コード	2M310010
担当教員	山崎 康一郎						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S7306	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	社会福祉分野と臨床心理学は密接なかわりがあり、本講義では社会福祉分野における心理学的支援が必要な課題、支援方法、福祉関連職種との連携について学修します。特に障害児・障害者福祉分野、児童・家庭福祉分野における心理的な支援実践について取り上げます。社会福祉分野においても活かすことのできるような臨床心理学の視点を身につけてください。
方法	スライド、レジュメを用いて講義を行います。また、事例を用いたり、体験的な学習によって実践的に学んでいきます。

履修条件

履修する上の留意点

体験的な学習等を取り入れますので、積極的な参加が求められます。体験的な学習においてはある程度の自己開示が求められることがあります。また、節度ある受講態度で臨んでください。

到達目標

1	福祉領域における問題とその背景について心理的な側面から説明できる。
2	福祉領域における問題に対する支援について心理的な側面から説明できる。
3	福祉分野で求められる支援において、支援対象者のニーズを見立て、多職種連携による支援方法を提示できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内小レポート	20
到達目標②	試験	50
到達目標③	レポート	30

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	アタッチメント—生涯にわたる絆	ミネルヴァ書房	数井 みゆき, 遠藤 利彦
2	アタッチメント 子ども虐待・トラウマ・対象喪失・社会的養護をめぐる	明石書店	庄司順一 奥山真紀子 久保田まり
3	遊戯療法	岩崎学術出版社	V.M.アクスライン
4	社会的養護における生活臨床と心理臨床	福村出版	増沢高 青木紀久代
5	虐待を受けた子どもの回復と育ちを支える援助	福村出版	増沢高
6	児童養護施設の心理臨床	日本評論社	内海新祐
7	放課後等デイサービスハンドブック	かがわ出版	障害のある子どもの放課後保障全国連絡会

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

自分自身の理解を深めて、支援を必要とする人や社会をよりよく理解できるようにしてください。

課題に対するフィードバック

小レポート、レポートについては、事前に提供されるルーブリックに基づいて評価します。評価のポイントにつきましては初回授業で提示します。小レポート、レポートについては、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 福祉分野における心理的支援の概説	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。また、関連する内容について調べ、理解を深めてください。	A
第2回	福祉分野における心理臨床の枠組み	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。また、関連する内容について調べ、理解を深めてください。	A
第3回	福祉分野における多職種、他機関連携	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。また、関連する内容について調べ、理解を深めてください。	A
第4回	障害者福祉分野における理念や諸制度の理解	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。また、関連する内容について調べ、理解を深めてください。	A
第5回	障害者福祉分野における心理的問題の理解	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。また、関連する内容について調べ、理解を深めてください。	A
第6回	障害者福祉分野における支援の理解① アセスメント	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。 配布事例について、講義内容を踏まえて検討し、まとめてください。	A
第7回	障害者福祉分野における支援の理解② 個別支援計画	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。 配布事例について、講義内容を踏まえて検討し、まとめてください。	A
第8回	児童・家庭福祉分野における諸制度及び心理的問題の理解	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。	B
第9回	児童虐待の状況	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。 配布事例について、講義内容を踏まえて検討し、まとめてください。	A
第10回	児童虐待の理解① アタッチメント形成の問題、誤学習の理解	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。	A

		配布事例について、講義内容を踏まえて検討し、まとめてください。	
第11回	児童虐待の理解② PTSD、感情調節困難の理解	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。 配布事例について、講義内容を踏まえて検討し、まとめてください。	A
第12回	児童虐待への対応① ト라우マインフォームドケアの理解	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。 配布事例について、講義内容を踏まえて検討し、まとめてください。	A
第13回	児童虐待への対応② 社会的養護における支援、生活の中の治療、被虐待児への心理療法、家族への支援	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。また、関連する内容について調べ、理解を深めてください。	B
第14回	DVの理解と心理的支援 高齢者福祉分野における心理的支援	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。また、関連する内容について調べ、理解を深めてください。	A
第15回	まとめと事例検討	配布資料を用いて復習するとともに、内容を簡潔にまとめてください。また、関連する内容について調べ、理解を深めてください。	
	定期試験		

教育・学校心理学

更新日：2024/03/27 11:42:03

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M311030	授業コード	2M311030
担当教員	土屋 満知						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S7203	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	学校では、不登校、いじめ、発達障害、虐待など、特別な配慮や支援を必要とする子ども達が少なくない。本講義では教育分野における心理職として、スクールカウンセラーの活動を中心に、学校における子ども達を支えるための相談システムづくり、子どもの心身の状態についての適切な理解と支援の仕方、学級集団や保護者へのアプローチの仕方などを概説する。複雑、多様化する教育現場における心理臨床活動について、具体的な事例にも触れながら、現在の学校が抱える心の問題とその背景、必要な支援について理解を深めていく。
方法	教科書は指定せず、配布資料とパワーポイントを用いて講義を行う。必要に応じて映像資料を活用する。講義資料を事前に Teams に掲載するので、授業前までに確認しておくこと。 毎回の講義では、リアクションペーパーの提出を求める。

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

- (1) 第1回授業時にオリエンテーションを行う。受講者は必ず出席すること。
- (2) 令和2(2020)年度以降の入学者で、公認心理師の受験資格を得ることを目指す学生は履修が必要となる。
- (3) 授業の前半と後半で、小テストを行って理解度を確認し、フィードバックするため、復習等の準備を行う必要がある。

到達目標

1	学校という場の特徴と学校心理臨床の特徴を理解し、教育現場において生じる問題及びその背景を説明できる。
2	教育現場において生じている心理社会的問題及びその支援について説明できる。
3	毎回の授業内容の核となる事柄について、適切にリアクションができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト	30
到達目標②	小テスト・レポート	40
到達目標③	リアクションペーパーの内容充実度	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。適宜、授業内で資料を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	教室の悪魔	ポプラ社	山脇由貴子
2	いじめのある世界に生きる君たちへ：いじめられっ子だった精神科医の贈る言葉	中央公論新社	中井久夫
3	かがみの孤城	ポプラ社	辻村美月
4	自閉症の僕が跳びはねる理由	角川出版	東田直樹
5	兎の眼	角川出版（角川つばさ文庫）	灰谷健次郎

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

授業で取り上げる不登校、いじめ、発達障害など、学校で特別な配慮や支援を必要とする子どもたちについて、普段から新聞、テレビ、書籍、インターネット、youtubeなどの動画サイトで、関連する事柄を積極的に調べ、普段から問題意識を持つことを望みます。

課題に対するフィードバック

ルーブリックに基づいてレポートを評価する。リアクションペーパーなどで寄せられた質問や意見については、授業内でフィードバックを行う。小テストについては、実施後に解説を行い、フィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション ・授業計画と進め方 スクールカウンセラー事業のあらましと活用の歴史	〔予習〕 シラバスを読んでくる。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第2回	スクールカウンセリングの実際(1)子どもとの関わり ・児童・生徒と面接するということ ・スクールカウンセラーのスタンス	〔予習〕 スクールカウンセラーは、学校でどのような仕事をしているか、幅広い視点から調べてみる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第3回	スクールカウンセリングの実際(2)保護者との関わり ・保護者と会う時の心構えと基本的姿勢 ・子どもについての見立てや見通しを保護者と共有する時の関わり方、タイミング	〔予習〕 スクールカウンセリングの場で、カウンセラーと保護者との関わりに関する事前配布資料を読んでくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第4回	スクールカウンセリングの実際(3)教員・外部機関との連携 ・教員へのコンサルテーション ・養護教諭、担任との連携 ・医療機関等の外部機関との連携	〔予習〕 心理臨床の場合における「コンサルテーション」と「連携」というキーワードについて、事前に調べてくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第5回	スクールカウンセリングの実際(4) ・学校でスクールカウンセラーに期待されること (スクールカウンセリングの実際について、グループワークを行う)	〔予習〕 Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A,B
第6回	児童・生徒の不応症症状 (1) 不登校	〔予習〕 授業教材となる小説「かがみの孤城」 (Te	A

	・不登校とその背景、心理社会的課題 (第1回～第5回授業「スクールカウンセリングの実際」について小テスト実施)	amsに掲載予定)に事前に目を通す。 〔復習〕実施した小テスト内容を振り返り、復習を行う。また、授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	
第7回	児童・生徒の不応症(1)不登校 ・不登校児童・生徒への具体的対応・支援について、グループで考える。	〔予習〕不登校に対し、どのような支援が行われているのか幅広い視点から調べてみる。Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A,B
第8回	児童・生徒の不応症(1)不登校 ・不登校に対応する際の留意点 ・学校に必要な支援と配慮	〔予習〕不登校への支援について、どのような点に留意する必要があるか調べてみる。Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第9回	児童・生徒の不応症(2)自閉スペクトラム症 ・自閉スペクトラム症の特徴について	〔予習〕自閉スペクトラム症の特徴について事前に調べてくる。Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第10回	児童・生徒の不応症(2)自閉スペクトラム症 ・映像資料(DVD)の視聴 ・映像資料も基にして、自閉スペクトラム症への対応・支援を考える	〔予習〕自閉スペクトラム症にどのように対応するとよいか考えてみる。Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第11回	児童・生徒の不応症(2)自閉スペクトラム症 ・環境調整 ・学校に必要な支援と配慮	〔予習〕前回のDVDの内容を振り返り、学校で自閉スペクトラム症の児童・生徒にどのような支援が必要か考えてみる。Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第12回	児童・生徒の不応症(3)いじめ ・いじめの実態 ・いじめ問題の要因と解決の難しさ	〔予習〕学校でいじめが起こる原因を考えてみる。Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第13回	児童・生徒の不応症(3)いじめ ・いじめの分類と見立て ・いじめへの対応と学校に必要な支援と配慮	〔予習〕いじめについて、どのような支援や対応が行われているか、幅広い視点から調べてみる。Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第14回	児童・生徒の不応症(4) ・改めてスクールカウンセラーの対応と支援についてグループワーク形式で考える。	〔予習〕第6回～第13回までの授業を振り返り、児童・生徒の不応症について、重要なポイントを考えてみる。Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A,B
第15回	まとめと振り返り、質疑応答 (まとめの小テスト実施)	〔予習〕これまでの授業内容を振り返り、小テストに備える。 〔復習〕小テスト結果と授業内での解説内容を各自で振り返る。	

人間関係論

更新日：2024/03/27 11:42:05

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M312010	授業コード	2M312010
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1302	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	人は自分一人だけでは生きられず、他者と関わりながら生きています。日常では、他者と相互に援助、協力することで一人では成しえなかったことができるようになる一方で、他者との関係に悩まされ、ストレスを感じることも多々あります。この授業では、社会心理学や臨床心理学、これらの周辺領域に関わる知識・理論を踏まえて人間関係について理解を深めていきます。
方法	配布資料による講義、毎回異なるテーマによる人間関係に関するワークによって授業を進め、理解度を確認します。

履修条件

なし

履修する上の留意点

・講義授業ですが、適宜ディスカッション、個人やグループでのワークも行います。

到達目標

1	自己と他者といった人間、コミュニケーション、集団・組織の特徴について説明できる。
2	人間関係についてのディスカッション、ワークにおいて他者と協調し、理解を深めることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	各回の振り返り課題・レポート	60
到達目標②	授業内でのディスカッション、ワークへの参加状況	40
到達目標③		
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論	南山堂	山蔦圭輔・本田周二

オープンな教育リソース

必要に応じて、授業内で紹介します。

学生へのメッセージ

積極的な授業参加を期待します。

課題に対するフィードバック

各回の振り返り課題についてのフィードバックは、次回の授業において実施する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業ガイダンス、人間関係とは	予習：身近にある人間関係に関わる問題を調べ、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第2回	対人認知	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第3回	パーソナリティ	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第4回	コミュニケーションとチャネル	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第5回	感情	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第6回	葛藤、欲求不満、防衛機制	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第7回	ストレスとストレスコーピング	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第8回	援助行動・援助要請、社会的スキル	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第9回	交流分析、マインドフルネス	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第10回	カウンセリング的アプローチと人間関係	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第11回	動機づけと人間関係	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる	B

		復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	
第12回	リーダーシップとチーム	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第13回	コーチング	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第14回	集団の特徴	予習：今回の学修内容について調べ、日常例を考え、まとめる 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、振り返り課題を行う	B
第15回	授業の振り返りとまとめ	予習：これまでの学修内容について配布資料を確認しておく 復習：授業・配布資料の振り返りを行い、総まとめを行う	B

精神疾患とその治療

更新日：2024/03/27 11:42:07

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M314510	授業コード	2M314510
担当教員	土屋 満知						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S7202	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	公認心理師に必要とされる代表的な精神疾患について、その成因、症状や治療法を学ぶ。また、公認心理師としてどのような場合に医療機関との連携が必要であるかについても考え、抗精神病薬をはじめとする薬物療法による心身の変化についても理解を深める。
方法	配布資料とパワーポイントを用いて講義を行う。必要に応じて映像資料を活用する。講義資料を事前に Teams に掲載するので、授業前までに確認しておくこと。 毎回の講義で授業内容を振り返り、「リアクションペーパー」や「小テスト問題（1問）、回答、問題に対する解説」の作成を求める。作成してもらった小テスト問題は、実際的小テスト問題の一部として採用し、出題する。最終回の第15回目は、これまでの授業内容を振り返り、受講者が「確認テスト」を作成するグループワークを行う。授業内でその問題に取り組むとともに、問題の解説は受講生が行い、授業担当者は必要に応じて補足説明をする。

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

- (1) 第1回授業時にオリエンテーションを行う。受講者は必ず出席すること。
- (2) 令和2（2020）年度以降の入学で、公認心理師の受験資格を得ることを目指す学生は履修が必要となる。
- (3) 授業内容について、定期的小テストで理解度を確認し、フィードバックするため、復習等の準備を行う必要がある。

到達目標

1	代表的な精神疾患について成因、症状、治療法を支援の視点から説明できる。
2	どのような場合に医療機関への紹介が必要か説明でき、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について理解できる。
3	毎回の授業内容の核となる事柄について、適切にリアクションができること、適切な小テスト問題や解説を考えられること。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	小テスト・確認テスト	35
到達目標②	小テスト・確認テスト	35
到達目標③	リアクションペーパーの内容充実度	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	症例でわかる精神病理学	誠信書房	松本卓也（著）
2	DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引	医学書院	米国精神医学会（APA）、高橋三郎・大野裕（監訳）
3	居るのはつらいよ：ケアとセラピーについての覚書	医学書院	東畑開人（著）
4	心理のための精神医学概論	ナカニシヤ出版	沼初枝(著)

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

長い精神科臨床とそれに基づく研究を展開している講師をゲストスピーカーとしてお招きする予定である。学びを深める機会としてほしい。

課題に対するフィードバック

ルーブリックに基づいてリアクションペーパーを評価する。リアクションペーパーなどで寄せられた質問や意見については、授業内でフィードバックを行う。小テストについては、実施後に解説を行い、採点して後日返却を行う形で、フィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（今後の授業の進め方と授業計画） ・精神の正常と異常とは？	〔予習〕 シラバスを読んでくる。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーとしてまとめ、提出する。	A
第2回	精神症状とは何か 様々な精神疾患の分類 3つの病態水準という考え方	〔予習〕 Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第3回	精神病水準の病態：統合失調症 ・DVD「シミュレーションによる精神科患者インタビュー：統合失調症」視聴。 ・DVD視聴を通して、統合失調症の特徴と経過について学ぶ。	〔予習〕 Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第4回	精神病水準の病態：躁うつ病（双極性障害） ・DVD「シミュレーションによる精神科患者インタビュー：双極Ⅰ型障害」視聴。 ・DVD視聴を通して、双極性障害の特徴と経過について学ぶ。	〔予習〕 Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第5回	神経症水準の病態：不安症群 ・DVD「シミュレーションによる精神科患者インタビュー：パニック発作を伴う広場恐怖症」視聴。 ・DVD視聴を通して、パニック障害、広場恐怖症の特徴と経過について学ぶ。	〔予習〕 Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第6回	パーソナリティ障害水準の病態：パーソナリティ障害（1） ・A群パーソナリティ障害 ・B群パーソナリティ障害 ・C群パーソナリティ障害 （第2回～第5回授業についての「小テスト」実施）	〔予習〕 Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 実施した小テスト内容を振り返り、授業資料等を用いて復習を行う。また、授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーにまとめ、提出する。	A
第7回	パーソナリティ障害（2） ・映画「危険な情事」を視聴。 ・映画を通して境界性パーソナリティ障害の特徴を掴む。	〔予習〕 境界性パーソナリティ障害について、どんなことでも良いので、次回講義までに調べておく。 Teams に掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕 映画を見て感じたこと、考えたことをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	A
第8回	パーソナリティ障害（3） 映画の内容を踏まえて、境界性パーソナリティの特徴について学ぶ。	〔予習〕：前回の映画の内容を踏まえて、境界性パーソナリティ障害について、考えたことをまとめてくる。Teams に掲載する講義資料に目を通す。	A,B

		〔復習〕：授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーにまとめ、提出する。	
第9回	パーソナリティ障害の治療 境界性パーソナリティ障害の事例を通して、治療について理解する。 (ゲストスピーカーによる講義を予定)	〔予習〕視聴した映画の主人公(境界性パーソナリティ障害)のような人に出会ったら、どのような対応をすればよいかを考えてくる。Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容について、理解できたことや疑問点等をリアクションペーパーにまとめ、提出する。	A
第10回	神経発達症群 ・発達障害とは何か ・自閉スペクトラム症の特徴とその対応	〔予習〕Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第11回	認知症 ・認知症の症状 ・認知症への理解とその対応	〔予習〕Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第12回	性に関連する障害 ・性別違和、同性愛、LGBT、トランスジェンダー ・性別違和の症状と治療 (第10回・11回授業についての「小テスト」実施)	〔予習〕Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕実施した小テスト内容を振り返り、授業資料等を用いて復習を行う。また、授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第13回	物質関連性障害(依存症) ・中毒と依存症の違い ・代表的な依存性物質 ・人間の習慣と依存症 ・依存症の治療	〔予習〕Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕授業内容を振り返り、「小テスト」に備える。	A
第14回	精神疾患の治療 ・入院治療と通院治療。医療機関との連携。 ・薬物療法と向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 ・精神科ディケア (第12回～14回授業についての「小テスト」実施)	〔予習〕Teamsに掲載する講義資料に目を通す。 〔復習〕実施した小テスト内容を振り返り、授業資料等を用いて復習を行う。また、授業内容について振り返り、「確認テスト」に備える。	A
第15回	まとめと振り返り これまでの授業内容から確認テストを作成し、取り組む	〔予習〕これまでの授業内容を振り返り、確認テストの問題について考えてくる。 〔復習〕これまでの授業内容を振り返り、確認テストに取り組む。	A,B

心理学実験Ⅰ

更新日：2024/03/27 11:42:09

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M315030	授業コード	2M315030
担当教員	木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S5204	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	人間の心を科学的に研究する方法の1つである心理学実験法を、実習を通して学ぶ。授業では人間の感覚・知覚、認知、学習・記憶に関して行われてきた過去研究の中から、代表的な実験課題をピックアップする。各授業では各実験課題の背景となる心理学の分野について概説するとともに、関連する過去研究についての講義を行う。次に各実験課題の実験計画を作成・実施し、データの収集・分析を行う。最後に得られた実験結果を実験レポートとしてまとめる。本授業を通じて、研究テーマを設定し研究計画をたて、研究を実施し収集したデータを分析・考察し、論文にまとめるという一連の科学的な研究手続きを自らの手で行えるようになることを目指す。
方法	人間の感覚・知覚、認知、学習・記憶の代表的な実験課題について講義を行う。毎回の実験課題で実験グループを組み、各実験課題の研究計画の作成・実施とデータの収集・分析はグループで行う。各実験課題のレポートの作成は個人で行う。

履修条件

認定心理士資格の取得のためには、心理学実験Ⅱと併せて受講が必要。

定員（50名程度）超過の場合は、心理・カウンセリングコースを優先し、他コースの学生は抽選とする。

心理学概論、行動科学概論、心理学統計法、パソコン演習（基礎）・（応用）を修得していることが望ましい。また、心理学統計法Ⅱを履修していることが望ましい。

履修する上の留意点

実験にふさわしい服装で来ること。

毎回の講義で教科書「なるほど！心理学実験法」と「ノートPC」を必ず持参すること（ノートPCを忘れた場合は講義時間までに事務室から借りておくこと）。講義の説明のメモや、実験の記録・メモのためのノートやルーズリーフを準備し持参すること。

USBメモリとクラウドストレージを用意しておくこと。

グループワーク中心で行うため、遅刻や欠席は原則認めない。遅刻や欠席をする場合には、必ず事前にメール等で連絡をすること。

※ 連絡もなく無断で遅刻・欠席した場合は履修を放棄したとみなします。

講義中（特に実験準備中や実験中）に講義と関係のないこと（講義には無関係なネットの閲覧、アプリ・ソフトの操作、他の講義の作業、居眠り、他の実験班の実験の妨げとなる行為）を行った場合や、グループワークに積極的に協力・参加しなかった場合は大幅に減点します。

実験レポートについて

- ・各実験課題（①～⑤）に対し、実験レポートの作成と提出を行ってまいります。
- ・各実験レポートは、A、B、C、Dの評価がつきます（D評価のついたレポートには再提出を課します）。
- ・1つでも未提出レポートがある場合は、単位認定が非常に困難になります（D評価のレポートの再提出がされていない場合も未提出となります）。
- ・自分以外の人が作成したレポートやネット上の文章をコピペする等の不正行為が発覚した場合、単位の認定を取り消す場合があります。

到達目標

1	各実験課題の背景知識や過去研究の内容、実施する各実験の目的を理解する。
2	グループで協力し、研究の計画・実施、データの収集・分析ができる。
3	得られたデータについて適切な統計方法を用いて分析し、その結果を客観的に解釈・考察できる。
4	実験法を用いた研究を序論、方法、結果、考察、引用文献で構成されるレポートにまとめ報告することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	各実験課題のへの取り組みと予習復習への取り組み	15
到達目標②	各実験課題のへの取り組みと予習復習への取り組み	20
到達目標③	各実験課題のへの取り組みと予習復習への取り組み	15
到達目標④	実験①～⑤までのレポート	50
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なるほど！心理学実験法	北大路書房	佐藤暢哉・小川洋和

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心理学実験法・レポートの書き方	ナカニシヤ出版	西口利文・松浦均
2	心理学辞典[新版]	誠信書房	

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

心理学は、目には見えない人の心を研究対象としています。そして、目には見えない人の心を数値（データ）に置き換えその数値を分析することで、心理学では人の心を研究してきました。心理学実験法は、目に見えない人の心を数値に置き換え研究する方法の1つです。心理学実験法を学び、科学的に人の心を研究する楽しさを感じましょう。

課題に対するフィードバック

研究計画の作成や実施とデータの収集・分析、レポート作成に関する質問があった場合、講義時間内であればその都度教員が対応をします。また、講義時間外ではTeamsを用いて質問やグループワークへの対応を行います。

各レポートは、毎回コメント・採点し返却をしてフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション： ・授業の進め方について ・心理学実験法の意義と実験の倫理・心得 ・レポートの書き方	予習：日本心理学会倫理規定 https://www.psych.or.jp/wp-content/uploads/2017/09/rinri_kitei.pdf をよく読んでおく。 教科書の「第1章 実験とは」を読み、重要だと思う箇所に線を引いて、ノートにまとめておく。 復習：教科書の「第2章 研究レポートの書き方」を読み、各章を書くのに必要な手続きと時間についてノートにまとめておく。	B
第2回	実験① 人の感覚・知覚に関する実験<ミューラー・リヤー錯視> ・ミューラー・リヤー錯視の説明と実験計画の作成 ・ミューラー・リヤー錯視の実験の実施とデータ収集	予習：教科書の「第3章 ミューラー・リヤー錯視」の「1節 背景」「3節 解説と発展」を読み要点をノートにまとめておく。	B

		復習：実験①の「目的」と「結果の予測」を考え、文章にまとめておく	
第3回	第3回：実験① 人の感覚・知覚に関する実験<ミューラー・リヤー錯視> ・ミューラー・リヤー錯視の実験データ入力・図表作成 ・ミューラー・リヤー錯視の実験結果の分析・解釈とレポート作成	予習：教科書の「第3章 ミューラー・リヤー錯視」の「2節 実習」を読み、収集したデータ入力をすすめておく。 復習：実験①レポートの「結果」「考察」を執筆する。	B
第4回	実験② 人の感覚・知覚に関する実験<触二点閾> ・触二点閾の説明と実験計画の作成	予習：教科書の「第4章 触二点閾」の「1節 背景」「3節 解説と発展」を読み、要点をノートにまとめておく。 復習：実験②の「目的」と「結果の予測」を考え、文章にまとめておく。	B
第5回	実験② 人の感覚・知覚に関する実験<触二点閾> ・触二点閾の実験の実施とデータ収集 ・触二点閾の実験データ入力・図表作成	予習：教科書の「第4章 触二点閾」の「2節 実習」を読み要点をノートにまとめておく。 復習：実験②レポートの「序論」と「方法」を執筆する。	B
第6回	実験② 人の感覚・知覚に関する実験<触二点閾> ・触二点閾の実験結果の分析・解釈とレポート作成	予習：教科書の「第4章 触二点閾」の「2節 3.結果の分析、4.考察のヒント」を読み、実験②のデータについて「何を比較して」「どんな結果が出たら」「何が言えるか」を考え文章にまとめておく。 復習：実験②レポートの「結果」と「考察」を執筆する。	B
第7回	実験③ 人の認知に関する実験<ストループ効果> ・ストループ効果の説明と実験計画の作成	予習：教科書の「第7章 ストループ効果」の「1節 背景」「3節 解説と発展」を読み、要点をノートにまとめておく。 復習：実験③の「目的」と「結果の予測」を考え、文章にまとめておく。	B
第8回	実験③ 人の認知に関する実験<ストループ効果> ・ストループ効果の実験の実施とデータ収集 ・ストループ効果の実験データ入力・図表作成	予習：教科書の「第7章 ストループ効果」の「2節 実習」を読み要点をノートにまとめておく。 復習：実験③レポートの「序論」と「方法」を執筆する。	B
第9回	実験③ 人の認知に関する実験<ストループ効果> ・ストループ効果の実験結果の分析・解釈とレポート作成	予習：教科書の「第7章 ストループ効果」の「2節 3.結果の分析、4.考察のヒント」を読み、実験②のデータについて「何を比較して」「どんな結果が出たら」「何が言えるか」を考え文章にまとめておく。 復習：実験③レポートの「結果」と「考察」を執筆する。	B
第10回	実験④ 人の認知に関する実験<パーソナルスペース> ・パーソナルスペースの説明と実験計画の作成	予習：教科書の「第5章 パーソナルスペース」の「1節 背景」「3節 解説と発展」を読み、要点をノートにまとめておく。 復習：実験④の「目的」と「結果の予測」を考え、文章にまとめておく。	B
第11回	実験④ 人の認知に関する実験<パーソナルスペース> ・パーソナルスペースの実験の実施とデータ収集 ・パーソナルスペースの実験データ入力・分析・図表作成	予習：教科書の「第5章 パーソナルスペース」の「2節 実習」を読み要点をノートにまとめておく。 復習：実験④レポートの「序論」と「方法」を執筆する。	B
第12回	実験④ 人の認知に関する実験<パーソナルスペース> ・パーソナルスペースの実験結果の分析・解釈とレポート作成	予習：教科書の「第5章 パーソナルスペース」の「2節 3.結果の分析、4.考察のヒント」を読み、実験②のデータについて「何を比較して」「どんな結果が出たら」「何が言えるか」を考え文章にまとめておく。 復習：実験④レポートの「結果」と「考察」を執筆する。	B
第13回	実験⑤ 人の学習・記憶に関する実験<系列位置効果> ・系列位置効果の説明と実験計画の作成	予習：教科書の「第10章 系列位置効果」の「1節 背景」「3節 解説と発展」を読み、要点をノートにまとめておく。 復習：実験⑤の「目的」と「結果の予測」を考え、文章にまとめておく。	B

第14回	<p>実験⑤ 人の学習・記憶に関する実験<系列位置効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系列位置効果の実験の実施とデータ収集 ・系列位置効果の実験データ入力・分析・図表作成 	<p>予習：教科書の「第10章 系列位置効果」の「2節 実習」を読み要点をノートにまとめておく。</p> <p>復習：実験⑤レポートの「序論」と「方法」を執筆する。</p>	B
第15回	<p>実験⑤ 人の学習・記憶に関する実験<系列位置効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系列位置効果の実験結果の分析・解釈とレポート作成 	<p>予習：教科書の「第10章 系列位置効果」の「2節 3.結果の分析、4.考察のヒント」を読み、実験②のデータについて「何を比較して」「どんな結果が出たら」「何が言えるか」を考え文章にまとめておく。</p> <p>復習：実験⑤レポートの「結果」と「考察」を執筆する。</p>	B

心理学実験Ⅱ

更新日：2024/03/27 11:42:11

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M316130	授業コード	2M316130
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S5205	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		○
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	卒業論文に取り組むのに必要な知識とスキルを身につけるため、一連の研究活動を経験する。先行研究から仮説を立案し、研究計画の作成、適切な実験手法の選択、データを分析し、解釈する力を身に付けることを目的とする。
方法	心理学実験Ⅰを踏まえ、心理学研究の様々なトピックに関する実験を実施し、仮説立案、実験の実施、結果からの考察といった一連の心理学研究の流れを体得する。実験はグループで実施し、各自が実験者、実験参加者といった役割を体験する。また、仮説立案や実験結果の予測、結果の解釈についてグループで討論を行う。それらをレポートとしてまとめ、報告する。レポートの提出にはActive Portalの「レポート機能」を利用する。

履修条件

認定心理士の取得のためには、心理学実験Ⅰと併せて受講が必要。
心理学概論、行動科学概論、心理学統計Ⅰ、心理学実験Ⅰを修得していること。定員（50名程度）超過の場合は、心理・カウンセリングコースを優先し、他コースの学生は抽選とする。心理統計Ⅱは受講していることが望ましい。

履修する上の留意点

実験にふさわしい服装で来ること。グループ作業のため無遅刻・無欠席が原則。早退は認めない。各自PCを用意すること。

到達目標

1	グループで協力し、実験の実施、分析、まとめができる。
2	研究の目的を理解し、その意味や意義を文章により説明することができる。
3	適切な分析手法を用いて結果を分析し、結果から背景のメカニズムを考察することができる。
4	授業やグループワークに積極的に貢献することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート（研究1～5）	20
到達目標②	レポート（研究1～5）	30
到達目標③	レポート（研究1～5）	30
到達目標④	授業内評価	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なるほど！心理学実験法	北大路書房	佐藤 暢哉 (著, 編集), 小川 洋和 (著, 編集), 三浦 麻子 (監修)

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる心理学実験実習	ミネルヴァ書房	村上香奈(編著)・山崎浩一(編著)

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

提出されたレポートについては、個別に教員からのフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方についての説明 研究手法、分析手法 研究1についての概要：実験プログラムの下準備 	復習：配布資料を読み、実験が円滑に実施できるように準備しておく。	A,B
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 【研究1】 心的回転 実験用プログラムなどの実験材料の用意。 	予習：研究1の関連論文を検索して、何本かの論文を読み、要点をメモ。教科書の該当箇所を読む。 復習：研究1の「問題」「方法」執筆。	B
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 研究1の実施。データ入力。 	予習：配布資料を読む。 復習：研究1の「方法」を修正。	B
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 研究1の分析、図表、レポートの作成。 	予習：指定した分析の方法について予習。 復習：研究1のレポートを完成させ、指定期日までに提出。	B
第5回	<ul style="list-style-type: none"> 【研究2】 視覚的注意と視覚探索 実験概要の説明 実験用材料の準備 	予習：研究2の関連論文を検索して、何本かの論文を読み、要点をメモ。教科書の該当箇所を読む。 復習：研究2の「問題」「方法」執筆。	A,B
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 研究2の実施。データ入力。 	予習：配布資料を読む。 復習：研究2の「方法」を修正。	B
第7回	<ul style="list-style-type: none"> 研究2の分析、図表、レポートの作成。 	予習：指定した分析の方法について予習。 復習：研究2のレポートを完成させ、指定期日までに提出。	B
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 【研究3】 学習の転移（鏡映描写課題） 実験概要の説明 実験用材料の準備 	予習：研究3の関連論文を検索して、何本かの論文を読み、要点をメモ。教科書の該当箇所を読む。 復習：研究3の問題と方法の執筆。	A,B
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 研究3の実施。データ入力。 	予習：配布資料を読む。 復習：研究3の「方法」を修正。	B
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 研究3の分析、図表、レポートの作成。 	予習：指定した分析の方法について予習。 復習：研究3のレポートを完成させ、指定期日までに提出。	B
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 【研究4】 両眼立体視による奥行きと大きさの知覚 実験概要の説明 実験用材料の準備 	予習：研究4の関連論文を検索して、何本かの論文を読み、要点をメモ。 復習：研究4の問題と方法の執筆。	A,B
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 研究4の実施。データの分析、図表、レポートの作成。 	予習：指定した分析の方法について予習。 復習：研究4のレポートを完成させ、指定期日までに提出。	B
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 【研究5】 SD法によるイメージの測定 	予習：研究5の関連論文を検索して、何本かの論文	B

	<ul style="list-style-type: none"> ・実験概要の説明 ・実験用材料の準備 	<p>を読み、要点をメモ。 復習：研究5の問題と方法の執筆。</p>	
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・研究5の実施。データ入力。 	<p>予習：配布資料を読む。 復習：研究5の「方法」を修正。</p>	A,B
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・研究5の実施。データの分析、図表、レポートの作成。 	<p>予習：指定した分析の方法について予習。 復習：研究5のレポートを完成させ、指定期日までに提出。</p>	B

知覚・認知心理学

更新日：2024/03/27 11:42:13

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M317030	授業コード	2M317030
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S6204	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	心の健康には人が周囲の環境をどのように認知、認識しているかが関与している。そうした我々が外界を認知する心の仕組みについてモデルを構築し、理解しようとする心理学の研究領域が知覚・認知心理学である。この授業では、感覚、知覚と呼ばれる感覚器を通して外界からの情報を受け取る基礎的な仕組みの理解からはじめ、より高次な認知心理学の様々な研究分野への理解を深めていく。
方法	パワーポイントを用いて授業を行う。授業内では内容理解を深めるために簡易的な実験を行い、結果の解釈について報告を求めることもある。各回要点をまとめた授業資料を配布する。授業内容の理解のために毎回、課題を提示し提出を求める。

履修条件

なし。

履修する上の留意点

教科書や配布資料を読み、予習・復習を行うこと。

到達目標

1	知覚、認知心理学に関する用語について、その内容や違いを説明することができる
2	知覚、認知心理学に関わる現象を日常生活の場面に当てはめて説明することができる
3	授業内の実習やデモンストレーションの意味を理解し、文章で説明することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	各回の課題・期末レポート	40
到達目標②	各回の課題・期末レポート	30
到達目標③	各回の課題・期末レポート	30

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	知覚・認知心理学 (公認心理師の基礎と実践)	遠見書房	箱田裕司 編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	毎回、適宜紹介する		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

提出された課題の解答はWebを通じて配布する。また解答や質問に応じて次回授業時に時間をとって対応する。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニング の実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	知覚・認知心理学の概要	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第2回	感覚の基本的特性：閾、順応、残効、対比	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第3回	視知覚1：明るさと色の知覚、物体・シーンの知覚	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第4回	視知覚2：奥行の知覚、運動の知覚	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第5回	聴知覚：聴知覚の仕組み、クロスモーダル知覚	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第6回	感性	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第7回	選択的注意、注意の制御、注意のメカニズム	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第8回	記憶1：記憶の構造、短期記憶、ワーキングメモリ	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第9回	記憶2：長期記憶	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第10回	知識の表象と構造：宣言的知識と手続き的知識	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第11回	イメージの性質と機能	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第12回	問題解決・推論と意思決定	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第13回	認知発達	配布資料を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第14回	社会的認知	配布資料を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A
第15回	知覚・認知の個人差	教科書の該当箇所を読み予習し、授業時に提示される課題により復習を行う。	A

神経・生理心理学

更新日：2024/03/27 11:42:15

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M318010	授業コード	2M318010
担当教員	風井 浩志						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S6301	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	初期知覚から高次認知機能までの心理学的知見を紹介しながら、その心理学的現象に対応した生理的機構を講義する。
方法	配布資料とパワーポイントを用いて講義を行う。講義の理解度を確認する小テストを各回の終わりに実施する。

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

1	心理学における神経・生理心理学の位置づけを説明できる。
2	脳神経系の構造を概説できる。
3	初期知覚から認知機能(高次脳機能)までの生理学的基盤を概説できる。
4	高次脳機能障害の特徴を概説できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	該当回の小テスト	25
到達目標②	該当回の小テスト	25
到達目標③	該当回の小テスト	25
到達目標④	該当回の小テスト	25
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	生理心理学と精神生理学 第I巻 基礎	北大路書房	堀 忠雄
2	生理心理学と精神生理学 第II巻 応用	北大路書房	堀 忠雄

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

疑問があれば遠慮なく御質問ください。積極的な受講態度を期待しています。

課題に対するフィードバック

小テスト実施回の次の回の冒頭に解説を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	生理心理学の特徴 心理学における生理心理学と精神生理学の役割。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	A
第2回	視覚系の構造(1) 眼球の構造と視神経までの視覚経路。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第3回	視覚系の構造(2) 視神経から大脳皮質連合野までの視覚経路。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	A
第4回	神経系の情報伝達 神経細胞の構造と機能、シナプスと神経伝達物質。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第5回	視覚 視覚機能と神経機構。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	A
第6回	聴覚系の構造と聴覚機能 外耳から聴覚連合野までの経路と聴覚現象。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第7回	大脳皮質の機能局在 感覚野、運動野、連合野における機能の局在と統合。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第8回	中枢神経系と末梢神経系の構造	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第9回	神経神話と科学リテラシー 神経科学に関する俗説と科学的検証。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	A
第10回	生理心理学の計測法 中枢神経系の計測法、自律神経系の計測法。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第11回	感情 感情にかかわる神経系と内分泌系。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復	A

		習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第12回	虚偽検出 ポリグラフ検査の原理と方法。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第13回	睡眠 睡眠と覚醒水準。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第14回	注意 視覚的注意と聴覚的注意の機能と神経機構。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	
第15回	高次脳機能障害。 失語症、失認証、記憶障害。	予習：参考図書やweb検索を用いて「学修内容」に記載の用語とそれに関連する用語を調べておく。復習：小テストで正解できなかった用語を中心に復習する。	

学習・言語心理学

更新日：2024/03/27 11:42:17

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M319010	授業コード	2M319010
担当教員	木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S6205	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	日常生活を営む上で、われわれは多種多様な行動をとっている。これらの行動には生まれつき備わっている行動もあるが、様々な経験によって獲得した行動もある。心理学では経験によって行動が変容することを「学習」という。またヒト以外の動物が持たないヒト特有のものとして言語があり、言語の獲得も「学習」による行動の変容の1つである。学習・言語心理学では、言語獲得を含めた様々な行動の獲得・変容のプロセスや原理について、学習心理学と言語心理学の分野の理論や研究を紹介し解説を行う。
方法	各回の授業テーマに関して、教科書の内容に基づき作成されたパワーポイントを用いた授業を行う（パワーポイントを基に作成した講義資料も配布する）。また、各講義時間中に講義内容に関連したディスカッションテーマを呈示し、そのテーマに対し自分の意見をまとめその意見に対し教員がフィードバックをする質問法（Q&A）を用いたアクティブ・ラーニングを実施する。 毎回のレポート課題（予習・復習）や毎回の講義資料を、定期試験の準備や講義時間外での学習のためにファイリングし保管しておくこと。 毎回の講義に参加し講義で説明された内容を理解し、レポート課題（予習・復習）や期末レポートに取り組むことで、学習心理学と言語心理学の知識を獲得し日常生活における行動を学習心理学の視点から分析し解釈するスキルを修得する。

履修条件

心理学概論と行動科学概論を修得もしくは履修中であることが望ましい。

履修する上の留意点

教科書は必ず購入し、毎回の授業で必ず持参すること。

毎回の講義内容について予習と復習レポートを課す。

到達目標

1	学習心理学・言語心理学の歴史を理解し、説明することができる。
2	学習心理学の理論を理解し、ヒトを含むすべて動物の行動の変容について学習心理学の観点から説明することができる。
3	言語心理学の理論を理解し、ヒトの言語行動について言語心理学の観点から説明することができる。

4	自分の日常生活における様々な行動に学習心理学の理論や知見を応用できる。
---	-------------------------------------

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価、予習・復習レポートへの取り組み、定期試験	25
到達目標②	授業内評価、予習・復習レポートへの取り組み、定期試験	25
到達目標③	授業内評価、予習・復習レポートへの取り組み、定期試験	25
到達目標④	授業内評価、予習・復習レポートへの取り組み、定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学習と言語の心理学	昭和堂	中島定彦

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	現代心理学シリーズ3 学習の心理学	培風館	今田寛
2	現代心理学シリーズ5 言語と記憶	培風館	浮田潤・賀集寛
3	行動分析学入門—ヒトの行動の思いがけない理由	集英社新書	杉山尚子

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

学習心理学では、皆さんが普段とっている行動を全て「学習」により獲得・維持されているものと考えます。様々な場面・状況においてなぜその行動をするのか、そのメカニズムを学習心理学の観点から捉えることができると、自分や他人の行動を予測したり制御することがしやすくなります。

課題に対するフィードバック

毎回の講義冒頭部分で前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容に入ります。また、毎回提出する予習・復習レポートに関しては、講義内で内容へのコメント・フィードバックを行います。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス 学習と言語の心理学 学習心理学の歴史・言語心理学の歴史	復習：復習レポート（学習心理学の歴史と言語心理学の歴史をまとめ説明する）に取り組む。	A
第2回	生得的行動・初期学習・馴化	予習：教科書の「第2章 生得的行動・初期学習・馴化」の「2-1向性」「2-2無条件反射」「2-3本能的行動」「2-4初期学習」「2-5馴化とその特徴」「2-6馴化の理論」を講義までに読む。 復習：復習レポート（初期学習と馴化について説明し、日常生活にある初期学習と馴化の例をあげる）に取り組む。	A
第3回	古典的条件づけ① 古典的条件づけによる行動変容・般化・弁別・消去	予習：教科書の「第3章 古典的条件づけ1」の「3-1パブロフの実験」「3-2古典的条件づけによる行動変容」「3-3刺激の般化と弁別」「3-7条件づけの消去」を講義までに読む。 復習：復習レポート（古典的条件づけ、条件性情動反応、般化、消去について説明し、生活の中で自分が経験している分化と消去の例をあげる）に取り組む。	A
第4回	古典的条件づけ② 形態的学習と階層学習・高次条件づけ・刺激競合	予習：教科書の「第4章 古典的条件づけ2」の「4-1古典的条件づけの連合構造」「4-2形態的学習と階層的学習」「4-3高次条件づけ」「4-4刺激競合」を講義までに読む。 復習：復習レポート（系統的脱感作法、形態的学習・階層的学習、高次条件づけ、隠蔽と阻止について説明する）に取り組む。	A
第5回	古典的条件づけ③ 随伴性空間・レスコーラ=ワグナー・モデル・行動の表出	予習：教科書の「第4章 古典的条件づけ2」の「4-5随伴性空間」「4-6レスコーラ=ワグナー・モデル」「4-7行動の表出」を講義までに読む。	A

		<p>復習：復習レポート（随伴性空間、接近反応・退却反応、レスコーラ=ワグナー・モデル、行動の表出について説明する）に取り組む。</p>	
第6回	オペラント条件づけ① 強化と罰・三項随伴性と反応形成	<p>予習：教科書の「第5章 オペラント条件づけ1」の「5-1効果の法則から強化の原理へ」「5-2強化と罰」「5-3三項随伴性と反応形成」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（オペラント条件づけ、試行錯誤学習・学習の法則、強化と罰について説明し日常例を考える）に取り組む。</p>	A
第7回	オペラント条件づけ② 動機づけ・消去・逃避と回避・罰なき社会	<p>予習：教科書の「第5章 オペラント条件づけ1」の「5-4 動機づけ」「5-5 消去」「5-6 逃避と回避」「5-7 罰使用の問題点」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（動因・誘因、確立操作、プレマックの原理、反応遮断化、内発的動機づけ、消去、逃避と回避、学習性無力感について説明する）に取り組む。</p>	A
第8回	オペラント条件づけ③ 強化スケジュール・選択行動・弁別学習・刺激般化	<p>予習：教科書の「第6章 オペラント条件づけ2」の「6-1 累積記録と強化スケジュール」「6-3 弁別学習」「6-4 刺激般化」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（4つの強化スケジュール、弁別学習と弁別課題について説明し日常例を考える）に取り組む。</p>	A
第9回	オペラント条件づけ④ 見本合わせ・行動連鎖・生物的制約	<p>予習：教科書の教科書の「第6章 オペラント条件づけ2」の「6-5 見本合わせ」「6-6 行動連鎖」「6-7 生物的制約」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（刺激般化と般化勾配、見本合わせ手続き、刺激等価性、行動連鎖について説明する）に取り組む。</p>	A
第10回	さまざまな学習① 運動学習・学習の方法・最適覚醒水準・学習の転移	<p>予習：教科書の「第7章 さまざまな学習」の「7-1 運動学習」「7-2 学習の方法」「7-3 最適覚醒水準」「7-4 学習の転移」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（学習の定義としくみ、運動学習と知覚運動協応、集中法と分散法、最適覚醒水準について説明する）に取り組む。</p>	A
第11回	さまざまな学習② 学習と記憶・洞察学習・思考と概念学習・観察学習	<p>予習：教科書の「第7章 さまざまな学習」の「7-5 学習と記憶」「7-6 洞察学習」「7-7 試行と概念学習」「7-8 観察学習」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（二重貯蔵モデル、エビングハウスの忘却曲線、洞察学習、思考の種類と内容、代理強化、代理罰について説明する）に取り組む。</p>	A
第12回	言語学習① 発声と伝播・ことばの聞き取り・言葉の構造（音韻論・形態論）	<p>予習：教科書の「第8章 言語の諸相」の「8-1 発声と伝播（調音音声学・音響音声学）」「8-2 ことばの聞き取り（聴覚音声学）」「8-3 ことばの構造1（音韻論・形態論）」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（調音音声学、音響音声学、聴覚音声学、音韻論、形態論について説明する）に取り組む。</p>	A
第13回	言語学習② ことばの構造（統語論）・ことばとその意味・ことばの使われ方	<p>予習：教科書の「第8章 言語の諸相」の「8-4 ことばの構造2（統語論）」「8-5ことばとその意味（語彙論・意味論）」「8-6ことばの使われ方（語用論）」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（言語獲得装置、気構造規則、普遍文法、生成文法、語彙論、意味論、発話行為について説明する）に取り組む。</p>	A
第14回	言語学習③ 生得的コミュニケーション行動・言語訓練・ヒトの言語と動物の「ことば」の違い	<p>予習：教科書の「第9章 言語の獲得」の「9-1動物の『ことば』1（生得的コミュニケーション）」「9-2動物のことば2（言語訓練）」、「9-3ヒトの言語と動物の『ことば』の違い」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（ミツバチの尻振りダンス、動物の言語訓練、ヒトと動物のことばの違いについて説明する）に取り組む。</p>	A

第15回	言語学習④ 言語の発達・オペラント行動としての言語・関係フレーム理論・媒介理論	<p>予習：教科書の「第9章 言語の獲得」の「9-4言語の発達（前言語的コミュニケーションから言語的コミュニケーションへ）」「9-5オペラント行動としての言語」「9-6関係フレーム理論」「9-7媒介理論」を講義までに読む。</p> <p>復習：復習レポート（前言語的コミュニケーション、オペラント行動としての言語の種類と内容、関係フレーム理論について説明する）に取り組む。</p>	A
	定期試験		

感情・人格心理学

更新日：2024/03/27 11:42:19

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M320010	授業コード	2M320010
担当教員	廣井 いずみ						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S6302	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】			授業時間+自習時間	30+60		

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。	○	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	本授業では、感情とパーソナリティの基本理論について学ぶ。基本感情とは何か、感情が行動に及ぼす影響、人格の類型、特性、人格の遺伝等について学び、感情や人格が健康とどのように関連しているのかを探る。
方法	教科書、スライド、配付資料を使いながら、講義を行う。グループワークやディスカッションを取り入れることで、知識を深める。

履修条件

履修する上の留意点

心理学概論、臨床心理学概論を受講していることが望ましい。

到達目標

1	感情心理学の主要な理論について理解し、説明できる。
2	パーソナリティ心理学の主要な理論について理解し、説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	定期試験	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	パーソナリティと感情の心理学(ライブラリ心理学を学ぶ)	サイエンス社	島 義弘
2	感情心理学・入門	有斐閣アルマ	大平英樹(編)
3	改訂新版 人格心理学	NHK出版	大山泰宏
4	公認心理師の基礎と実践9 感情・人格心理学	遠見書房	杉浦義典(編)

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

授業スライドには目をとおしてくるようにしましょう。

課題に対するフィードバック

各回、授業終わりに振り返りの問題を解き、答え合わせをし、また翌週の授業で前回授業の振り返りを行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニング の実施方法
	学修内容	学修課題(予習・復習)の内容	
第1回	授業の進め方と計画について パーソナリティとは 感情とは	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	
第2回	動機づけ	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
第3回	基本感情	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	B
第4回	感情が生じる仕組み	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
第5回	ポジティブ感情の効果	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
第6回	ネガティブ感情の効果	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
第7回	感情と進化	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
第8回	感情調整	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
第9回	社会を支える感情	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	B
第10回	特性論と類型論	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
第11回	パーソナリティ形成の諸要因	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
第12回	パーソナリティの病理	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	B
第13回	パーソナリティと集団の心理	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	B
第14回	適応・健康：人格心理学の視点から	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
第15回	適応・健康：感情心理学の視点から	【予習】スライドに目をとおす 【復習】授業の振り返りを見直す	A
	定期試験		

心理的アセスメント

更新日：2024/03/27 11:42:21

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M321110	授業コード	2M321110
担当教員	土屋 満知						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S8301	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	公認心理師などの心理専門職に必要とされる心理アセスメントの技法（理論的背景、代表的な心理検査の実施法、分析・解釈の視点および結果のまとめ方等）を学ぶ。また、事例検討を行い、心理支援が行われている心理臨床領域で、実際にどのような心理的アセスメントが行われているかについても学習する。それらを通じて（1）心理アセスメントの目的及び倫理、（2）心理アセスメントの観点及び展開、（3）心理アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、（4）適切な記録および報告、について理解を深める。
方法	講義だけではなく、各種心理検査の演習を行う。検査者体験、被検者体験を行い、ペアワークやグループワークを課す。

履修条件

- 公認心理師を目指す人に必要とされる基本的技能を学ぶ科目である。履修は公認心理師を目指す学生のみ限定される。心理検査の演習や事例検討を行うため、履修者は最大20名とする。令和2（2020）年度以降の入学者で、公認心理師の受験資格を得ることを目指す学生は履修が必要となる。
- 「臨床心理学概論」の単位を修得済であること。
- 「心理学的支援法」を同時に履修すること。

履修する上の留意点

- ペアワーク、グループワーク形式で演習を行い、演習体験を踏まえたレポート作成を求めため、欠席はできうる限りしないこと。
- 授業で実施した心理検査演習体験を振り返り、結果の分析やまとめを行うことを課すため、授業外での学習が必要となる。
- 演習を行うため、そこで知り得た秘密を守れること。
- 演習体験を言語化し、ディスカッションを行うので、積極的な発言を求める。
- 前半の授業が終わったところで確認テストを行うため、復習等の準備が求められる。

到達目標

1	心理アセスメントの目的や倫理、その観点や展開について説明できる。
2	心理アセスメントの方法（観察、面接および心理検査）について説明できる。
3	主要な心理検査の目的・理論的背景・施行法・結果のまとめ方を理解し、適切な記録や報告ができる。

4	演習体験を適切に言語化できる。
---	-----------------

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート・確認テスト	10
到達目標②	レポート・確認テスト	10
到達目標③	レポート・確認テスト	50
到達目標④	授業内での演習への積極的参加や発言、リアクションペーパーの内容充実度	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	臨床心理アセスメントの基礎（第2版）	ナカニシヤ出版	沼初枝(著)

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心理アセスメント：心理検査のミニマム・エッセンス（心の専門家養成講座3）	ナカニシヤ出版	松本真理子・森田美弥子（編著）
2	心理的アセスメント（放送大学教材）	放送大学教育振興会	森田美弥子・永田雅子（編著）

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

意欲的かつ積極的に演習に取り組むことを希望する。
心理検査を実際に体験することを通して、自己理解が深まることを望む。

課題に対するフィードバック

ルーブリックに基づいてレポートを評価する。
リアクションペーパーなどで寄せられた質問や意見については、授業内でフィードバックを行う。
確認テストについては、実施後に解説を行い、採点して後日返却を行う形で、フィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション ・授業の進め方と授業計画について ・心をアセスメントするとは	〔予習〕 シラバスを読んでくる。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点を小レポートにまとめ、提出する。	A,B
第2回	心理アセスメントの基本 心理アセスメントの目的及び倫理 診断とアセスメントの違い	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 授業内容（心理アセスメントの目的及び倫理）について、理解できたことや考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	A,B
第3回	心理アセスメントの方法（1）面接を通してのアセスメント（その1） 受理（インテーク）面接の概要と目的 受理面接のロールプレイ	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点を小レポートにまとめ、提出する。	A,B,D
第4回	心理アセスメントの方法（2）面接を通してのアセスメント（その2） 生活史を通しての把握	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点を小レポートにまとめ、提出する。	A,B
第5回	心理アセスメントの方法（3）行動観察によるアセスメント	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点を小レポートにまとめ、提出する。	A,B
第6回	心理アセスメントの方法（4）心理検査によるアセスメント 心理検査の目的と実施（テスト・バッテリー）および各種心理検査の概要	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 授業内容について、理解できたことや疑問点を小レポートにまとめ、提出する。	A
第7回	心理アセスメントの実践（1）質問紙法 ・パーソナリティ質問紙法（YG性格検査）を体験し、目的、理論的背景、実施法を学ぶ。 ・第1回～第6回授業の確認テスト	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 実施した心理検査について、結果をまとめる。実施した確認テスト内容を振り返り、教科書を用いて復習を行う。	A,D

第8回	心理アセスメントの実践(2) 質問紙法 ・YG性格検査の分析・解釈 ・適切な記録の仕方、結果のまとめ方、報告について考える。 ・所見レポートの書き方とフィードバック	〔予習〕 前回実施した心理検査の演習体験を振り返り、自分の結果のどのような点が特徴的に感じるか自由に考えてくる。 〔復習〕 実施した心理検査について、分析・解釈の結果をまとめてレポートを提出する。	A,B
第9回	心理アセスメントの実践(3) 知能検査 ・知能検査法をペアで体験し、目的、理論的背景、実施法を学ぶ。 ・適切な記録の仕方、結果のまとめ方、報告について考える。	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 実施した心理検査について、分析・解釈の結果をまとめてレポートを提出する。	A,C
第10回	心理アセスメントの実践(4) 投映法 ・SCTを体験し、目的、理論的背景、実施法を学ぶ。	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 実施した心理検査について、結果をまとめる。	A,D
第11回	心理アセスメントの実践(5) 投映法 ・SCTの分析・解釈 ・適切な記録の仕方、結果のまとめ方、報告について考える。	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 実施した心理検査について、分析・解釈の結果をまとめてレポートを提出する。	A,B
第12回	心理アセスメントの実践(6) 投映法 ・TATを体験し、目的、理論的背景、実施法を学ぶ。 ・適切な記録の仕方、結果のまとめ方、報告について考える。	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 実施した心理検査について、分析・解釈の結果をまとめてレポートを提出する。	A,D
第13回	心理アセスメントの実践(7) 投映法 ・ロールシャッハ法をペアで体験し、目的、理論的背景、実施法を学ぶ。 ・適切な記録の仕方、結果のまとめ方、報告について考える。	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 実施した心理検査について、分析・解釈の結果をまとめてレポートを提出する。	A,C
第14回	心理アセスメントの実践(8) 投映法 ・描画法(バウムテスト、風景構成法)を体験し、目的、理論的背景、実施法を学ぶ。 ・適切な記録の仕方、結果のまとめ方、報告について考える。	〔予習〕 指定した教科書の該当ページを読んでくる。 〔復習〕 実施した心理検査について、分析・解釈の結果をまとめてレポートを提出する。	A,D
第15回	心理アセスメントの実践 ・各心理臨床分野におけるアセスメントの実践(事例検討) まとめと振り返り、質疑応答	〔予習〕 これまでの授業内容を振り返り、疑問点をまとめてくる。 〔復習〕 これまでの授業を通して、理解できたことをまとめ、レポートを提出する。	A,B

社会・集団・家族心理学

更新日：2024/03/27 11:42:23

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M322020	授業コード	2M322020
担当教員	三ツ村 美沙子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S6206	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【心理】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	人は他者と関わり合いながら生きている。社会・集団・家族心理学の中心となる社会心理学は、他者との関わりが個人の考え、感情、行動にどのような影響を与えるのかを明らかにしようとする学問である。本授業では、社会・集団・家族心理学の基礎知識について理解し、身近な対人関係や日常生活で生じる諸問題を社会心理学的視点から捉えることを試みる。
方法	パワーポイントおよび配布資料を用いて講義を行う。 毎回授業内でMicrosoft Formsを用いた小レポートを実施し、授業の理解度をチェックする。 また、3回～4回に1度小テストを実施し、授業内容の復習を行う。

履修条件

心理学概論・行動科学概論の単位を修得していることが望ましい。

履修する上の留意点

1. 毎回授業内で課す小レポートは成績評価の対象であるため、熱心な取り組みを求める。また、課題が提出されない場合はその分を減点とする。
2. 小レポートの提出にはMicrosoft Formsを用いるため、授業にはインターネット接続の可能な端末（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）を毎回持参すること。
3. 私語など他の受講生の迷惑となる行為は禁止とし、迷惑行為が継続される場合は減点の対象とする。

到達目標

1	社会・集団・家族心理学に関する基礎知識を理解し、説明することができる。
2	身近な出来事や社会問題を社会・集団・家族心理学の視点から捉え、説明することができる。
3	社会・集団・家族心理学の知見や身近な心の問題に関心を持って主体的に学ぶことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験+小テスト+小レポート	60
到達目標②	定期試験+小レポート	20
到達目標③	小テスト+小レポート	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし。適宜資料を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	放送大学教材 社会・集団・家族心理学	放送大学教育振興会	森津太子
2	公認心理師の基礎と実践11 社会・集団・家族心理学	遠見書房	野島一彦・繁樹算男（監修）
3	その他、授業内で適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

この授業で学ぶ内容は、すべて私たちの生活と密接に関わっている。授業の中だけでなく、ぜひ日常生活でも授業で扱った内容を思い返し、理解を深めてほしい。

課題に対するフィードバック

授業内で実施した課題（小レポート、小テスト）について、次回の授業内でフィードバックを行う。
また、小レポートの回答の中で特に重要なものについては、その内容をクラス全体に共有する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス：授業の概要と注意事項の説明 社会・集団・家族心理学とは	予習：シラバスを読み、この授業について理解する。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第2回	自己概念と自己表出	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第3回	原因帰属	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第4回	態度と態度変容	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。。	A
第5回	第1回～第4回の小テスト 対人認知とステレオタイプ	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第6回	対人魅力	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第7回	対人関係の形成と展開	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第8回	対人行動：援助行動と攻撃行動	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A

第9回	第5回～第8回の小テスト 集団内の影響過程1：多数者影響と集団意思決定	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第10回	集団内の影響過程2：社会的勢力と権威者の影響	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第11回	集団間の関係と集団間葛藤	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第12回	第9回～第11回までの小テスト 家族の機能と構造	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第13回	心の文化差	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第14回	マスコミュニケーションとインターネット	予習：左に記載されているテーマについて本やインターネット等で事前に調べる。 復習：今回の授業内容について整理し、小テストに備えて重要な概念や理論を暗記する。	A
第15回	第12回～第14回の小テスト 全体のまとめ	予習：授業内容を振り返り、自分が理解できていない概念や理論を把握する。 復習：定期試験に備え、重要な概念や理論を暗記する。	A
	定期試験		

心理学的支援法

更新日：2024/03/27 11:42:25

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M325030	授業コード	2M325030
担当教員	長岡 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S7303	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	対人支援としての心理学的支援の概要及び歴史的背景、各種心理療法の実践について学びます。また、実際のカウンセリング事例を聴く機会を設け、心理臨床実践に関する専門的な内容を扱います。
方法	反転授業（授業時間外で事前学習を行い、授業内はその学習にもとづく演習を行う）を取り入れた授業を行います（以下の「授業計画」のアクティブラーニング表示がDの回）。具体的には、事前学習として20分程度の動画を視聴しノートにまとめ知識の習得をします。その後、授業の最初で小テストを行い、つづくディスカッションを通して、事前学習で学んだ知識の体験的な理解に努めます。授業はグループワークによるディスカッションが中心となります。

履修条件

「心理学概論」「臨床心理学概論」を履修していることが望ましい。
公認心理師資格を目指す人または「反転授業」で課される自学自習に取り組む意欲のある人。（特に「反転授業」の回は1時間半から2時間程度の予習が課されることとなります）

履修する上の留意点

「臨床心理学概論」「心理学概論」を履修し、心理療法に興味関心のある者が望ましい。
「心理実習」に進むためには「心理演習」の単位が必須となり、「心理演習」に進むためには「心理学的支援法」の単位取得が必須となります。

到達目標

1	心理学的支援の概要と歴史背景を説明できる。
2	各種心理療法について理解できる。
3	対人援助職としてどのような関わりが望ましいか説明できる。
4	心理面接の事例を聞いた自分の考えを述べるができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト、ディスカッションレポート、総合テスト	20
到達目標②	小テスト、ディスカッションレポート、総合テスト	40
到達目標③	小テスト、ディスカッションレポート、総合テスト	20
到達目標④	小テスト、ディスカッションレポート、総合テスト	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心理学的支援法	北大路書房	杉原保史、福島哲夫他
2	心理学的支援法	遠見書房	大山泰宏（編）

オープンな教育リソース

必要に応じて、授業内で紹介します。

学生へのメッセージ

本科目は、今後「心理演習」「心理実習」へとより実践的な学びをするための、準備科目でもあります。積極的な授業参加を期待します。授業時のディスカッションによるグループワークの積極的に参加をしてください。

課題に対するフィードバック

提出された課題のフィードバックは授業内で行います。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス、心理学的支援について	[予習]シラバスを再読し不明点を明確にする。[復習]反転授業の方法について確認する。	B
第2回	心理療法の歴史的背景	[予習]次回の内容の動画を視聴し、小テストに備える。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	D
第3回	心理療法のモデル	[予習]次回の内容の動画を視聴し、小テストに備える。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	D
第4回	セラピストの3条件	[予習]次回の内容の動画を視聴し、小テストに備える。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	D
第5回	傾聴について	[予習]与えられた課題に取り組む。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	B
第6回	心理療法の実際、病態水準	[予習]次回の内容の動画を視聴し、小テストに備える。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	D
第7回	心理臨床的な関係性、面接記録	[予習]次回の内容の動画を視聴し、小テストに備える。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	D
第8回	事例を聴く①（ターミナルの事例）	[予習]与えられた課題に取り組む。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	
第9回	事例の振り返り	[予習]与えられた課題に取り組む。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	B
第10回	面接記録（実践編）	[予習]与えられた課題に取り組む。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	
第11回	事例を聴く②（箱庭療法の事例）	[予習]与えられた課題に取り組む。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	
第12回	事例の振り返り	[予習]与えられた課題に取り組む。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	B
第13回	フロイトの精神分析療法	[予習]次回の内容の動画を視聴し、小テストに備える。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	D
第14回	ユングの分析心理学	[予習]次回の内容の動画を視聴し、小テストに備える。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	D
第15回	まとめと総合テスト	[予習]与えられた課題に取り組む。[復習]本日の授業の内容をまとめる。	B

公認心理師の職責

更新日：2024/03/27 11:42:27

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M326000	授業コード	2M326000
担当教員	廣井 いずみ						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S8304	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	態度・志向性	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	公認心理師とはどのような職業か理解し、公認心理師を目指す者として将来展望が描けるように、制度、枠組、職域別の職務や責務を学び、今後公認心理師を目指して、どのような研鑽を積むのか考える。具体的には、公認心理師としての職責、法的義務、倫理、安全確保、情報の扱い方、具体的な業務を学び、自己課題発見・解決能力、生涯学習、多職種連携、地域連携等が大切であることを学び、専門職として地域の健康にどのように貢献できるのか考える。
方法	講義、DVD視聴、ゲストスピーカーによる講義、4年生の実習報告、心理テストを用いた自己の振り返り、発表プレゼンテーションから成る。

履修条件

本講義は、公認心理師を目指す者に限定する。心理学的支援法の単位を修得していること。

履修する上の留意点

教育・学校心理学、精神疾患とその治療、健康・医療心理学、障害者・障害児心理学、福祉心理学等の知識を有していること。

到達目標

1	公認心理師の職責、法的義務、倫理、情報の扱いについて説明できる。
2	公認心理師の具体的な業務について説明できる。
3	支援者としての自己の課題を発見し、どのように課題に向き合えば良いのか文章化することができる。
4	多職種連携、地域連携について、その必要性及び連携方法について説明することができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	定期試験	40
到達目標②	発表スライド プレゼンテーション	20
到達目標③	定期試験	30
到達目標④	レポート	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	公認心理師の職責（公認心理師の基礎と実践①（第1巻））	遠見書房	野島一彦

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	カウンセリングの実際問題	誠信書房	河合隼雄
2	インタビュー臨床心理士1、2	誠心書房	津川律子・安斎順子編

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

授業は、公認心理師になるとするのならばどのような知識が必要か、どのような能力、姿勢が求められるのかを軸に進めます。公認心理師を目指す明確な目的意識を持っていることが求められます。

課題に対するフィードバック

毎回、振り返りの問題を解いて、答え合わせをする。翌授業時に、振り返りを全体に向けて行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	本授業の目的、進め方について（オリエンテーション） 将来の進路、院入試に向けた抱負について発表する。	【予習】将来の進路、院入試に向けた抱負について考えておく 【復習】院入試に向けた抱負の見直し	
第2回	公認心理師の役割（教科書第1章）	【予習】教科書の該当章に目をとおしておく。 【復習】授業の振り返りシートの見直し	A
第3回	公認心理師の法的義務・倫理（教科書第2章）	【予習】教科書の該当章に目をとおしておく。 【復習】授業の振り返りシートの見直し	A
第4回	クライアント/患者らの安全の確保のために（教科書第3章）	【予習】教科書の該当章に目をとおしておく。 【復習】授業の振り返りシートの見直し	A
第5回	情報の適切な取り扱いについて（教科書第4章）	【予習】教科書の該当章に目をとおしておく。 【復習】授業の振り返りシートの見直し	A
第6回	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務（教科書第5章）	【予習】保健医療分野についてパワーポイントにまとめる。 【復習】授業の振り返りシートの見直し	
第7回	福祉分野における公認心理師の具体的な業務（教科書第6章）	【予習】福祉分野についてパワーポイントにまとめる。 【復習】授業の振り返りシートの見直し	
第8回	教育分野における公認心理師の具体的な業務（教科書第7章）	【予習】教育分野についてパワーポイントにまとめる。 【復習】授業の振り返りシートの見直し	
第9回	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務（教科書第8章）	【予習】司法・犯罪分野についてパワーポイントにまとめる。 【復習】授業の振り返りシートの見直し	
第10回	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務（教科書第9章）	【予習】産業・労働分野についてパワーポイントにまとめる。 【復習】授業の振り返りシートの見直し	
第11回	多職種連携と地域連携（教科書第12章）	【予習】教科書の該当章に目をとおしておく。 【復習】多職種連携・地域連携についてレポートにまとめる。	A
第12回	支援者としての自己課題発見・解決能力（教科書第10章）	【予習】教科書の該当章に目をとおしておく。 【復習】心理テストの結果から、自分の課題について考え、文章化する。次回レポート提出	C
第13回	活躍する心理士から学ぶ	【予習】将来心理士になったときの課題を想定しておく	A

		【復習】講義で印象に残ったことをレポートにまとめる。	
第14回	先輩から学ぶ	【予習】心理実習で何を学びたいと思うのか、考えておく。	B
		【復習】発表で印象に残ったことをレポートにまとめる。	
第15回	生涯学習への準備（教科書第11章）	【予習】教科書の該当章に目をおしてくる。 【復習】生涯学習への準備について文章化を完成させる。	
	定期試験		

関係行政論

更新日：2024/03/27 11:42:29

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M327000	授業コード	2M327000
担当教員	中野 一茂						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S8302	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。		
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	この授業では、公認心理師が業務を行っている福祉相談機関及び施設、医療機関及び施設、矯正保護機関及び施設、司法関係機関、教育相談機関、大学の心理教育相談所、事業所等の心理相談機関、等において必要とされる行政及び関連法規について検討する。
方法	講義・反転授業・グループディスカッション、小テスト、レポート提出

履修条件

履修する上の留意点

制度・法規が中心の授業です。予習・復習をしっかりと行って授業に臨んでください。

到達目標

1	心理業務を遂行する際に必要とされる行政や法規に関する基本的知識や考え方を説明することができる。
2	公認心理師法を理解して説明することができる。
3	社会福祉法 児童福祉法 児童虐待防止法 老人保健法 老人福祉法 介護保険法 障害者総合支援法 障害者差別解消法について説明できる
4	刑法 刑事訴訟法 少年法 少年院法 心神喪失者等医療観察法 犯罪被害者等基本法について説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	40
到達目標②	小テスト	10
到達目標③	小テスト	25
到達目標④	小テスト	25
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	公認心理師の基礎と実践23 関係行政論	遠見書房	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

重要ポイントのフィードバック

不定期小テスト・レポート・授業ノート提出の返却や講評を行う

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	法体系と公認心理師の理解① 法体系と行政 日本国憲法と法体系 法と行政 資格と法	教科書をよく読みこの授業で取り組む法体系と行政 日本国憲法と法体系 法と行政 資格と法について理解し、その内容をまとめる。	A
第2回	法体系と公認心理師の理解②公認心理師法の理解 公認心理師法 名称独占資格と業務独占資格	教科書をよく読みこの授業で取り組む保健医療分野の専門家と施設 医師法 保健師助産師看護師法 精神保健福祉士法 病院・診療所 保健所について理解し、その内容をまとめる。	A
第3回	保健医療分野の法律と政策 保健医療分野の専門家と施設 医師法 保健師助産師看護師法 精神保健福祉士法 病院・診療所 保健所	教科書をよく読みこの授業で取り組む保健医療分野の専門家と施設 医師法 保健師助産師看護師法 精神保健福祉士法 病院・診療所 保健所について理解し、その内容をまとめる。	A
第4回	保健医療分野に関係する制度②精神保健福祉法 心神喪失者等医療観察法 国民健康保険制度 地域保健法 健康増進法	教科書をよく読みこの授業で取り組む保健医療分野の専門家と施設 医師法 保健師助産師看護師法 精神保健福祉士法 病院・診療所 保健所について理解し、その内容をまとめる。	A
第5回	福祉分野の専門家と施設 精神保健福祉士法 社会福祉士及び介護福祉士法 障害福祉サービスをおこなう施設	教科書をよく読みこの授業で取り組む精神保健福祉士法 社会福祉士及び介護福祉士法 障害福祉サービスをおこなう施設について理解し、その内容をまとめる。	A
第6回	福祉分野の基本となる法律 社会福祉法 児童福祉法 児童虐待防止法 老人保健法 老人福祉法 介護保険法 障害者総合支援法 障害者差別解消法	教科書をよく読みこの授業で取り組む社会福祉法 児童福祉法 児童虐待防止法 老人保健法 老人福祉法 介護保険法 障害者総合支援法 障害者差別解消法について理解し、その内容をまとめる。	A
第7回	教育分野の基本となる法律 教育基本法 学校教育法 学校保健安全法	教科書をよく読みこの授業で取り組む 教育分野の専門家と施設 教員 養護教員 スクールカウンセラー 学校 教育委員会について理解し、その内容をまとめる。	A
第8回	司法・犯罪分野の専門家と施設 裁判官 検察官 弁護士 家庭裁判所調査官 警察官 少年鑑別所鑑別技官 保護観察官裁判所 刑務所 少年鑑別所 更生保護施設	教科書をよく読みこの授業で取り組む 教育基本法 学校教育法 学校保健安全法について理解し、その内容をまとめる。	A
第9回	司法・犯罪分野の基本となる法律 刑法 刑事訴訟法 少年法 少年院法 判官 検察官 弁護士 家庭裁判所調査官 警察官 少年鑑別所鑑別技官 保護観察官裁判所 刑務所 少年鑑別所 更生保護施設について	教科書をよく読みこの授業で取り組む裁判官 検察官 弁護士 家庭裁判所調査官 警察官 少年鑑別所鑑別技官 保護観察官裁判所 刑務所 少年鑑別所 更生保護施設について理解し、その内容をまとめる。	A
第10回	司法・犯罪分野の基本となる法律 刑法 刑事訴訟法 少年法 少年院法 少年鑑別所鑑別技官 保護観察官裁判所 刑務所 少年鑑別所 更生保護施設について	教科書をよく読みこの授業で取り組む裁判官 検察官 弁護士 家庭裁判所調査官 警察官 少年鑑別所鑑別技官 保護観察官裁判所 刑務所 少年鑑別所 更生保護施設について理解し、その内容をまとめる。	A
第11回	産業・労働分野の専門家と施設 労働基準監督官 産業安全専門官・労働衛生専門官 産業医 障害者職業センター	教科書をよく読みこの授業で取り組む 刑法 刑事訴訟法 少年法 少年院法について理解し、その内容をまとめる。	A
第12回	産業・労働分野の基本となる法律 労働基準法 労働安全衛生	教科書をよく読みこの授業で取り組む労働基準法	A

	法 過労死防止対策推進法 道路交通法 道路運送法 貨物自動車運送事業法	労働安全衛生法 過労死防止対策推進法 道路交通法 道路運送法 貨物自動車運送事業法について理解し、その内容をまとめる。	
第13回	教育分野重要法規 発達障害者支援法 いじめ防止対策推進法	教科書をよく読みこの授業で取り組む発達障害者支援法 いじめ防止対策推進法について理解し、その内容をまとめる。	A
第14回	司法・犯罪分野重要法規 心神喪失者等医療観察法 犯罪被害者等基本法	教科書をよく読みこの授業で取り組む精神保健福祉法 心神喪失者等医療観察法について理解し、その内容をまとめる。	A
第15回	保険医療重要法規 精神保健福祉法 心神喪失者等医療観察法	教科書をよく読みこの授業で取り組む精神保健福祉法 心神喪失者等医療観察法について理解し、その内容をまとめる。	A
	定期試験		

産業・組織心理学

更新日：2024/03/27 11:42:31

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M330000	授業コード	2M330000
担当教員	松本 みゆき						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S7305	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	産業・組織心理学は働く人びとや、人びとが集まって構成する組織・集団について心理学的なメカニズムを明らかにしようとするものである。本講義では、職場における問題や、組織・集団における人の行動について、具体的な事例を通してその背景にある心理学的な仕組みを理解し、産業・組織心理学の知識を身につける。
方法	パワーポイントのスライドに沿って講義を行う。毎回の講義の終わりに、内容についての小テストを行う。小テストは次回の授業の初めに解説する。

履修条件

この科目は「心理学概論」及び「心理学的支援法(概論)」の内容を理解していることを想定して授業を行います。シラバスで約束した内容を限られた時間内で説明するために、これらの科目で扱う内容については丁寧に説明することはできません。これらの科目を履修していない皆さんには内容が理解できず、単位を修得できない可能性が高いですので、登録の変更をお勧めします。

履修する上の留意点

毎回の小テストは授業内容から出題する。

到達目標

1	現実の組織・集団について意欲的に考える姿勢を持つことができる。
2	産業・組織心理学の基礎的な知識を身につける。
3	自分自身の考えを産業・組織心理学の観点からまとめることができる。
4	産業・組織心理学の基本的な概念について、その定義や基本的な研究が解説できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト	20
到達目標②	小テスト	20
到達目標③	レポート	20
到達目標④	レポート	40
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特に使用しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

産業・組織心理学はこれから社会に出て働く皆さんにとって、大変役に立つ学問です。日ごろから働く人びとに関わる心理学的な問題に関心を持ち、ぜひ意欲的に授業に参加してください。

課題に対するフィードバック

小テストは、次回の授業の初めに解説を行いフィードバックする。回答は小テスト回答後直ちに確認できる。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	ガイダンス（授業の内容と評価方法の説明）、産業・組織心理学とは何か	予習：働く人びとに関わる心理学的な問題について関心を持つ。 復習：授業内容についてまとめる。	A
第2回	産業・組織分野の制度・法律・職種及び活動の倫理 ：労働基準法、労働契約法、労働安全衛生法、産業精神保健等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第3回	産業・組織分野における心理学的アセスメント ：性格検査、職業御興味検査等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第4回	産業・組織分野における心理学的援助 ：職場環境改善、ストレスチェック制度、職業能力開発基本計画等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第5回	職場集団のダイナミクスとコミュニケーション ：集団規範、集団意思決定、職場の人間関係等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第6回	組織成員の心理と行動 ：ワークモチベーション、目標設定理論等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第7回	作業改善・安全衛生 ：ヒューマンエラー、安全衛生活動、リスクアセスメント等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第8回	人事・ヒューマンリソースマネジメント ：採用、面接、人事評価等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第9回	消費者行動 ：マーケティング、説得、消費者間相互作用等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第10回	職業性ストレスとメンタルヘルス ：ストレッサー、ワークエンゲージメント、バーンアウト、感情労働等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第11回	リーダーシップ理論の基礎 ：共有型リーダーシップ、フォロワー、状況即応論的アプローチ等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第12回	リーダーシップ理論の研究動向 ：サーバントリーダーシップ等近年取り上げられる、リーダーシ	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参	A

	ップスタイルとその研究動向について	照して理解を深める。	
第13回	キャリア形成の基礎 ：キャリア教育、スーパーの職業的発達段階、シャインのキャリア・アンカー等について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第14回	キャリア形成の研究動向 ：JD-Rモデル等を用いて議論されている、近年のキャリア研究の研究動向について	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：小テストを見直して、授業スライドなどを参照して理解を深める。	A
第15回	産業・組織心理学のまとめ	予習：授業で取り上げる内容について調べる。 復習：レポート課題に取り組む。	A

司法・犯罪心理学

更新日：2024/03/27 11:42:33

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M331000	授業コード	2M331000
担当教員	廣井 いずみ						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S7304	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	犯罪理論について、生物-心理-社会の観点から学ぶ。また犯罪者処遇をとおして、社会がどのように犯罪に対応しようとしているのか、課題が何であるのかを知る。被害者がどのような被害を被るのか、犯罪に強い町とは、どのような町なのかを学ぶことにより、犯罪を身近なこととして捉える。DV、児童虐待を取り上げ、家庭の中の犯罪の特殊性を学ぶ。
方法	授業スライド、オンライン動画を用いた講義の他、ディスカッションなどのグループワークを取り入れ、理解を深める。

履修条件

履修する上の留意点

心理学概論、臨床心理学概論の単位を修得していることが望ましい。

到達目標

1	犯罪理論について説明できる。
2	犯罪者・非行少年の処遇制度と課題について説明できる。
3	被害者の被害について、身体的、精神的、心理的側面から説明することができる。
4	防犯の考え方について説明でき、具体的な方策を挙げることができる。
5	DV、児童虐待について、被害者の被害について、精神・心理・社会的側面から説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	40
到達目標②	定期試験	30

到達目標③	定期試験	10
到達目標④	定期試験	10
到達目標⑤	定期試験	10
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	犯罪心理学 犯罪の原因をどこに求めるのか	培風館	大淵憲一
2	ライブラリ 心理学の杜15 司法・犯罪心理学	サイエンス社	森丈弓ほか（著）
3	女子少年院の少女たち 「普通」に生きることがわからなかった	さくら舎	中村すえこ

オープンな教育リソース

裁判所 ビデオ「少年審判～少年の健全な育成のために～」 https://www.courts.go.jp/links/video/shounenshinpan_video/index.html

裁判所 裁判手続き少年事件Q&A https://www.courts.go.jp/saiban/qa/qa_syonen/index.html

Microsoft PowerPoint - 0818 0824 H28 学校安全教室（防犯） <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/documents/anzenkyousitu.pdf>

男女共同参画局 配偶者からの暴力被害者支援情報 https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/shien/index.html

学生へのメッセージ

犯罪についてどのように対応すべきか、社会の一員として考える姿勢を身につけて下さい。

課題に対するフィードバック

毎回の授業で振り返り課題を解き、答え合わせをする。翌授業回で、授業の振り返りを全体に向けて行う。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 犯罪心理学では何を学ぶのか 統計からみる犯罪 少年事件は、増えているのか減っているのか調べてみよう！	【予習】 シラバスで学習内容を確認する。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第2回	刑事事件・少年事件の流れ	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第3回	犯罪理論（1）－社会・地域から犯罪を捉える－ 緊張理論 下位文化理論	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第4回	犯罪理論（2）－犯罪の生物学的要因，犯罪と知能－ ロンブローゾの生来性犯罪者説 犯罪の生物学的要因 遺伝的要因 犯罪と知能	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第5回	犯罪理論（3）－犯罪のパーソナリティ要因－ 犯罪とビッグファイブ 低自己統制と衝動性 負の情動性とストレス反応 刺激欲求特性	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第6回	犯罪理論（4）－発達の視点（1）－ ハーシーの社会的絆理論 ケンブリッジ非行発達研究 反社会性の形成因	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第7回	犯罪理論（5）－発達の視点（2）－ モフィットの犯罪発達理論 児童期の問題行動 学業成績と非行 仲間からの影響	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第8回	盗みの理解と心理的援助 （グループでの事例検討あり）	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	B

第9回	家庭裁判所・少年鑑別所・少年院での仕事 (予習問題あり)	【予習】 最高裁判所の公開ビデオ「少年審判～少年の健全な育成のために～」 https://www.courts.go.jp/links/video/shounenshinpan_video/index.html を見ておく 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第10回	保護観察所・刑事施設での仕事・刑事施設のあり方について	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	B
第11回	NPO法人による非行少年の立ち直り支援活動(予習課題あり)	【予習】 セカンドチャンスの資料に目をとおしておく。 【復習】 講義を聴いて印象的だったことを文章化する。	
第12回	被害者の理解と支援	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第13回	安心・安全なまちづくり (予習問題あり)	【予習】 地域安全マップ https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/documents/anzenkyousitu.pdf を見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第14回	DV(ドメスティック・バイオレンス)の理解と加害者支援	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
第15回	児童虐待	【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 振り返り課題の見直し	A
	定期試験		

心理データ解析演習

更新日：2024/03/27 11:42:34

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M334030	授業コード	2M334030
担当教員	塚本 恵信						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S5203	授業形態	演習・実習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	心理学研究では多様な心理・行動についてのデータを収集し、統計的に分析することが求められる。本科目ではExcelで作動するフリー統計分析ソフトHADを用いた記述統計と推測統計の手法について解説し、実際に演習課題の実践を通して基礎的なデータ解析スキルの習熟を目指す。授業ではHADによるデータ解析の選択や操作手順ならびに結果の読み取りや報告の記述等について取り扱う。
方法	ExcelおよびHADを使用したコンピュータ実習が基本となる。各回で演習課題を実施して提出を求める。解説はコンピュータ・プレゼンテーションにて実施する。

履修条件

「パソコン演習（基礎）」「パソコン演習（応用）」「インターネット入門」を単位修得済、もしくは「情報リテラシー」を単位修得済であること。加えて「心理学統計法Ⅰ」を履修中または単位修得済であること。教室定員が履修者数の上限となる。

履修する上の留意点

各回の課題について期限内提出を遵守すること（未提出は減点となり単位取得の支障になる）。資料やデータ等はすべてファイル配布するので自己管理を要する（TeamsやForms等を使用）。基礎的なPC操作（特にExcel）やファイル管理の技能が求められるので留意すること。

到達目標

1	目的やデータに応じた解析手法を適切に判別・解説できる
2	データ解析の操作手順を適切に実行できる
3	解析結果を的確に読み取り、報告を適切に記述・説明できる

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	演習課題(30%)・定期試験(70%)	25
到達目標②	演習課題(30%)・定期試験(70%)	25
到達目標③	演習課題(30%)・定期試験(70%)	50
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	Excelで今すぐはじめる心理統計—簡単ツールHADで基本を身につける	講談社	小宮あすか・布井雅人

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	統計嫌いのための心理統計の本—統計のキホンと統計手法の選び方	創元社	白井祐浩

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

毎回出席（教科書必携）が基本である。各回の講義・演習・課題にしっかりと取り組み、各手法の内容やHADの操作手順および結果の処理等について復習と反復練習に努めること。

課題に対するフィードバック

演習課題について正答や解答例を提示・解説する。演習実施中にも巡回しながら適宜対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	イントロダクション：心理統計の意義	心理統計の役割について予習/復習する	
第2回	心理統計の基礎：記述統計	尺度水準や記述統計の指標を予習/復習する	
第3回	心理統計の基礎：推測統計	推測統計（統計的検定）の手法を予習/復習する	
第4回	HADによるデータ解析：基本操作・記述統計	HADの基本操作や記述統計の手順を予習/復習する	A
第5回	HADによるデータ解析：相関分析	相関分析の考え方やHADの操作手順と結果の読み取り、報告の記述を予習/復習する	A
第6回	HADによるデータ解析：カイ二乗検定	カイ二乗検定の考え方やHADの操作手順と結果の読み取り、報告の記述を予習/復習する	A
第7回	前半の復習：記述統計・相関分析・カイ二乗検定	HADによる記述統計・相関分析・カイ二乗検定のデータ解析について予習/復習する	A
第8回	HADによるデータ解析：対応のないt検定	対応のないt検定の考え方やHADの操作手順と結果の読み取り、報告の記述を予習/復習する	A
第9回	HADによるデータ解析：対応のあるt検定	対応のあるt検定の考え方やHADの操作手順と結果の読み取り、報告の記述を予習/復習する	A
第10回	HADによるデータ解析：1要因分散分析（参加者間要因）	1要因分散分析（参加者間要因）の考え方やHADの操作手順と結果の読み取り、報告の記述を予習/復習する	A
第11回	HADによるデータ解析：1要因分散分析（参加者内要因）	1要因分散分析（参加者内要因）の考え方やHADの操作手順と結果の読み取り、報告の記述を予習/復習する	A
第12回	HADによるデータ解析：2要因分散分析（混合要因）	2要因分散分析（混合要因）の考え方やHADの操作手順と結果の読み取り、報告の記述を予習/復習する	A
第13回	HADによるデータ解析：2要因分散分析（参加者内要因）	2要因分散分析（参加者内要因）の考え方やHADの操作手順と結果の読み取り、報告の記述を予習/復習する	A
第14回	HADによるデータ解析：2要因分散分析（参加者間要因）	2要因分散分析（参加者間要因）の考え方やHADの操作手順と結果の読み取り、報告の記述を予習/復習する	A
第15回	後半の復習：t検定・分散分析	HADによるt検定・分散分析のデータ解析について予習/復習する	A
	定期試験（実技）		

心理演習

更新日：2024/03/27 11:42:37

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M342020	授業コード	2M342020
担当教員	廣井 いずみ、土屋 満知						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S8303	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	コミュニケーションスキルを身につけている。
△	汎用的技能	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。
△	態度・志向性	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	公認心理師としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。心理に関する支援を要する者等に関する以下について、授業内演習や事例検討等を通して学び、臨床心理学的支援に求められる基礎的知識とスキルを身につけることを目標とする。(1) コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援。(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(3) 心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。(4) 多職種連携及び地域連携。(5) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。
方法	具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイ)や事例検討等を行い、心理に関する支援を要する者とのコミュニケーション、心理面接に関する知識及び技能等の修得を目指す。毎回、レクチャーを行った後、収録されたロールプレイングの解説を行う。

履修条件

- 公認心理師を目指す人に必要とされる基本的技能を学ぶ科目である。履修は公認心理師を目指す学生のみに限定される。ロールプレイや事例検討等の演習を行うため、履修者は最大10名とする。令和2(2020)年度以降の入学者で、公認心理師の受験資格を得ることを目指す学生は履修が必要となる。
- 「心理学的支援法」の単位を取得済であること。

履修する上の留意点

- 具体的な面接場面を想定した役割演技(ロールプレイ)を行い、授業内で取り上げるため、事例の設定、ロールプレイングの収録、逐語録作成、振り返り等、授業外での学習が必要となる。
- 演習を行うため、ある程度自己表現ができ、秘密を守ることを求める。
- 演習を通してディスカッションを行うので、積極的な発言を求める。
- 遅刻・欠席をしないこと。

到達目標

1	具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を通じて、心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能を身につけることができる。
---	---

2	心理に関する支援を要する者との間で、ニーズを把握した上で、コミュニケーションを取ることができる。
3	他職種連携および地域連携について理解し、協働して働くことへのイメージを持つことができる。
4	公認心理師としての職業倫理、法的義務について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業時の評価および小レポート	40
到達目標②	授業時の評価および小レポート	40
到達目標③	授業時の評価および小レポート	10
到達目標④	授業時の評価および小レポート	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特に指定しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	カウンセリング・テキスト	創元社	ジェラード・イーガン
2	心理臨床実習 心理面接の技法と実際	培風館	赤塚大樹・森谷寛之（共編）
3	モモ	岩波書店	ミヒヤエル・エンデ（著）大島かおり（訳）

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

意欲的かつ積極的に演習に取り組むことを希望する。

課題に対するフィードバック

ルーブリックに基づいてレポートを評価する。レポート（小レポート含む）は、全体で共有する機会を持ち、授業担当者がコメントを行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション ・授業の進め方と授業計画について ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	予習：シラバスを読んでくる。公認心理師としての職業倫理について調べ、重要だと思うキーワードを3つ挙げる。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	
第2回	心理面接（1） ・"心を聴くこと"の難しさ ・ラポールと傾聴の重要性	予習：日常生活において、他者とのように心の周波数を合わせているか、振り返って考えをまとめてくる。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第3回	心理面接（2） ・心理面接のやり方	予習：心理面接を行う際に注意すべき点について調べてくる。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第4回	コミュニケーション ・ノンヴァーバル（非言語的）コミュニケーション 模擬カウンセリングに向けての準備	予習：日常生活において、他者とのような非言語的コミュニケーションを取っているか、振り返って考えをまとめてくる。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	D
第5回	事例の理解（1） ・心理検査を実施した事例検討 ・模擬カウンセリング（1組）収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：描画法などの心理検査に見られる非言語的な表現手段をどのように心理面接に活用できそうか、自由に考えをまとめてくる。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第6回	事例の理解（2） ・保健医療領域の事例検討 ・模擬カウンセリング（2組）収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：指定された人は模擬カウンセリングを実施、収録し、それを逐語録に起こして事前に提出。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D

第7回	事例の理解 (3) ・教育領域の事例検討 ・模擬カウンセリング (3組) 収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：指定された人は模擬カウンセリングを実施、収録し、それを逐語録に起こして事前に提出。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第8回	事例の理解 (4) ・福祉領域の事例検討 ・模擬カウンセリング (4組) 収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：指定された人は模擬カウンセリングを実施、収録し、それを逐語録に起こして事前に提出。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第9回	事例の理解 (5) ・産業領域の事例検討 ・模擬カウンセリング (5組) 収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：指定された人は模擬カウンセリングを実施、収録し、それを逐語録に起こして事前に提出。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第10回	事例の理解 (6) ・支援を要する者のニーズの把握及び支援計画の作成について、事例検討 ・模擬カウンセリング (6組) 収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：指定された人は模擬カウンセリングを実施、収録し、それを逐語録に起こして事前に提出。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第11回	事例の理解 (7) ・チームアプローチについて、事例検討 ・模擬カウンセリング (7組) 収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：指定された人は模擬カウンセリングを実施、収録し、それを逐語録に起こして事前に提出。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第12回	事例の理解 (8) ・多職種連携について事例検討 ・模擬カウンセリング (8組) 収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：指定された人は模擬カウンセリングを実施、収録し、それを逐語録に起こして事前に提出。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第13回	事例の理解 (9) ・地域連携、地域支援について事例検討 ・模擬カウンセリング (9組) 収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：指定された人は模擬カウンセリングを実施、収録し、それを逐語録に起こして事前に提出。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第14回	事例の理解 (10) ・模擬カウンセリング (10組) 収録映像と逐語録の振り返りと検討	予習：指定された人は模擬カウンセリングを実施、収録し、それを逐語録に起こして事前に提出。 復習：本授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第15回	全体のまとめと振り返り・ディスカッション 質疑応答	予習：これまでの授業内容を振り返り、まとめと振り返りをレポートにする。 復習：これまでの授業を通して、理解できたことを授業を振り返り、自分でまとめる。	A,B

心理実習

更新日：2024/03/27 11:42:39

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M343000	授業コード	2M343000
担当教員	土屋 満知、廣井 いずみ、長岡 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	S8401	授業形態	実習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	公認心理師の活躍する5領域のうちの、教育、医療・保健、福祉、司法・犯罪領域の実習機関で実習を行なう。実習のみならず、事前学習、事後学習をしっかりと行なうことにより、公認心理師に必要な態度、知識、技能を身につける。
方法	事前学習では、文献学習、DV視聴、グループ討論、ロールプレイなどにより、支援を要する者との関わり、公認心理師に期待されること、チームアプローチ、多職種連携・地域連携などについて学び、実習に備える。事後学習では、実習で何ができ、何ができなかったのか、課題は何かを振り返る。事後学習の振り返りについて、スライドを提示しながら発表する。

履修条件

心理演習を履修していること。公認心理師科目25のうち、心理演習も含めて22科目を修得済であること。

履修する上の留意点

遅刻・欠席をしないこと。遅刻や欠席をする場合は、必ず連絡を入れること。
学外実習費用として、実習費 6,000 円程度が必要となる。

到達目標

1	実習機関の概要と役割について説明できる。
2	支援を要する者を理解し、関わりを持つことができる。
3	各領域の公認心理師の業務、職責について理解し、説明できる。
4	多職種連携及び地域連携について理解し、説明できる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	事前学習でのレポート	25
到達目標②	事前学習、実習時の状況、事後学習	25
到達目標③	事前学習、実習時の状況、事後学習	25
到達目標④	事前学習、実習時の状況、事後学習	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	居るのはつらいよ	医学書院	東畑開人
2	統合失調症は治りますか？当事者、家族、支援者の疑問に答える	日本評論社	池淵恵美

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

学外実習は、実習施設の指導者が日常業務をこなしながら、実習生のために時間を割いて対応してくれている。「学ばせていただく」という姿勢を忘れないこと。

実習時間を満たさないと、公認心理師科目として認められないため、自分が何を何時間学んだのか、具体的かつ正確に記録すること。

課題レポートや実習に必要な書類作成は、必ず期限内に提出すること。

実習は、実習施設の利用者の方やスタッフの方とのコミュニケーションが基本になる。挨拶をする、御礼を言う、わからないことは質問するなど基本的な会話はきちんと行なうこと。

課題に対するフィードバック

実習についての講評は、報告書にコメントを付す、口頭でフィードバックするなど随時行なう。

実習内容

授業計画	<p>実習は、精神科病院、総合病院、附属高校の相談室および保健室、少年院、不登校相談機関の5ヶ所で行う。</p> <p>実習の前段階として、以下①～④について文献や映像等を通して理解を深め、ロールプレイを行なうことで体験的に学び、ディスカッションを通して多面的な捉え方ができるようにする。</p> <p>①公認心理師として支援を要する者の役に立つとは、どのようなことなのか考える。</p> <p>②各施設の概要・役割について知る。</p> <p>③各施設の利用者や対象者について知る。</p> <p>④各施設でどのような心理的アセスメントや心理的支援が行われているのか知る。</p> <p>実習ではどのような流れで、何を見てくるのか、体験するのか具体的にイメージを持っておく。特に問題意識を明らかにしておく必要がある。</p> <p>実習後は、実習で学んだことを具体的に言語化し、報告書に記載する。授業ではディスカッション等を行い、他の実習生の考えや意見からも学びを深め、振り返りを行う。</p>
授業準備 (予習・復習を含む)	<p>予習：実習の手引きや指定された参考書に目を通す、関連するテーマについてインターネットで調べておく。</p> <p>復習：授業や実習体験を振り返り、体験を言語化し、報告書にまとめる。</p>

心理学演習Ⅰ ≪非行心理≫

更新日：2024/03/27 11:42:42

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M347010	授業コード	2M347010HI
担当教員	廣井 いずみ						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	専心基-3-30	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	犯罪心理学、青年心理学、家族心理学の領域において、興味のあることを明確にし、研究テーマを見いだす。卒論に向けて、研究テーマに関連する理論を押し、テーマに適した方法論を検討する。
方法	問題意識に沿った専門書、論文を読み、要旨を発表する。ゼミのメンバーと討論することで、研究テーマを絞る。テーマに関連する文献を読み、文章化し、発表することで、テーマに関する知見を深める。文献検索は、オンライン検索と図書館での検索の双方を活用する。問題意識は、その都度文章化し、文書ファイルはワンドライブに保存する。引用文献もワンドライブで、管理する。個別作業を軸にしなが、グループ・ワークを取り入れることで、相互に学び合うこととする。

履修条件

特になし

履修する上の留意点

心理学統計法Ⅱ、心理データ解析演習を履修していることが望ましい。

到達目標

1	関心を持ったテーマについて、先行研究を調べることができる。
2	文献を読んで、要点をまとめることができる。
3	問題意識を研究テーマにまとめ上げることができる。
4	研究方法について、テーマに即した方法を選ぶことができる。
5	客観的で明快な文章表現ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業時の発表、レポート	20
到達目標②	授業時の発表、レポート	20
到達目標③	授業時の発表、レポート	20
到達目標④	授業時の発表、レポート	20
到達目標⑤	授業時の発表、レポート	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる卒論の書き方〔第2版〕	ミネルヴァ書房	白井利明・高橋一郎 著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか (心理学の世界 専門編)	培風館	大淵 憲一 (著)
2	離婚で壊れる子どもたち 心理臨床家からの警告	光文社新書	棚瀬一代 (著)
3	シリーズ生涯発達心理学④エピソードでつかむ青年心理学	ミネルヴァ書房	大野久 (編著)
4	まんがでわかる 発想法 ひらめきを生む技術	中央公論新社	川喜田二郎、山田しづ
5	心理学の卒業研究ワークブック	金子書房	小塩真司・宅香菜子

オープンな教育リソース

日本心理学会倫理規定 https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2017/09/rinri_kitei.pdf

日本教育心理学会倫理綱領 4ad9a1d91eb958c280f32a0600fd8b311.pdf

学生へのメッセージ

今まで学んだことを基礎に、自分の発想でテーマを創り出してみよう。授業では、論文を読んで発表し、討議します。能動的な学びが大切になります。休む場合には、必ずメール連絡すること。次回までの課題を伝えます。

課題に対するフィードバック

授業での発表、レポートについては、授業時にフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション、シラバスの確認 自己紹介	【予習】シラバスを見て、全体の流れを理解する。 【復習】年間スケジュールを作成する。	
第2回	研究計画を立てる。	【予習】教科書の第1章に目をとおす。 【復習】研究計画を文章化する。	
第3回	論文を読む練習（1） 論文のどこに注目するのか、何から読むのか、用語がわからない場合の調べ方について学ぶ。 指定した論文を「方法」まで読み、概要を発表する。	【予習】指定した論文の理解できない用語を調べてくる。 【復習】授業で取り上げた論文について、「方法」まで概要をまとめる。	B
第4回	論文を読む練習（2） 指定した論文の「結果」と「考察」を読み、概要を発表する。	【予習】指定した論文の理解できない用語を調べてくる。 【復習】授業で取り上げた論文について、全体の概要を作成する。	B
第5回	クリティカル・ライティングについて学ぶ。	【予習】クリティカル・ライティングの配付資料に目をとおす。 【復習】クリティカル・ライティングに従い、第3回、第4回の記事全体を書き直す。	
第6回	図書館、WEBで文献検索を行なう。	【予習】キーワードを考えてくる。 【復習】借りた書籍に目をとおす。	
第7回	研究の背景を学ぶ① なぜ人は犯罪を犯すのか（個人要因）	【予習】参考書1に目をとおす 【復習】興味を持ったテーマを書きとどめ、論文検索を行なう。	A
第8回	研究の背景を学ぶ② なぜ人は犯罪を犯すのか（環境要因）	【予習】参考書1に目をとおす 【復習】興味を持ったテーマを書きとどめ、論文検索を行なう。	A
第9回	研究の背景を学ぶ③ 青年が抱える課題について学ぶ。	【予習】参考書3に目をとおす 【復習】興味を持ったテーマを書きとどめ、論文検索を行なう。	A
第10回	研究の背景を学ぶ④	【予習】参考書2に目をとおす	A

	「離婚と子ども」について学ぶ	【復習】興味を持ったテーマを書きとどめ、論文検索を行なう。	
第11回	リサーチクエストの立て方を学ぶ。	【予習】教科書第6章に目をとおす。 【復習】要点を文章化する。	B
第12回	検索した先行研究を素材に、論文の読み方を学ぶ。	【予習】先行研究に目をとおす。 【復習】専門用語を調べてくる。	
第13回	先行研究の要旨をまとめる。	【予習】先行研究を読み、要点を押える。 【復習】要旨を文章化する。	
第14回	先行研究をパワーポイントで紹介する（グループ1について）。概略をつかむ練習	【予習】先行研究を読み、パワーポイントにまとめる。 【復習】他のメンバーから出された意見を参考に見直す。	A
第15回	先行研究をパワーポイントで紹介する（グループ2について）。概略をつかむ練習	【予習】先行研究を読み、パワーポイントにまとめる。 【復習】他のメンバーから出された意見を参考に見直す。 夏休み中に読んだ本を400字でまとめる。	A
第16回	リサーチクエストから発展させて、研究テーマを文章化する。	【予習】リサーチクエストを見直す。 【復習】研究テーマについてまとめる。	B
第17回	研究のフィールドについて考える。	【予習】自分のテーマで、どのようなフィールドで調査できるのか考える。 【復習】研究のフィールドについて考えをまとめる。	
第18回	研究方法について考える。 量的研究、質的研究とはどのような研究方法か知る。	【予習】テーマに即した研究方法を考える。 【復習】それぞれの研究法の特徴を見直す。	
第19回	先行研究をパワーポイントで紹介する（グループ1について）。特に研究方法、分析方法に焦点を当てる。	【予習】先行研究を読み、パワーポイントにまとめる。 【復習】他のメンバーから出された意見を参考に文章を見直す。	A
第20回	先行研究をパワーポイントで紹介する（グループ2について）。特に研究方法、分析方法に焦点を当てる。	【予習】先行研究を読み、パワーポイントにまとめる。 【復習】他のメンバーから出された意見を参考に文章を見直す。	A
第21回	研究方法について学ぶ① 研究倫理について学ぶ 論文の引用方法について学ぶ。	【予習】教科書第2章に目をとおす。 【復習】研究倫理、引用方法について見直す。	A
第22回	研究方法について学ぶ② 質問紙調査の基本について学ぶ	【予習】教科書第8章に目をとおす。 【復習】教科書を見直す。	A
第23回	研究方法について学ぶ③ 質問紙調査の実施法について学ぶ	【予習】教科書第8章に目をとおす。 【復習】教科書を見直す。	A
第24回	質的研究法（KJ法）について学ぶ①	【予習】KJ法について参考書4に目をとおす。 【復習】KJ法の手順を見直す。	B
第25回	質的研究法（KJ）について学ぶ②	【予習】KJ方について参考書4に目をとおす。 【復習】結果を文章化する。	B
第26回	自分のテーマに即した研究方法について考える① 先行研究がどのような方法論を採用しているのか検討し、文章化する。	【予習】テーマについて何を知りたいか明確にする。 【復習】先行研究の方法論をまとめる。	
第27回	自分のテーマに即した研究方法について考える② 先行研究の方法論から、自らの方法論を導き出す。	【予習】先行研究の対象や目的において、自分の研究と共通する点、異なる点を明らかにする。 【復習】自らの方法論について文章化する。	
第28回	発表の準備	【予習】発表することを箇条書きにする。 【復習】発表スライドを完成させる。	
第29回	先行研究の研究結果について、パワーポイントを使って発表する。 他のメンバーからの質問、意見によって見直す。（グループ1）	【予習】研究の経過をパワーポイントにまとめる。 【復習】メンバーの意見を参考に、研究の進め方を見直す。	A
第30回	先行研究の研究結果について、パワーポイントを使って発表する。 他のメンバーからの質問、意見によって見直す。（グループ2）	【予習】研究の経過をパワーポイントにまとめる。 【復習】メンバーの意見を参考に、研究の進め方を見直す。	A

心理学演習Ⅰ《行動心理学》

更新日：2024/03/27 11:42:45

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M347010	授業コード	2M347010KD
担当教員	木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	専心基-3-30	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間＋自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	スマホやゲーム、ギャンブルに依存する行動やお酒やタバコ、薬物に依存する行動、恋人や家族に依存する行動であるアディクションをはじめ人間の健康（身体的・精神的・社会的健康）に関連する行動について、学習心理学、行動心理学、健康心理学の観点から研究を進める。これらの行動の中から自分が関心のある行動をピックアップし、卒論研究に向けて研究テーマや目的の設定と研究方法（調査もしくは簡単な実験）の検討を行なう。
方法	依存症やアディクション、その他の健康行動に関連する文献や論文、心理学研究法の文献の購読を通して基礎的な知識を身につけ、自分の関心のある研究テーマを考える。 前期は研究グループにて共通の研究テーマに関する文献や論文の検索・収集、文献や論文をまとめた内容の発表、発表した内容に関するゼミのメンバーとの議論・意見交換、それらの議論の内容をもとにした研究内容の修正というプロセスを繰り返す。 後期は研究テーマに基づき、研究グループにて研究（調査もしくは簡単な実験）を実施し、研究結果についての発表を行う。

履修条件

心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理学実験法Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい。

履修する上の留意点

グループワーク中心で行うため、遅刻や欠席は原則認めない。遅刻や欠席をする場合には、必ず事前にメール等で連絡をすること（連絡もなく無断で遅刻・欠席した場合は履修を放棄したとみなします）。

自分の関心のあるテーマに関して積極的に学習し、発表や議論・意見交換を意欲的に取り組むこと。講義中に講義と関係のないことを行った場合や、グループワークに積極的に協力・参加しなかった場合は大幅に減点します。

毎回の講義では教科書「よくわかる卒論の書き方」とノートPCを必ず持ってくる（ノートPCを忘れた場合は講義時間までに事務室から借りておくこと）。

グループ研究の記録やメモのための講義ノートを準備して持ってくること。

到達目標

1	嗜癢行動をはじめ人間の健康に関連する行動についての知識を持ち、説明することができる。
2	興味のある研究テーマに関する文献や論文の検索・収集を行うことができる。
3	収集した文献や論文を購読し、内容をまとめ発表することができる。
4	研究背景や過去研究をもとに、研究テーマと研究方法（調査法・実験法）を考え実施できる。
5	実施した研究の内容（目的・方法・結果・考察）を発表し、文章にまとめることができる
6	論理的に思考し意見の根拠を示しながら、建設的な議論を行うことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価、予習・復習への取り組み	10
到達目標②	授業内評価、予習・復習への取り組み	10
到達目標③	ゼミ発表、予習・復習への取り組み	20
到達目標④	授業内評価（研究グループでの取り組み）、予習・復習への取り組み	20
到達目標⑤	ゼミ発表、議論・意見交換への取り組み	20
到達目標⑥	ゼミ発表、議論・意見交換への取り組み	20

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる卒論の書き方	ミネルヴァ書房	白井利明・高橋一郎

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	アディクションのメカニズム	金剛出版	アントニー・C・モス、カイル・R・ダイヤー 橋本望（訳）
2	よくわかる健康心理学	ミネルヴァ書房	森和代・石川利江・茂木俊彦（編）
3	なるほど心理学研究法	北大路書房	三浦麻子（監修・著）

オープンな教育リソース

日本心理学会 倫理規定
https://www.psych.or.jp/wp-content/uploads/2017/09/rinri_kitei.pdf

学生へのメッセージ

これまで学んできたことを土台として、自分が面白いと思う研究テーマと一緒に探しましょう。

卒論研究の一連のプロセスを、グループワーク形式で学び経験することができます。4年での卒論研究がより取り組みやすくなるでしょう。

課題に対するフィードバック

毎回の授業での議論や意見交換、質疑応答を通してフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 自己紹介	予習：シラバスの内容を確認し、質問事項を考えノートにメモする。 教科書の「1 卒論とは何か」の「2. 何の役に立つか」「10. どんな心構えが必要か」「11. 3, 2, 1年次にしておくこと」を読み、要点をノートにまとめる。 復習：シラバスの内容を確認し、ゼミの学習計画の内容を理解しておく。	A、B
第2回	ゼミでの学び方 自分の研究計画を立てる。	予習：教科書の「1 卒論とは何か」の「5. なぜ早め始めるか」「6. 年間計画の立て方」「7. 実際のすすめ方」を読み、要点をノートにまとめる。 復習：研究計画を立て、ノートにまとめる。	A、B
第3回	研究の背景を学ぶ① 嗜癢行動（アディクション）・健康行動とは何か？	予習：自分の日常生活の中で「やめたくてもやめられない行動」を探し、その行動の内容（どのような	A、B

		<p>状況・場面、なぜその行動するのか、その行動のメリット・デメリット)をノートにまとめる。</p> <p>復習：今日の学習内容と議論の内容を研究ノートにまとめる。</p>	
第4回	<p>研究の背景を学ぶ② 嗜癖行動（アディクション）・健康行動の生物学的メカニズムを理解する。</p>	<p>予習：脳の各部位とその役割を記した図を手書きで研究ノートに書き、嗜癖行動（アディクション）に関わる脳の部位について調べノートにまとめる。</p> <p>復習：今日の学習内容と議論の内容を研究ノートにまとめる。</p>	A、B
第5回	<p>研究の背景を学ぶ③ 嗜癖行動（アディクション）・健康行動の学習心理学的メカニズムを理解する。</p>	<p>予習：学習心理学と学習理論について調べ、嗜癖行動（アディクション）とどのように関連するのか自分の考えをノートにまとめる。</p> <p>復習：これまで学んだ研究背景の内容と自分の興味関心をもとに、自分の研究テーマ（案）と研究テーマに関連するキーワードを5つ考え、ノートにメモする。</p>	A、B
第6回	<p>自分の研究の背景を調べる① 自分の関心のある論文・文献を検索する。</p>	<p>予習：教科書の「VI 研究の進め方」「1. 知りたいことを見つけるには」「2. 先行研究の読み方」と「V 文献の集め方」の「1. 文献はなぜ必要か」「2. 文献はどう使うか」「3. 文献を集めるときに気をつけること」を読み、要点をノートにまとめる。</p> <p>復習：今日の学習内容と議論の内容をノートにまとめる。</p> <p>検索した複数の論文や文献を取り寄せる。</p>	A、B
第7回	<p>自分の研究の背景を調べる② 自分の関心のある論文の読み方（序論と目的）を学ぶ。</p>	<p>予習：教科書の「II ゼミでの学び方」の「2. 文献購読の仕方」「3. 批判的に読むには」「4. テキストクリティークのしかた」を読み、要点をノートにまとめる。</p> <p>検索した複数の論文や文献を取り寄せる。</p> <p>復習：取り寄せた論文の「序論・目的」を読んだ後、内容を要約しノートにまとめる（わからないキーワードや専門用語があれば、調べて説明をまとめておく）。</p> <p>「序論・目的」をゼミ発表形式（Wordもしくはパワーポイント）にまとめた説明のファイルを作る。</p>	A、B
第8回	<p>自分の研究の背景を調べる③ 自分の関心のある論文の読み方（方法）を学ぶ。</p>	<p>予習：教科書の「VIII 研究の方法」の「1. 質問紙調査」「5. 実験」を読み、要点をノートにまとめる。</p> <p>復習：取り寄せた論文の「方法」を読んだ後、内容を要約しノートにまとめる。</p> <p>ゼミ発表形式（Wordもしくはパワーポイント）にまとめた説明のファイルの続きに「方法」の内容をつけ足す。</p>	A、B
第9回	<p>自分の研究の背景を調べる④ 自分の関心のある論文の読み方（結果）を学ぶ。</p>	<p>予習：取り寄せた論文の結果で用いられている分析方法（統計方法）について調べ、その内容をノートにまとめる。</p> <p>復習：取り寄せた論文の「結果」を読んだ後、内容を要約しノートにまとめる。</p> <p>ゼミ発表形式（Wordもしくはパワーポイント）にまとめた説明のファイルの続きに「結果」の内容をつけ足す。</p>	A、B
第10回	<p>自分の研究の背景を調べる⑤ 自分の関心のある論文の読み方（考察）を学ぶ。</p>	<p>予習：これまで研究ノートにまとめた「序論・目的」「方法」「結果」の内容を再度確認する。</p> <p>復習：取り寄せた論文の「考察」を読んだ後、内容を要約しノートにまとめる。</p> <p>ゼミ発表形式（Wordもしくはパワーポイント）に</p>	A、B

		まとめた説明のファイルの続きに「考察」の内容をつけ足す。	
第11回	研究背景をもとに自分の研究テーマを考える① リサーチクエストの立て方を学ぶ。	予習：教科書の「VI 研究の進め方」の「3. テーマの深め方」「5. 問の立て方」を読み、要点をノートにまとめる。 復習：今日学んだ内容をもとに、取り寄せた論文に対する疑問と自分の研究のリサーチクエストをまとめる。	A、B
第12回	研究背景をもとに自分の研究テーマを考える② 研究テーマを考え、研究目的を立てる。	予習：第5回の復習で研究ノートにまとめた研究テーマ（案）と5つのキーワードを再度確認し、研究テーマ（案2）を考えノートにメモしておく。 復習：今日学んだ内容をもとに、自分の研究テーマと研究目的を考え、決定する。 ゼミ発表形式（Wordもしくはパワーポイント）にまとめた説明のファイルの続きに「研究テーマと目的」の内容をつけ足す。	A、B
第13回	過去研究の内容をもとに、自分の研究の目的と仮説を考え発表する。	予習：ゼミ発表形式（Wordもしくはパワーポイント）にまとめた説明のファイルを用いて発表する練習をしておく。 復習：発表後の議論や意見交換の内容を、ノートにまとめる。	A、B
第14回	過去研究の内容をもとに、自分の研究の方法とデータの分析方法を考え発表する。	予習：ゼミ発表形式（Wordもしくはパワーポイント）にまとめた説明のファイルを用いて発表する練習をしておく。 復習：発表後の議論や意見交換の内容を、ノートにまとめる。	A、B
第15回	過去研究の内容をもとに、自分の研究結果の意義、考察内容を考え発表する。	予習：ゼミ発表形式（Wordもしくはパワーポイント）にまとめた説明のファイルを用いて発表する練習をしておく。 復習：発表後の議論や意見交換の内容を、ノートにまとめる。	A、B
第16回	研究方法を考える① 研究グループを作る。	予習：ゼミ発表形式（Wordもしくはパワーポイント）にまとめた説明のファイルの内容を確認し、研究方法のアイデア（何をどうやって調査するか）をノートにメモしておく。 復習：今日の学習内容と議論の内容をノートにまとめる。	A、B
第17回	研究方法を考える① 心理学研究の研究倫理について学ぶ。	予習：日本心理学会の倫理規定(https://www.psych.or.jp/wp-content/uploads/2017/09/rinri_kitei.pdf)にある「第2章 研究と発表における倫理」を読む。 復習：今日の学習内容と議論の内容をノートにまとめ、自分の研究に倫理的に問題になることがあるのかまとめる。	A、B
第18回	研究方法を考える② 質問紙調査法について学ぶ。	予習：教科書の「VIII 研究の方法」の「1. 質問紙調査」を読み、要点を研究ノートにまとめる。 復習：今日の学習内容と議論の内容をノートにまとめる。	A、B
第19回	研究方法を考える③ 実験法について学ぶ。	予習：教科書の「VIII 研究の方法」の「5. 実験」を読み、要点を研究ノートにまとめる。 復習：今日の学習内容と議論の内容をノートにまとめる。	A、B
第20回	研究方法を考える④ 研究テーマ・目的をもとに研究方法を決定する。	予習：第18回と第19回の内容と過去研究の論文の内容をもとに、研究方法のアイデアを考え、ノートにまとめる。 復習：今日の学習内容と議論の内容をノートにまとめ、研究方法を考える。	A、B
第21回	研究を実施する① 研究テーマや目的に合った質問紙を探す。 研究テーマや目的に合った実験方法を考える。	予習：研究に使えるような調査・実験をしている複数の論文を検索し手に入れておく。 復習：複数の論文の中から1つ選び、その内容をも	A、B

		とに研究に用いる調査・実験の方法を考え、ノートにまとめる。	
第22回	研究を実施する② 研究テーマや目的に合った質問紙をもとに分析方法を考える。 研究テーマや目的に合った実験方法をもとに分析方法を考える。	予習・復習：研究に使用する質問紙（表紙・質問項目が記載されているページ）を作成する。 研究で実施する実験方法の準備（教示の作成、実験手続きマニュアルの作成・実験器具の準備）をする。	A、B
第23回	研究を実施する③ 作成した質問紙を用いた調査を実施しデータを収集する。 準備した実験方法で実験を実施しデータを収集する。	予習：研究に使用する質問紙を印刷し準備をする。 研究で実施する実験の準備をする。 復習：調査・実験を実施し収集したデータをエクセルなどに入力しておく。	A、B、C
第24回	研究を実施する④ 調査・実験を実施し収集したデータについてデータクリーニング・サンプルの妥当性の検討を行う。	予習：研究に使用する質問紙を印刷し準備をする。 研究で実施する実験の準備をする。 復習：調査・実験を実施し収集したデータをエクセルなどに入力する。	A、B、C
第25回	結果の分析をする① 収集したデータの入力を行う。	予習：調査・実験を実施し収集したデータ入力を完了する。 復習：入力されたデータに間違いがないか再度チェックしておく。	A、B
第26回	結果の分析をする② 入力したデータの視覚化（図表の作成）、分析（記述統計・推測統計）をする。	予習：研究のもとにした論文でどのような分析がされ、どのような図表が使用されているか確認しておく。 復習：図表の作成と分析を完了する。	A、B
第27回	結果の分析をする③ 分析した結果の解釈をし考察する。	予習：分析結果がどう解釈されるか自分の考えをまとめノートにメモしておく。 復習：研究のもとにした論文の結果と比較し、今回の研究結果から何が言えるか考察する。その内容をノートにまとめる。	A、B
第28回	研究発表をする① パワーポイントを使って発表する準備をする。	予習：研究ノートにまとめた「テーマ・目的」「方法」「結果」「考察」の内容を確認しておく。 復習：発表資料（パワーポイント）を作成する。	A、B
第29回	研究発表をする② パワーポイントを使って発表し、研究結果について議論・意見交換を行う。	予習：パワーポイントにまとめた発表資料を用いて発表する練習をしておく。 復習：発表後の議論や意見交換の内容を、ノートにまとめる。	A、B
第30回	研究発表をする③ 発表後の議論・意見交換の内容をもとに今後の研究の展望を考える。	予習：パワーポイントにまとめた発表資料を用いて発表する練習をしておく。 復習：発表後の議論や意見交換の内容を、ノートにまとめる。	A、B

心理学演習Ⅰ ≪表現療法≫

更新日：2024/03/27 11:42:47

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M347010	授業コード	2M347010NU
担当教員	長岡 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	専心基-3-30	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	前期は社会的視点から心理諸現象について考え、心理領域に関する事象を社会に生かす手立てを見つける。これらの体験をもとに、後期は自らが関心のあるテーマを定め、表現方法方法を工夫した卒業研究の前段階となる予備研究に取り組む。
方法	前期は企業の担当者が介入しキャリアと心理の学びを関連付けたワークを行う。これらのワークの内容についてまとめ、プレゼンテーションを行う（グループワークが中心となる）。後期は卒業研究に向けた予備研究に自らテーマを立てて取り組む。

履修条件

履修する上の留意点

前期（第1回～第15回）の授業内容については、ワークの進捗状況に応じて、多少の変更が加わることもある。

到達目標

1	グループのメンバーと協力して、与えられた課題に取り組むことができる。
2	学外の人に向けてわかりやすくプレゼンテーションをすることができる。
3	予備研究のデータを分析し考察することができる。
4	予備研究の内容をレポートにまとめ、プレゼンテーションすることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価、レポート	30
到達目標②	授業内の発言、レポート	20

到達目標③	授業内の発言、レポート	20
到達目標④	授業内評価、レポート	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし（適宜、参考資料等を配布）		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし（適宜、参考資料等を配布）		

オープンな教育リソース

必要に応じて、授業内で紹介します。

学生へのメッセージ

メンバーと協力してグループに取り組みましょう。

課題に対するフィードバック

ブレ発表のフィードバックを本発表で生かすこと。その他、授業内で必要なフィードバックは適宜行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方）	[予習]シラバスを再読し不明点を明確にする。[復習]授業の内容の理解に努める。	
第2回	グループ作り、グループワークの基礎演習	[予習]グループワークの意義について調べる。[復習]授業の内容をノートにまとめる。	B
第3回	企業担当者からの課題提示	[予習]提示された課題について考える。[復習]授業の内容をまとめる。	B
第4回	一次プレゼンに向けた筋道作り	[予習]話し合う内容を書きだす。[復習]話し合いの内容をまとめる。	B
第5回	一次プレゼン内容の具体化	[予習]話し合う内容を書きだす。[復習]話し合いの内容をまとめる。	B
第6回	一次プレゼン発表準備	[予習]発表の準備。[復習]話し合いの内容をまとめる。	B
第7回	一次プレゼンとフィードバック	[予習]一次プレゼンの自己評価をする。[復習]フィードバックの内容をまとめる。	B
第8回	最終プレゼン内容の確認	[予習]話し合う内容を書きだす。[復習]話し合いの内容をまとめる。	B
第9回	最終プレゼンに向けた修正	[予習]話し合う内容を書きだす。[復習]話し合いの内容をまとめる。	B
第10回	最終プレゼン発表準備	[予習]発表の準備。[復習]話し合いの内容をまとめる。	B
第11回	最終プレゼンとフィードバック	[予習]最終プレゼンの自己評価をする。[復習]フィードバックの内容をまとめる。	B
第12回	最終総括、今後の学びの展望	[予習]これまでの取り組みをまとめる。[復習]授業の内容をまとめる。	B
第13回	キャリア領域から心理領域への応用	[予習]自分が活動したい領域をあげる。[復習]授業の内容をまとめる。	B
第14回	主体的な学びに向けた問題の明確化	[予習]これまでの取り組みをまとめる。[復習]授業の内容をまとめる。	B
第15回	まとめ	[予習]これまでの取り組みをまとめる。[復習]授業の内容をまとめる。	
第16回	卒業研究の進め方：論文の構成、研究の手続き、スケジュールの概要	[予習]研究テーマについてまとめる。[復習]夏休みに検討するべきことを確認し、夏休みの課題に取り組む。	
第17回	予備研究のテーマを考える。	[予習]指示された教科書のページを読み、研究テーマを考える。[復習]授業の内容の理解に努める。	
第18回	文献をもとにした先行研究の調べ方：分野別、研究者別、年代別	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]自	

	のテーマ理解の方法	分のテーマに該当する文献を調べて取り寄せる。	
第19回	論文の読み方：サンプル論文を参考とした論文を読むポイント、概要のまとめ方	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]取り寄せた文献（論文）のレジメ作成。	
第20回	文献を理解し、予備研究のテーマを決める。	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]授業の感想を400字程度でまとめる。	B
第21回	研究方法の検討	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]授業の感想を400字程度でまとめる。	
第22回	アンケート項目の検討	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]研究倫理として留意することをまとめる。	B
第23回	Forms等でアンケート項目作成	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]自分の研究の研究方法について検討する。	
第24回	アンケート実施	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]授業の内容をふまえて質問紙を作成する。	B
第25回	結果の集計・グラフ作成	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]作成した質問紙の再確認をする。	
第26回	結果の分析・考察の検討	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]自分が収集したデータをどのように分析するかを考える。	
第27回	発表スライド作成①	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]データの分析方法について確認する。	
第28回	発表スライド作成②	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]調査協力者への対応を整理する。	
第29回	ゼミ内での発表会（プレゼンテーション）と発表への評価	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]調査結果の整理。	B
第30回	発表の振り返り	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]ここまでの研究の進捗について振り返り、今後のスケジュールを考える。	B

心理学演習Ⅰ〈臨床心理学〉

更新日：2024/03/27 11:42:50

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M347010	授業コード	2M347010TC
担当教員	土屋 満知						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	専心基-3-30	授業形態	実験・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	1. 心の健康・不健康について、臨床心理学（精神病理学を含む）的視点で考えられるようになることが大きな目標であるが、そのために、私たちの行動に及ぼす無意識の働き方を知り、臨床心理学に関する基礎知識を学ぶ。 2. 臨床心理学領域の論文を各人が講読し、プレゼンテーション、ディスカッション等を行うことを通して、自分自身が興味・関心を持てる研究課題を模索する。最終的には、各自のリサーチクエストを明確化し、卒業論文作成のために必要な基本的スキルを身につける。
方法	対人援助や心の治療などのテーマに関する事例などの素材等を用いた臨床心理学的検討および関連する体験、文献購読、プレゼンテーション。

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

- (1) 心理学統計法Ⅱや心理学実験Ⅱを履修済であることが望ましい。
- (2) 臨床心理学に関心があり、発表やディスカッションに意欲的に取り組むことを求める。事前に書籍や論文を読むなどの準備が必要となる。
- (3) 遅刻・欠席する場合は必ず連絡をすること。
- (4) 毎回の授業には、教科書とノートPCを持参すること。

到達目標

1	心の健康、不健康についての知識を収集し、自分自身や自分を取り巻く環境と間で考えることができる。
2	臨床心理学の文献を読み、研究方法や記載されている心理学的内容を理解できる。
3	興味・関心を寄せる臨床心理学領域の文献を収集し、要約できる力、発表を通じて他者に説明できる。
4	自分自身の研究テーマを明確化し、研究計画について考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価、レポート	30
到達目標②	授業内評価、レポート	30
到達目標③	授業内評価、レポート	20
到達目標④	授業内評価、レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる卒論の書き方[第2版]	ミネルヴァ書房	白井利明・高橋一郎

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	学術論文の読み方・まとめ方—心理学を学ぶ人のために	慶應義塾大学出版会	三井宏隆（著）
2	研究を深める5つの問い	講談社	宮野公樹(著)
3	心理学研究法 増補版	有斐閣アルマ	高野陽太郎・岡隆（編）

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

授業は発表や討論が中心となるため、積極的な参加を求めている。他者とのディスカッションなどを通して学びを深めてほしい。受講者が安心して自由に発言できるような、和やかな雰囲気の授業としたいと考えている。

課題に対するフィードバック

各人に必要な段階で必要な助言等のフィードバックを随時行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション ・自己紹介 ・前期授業計画と授業の進め方について	〔予習・復習〕自分の興味・関心のある臨床心理学的なテーマについて考えてみる。	A
第2回	臨床心理学について考える（1） 臨床心理学とは何か？ ・臨床心理学と催眠	〔予習〕「臨床心理学」や「催眠」について調べ、要点をまとめる。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第3回	臨床心理学について考える（2） 心理療法の歴史と催眠 ・「自己暗示」について体験する	〔予習〕「催眠」についてさらに詳しく調べ、授業内で積極的に積極的にディスカッションに参加する。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第4回	臨床心理学について考える（3） 心理療法（カウンセリング）とは何か？	〔予習〕「心理療法」や「カウンセリング」について調べ、要点をまとめる。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第5回	臨床心理学について考える（4） 様々な心理療法	〔予習〕「心理療法」や「カウンセリング」についてさらに詳しく調べ、授業内で積極的に積極的にディスカッションに参加する。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B
第6回	臨床心理学について考える（5） 箱庭療法体験	〔予習〕「箱庭療法」について調べ、要点をまとめる。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第7回	臨床心理学について考える（6） 第2回から第6回授業を振り返り、改めて臨床心理学について考える。	〔予習〕これまでの第2回～第6回授業を振り返り、学んだことの要点をまとめる。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B
第8回	興味のある臨床心理学的テーマについて考える ・現時点で、自分自身がどのような臨床心理学的テーマに関心があるか考える。	〔予習〕自分の興味・関心のある臨床心理学的なテーマについて考え、その事柄について調べたことを小レポートにまとめる。	A,B

		〔復習〕 授業でのディスカッション等を踏まえ、さらに自分の興味・関心のある臨床心理学的なテーマについて考える。	
第9回	臨床心理学論文を読む(1) 臨床心理学に関する研究論文を読む	〔予習〕 指定した研究論文を読み、わからない心理学用語を調べる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第10回	臨床心理学論文を読む(2) 心理学研究におけるエビデンスの考え方、研究方法を学ぶ	〔予習〕 心理学の研究方法についてどのような方法があるのか調べる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第11回	臨床心理学論文を読む(3) 心理学論文の構成、心理学論文の書き方を理解する	〔予習〕 心理学論文がどのような項目で構成されているのか調べる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第12回	文献検索(1) 文献検索の方法を学ぶ	〔予習〕 普段どのように文献を検索しているか、どのような文献検索の方法を理解しているか考えてみる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第13回	論文検索(2) 興味・関心のある論文を探す	〔予習〕 自分の興味・関心のあるテーマについて、論文を検索する。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第14回	論文発表 興味・関心のある論文を読み、それについてまとめ、発表する	〔予習〕 発表の準備を行う。 〔復習〕 授業内での助言を受けて、さらに関連文献を調べる。	A,B,D
第15回	前期の振り返りとまとめ、質疑応答	〔予習〕 前期授業で学んだことについて振り返り、考えをまとめておく。 〔復習〕 前期の振り返りレポートを提出し、自分の研究テーマについて考える。	A,B
第16回	後期オリエンテーション 後期の授業計画と進め方について	〔予習・復習〕 自分の興味・関心のある臨床心理学のテーマについて考える。	
第17回	臨床心理学における様々な研究手法を知る(1) 量的研究：量的研究論文を熟読する	〔予習〕 指定した量的研究論文を読み、わからない心理学用語は調べる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第18回	臨床心理学における様々な研究手法を知る(2) 量的研究：量的研究論文についての討論	〔予習〕 指定した量的研究論文を読み、わからない心理学用語は調べる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第19回	臨床心理学における様々な研究手法を知る(3) 質的研究：質的研究論文を熟読する	〔予習〕 指定した質的研究論文を読み、わからない心理学用語は調べる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第20回	臨床心理学における様々な研究手法を知る(4) 質的研究：質的研究論文についての討論	〔予習〕 指定した質的研究論文を読み、わからない心理学用語は調べる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第21回	臨床心理学における様々な研究手法を知る(5) 文献研究：文献研究論文を熟読する	〔予習〕 指定した文献研究論文を読み、わからない心理学用語は調べる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A
第22回	臨床心理学における様々な研究手法を知る(6) 文献研究：文献研究論文についての討論	〔予習〕 指定した文献研究論文を読み、わからない心理学用語は調べる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第23回	研究テーマを考えてまとめる(1) 自分の興味・関心のある研究テーマをまとめ、ディスカッションを行う。	〔予習・復習〕 研究テーマについて考える。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第24回	研究テーマについて考えてまとめる(2) 前回の授業を踏まえ、自分の興味・関心のある研究テーマを深め、さらにディスカッションを行う。	〔予習〕 研究テーマについて、自分の興味・関心があることを文章にまとめる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,B,D
第25回	研究テーマに関連する文献検索 自分の研究テーマに合った文献を探す。	〔予習〕 研究テーマに沿った関連文献を探す。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第26回	研究テーマの発表(1)	〔予習〕 プレゼンテーションの準備を行い、資料を作	A,B,D

	自分の研究テーマについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。	成する。 〔復習〕プレゼンテーション資料の修正を行う。	
第27回	研究テーマの発表(2) 前回の授業を踏まえ、研究テーマを深め、不足する関連文献についてさらに調べる。 プレゼンテーションとディスカッション。	〔予習〕引き続きプレゼンテーションの準備を行い、資料を作成する。 〔復習〕授業内での助言を受けて、さらに関連する文献を探し、プレゼンテーション資料の修正を行う。	A,B,D
第28回	研究論文の書き方(1) 問題と目的 問題意識の持ち方を考え、研究テーマに沿った問題と目的を書く。	〔予習〕研究論文の書き方について調べる。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第29回	研究論文の書き方(2) 方法 研究テーマに沿った研究方法を考える。 研究倫理についても考える。	〔予習〕研究テーマに沿った研究方法を考えてみる。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第30回	後期の振り返りとまとめ、質疑応答	〔予習〕後期授業で、学んだことについて振り返り、考えをまとめておく。 〔復習〕後期の振り返りレポートを提出し、自分の研究テーマについて各自考える。	A,B

心理学演習Ⅱ <<非行心理>>

更新日：2024/03/27 11:42:52

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M351010	授業コード	2M351010HI
担当教員	廣井 いずみ						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	専心基-3-41	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	自分の関心を中心に、先行研究を参照し、研究の目的を明確にする。目的に合致した、適確な研究方法を定め、実施する。研究方法は、質問紙調査、インタビュー調査、参与観察法などとする。結果から考察したことを、論文執筆し、口頭発表する。
方法	節目節目でゼミ内の発表を取り入れながら、個別指導を中心に進める。3年生も含めた発表会を実施する。

履修条件

履修する上の留意点

心理学統計法Ⅱ、心理データ解析演習を履修していることが望ましい。

到達目標

1	計画を立て、研究を計画的に遂行することができる。
2	心理学の研究方法を理解し、実施することができる。
3	研究結果をわかりやすく伝えることができる。
4	論理的に論を展開することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業に取り組む姿勢、態度	25
到達目標②	成果物（卒業論文、レポート）	25
到達目標③	成果物（卒業論文、レポート）	25

到達目標④	成果物（卒業論文、レポート）、発表	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる卒論の書き方〔第2版〕	ミネルヴァ書房	白井利明・高橋一郎 著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜伝える。		

オープンな教育リソース

特になし。

学生へのメッセージ

自ら能動的に取り組むことで、前に進めることができます。具体的に計画を立てて、実行するようにしましょう。また休む場合には、必ずメール連絡すること。

課題に対するフィードバック

随時フィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 論文完成に向けたスケジュールの確認	【予習】スケジュール(作業日程)を作成する。 【復習】スケジュール(作業日程)の見直しをする。	
第2回	研究計画書作成(1) 研究目的、背景、研究方法を書く。	【予習】研究計画書作成の資料に目とおす。 【復習】授業での指摘を受け、研究計画書の見直しをする。	A
第3回	研究計画書作成(2) 分析方法、倫理に関することを書く。	【予習】修正した研究計画書を準備する。 【復習】授業での指摘を受け、研究計画書の見直しをする。	A
第4回	先行研究を選び出す。	【予習】先行研究の探索を行う。 【復習】先行研究を保存し、いつでも取り出せるようにする。	A
第5回	先行研究を要約する。	【予習】先行研究を要約し、今までの研究が概観できるようにまとめる。 【復習】授業での指摘を受け、加筆、修正する。	A
第6回	研究計画書と先行研究の発表（パワーポイントを使用）	【予習】発表用のスライドを準備する。 【復習】他のメンバーの指摘を受け、加筆、修正する。	B
第7回	研究方法について検討（1） 先行研究に記載されている研究方法を抽出する。	【予習】先行研究を参考に、どのような調査方法がとられているのか調べる。 【復習】授業での指摘や意見を参考に、研究方法について検討する。	A
第8回	研究方法についての検討（2） 分析方法について調べ、テーマとの整合性や実施可能性について検討する。 インタビューの場合には、インタビューガイドを決める。	【予習】先行研究を参考に、考えられる分析方法を列挙する。 【復習】授業での指摘や意見を参考に、調査方法を見直す。	A
第9回	研究方法についての検討（3） 質問紙調査を確定する。 調査の依頼先、依頼文の作成 インタビューの場合、具体的な質問項目を考える。	【予習】具体的に対象者を絞り、依頼方法や実施方法を検討する。 【復習】授業での検討を踏まえて、具体的な依頼を行う。	A
第10回	調査の実施（1） 質問紙調査の作成、印刷 インタビューを実施（一人目）	【予習】調査に必要な手順を確認する。 【復習】質問紙を完成させる。 インタビューの場合には、文字起こしをする。	A
第11回	調査の実施（2） 質問紙調査の実施 一人目のインタビュー結果を振り返り、質問内容の見直し インタビューを実施（二人目）	【予習】調査に必要な数の検討。 インタビューの見直し 【復習】調査結果の整理 インタビューの場合には、文字起こしをする。	A
第12回	調査の実施（3） 質問紙調査の実施	【予習】質問紙調査の実施先についての確認 インタビューの見直し、インタビューを依頼できる	A

	不足分について、新たな協力者を検討し、実施する。 インタビューを実施（3人目）	かどうか確認。 【復習】調査結果の整理	
第13回	調査結果のまとめ	【予習】データの入力、あるいはテープ起こしなど調査結果の整理を行う。 【復習】調査結果の整理を行う。	
第14回	分析方法について確認	【予習】先行研究で、どのような分析方法が使われているのか調べる。 【復習】授業の結果を受け、分析方法を見直す。	A
第15回	調査結果の分析（1） 基礎統計量について分析する。 インタビューについては、文字起こししたデータの切片化を行なう（一人目）。	【予習】分析方法を確認する。 【復習】基礎統計量の分析を仕上げる。	A
第16回	調査結果の分析（2） 研究テーマに沿った変数について分析を行なう。 インタビューについては、文字起こししたデータの切片化を行なう（二人目、三人目）。	【予習】分析方法を確認する。 【復習】研究テーマに沿った変数について分析を仕上げる。	A
第17回	調査結果の分析（3） 図表の作成	【予習】図表の作成について、必要箇所を検討する。 【復習】図表を完成させる。	A
第18回	調査結果の文章化を行なう。	【予習】分析の観点を書き出す。 【復習】授業の結果を受け、分析を修正、文章化を進める。	A
第19回	結果について発表する。（パワーポイントで発表）	【予習】発表スライドを準備する。 【復習】授業の結果を受け、加筆、修正する。	B
第20回	考察について検討（1） 論点を書き出す。	【予習】目的、結果を踏まえて、考察で取り上げる項目を考える。 【復習】授業の結果を踏まえて、考察の概要を文章化する。	A
第21回	考察について検討（2） 研究目的との整合性を検討する。	【予習】考察の文章化を進める。 【復習】授業の結果を踏まえて、加筆、修正する。	A
第22回	考察について検討（3） 考察部分を完成させる	【予習】考察の文章化を進める。 【復習】授業の結果を踏まえて、加筆、修正する。	A
第23回	考察について発表する。（パワーポイントで発表）	【予習】発表スライドの準備をする。 【復習】発表の結果を踏まえて、加筆、修正する。	B
第24回	論文の作成（1） 先行研究、目的について作成する。	【予習】論文の作成を行う。 【復習】授業の結果を受け、加筆、修正する。	
第25回	論文の作成（2） 研究方法、結果について作成する。	【予習】論文の作成を行う。 【復習】授業の結果を受け、加筆、修正する。	
第26回	論文の作成（3） 考察、引用文献について作成する。	【予習】論文の作成を行う。 【復習】授業の結果を受け、加筆、修正する。	
第27回	抄録の作成	【予習】抄録の作成を行う。 【復習】授業の結果を受け、加筆、修正する。	
第28回	発表に向けて資料作成（1） 発表に向けてパワーポイントの準備をする。	【予習】卒論発表会に向けた資料作成 【復習】授業の結果を受け、加筆修正する。	
第29回	発表に向けて資料作成（2） 資料を整え、発表原稿を作成する。	【予習】卒論発表会に向けた資料作成 【復習】授業の結果を受け、加筆修正する。	
第30回	成果発表	【予習】発表の練習をする。 【復習】発表の結果から、自分の研究について振り返る。	B

心理学演習Ⅱ ‹‹行動心理学››

更新日：2024/03/27 11:42:54

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M351010	授業コード	2M351010KD
担当教員	木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	専心基-3-41	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	嗜癖行動（アディクション）をはじめ人間の健康（身体的・精神的・社会的健康）に関連する行動を主な研究対象とし、質問紙調査法や心理学実験法を用いた研究を行う。自分自身の興味関心と過去研究の内容をもとに研究テーマと目的を設定し、目的に合致した研究計画・研究方法を定め、研究を実施しデータの収集と分析、結果からの考察を行う。そして、研究の目的・方法・結果・考察をまとめた論文を執筆し、研究成果の口頭発表を行う。
方法	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ・目的は、過去研究の論文や文献を各自で検索しその内容をもとに決定する。 過去研究の論文や文献で用いられている研究方法を踏まえ、研究の目的に沿った研究方法と研究計画を設定し研究を進める。 研究の進捗に合わせて適宜報告を受けながら、個別指導を中心に進める。 研究の内容は論文としてまとめ、研究成果の口頭発表も行う。

履修条件

原則、心理学演習Ⅰの単位を取得していること。

履修する上の留意点

無断遅刻や欠席は認めない。遅刻や欠席をする場合には、必ず事前にメール等で連絡をすること。

毎回の講義では教科書「よくわかる卒論の書き方」とノートPCを必ず持ってくること。

自身のグループ研究の記録やメモのための講義ノートを準備して持ってくること。

論文提出までの研究計画・スケジュールを立て、計画的に取り組むこと。

授業計画はあくまで目安なので、各人の進捗状況に合わせて適宜変更する。

到達目標

1	論文を完成させるための研究計画を立て、実践することができる。
2	自分の興味のある分野・テーマの文献研究を行い、自分の研究テーマや研究目的を立てることができる。
3	研究目的に合った方法にて研究を実施し、データを収集できる。
4	得られたデータを適切な心理統計の方法を用いて分析し、結果を解釈できる。
5	得られた結果に関して、論理的に考察できる。
6	研究結果を論文として適切に文章にまとめ、口頭でも研究の意義をわかりやすく伝えられる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価、予習・復習への取り組み	10
到達目標②	授業内評価、予習・復習への取り組み	10
到達目標③	研究への取り組み、予習・復習への取り組み	20
到達目標④	研究への取り組み、予習・復習への取り組み	20
到達目標⑤	研究への取り組み、予習・復習への取り組み	10
到達目標⑥	論文作成、口頭発表	30

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる卒論の書き方	ミネルヴァ書房	白井利明・高橋一郎

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	アディクションのメカニズム	金剛出版	アントニー・C・モス、カイル・R・ダイヤー 橋本望（訳）
2	なるほど心理学研究法	北大路書房	三浦麻子（監修・著）
3	心理学実験法・レポートの書き方	ナカニシヤ出版	西口利文・松浦均（編）
4	質問紙調査の手順	ナカニシヤ出版	小塩真司・西口利文（編）

オープンな教育リソース

日本心理学会 倫理規定

https://www.psych.or.jp/wp-content/uploads/2017/09/rinri_kitei.pdf

学生へのメッセージ

これまでの大学生活で学んできたことを土台に、自分の興味のある面白い研究テーマと一緒に考え、4年間の集大成としての研究と論文作成を二人三脚で頑張ってみよう。

課題に対するフィードバック

毎回の授業での議論や意見交換、質疑応答を通して、個別指導とフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 研究テーマ・研究計画・スケジュールの確認		復習：自分もしくはグループの研究テーマを決め、研究に関するキーワードを考え、研究ノートにメモする。 研究計画と研究スケジュールを作成する。	A、B
第2回	過去研究の論文・文献の検索と収集と要約①：研究キーワードを考え、論文・文献を検索する		予習：キーワードをもとに文献の収集・検索を行う。 復習：検索漏れがないかキーワードの組み合わせを変え、再度検索を行う。	A、B
第3回	過去研究の論文・文献の検索と収集と要約②：文献数と発刊年をまとめアブストラクト（要約）を読む		予習：再度検索した結果（文献数・発刊年）をまとめておく。 復習：検索した論文・文献の要約をすべて読み、まとめる。	A、B
第4回	過去研究の論文・文献の検索と収集と要約③：必要な論文・文献をピックアップする		予習：複数の論文や文献の内容を、研究ノートや文章ファイル（Wordなど）にまとめておく。	A、B

		復習：自分もしくはグループの研究のもととなる過去研究を選ぶ。	
第5回	過去研究の論文・文献の検索と収集と要約④：必要な論文・文献を講読し要約する	予習：自分の研究のもととなる過去研究の論文を読み、内容を研究ノートにまとめ、文章ファイルに加えておく。 復習：もととなる過去研究の問題点をあげ、改善点のアイデアを研究ノートにまとめる。自分もしくはグループの研究テーマと目的を見直す。	A、B
第6回	研究方法・計画の検討① 予備調査・実験の計画と準備	予習：過去研究の内容や研究ノートにまとめた問題点と改善点の内容をもとに、自分の研究方法のアイデアを研究ノートにまとめる。 復習：自分もしくはグループの研究アイデアをもとに予備調査・実験の準備をする。	A、B
第7回	研究方法・計画の検討② 予備調査・実験の準備と実施とデータ収集	予習：予備調査・実験を実施できるように準備をする。 復習：収集したデータをエクセルなどに入力する。	A、B、D
第8回	研究方法・計画の検討③ 予備調査・実験のデータ入力・分析	予習：どのようなデータの傾向を見たいのか、データの分析方法を考える。 復習：予備調査・実験の内容を検討し、本調査・実験に向けて問題点・修正点をあげ、本調査・実験の準備を進める。	A、B
第9回	研究の実施とデータ収集① 本調査・実験の準備と実施	予習：本調査・実験の準備を完了する。調査・実験の方法の説明を、以前作成した文章ファイルに加えておく。 復習：収集したデータをエクセルなどに入力する。	A、B、D
第10回	研究の実施とデータ収集② 本調査・実験の実施とデータ収集	予習・復習：本調査・実験の実施とデータ収集を継続し、収集したデータをエクセルなどに入力する。	A、B、D
第11回	研究の実施とデータ収集③ 本調査・実験のデータ入力	予習・復習：収集したデータの入力を完了する。	A、B
第12回	収集したデータの整理①：分析方法の考案と図表の作成	予習：過去研究の分析方法を参照し、自分もしくはグループの研究の分析方法を考え研究ノートにまとめる。 復習：自分もしくはグループの研究データの整理をする。図表の作成を行う。	A、B
第13回	収集したデータの整理②：分析結果の解釈と考察	予習：自分もしくはグループの研究データの整理・図表の作成を完了する。以前作成した文章ファイルに加えておく。 復習：自分もしくはグループの研究データの結果や図表から何が言えるのか解釈をする。	A、B
第14回	研究の中間発表の準備	予習・復習：自分もしくはグループの研究テーマ・目的・方法・結果をまとめた文章ファイルの内容を確認し、中間発表の準備をする。	A、B
第15回	研究の中間発表	予習：自分もしくはグループの研究テーマ・目的・方法・結果をまとめた文章ファイルの準備をする。 復習：研究の中間発表での議論をもとに、今後の分析の内容や方向を考える。	A、B
第16回	研究結果の分析と確認①：再分析の方法の考案	予習：分析の修正と再分析を進める。わからない点があれば質問をまとめておく。 復習：授業でのコメントを受け、分析を修正・追加する。	A、B
第17回	研究結果の分析と確認②：再分析の実施	予習：分析の修正と再分析を進める。わからない点があれば質問内容をまとめておく。 復習：授業でのコメントを受け、分析を修正・追加する。	A、B
第18回	研究結果の分析と確認③：図表の改訂と作成	予習：分析の修正と再分析を進める。わからない点があれば質問内容をまとめておく。 復習：授業でのコメントを受け、分析を修正・追加する。	A、B
第19回	研究結果の解釈と考察①：分析結果が示す内容を考える	予習：分析した結果が何を示すか、結果から何が言	A、B

		<p>えるか、自分の意見をまとめる。わからない点があれば質問内容をまとめておく。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、結果の解釈と考察を修正・追加する。</p>	
第20回	研究結果の解釈と考察②：自分の調査・実験で得られた結果の意味を考える	<p>予習：過去研究の結果の解釈と考察の内容と比較し、自分もしくはグループの研究の結果の解釈と考察を考える。わからない点があれば質問内容をまとめておく。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、結果の解釈と考察を修正する。</p> <p>結果の解釈と考察の根拠となる過去研究の論文と文献の収集をし、内容をまとめる。</p>	A、B
第21回	研究結果の解釈と考察③：自分の調査・実験の限界と改善点を考える	<p>予習：過去研究の結果の解釈と考察の内容と比較し、自分もしくはグループの研究の結果の解釈と考察を考え、まとめなおす。わからない点があれば質問内容をまとめておく。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、結果の解釈と考察を修正する。</p> <p>結果の解釈と考察の根拠となる過去研究の論文と文献の収集をし、内容をまとめる。</p>	A、B
第22回	研究結果の解釈と考察④：自分の調査・実験の今後の展望を考える	<p>予習：過去研究の結果の解釈と考察の内容と比較し、自分もしくはグループの研究の結果の解釈と考察を考え、まとめなおす。わからない点があれば質問内容をまとめておく。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、結果の解釈と考察を修正する。</p> <p>結果の解釈と考察の根拠となる過去研究の論文と文献の収集をし、内容をまとめる。</p>	A、B
第23回	論文の作成① 序論・問題・目的の執筆	<p>予習：教科書の「VII 卒論の書き進め方」の「4. 序論・問題・目的の書き方」と「III 論文の書き方」の「2. 引用のし方」「9. 読みやすい展開にするには」を読み、「序論・問題・目的」の本文の執筆を進める。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、加筆・修正を行う。</p>	A
第24回	論文の作成② 方法の執筆	<p>予習：「方法」の本文の執筆を進める。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、加筆・修正を行う。</p>	A
第25回	論文の作成③ 結果の執筆	<p>予習：教科書の「VII 卒論の書き進め方」の「6. 図表の作り方」「7. 結果の吟味のしかた」を読み、「結果」の本文の執筆を進める。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、加筆・修正を行う。</p>	A
第26回	論文の作成④ 考察の執筆	<p>予習：教科書の「VII 卒論の書き進め方」の「8. 考察と結論の書き方」を読み、「考察」の本文の執筆を進める。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、加筆・修正を行う。</p>	A
第27回	論文の作成⑤ 表紙・要約・引用文献の執筆	<p>予習：教科書の「VII 卒論の書き進め方」の「9. 題目・要約・謝辞・付録のつけ方」と「III 論文の書き方」の「3. 引用文献の書き方」「4. 特殊な引用」「5. 引用文献の並べ方」を読み、読み、「表紙・要約・引用文献」の本文の執筆を進める。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、加筆・修正を行う。</p>	A
第28回	成果発表の準備①：成果発表の構成を練る	<p>予習：教科書の「IX 卒論提出後にするごと」の「1. 卒論発表のしかた」「2. 発表論文の書き方」「3. 口頭発表のしかた」「4. 質疑応答のしかた・面接試験の受け方」を読み、発表の準備を進める。</p>	A

		復習：授業でのコメントを受け、発表資料や内容の修正を行う。	
第29回	成果発表の準備②：発表資料を作成する	<p>予習：教科書の「IX 卒論提出後にすること」の「1. 卒論発表のしかた」「2. 発表論文集の書き方」「3. 口頭発表のしかた」「4. 質疑応答のしかた・面接試験の受け方」を再度読み、発表の準備を進める。</p> <p>復習：授業でのコメントを受け、発表資料や内容の修正を行う。</p>	A
第30回	成果発表	<p>予習：発表の準備・練習をする。</p> <p>復習：発表後の議論や意見交換の内容を踏まえ、自分の研究を振り返る。</p>	A、B

心理学演習Ⅱ ‹表現療法›

更新日：2024/03/27 11:42:57

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M351010	授業コード	2M351010NU
担当教員	長岡 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	専心基-3-41	授業形態	講義・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	心理学演習Ⅰで進めた予備研究を、卒業研究の本研究として進めます。
方法	毎回、自分の進捗状況や進めた内容について、1枚のスライドを作成してもらい、それらをもとに受講生同士でディスカッションしながら自分の研究を進めていきます。 適宜、Teams において事前に資料の配信を行い、レポートの提出を課します。また、Formsを活用した調査も実施していきます。

履修条件

特にありません。

履修する上の留意点

遅刻・欠席をする場合は、必ず連絡をしてください。

到達目標

1	卒業研究に計画的に取り組むことができる。
2	科学的な研究手法について理解し、実践することができる。
3	研究結果を文章で明確に記述することができる。
4	他者の研究について意見を言える。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価	20

到達目標②	成果物、授業内評価	30
到達目標③	成果物	30
到達目標④	授業内評価	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	心理学研究のためのレポート・論文の書き方マニュアル	ナカニシヤ出版	瀬谷安弘・天野成昭

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし（適宜、参考資料等を配布）		

オープンな教育リソース

必要に応じて紹介します。

学生へのメッセージ

個別で進めていくことが増えていきますが、ゼミ生同士のつながりも大切にながら取り組みましょう。

課題に対するフィードバック

その都度、フィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス：今後の研究スケジュールについて、ゼミ生の相互理解	[予習]シラバスを再読し不明点を明確にする。[復習]授業の内容の理解に努める。	B
第2回	予備調査データの整理方法について：データ入力	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]データの入力をする。	A
第3回	予備調査データの整理方法について：グラフ・表の作成	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]グラフ・表を作成する。	A
第4回	予備調査データにおける、結果・考察の考え方。	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]結果・考察についてまとめる。	A
第5回	予備調査の結果報告1：プレゼンテーション（グループ①）	[予習]プレゼンテーションの準備をする。[復習]本日の発表から学んだことを記述する。	A
第6回	予備調査の結果報告1：プレゼンテーション（グループ②）	[予習]プレゼンテーションの準備をする。発表を終えた人は修正等を検討する。[復習]本日の発表から学んだことを記述する。	A
第7回	本調査の準備・確認	[予習]予備調査からの修正を検討する。[復習]本日の内容から学んだことを記述する。	B
第8回	本調査の実施1	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]調査結果の整理。	
第9回	本調査の実施2（未実施分の実施）	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]調査結果の整理。	
第10回	本調査データの整理1：データの入力	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]データの入力をする。	
第11回	本調査データの整理2：グラフと表の作成	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]グラフ・表を作成する。	
第12回	予備調査データにおける、結果・考察の検討。	[予習]指示された教科書のページを読む。[復習]結果・考察についてまとめる。	A
第13回	本調査の結果報告1：プレゼンテーション（グループ①）	[予習]プレゼンテーションの準備をする。[復習]本日の発表から学んだことを記述する。	B
第14回	本調査の結果報告1：プレゼンテーション（グループ②）	[予習]プレゼンテーションの準備をする。発表を終えた人は今後の方針を確認する。[復習]本日の発表から学んだことを記述する。	B
第15回	プレゼンテーションをもとにした再検討	[予習]これまでの経過で不明点等がないか確認する。[復習]論旨の筋をまとめる。	B
第16回	目次の作成：研究の全体像をつかむ	[予習]指示された教科書のページを読み、目次を記述する。[復習]授業の内容を踏まえて作成した目次の内容を見直す。	

第17回	文章化の方法1：研究動機の書き方	[予習]研究動機を文章にまとめる。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第18回	文章化の方法2：先行研究もとにした論立ての考え方	[予習]これまで収集した先行研究を年代順にリストにする。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第19回	文章化の方法3：目的の書き方	[予習]簡潔に目的を書く。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第20回	文章化の方法4：方法の書き方	[予習]指示された教科書のページを読み、方法を記述する。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第21回	文章化の方法5：結果の書き方（記述する結果の抽出の仕方）	[予習]指示された教科書のページを読み、結果を記述する。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第22回	文章化の方法6：結果の書き方（グラフや表をもとにした記述について）	[予習]指示された教科書のページを読み、結果を記述する。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第23回	文章化の方法7：考察の書き方（結果に対する考察の書き方）	[予習]指示された教科書のページを読み、結果を記述する。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第24回	文章化の方法7：考察の書き方（総合考察について）	[予習]指示された教科書のページを読み、抄録を記述する。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第25回	文章化の方法8：今後の課題とまとめの書き方	[予習]指示された教科書のページを読み、抄録を記述する。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第26回	論文の推敲について：他者の論文にも目を通す。	[予習]執筆した論文を読み直し、推敲する。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	B
第27回	文章化の方法9：抄録の書き方	[予習]指示された教科書のページを読み、抄録を作成する。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第28回	抄録の推敲について	[予習]執筆した抄録を読み直し、推敲する。[復習]授業の内容を踏まえて執筆した文章の内容を見直す。	
第29回	卒業論文発表会の準備	[予習]発表に必要な資料等の作成をする。[復習]授業の内容を踏まえて必要事項を再検討する。	
第30回	卒業論文発表会	[予習]発表資料等の最終確認をする。[復習]自分の発表について振り返る。	D

心理学演習Ⅱ 〈臨床心理学〉

更新日：2024/03/27 11:42:59

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M351010	授業コード	2M351010TC
担当教員	土屋 満知						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	専心基-3-41	授業形態	実験・演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	総合的活用	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	自分自身が興味・関心を持てる研究課題から自らのリサーチ・クエスチョンを明確化し、臨床心理学的な研究方法を用いて研究を進める。研究目的に沿った研究方法を用いてデータ収集を行い、結果の分析・考察といった一連の研究プロセスを体験する。そして卒業論文として仕上げ、発表を行う。
方法	個人ワークを中心とするが、適宜、進捗状況を発表（プレゼンテーション）・意見交換を行いながら、臨床心理学的な研究について学びを深める。 1.研究テーマを明確にし、研究計画を立てる。 2.適切な心理学的研究方法を使い、研究を進める。 3.問題意識の持ち方、研究テーマに沿った目的、研究方法、結果などを他者に伝えるよう言語化し、論文としてまとめる。 4.必要な文献を収集し、それを用いて考察を深める。 5.研究成果を発表し、他者に伝える。

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

- (1) 心理学統計法Ⅱや心理学実験Ⅱ、心理データ解析演習を履修済であることが望ましい。
- (2) 卒業論文提出までのスケジュールを考え、計画的に取り組むこと。
- (3) 授業は発表や討論が中心となるため、積極的な参加を求める。
- (4) 遅刻・欠席する場合は必ず連絡をすること。
- (5) 各人の研究スピードにより、授業計画の内容は授業回数と必ずしも一致しない場合がある。

到達目標

1	研究テーマを明確にし、研究計画を立てることができる。
2	適切な心理学的研究方法を使い、研究を進めることができる。
3	問題意識の持ち方、研究テーマに沿った目的、研究方法、結果などを他者に伝わるよう言語化し、論文としてまとめることができる。
4	必要な文献を収集し、それをを用いて考察を深めることができる。
5	研究成果を発表し、他者に伝えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内評価、レポート	20
到達目標②	授業内評価、レポート	20
到達目標③	授業内評価、レポート	20
到達目標④	授業内評価、レポート	20
到達目標⑤	授業内評価	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる卒論の書き方[第2版]	ミネルヴァ書房	白井利明・高橋一郎

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ	有斐閣アルマ	都築学（著）
2	心理学研究法 補訂版 心を見つめる科学のまなざし	有斐閣アルマ	高野陽太郎・岡隆（編）

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

- (1) 卒業研究への意欲を持ち、主体的かつ積極的に取り組むこと。
- (2) 授業外での各人の準備や作業が必要になる。
- (3) 他者の卒業研究の取り組み姿勢などからも学びを深め、協力して作業を進めることを望む。

課題に対するフィードバック

- ・研究テーマの選択、研究方法の検討、結果の分析、考察等、卒業論文作成に必要な各段階で各人に必要なフィードバックを随時行う。
- ・授業内で適宜、卒業論文作成に必要な助言を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	前期オリエンテーション ・前期授業内容と進行について ・自己紹介	〔予習〕興味・関心のある研究テーマのキーワードを考える。 〔復習〕今後のスケジュールを確認し、興味・関心のある研究テーマのキーワードをさらに考える。	
第2回	研究テーマの設定 自分自身の研究テーマについてまとめ、発表する。	〔予習〕興味・関心ある臨床心理学の研究テーマを決め、文章化する。 〔復習〕興味・関心ある臨床心理学の研究テーマをさらに考える。授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第3回	先行研究の文献検索 関連する先行研究を検索する。	〔予習〕関連する先行研究を検索し、先行研究資料を収集する。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第4回	先行研究の熟読と要約 関連する先行研究について調べてこと、理解できたことをまとめ、発表する。	〔予習〕関連する先行研究を読み要約する。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第5回	研究方法の検討 研究テーマに合った研究方法について考える。	〔予習〕研究計画に沿って、研究方法を検討する。 〔復習〕授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第6回	予備調査の実施準備 予備調査の実施に向けて準備を行う。	〔予習〕予備調査を実施するための準備を行う。 〔復習〕予備調査実施のための準備をさらに行う。	A,D
第7回	予備調査の実施 予備調査を実施し、本調査に向けて必要な修正を考える。	〔予習〕予備調査を確認し、本調査に向けての修正点を考える。 〔復習〕本調査に向けての修正点をさらに考える。	A,D

第8回	予備調査のデータ分析 予備調査のデータを整理し、分析を行う。 進捗内容をまとめ、発表する。	〔予習〕 予備調査のデータを整理し、結果を分析する。 〔復習〕 予備調査のデータ整理と分析の修正をさらに考える。	A,D
第9回	本調査の研究計画の修正 研究計画を見直し、必要な修正を考える。	〔予習〕 研究計画の見直しを考える。 〔復習〕 本調査に向けて研究計画をさらに修正する。	A,D
第10回	本調査実施 本調査を行うための準備。	〔予習〕 予備調査を踏まえ、本調査を実施するための準備を行う。 〔復習〕 本調査を実施するための準備をさらに進める。	A,D
第11回	中間発表 研究計画について、途中経過を報告・発表する。	〔予習〕 進捗状況についてまとめる。 〔復習〕 授業で示されたテーマを小レポートにして提出する。	A,D
第12回	調査データの入力 データの入力を行う。	〔予習〕 調査のデータを入力する。 〔復習〕 必要な調査のデータの修正を行う。	A,D
第13回	調査データの整理 調査データを確認し、整理する。	〔予習〕 調査のデータの整理を行う。 〔復習〕 必要な調査のデータの修正を行い、データの整理をさらに進める。	A,D
第14回	調査データの分析及び検討 調査データの結果を検討する。	〔予習〕 調査データの分析を行い、結果を検討する。 〔復習〕 調査データの結果についてさらに検討を進める。	A,D
第15回	調査データの考察 調査データの結果から考察を考える。 前期の作業を振り返り、進捗内容をまとめ、発表する。	〔予習〕 調査データの結果から考察を行う。 〔復習〕 考察について、さらに検討を進める。	A,D
第16回	後期オリエンテーション ・後期授業計画と進行について確認 ・研究スケジュールの確認	〔予習〕 論文完成までのスケジュールを考える。 〔復習〕 論文完成までのスケジュールを再確認し、研究スケジュールを見直す。	
第17回	卒業論文(問題の執筆) 研究に対する問題意識をまとめる。	〔予習〕 卒業論文「問題」をまとめる。 〔復習〕 卒業論文「問題」を推敲する。	A,D
第18回	卒業論文(研究目的の執筆) 研究目的をまとめる。	〔予習〕 卒業論文「目的」をまとめる。 〔復習〕 卒業論文「目的」を推敲する。	A,D
第19回	卒業論文(方法の執筆) 研究方法をまとめる。 進捗内容をまとめ、発表する。	〔予習〕 卒業論文「方法」をまとめる。 〔復習〕 卒業論文「方法」を推敲する。	A,D
第20回	卒業論文(結果の執筆) 研究結果をまとめる。	〔予習〕 卒業論文「結果」をまとめる。 〔復習〕 卒業論文「結果」を推敲する。	A,D
第21回	卒業論文(考察の執筆) 考察をまとめる。	〔予習〕 卒業論文「考察」をまとめる。 〔復習〕 卒業論文「考察」を推敲する。	A,D
第22回	卒業論文(結論と残された今後の課題を執筆) 結論との今後の課題をまとめる。 進捗内容をまとめ、発表する。	〔予習〕 卒業論文の「結論」と「残された今後の課題」をまとめる。 〔復習〕 卒業論文「結論」と「残された今後の課題」を推敲する。	A,D
第23回	卒業論文(文献リストの整理) 文献リストをまとめる。	〔予習〕 文献リストを整える。 〔復習〕 文献リストを推敲する。	A,D
第24回	卒業論文の修正と検討 卒業論文全体を読み、必要な修正を行う。	〔予習〕 初稿を検討し、加筆修正を行う。 〔復習〕 教員からのフィードバックや助言を参考に卒業論文の修正を行う。	A,D
第25回	卒業論文を定められた書式に完成させる 体裁を整え、卒業論文を完成させる。	〔予習〕 最終的な修正を行い、卒業論文を完成させ、定められた書式にする。 〔復習〕 教員からのフィードバックや助言を参考に必要な卒業論文の修正を行う。	A,D
第26回	卒業論文要旨原稿の作成 卒業論文要旨を完成させる。	〔予習〕 卒業論文の要旨を作成する。 〔復習〕 教員からのフィードバックや助言を参考に必要な卒業論文要旨の修正を行う。	A,D
第27回	卒業論文要旨原稿の修正 卒業論文要旨について見直し、必要な修正を行う。	〔予習〕 卒業論文の要旨の修正を行う。〔復習〕 教員からのフィードバックや助言を参考に、さらに必要な卒業論文要旨の修正を行う。	A,D
第28回	ゼミ論文発表会に向けての準備(1) 発表会に向けて発表原稿を作成する。	〔予習〕 発表資料を作成する。 〔復習〕 発表資料の修正を行う。	A,D
第29回	ゼミ論文発表会に向けての準備(2) 発表会に向けた発表資料原稿について、プレ発表を行い、必要な修正を行う。	〔予習・復習〕 さらに必要な発表資料の修正を行う。	A,D
第30回	ゼミ内発表会、振り返りとまとめ ゼミ内で卒業研究発表を行う。	〔予習〕 発表会のリハーサルを行い、発表準備を行う。 〔復習〕 1年間の振り返りレポートを提出する。	A,D

心理学入門

更新日：2024/03/27 11:43:02

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M360110	授業コード	2M360110
担当教員	塚本 恵信						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	B2107	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
---	-------	----------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	心理学は「心＝行動の仕組み」の理解を目指す科学である。本科目では心理学を学ぶ基礎として、環境への適応に関わる記憶の働きや、行動の形成に関わる学習の原理や影響、環境の認知における感覚や知覚の働きなどについて学び、人間行動の心理学的な理解のあり方について考察する。
方法	教科書や資料を参照しながら、コンピュータ・プレゼンテーション（PowerPoint等）による講義形式で授業を進める。随時ミニレポート等の提出を求める。

履修条件

「はじめての心理学」と併せて受講するのが望ましい

履修する上の留意点

ミニレポート（提出課題）の期限内提出を遵守すること（未提出は減点となり単位取得の支障となる）。資料配布や課題提出はTeamsやForms等を使用するので、適切に自己管理すること。

到達目標

1	人間行動における心理学的な特徴や影響について説明できる
2	心理学の各領域における基礎的な知見や理論を説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ミニレポート(30%)・期末レポート(70%)	50
到達目標②	ミニレポート(30%)・期末レポート(70%)	50
到達目標③		
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	医療系のための心理学	講談社	樫村正美・野村俊明

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	心理学入門—こころを科学する10のアプローチ	講談社	板口典弘・相馬花恵

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

毎回出席が基本である。遅刻欠席は理解の妨げとなるので慎むこと。教科書を持参し、ノート（メモ）をとって活用することを強く推奨する。真摯な姿勢で能動的に学修し、課題の期限内提出等を遵守すること。私語等の迷惑行為を厳禁する。

課題に対するフィードバック

授業内で随時総評する

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	イントロダクション	教科書や授業計画を確認し、本科目を学ぶ意義を考える	
第2回	記憶の心理学(1)注意の機能	教科書3.1節を読み(予習)、注意の働きについて考察する(復習)	A
第3回	記憶の心理学(2)記憶の機能と構造	教科書3.2節を読み(予習)、記憶の役割について考察する(復習)	A
第4回	記憶の心理学(3)短期記憶と符号化	教科書3.2節を読み(予習)、記憶の符号化について考察する(復習)	A
第5回	記憶の心理学(4)長期記憶と貯蔵	教科書3.2節を読み(予習)、記憶の貯蔵について考察する(復習)	A
第6回	記憶の心理学(5)忘却と想起	教科書3.2節を読み(予習)、記憶の忘却について考察する(復習)	A
第7回	学習の心理学(1)学習の基盤	教科書2.1節を読み(予習)、学習の生得的基盤について考察する(復習)	A
第8回	学習の心理学(2)レスポナント条件づけ	教科書2.2節を読み(予習)、条件反射の原理について考察する(復習)	A
第9回	学習の心理学(3)学習の影響	教科書2.2節を読み(予習)、条件反射の影響について考察する(復習)	A
第10回	学習の心理学(4)オペラント条件づけ	教科書2.2節を読み(予習)、随伴性強化の原理について考察する(復習)	A
第11回	学習の心理学(5)学習の諸現象	教科書2.2節を読み(予習)、行動形成の支援について考察する(復習)	A
第12回	知覚の心理学(1)感覚の仕組み	教科書1.1節を読み(予習)、感覚の特徴について考察する(復習)	A
第13回	知覚の心理学(2)知覚の機能	教科書1.2節を読み(予習)、知覚の特徴について考察する(復習)	A
第14回	知覚の心理学(3)錯覚	教科書1.3節を読み(予習)、錯覚について考察する(復習)	A
第15回	総括	全体を振り返って総合的に考察する	

心と健康の心理学

更新日：2024/03/27 11:43:04

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M360210	授業コード	2M360210
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S6203	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	「心の健康」という言葉を、私たちは日常生活でよく耳にしています。心理学では私たちが日常生活や学校生活をよりよく送るために役立つ、様々な理論が示されそれらに基づいた実践が行われています。この授業では、「心の健康」について、健康心理学、臨床心理学、社会心理学等の立場から理解し、自分自身の生活に活かせるようになることを目指します。
方法	心理学の諸理論に基づいて、健康について理解することにより、学生が自らの身体や心の健康を自分自身で管理できるようになる。そのために、講義で健康にかかわる心理学の様々な理論を学び、知識を身につけるとともに、尺度などを用いて自己理解をはかったり、ワークシートを用いたりして、自分自身の生活に役立つ実践的なスキルを身につける。

履修条件

心理学に関する科目を事前に履修していることが望ましい。

履修する上の留意点

到達目標

1	「心の健康」について心理学の諸理論から説明することができる
2	「心の健康」が脅かされる現代社会の状況やその心理的支援について説明することができる
3	「心の健康」を高める方法について説明することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト・レポート	40
到達目標②	小テスト・レポート	40

到達目標③	小テスト・レポート	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特に指定しない。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

「心の健康」について学ぶことは、将来の自分自身だけでなく周りの人にとっても非常に大切なことです。ぜひ強い意欲と関心を持って授業に臨んでください。

課題に対するフィードバック

毎回の授業の最後に小テストを課す。小テストは授業内容から出題される。小テストのフィードバックは次回の授業で行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 本授業の概要、ねらい・到達目標、授業の方法、成績評価の方法等について理解する。「心の健康」について学ぶ。	予習：シラバスを事前に読み、授業内容を確認する 復習：配布資料を確認し、まとめる	A
第2回	原因帰属と抑うつ 原因の帰属と抑うつの関係について学ぶ。	予習：原因がわからない場面で理由づけを行った場面を考えておく 復習：配布資料を確認し、まとめる	A
第3回	ストレスの心理学 ストレスについての考え方、ストレスと心身の疾病、ストレスチェック制度について学ぶ。	予習：ストレスについて調べる 復習：配布資料を確認し、まとめる	A,B
第4回	日常生活とストレス 日常生活で直面する様々なストレスとその弊害や影響について学ぶ。	予習：日常生活でストレスを感じた場面を考える 復習：配布資料を確認し、まとめる	A,B
第5回	大学生活のストレス 大学（学校）生活で直面する様々なストレスとその弊害や影響について学ぶ。	予習：大学生活でストレスを感じた場面を考える 復習：配布資料を確認し、まとめる	A,B
第6回	働くこととストレス 職業生活で直面する様々なストレスとその弊害や影響について学ぶ。	予習：これから職についたとき、どのようなストレスがあるか考えること。 復習：配布資料を確認し、まとめる	A
第7回	ストレスと個人特性1 楽観主義と完璧主義、タイプA行動パターン	予習：ストレスに強い人はどのような人か考えること。 復習：配布資料を確認し、まとめる	A
第8回	ストレスと個人特性2 コーピング、自己効力感、社会的興味	予習：ストレスに強い人はどのような人か考えること。 復習：配布資料を確認し、まとめる	A
第9回	健康心理学とポジティブ心理学 「心の健康」と健康心理学、ポジティブ心理学とのかかわりについて学ぶ。	予習：ウェルビーイングについて調べること。 復習：配布資料を確認し、まとめる	A
第10回	マインドフルネスの理解	予習：マインドフルネスについて調べること 復習：配布資料を確認し、まとめる	A
第11回	「心の健康」を高めるために1 ストレスマネジメント 自律訓練法、リラクゼーション、タイムマネジメント法を学ぶ。	予習：ストレスマネジメントにはどのような方法があるか調べること。 復習：配布資料を確認し、まとめる	A,B
第12回	「心の健康」を高めるために2 認知行動療法 非合理的な考え方、自動思考、思考停止法を学ぶ。	予習：認知行動療法とはどのようなものか調べること。 復習：配布資料を確認し、まとめる	A,B
第13回	「心の健康」を高めるために3 自己主張とリハーサル アサーショントレーニング、社会的スキルを学ぶ。	予習：アサーションとは何か調べること。 復習：配布資料を確認し、まとめる	A,B
第14回	「心の健康」を高めるために4	予習：アンガーマネジメントがなぜ必要かを考えて	A,B

	アンガーマネジメント 怒り、不安などの負の感情をコントロールする方法について学ぶ。	おくこと。 復習：配布資料を確認し、まとめる	
第15回	授業のまとめ	【予習】授業全体を通して学んだことをまとめておくこと。 【復習】授業のまとめを復習して、どのようなことが今後の自分自身に活かせるか考えること。	A

社会心理学

更新日：2024/03/27 11:43:06

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M360310	授業コード	2M360310
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1211	授業形態	講義			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	30+60

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	社会心理学は個人の行動といった規模の小さな（ミクロな）事象から集団や社会で生じる大きな（マクロな）事象を扱う学問です。社会の中での個人は相互に影響を受けながらコミュニケーションが展開され、さまざまな対人行動が形成されています。この授業では社会を構成する個人、個人の集まりである集団の特徴について学び、それらで生じている心理的過程について考えていきます。
方法	パワーポイントや配布資料を参照しながら授業を進める。適宜、ワークやディスカッションを行う。毎回、振り返り課題を実施する。

履修条件

履修する上の留意点

レポートの期限内提出を遵守すること（未提出は減点となり単位取得の支障になる）。

到達目標

1	社会関係/対人行動における社会心理学的な特徴や影響について説明できる
2	社会関係/対人行動に関する社会心理学の知見を説明できる
3	社会関係/対人行動のあり方について社会心理学的に論考できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	毎回の授業課題・期末レポート	35
到達目標②	毎回の授業課題・期末レポート	35
到達目標③	毎回の授業課題・期末レポート	30
到達目標④		

到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	社会心理学—過去から未来へ	北大路書房	外山みどり
2	[新版] エピソードでわかる社会心理学—恋愛・友人・家族関係から学ぶ	北樹出版	谷口淳一・西村太志・相馬敏彦・金政祐司
3	社会心理学 [補訂版]	有斐閣	池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

毎回出席が基本である。理解の妨げとなるので遅刻欠席は慎むこと。真摯な姿勢で能動的に学修し課題提出を遵守すること。私語等の迷惑行為を厳禁する。

課題に対するフィードバック

授業内で随時講評する

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	講義全体の概要：社会心理学とは	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第2回	感情と社会的行動	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第3回	対人認知1：印象形成	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第4回	対人認知2：対人認知の偏りや歪み	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第5回	対人認知3：対人魅力	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第6回	態度と態度変化	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第7回	自己概念と自己評価	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第8回	社会的交換と協力	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第9回	社会的ジレンマ	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A,B
第10回	集団の理解1：集団の特徴	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第11回	集団の理解2：問題解決と意思決定	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第12回	集団の理解3：社会的影響	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第13回	集団の理解4：集団間の関係	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる	B

		復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	
第14回	集団の理解5：集団現象	予習：事前配布された資料を読み、気になるキーワードについて調べる 復習：配布資料を読み、振り返り課題を実施する	A
第15回	総括	全体を振り返って考察し、期末レポートを準備する	A

人間科学研究法Ⅰ

更新日：2024/04/11 16:29:43

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M401010	授業コード	2M401010
担当教員	阪 美里 加藤 隆広 川瀬 基弘 梅本 大介						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	専入研-0-30	授業形態	演習		実務経験のある教員による授業科目の配置		
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【人間】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	広く人間科学に関する知識・理解を深め、各自の研究テーマを絞る。
方法	指導教員と相談しながら研究テーマを絞り込む。関連する資料（著書、論文、新聞、ウェブ情報等）収集も併せて行う。資料講読、調査を通してテーマに関して理解を深める。

履修条件

人間科学コースの学生であること

履修する上の留意点

4年次に研究の成果物を完成させるために必須の知識・技術の習得が本科目の到達目標であることをよく理解すること。この科目の単位を修得していないと「人間科学研究法Ⅱ」を履修できないので、しっかりと取り組むこと。

到達目標

1	①テーマ(仮)の決定
2	②資料等調査
3	③資料等の理解とまとめ

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	研究題目(仮)決定	25
到達目標②	文献表(案)	25

到達目標③	テーマ発表（発表会）	50
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	文章作法入門	ナカニシヤ出版(2004)	為田栄一郎
2	正しいコピペのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち	岩波ジュニア新書	宮武久佳

オープンな教育リソース

独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング <https://www.netlearning.co.jp/clients/jsp/reference.aspx>

学生へのメッセージ

主体的かつ積極的にテーマに取り組みましょう。また、指導教員とよく相談をして進めましょう。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは内容を確認し、意見交換をし、次につなげられるようアドバイスする。最終提出物については、授業内で発表を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション(人間科学コース3年生全員で行う) 授業の進め方の説明、指導教員決定	テーマの準備をする	A
第2回	4年生の研究概要発表を聴く	4年生の発表を参考に、テーマについて考える	B
第3回	テーマについて担当教員と相談する	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	D
第4回	文をつくる基本ー『「独りよがり」に決別』	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	
第5回	文をつくる基本ー『あいまいさを排し簡潔に書こう』	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	
第6回	文をつくる基本ー『具体的に書くことで、「イメージの共有」を』	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	
第7回	文をつくる基本ー『読む人の目に優しく、読みやすく』	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	
第8回	小論文の書き方ー『作文と小論文の違い』	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	A
第9回	小論文の書き方ー『文の組み立て、論の展開』	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	
第10回	小論文の書き方ー『論証(論拠の提示)』	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	A
第11回	小論文の書き方ー『課題小論文に強くなるには』	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	
第12回	レポートの書き方ー『作文・感想文とレポートの違い』	講読した文献等についてレポートにまとめ、次回提出。	A
第13回	テーマ発表会の準備	設定したテーマおよび今後の研究計画概要、資料文献をPowerPointにまとめる。	
第14回	テーマ発表会	設定したテーマおよび研究計画概要、資料文献を発表する。夏休み期間の課題も発表する。	B
第15回	4年生の進捗状況報告会を聴く	4年生の発表を参考に、研究題目(仮)・文献表(案)・研究計画のまとめの修正等を行う。	B

人間科学研究法Ⅱ

更新日：2024/04/11 16:30:27

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M402010	授業コード	2M402010
担当教員	阪 美里 加藤 隆広 川瀬 基弘 梅本 大介						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	専入研-0-31	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【人間】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	「人間科学研究法Ⅰ」で絞り込んだ各自の研究テーマに基づいて研究計画書をまとめる。
方法	指導教員と相談しながら、研究テーマを確定する。 調査・収集して得られた成果をもとに、次年度に向けて、研究計画を作成する。

履修条件

「人間科学研究法Ⅰ」の単位を修得していること。

履修する上の留意点

4年次に研究の成果物を完成させるために必須の知識・技術の習得が本科目の到達目標であることをよく理解すること。この科目の単位を修得していないと次年度の「人間科学演習Ⅰ」を履修できないので、しっかりと取り組むこと。

到達目標

1	①テーマ決定
2	②資料等の理解とまとめ
3	③研究計画書(案)の作成

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	研究題目決定	20
到達目標②	ゼミでの積極的な貢献	20

到達目標③	研究計画書(案)	60
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	文章作法入門	ナカニシヤ出版(2004)	為田栄一郎
2	正しいコピーのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち	岩波ジュニア新書	宮武久佳

オープンな教育リソース

独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング <https://www.netlearning.co.jp/clients/jsp/reference.aspx>

学生へのメッセージ

主体的かつ積極的にテーマに取り組みましょう。また、指導教員とよく相談をして進めましょう。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは内容を確認し、意見交換をし、次につなげられるようアドバイスする。最終提出物については、授業内で発表を行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	後期オリエンテーション(人間科学コース3年生全員で行う) 後期予定の説明	夏季休業中の進捗状況をレポートにまとめ、第1回授業で提出。 後期予定の説明等を踏まえ、次回の発表準備をしていく。	A
第2回	レポートの書き方『レポートの構成』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	B
第3回	レポートの書き方『レポートの書き方』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	D
第4回	レポートの書き方『レポート作成の注意事項』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	
第5回	レポートの書き方『ブック・レポートの書き方』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	
第6回	レポートの書き方『ブック・レポートの書き方』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	
第7回	研究内容の進捗確認	指導教員とともにこれまでの進捗状況を確認し、今後の研究計画(案)を作成する。	
第8回	卒業論文の書き方『論文作成の作法』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	A
第9回	卒業論文の書き方『卒業論文の形式』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	
第10回	卒業論文の書き方『序論・本論・結論』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	A
第11回	卒業論文の書き方『引用・注記・文献目録』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	
第12回	卒業論文の書き方『卒論の意義』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	A
第13回	卒業論文の書き方『原稿用紙やレポート用紙に書く、パソコンで書く』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。	
第14回	卒業論文の書き方『符号の使い方』	指導についての記録をまとめ、調査を進めてレポートにまとめ、次回提出。 これまでの指導内容を整理し、研究計画書(案)・成果物構成(案)を作成し、次回提出。	B
第15回	人間科学研究発表会を聴く	発表者に対して行われた指導についての記録を、今後に生かせるようまとめ、提出。 また、発表時の指導を参考に研究計画書(案)・成果物構成(案)の修正等を行い、提出。	B

人間科学演習Ⅰ

更新日：2024/04/11 16:31:16

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	2M403010	授業コード	2M403010
担当教員	阪 美里 加藤 隆広 川瀬 基弘 梅本 大介						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	専入研-0-40	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【人間】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	「人間科学研究法Ⅰ」及び「人間科学研究法Ⅱ」を通じて自分なりに絞り込んだテーマについて研究を進める。
方法	調査・収集した成果は、都度レポートにまとめ、ゼミで報告し、指導教員からのフィードバックを得る。 後期の「人間科学演習Ⅱ」につながるよう、進捗状況をもとに中間報告会を開き、広くアドバイスを求める。 期末には進捗状況をまとめ、中間発表会で報告する。

履修条件

「人間科学研究法Ⅰ」及び「人間科学研究法Ⅱ」の単位を修得していること。

履修する上の留意点

研究の成果物をまとめ、報告書及びプレゼンテーションを完成することがこの授業の目的である。毎回の学習はその準備であるとともに執筆・制作過程であることをよく理解すること。

到達目標

1	①成果物構成等 {報告書の構成(目次)、研究記録概要、制作記録概要} のいずれかを作成する。
2	②研究状況をまとめ、発表資料を作成する。
3	③中間報告会にて成果を発表する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	成果物構成等	40

到達目標②	参考資料等	20
到達目標③	進捗報告（中間報告会）	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	文章作法入門	ナカニシヤ出版(2004)	為田栄一郎
2	正しいコピペのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち	岩波ジュニア新書	宮武久佳

オープンな教育リソース

独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング <https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx>

学生へのメッセージ

主体的かつ積極的にテーマに取り組みましょう。また、指導教員とよく相談をして進めましょう。

課題に対するフィードバック

提出物は添削して返却する。研究記録、制作物+制作記録については都度フィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション（人間科学コース4年生全員で行う） 前期予定の説明 中間発表会の指摘事項検討	オリエンテーション内容や中間発表での指導教員から受けた指導内容を確認し、レポートにまとめ、次回提出。	A
第2回	研究概要発表振り返りと研究計画見直し	中間発表での指摘事項や気づきなどをもとに、今後の研究計画を見直す。	B
第3回	研究概要発表振り返りと研究計画見直し	中間発表での指摘事項や気づきなどをもとに、今後の研究計画を見直す。	D
第4回	成果物作成のための資料準備や整理を行う	研究計画に従った資料調査・研究。	
第5回	成果物作成のための資料準備や整理を行う	研究計画に従った資料調査・研究。	
第6回	成果物作成のための資料準備や整理を行う	研究計画に従った資料調査・研究。	
第7回	成果物作成のための資料準備や整理を行う	研究計画に従った資料調査・研究。	
第8回	成果物作成のための資料準備や整理を行う	研究計画に従った資料調査・研究。	A
第9回	成果物作成のための資料準備や整理を行う	研究計画に従った資料調査・研究。	
第10回	成果物作成のための資料準備や整理を行う	研究計画に従った資料調査・研究。	A
第11回	成果物作成のための資料準備や整理を行う	研究計画に従った資料調査・研究。	
第12回	成果物作成を行う	これまで研究してきた内容と後期の研究計画をプレゼンテーション資料としてPowerPointにまとめる。	A
第13回	成果物作成を行う	これまで研究してきた内容と後期の研究計画をプレゼンテーション資料としてPowerPointにまとめる。	
第14回	中間発表会準備	これまで研究してきた内容と後期の研究計画をプレゼンテーション資料としてPowerPointにまとめる。	B
第15回	中間発表会	これまでの研究概要と後期の研究計画を発表する。	B

人間科学演習Ⅱ

更新日：2024/04/11 16:32:01

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2M404010	授業コード	2M404010
担当教員	阪 美里 加藤 隆広 川瀬 基弘 梅本 大介						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	専入研-0-41	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【人間】				授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

授業概要

内容	各自で絞り込んだ人間科学に関するテーマにもとづいた研究成果をまとめ、仕上げる。
方法	中間発表会で得られた気づきを反映し、「人間科学演習Ⅰ」までに進めてきた研究の仕上げを行っていく。成果は報告書として提出し、PowerPointを使用して研究発表を行う。

履修条件

「人間科学研究法Ⅰ」、「人間科学研究法Ⅱ」、「人間科学演習Ⅰ」の単位を修得していること。

履修する上の留意点

研究の成果物をまとめ、報告書及びプレゼンテーションを完成することがこの授業の目的である。毎回の学習はその準備であるとともに執筆・制作過程であることをよく理解すること。

到達目標

1	①成果物構成等 {報告書の構成(目次)、研究記録概要、制作記録概要} のいずれかを作成する。
2	②報告書および発表資料を作成し、報告書にまとめる。
3	③人間科学研究発表会にて成果を発表する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	中間発表会	20
到達目標②	成果物(研究概要報告)	30

到達目標③	人間科学研究発表会	50
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	文章作法入門	ナカニシヤ出版(2004)	為田栄一郎
2	正しいコピーのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち	岩波ジュニア新書	宮武久佳

オープンな教育リソース

独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング <https://www.netlearning.co.jp/clients/jsp/reference.aspx>

学生へのメッセージ

主体的かつ積極的にテーマに取り組みましょう。また、指導教員とよく相談をして進めましょう。

課題に対するフィードバック

提出物は添削して返却する。研究記録、制作物+制作記録については都度フィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	後期オリエンテーション(人間科学コース4年生全員で行う) 後期予定の説明。	夏季休業中の進捗状況をレポートにまとめ、第1回授業で提出。	A
第2回	中間発表会事後指導	中間発表会での指摘事項や気づきに基づき、指導教員とともに今後の修正計画を立てる。	B
第3回	成果物完成に向けた資料整理・まとめ	研究内容を報告書にまとめる。	D
第4回	成果物完成に向けた資料整理・まとめ	研究内容を報告書にまとめる。	
第5回	成果物完成に向けた資料整理・まとめ	研究内容を報告書にまとめる。。	
第6回	成果物完成に向けた資料整理・まとめ	研究内容を報告書にまとめる。	
第7回	成果物完成に向けた資料整理・まとめ	研究内容を報告書にまとめる。	
第8回	成果物完成に向けた修正等	成果物の完成に向けての軌道修正を含めた見直しを行う。	A
第9回	成果物完成に向けた修正等	成果物の完成に向けての軌道修正を含めた見直しを行う。	
第10回	成果物完成に向けた修正等	成果物の完成に向けての軌道修正を含めた見直しを行う。	A
第11回	成果物を完成させる	研究概要報告書をまとめる。	
第12回	成果物を完成させる	研究概要報告書をまとめる。	A
第13回	成果物を完成させる 人間科学研究発表会準備	研究概要報告書を完成させ、発表会の準備に入る。	
第14回	人間科学研究発表会準備	PowerPointを作成し、指導教員とともに内容を見直す。	B
第15回	人間科学研究発表会	PowerPointを使い、研究成果を発表する。	B

卒業論文《天野》

更新日：2024/03/27 11:43:15

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010AT, 2M451010GT
担当教員	天野 透						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

現在の学校教育において求められる教師像について研究する。

指導方法

テーマに関する文献研究や資料収集や調査研究などの指導。計画に沿って研究を進めるが、指導の日時等は随時調整して行う。

指導を受けたい学生への期待

将来教育職を希望しており、現在の学校教育における教員の在り方や、教育環境を取り巻く様々な事柄に興味を持っていること。テーマについては事前に相談すること。

準備学習

テーマを決めるため教職に関する文献・論文を検索し、興味・関心のある著書等を熟読する。テーマ決定後に、さらに必要な専門的な文献検索をしたり自身の研究テーマについて骨子案を検討する。

到達目標

1	研究の目的、テーマ設定、研究計画立案ができる。
2	研究に必要なデータから論理的な考察ができる。
3	得られた結果を論文としてまとめ、発表できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	研究の目的が明確であるか	30

到達目標②	論文の査読によって評価	40
到達目標③	プレゼンテーション	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx

卒業論文 <<阪>>

更新日：2024/03/27 11:43:16

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010BA, 2M451010GT
担当教員	阪 美里						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

自然科学系(例えば、環境科学ー地球環境、生活環境など)を主に対象とするが、興味のあることがあれば、まずは相談に来ること。指導対象の分野となるかどうかは内容によって判断する。

指導方法

履修登録前に必ず相談に来ること。その際、自ら設定したテーマや、研究計画について話を聞く。
履修登録後は、原則として週1回の指導日に報告会を開き、助言を行うこととする。指導日については、調整の上決定する。

指導を受けたい学生への期待

卒業論文は、大学での学びの集大成であるため、意欲的に取り組むことができること。自主的に文献検索や情報収集をし、積極的にたくさんの文献を読み、コツコツと分析してまとめる努力を惜しまず取り組むこと。

準備学習

取り組むテーマに関連する授業科目があれば、履修して基礎知識を修得しておくこと。また、関連する授業科目があっても無くても、授業以外に新聞や関連書籍などを幅広く読んでおくこと。

日頃から身近な出来事やニュースなどに興味を持ち、わからないことはその都度調べる習慣を身につけておくこと。

また、フィールドワークを行う予定がある場合は、必要に応じた調査に関する文献を最低1冊は読んでおくこと。

到達目標

1	研究テーマの設定、先行研究調査、課題発見、調査、仮説設定、検証、結果分析、結論、考察という一連のプロセスを文章化し、卒業論文として完成・提出できる
---	---

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	研究過程及び完成した卒業論文の内容	100
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx

卒業論文 <<後藤>>

更新日：2024/03/27 11:43:17

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010GT
担当教員	後藤 多知子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

学校保健や養護教諭に関すること、児童生徒等及び教職員の健康生活・行動に関する内容について担当する。

指導方法

研究テーマ設定、研究に関連する論文・文献の検索及び精読、研究計画立案、データ収集及び分析、論文執筆、成果発表準備の過程を経る。

指導を受けたい学生への期待

学校保健、養護教諭、子どもに関して関心や問題意識を持ち、探究したいという熱意のある学生を求める。参考文献・データ収集、調査の実施、統計分析を通じ、積極的に取り組むことができる学生と共に研究したいと考える。事前に研究テーマについて相談をすること。

準備学習

統計学に関する科目を履修し、統計分析法に関する知識を有することが望ましい。

到達目標

1	研究意義を明確にもち、研究目的を設定できる。
2	研究目的が達成できる適切な研究方法を考え、研究を進めることができる。
3	研究結果を適切に分析し、参考・引用文献を使用しながら根拠に基づく妥当な考察ができる。
4	研究の限界を理解し、課題を明確にすることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	卒業研究実施の過程、卒業論文、成果発表を総合的に評価する。	25

到達目標②	卒業研究実施の過程、卒業論文、成果発表を総合的に評価する。	25
到達目標③	卒業研究実施の過程、卒業論文、成果発表を総合的に評価する。	25
到達目標④	卒業研究実施の過程、卒業論文、成果発表を総合的に評価する。	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx

卒業論文《廣井》

更新日：2024/03/27 11:43:18

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010HI, 2M451010GT
担当教員	廣井 いずみ						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

青年心理学、非行・犯罪心理学、家族心理学

指導方法

個人指導とゼミ内の発表により進める。発表することにより、見直しの作業を行う。
 先行研究により課題意識を絞り込み、自己の問題意識と重ねて、目的を明確にする。実証的研究を行う（文献研究ではない）。実証的研究の結果を基に、先行研究と比較参照しながら、論考を進める。

指導を受けたい学生への期待

自分で時間管理を行ない、能動的に取り組むこと。

準備学習

論文を読んで要旨をつかむことに慣れておくこと。テーマに即した基本書籍には目をとおしておく。

到達目標

1	研究の目的が明確である。
2	先行研究のレビューができる。
3	目的に合った研究方法を選択することができる。
4	適切な分析方法を実施することができる。
5	論理的に考察を進めることができる。
6	主体的に粘り強く取り組む姿勢を身につける

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	成果物である卒業論文による。	20
到達目標②	成果物である卒業論文による。	20
到達目標③	成果物である卒業論文による。	10
到達目標④	成果物である卒業論文による。	10
到達目標⑤	成果物である卒業論文による。	20
到達目標⑥	卒業論文作成への取り組み姿勢による。	20

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsp/s/reference.aspx

卒業論文《木戸》

更新日：2024/03/27 11:43:19

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010KD, 2M451010GT
担当教員	木戸 盛年						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

学習心理学、行動心理学、健康心理学の領域になります。研究方法としては質問紙調査法、心理学実験法とします。

指導方法

自分自身で卒業論文研究（卒論研究）のテーマを決め、スケジュールを立て、自主的に研究を進めてもらう。卒論研究の進捗に合わせ適宜報告を受けながら、個別指導を行う。要所要所で発表の場を設ける。

指導を受けたい学生への期待

卒業論文は、皆さんの大学生活で学んできたことの集大成になります。締め切りまでの限られた時間の中でいかに効率よく作成していくか、計画を立てる能力と自分の行動を管理する能力が必要になってきます。自分の立てた計画通りに卒論研究を進め自分の納得のいく卒論を完成することができれば、大きな自信に必ずつながるはずですよ。卒論研究を通して自分自身を成長させたい方、是非そのお手伝いをさせて下さい。

準備学習

「よくわかる卒論の書き方」白井利明・高橋一郎（ミネルヴァ書房）を購入し読んでおくこと。特に、「Ⅰ卒論とは何か」「Ⅱゼミでの学び方」「Ⅴ文献の集め方」「Ⅵ研究の進め方」「Ⅷ研究の方法 1 質問紙調査、2 実験」をよく読んで内容を理解しておくこと。

到達目標

1	卒論を完成させるための研究計画を立て、実践することができる。
2	自分の興味のある分野・テーマの文献研究を行い、自分の研究テーマと研究目的を立てることができる。
3	研究目的に合った方法にて研究を実施し、データを収集できる。
4	得られたデータを適切な心理統計の方法を用いて分析し、結果を解釈できる。
5	得られた結果に関して、論理的に考察できる。

6	卒論研究を論文として適切に文章にまとめ、口頭でも研究の意義をわかりやすく伝えることができる。
---	--

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	卒論研究計画の内容と取り組み	10
到達目標②	卒業論文（序論・引用文献）	20
到達目標③	卒業論文（方法）	20
到達目標④	卒業論文（結果）	20
到達目標⑤	卒業論文（考察）	20
到達目標⑥	卒業論文及び口頭発表	10

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。

独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング

<https://www.netlearning.co.jp/clients/jsp/reference.aspx>

卒業論文《川瀬》

更新日：2024/03/27 11:43:19

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010KW, 2M451010GT
担当教員	川瀬 基弘						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

軟体動物（貝類の分類、分布、生態）、古生物（化石と古環境）、無脊椎動物（海岸無脊椎動物）、博物館関連（博物館資料の調査研究）

指導方法

個別指導またはゼミ指導、野外引率調査、個人調査ほか

指導を受けたい学生への期待

自然科学、生物、地球科学、環境、化石のいずれかに興味・関心をもっていること。野外調査に参加できることが望ましい。

準備学習

「自然観察ハンドブック(フィールドガイドシリーズ)日本自然保護協会(編)平凡社」を熟読する。その他、テーマまたは分野別に、準備学習に必要な著書または論文を指示する。

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	論文執筆	100
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥	
-------	--

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。

独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング

<https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx>

卒業論文 ≪加藤≫

更新日：2024/03/27 11:43:20

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010KT, 2M451010GT
担当教員	加藤 隆広						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

データ分析
情報科学

指導方法

各人の都合に合わせて、個別に指導時間を設定します。原則として週1コマの指導を行います。年間スケジュールの目安は以下の通りです。

4月～5月 : テーマ設定・研究計画作成
 5月～7月 : 論文その他資料収集と精読、関連分野の学習
 8月～9月 : 調査研究・実験など
 10月～11月 : 論文執筆・中間発表
 12月 : 論文執筆・提出
 1月～2月 : 論文発表会準備、発表

指導を受けたい学生への期待

- ・興味・関心のある分野が明確であること。
- ・自ら積極的に研究に取り組むこと。
- ・希望者は、履修登録前に必ず相談に来ること。

準備学習

取り組むテーマに関連する授業科目の履修により、基礎的な知識、理解をしておくこと。また、フィールドワークを行う場合は、社会調査の基礎知識も文献を読むなどして理解しておくこと。

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。

独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
<https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx>

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	研究への取り組みおよび提出された論文の内容によって評価する。	70
到達目標②	卒論発表会のプレゼンテーションも評価の対象とする。	30
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx

卒業論文 <<近藤>>

更新日：2024/03/27 11:43:21

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010KU, 2M451010GT
担当教員	近藤 由里子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

養護教諭が行う看護（看護概論、看護技術、学校救急処置法など）に関する分野について研究する。

指導方法

テーマに対する文献検索や資料収集、関連分野の学習、調査研究などについて指導を行う。研究計画を作成し、計画に沿って調査、研究作業など具体的に進め研究をまとめる。

指導を受けたい学生への期待

到達目標に向かって意欲的に学びましょう。

準備学習

自分が取り組みたいテーマについて明確にしておいてください。関連する科目を履修し、基本的な知識について学習しておいてください。

到達目標

1	テーマ設定、論文検索、研究計画立案ができる。
2	論理的に考察し、論証した論文を形式に則り作成し、発表できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	面談及び成果物の提出	30
到達目標②	面談及び成果物の提出、発表	70
到達目標③		

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsp/s/reference.aspx

卒業論文《森》

更新日：2024/03/27 11:43:22

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010MT, 2M451010GT
担当教員	森 千鶴						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

養護教諭が行う健康教育、保健室経営に関すること、児童生徒の健康生活に対する意識や行動に関する分野について研究する。

指導方法

テーマに関する文献研究や資料収集、関連分野の学修、調査研究などについて指導を行う。
研究計画を作成し、計画に沿って調査、研究作業などを具体的に進めて研究をまとめる。

指導を受けたい学生への期待

- ・目標に向けて意欲的に学ぶことを期待します。履修登録を希望する学生は、登録前に相談をしてください。
- ・提出された論文だけでなく、論文作成までのプロセスも評価します。

準備学習

自分が取り組みたいテーマについて明確にし、関連する科目を履修して基礎的な知識を修得しておいてください。

到達目標

1	研究テーマの設定、論文検索、研究計画の立案などを行うことができる。
2	研究計画に沿ってデータの収集や分析を行い、論理的に考察した論文を作成し、研究成果を発表することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	論文作成のプロセスと成果物	30
到達目標②	卒業論文、研究成果の発表	70

到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx

卒業論文 ≪長岡≫

更新日：2024/03/27 11:43:22

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010NU, 2M451010GT
担当教員	長岡 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

臨床心理学、イメージ表現活動

指導方法

[卒業論文作成の手順]

- 研究テーマの検討
興味のあるテーマについて先行研究を調べます。その上で何を明らかにするのかということを明確にします。
- 研究方法の検討
研究の具体的な方法（調査、実験等）と対象者を検討します。
得られたデータをどのように分析・理解するのか、ということ学びます。
- 2で検討した方法を具体化する
研究テーマに沿った手続き（質問紙の作成や、実験方法の検討等）を進めます。
- 調査及び実験の実施
- データの集計及び分析
- 結果と考察の検討
- 論文化
卒業論文として文章化します。
- 抄録の作成
- 卒業研究発表会での発表

[指導方法]

- ・基本的には個別指導となりますが、上記1～5について共通する部分では担当学生全員に参集していただき、説明をします。
- ・個別指導は、適宜行います。

指導を受けたい学生への期待

研究テーマとして自分の興味・関心がある事柄を考えてください。この興味・関心を「研究」にするためには、①文献を読むこと、②考えること、③文章を書くこと、が欠かせません。そのため、この3つのことに積極的に取り組むことを期待します。

準備学習

研究したいと思うテーマ、または興味・関心のある事柄について調べてください。

到達目標

1	研究の目的を明確にできる。
2	研究に必要なデータから結果と考察の検討ができる。
3	卒業論文として論文化ができる。
4	卒業研究発表会で発表ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	卒業論文	10
到達目標②	卒業論文	30
到達目標③	卒業論文	50
到達目標④	卒業論文発表会での発表	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx

卒業論文 ≪高瀬≫

更新日：2024/03/27 11:43:23

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010TS, 2M451010GT
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

知覚・認知心理学、社会心理学に関わる領域

指導方法

受講生の興味・関心を元に研究テーマを決定する。研究方法は実験法、調査法を主とする。研究計画を立案し、研究の進捗状況についての報告や発表を随時行う。指導の日時等については相談し決定する。

指導を受けたい学生への期待

卒業論文を作成する過程では、日常場面や先行研究を元に各自が疑問に思ったことに対し仮説を立て、検証するという一連の流れから自分なりの答えを出すこととなります。こうして得られた経験を、これから社会に出ていく皆さんが直面する様々な問題を解決する際に生かし、力強く生きていくことに繋げてもらうことを期待します。同時に、自身の力で問題解決することの楽しさを共有できればと思います。

準備学習

取り組みたいテーマについて文献・先行研究などを調べ、明確にしておいてください。

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	研究過程での報告、発表	30
到達目標②	研究論文の査読内容	70
到達目標③		

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jspss/reference.aspx

卒業論文《土屋》

更新日：2024/03/27 11:43:24

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010TC, 2M451010GT
担当教員	土屋 満知						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間＋自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

臨床心理学（心理アセスメント、発達臨床、臨床心理学的視点を持った研究）

指導方法

受講生が自らテーマを設定し、研究計画を立てていくことを前提とする。
調整の上、定期的な指導日（曜日・時間）を決定する。指導日には進捗状況を報告してもらい、それをもとにゼミ形式で指導を行う。
研究テーマの選択、研究方法の検討、結果の分析、考察等、卒業論文作成に必要な筋道における各段階に必要な助言指導を行う。

指導を受けたい学生への期待

履修登録前に相談に来てください。
自分自身が興味・関心を持てる臨床心理学領域のテーマから自らのリサーチ・クエスチョンを明確化し、卒業論文執筆を通じて、論理的思考力を身につけてくださることを期待します。

準備学習

心理学演習Ⅰ（臨床心理学）、心理学演習Ⅱ（臨床心理学）を受講すること。
自分自身が興味・関心を持てる臨床心理学のテーマの関連文献を調べ、読んでおくこと。

到達目標

1	問題設定→問題についての情報の収集→仮説の設定から検証→結論・考察という一連の筋道を文章化することができる。
---	--

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	卒業研究実施のプロセス（研究計画立案、研究手法、データ収集と分析）と完成した卒業論文の内容	100

到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx

卒業論文《今澤》

更新日：2024/03/27 11:43:25

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010IZ, 2M451010GT
担当教員	今澤 正彦						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

医療に関する問題について研究する。

指導方法

テーマに関する文献研究や資料収集や調査研究などの指導。計画に沿って研究を進めるが、指導の日時等は随時調整して行う。

指導を受けたい学生への期待

医療を取り巻く様々な事柄に幅広く知識・興味を持っていること。

大学生として全国標準的なレベルの日本語力（漢字、表記、敬語、言葉の意味、語彙、文法、読解など）を有すること。

受け身ではなく医療の領域に関する文献（英語文献を含む）を抵抗なく読み込めること。

テーマについては事前に相談すること。

準備学習

テーマを決めるため医療に関する文献・論文を検索し、興味・関心のある文献を熟読する。

テーマ決定後に、更に必要な専門的な文献検索をしたり、自身の研究テーマについて骨子案を検討する。

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		

到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsp/s/reference.aspx

卒業論文 ≪梅本≫

更新日：2024/03/27 11:43:26

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010UD, 2M451010GT
担当教員	梅本 大介						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

歴史研究、教育学一般

指導方法

指導の基本方針としては、学生が自発的に見つけてきた文献や資料の適否と、それについての分析の妥当性を、議論を通じて確かめていく、という方法をとります。資料調査のためには、大学附属の図書館などだけではなく、公共の図書館や公文書館、他学の図書館などにも足を運ぶ必要も出てきます。そのため、これらの機関の利用方法についても指導します。

指導を受けたい学生への期待

私の専門は教育史や政治史ですが、歴史研究の手法をもって研究を進められたいとお考え方であれば、私のこの卒業論文研究ゼミに入られる方は【どのようなテーマを選択・計画】して下さって構いません。自身のキャリア形成の上で興味関心をもつテーマを自由に研究してください。ただし、カレッジモットーやディプロマ・ポリシーへの理解は必ず研究課題を設定する際にその中心に置いてください。研究関心を確りと持っておられれば、できるだけその研究のお手伝いをしたいと思います。ぜひご相談ください。所属コースに関係なく受け入れます。最後まで卒業論文を提出できるように、頑張りましょう。

準備学習

研究してみたいテーマに関する書籍を少なくとも1冊は必ず読んでおくこと。1回目の授業の時にその研究関心についてお話しを聞かせてください。また、できるだけ履修登録をする前に直接「履修登録の相談」をしにきてくださると、研究日の設定等についてお打ち合わせできると思います。

到達目標

1	研究に係る専門用語や問題背景を理解し、研究課題に外れずに論文を執筆することができる。
2	完成論文では結論と根拠を明示するだけでなく、自身の意見を表明して課題に関する考察を深めることができる。
3	完成論文では誤字脱字もなく、また主語や述語の関係など文法を適確に表現できる。
4	完成論文では引用や参考に関して関係領域のルールを正確に守ることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	卒業論文の内容（内容理解）	25
到達目標②	卒業論文の内容（論理構成）	25
到達目標③	卒業論文の内容（精緻性）	25
到達目標④	卒業論文の内容（引用方法）	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsp/s/reference.aspx

卒業論文 <<姚>>

更新日：2024/03/27 11:43:26

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010YO, 2M451010GT
担当教員	姚 静雅						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

指導方法

指導を受けたい学生への期待

準備学習

到達目標

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①		
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。

独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング

<https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx>

卒業論文 ≪山根≫

更新日：2024/03/27 11:43:28

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010YM, 2M451010GT
担当教員	山根 基						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

運動生理学：ヒトの身体には、まわりの環境が変化しても、生体の内部環境をある一定の範囲に保つ働き（ホメオスタシス）があり、内部環境や外部環境の変化を種々の受容器でとらえ、それに応じて反応を起こしホメオスタシスを維持する。運動は、非常にダイナミックにホメオスタシスに影響する。また、身体トレーニングや健康づくりのための運動は、運動に対する生体の適応現象を利用したものであり、そのメカニズムを研究、理解することは意義深い。ここでは、主として運動が身体に及ぼす影響について基礎的知見を得るための生理学的研究を扱う。

指導方法

運動時の生理学的応答や運動処方等を研究テーマの中心に各種の実験を計画する。実験では、身体活動量、心拍数、血圧、筋力、皮下脂肪厚、体脂肪率などを測定し、自分の仮説を証明していく。仮説を証明するための目的の設定、実験の計画・実施、データの検討、文章化といった一連のプロセスで行う。学生が関心を持っていることの中から、新しい知見となるようなテーマに絞り込みたい。

指導を受けたい学生への期待

卒業論文の作成は、大学での学びの総決算といえるともやり甲斐のあることである。たとえ小さなことでも、今までの科学に新しい発見を積み重ねるといふ、すばらしい体験を分かち合いたい。1～3年次の学生でも決して早すぎることはない。関心のある学生にはぜひ取り組みを始めてほしい。

準備学習

運動生理学演習の履修により、実験研究の基礎的な知識を理解しておくこと。また、興味がある研究テーマの文献を最低1冊は目を通しておくこと。

到達目標

1	運動時の生理学的応答等を研究テーマとして仮説を証明するための目的の設定、実験の計画・実施、データの検討、文章化といった一連のプロセスを実行することができる
---	---

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	提出された論文の査読によって評価する。	100
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx

卒業論文 ≪刑部≫

更新日：2024/03/27 11:43:29

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M451010	授業コード	2M451010OS, 2M451010GT
担当教員	刑部 純平						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	R2401	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等						授業時間+自習時間	60+120

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		○
	心の健康を理解し、説明することができる。		○
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		○
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		○
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		○
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		○
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		○
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		○
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		○
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	○
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	○
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	○
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	○
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

指導担当分野

健康・スポーツ科学に関連する分野（トレーニング科学、スポーツ医学、栄養学など）について、ヒトを対象とする実験を中心に研究活動を行います。

特に、スポーツ活動時の安全対策やコンディショニングに関する研究を中心に研究活動を行います。

担当教員がこれまでに実施してきた研究活動は、以下のリンクから確認してください。

<https://josakabelab2023.my.canva.site/>

指導方法

研究テーマは、学生が興味・関心を持っている健康・スポーツ科学に関連する分野を扱います。

ただし、担当教員が専門としている研究テーマを扱う場合もあります。

卒業論文の提出まで逆算的にスケジュールを立て、主体的に研究活動を進めていただきます。

なお、具体的な実験手法については、適宜必要に応じて指導します。

指導を受けたい学生への期待

卒業論文を作成する過程では、分野の問題や課題の抽出、問題や課題を解決するための適切な方法の検討、実施した実験の結果の分析と考察、新たな問題や課題の発見など、多くの能力が必要とされます。

これらの能力は、社会人として活躍するために極めて重要です。研究活動は思い通りに進まないことの連続ですが、皆さんの大きな成長につながると考えています。

ぜひ、一緒に健を探究し、健康社会の実現に貢献しましょう。

準備学習

「健康スポーツ科学」「トレーニング・フィットネス論」を履修していることが望ましい。

上記科目を履修していない場合は、上記科目のアーカイブ動画を視聴し、学習してもらう。

また、興味がある分野の書籍（本や雑誌）や文献（学術論文など）を調査しておくこと。

到達目標

1	卒業研究で実施した内容を適切な文章としてまとめることができる。
2	卒業研究で実施した内容を適切に口頭で伝えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	卒業論文	60
到達目標②	口頭発表	40
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsp/s/reference.aspx

人間科学研究

更新日：2024/03/27 11:43:29

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	2M452010	授業コード	2M452010
担当教員	梅本 大介、加藤 隆広						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	4年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	専入研-0-42	授業形態	演習			実務経験のある教員による授業科目の配置	
コース別 必修・選択必修等	2023年度以前の入学生必修【人間】				授業時間+自習時間	60+120	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

△	汎用的技能	情報リテラシーを身につけている。
△	総合的活用	健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
△	総合的活用	専門分野の能力

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		

指導担当分野

3年次の「人間科学研究法Ⅰ・Ⅱ」において、学生と教員で相談の上、研究内容を決定する。

指導方法

ゼミ形式による個別指導を行う。

成果物の審査基準は以下の通りとする。

審査基準：

「個人研究による研究論文」

- ①リサーチクエスチョンを設定し、これに対し仮説を維持していること
- ②文献調査、アンケート調査・分析、実験、野外観察等を通し、①の仮説を立証又は反証していること
- ③12月最終授業日までにA4 20ページ以上の論文及びA4 2ページの抄録を提出すること（原稿の様式は授業中に指示する）

「個人研究による研究活動記録」

- ①8カ月相当の時間を要する実験や野外観察の客観的な記録であること
- ②記録は1回(1日)当たりA4 1ページ以上で、20回分相当の記録とまとめから構成されること
- ③12月最終授業日までに記録及びA4 2ページの抄録を提出すること（原稿の様式は授業中に指示する）

「グループ研究による研究活動記録」

- ①8カ月相当の時間を要する実験や野外観察の客観的な記録であること
- ②記録は1回(1日)当たりA4 1ページ以上で、20回分相当の記録とまとめから構成されること
- ③12月最終授業日までに記録及びA4 2ページの抄録を提出すること（原稿の様式は授業中に指示する）

「個人研究による制作物+制作記録」

- ①制作に8カ月相当の時間を要する制作物であること
- ②製作期間中は毎日制作記録をつけること
- ③12月最終授業日までに記録及びA4 2ページの抄録を提出すること（原稿の様式は授業中に指示する）

「グループ研究による制作物+制作記録」

- ①制作に8カ月相当の時間を要する制作物であること
- ②製作期間中は毎日制作記録をつけること
- ③12月最終授業日までに記録及びA4 2ページの抄録を提出すること（原稿の様式は授業中に指示する）

上記の基準を満たすべく、成果物を完成させる。

指導を受けたい学生への期待

主体的かつ積極的にテーマに取り組むこと。
また、指導教員とよく相談をして進めること。

準備学習

「人間科学研究法Ⅰ」及び「人間科学研究法Ⅱ」の単位を修得していること。

到達目標

1	成果物を「論文」「研究記録」「制作物+制作記録」の形にまとめることができる。
----------	--

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	提出された成果物の審査	100
到達目標②		
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

研究倫理教育（推奨）

卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。
独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング
https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx

教育職入門

更新日：2024/03/27 11:43:32

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N101020	授業コード	2N101020	
担当教員	天野 透							
備考	2024年度以降の入学生より卒業要件単位外							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	T1101	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置	○			
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	30+60			

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

○	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
△	態度・志向性	地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	○	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			○

授業概要

内容	教職の意義および教師の役割について学習し、今日における教師を取り巻く諸問題と、教師の職務上の課題について考察する。 また、社会における学校の在り方、教育における学校のありかたについて学習し、現代の教育をとりまく諸課題について検討する。
方法	次の3点を中心に授業を進めていきます。 ①講義 ②課題の提出 ③小テスト

履修条件

教職を希望する者のみ受講してください。課題の提出は必須です。

履修する上の留意点

教職の制度的側面についての基礎知識を習得するとともに、教師の仕事の特質・教職の意義・教師の役割について理解を深め、教職への意欲を高めます。

到達目標

1	教職に関する基礎知識を習得し、現代の教育及び教師を取り巻く課題と問題点について考察し論述することができる。
2	学修した情報を整理・要約及び記述することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題レポート	60
到達目標②	テスト	40
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		

到達目標⑥		
-------	--	--

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	教職概論	学陽書房	佐藤晴雄

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	教職概論	玉川大学出版部	佐久間裕之

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

・毎時間課題がありますが、熱意をもって取り組みましょう

課題に対するフィードバック

・小テストに関しては、次の講義で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	学校教育の意義及び目的、教師という仕事意義、仕事としての教師のあり方、教職の専門性について学習する	第1回授業の感想と何故教師を目指すのか、800字以内にまとめ提出する。	
第2回	教師と一般的な職業との違い、教師と言う仕事の可能性について学習する	教師を目指すにあたり、自分自身が身につけておくべき資質能力についての考えを800字以内にまとめ提出する。	B
第3回	教師採用から見た独自性と専門性、教育をめぐる社会動向の変化について学習する	将来どのような教師になりたいか800字以内にまとめ提出する。	
第4回	教師像、教職観の変遷2：戦後から現代まで、戦後の議論がどのように現在に通じているか学習する	小テスト「教師像、教職観の変遷」に備え予習をする。 第4回授業の感想を800字以内にまとめ提出する。	
第5回	教師像、教職観の変遷2：教師観の変遷から見た理想の教師像について学習する	第1回から第5回までの内容についてテストを行う。 第5回授業の感想を800字以内にまとめ提出する。	B
第6回	現在の教師の求められる資質1：近年の学校を取り巻く社会の変化を中心に学習する	教員免許制度と教員免許更新制度について、考えを800字以内にまとめ提出する。	B
第7回	現在の教師の求められる資質2：子どもたちの多様性、今日の学力観を中心に学習する	教員の任用と服務についての感想を800字以内にまとめ次回提出する。	B
第8回	教師が校務において果たすべき職務について、校務と業務と職務の関連から	教師の仕事と役割について、考えを800字以内にまとめ提出する。	
第9回	研修の意義や制度等から、教師に求められる資質能力を育成の重要性を学習する	小テスト「教員養成と教師の任用・服務」に備え予習をする。 教員の勤務に関する感想を800字以内にまとめ提出する。	B
第10回	研修制度における社会的資源の活用について学習する	第6回から第10回までの内容についてテストを行う。 第10回授業の感想を800字以内にまとめ提出する。	
第11回	教師に求められる役割、服務、身分について、教師の仕事を理解する上での重要な法規事項について学習する	教師の勤務実態や意識・悩みについての感想を800字以内にまとめ提出する。	B
第12回	懲戒処分の対象となる行為について学習する（体罰、過度な指導を中心に）	教員の働き方改革について800字以内にまとめ提出する。	B
第13回	学校教育（チーム学校）における危機管理1：学校安全の実例を中心に学習する	教員の研修制度についての感想を800字以内にまとめ提出する。	
第14回	学校教育（チーム学校）における危機管理2：大規模災害から学ぶ備えと、地域社会との連携の必要性について学習する	小テスト「学校教育の実際と法制度」に備え予習をする。 教員の法制度関しての感想を800字以内にまとめ提出する。	
第15回	学校教育（チーム学校）における危機管理3：非行、いじめの対応を中心に学習する	第11回から第14回までの内容についてテストを行う。 第15回授業の感想を800字以内にまとめ提出する。	

教育史

更新日：2024/03/27 11:43:34

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N103010	授業コード	2N103010
担当教員	梅本 大介						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1210	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置			
コース別 必修・選択必修等					授業時間+自習時間	30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	ヒトはどのような価値や理念を求めて教育活動を展開してきたのか、その思想や活動の歴史を確認・理解しながら、現代社会に通じる教育課題について学んでいきましょう。とくに、西洋および日本はともに「学校」制度を発明しました。学校の営みにはどのような目的がすえられてきたのか、その変遷を辿っていきます。
方法	近代教育哲学を生成した欧州・米国および日本における教育の歴史を通して、現代社会で通用している教育理念の形成過程について学習します。本授業を通して、「歴史的探究力」ならびに「歴史的思考力」の基礎を身に付けることを目指していきたく思います。具体的には、ミニッツ・ペーパーやペアワーク、ワールド・カフェ形式を活用して授業内容への関心を共有することでそれらの資質・能力を獲得したいと考えます。歴史はリーダー力を養成する上で最も肝要となる学びだと考えています。多様な人々が暮らすこの社会で、教育がどのような役割を担っているのかを理解し、未来に向かってどのように活用できるかを表現できるようになることを本授業の目標とします。

履修条件

【とくにありません】が、教育史が教員採用試験で出題されている自治体や私立学校を受験しようとしている方は積極的に受講してください。採用試験で出題された内容を積極的に解説していきます。また、教職課程登録者以外の方も躊躇することなく受講してください。

履修する上の留意点

西洋史 および 日本史 の基本が不安だと思ふ方は、みずほドリルで確りと「歴史」の学習をしておくといでしょう。授業で使用するレジュメについては、毎回授業前にTeamsで配布します。各自で準備と予習を行い、授業に参加してください。

到達目標

1	教育史に関する基礎教養を身に付けることができる。
2	教育に関わる歴史に関心を持ち、設定した研究課題を究明できる。
3	教育史に関し自らの意見を文章化して主張することができる。

評価方法

評価方法	割合
------	----

到達目標①	小レポートおよび主体的な授業態度	60 (45+15)
到達目標②	レポート（西洋教育史・到達目標②及び③）	20
到達目標③	レポート（日本教育史・到達目標②及び③）	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	時代背景から読み解く西洋教育思想	ミネルヴァ書房	藤井千春
2	教科書でみる近現代日本の教育	東京書籍	海後宗臣・寺崎昌男・仲新

オープンな教育リソース

日本の教育史について調べる・国立国会図書館
 (https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/business/post_447)

西洋教育史なども「国立国会デジタルコレクション」を利用して、資料や文献を検索するのもよいでしょう。オンラインでも閲覧できる資料はたくさんありますので、積極的に調べてみてください。

学生へのメッセージ

教育の歴史は、人間の歴史とともに古いと言えるでしょう。家庭からはじまり、小さなコミュニティや地域社会、国家、国際社会と様々な場面や人間関係で、「教育」はその必要性を求められてきましたと考えます。この教育の歴史を共にたどることで、共に学び、共に考え、共に成長していくことを期待しています。様々な書籍や思想を紹介していくと思いますが、皆さんが興味関心をもつものと出会えればと思います。「読書尚友」、この授業で伝えたいことのひとつです。また、本授業は教職課程登録者を想定して授業内容を組み立てますので、採用試験において「教育史」が出題される自治体・私立学校への受験志望者は、とくに毎回の授業内容の復習に積極的に努めてください。「歴史」の教養に自信がない方は、みずほドリルを活用しておくことを推奨します。

課題に対するフィードバック

提出された課題に対し、意見交換及び講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	西洋教育史：古代欧州において、社会形成と個人の成長にかかわる哲学がどのように発達したのかを理解する。	第1回目はオリエンテーションも行います。この授業の進め方、評価等について解説をします。 予習： 事前にレジメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Microsoft Forms）、次回授業時までに提出してください。 予習・復習ともに2時間程度の学習時間を想定しています。第2回目以降も同様です。詳細は、授業中に解説いたします。	A
第2回	西洋教育史：中世・近世欧州における宗教と教育の関わりを題材に、教育思想と方法論の発展について理解する。	予習： 事前にレジメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。	A
第3回	西洋教育史：啓蒙主義の時代において教育方法論がどのように深化したのかを理解する。	予習： 事前にレジメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。	A
第4回	西洋教育史：各国の新教育運動と近現代における教育思想家の思想的繋がりを理解する。	予習： 事前にレジメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理して	A

		<p>おいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	
第5回	西洋教育史：第二次世界大戦後における各国の学校改革の変遷を理解し、その特質を検討する。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	C
第6回	西洋教育史：教育政策の国際的動向を中心に、現代の教育について今後の展望と課題を共に考える。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	B
第7回	日本教育史：古代における仏教の伝来と、教育の整備について理解する。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	A
第8回	日本教育史：中世における宮廷文化と武家の教育、仏教教育を比較する。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	C
第9回	日本教育史：中世の終焉に向けて展開された教育文化について研究する。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	C
第10回	日本教育史：江戸時代における朱子学と幕府による教育政策の展開、私塾の特徴について理解する。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	A
第11回	日本教育史：明治政府による近代化の特徴を教育政策の観点から考察する。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	C
第12回	日本教育史：近代における教員養成と女子教育の特徴について理解する。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	A
第13回	日本教育史：大正時代の自由主義教育と昭和時代の戦時教育の特質を比較する。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時までに提出してください。</p>	C
第14回	日本教育史：教育の民主化と学習指導要領の登場について理解する。	<p>予習： 事前にレジユメをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p>	A

		<p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示しますので（Forms）、次回授業時まで提出してください。</p>	
第15回	<p>日本教育史：改正教育基本法を中心に、現代の教育について今後の展望と課題を共に考える。</p>	<p>予習： 事前にレジюмеをTeamsで配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。</p> <p>復習： 授業内容を改めて自分の視点でまとめましょう。授業内容にかかわる小レポート課題を提示します（Forms）。提出締切は、1週間後までとします。</p>	B

教育行政

更新日：2024/03/27 11:43:36

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	2N104010	授業コード	2N104010
担当教員	梅本 大介、鈴木 揚一						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	S1209	授業形態	講義	実務経験のある教員による授業科目の配置		○	
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間		30+60	

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

◎	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。
---	-------	-----------------------------

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体の健康を理解し、説明することができる。	
	心の健康を理解し、説明することができる。	
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。	
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。	
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。	
③態度・志向性(2024)	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	
④総合的活用(2024)	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切に、リーダーシップを発揮することができる。	
	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	○
⑤専門分野の能力(2024)	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)		○

授業概要

内容	公教育は、行政と法によって動いています。本授業では、教育行政にかかわる原理原則を理解し、実際にはどのような制度設計と運用がなされているのかを学びます。一方、社会課題の複雑化とともに、行政改革も常に深化しています。社会に開かれた学校の実現が広く求められる現在、学校教育と教育行政の実態について受講生の皆さんと一緒に考究していきたいと思ひます。
方法	本授業は、毎回、小レポートにて、受講者自身の意見を提出してもらいます。様々な価値観が交差する課題に関して他者がどのような意見を表明していたのかを受け止め、自身の意見とどのように異なるのか、また同意できるのかを具体的に整理する力を鍛えるため、授業内ではペアワークをもちいることを中心にして受講生同士の発言・意見交換を促していきたいと思ひます。出席にもとづき指名して発問をしますから、積極的に授業に参加してください。

履修条件

この授業は主に教職課程登録者生を対象としていますから、『教育原論』を修了していることを受講上の基礎とします。ただし、教職課程登録者でなければ受講できないというわけではないので、安心してください。興味関心があれば積極的に受講してください。授業では「あなたであれば、どのように考えるか」ということを書いて頂く機会が多ありますが、そのような表現が苦手な受講生も焦燥感に駆られることがないような授業にしたいと思ひます。

履修する上の留意点

授業ごとに課題を課します。どの授業で、どのような課題が課されているのかを確りと意識をもって確認しながら受講してください。授業前の準備と予習も同様です。授業で使用するレジュメについては、基本的に毎回授業前までにTeamsで配布します。尚、基本的には教職課程登録者を対象とする科目と想定していますから、該当者はとくに「プロの教育者」になるという自覚をもって、授業に臨んでください。教職課程登録者以外の受講者の方は、学校の運営について「地域市民も理解・協力できる学校の運営はどのようなべきか」という視点で臨んでくださると、授業理解が深くなっていくと考えます。また、教職課程登録者については、「教育行政」は教員採用試験における教職教養問題の重点部分ですから、積極的に教職センター室（5号館2階）や図書館に置いてある採用試験の過去問や参考書等を学習することを推奨します。

到達目標

1	教育行政に関する専門的知識を理解することができる。
2	教育行政に関し自らの意見を文章化して主張することができる。

3	教育行政にかかわる諸課題に対して科学的思考で究明できる。
---	------------------------------

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小レポート（授業課題にてはかる）および主体的な授業態度	60（40+15）
到達目標②	レポート（到達目標③と同じ）	20
到達目標③	レポート（到達目標②と同じ）	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	教育行政学－教育ガバナンスの未来図	昭和堂	小松茂久 編集

オープンな教育リソース

都度、授業で紹介しますので、積極的に確認・アクセスしてください。

学生へのメッセージ

「履修する上の留意点」で示した通りです。授業を通して共に学び、共に考え、共に成長していくことを期待しています。この授業は、教員を目指す受講者向けの授業内容を基本としますので、受講生側の積極的な学習が必要となってきます。教職課程登録者は「プロの教育者」を目指しているという自覚をもって、授業に臨んでください。一方、「教育」というものは「学校での活動」だけを指すものではありません。社会には様々な「教育」が展開されています。その「教育」から離れることができる人はいないと思います。そのため、教職課程登録者以外の受講生においても、自身が社会人となった時に仕事においてもプライベートにおいても「教育」とどのようにかかわることができるのかを考えながら、本授業に参加してくださると有意義な時間になるものと考えます。そのような視点で「教育にかかわる行政」について授業を行っていきます。

課題に対するフィードバック

提出された課題に対し、意見交換及び講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	公教育行政論概要： 公教育ならびに教育行政の原則を学び、公教育制度の理念を理解する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 この第1回授業では、オリエンテーションとして授業の概要や進め方、評価について詳細に説明も行います。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出を求めます。 それぞれ2時間程度の学習時間を想定しています。第2回目以降も同様です。	C
第2回	教育法規と法令遵守： 教育法規を理解するための基本原理を学ぶことを通して、法令遵守の重要性を理解する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出してください。	C
第3回	教育行財政の構造： 教育行政の組織と構造を学び、教育行財政における課題を理解する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出してください。	C
第4回	義務教育制度と不登校： 義務教育制度について理解するとともに、不登校を中心とする学校教育の課題について検討する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時までに提出してください。	C

第5回	教育委員会といじめ問題： 教育委員会制度について理解するとともに、いじめ問題に関する行政的課題について検討する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	C
第6回	教科書制度と公正性の確保： 教科書の検定・採択制度について理解するとともに、補助教材を含めて「公正性の確保」について検討する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	C
第7回	教育情報の公開制度と虐待問題： 教育情報の公開制度について理解するとともに、虐待問題に関する行政的課題について検討する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	C
第8回	発達の支援と日本語指導： 教育行政における、子どもの発達支援に関する取組を理解するとともに、日本語指導に関する行政的課題について検討する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	C
第9回	子どもの多様性と学校経営： 子どもの多様性についての取り組みの変遷を理解するとともに、当該テーマに関する行政的課題について検討する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	C
第10回	学校組織の改革と学校経営： 学校組織に関する学校教育法の改正の変遷と具体的な改革事例を学び、学校経営組織に関する行政的課題について検討する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	C
第11回	部活動と働き方改革： 部活動指導についての取り組みや制度の変遷を理解するとともに、教員の働き方改革についての行政的課題について検討する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	C
第12回	学校評価と地域との連携： 学校評価の制度について学び、学校と地域との連携の意義を理解する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	C
第13回	安全教育事例研究Ⅰ： 学校安全についての概念を理解し、学校保健安全法と学校安全推進計画の運用の実態を学ぶ。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	C
第14回	安全教育事例研究Ⅱ： 前回授業での学習にもとづいて安全教育および安全管理についてより深く研究し、学校危機管理マニュアルを中心とした学校における危機管理の実践と課題を理解する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。次回授業時まで提出してください。	B
第15回	安全教育事例研究Ⅲ： 公の施設である学校の安全にかかわる課題を整理し、防災教育など具体的な事例を基にして児童生徒の日常生活の場でもある学校の安全を推進することの重要性を理解する。	予習： 事前にTeamsで課題資料を配信しますので、理解できない箇所・質問したい箇所を整理しておいてください。 復習： 授業内容について自分の意見をまとめてください。1週間後までの提出を求めます。	A